

子育て支援等に関するニーズ調査

－ 報告書 －

平成 31 年 3 月

日 立 市

目 次

【就学前児童】

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の対象者及び抽出方法	1
3	調査実施方法及び期間	1
4	アンケート回収結果	1
5	集計結果の見方	1

II 調査結果（概要）

1	住まいの地域について	2
2	お子さんご家族の状況について	2
3	保護者の就労状況について	3
4	平日の定期的な教育・保育の利用状況について	4
5	地域の子育て支援事業の利用状況について	5
6	土曜日・休日や夏休みなどの「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	5
7	お子さんの病気の際の対応について	6
8	一時預かりなどの不規則の保育利用などについて	7
9	小学校就学後の放課後の過ごし方について	7
10	育児休業、仕事と育児の両立などについて	8
11	子育てに関する悩みや相談先について	9
12	お子さんのことについて	10
13	日立市の子育て支援の取組について	10

III 調査結果

1	住まいの地域について	11
2	お子さんご家族の状況について	12

3	保護者の就労状況について	16
4	平日の定期的な教育・保育の利用状況について	27
5	地域の子育て支援事業の利用状況について	36
6	土曜日・休日や夏休みなどの「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	42
7	お子さんの病気の際の対応について	47
8	一時預かりなどの不定期の保育利用などについて	51
9	小学校就学後の放課後の過ごし方について	56
10	育児休業、仕事と育児の両立などについて	63
11	子育てに関する悩みや相談先について	72
12	お子さんのことについて	83
13	日立市の子育て支援の取組について	86

【小・中・特別支援学校】

I 調査の概要

1	調査の目的	93
2	調査の対象者及び抽出方法	93
3	調査実施方法及び期間	93
4	アンケート回収結果	93
5	集計結果の見方	93

II 調査結果（概要）

1	住まいの地域について	94
2	お子さんご家族の状況について	94
3	保護者の就労状況について	95
4	小学生・小学部のお子さんの放課後などの過ごし方について	96
5	中学生・中学部のお子さんの放課後などの過ごし方について	98
6	子育てに関する悩みや相談先について	98
7	お子さんのことについて	99
8	すべての方	100

Ⅲ 調査結果

1	住まいの地域について	101
2	お子さんご家族の状況について	101
3	保護者の就労状況について	106
4	小学生・小学部のお子さんの放課後などの過ごし方について	118
5	中学生・中学部のお子さんの放課後などの過ごし方について	136
6	子育てに関する悩みや相談先について	138
7	お子さんのことについて	143
8	すべての方	150

【児童クラブ】

I 調査の概要

1	調査の目的	159
2	調査の対象者及び抽出方法	159
3	調査実施方法及び期間	159
4	アンケート回収結果	159
5	集計結果の見方	159

II 調査結果（概要）

1	お子さんご家族の状況について	160
2	児童クラブの運営について	160
3	放課後の居場所等について	163

Ⅲ 調査結果

1	お子さんご家族の状況について	164
2	児童クラブの運営について	168
3	放課後の居場所等について	181

【一般】

I 調査の概要

- 1 調査の目的 189
- 2 調査の対象者及び抽出方法 189
- 3 調査実施方法及び期間 189
- 4 アンケート回収結果 189
- 5 集計結果の見方 189

II 調査結果（概要）

- 1 あなたご自身とご家族の状況について 190
- 2 結婚や就労について 191
- 3 結婚や結婚生活について 192
- 4 育児について 193
- 5 少子化対策・子育て支援について 194

III 調査結果

- 1 あなたご自身とご家族の状況について 195
- 2 結婚や就労について 204
- 3 結婚や結婚生活について 218
- 4 育児について 225
- 5 少子化対策・子育て支援について 232

【就学前児童】

I 調査の概要

1 調査の目的

2020年度を初年度とする次期計画の策定に当たり、これまでの事業を振り返り、さらに日立市の子どもや子育て家庭の実情やニーズに合ったものとするため、現在子育てをされている家庭の現状や、子ども・子育て支援サービスの利用希望に関するニーズ調査を実施した。

2 調査の対象者及び抽出方法

調査対象者	抽出方法
就学前児童（平成30年4月1日現在、0歳～5歳）の保護者	0歳～5歳（平成30年4月1日現在）を、地域・年齢ごとに住民基本台帳から無作為抽出

3 調査実施方法及び期間

- ・調査実施方法：郵送による配布・回収
- ・調査実施期間：平成30年11月28日（水）～12月14日（金）

4 アンケート回収結果

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,996人	1,304人	1,304人	43.5%

（※配布数：3,000人に郵送（居所不明分4人））

（※有効回収数＝回収数－白紙回答）

5 集計結果の見方

- ・集計結果を百分率（%）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・回答がない場合や、定められた以上の回答があった場合（一つ選択する設問で複数選択など）は「無回答」として集計する。
- ・グラフ等表示に際して、選択肢が多い場合や文言が長い場合は、選択肢の文言を簡略化したり、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。
- ・前回調査は、平成25年11月に実施した「日立市子育て支援に関するアンケート調査」のことである。（抽出数 就学前児童調査4,200人）

Ⅱ 調査結果（概要）

1 住まいの地域について

住まいの区域は、「多賀地区」が30.4%、「北部地区」が26.2%、「本庁地区」が25.2%、「南部地区」が15.3%であり、前回調査と概ね同様の傾向となっています。

2 お子さんご家族の状況について

子どもの年齢は、「4歳」が21.9%、「5歳」が21.6%、「3歳」が17.3%、「2歳」が14.9%、「0歳」が11.4%、「1歳」が11.3%となっており、子どもの数は、「2人」が45.3%で最も比率が高くなっています。年齢、子どもの数とも前回調査と大きな変化は見られません。

本調査票の回答者は、「母親」が90.5%と大多数を占めており、「配偶者（夫・妻）がいる」が93.9%、「配偶者（夫・妻）はいない」は5.7%となっています。親の年齢は父親、母親とも「30代」が約6割を占めています。また、子育てを主に行っている人は「主に母親」が51.8%と、前回の調査と同様の傾向にあります。

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人がいるかは、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が59.5%となっています。「みてもらえる人はいない」（12.3%）は、「配偶者がない」世帯ほど比率が高い傾向が見受けられます。

世帯の合計年収は、「500～700万円未満」が33.4%で最も比率が高く、次いで「300～500万円未満」が29.0%、「700～1,000万円未満」が18.9%と続いています。

住居の形態は、「持家（一戸建て）」が60.0%で多数を占めており、次いで「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」が25.5%となっています。「持家（一戸建て）」は、子どもの“年齢が高い”世帯で、「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」は、子どもの“年齢が低い”世帯で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

暮らしの状況は、「大変ゆとりがある」（1.5%）と「ややゆとりがある」（9.1%）を合わせた『ゆとりがある』（10.6%）世帯より、「やや苦しい」（23.4%）と「大変苦しい」（6.8%）を合わせた『苦しい』（30.2%）と回答した世帯が上回っています。

家庭の家計については、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」（44.6%）や「黒字であり、貯蓄をして生活している」（37.7%）で比率が高く、「赤字であり、借金をして生活している」は4.1%となっています。

3 保護者の就労状況について

(1) 「母親」の就労について（父子家庭の場合は、回答不要）

母親の職業は、「専業主婦」（42.7%）や「パート・アルバイト・非常勤社員」（20.7%）、「民間企業の正社員」（19.3%）の比率が高くなっています。

母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が41.8%、「フルタイム（産休中等ではない）」が25.4%、「パート・アルバイト（産休中等ではない）」が21.5%となっており、前回の調査と同様の傾向にあります。

母親が就労している方の週あたりの就労日数は、「5日」（71.4%）が多数を占め、1日あたりの就労時間は、「8時間」（36.3%）が最も多くなっています。家を出る時刻は「8時」（45.9%）で、帰宅時刻は「18時」（37.3%）が最も比率が高くなっており、前回調査と大きな変化は見られません。

「パート・アルバイト」などで就労している方の「フルタイム」への変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が36.6%となっています。

現在就労していない方の就労希望については、「1年より先、一番下の子どもが□歳になったころに就労したい」が51.6%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が23.8%となっています。□歳は、7歳が最も多くなっています。

以前は就労していたが、現在は就労していない方（母親）が仕事を退職した時期は、「妊娠を機に」（37.2%）や「結婚を機に」（23.9%）、「出産を機に」（23.7%）が多くなっています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイトなど」が80.0%、「フルタイム」が19.3%となっており、希望就労日数は、「3日」（36.1%）や「5日」（31.5%）となっています。「パートタイム、アルバイトなど」の希望就労時間は、「4時間」から「6時間」が9割近くを占めています。

(2) 「父親」の就労について（母子家庭の場合は、回答不要）

父親の職業は、「民間企業の正社員」が65.6%と多数を占め、次いで「会社役員」（12.3%）、「公務員」（7.1%）、「自営業（家族従業者含む）」（4.2%）などと続いています。

父親の就労状況は、「フルタイム（産休中等ではない）」が96.1%で大多数を占め、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.6%、「パート・アルバイト（産休中等ではない）」が0.5%となっています。

父親が就労している方の週あたりの就労日数は、「5日」（70.1%）が多数を占め、1日あたりの就労時間は、「8時間」（29.8%）や「10時間」（23.9%）が多くなっています。家を出る時刻は、「7時」（46.0%）で、帰宅時刻は、「19時」から「20時」が多くなっています。

【就学前児童】

「パート・アルバイト」などで就労している方の「フルタイム」への変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が33.3%、「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」及び「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」がともに16.7%となっています。

現在就労していない方の就労希望については、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」及び「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」がともに28.6%となっています。

以前は就労していたが、現在は就労していない方（父親）が仕事を退職した時期は、「妻の妊娠を機に」が14.3%、「その他」が71.4%で多数を占めています。なお、「その他」の意見では、“病気療養”や“自営の廃業”“引越し”となっています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望就労形態は、「フルタイム」が100%となっています。

4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

現在の幼稚園や保育園などの教育・保育事業の定期的な利用については、「利用している」が74.3%、「利用していない」は25.2%となっています。

利用している理由については、「子どもの教育や発達のため」(67.2%)、次いで「保護者が現在就労している」(58.0%)が多く、一方、利用していない理由は、「子どもの母親か父親がみている」(61.7%)「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」(52.0%)となっており、子どもを預けたい年齢は、「3歳」が46.8%、「4歳」が31.6%となっています。

利用している種類は、「認定こども園」が34.7%、「幼稚園」が30.7%となっており、実施場所は「日立市内」が98.3%と多数を占めています。

幼稚園の利用（預かり保育をあわせて利用する場合を含む）を強く希望するかについて、「はい」が67.0%、「いいえ」が28.2%となっています。

現在の週あたりの幼稚園や保育園の利用日数は、「5日」(90.2%)、1日あたりの利用時間は「5時間」(25.8%)で、開始時間は「9時」(50.5%)、終了時間は「14時」(30.0%)が最も多くなっています。

希望の週あたりの幼稚園や保育園の利用日数は、「5日」(80.8%)、1日あたりの利用希望時間は「8時間」(18.2%)で、希望開始時間は「9時」(41.6%)、終了時間は「17時」(19.8%)が最も多くなっています。

今後、定期的に利用したい幼稚園や保育園などの教育・保育事業については、「認定こども園」(50.1%)、「幼稚園」(44.7%)となっています。利用したい場所については、「日立市内」が66.1%（無回答32.9%）であり、特に「自宅近く」(89.0%)の希望が高くなっています。

「幼稚園」を希望した方で、幼稚園の利用（預かり保育をあわせて利用する場合を含む）を強く希望するかについては、「はい」が40.8%、「いいえ」が14.1%となっています。

5 地域の子育て支援事業の利用状況について

(1) 利用状況について

子育て支援センターなどの利用は、「子育て支援センターなど（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が26.5%、「その他市内で行われている類似事業（子育てサークルなど）」が7.7%となっています（「利用していない」が69.8%）。教育・保育事業を定期的に「利用していない」世帯、一方子どもの“年齢が低い”世帯ほど、利用の度合いが高い傾向が見受けられます。

1か月あたりの利用回数については、“子育て支援センターなど”は「月2～4回」（40.8%）、「市内で行われている類似事業（子育てサークルなど）」は「月2～4回」（54.5%）がそれぞれ最も高い比率となっています。

今後の利用希望については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が64.3%となっています。「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は“産休中”の方で、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は子どもの“年齢が高い”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

1か月あたりの利用回数については、“今は利用していないが、今後利用したい”は「月2～4回」（41.4%），“すでに利用しているが、今後増やしたい”は「月2～4回」（62.2%）がそれぞれ最も高い比率となっています。

子育て支援センターなどを利用していない理由は、「特に利用する必要がない」（61.1%）（このうち、「教育・保育の利用者」が61.8%となっています。）や、「利用したい事業の開設日や時間が合わない」（12.1%）が上位となっています。

(2) サービスについて

“知っている”のは、「おもちゃライブラリー」（82.9%）、「子どもすくすくセンター」（81.7%）、「ひたち健康ダイヤル24」（81.2%）、「保育園の園庭の開放、親子教室など」（81.1%）が上位となっています。

“利用したことがある”のは、「おもちゃライブラリー」（51.9%）、「子どもセンター」（50.3%）、「子どもすくすくセンター」（48.3%）、「ひたち健康ダイヤル24」（40.3%）が上位であり、“今後利用したい”のは、「ひたち健康ダイヤル24」（61.2%）、「子どもセンター」（53.0%）、「おもちゃライブラリー」（40.1%）が上位となっています。

6 土曜日・休日や夏休みなどでの「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

土曜日の利用希望は「月に1～2回は利用したい」（25.8%）、「ほぼ毎週利用したい」（8.4%）となっています（「利用する必要はない」が64.7%）。

【就学前児童】

利用希望開始時間は、“ほぼ毎週”「8時」(50.0%)、“月に1～2回”「9時」(44.2%)、利用希望終了時間は、“ほぼ毎週”「18時」(38.2%)、“月に1～2回”「17時」(24.6%)がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。

日曜日・祝日の利用希望は「月に1～2回は利用したい」(18.7%)、「ほぼ毎週利用したい」(3.3%)となっています(「利用する必要はない」が76.6%)。幼稚園や保育園などの教育保育事業を定期的に“利用している”方で比率が高くなっています。フルタイム・パートタイム(母親)で利用希望が高くなっています。

利用希望開始時間は、“ほぼ毎週”「8時」(44.2%)、“月に1～2回”「8時」(39.8%)、利用希望終了時間は、“ほぼ毎週”「18時」(44.2%)、“月に1～2回”「18時」(29.1%)がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。

土曜日と日曜日・祝日に“月に1～2回”は利用したい理由は、「月に数回仕事が入るため」(59.6%)、「リフレッシュのため」(34.3%)、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(33.6%)となっています。教育・保育事業の利用の有無による差は少ないと考えられます。

夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」(45.8%)、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(8.8%)となっています(「利用する必要はない」が41.4%)。

利用希望開始時間は、“ほぼ毎週”「8時」(46.2%)、“月に1～2回”「9時」(75.7%)、利用希望終了時間は、“ほぼ毎週”「17時」(26.9%)、“月に1～2回”「15時」(35.3%)がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。

“週に数日”利用したい理由については、「買い物などの用事をまとめて済ませるため」(56.6%)、「リフレッシュのため」(47.8%)となっています。

7 お子さんの病気の際の対応について

(平日に教育・保育事業(幼稚園・保育園など)を利用する方のみ)

病気やケガで通常の教育・保育事業(幼稚園・保育園等)が利用できなかったか(あった)のは68.2%であり、その場合、「母親が休んだ」(59.3%)、「父親または母親のうち、就労していない方が子どもをみた」(36.9%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(30.4%)などが上位となっています。「あった」は、子どもの“年齢が低い”ほど、比率が高い傾向が見受けられます。

病児・病後児保育施設の利用意向については、「利用したいとは思わなかった」が58.5%、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したかった」が39.0%となっています。「できれば病児・病後児保育施設などを利用したかった」は、日常定期的に面倒を「みてもらえる人はいない」で比率が高くなっています

8 一時預かりなどの不定期の保育利用などについて

私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用しているサービスには、「幼稚園の預かり保育」が13.3%、「一時預かり」が9.0%となっています（「利用していない」が64.4%）。

一時預かりなどを現在利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が79.6%で多数を占め、次いで「利用料がかかる・高い」が14.4%となっています。

私用、親の通院、不定期の就労などの目的の一時預かりの利用希望については、「利用する必要はない」が50.2%で「利用したい」（46.5%）をわずかに上回っています。

一時的預かりの利用希望については、「幼稚園や保育園などで子どもを保育するサービス」は88.3%と比率が高く、「子どもすくすくセンターなど小規模な施設で子どもを保育するサービス」は30.0%、「ファミリー・サポート・センター」は14.2%となっています。

子どもを泊りがけで家族以外の人にみてもらったことがあったかについては、「なかった」が80.5%と多数を占め、「あった」は17.6%となっています。

9 小学校就学後の放課後の過ごし方について（5歳以上の方のみ）

今後、低学年（1～3年生）の放課後に過ごさせたい場所は、「自宅」（55.3%）や「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（36.2%）が多く、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」は35.8%となっています。両親とも就労している世帯では「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」が57.2%と半数を超え、また、「私立保育園や私立幼稚園が実施してる学童の保育」も17.2%と全体と比較して比率が高くなっています。

高学年（4～6年生）の放課後に過ごさせたい場所も同様に、「自宅」（53.9%）や「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（42.2%）が多く、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」は20.9%となっています。両親とも就労している世帯では、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」が32.4%と比率が高くなっています。

土曜日の学童保育の利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が13.1%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が8.9%となっています（「利用する必要はない」が73.0%）。

日曜日・祝日の利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が7.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が3.5%となっています（「利用する必要はない」が83.0%）。

長期休暇期間中の利用希望は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が33.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が26.6%となっています（「利用する必要はない」が36.5%）。

両親とも就労している世帯では、“土曜日”、“日曜日・祝日”、“長期休暇中”のいずれも「低学年」、「高学年」とも全体より高い比率となっています。特に“長期休暇中”の「高学年（4～6年生）になっても利用したい」は40.7%と比率も高く、全体との差も大きくなっています。

【就学前児童】

10 育児休業、仕事と育児の両立などについて

(1) 「母親」の育児休業について（父子家庭の場合は、回答不要）

母親の育児休業の取得については、「就労していなかった」が50.6%で最も比率が高く、「育児休業を取得した（取得中である）」が36.2%となっています。

育児休業を取得しなかった理由は、「子育てや家事に専念するため退職した」及び「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」（各29.8%）や「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（15.2%）などが上位と続いています。

育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」（75.2%）が多く、復帰時期は「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が38.9%、「それ以外だった」が57.7%となっています（※それ以外だった：育児休暇終了のタイミング、年度途中など）。

実際の取得期間の子どもの年齢は、平均1歳1.2か月であり、希望の取得期間の子どもの年齢は、平均1歳5.2か月となっています。希望より早く復帰した理由は「希望する保育園に入るため」（18.4%）が、希望より遅く復帰した理由は「希望する保育園に入れなかったため」（13.0%）が、それぞれ最も高い比率となっています。また、職場復帰時に短時間勤務制度を「利用した」のは40.8%となっています。

(2) 「父親」の育児休業について（母子家庭の場合は、回答不要）

父親の育児休業の取得については、「育児休業を取得していない」が91.8%であり、「育児休業を取得した（取得中である）」は2.3%となっています。

育児休業を取得しなかった理由は、「仕事が忙しかった」（44.5%）や「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（39.1%）、「配偶者が無職、祖父母にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（36.1%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（31.3%）が上位となっています。

育児休業取得後は、全員が「育児休業取得後、職場に復帰した」となっています。復帰した時期は、「それ以外だった」が93.1%となっています。

実際の取得期間の子どもの年齢は平均0歳2.9か月であり、希望の取得期間の子どもの年齢は平均0歳5.0か月となっています。

希望より早く復帰した理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（23.1%）や「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（15.4%）が上位となっており、職場復帰時に短時間制度は、「利用する必要がなかった」が55.2%となっています。

(3) 仕事と子育てについて

育児のために勤務時間を減らしたり、退職や転職した経験があるかについては、「勤務時間を減らしたことがある」は27.0%、「退職したことがある」は23.1%となっています。

仕事と育児を両立させることの困難度（「5」が最大）は、「4」が41.5%、「3」が25.8%、「5」が22.7%となっています。

1.1 子育てに関する悩みや相談先について

赤ちゃん訪問の際に知りたいことについては、「体重の増えなど体の発育」（60.1%）、「授乳に関すること」（31.5%）が上位となっています。

1歳までの定期的な「乳児相談」については、「ある程度利用したい」が55.7%、「おおいに利用したい」が24.8%となっています。1～5歳までの定期的な「育児相談」についても同様に「ある程度利用したい」が60.0%、「おおいに利用したい」が23.7%となっています。

夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や育児などについての相談先は、「配偶者（夫または妻）」（76.0%）や「祖父母などの親族」（56.9%）の親族が上位で、以下、「ひたち健康ダイヤル24（電話相談）」（41.2%）や「病院・医院」（39.0%）となっています。

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについては、「子どもの発育や発達（心身の成長や運動、言葉、行動など）に関すること」（37.3%）や「子どもの食事や栄養に関すること」（32.2%）、「子どもを叱りすぎているような気がする」（30.9%）が上位となっています。

上記で「子どもの発育や発達に関すること」と回答した方の、発育や発達に関する悩みや不安の相談先は、「配偶者（夫または妻）」（76.5%）や「祖父母などの親族」（66.0%）、「保育士、幼稚園・学校の先生」（52.9%）などが上位となっており、発育や発達に関して必要なサポートには、「相談支援」（78.6%）、「療育支援」（40.7%）、「医療支援」（27.2%）の順となっています。また、サポートの具体的な内容については、「相談・指導体制等（専門家、ネット・電話・訪問等）」（93件）や「発達・発育相談・支援体制」（48件）などが上位にあげられています。

子育てについて気軽に相談できる人（ところ）は、「配偶者（夫または妻）」（81.7%）や「祖父母などの親族」（78.2%）、「友人や知人」（71.2%）が上位となっています。

子育てに関する相談場所については、「相談・指導体制の充実」（35件）や「相談場所の充実」（27件）、「対応（職員・相談員等）」（20件）などが上位にあげられています。

子育て世帯包括支援センター「すこやかひたち」については、「知らない」が56.2%であり、「知っていて、利用したことがある」は6.6%となっています。0歳、1歳児で見ると、「知っていて、利用したことがある」は、教育・保育事業を“利用していない”人で比率が高い傾向がみられます。

子育てに関する情報の入手方法は、「スマートフォンなどインターネットから情報を得るが、紙媒体も少しは活用する」（38.7%）、「スマートフォンなどインターネットからの情報と紙媒体

【就学前児童】

の半々程度で活用している」(25.9%)、「スマートフォンなどインターネットから情報を得るので、紙媒体はほとんど活用しない」(23.5%)となっています。

子育て情報紙「すくすくプチ」の活用については、「ときどき情報紙を活用している(していた)」が35.8%、「知らない」が33.1%となっており、「知らない」は教育・保育事業を“利用していない”人では46.2%と比率が高くなっています。

子育てに関する情報の入手方法は、「近隣の人、友人や知人など」(63.7%)や「幼稚園・保育園・学校」(57.7%)、「祖父母などの親族」(49.4%)、「市報」(48.5%)、「インターネット上のサイト」(44.5%)が上位となっています。

1.2 お子さんのことについて

お子さんの平日の起床時間と就寝時間については、「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」が78.1%と多数を占めており、平日の起床時間は、「7時」(49.7%)、就寝時間は「21時」(52.1%)が多くなっています。

1日の歯磨きの回数は「1日2回」が38.7%で最も比率が高く、朝食の有無については「いつも食べる」が92.6%、夕食については「家族のだけかと」が67.4%、「家族全員そろって」が27.7%となっています。

1.3 日立市の子育て支援の取組について

“重要度”が高いのは、「子どもの遊び場が整備されているか」(86.3%)や「医療サービスが充実しているか」(85.3%)、「子育て家庭への経済的支援がされているか」(82.2%)、「就学前の子どもの教育・保育が充実しているか」(80.4%)が上位となっています。

“満足度”が高いのは、「子育て支援センターなど、ほかの親子と交流できる施設が身近にあるか」(58.9%)や「母子保健サービスが充実しているか」(50.0%)、「就学前の子どもの教育・保育が充実しているか」(44.0%)、「子育てに関する情報が簡単に得られるか」(40.5%)、「医療サービスが充実しているか」(40.2%)が上位となっています。

前回調査で“重要度”が高く“満足度”が低かった「医療サービス」、「子どもの遊び場」、「経済的支援」は、いずれも“重要度”は前回と同様に高く、“満足度”は比率が増加しています。

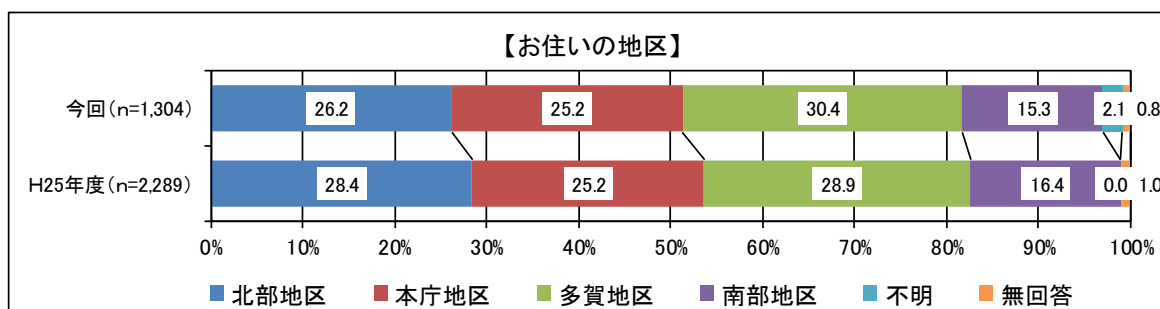
今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくために必要な取組みや、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見(自由記載)については、「遊び場(公園等を含む)整備について」(200件)や「保育園について」(85件)、「医療機関について」(74件)などに関する内容が上位にあげられています。

Ⅲ 調査結果

1 住まいの地域について

問1 住まいの区域

住まいの区域は、「多賀地区」が30.4%で、以下「北部地区」が26.2%、「本庁地区」が25.2%、「南部地区」が15.3%となっており、前回調査と概ね同様の傾向となっています。



【参考】本市の区域の設定について

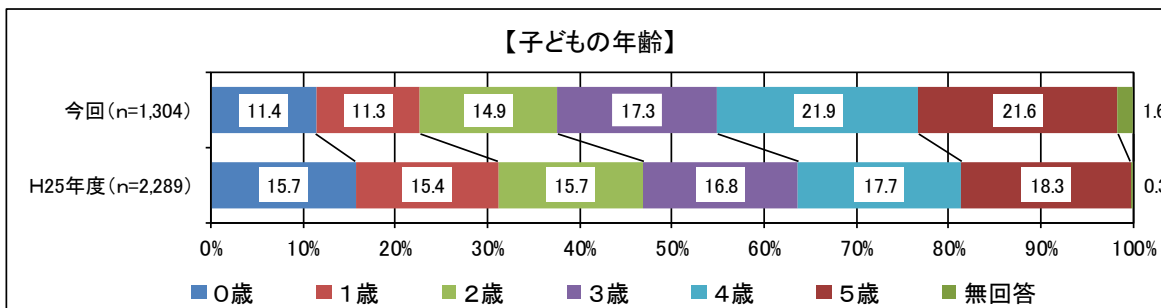
本市では、地域性や行政区域、子どもと保護者の活動範囲の状況等を考慮して、複数の小学校区を組み合わせ、4つの区域を設定しています。北部地区、本庁地区、多賀地区、南部地区の4つの区域を基本として、地域のニーズに合った子育て支援等を進めています。

区域名	小学校区名
北部地区	楡形小、山部小、田尻小、日高小、豊浦小
本庁地区	仲町小、宮田小、滑川小、中小路小、助川小、会瀬小、成沢小、中里小
多賀地区	諏訪小、油縄子小、大久保小、塙山小、河原子小、大沼小、金沢小
南部地区	水木小、大みか小、久慈小、坂本小、東小沢小

2 お子さんご家族の状況について

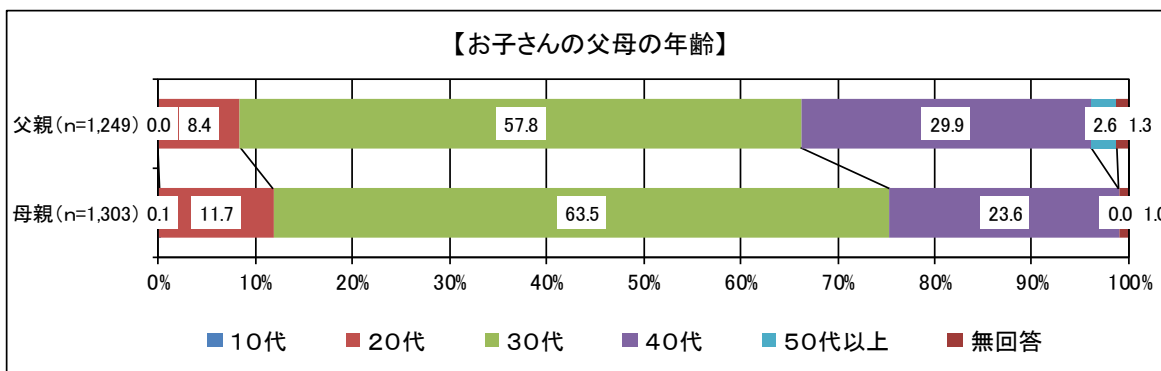
問2 子どもの年齢

子どもの年齢は、「4歳」が21.9%で最も比率が高く、次いで「5歳」が21.6%、「3歳」が17.3%、「2歳」が14.9%、「0歳」が11.4%、「1歳」が11.3%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



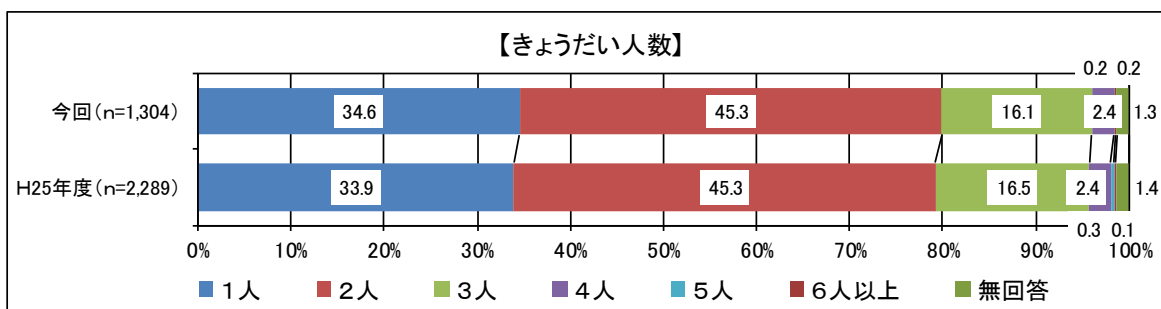
問3 父母の年齢

両親の年齢は、父親が「30代」が57.8%で最も比率が高く、次いで、「40代」が29.9%、「20代」が8.4%となっており、母親は「30代」が63.5%で最も比率が高く、次いで、「40代」が23.6%、「20代」が11.7%となっています。



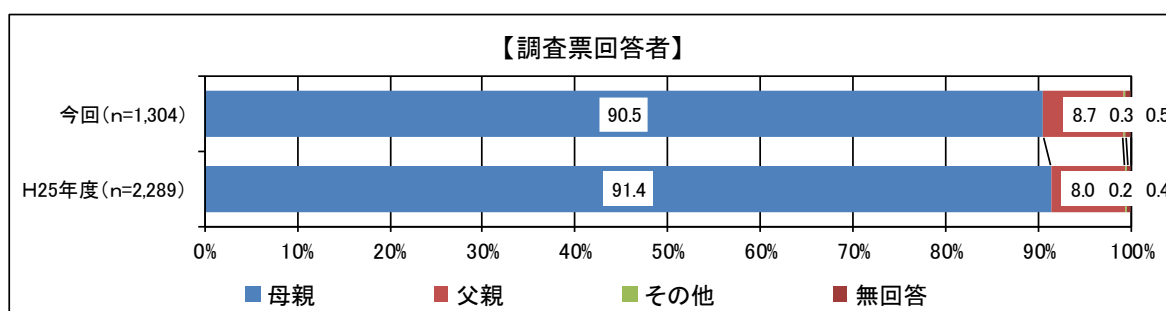
問4 子どもの数（何人きょうだい）

子どもの数は、「2人」が45.3%で最も比率が高く、次いで「1人」が34.6%、「3人」が16.1%となっています。前回調査と大きな変化は見られません。



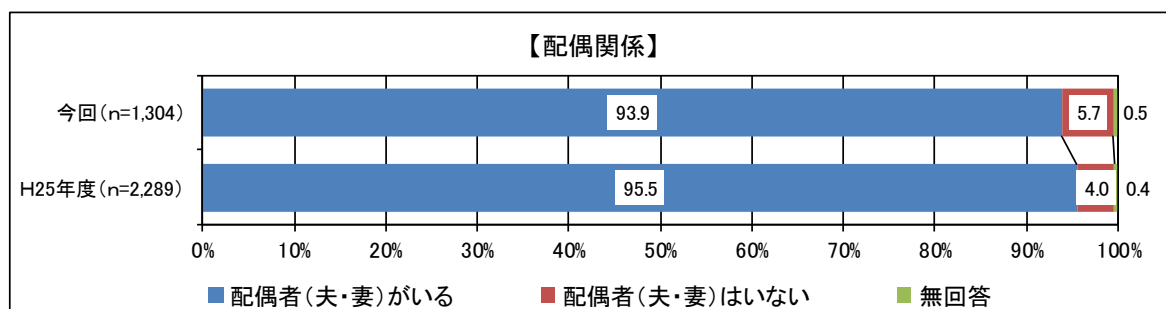
問5 調査票の回答者

本調査票の回答者は、「母親」が90.5%と大多数を占めており、「父親」は8.7%となっています。前回の調査と大きな変化は見られません。



問6 回答者の配偶関係

配偶関係は、「配偶者（夫・妻）がいる」が93.9%と大多数を占めており、「配偶者（夫・妻）はいない」は5.7%となっており、前回と概ね同様の傾向となっています。



【世帯年収×配偶関係】

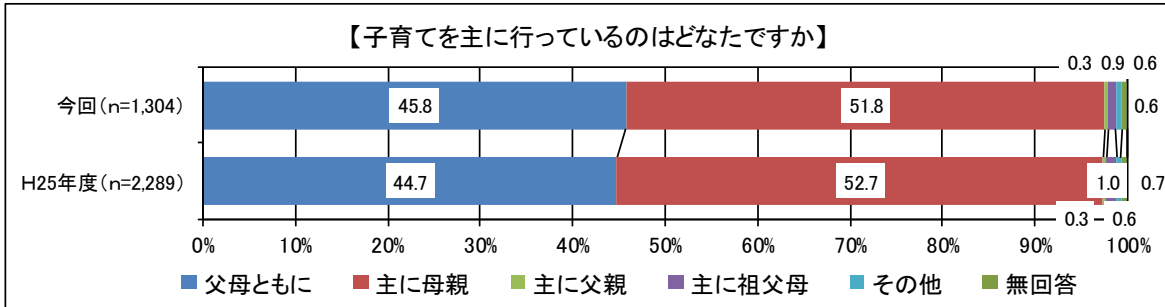
上段:人、下段:%

項目	配偶者(夫・妻)がいる	配偶者(夫・妻)はいない	無回答	回答者数
なし	1	4	0	5
	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	14	35	0	49
	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%
200～300万円未満	74	14	1	89
	83.1%	15.7%	1.1%	100.0%
300～500万円未満	364	13	1	378
	96.3%	3.4%	0.3%	100.0%
500～700万円未満	429	3	3	435
	98.6%	0.7%	0.7%	100.0%
700～1,000万円未満	244	2	0	246
	99.2%	0.8%	0.0%	100.0%
1,000～1,500万円未満	78	1	1	80
	97.5%	1.3%	1.3%	100.0%

【就学前児童】

問7 子育てを主に行っている人

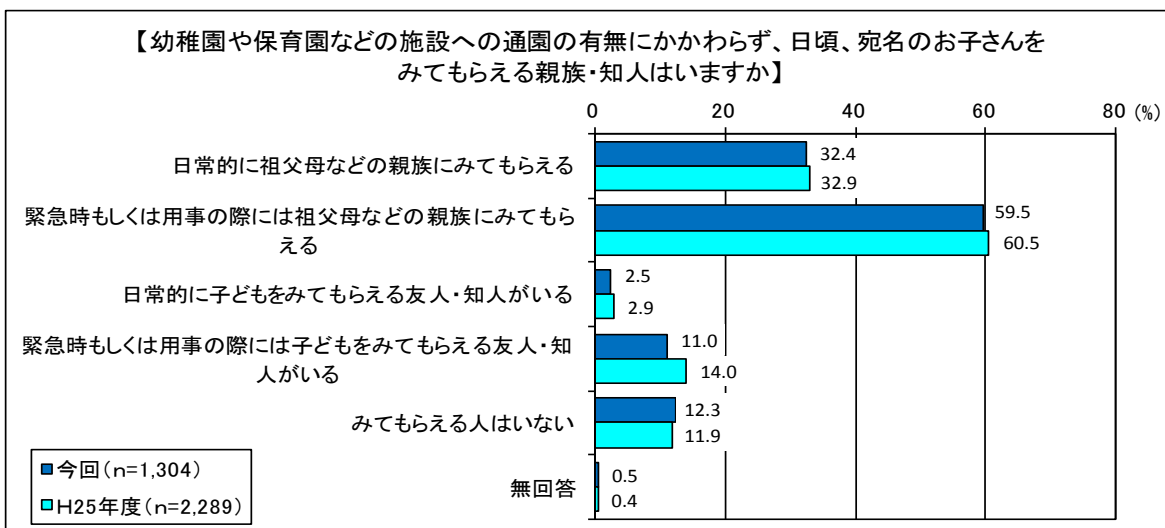
「主に母親」が51.8%で最も比率が高く、次いで「父母ともに」が45.8%となっています。前回の調査でも「主に母親」が52.7%で最も比率が高く、次いで「父母ともに」44.7%となっており、母親が子育ての中心である傾向は同じです。



問8 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人がいるかは、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が59.5%と最も比率が高く、次いで「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」(32.4%)と続いています。前回の調査でも「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が60.5%で最も比率が高く、次いで「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」32.9%となっており、祖父母などの親族に頼れる状況は同じです。

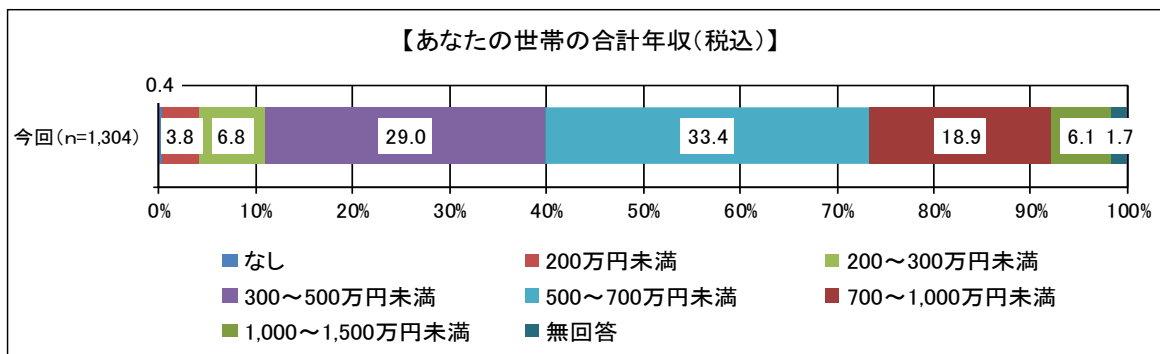
“父母ともに就労している”世帯では「みてもらえる人はいない」は10.3%、“ひとり親”世帯では「みてもらえる人はいない」は4.1%となっています。



問9 世帯の合計年収

世帯の合計年収は、「500～700万円未満」が33.4%で最も比率が高く、次いで「300～500万円未満」が29.0%、「700～1,000万円未満」が18.9%と続いています。

“ひとり親”では、「200万円未満」が47.3%と最も高い比率となっています。



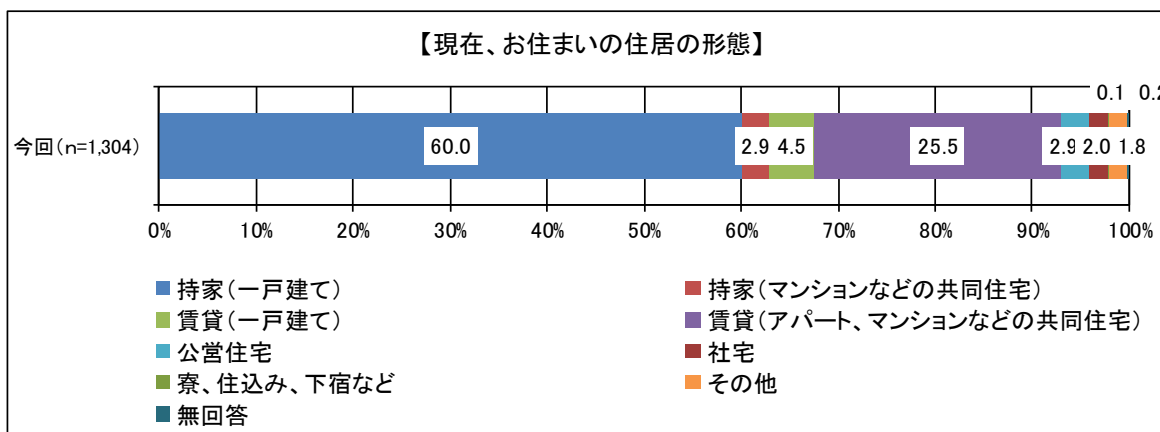
【配偶関係×世帯年収】

上段:人、下段:%

項目	なし	200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	無回答	回答者数
配偶者がいる	1	14	74	364	429	244	78	20	1,224
配偶者がいない	0.1	1.1	6.0	29.7	35.0	19.9	6.4	1.6	100.0
配偶者がいる	4	35	14	13	3	2	1	2	74
配偶者がいない	5.4	47.3	18.9	17.6	4.1	2.7	1.4	2.7	100.0

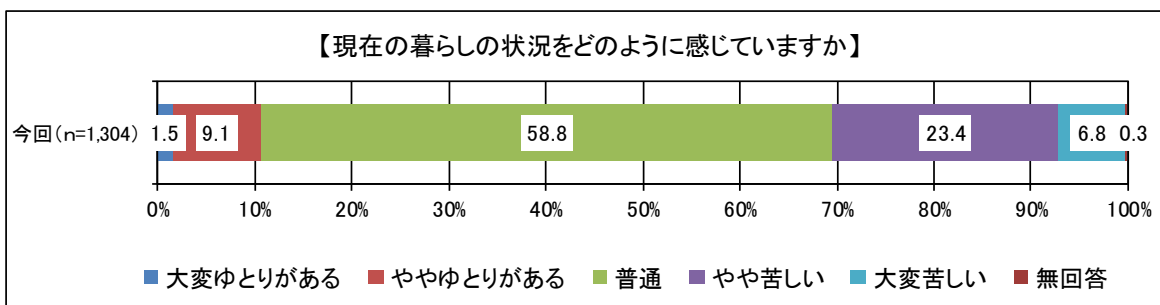
問10 現在、住まいの住居の形態

住居の形態は、「持家（一戸建て）」が60.0%で多数を占めており、次いで「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」が25.5%、「賃貸（一戸建て）」が4.5%などが続いています。



問11 現在の暮らしの状況

暮らしの状況は、「大変ゆとりがある」（1.5%）と「ややゆとりがある」（9.1%）を合わせて『ゆとりがある』が10.6%となっており、「大変苦しい」（6.8%）と「やや苦しい」（23.4%）を合わせた『苦しい』が30.2%で上回っています。



【就学前児童】

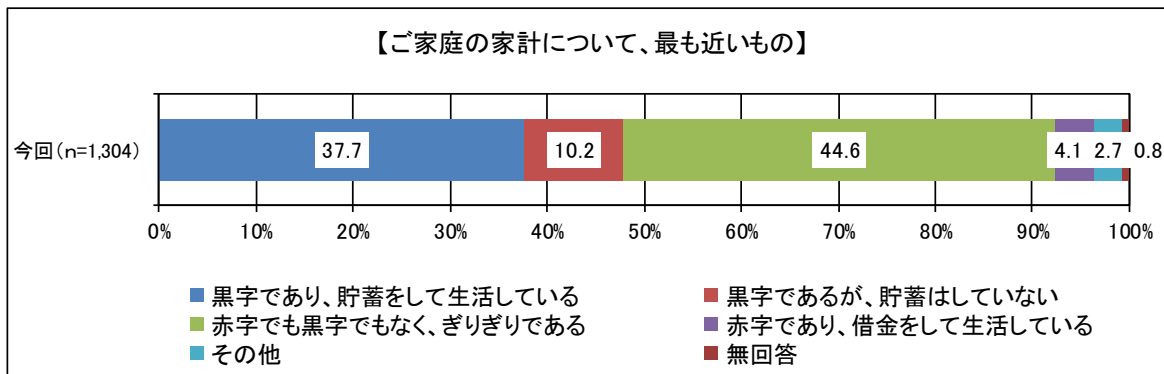
【世帯年収×暮らしの状況】

上段：人、下段：%

項目	大変ゆとりがある	ややゆとりがある	普通	やや苦しい	大変苦しい	無回答	回答者数
なし	0	0	1	2	2	0	5
	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	1	2	9	19	18	0	49
	2.0%	4.1%	18.4%	38.8%	36.7%	0.0%	100.0%
200～300万円未満	2	1	35	35	16	0	89
	2.2%	1.1%	39.3%	39.3%	18.0%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	3	11	200	133	31	0	378
	0.8%	2.9%	52.9%	35.2%	8.2%	0.0%	100.0%
500～700万円未満	3	31	306	81	13	1	435
	0.7%	7.1%	70.3%	18.6%	3.0%	0.2%	100.0%
700～1,000万円未満	8	43	164	23	7	1	246
	3.3%	17.5%	66.7%	9.3%	2.8%	0.4%	100.0%
1,000～1,500万円未満	3	30	39	8	0	0	80
	3.8%	37.5%	48.8%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問 12 家庭の家計

家庭の家計については、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が 44.6%で最も比率が高く、次いで「黒字であり、貯蓄をして生活している」が 37.7%、「黒字であるが、貯蓄はしていない」が 10.2%、「赤字であり、借金をして生活している」が 4.1%となっています。

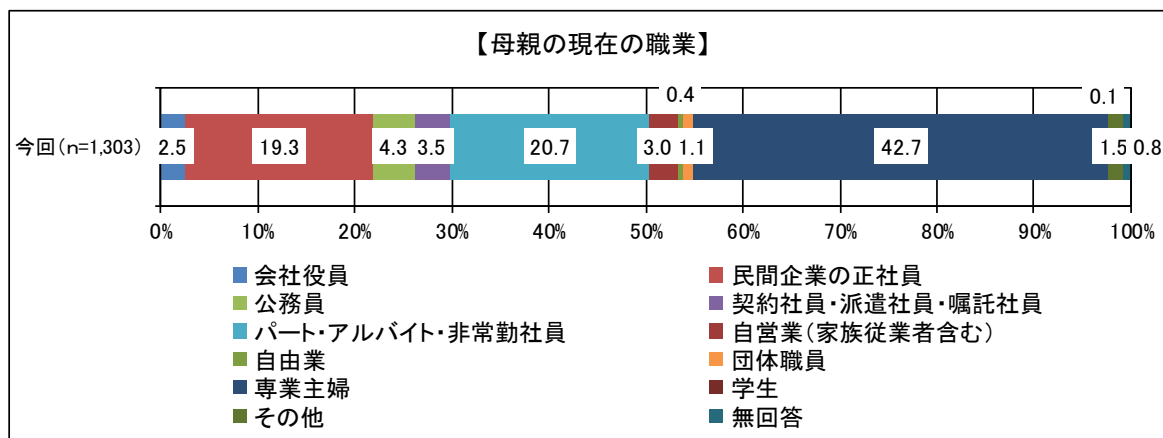


3 保護者の就労状況について

(1) 「母親」の就労について（父子家庭の場合は、回答不要）

問 13 母親の現在の職業

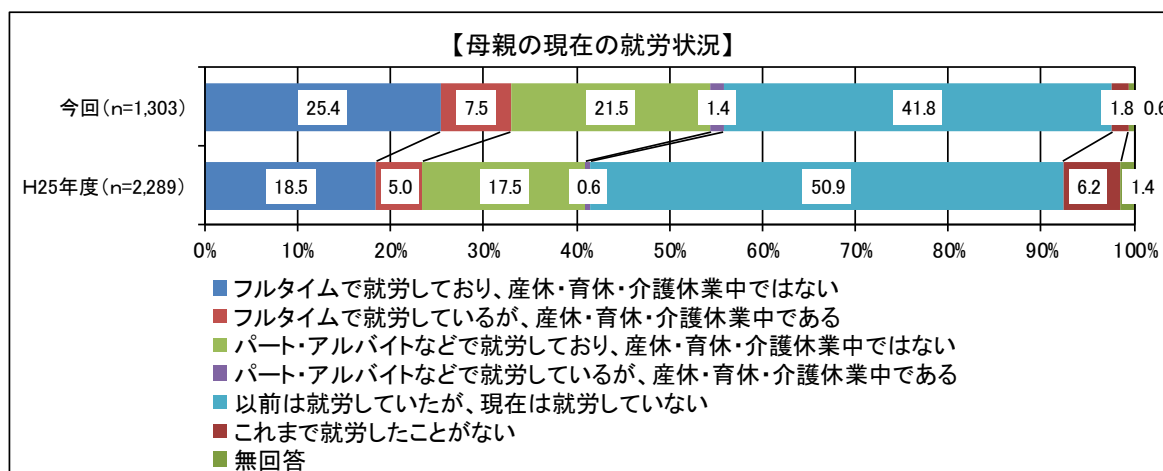
母親の職業は、「パート・アルバイト・非常勤社員」が 20.7%で、次いで「民間企業の正社員」(19.3%)、「公務員」(4.3%)と続いています。なお、「専業主婦」が 42.7%で最も比率が高くなっています。



問 14 母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）

母親の就労状況は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 41.8%で最も比率が高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 25.4%、「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 21.5%と続きます。前回の調査でも「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 50.9%で最も比率が高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」18.5%となっております。母親の就労状況に大きな変化は見られません。

「以前は就労していたが、現在は就労していない」及び「これまで就労したことがない」と回答した方で、“すぐにも、もしくは1年以内に就労したい”との就労希望を持つ方は 23.8%となっています（20 頁の間 14-4 を参照ください）。



【母親・就労していない×世帯年収】

上段：人、下段：%

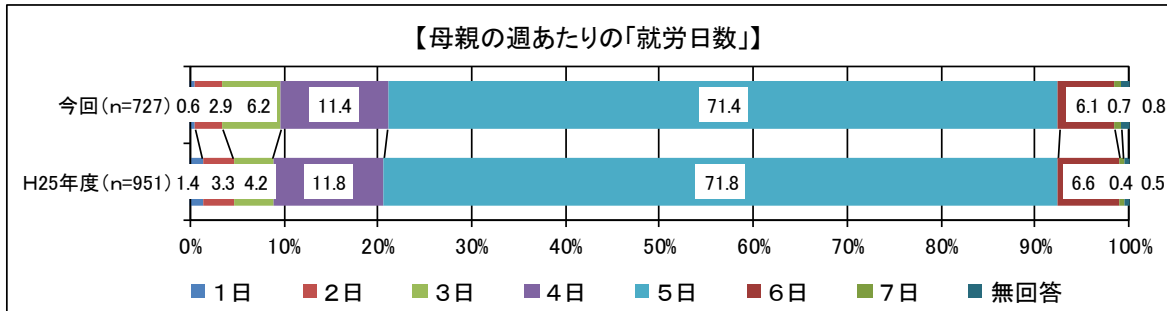
項目	なし	世帯年収						無回答	回答者数
		200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満		
現在は就労していない	4	7	45	169	190	95	24	11	545
	0.7	1.3	8.3	31.0	34.9	17.4	4.4	2.0	
これまで就労したことがない	0	0	2	7	9	3	2	0	23
	0.0	0.0	8.7	30.4	39.1	13.0	8.7	0.0	

【就学前児童】

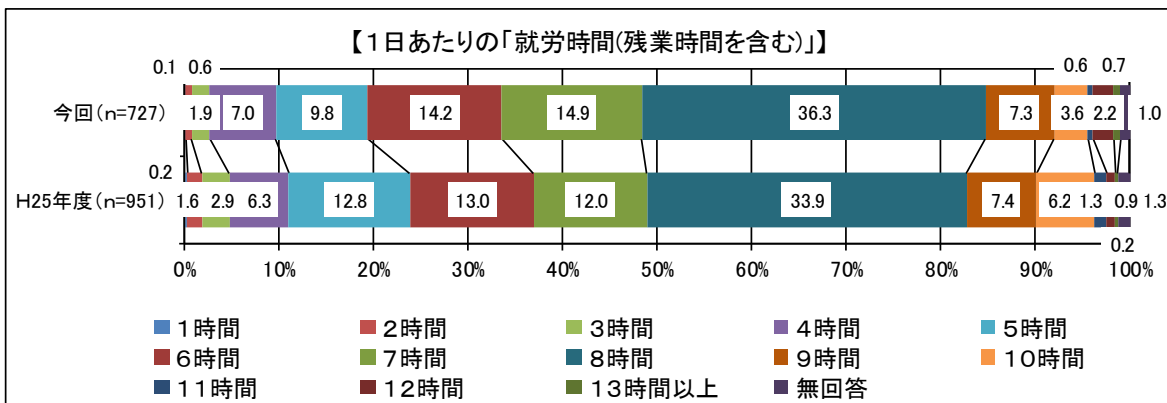
母親が(就労している)方のみ回答

問14-1 週あたりの就労日数と1日あたりの就労時間(残業時間を含む)

母親の週あたりの就労日数は、「5日」が71.4%で多数を占め、次いで「4日」が11.4%、「3日」が6.2%、「2日」が6.2%、「6日」が6.1%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

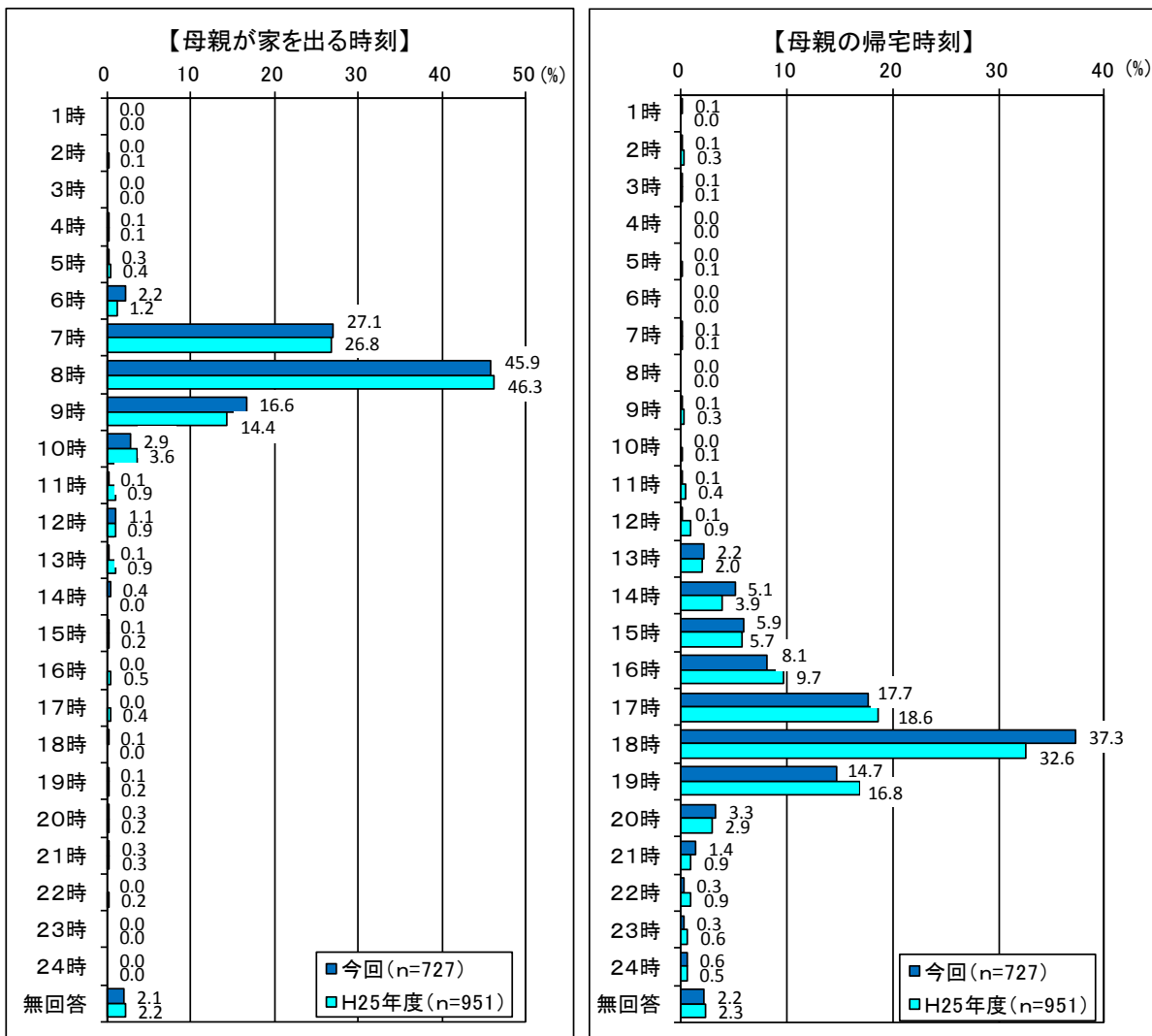


母親の1日あたりの就労時間は、「8時間」が36.3%で最も比率が高く、次いで「7時間」が14.9%、「6時間」が14.9%、「5時間」が9.8%、「9時間」が7.3%、「4時間」7.0%などとなっており、前回調査と大きな変化は見られません。



母親が家を出る時刻は、「8時」が45.9%で最も比率が高く、次いで「7時」が27.1%、「9時」が16.6%と続いています。

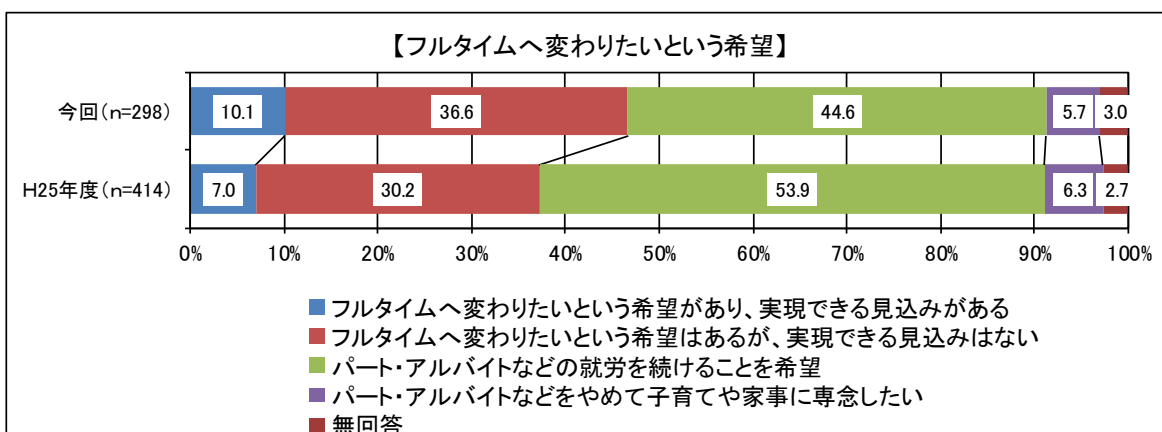
帰宅時刻は、「18時」が37.3%で最も比率が高く、次いで「17時」が17.7%、「19時」が14.7%、「16時」が8.1%などとなっており、前回調査と大きな変化は見られません。



母親がパート・アルバイトなどで就労している方のみ回答

問14-2 フルタイムの変更希望

フルタイムへの変更希望については、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が44.6%で最も比率が高く、次いで「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が36.6%となっています。前回の調査でも「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が53.9%で最も比率が高く、次いで「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が30.2%となっており、同様の傾向となっています。

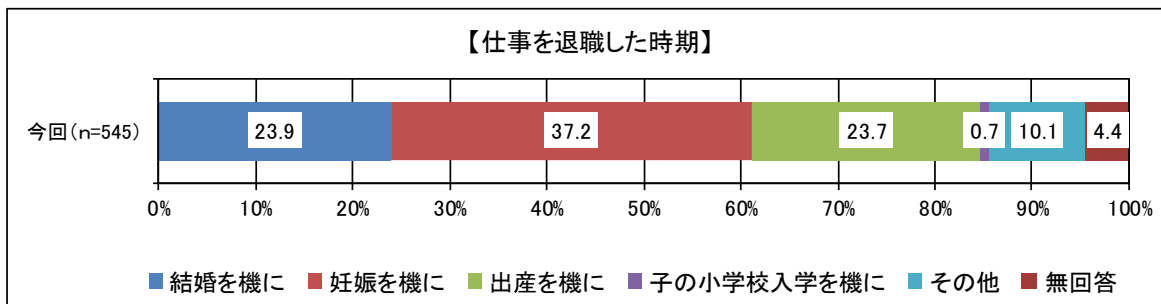


【就学前児童】

以前は就労していたが、現在は就労していない方のみ回答

問 14-3 仕事を退職した時期

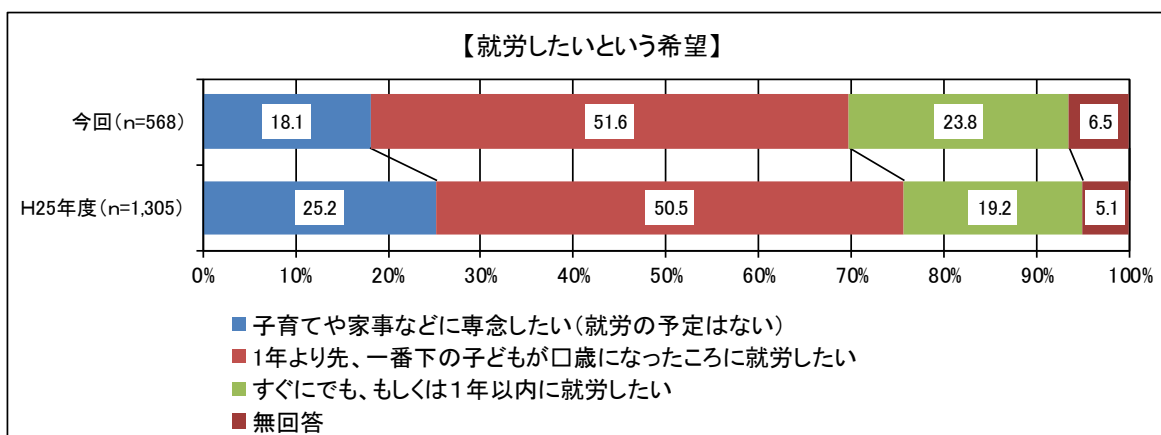
母親が仕事を退職した時期は、「妊娠を機に」が 37.2%で最も比率が高く、次いで「結婚を機に」が 23.9%、「出産を機に」が 23.7%、「子の小学校入学を機に」が 0.7%となっています。



以前は就労していたが、現在は就労していない方、または、これまで就労したことがない方のみ回答

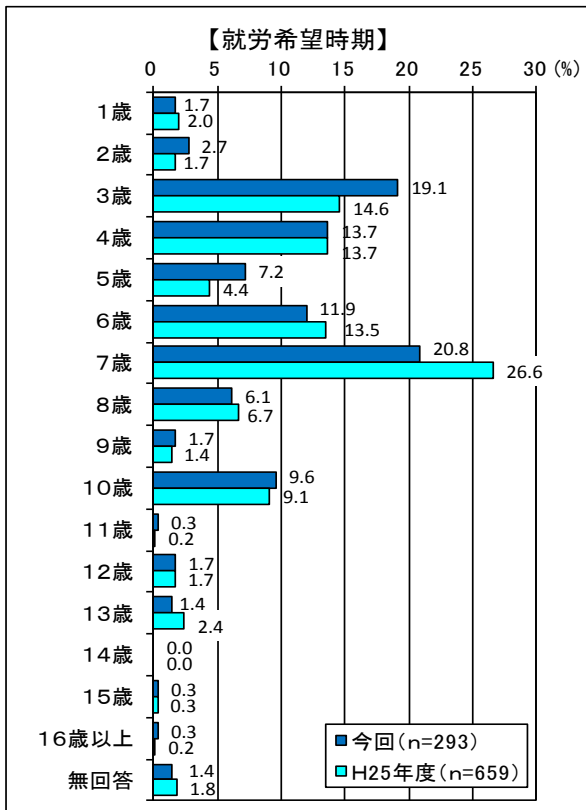
問 14-4 就労希望

就労希望については、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が 51.6%で最も比率が高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 23.8%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 18.1%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



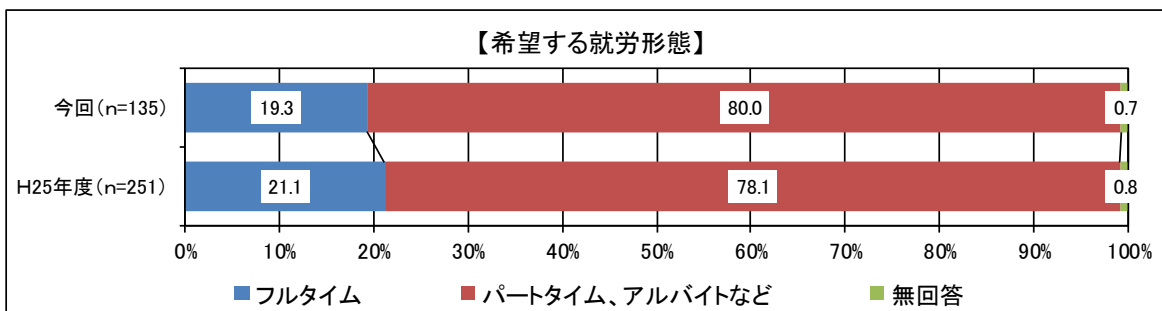
【「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」の回答の子どもの年齢】

就労希望時期については、「7歳」が 20.8%で最も比率が高く、次いで「3歳」が 19.1%、「4歳」が 13.7%、「6歳」が 11.9%と続いています。前回の調査と大きな変化は見られませんが、「3歳」(14.6%)や「5歳」(4.4%)の比率が増加し、「7歳」(26.6%)の比率が低くなっています。



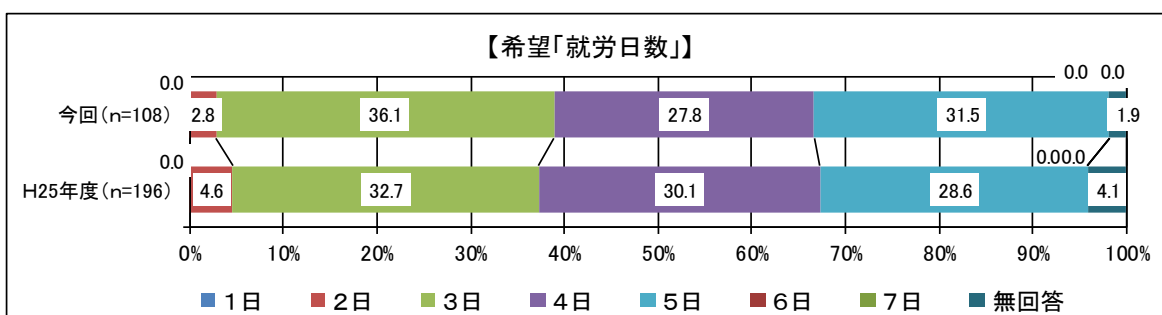
【「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」の希望する就労形態】

希望就労形態は、「パートタイム、アルバイトなど」が80.0%、「フルタイム」が19.3%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【上記で「パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する1週あたり就労日数】

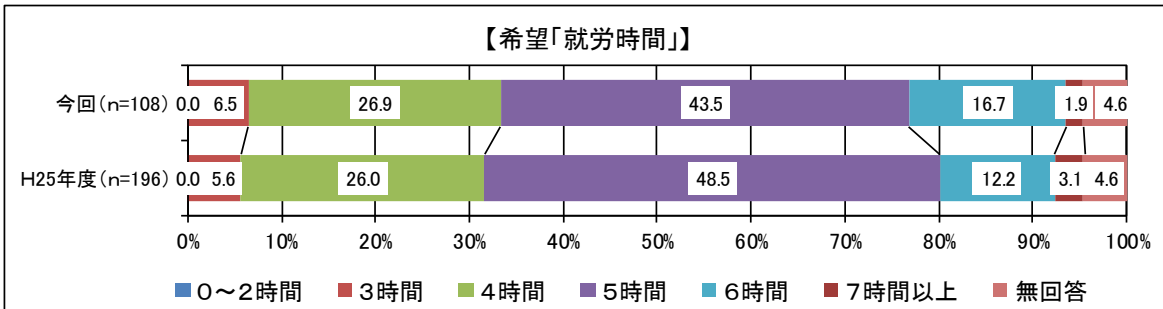
希望就労日数は、「3日」が36.1%で最も比率が高く、次いで「5日」が31.5%、「4日」が27.8%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



【就学前児童】

【上記で「パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する1日あたり就労時間】

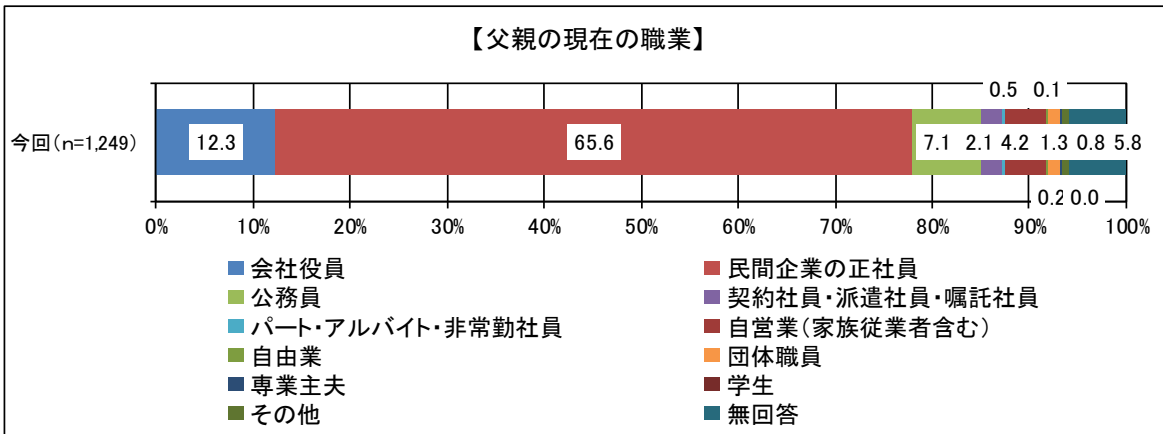
希望就労時間は、「5時間」が43.5%で最も比率が高く、次いで「4時間」が26.9%、「6時間」が16.7%、「3時間」が6.5%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



「父親」の就労について

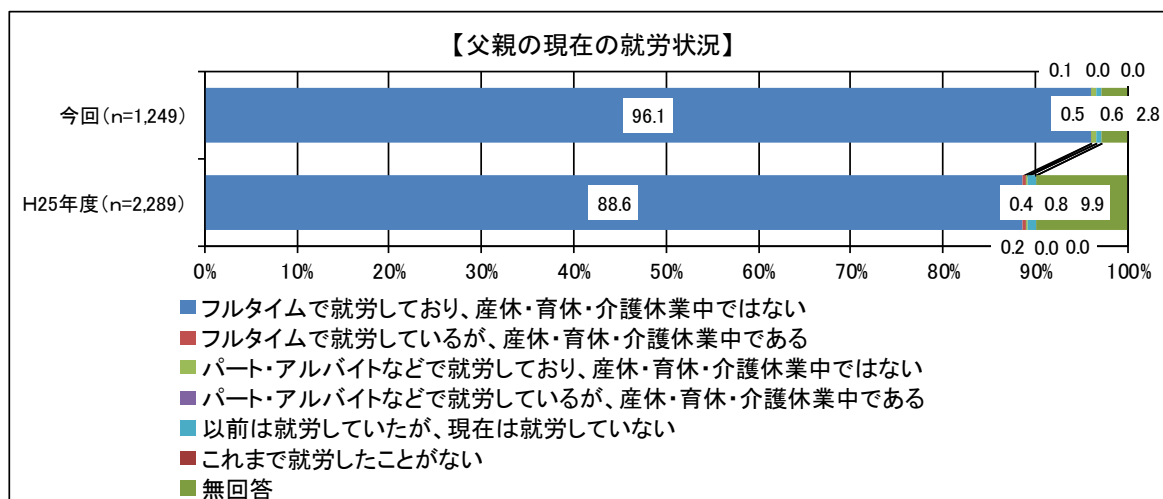
問 15 父親の現在の職業

父親の職業は、「民間企業の正社員」が65.6%と多数を占め、次いで「会社役員」(12.3%)、「公務員」(7.1%)、「自営業(家族従業者含む)」(4.2%)、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」(2.1%)などと続いています。



問 16 父親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）

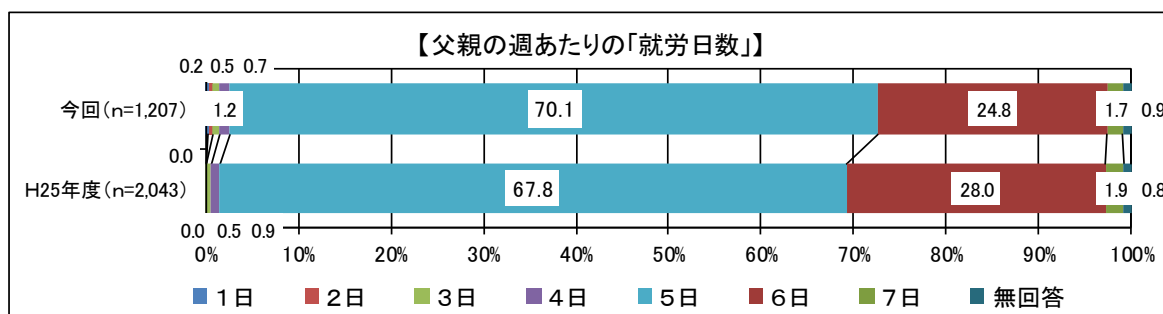
父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が96.1%で大多数を占め、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.6%、「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が0.5%となっており、前回の調査と大きな変化は見られません。



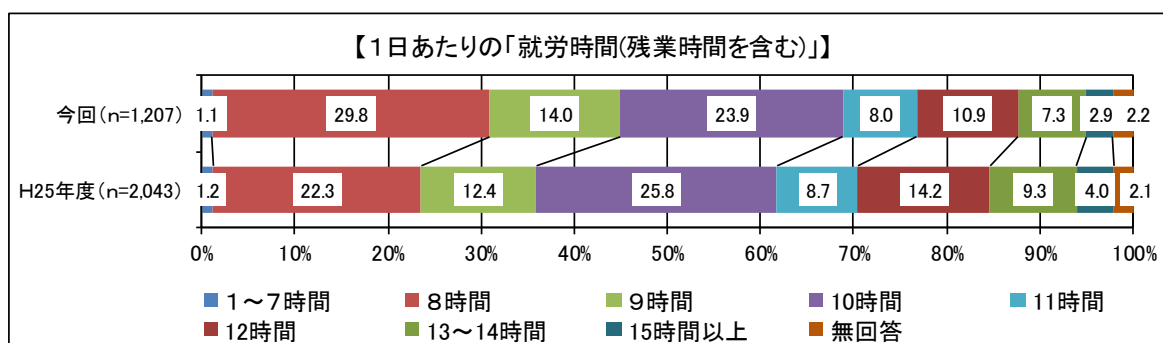
父親が就労している方のみ回答

問16-1 週あたりの「就労日数」と1日あたりの「就労時間(残業時間を含む)」

父親の週あたりの就労日数は、「5日」が70.1%で多数を占め、次いで「6日」が24.8%、「7日」が1.7%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



父親の1日あたりの就労時間は、「8時間」が29.8%で最も比率が高く、次いで「10時間」が23.9%、「9時間」が14.0%、「12時間」が10.9%、「13～14時間」が7.3%などとなっており、前回調査と比較すると、8時間未満の比率が増加し、9時間以上の比率が減少しています。

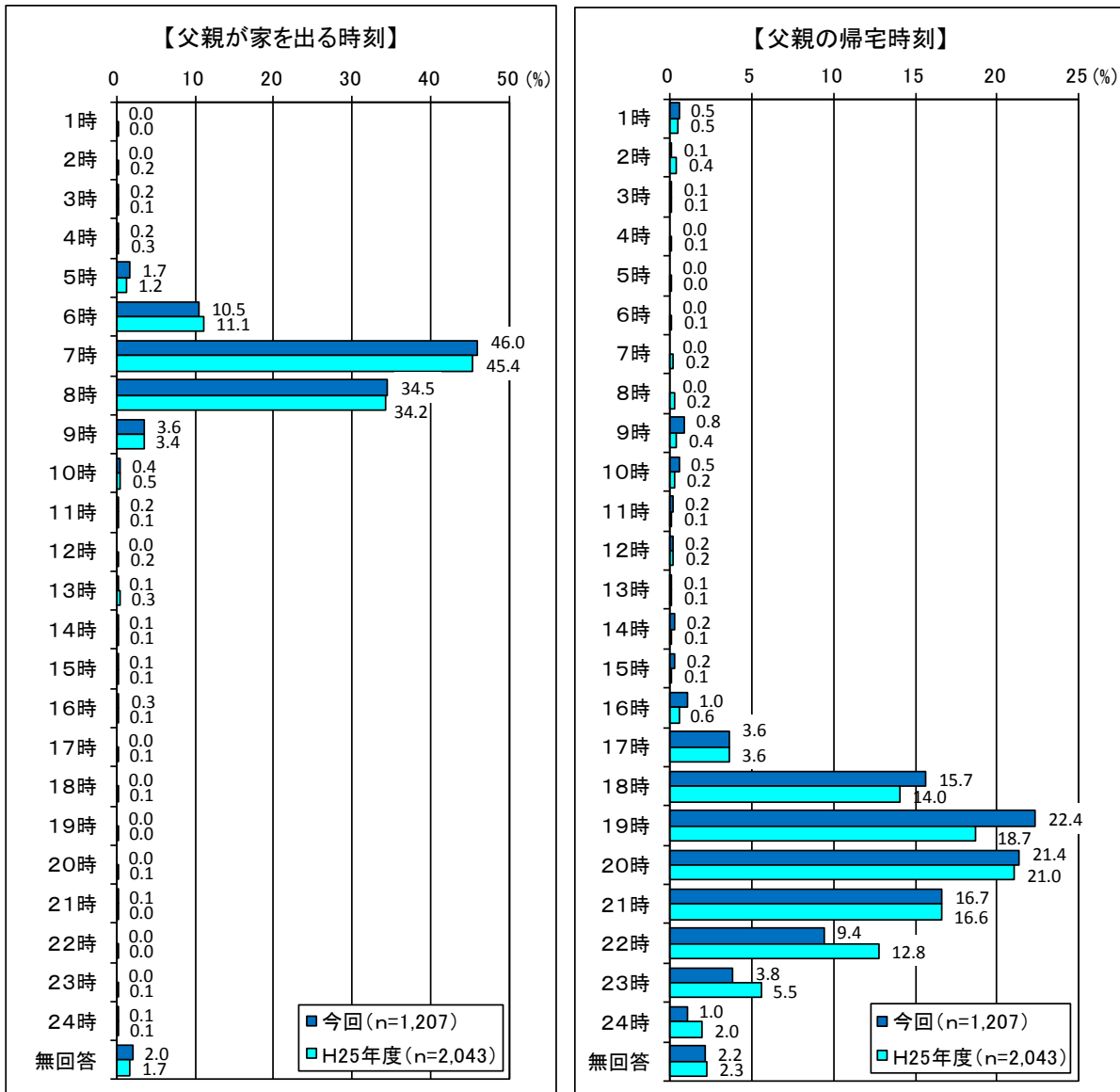


【就学前児童】

父親が家を出る時刻は、「7時」が46.0%で最も比率が高く、次いで「8時」が34.5%、「6時」が10.5%と続いています。

帰宅時刻は、「19時」が22.4%で最も比率が高く、次いで「20時」が21.4%、「18時」が15.7%、「21時」が16.7%などとなっています。

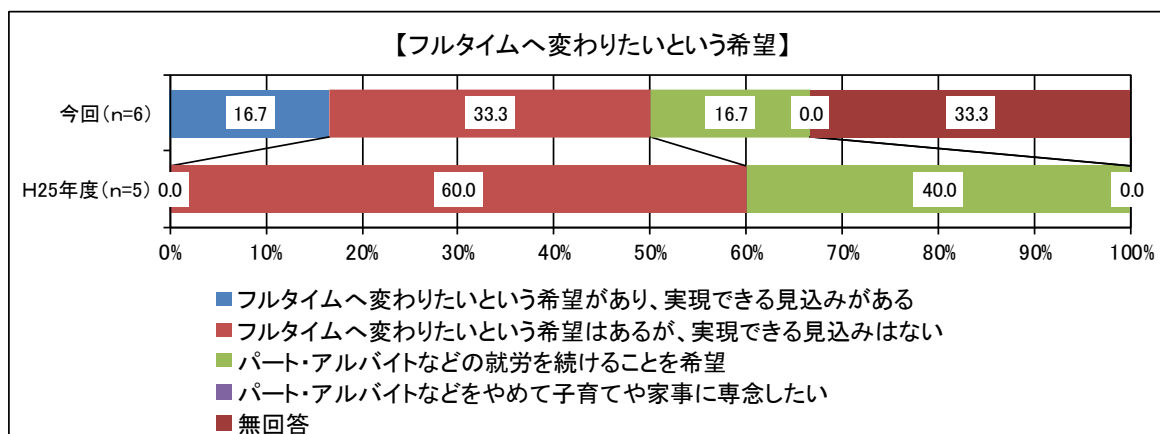
前回の調査と比較すると、家を出る時刻は概ね同様の傾向と続いています。帰宅時間については、「18時」(14.0%)や「19時」(18.7%)の比率が増加しており、父親の帰宅時間が早くなっている傾向が見受けられます。



父親がパート・アルバイトなどで就労している方のみ回答

問 16-2 フルタイムへ変更希望

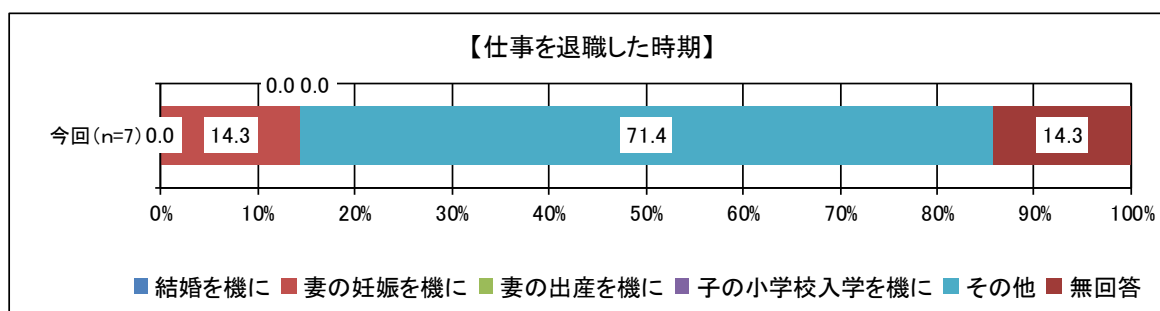
フルタイムへの変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が 33.3%で最も比率が高く、次いで「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」が 16.7%、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が 16.7%となっており、前回の調査と比較すると「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」(0.0%)を上回り、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」(40.0%)を大きく下回る傾向となっています。



以前は就労していたが、現在は就労していない方のみ回答

問 16-3 仕事を退職した時期

父親が仕事を退職した時期は、「妻の妊娠を機に」が 14.3%、「その他」が 71.4%で多数を占めています。なお、「その他」の意見では、“病気療養”や“自営の廃業”“引越し”となっています。

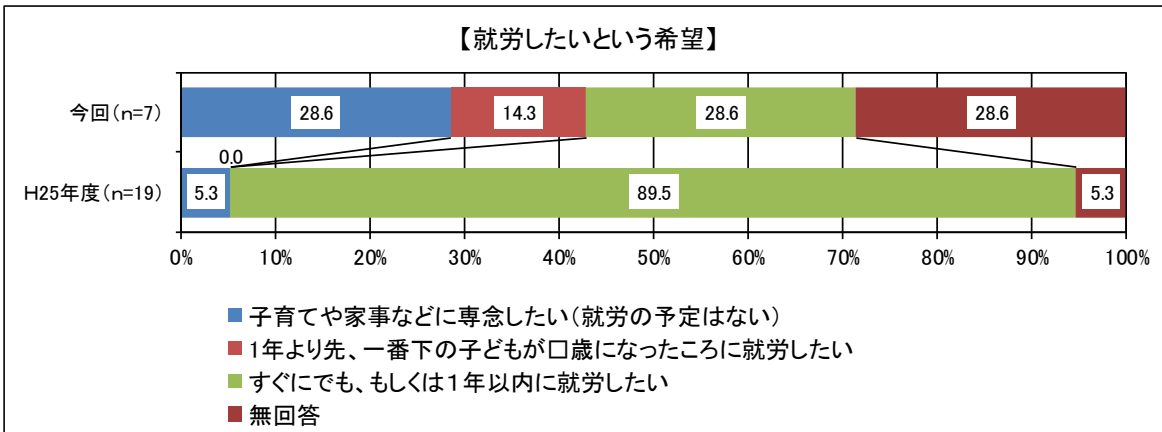


【就学前児童】

以前は就労していたが現在は就労していない方または、これまで就労したことがない方のみ回答

問 16-4 就労希望

就労希望については、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」及び「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」がともに 28.6%、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が 14.3%となっています。前回の調査と比較すると、「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」（89.5%）を大きく下回る傾向となっています。

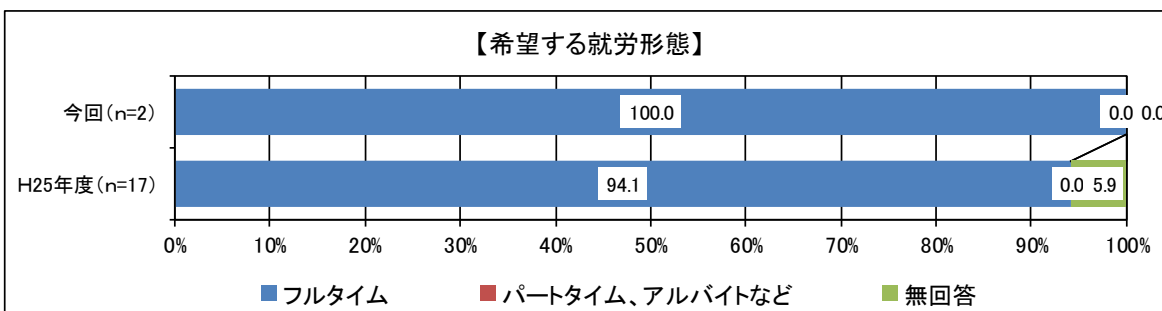


【「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」の回答の子どもの年齢】

(該当者1名の回答は、「12歳」となっています。)

【「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」の希望する就労形態】

希望就労形態は、「フルタイム」が 100.0%で、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【上記で「2 パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する就労形態、就労日数】

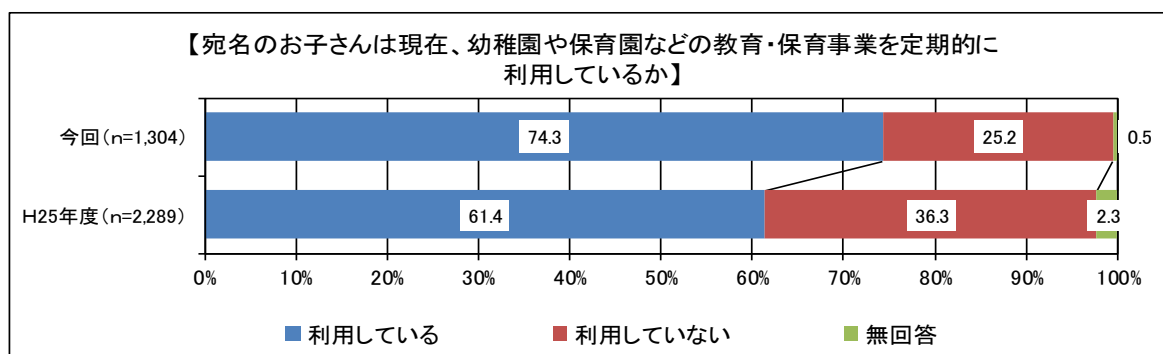
(該当者なし)

4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問 17 現在の幼稚園や保育園などの教育・保育事業の定期的な利用状況

現在の稚園や保育園などの教育・保育事業の定期的な利用は、「利用している」が 74.3%と多数を占め、「利用していない」は 25.2%となっています。前回調査との比較では、「利用している」の比率が 12.9 ポイント増加しています。

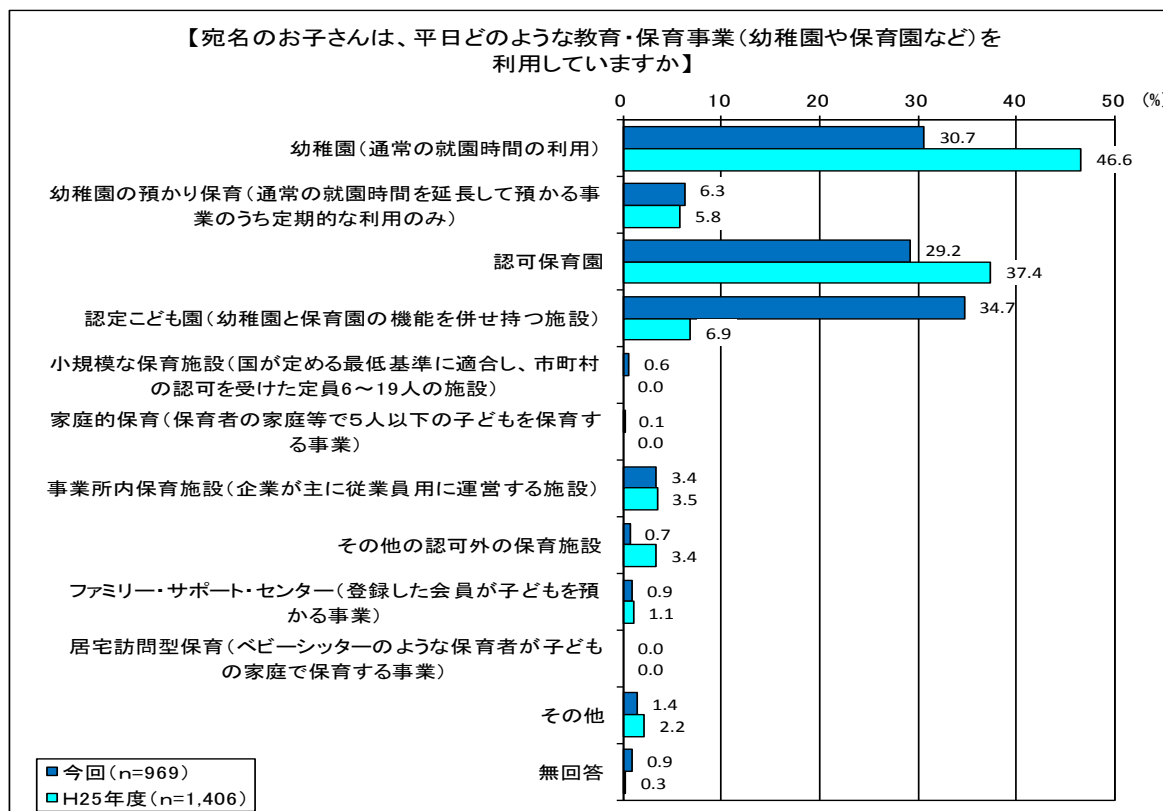
「利用している」は、子どもの“年齢が高い”、“配偶者はいない”方で高くなっています。年収の多少による傾向は見受けられません。



利用している方のみ回答

問 17-1 平日、利用している教育・保育事業（幼稚園や保育園など）の種類

平日、利用している教育・保育事業（幼稚園や保育園など）の種類は、「認定こども園（幼稚園と保育園の機能を併せ持つ施設）」が 34.7%で最も比率が高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」（30.7%）、「認可保育園」（29.2%）となっており、前回の調査と比較すると「認定こども園」が 27.8 ポイント増加しています。

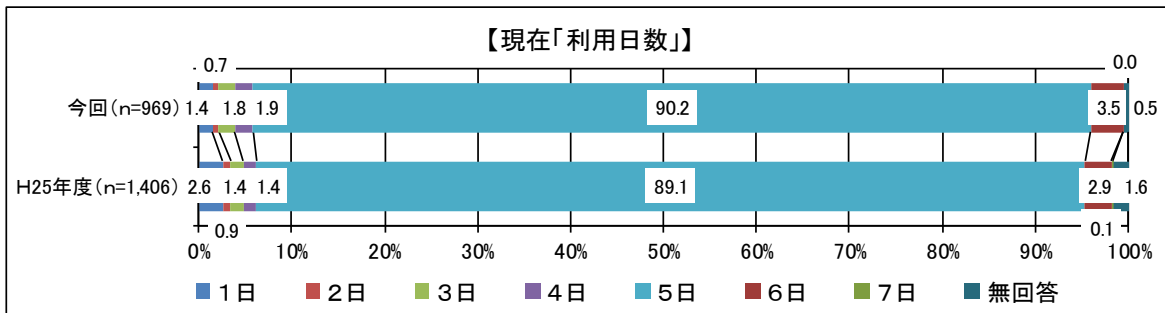


【就学前児童】

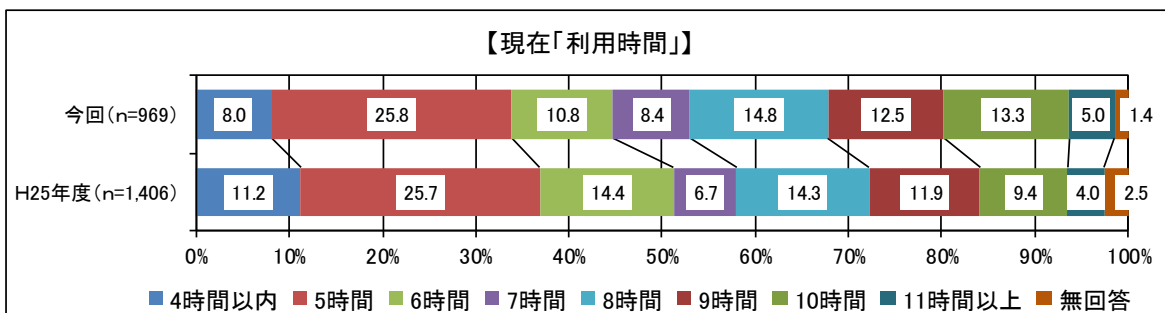
問 17-2 平日に定期的に利用している幼稚園や保育園などの教育・保育事業の利用状況と希望
 (時間は1時間単位、30分以上は1時間に切り上げ。)

(1) 平日の幼稚園や保育園など、週あたりの利用日数と時間

現在の週あたりの利用日数は、「5日」が90.2%で多数を占め、次いで「6日」が3.5%、「4日」が1.9%、「3日」が1.8%、「1日」が1.4%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



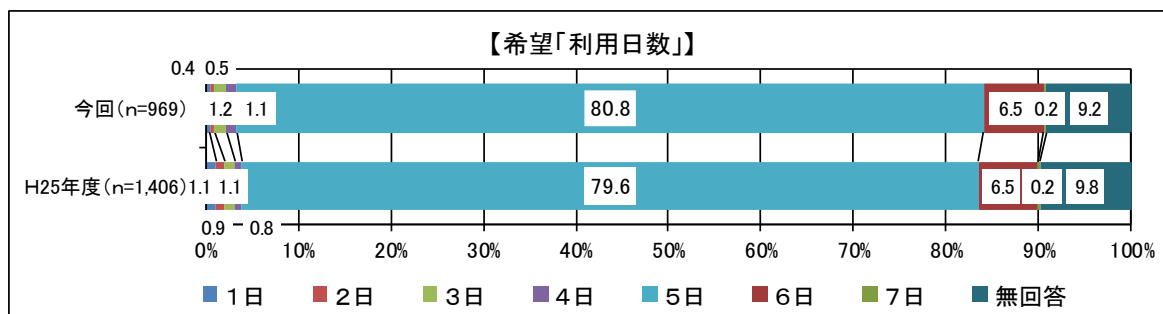
現在の1日あたりの利用時間は、「5時間」が25.8%で最も比率が高く、次いで「8時間」が14.8%、「10時間」が13.3%、「11時間以上」が5.0%、「9時間」が12.5%、「6時間」が10.8%などとなっており、前回調査と大きな変化は見られません。



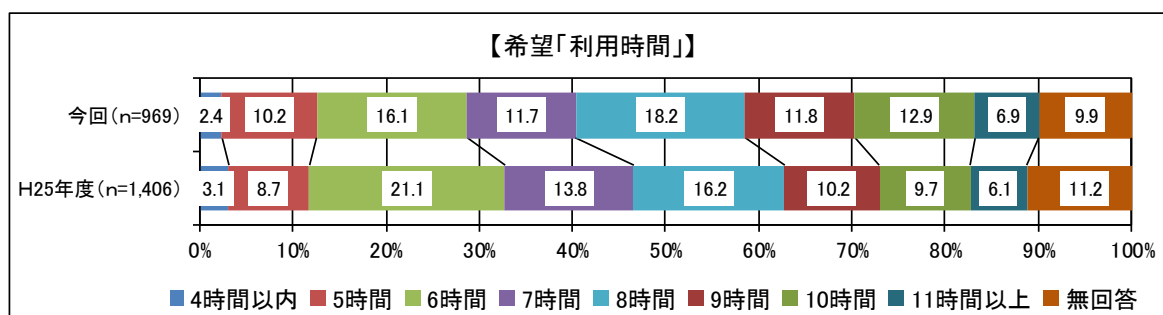
(※開始・終了時間は30頁参照)

(2) 平日の幼稚園や保育園などの利用希望日数と時間

希望の週あたりの利用日数は、「5日」が80.8%で多数を占め、次いで「6日」が6.5%、「3日」が1.2%、「4日」が1.1%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



希望の週あたりの利用時間は、「8時間」が18.2%で最も比率が高く、次いで「6時間」が16.1%、「10時間」が12.9%、「9時間」が11.8%、「7時間」が11.7%、「5時間」10.2%などとなっており、前回調査と大きな変化は見られません。

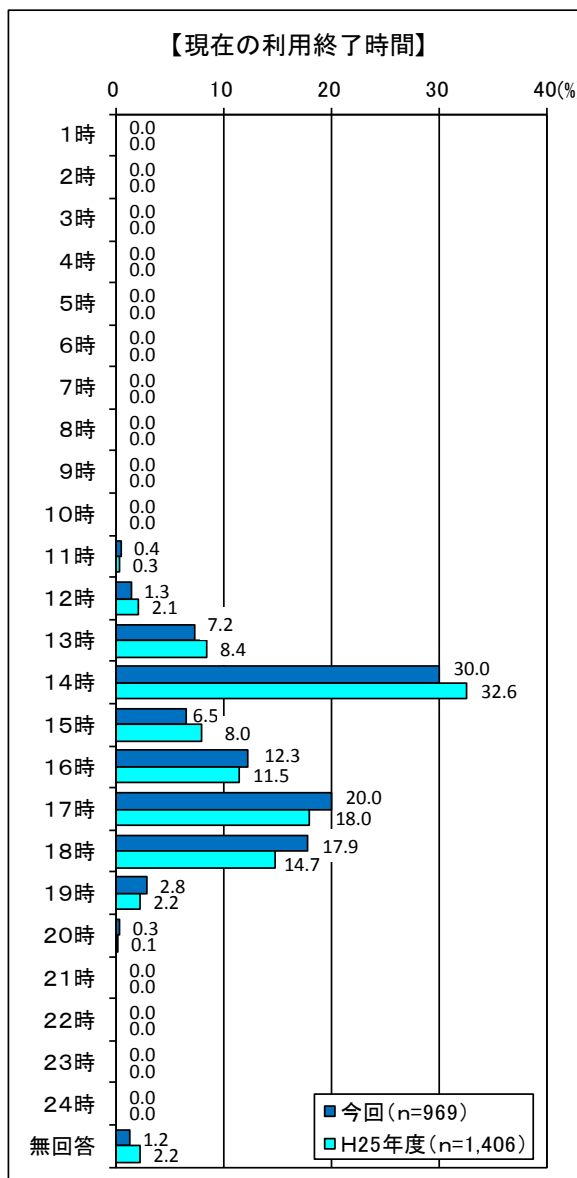
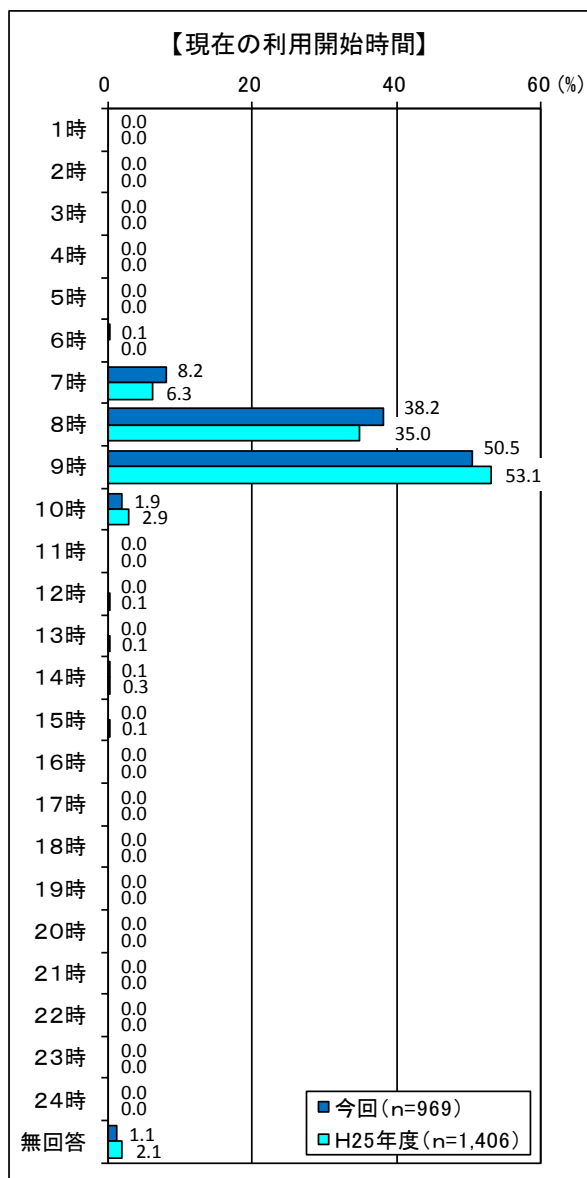


(※開始・終了時間は31頁参照)

【就学前児童】

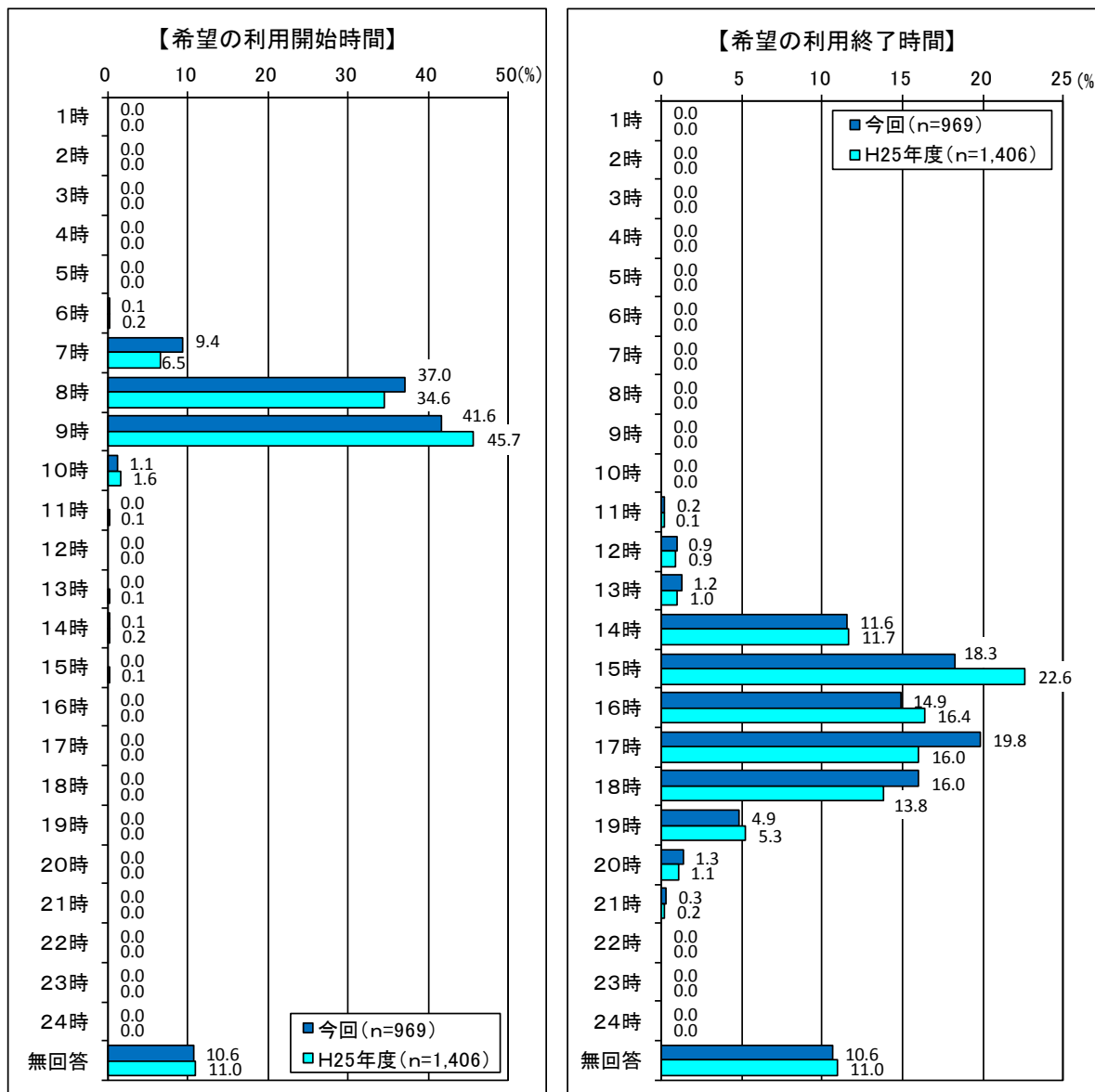
【現在の利用時間（開始時間・終了時間）】

現在の利用開始時間は、「9時」が50.5%で最も比率が高く、次いで「8時」が38.2%、「7時」が8.2%であり、利用終了時間は、「14時」が30.0%で最も比率が高く、次いで「17時」が20.0%、「18時」が17.9%、「16時」が12.3%、「13時」が7.2%などとなっており、前回調査と大きな変化は見られません。



【希望の利用時間（開始時間・終了時間）】

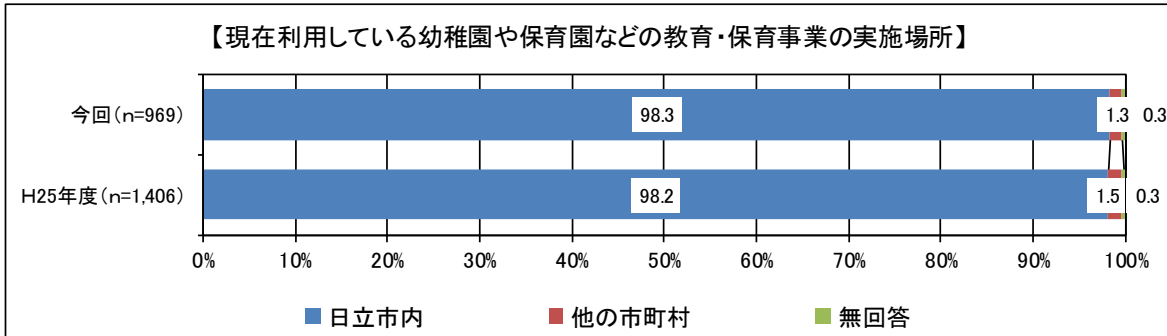
希望の利用開始時間は、「9時」が41.6%で最も比率が高く、次いで「8時」が37.0%、「7時」が9.4%であり、利用終了時間は、「17時」が19.8%で最も比率が高く、次いで「15時」が18.3%、「18時」が16.0%、「16時」が14.9%、「14時」が11.6%などとなっており、前回調査と大きな変化はないものの、「17時」（16.0%）や「18時」（13.8%）を上回っています。



【就学前児童】

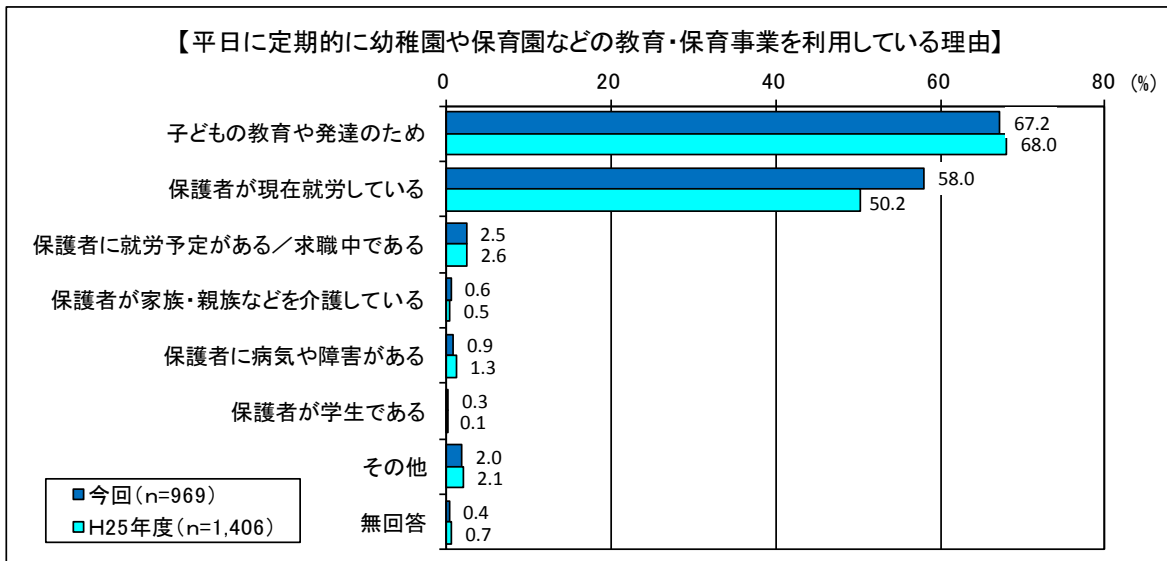
問 17-3 現在利用している幼稚園や保育園などの教育・保育事業の実施場所

現在利用している幼稚園や保育園などの教育・保育事業の実施場所については、「日立市内」が98.3%と多数を占め、「他の市町村」は1.3%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。なお、「他の市町村」については、“高萩市”や“北茨城市”、“常陸太田市”などとなっています。



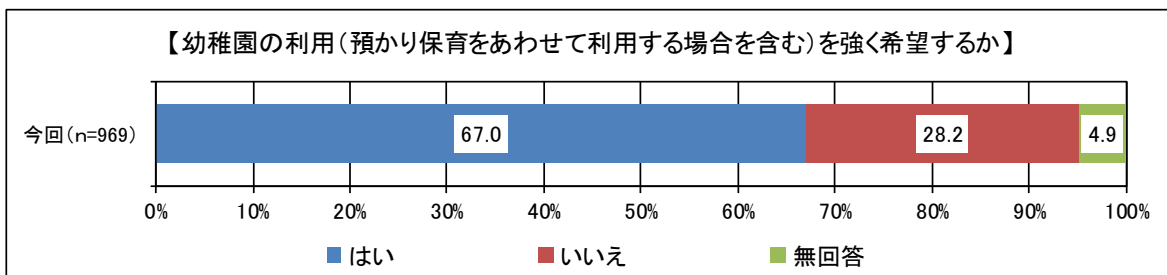
問 17-4 平日に定期的に幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用している理由

定期的に幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」が67.2%と最も比率が高く、次いで「保護者が現在就労している」が58.0%などとなっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



問 17-5 幼稚園の利用（預かり保育をあわせて利用する場合を含む）を強く希望

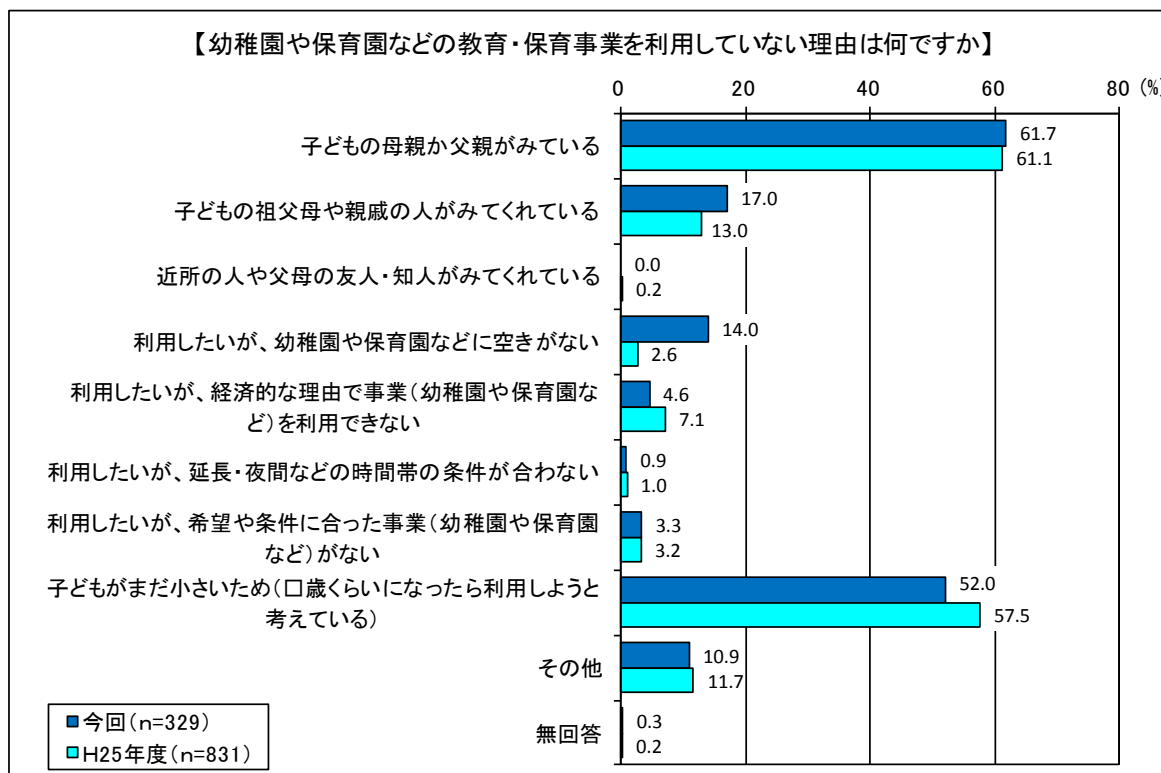
幼稚園の利用希望については、「はい」が67.0%、「いいえ」が28.2%となっています。



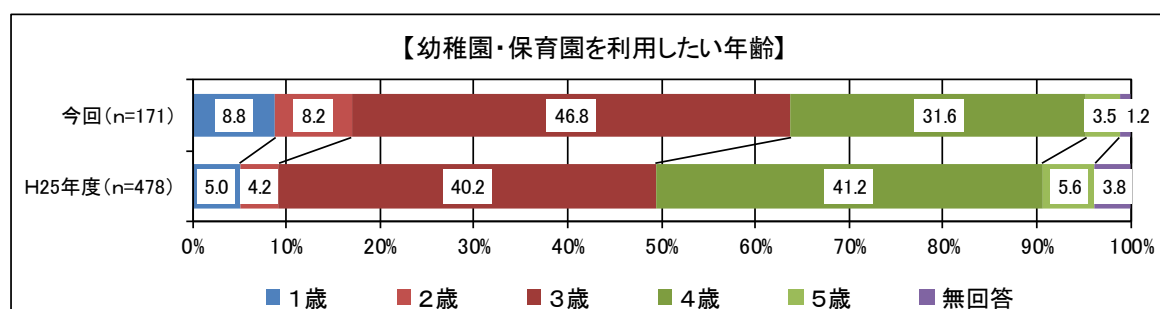
幼稚園や保育園などを利用していない方のみ回答

問 17-6 幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用していない理由

幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもの母親か父親がみている」が61.7%と最も比率が高く、次いで「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」（52.0%）、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」（17.0%）、「利用したいが、幼稚園や保育園などに空きがない」（14.0%）などとなっており、前回の調査と比較すると、「利用したいが、幼稚園や保育園などに空きがない」（2.6%）から11.4ポイント増加しています。



幼稚園・保育園を利用した年齢については、「3歳」が46.8%で最も比率が高く、次いで「4歳」が31.6%、「1歳」8.8%、「2歳」8.2%、「5歳」3.5%となっています。前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「1歳」（5.0%）や「2歳」（4.2%）、「3歳」（40.2%）で上回っています。



【就学前児童】

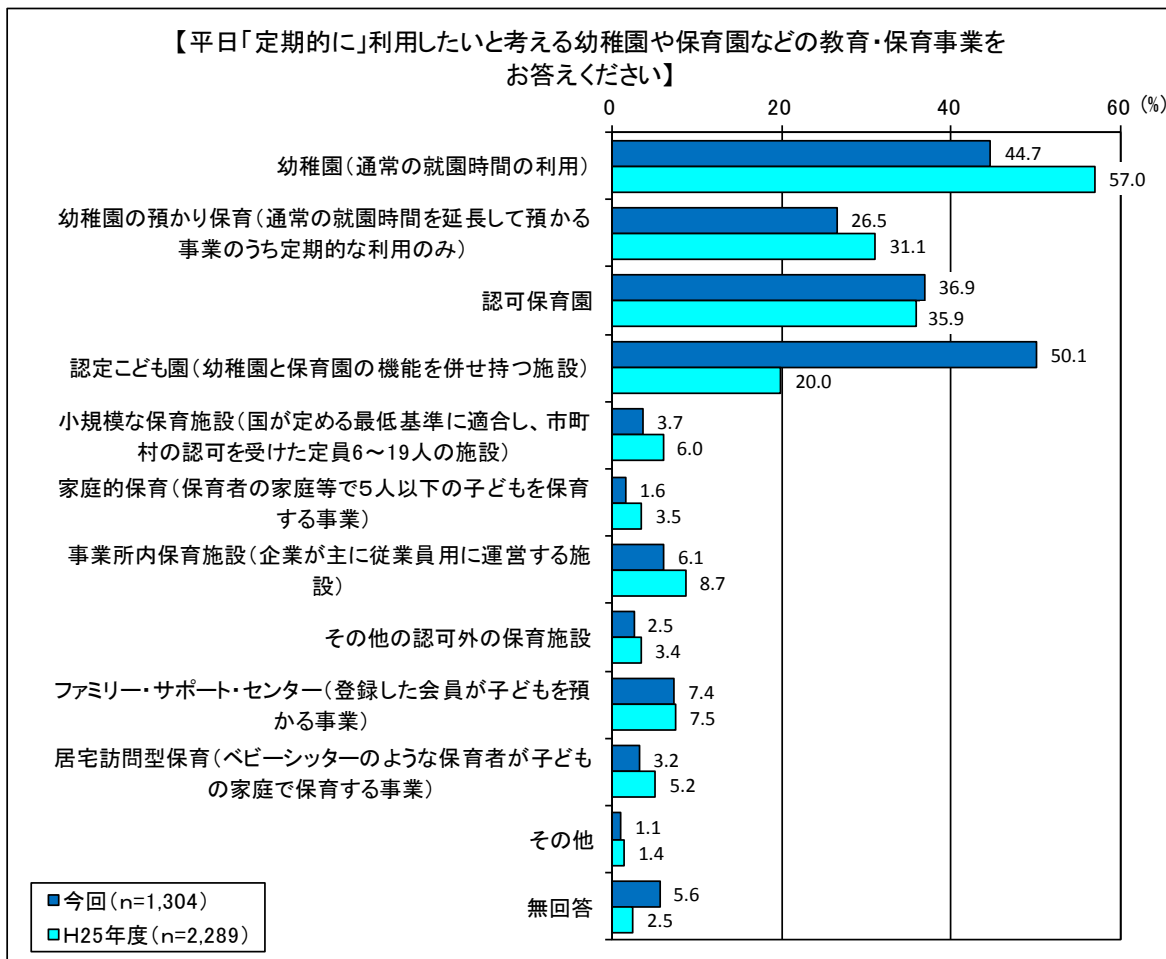
現在の利用状況にかかわらず、すべての方が回答

問 18 平日「定期的に」利用したい幼稚園や保育園などの教育・保育事業

定期的に利用したい幼稚園や保育園などの教育・保育事業については、「認定こども園（幼稚園と保育園の機能を併せ持つ施設）」が 50.1%で最も比率が高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」（44.7%）、「認可保育園」（36.9%）、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」（26.5%）と続いています。前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「認定こども園（幼稚園と保育園の機能を併せ持つ施設）」（20.0%）で大きく上回っています。

「認可保育園」の利用を希望する方のうち、子どもの年齢が“0歳”は75人、そのうち“母親が就労している”のは48人となっています。

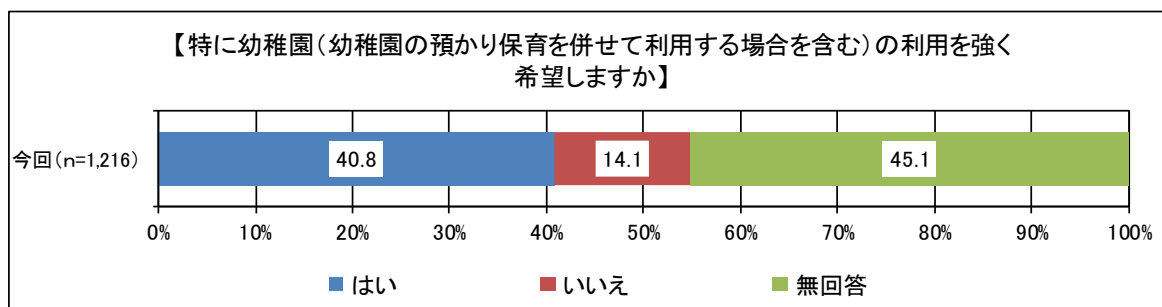
「認定こども園（幼稚園と保育園の機能を併せ持つ施設）」の利用を希望する方のうち、子どもの年齢が“0歳”は84人、そのうち“母親が就労している”のは42人となっています。



上記で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の利用希望がある方のみ回答

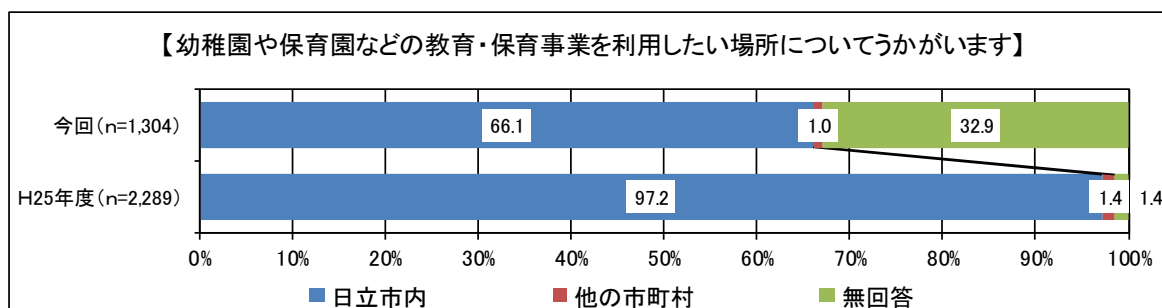
問 18-1 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育を併せて利用する場合を含む）の利用を強く希望するか

特に幼稚園の利用希望については、「はい」が40.8%、「いいえ」が14.1%となっています。



問 18-2 幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用したい場所

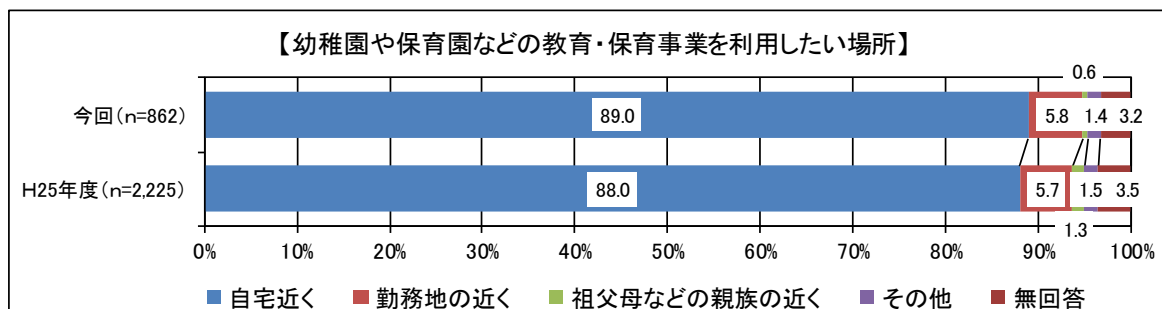
幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用したい場所については、「日立市内」が66.1%と多数を占め、「他の市町村」は1.0%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。なお、「他の市町村」については、「北茨城市」や「高萩市」、「東海村」などとなっています。



上記で「1. 日立市内」に○をつけた方

問 18-3 幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用したい場所

幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用したい場所については、「自宅近く」が89.0%と多数を占め、次いで「勤務地の近く」が5.8%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

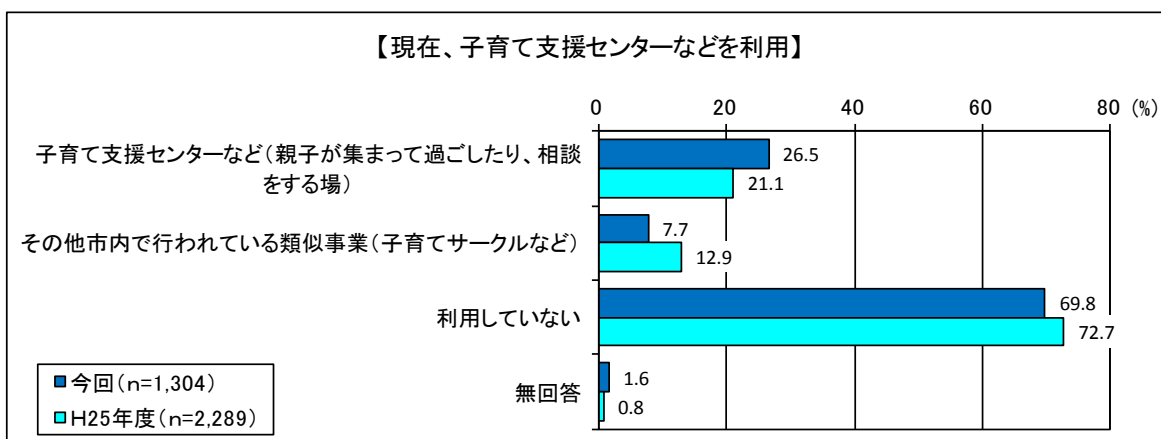


5 地域の子育て支援事業の利用状況について

問 19 子育て支援センターなどの利用

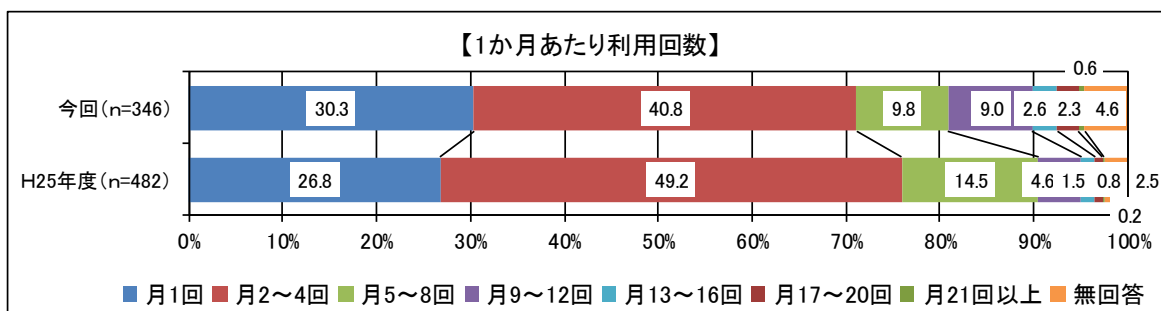
子育て支援センターなどの利用については、「利用していない」が69.8%で最も比率が高く、次いで「子育て支援センターなど（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」が26.5%、「その他市内で行われている類似事業（子育てサークルなど）」が7.7%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

子育て支援センターなどの利用をしていない人は、教育・保育事業を定期的に「利用している」人が多く、子育て支援センターなどの利用をしている人は、教育・保育事業を定期的に「利用していない」人の比率が高くなっています。子どもの“年齢が低い”ほど、利用している比率が高い傾向が見受けられます。



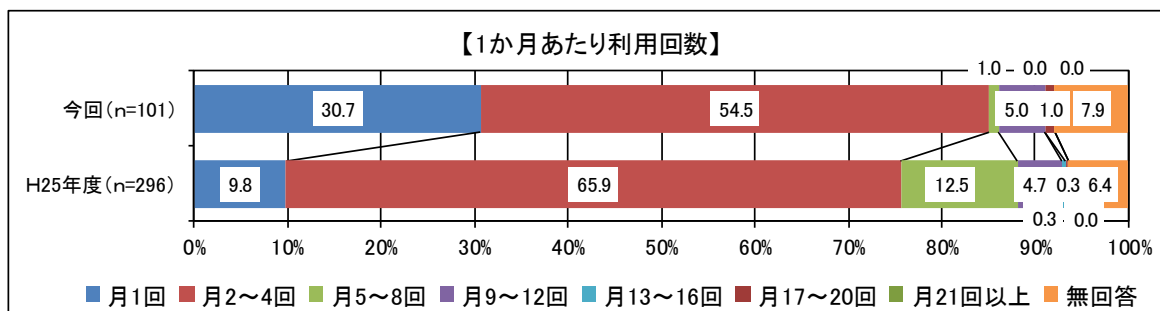
【「1 子育て支援センターなど」の1か月あたり利用回数】

子育て支援センターなどの1か月あたりの利用回数については、「月2～4回」が40.8%で最も比率が高く、次いで「月1回」が30.3%、「月5～8回」が9.8%、「月9～12回」が9.0%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【「2 その他市内で行われている類似事業（子育てサークルなど）」の1か月あたり利用回数】

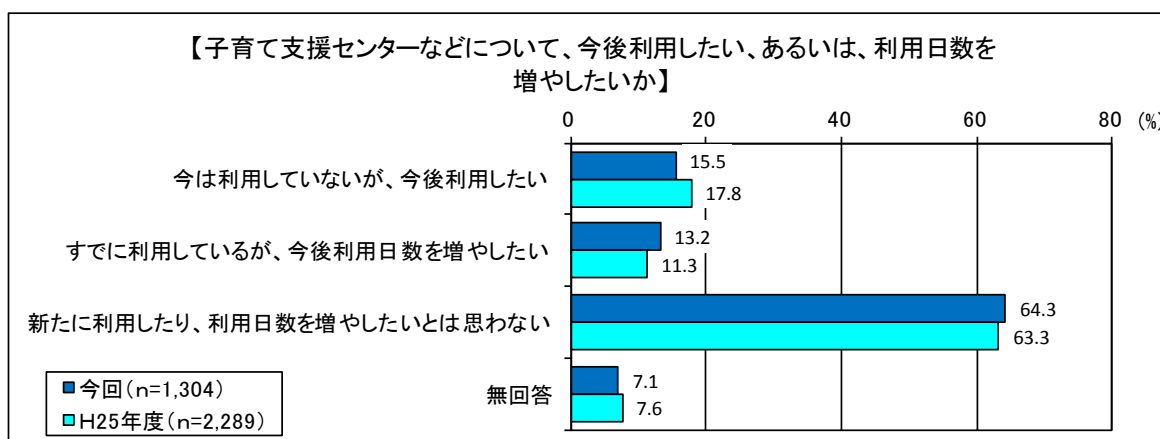
市内で行われている類似事業（子育てサークルなど）の1か月あたりの利用回数については、「月2～4回」が54.5%で最も比率が高く、次いで「月1回」が30.7%、「月9～12回」が5.0%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



問 19-1 子育て支援センターなどについて、今後利用希望、あるいは、利用日数を増やす希望

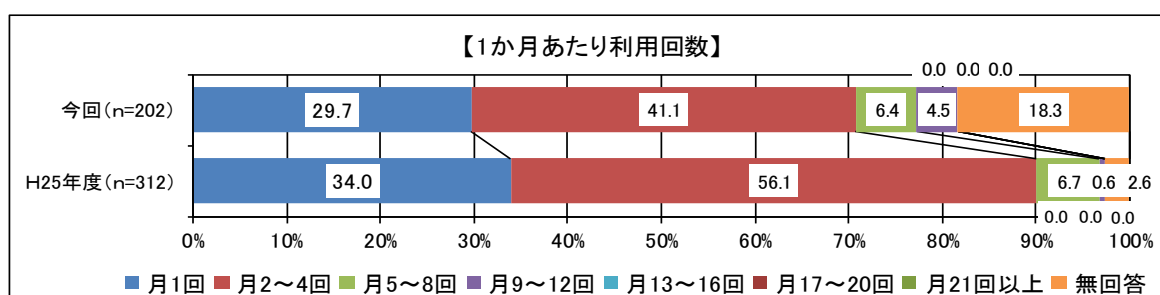
子育て支援センターの今後の利用希望については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 64.3%で最も比率が高く、次いで「今は利用していないが、今後利用したい」が 15.5%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 13.2%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は、“産休中”（30%以上）の方や“就労していない”（10%台）方で比率が高く、“フルタイム・パート”の方は5%台、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は子どもの“年齢が高い”方の比率が高く、他は“年齢が低い”方の比率が高い傾向が見受けられます。



【「1 今は利用していないが、今後利用したい」の1か月あたり利用回数】

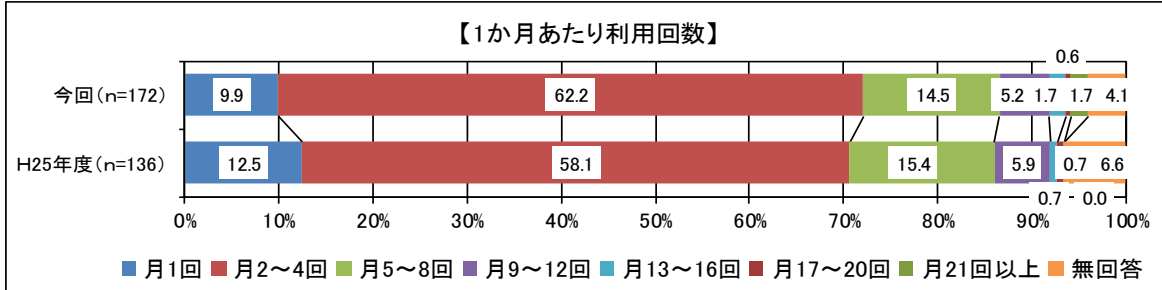
今は利用していないが、今後利用したい1か月あたりの利用回数については、「月2~4回」が 41.4%で最も比率が高く、次いで「月1回」が 29.7%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【就学前児童】

【「2 すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の1か月あたり利用回数】

すでに利用しているが、今後増やしたい1か月あたりの利用回数については、「月2～4回」が62.2%で最も比率が高く、次いで「月5～8回」が14.5%、「月1回」が9.9%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

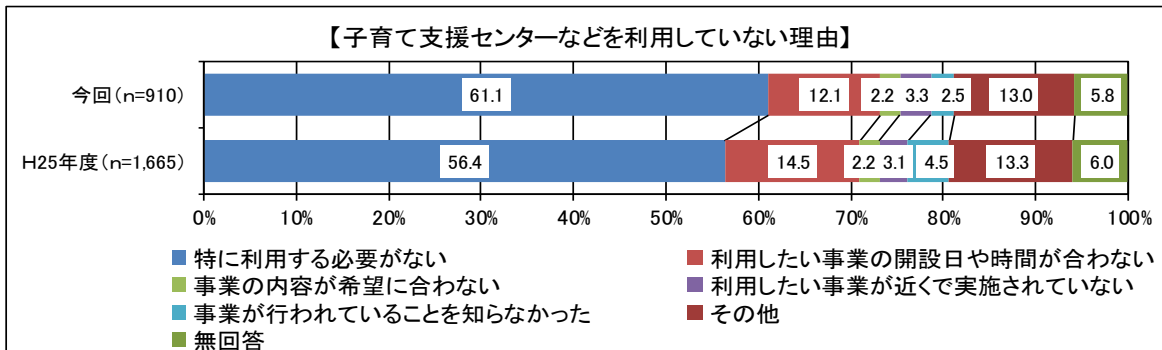


子育て支援センターを利用していない方のみ回答

問19-2 子育て支援センターなどを利用していない理由

子育て支援センターなどを利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が61.1%で最も比率が高く、次いで「利用したい事業の開設日や時間が合わない」が12.1%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

「特に利用する必要がない」は、教育・保育事業の定期的な利用で「利用している」(61.8%)が「利用していない」(57.7%)より、わずかながらも高い比率となっています。年収や子どもの年齢による傾向は見受けられませんでした。

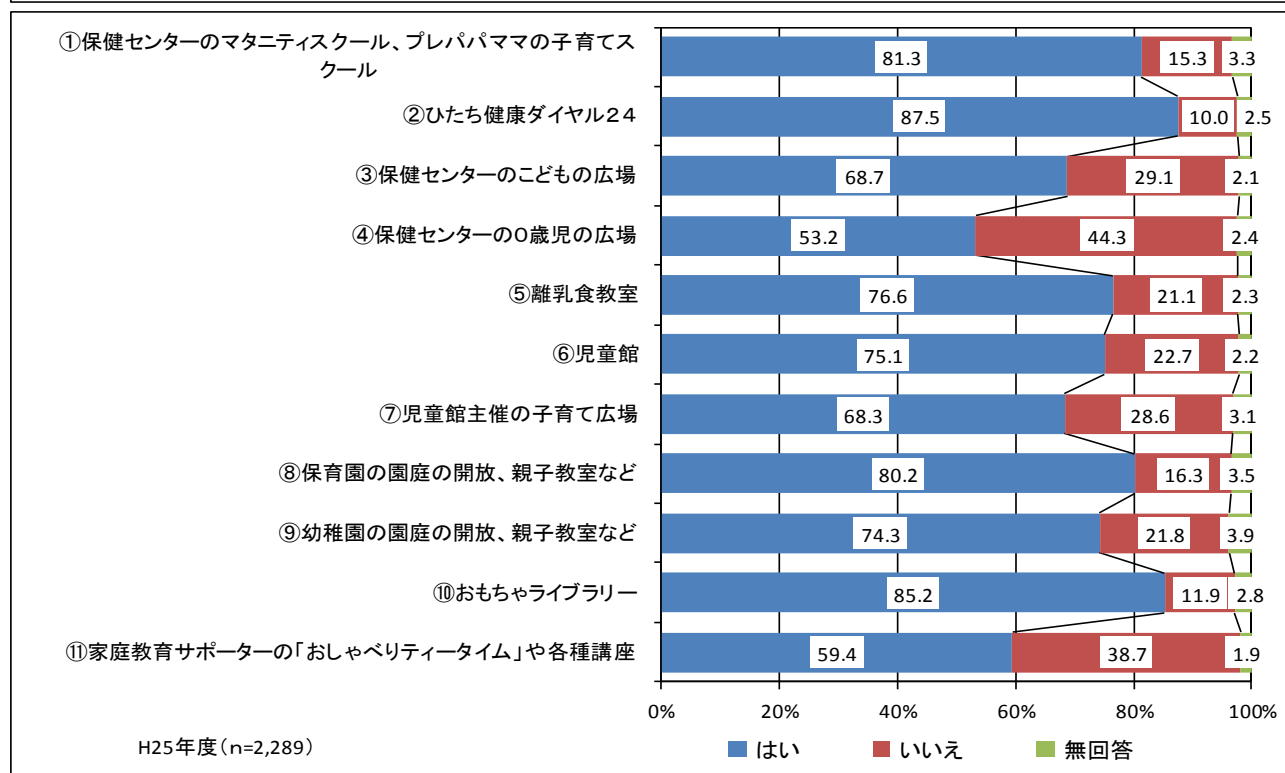
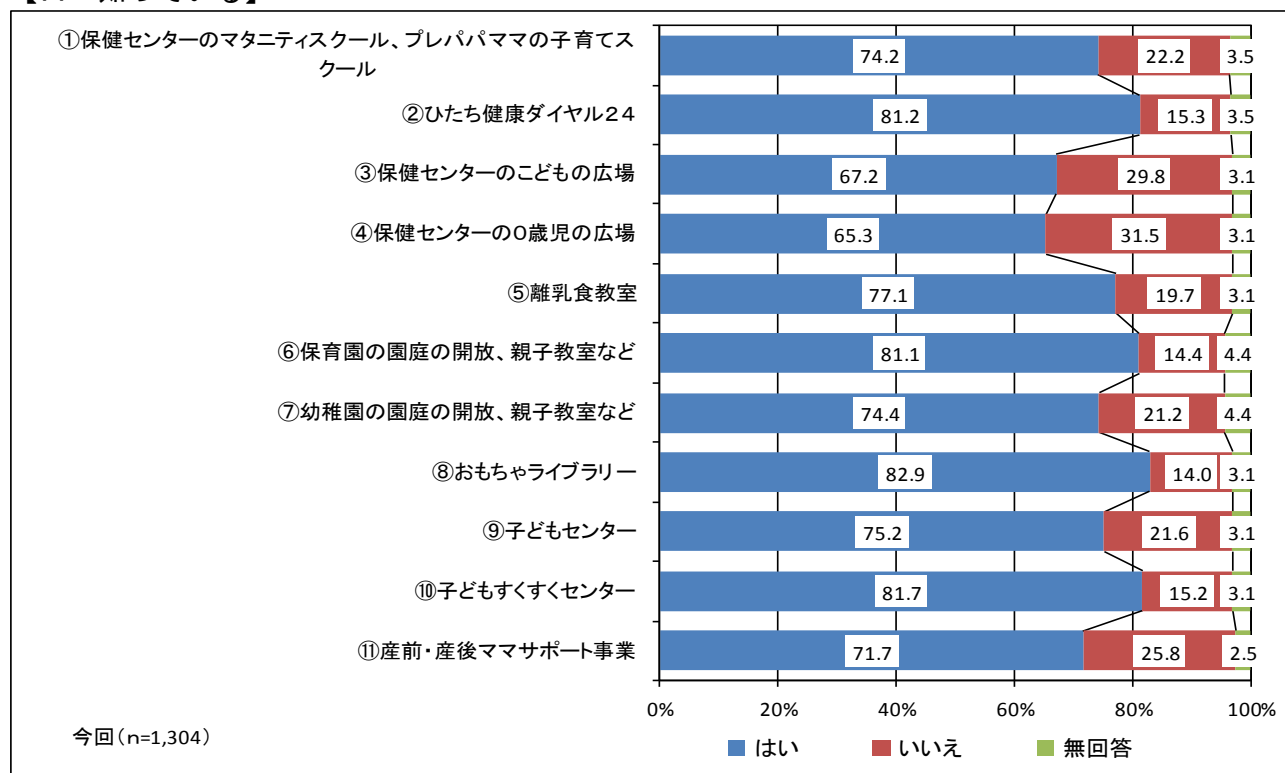


すべての方が回答

問 20 下記のサービスで知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うもの

“はい”の比率が高いのは、⑧おもちゃライブラリー（82.9%）、⑩子どもすすくセンター（81.7%）、②ひたち健康ダイヤル24（81.2%）、⑥保育園の園庭の開放、親子教室など（81.1%）となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

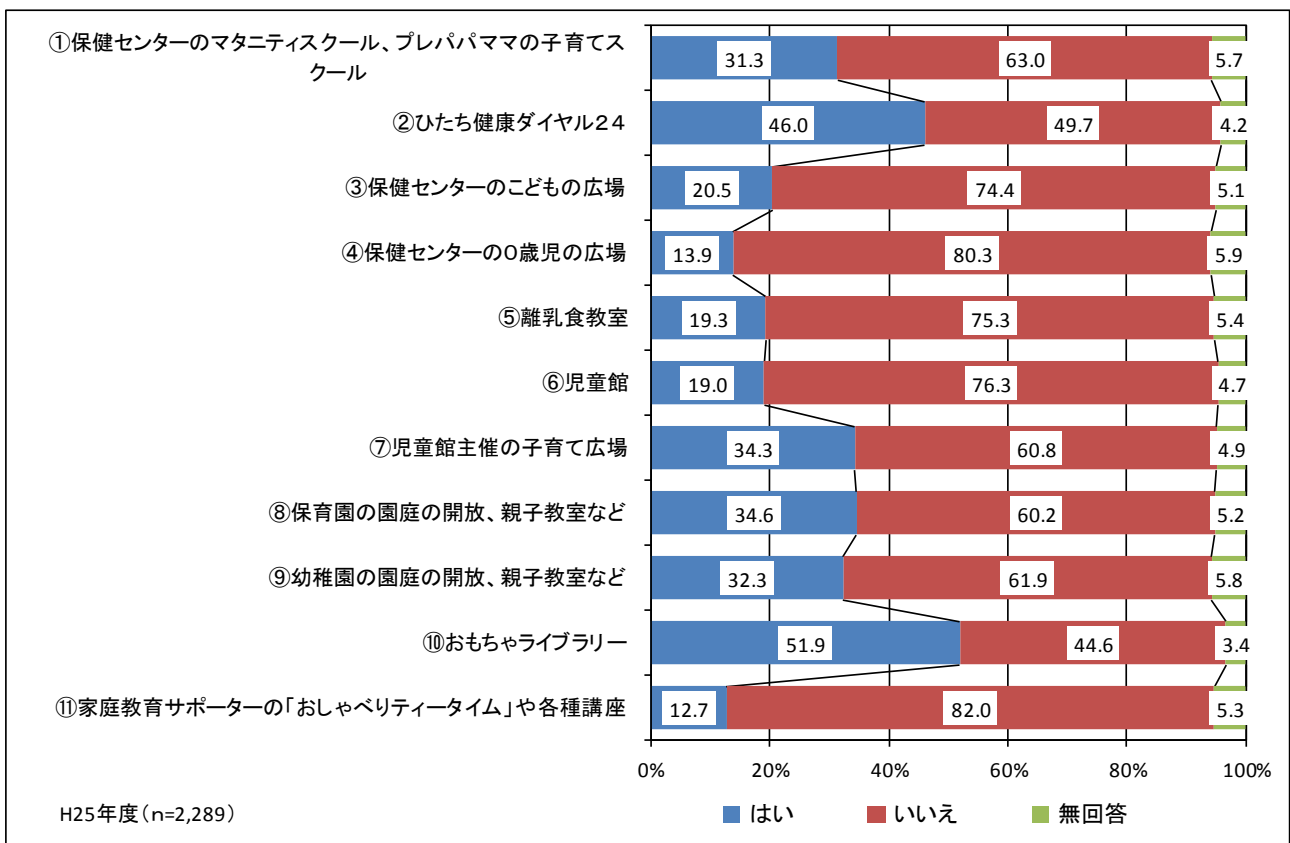
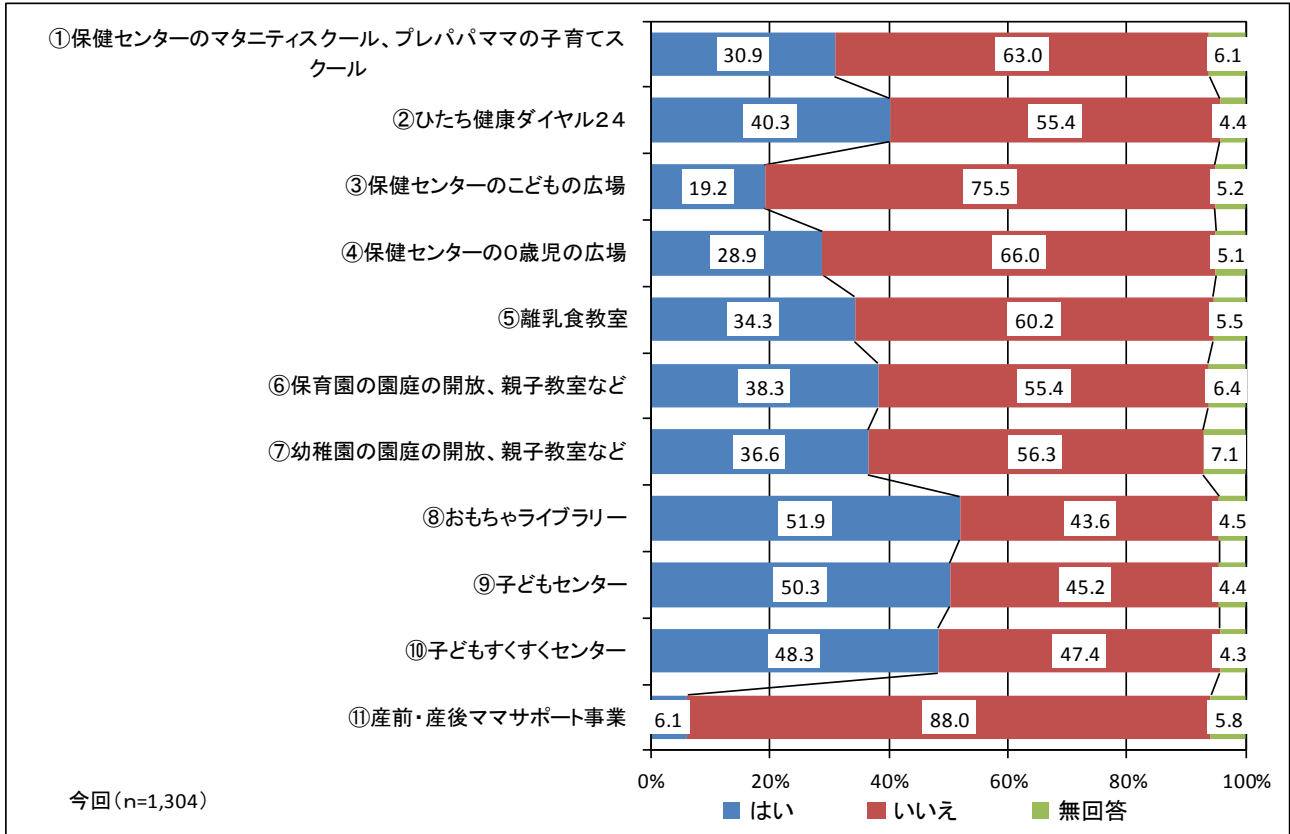
【A 知っている】



【就学前児童】

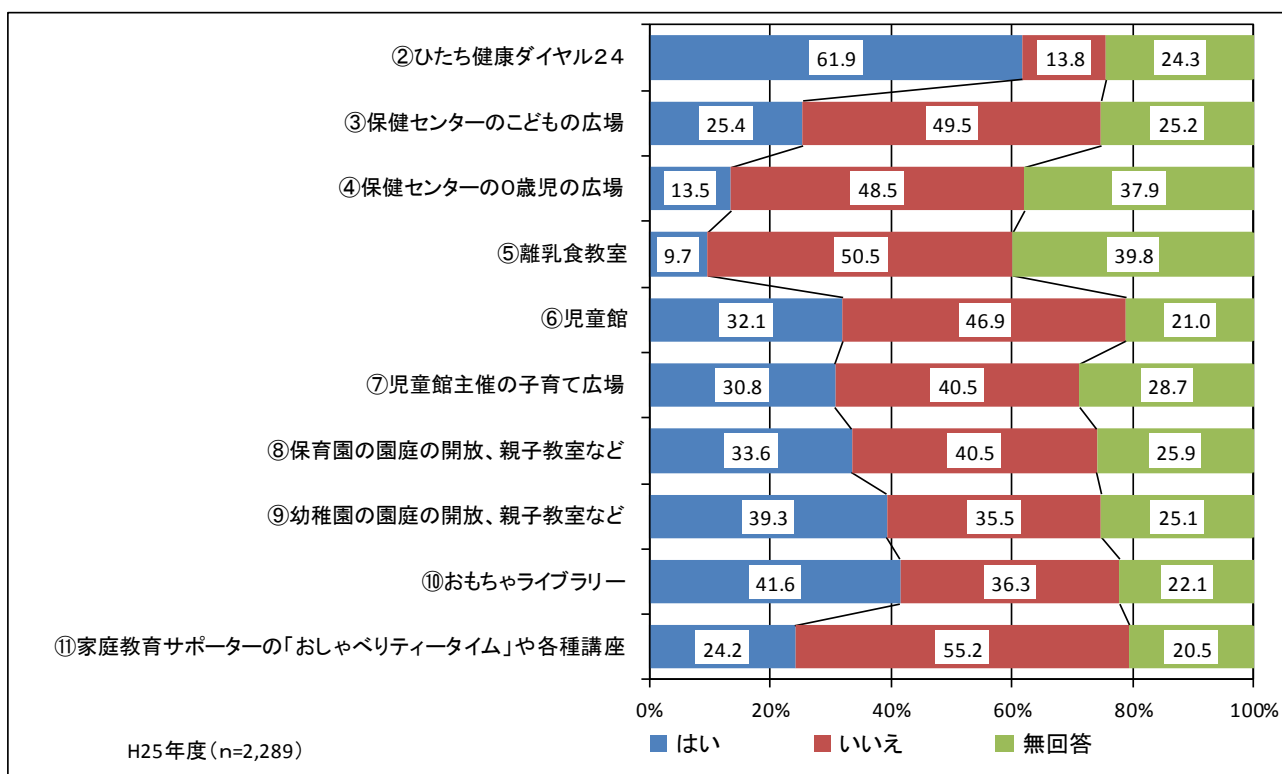
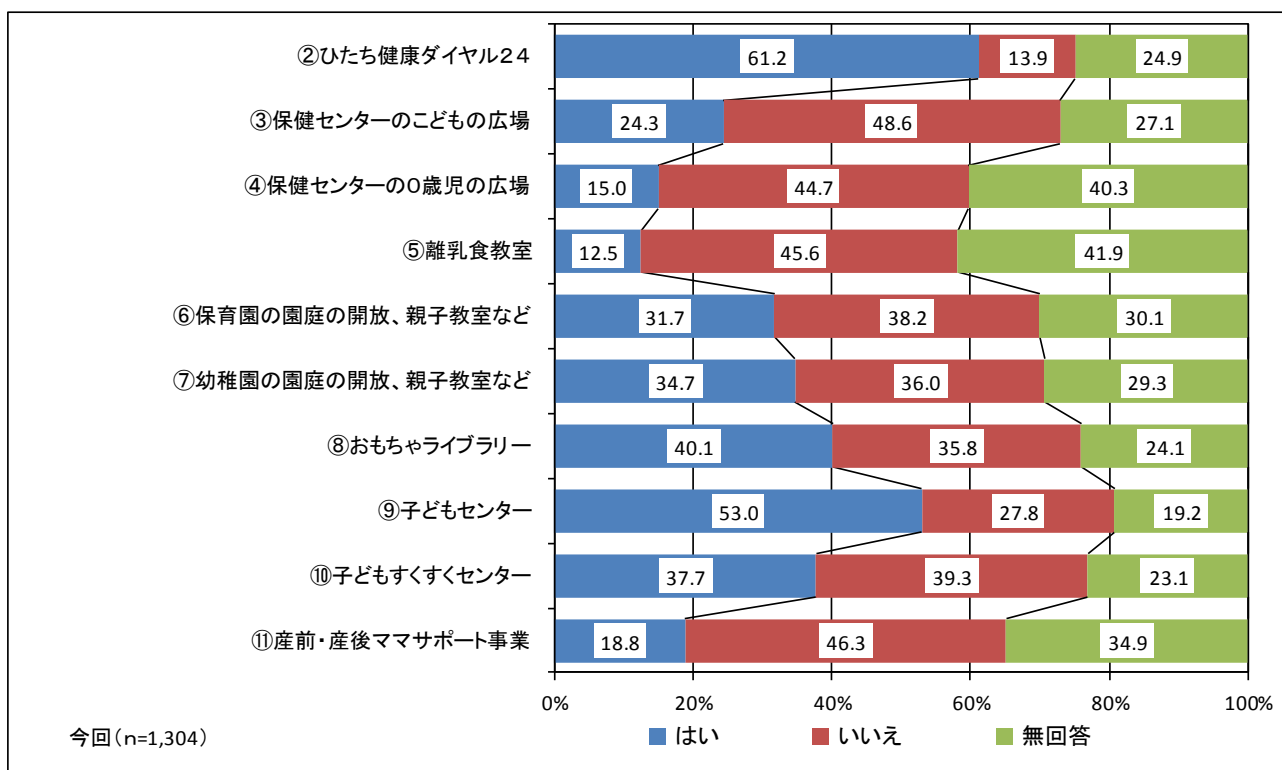
【B これまでに利用したことがある】

“はい”の比率が高いのは、⑧おもちゃライブラリー（51.9%）、⑨子どもセンター（50.3%）、⑩子どもすくすくセンター（48.3%）、②ひたち健康ダイヤル24（40.3%）となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【C 今後利用したい】 ※お子さんが対象年齢を過ぎている場合は未記入

“はい”の比率が高いのは、②ひたち健康ダイヤル24（61.2%）、⑨子どもセンター（53.0%）、⑧おもちゃライブラリー（40.1%）となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



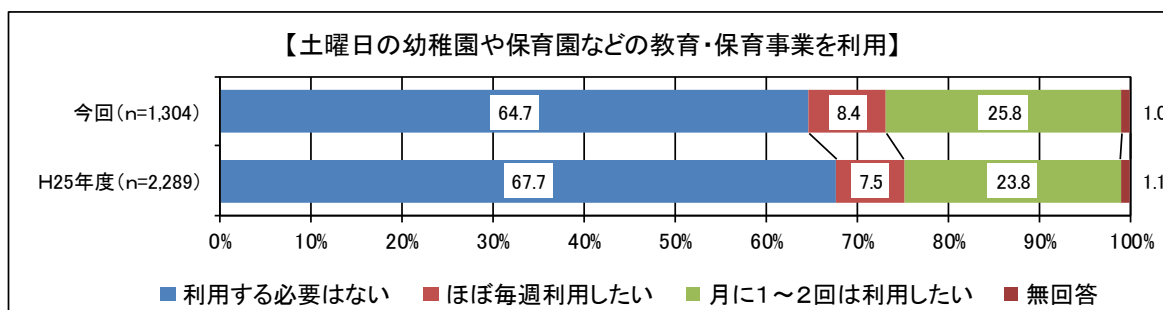
6 土曜日・休日や夏休みなどでの「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

問 21 土曜日と日曜日・祝日に、定期的な幼稚園や保育園などの教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）

(1) 土曜日の幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用希望

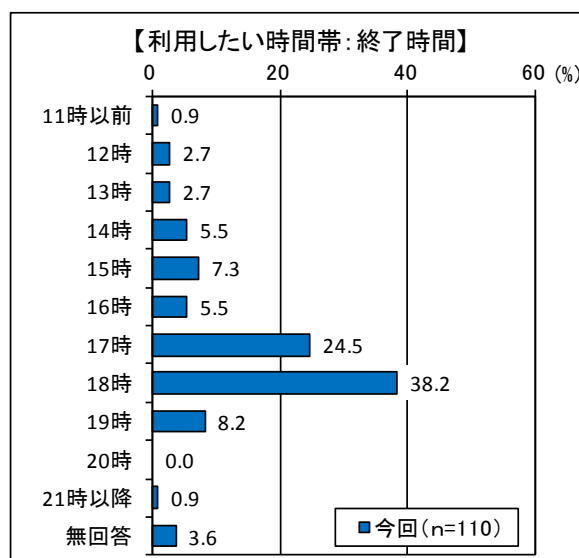
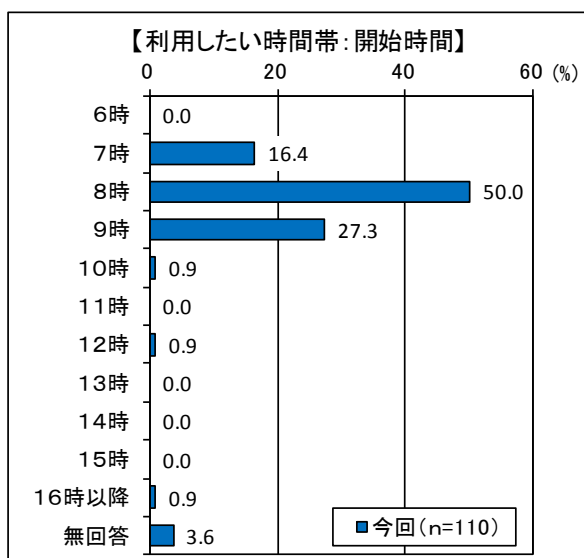
土曜日の幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用希望については、「利用する必要はない」64.7%が多数を占め、次いで「月に1～2回は利用したい」が25.8%、「ほぼ毎週利用したい」が8.4%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

幼稚園や保育園などの教育保育事業を定期的に“利用している”方や、母親の“就労意向が高い（すぐにでも就労したい）”方で利用意向が高くなっています。



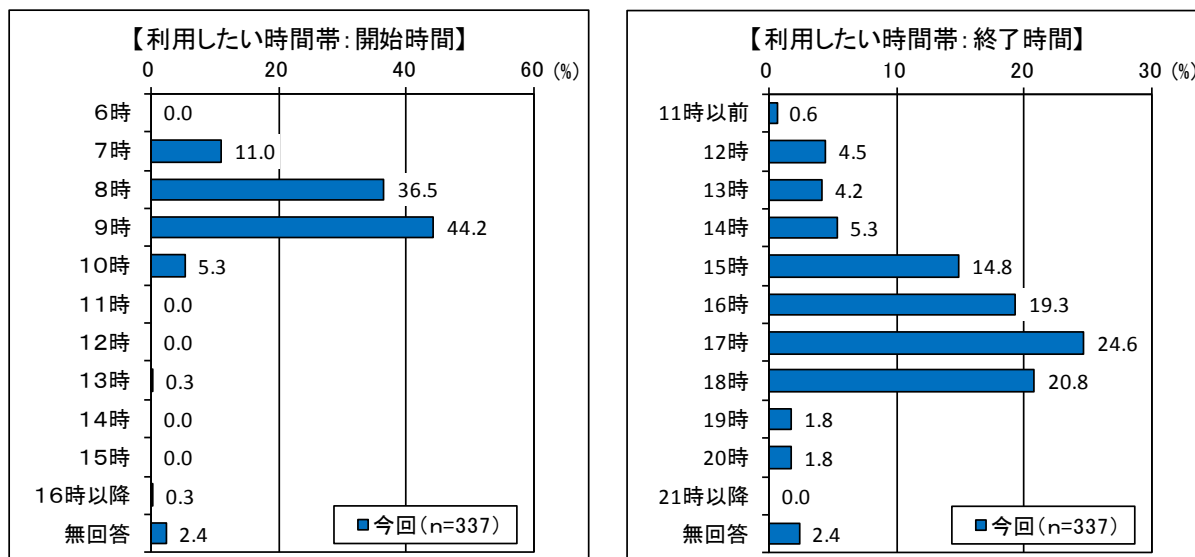
【「2 ほぼ毎週利用したい」】

“ほぼ毎週”利用したい利用開始時間は、「8時」が50.0%で最も比率が高く、次いで「9時」が27.3%、「7時」が16.4%であり、利用終了時間は、「18時」が38.2%で最も比率が高く、次いで「17時」が24.5%、「19時」が8.2%などとなっています。



【「3 月に1～2回は利用したい」】

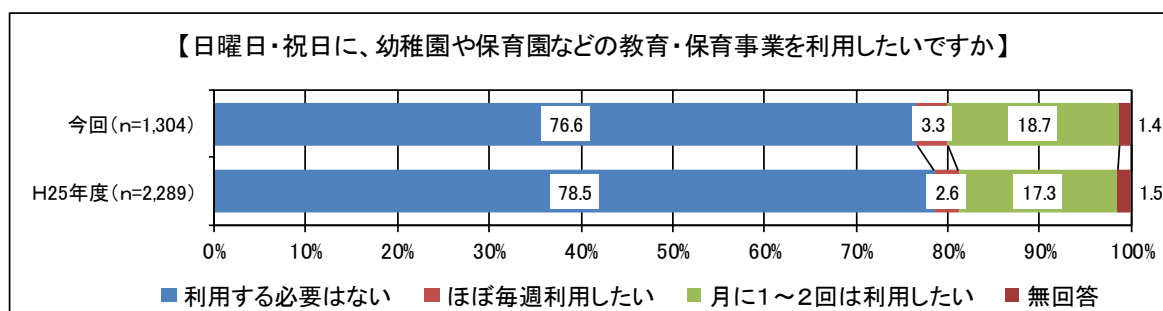
“月に1～2回”は利用したい利用開始時間は、「9時」が44.2%で最も比率が高く、次いで「8時」が36.5%、「7時」が11.0%であり、利用終了時間は、「17時」が24.6%で最も比率が高く、次いで「18時」が20.8%、「16時」が19.3%、「15時」が14.8%などとなっています。



(2) 日曜日・祝日の幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用希望

日曜日・祝日の幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用希望については、「利用する必要はない」76.6%が多数を占め、次いで「月に1～2回は利用したい」が18.7%、「ほぼ毎週利用したい」が3.3%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

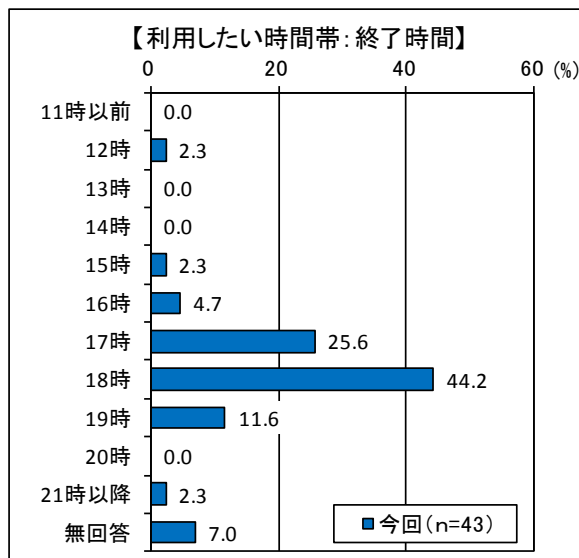
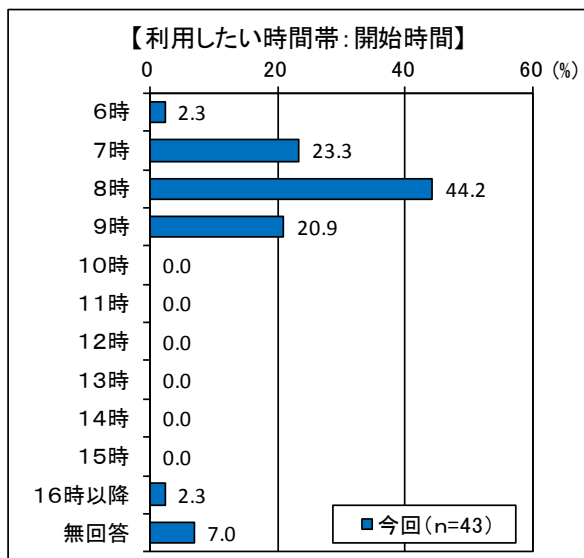
幼稚園や保育園などの教育保育事業を定期的に“利用している”方で比率が高くなっています。



【就学前児童】

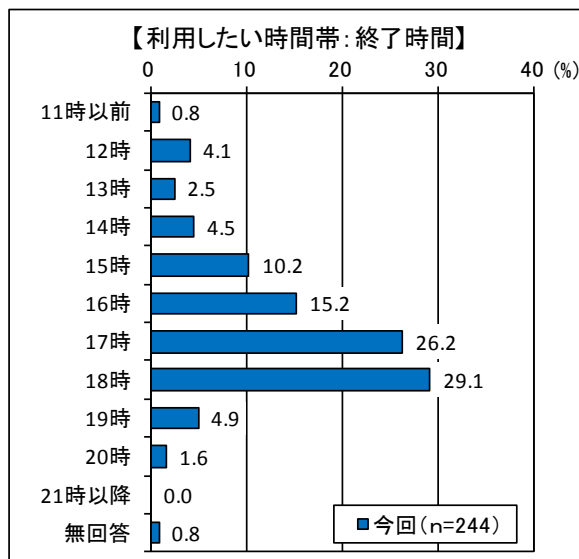
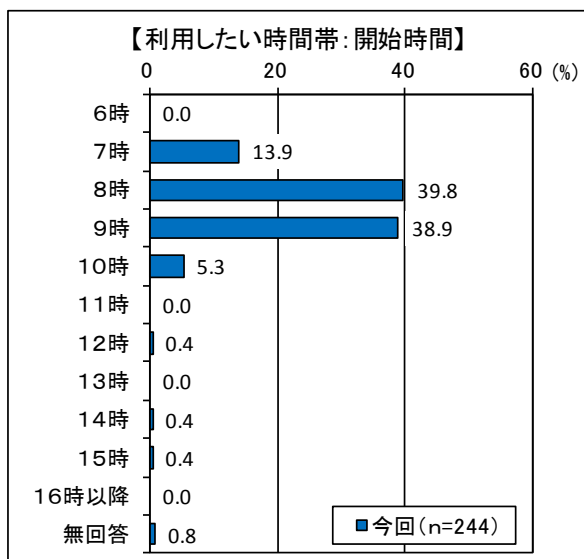
【「2 ほぼ毎週利用したい」】

“ほぼ毎週” 利用したい利用開始時間は、「8時」が44.2%で最も比率が高く、次いで「7時」が23.3%、「9時」が20.9%であり、利用終了時間は、「18時」が44.2%で最も比率が高く、次いで「17時」が25.6%、「19時」が11.6%などとなっています。



【「3 月に1～2回は利用したい」】

“月に1～2回” は利用したい利用開始時間は、「8時」が39.8%で最も比率が高く、次いで「9時」が38.9%、「7時」が13.9%であり、利用終了時間は、「18時」が29.1%で最も比率が高く、次いで「17時」が26.2%、「16時」が15.2%、「15時」が10.2%などとなっています。

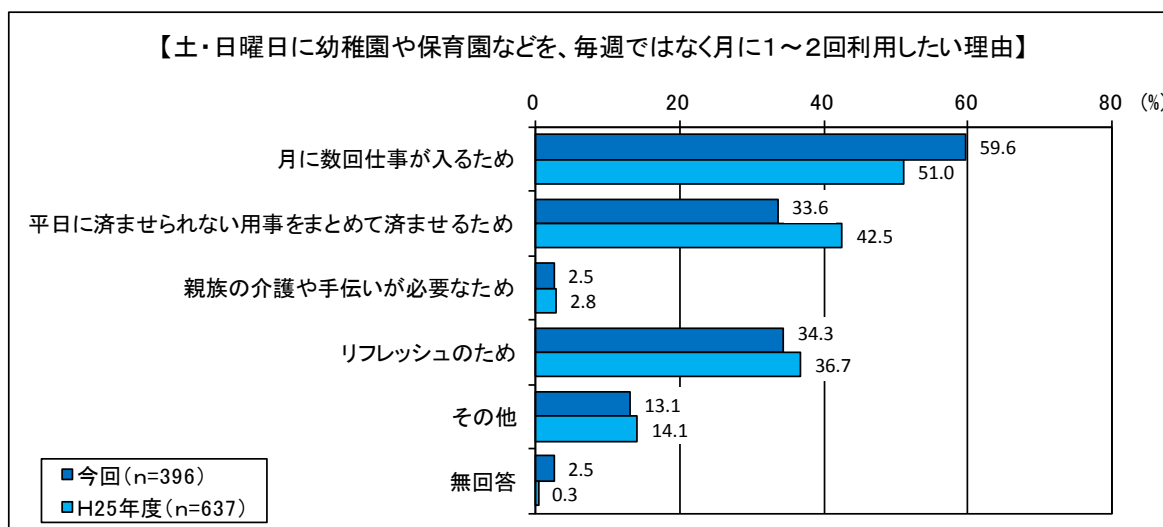


問 21 の(1)もしくは(2)で、「3. 月に1～2回は利用したい」に○をつけた方のみ回答

問 21-1 土・日曜日に幼稚園や保育園などを、毎週ではなく月に1～2回利用したい理由

“月に1～2回”は利用したい理由については、「月に数回仕事が入るため」が59.6%で最も比率が高く、次いで「リフレッシュのため」(34.3%)、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(33.6%)などとなっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

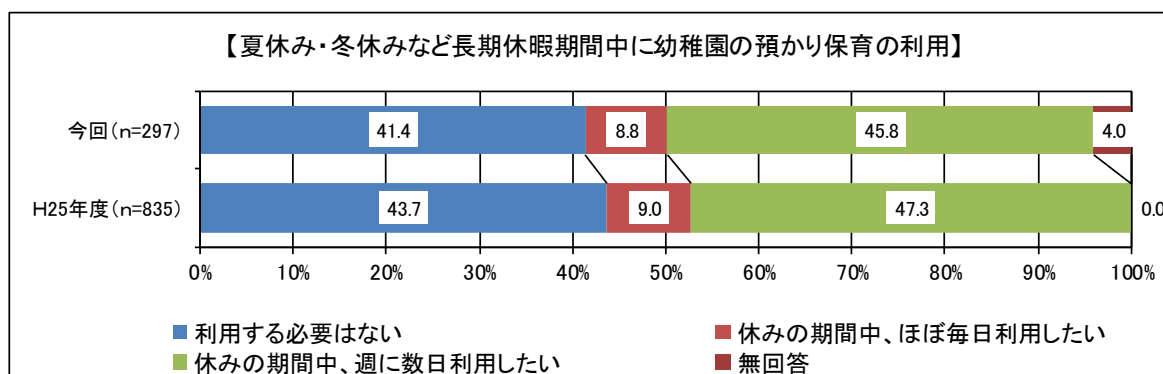
教育・保育事業の利用の有無による差は少ないと考えられます。



「幼稚園」を利用されている方のみ回答

問 22 夏休み・冬休みなど長期休暇期間中に幼稚園の預かり保育の利用希望

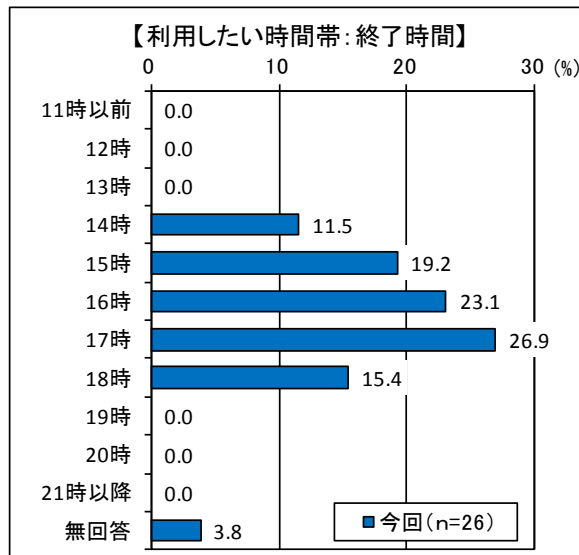
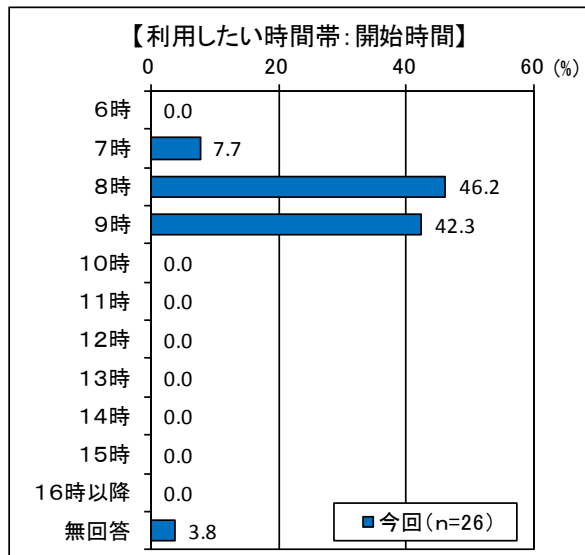
夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の幼稚園や保育園などの教育・保育事業を利用希望については、「休みの期間中、週に数日利用したい」45.8%で最も比率が高く、次いで「利用する必要はない」が41.4%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が8.8%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



【就学前児童】

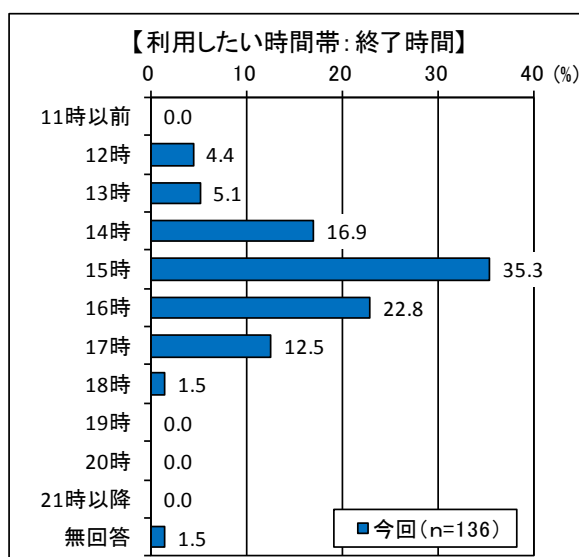
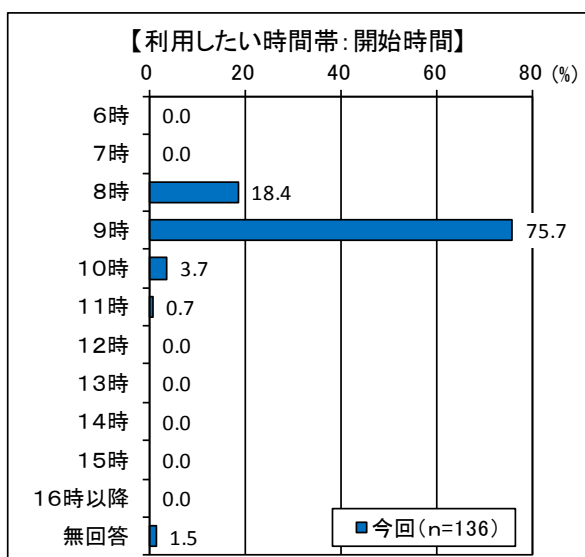
【「2 ほぼ毎週利用したい」】

“ほぼ毎週” 利用したい利用開始時間は、「8時」が46.2%で最も比率が高く、次いで「9時」が42.3%、「7時」が7.7%であり、利用終了時間は、「17時」が26.9%で最も比率が高く、次いで「16時」が23.1%、「15時」が19.2%などとなっています。



【「3 月に1～2回は利用したい」】

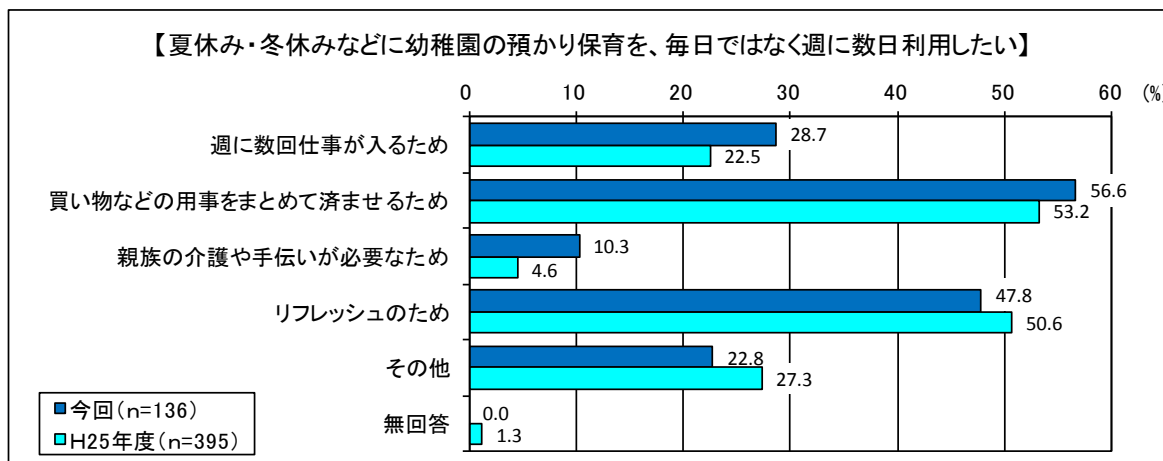
“月に1～2回” は利用したい利用開始時間は、「9時」が75.7%で多数を占め、次いで「8時」が18.4%、「10時」が3.7%であり、利用終了時間は、「15時」が35.3%で最も比率が高く、次いで「16時」が22.8%、「14時」が16.9%、「17時」が12.5%などとなっています。



問 22 で、「3. 週に数日利用したい」に○をつけた方のみ回答

問 22-1 夏休み・冬休みなどに幼稚園の預かり保育を、毎日ではなく週に数日利用したい理由

“週に数日”利用したい理由については、「買い物などの用事をまとめて済ませるため」が56.6%で最も比率が高く、次いで「リフレッシュのため」(47.8%)、「週に数回仕事が入るため」(28.7%) などとなっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

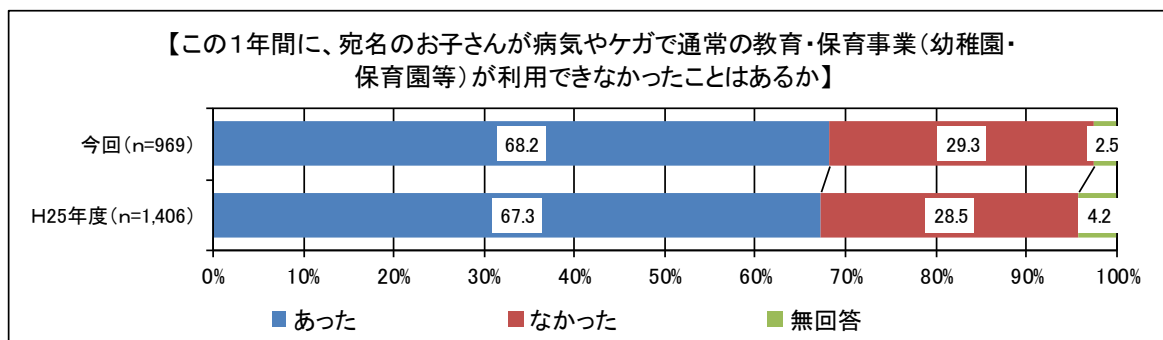


7 お子さんの病気の際の対応について

(平日に教育・保育事業(幼稚園・保育園など)を利用する方のみ)

問 23 病気やケガで通常の教育・保育事業(幼稚園・保育園等)が利用できなかったことの有無

病気やケガで通常の教育・保育事業(幼稚園・保育園等)が利用できなかったかについては、「あった」が68.2%、「なかった」は29.3%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



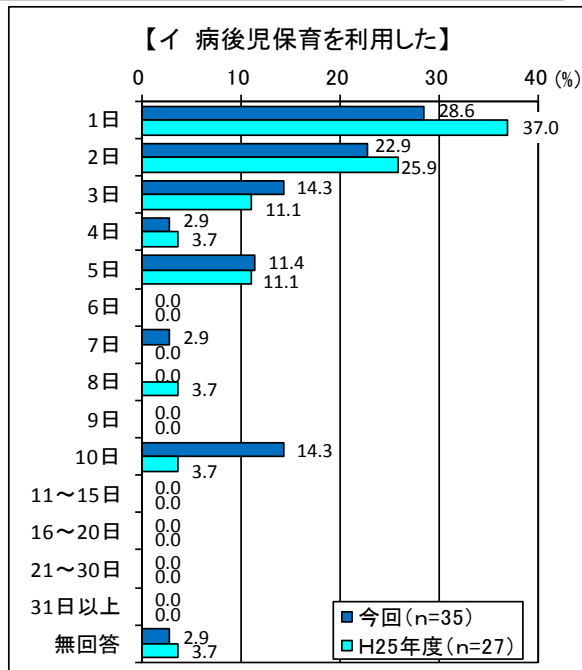
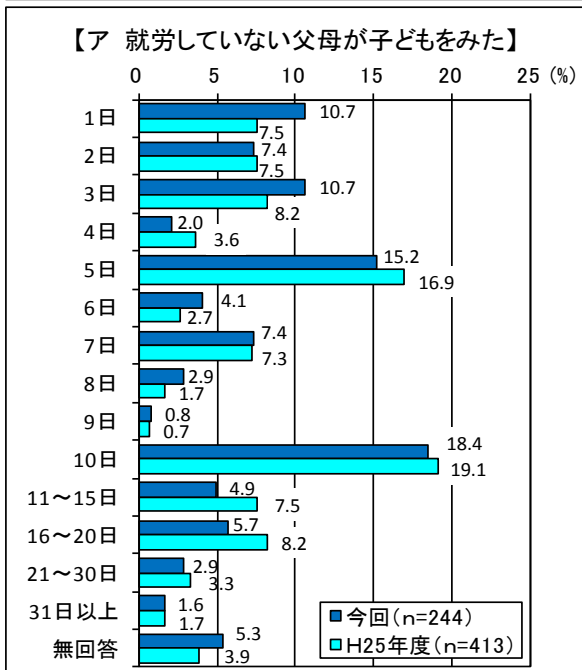
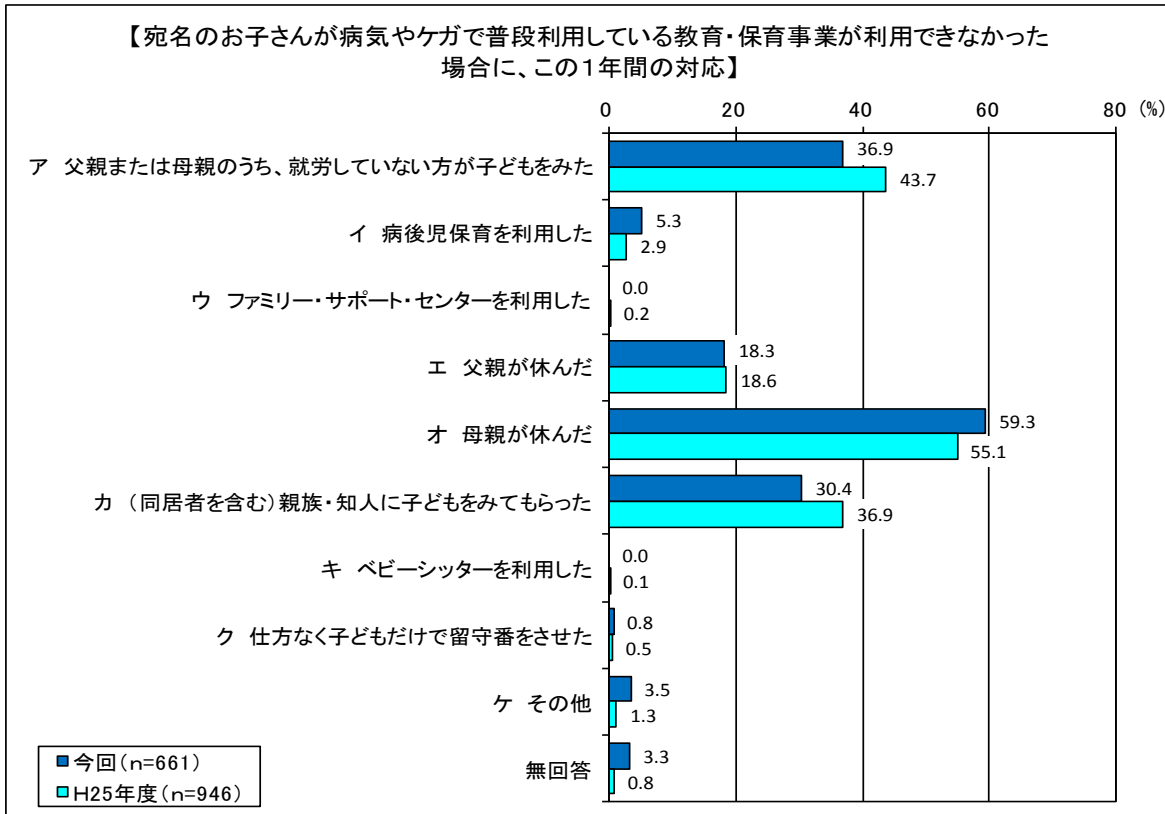
【就学前児童】

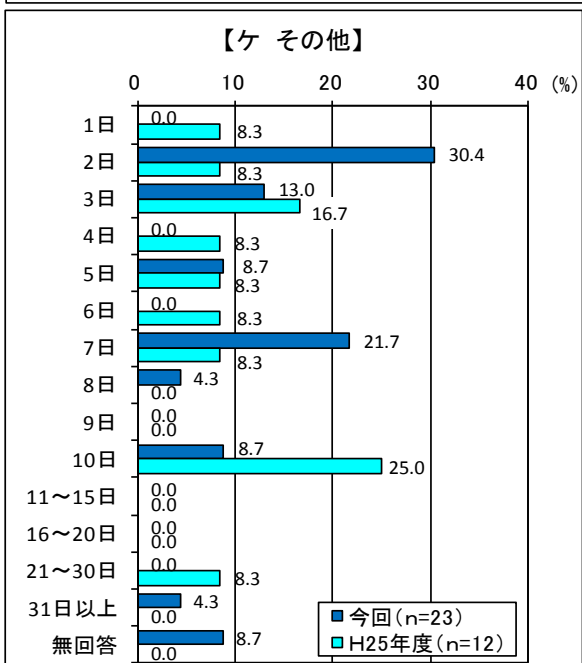
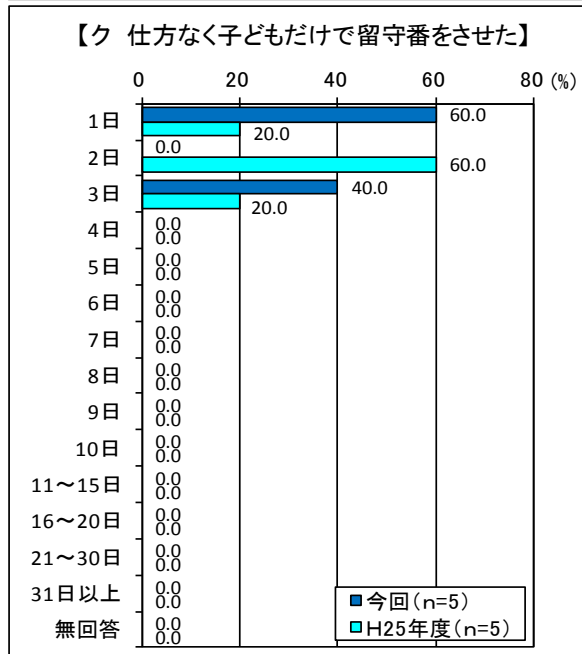
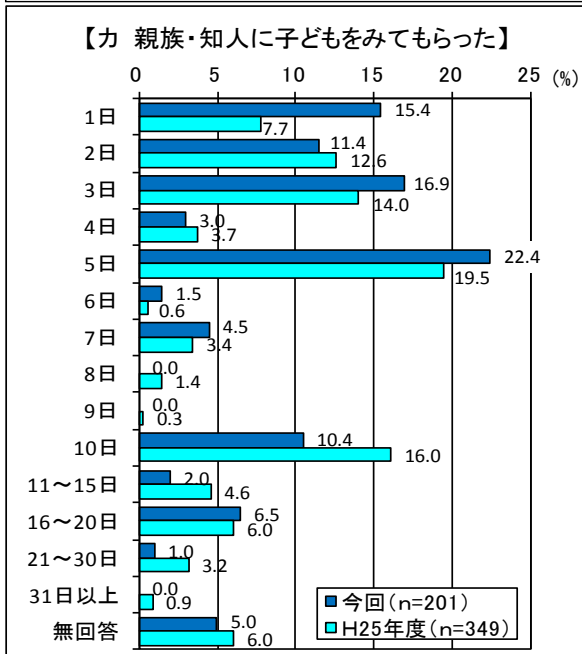
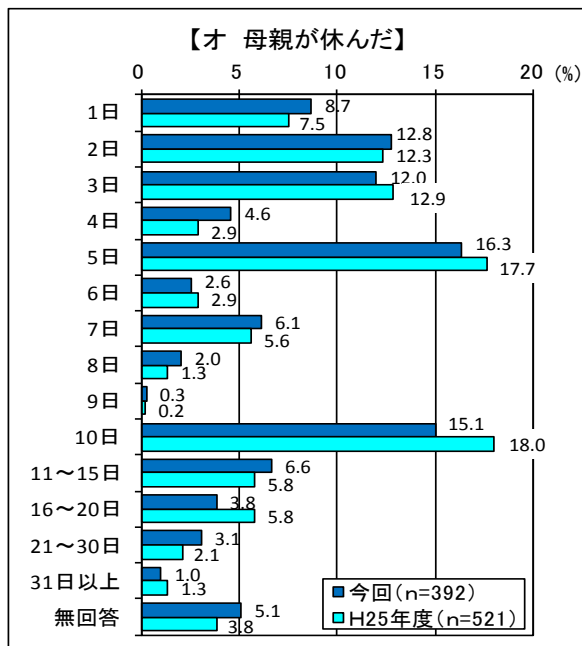
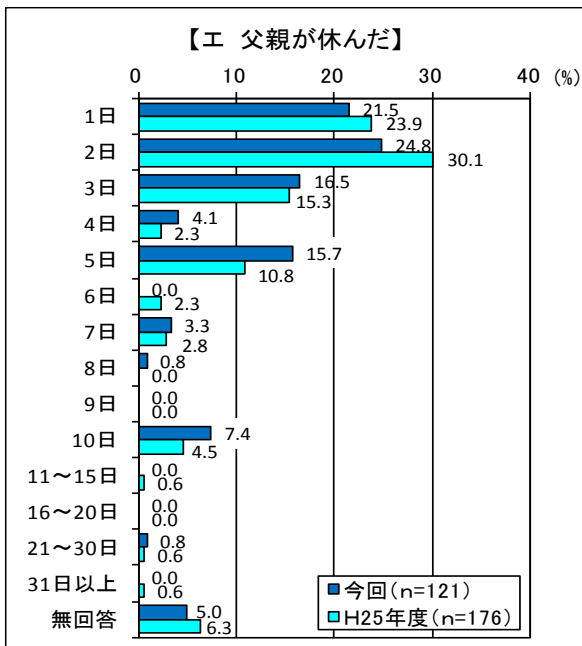
問 23-1 病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法（この1年間）

（半日程度の対応の場合も1日とカウント）

病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった場合は、「オ 母親が休んだ」が59.3%で最も比率が高く、「ア 父親または母親のうち、就労していない方が子どもをみた」（36.9%）、「カ（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（30.4%）となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

「あった」は、0歳（87.1%）、5歳（66.8%）など、子どもの“年齢が低い”ほど、比率が高い傾向が見受けられます。





※「ウ」、「キ」は、回答者が「0」であったため、グラフは表記していません。

【就学前児童】

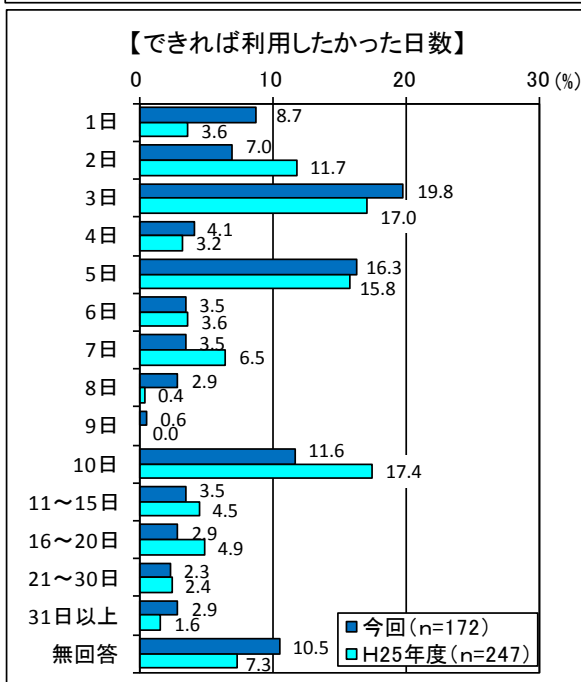
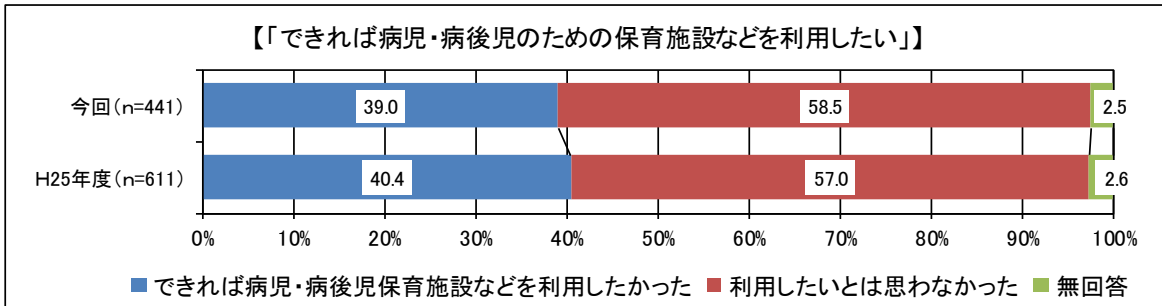
問 23-1 で「エ。」～「ケ。」のいずれかに回答した方

問 23-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したい」と思ったか。

病児・病後児保育施設の利用意向については、「利用したいとは思わなかった」が 58.5%、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したかった」は 39.0%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

「できれば病児・病後児保育施設などを利用したかった」は、日常定期的に面倒を「みてもらえる人はいない」で比率が高くなっています。

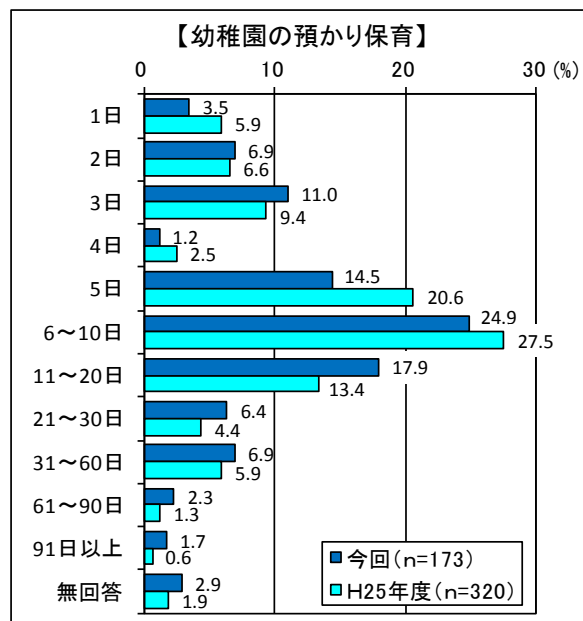
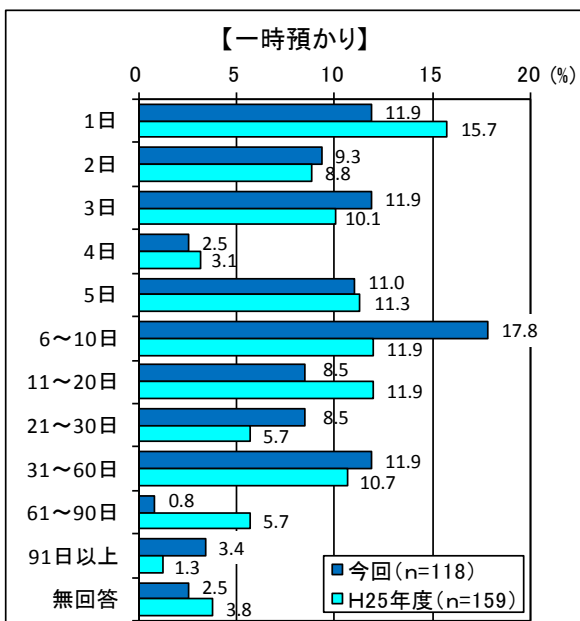
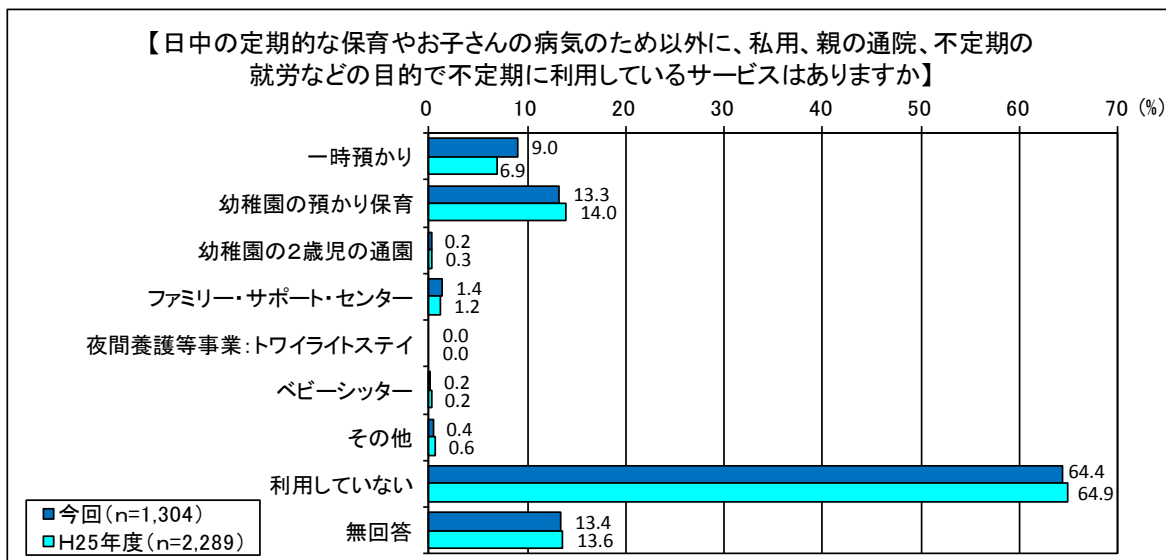
配偶者の有無・年収・子どもの学年による傾向は見受けられません。



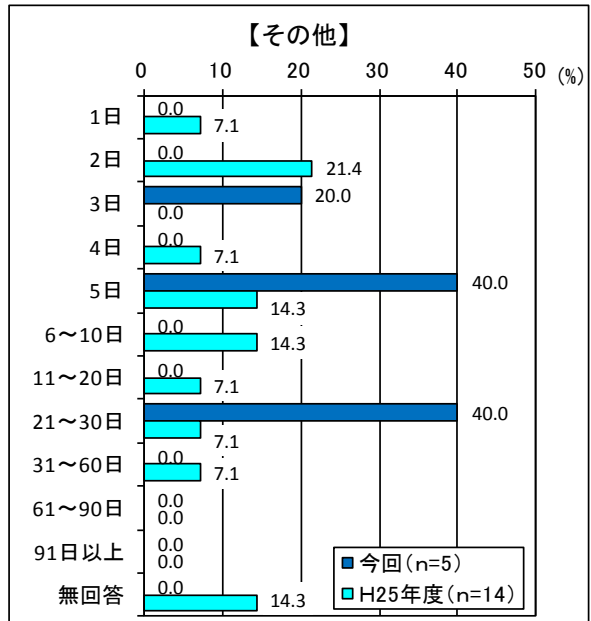
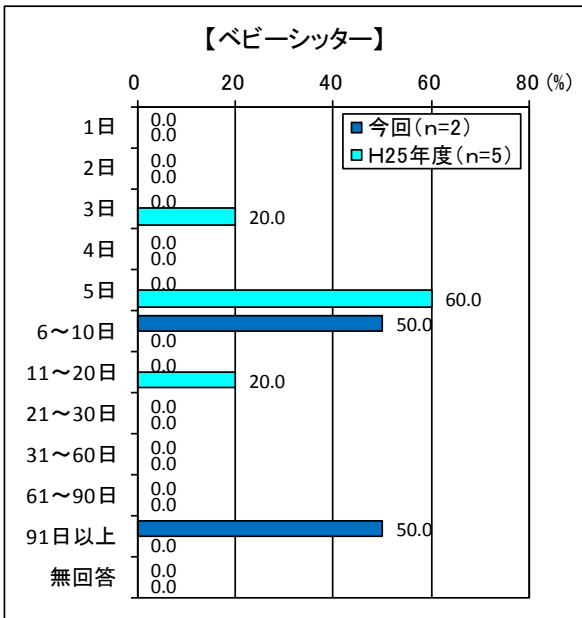
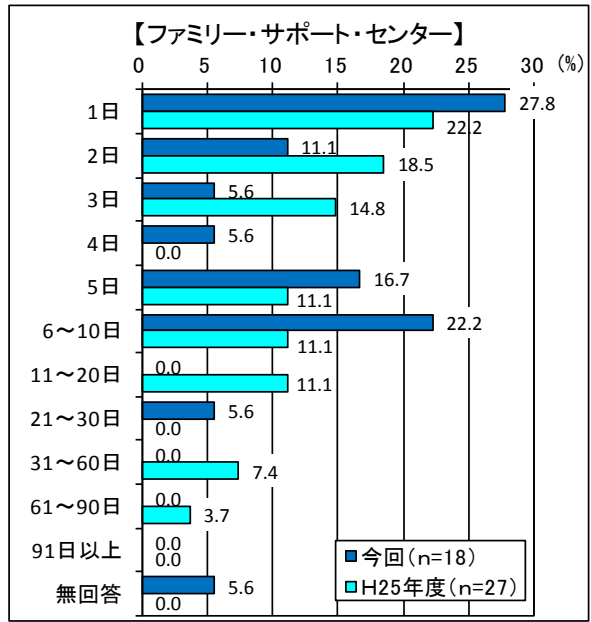
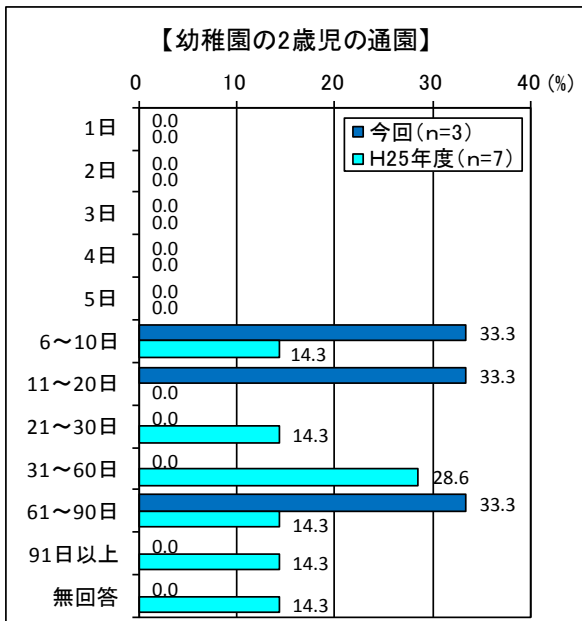
8 一時預かりなどの不定期の保育利用などについて

問 24 私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用しているサービス

私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期に利用しているサービスについては、「利用していない」が64.4%で多数を占め、次いで「幼稚園の預かり保育」(13.3%)、「一時預かり」(9.0%)となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



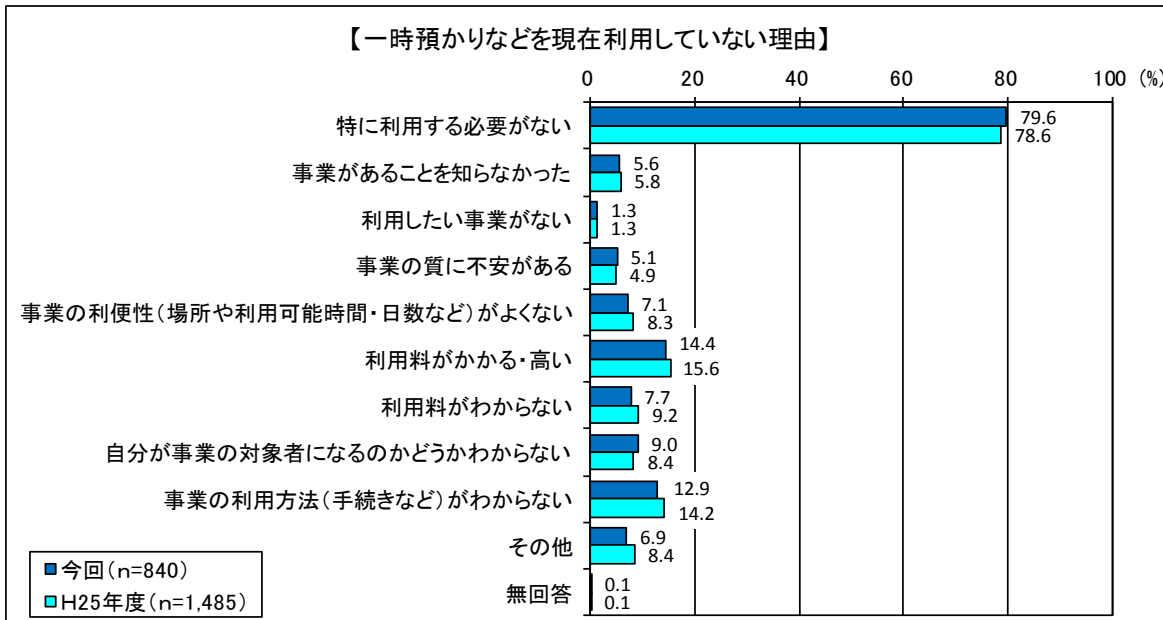
【就学前児童】



問 24 で「8. 利用していない」と回答した方

問 24-1 一時預かりなどを現在利用していない理由

一時預かりなどを現在利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が 79.6% で多数を占め、次いで「利用料がかかる・高い」(14.4%)、「事業の利用方法(手続きなど)がわからない」(12.9%) となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



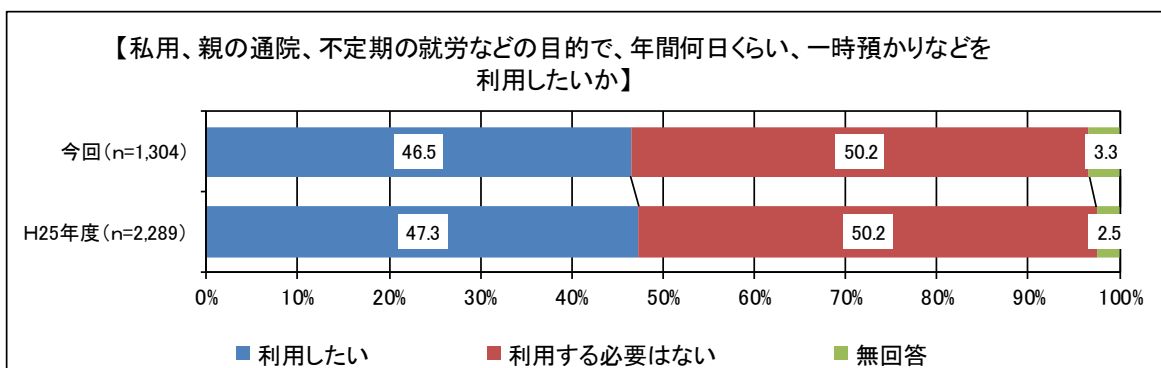
すべての方

問 25 私用、親の通院、不定期の就労などの目的の利用希望

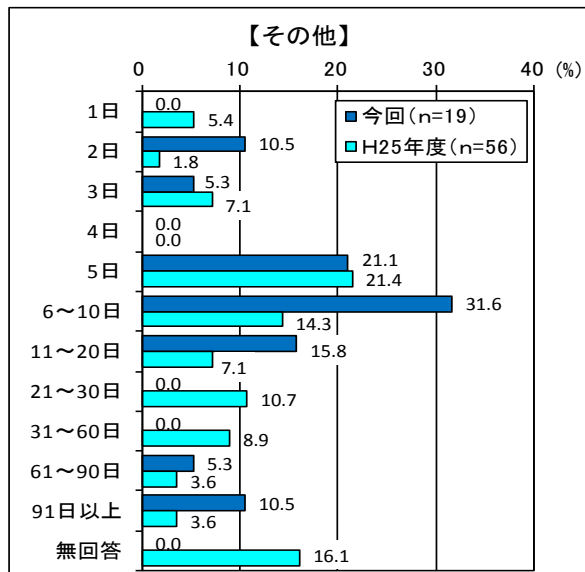
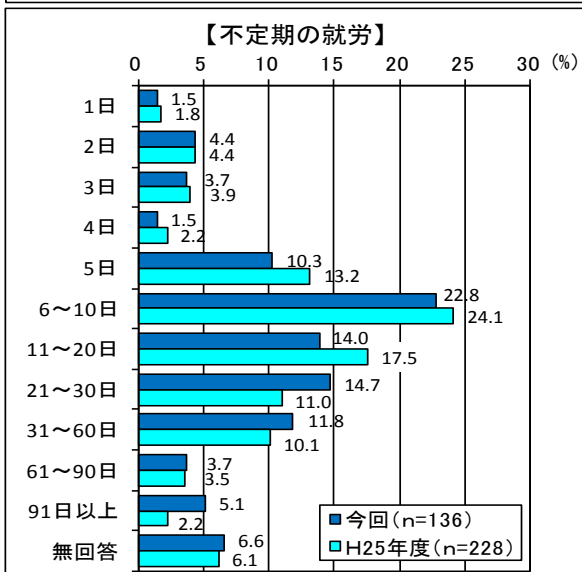
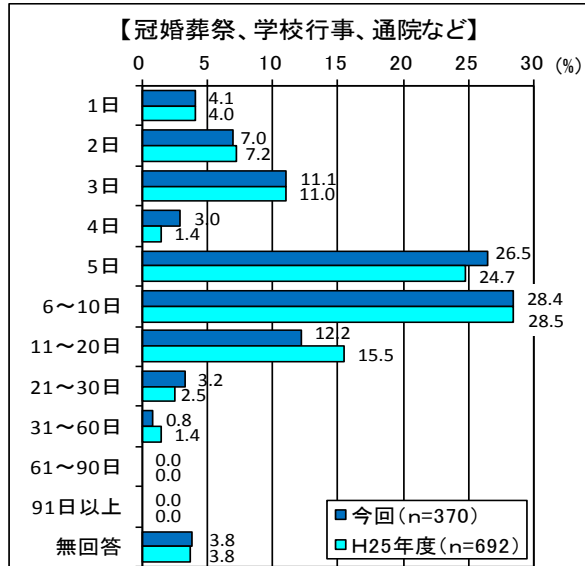
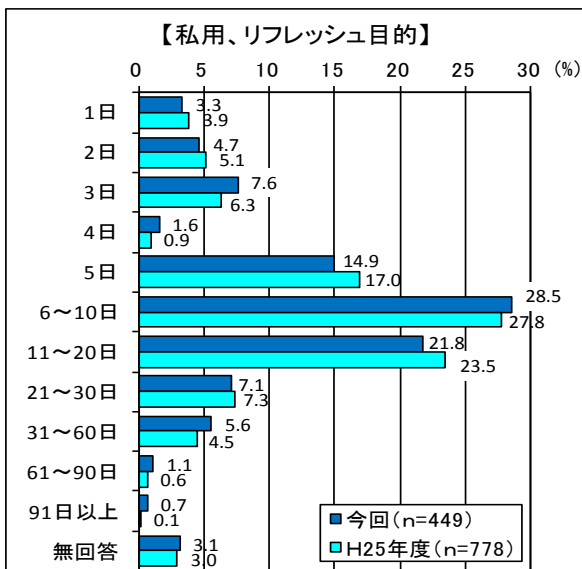
私用、親の通院、不定期の就労などの目的の一時預かりの利用希望については、「利用する必要はない」が 50.2% で「利用したい」(46.5%) をわずかに上回っており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

問 17 の教育・保育事業の定期的利用の有無別にみると、「利用したい」は“利用している”が 46.9%、“利用していない”が 45.6% と差は少なくなっています。

各地区とも同様の傾向にありますが、「利用したい」は“本庁地区”が 49.4% とやや高く、“北部地区”は 42.8% とやや低くなっています。



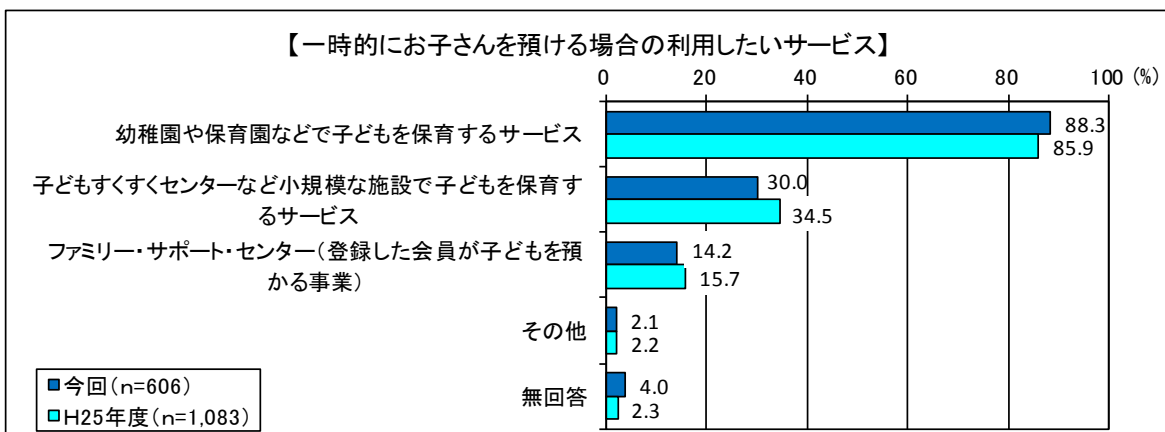
【就学前児童】



問25で「1. 利用したい」に○をつけた方

問25-1 一時的預かりの利用希望

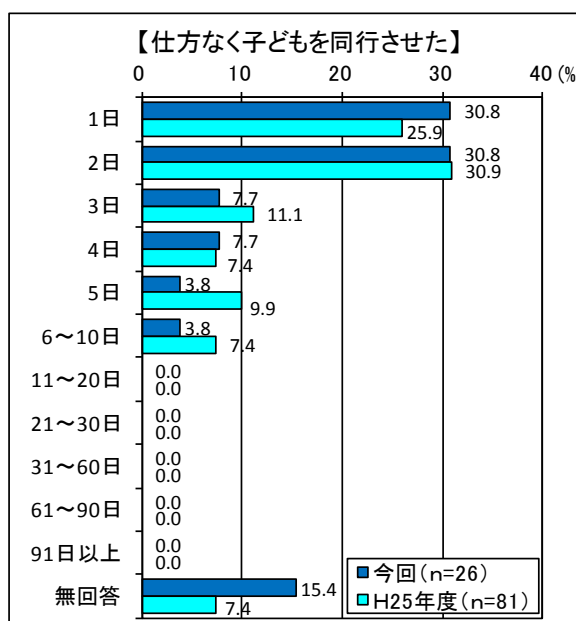
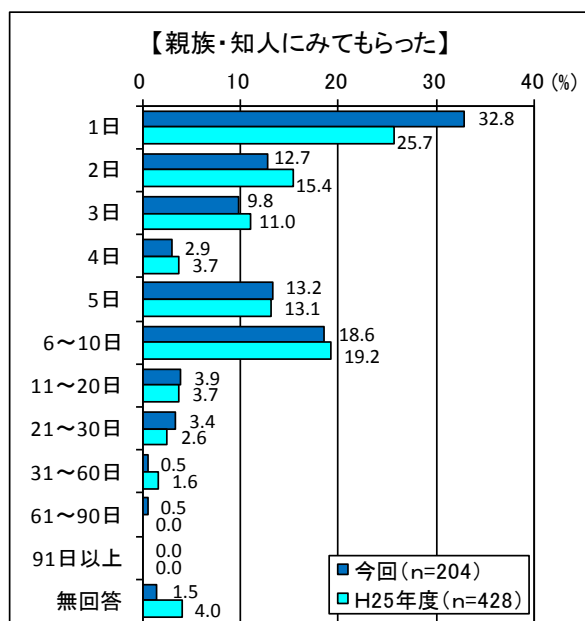
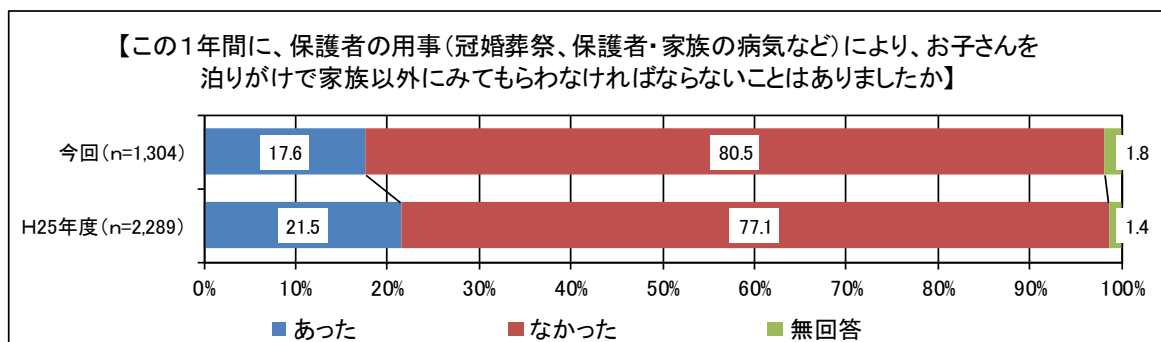
一時的預かりの利用希望については、「幼稚園や保育園などで子どもを保育するサービス」は88.3%と多数を占め、「子どもすくすくセンターなど小規模な施設で子どもを保育するサービス」(30.1%)、「ファミリー・サポート・センター(登録した会員が子どもを預かる事業)」(14.2%)となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



すべての方

問 26 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならない状況（この1年間）

子どもを泊りがけで家族以外の人にみてもらったことがあったかについては、「なかった」が80.5%と多数を占め、「あった」は17.6%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。



（「短期入所生活援護事業（ショートステイ）を利用した」、「ファミリー・サポート・センターを利用した」は該当者0人）

（「仕方なく子どもだけで留守番させた」は1人、日数は無回答。）

（「その他」は4人、日数は2人が1日、2人は無回答。）

9 小学校就学後の放課後の過ごし方について

お子さんが5歳以上である方のみ回答

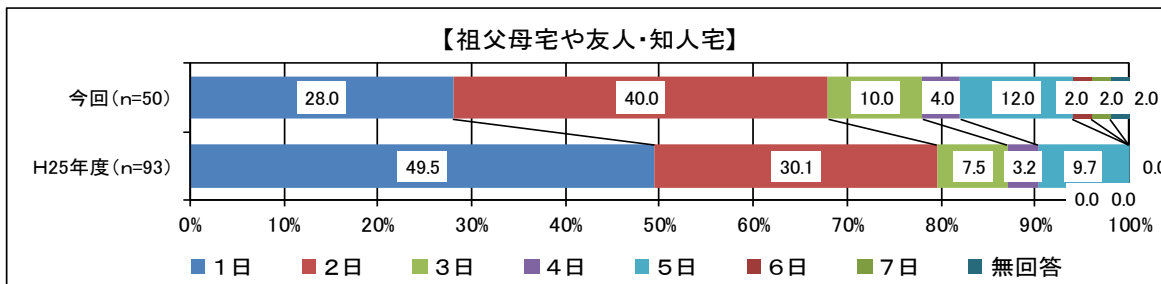
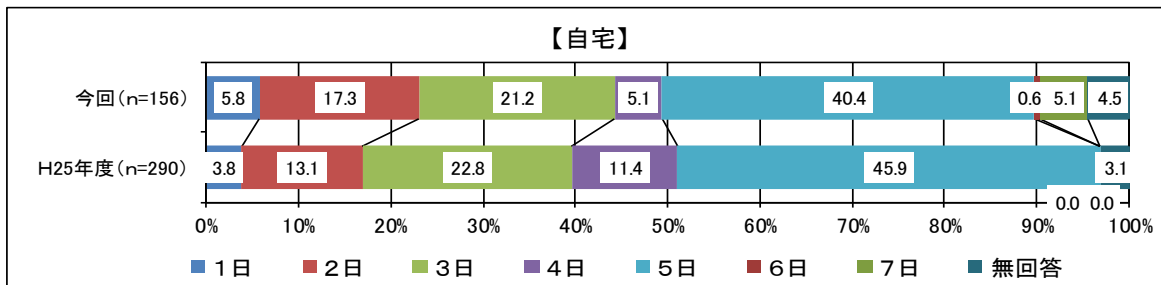
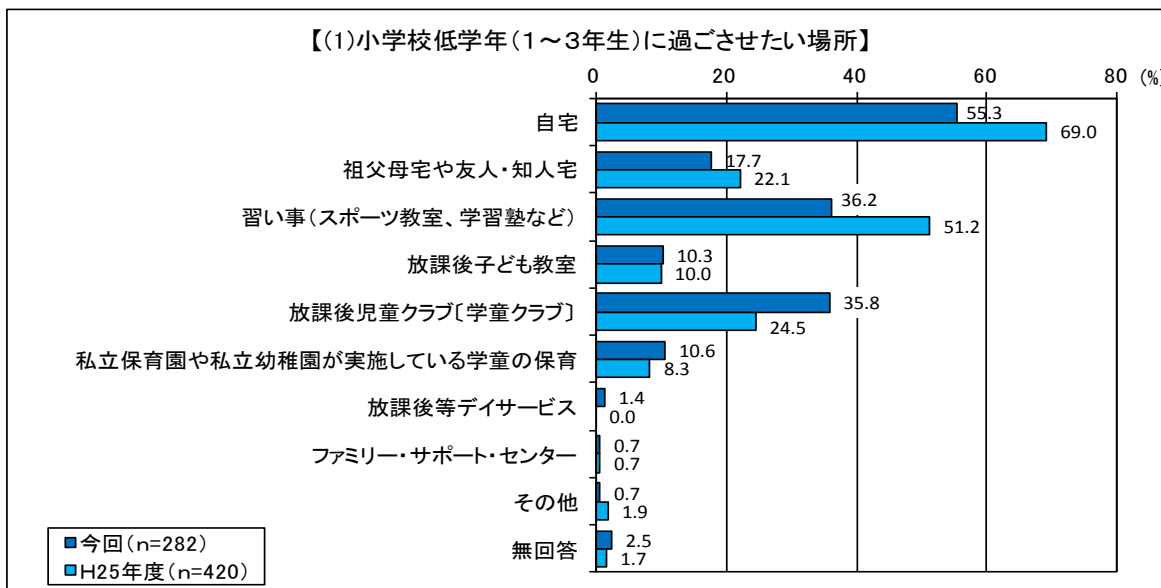
問 27 小学校に入学した後の平日の小学校終了後の時間の過ごさせたい場所

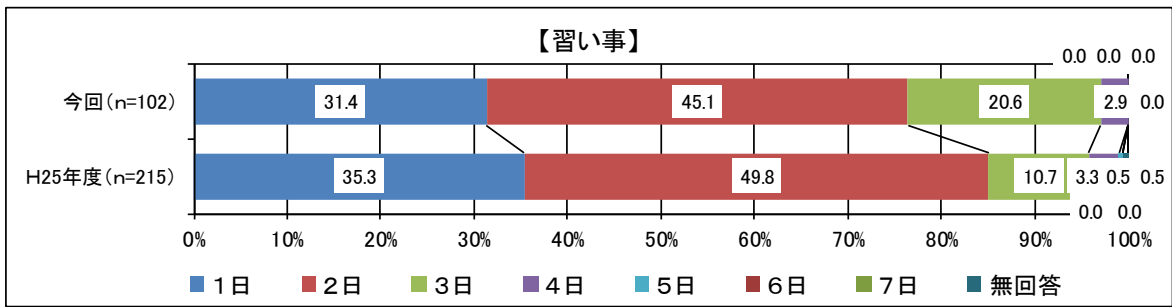
(30分以上は1時間に切り上げ)

(1) 小学校低学年（1～3年生）に過ごさせたい場所と日数

放課後（低学年（1～3年生））に過ごさせたい場所は、「自宅」が55.3%と最も比率が高く、次いで「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(36.2%)、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」(35.8%)と続いています。前回の調査と比較すると「自宅」(69.0%)や「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(51.2%)は比率が減少し、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」(24.5%)の比率は増加しています。

両親とも就労している世帯では「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」が57.2%と半数を超え、また、「私立保育園や私立幼稚園が実施している学童の保育」も17.2%と全体と比較して比率が高くなっており、一方、「自宅」(29.0%)や「習い事」(24.1%)など他の項目は比率が低くなっています。

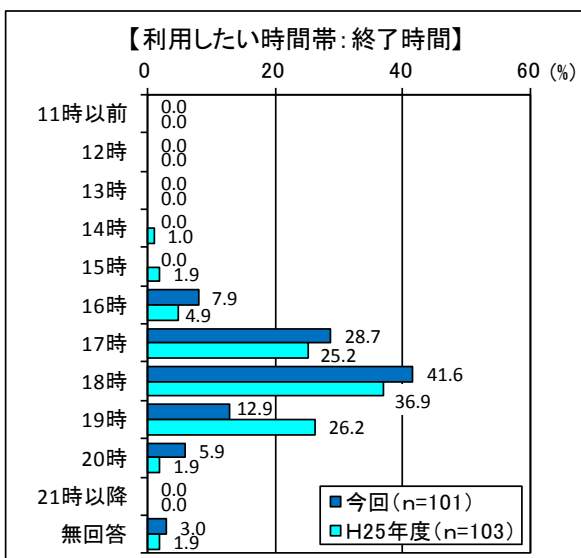
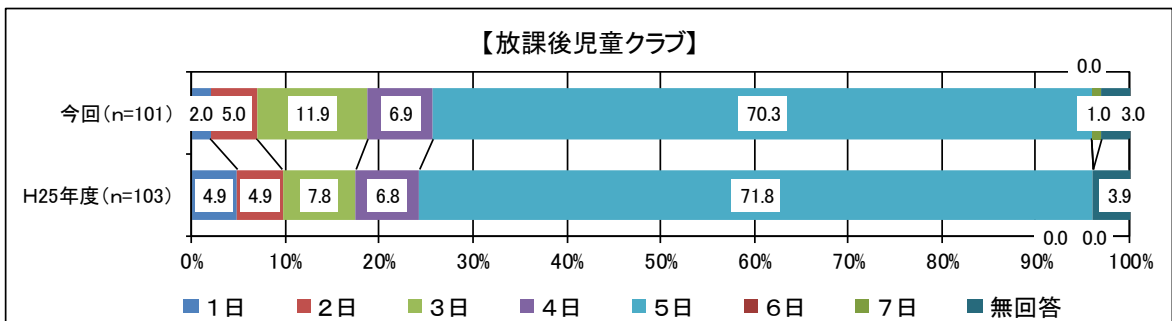
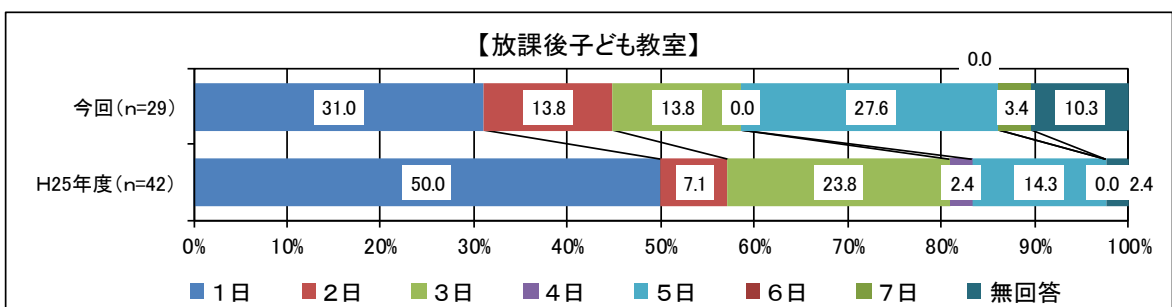




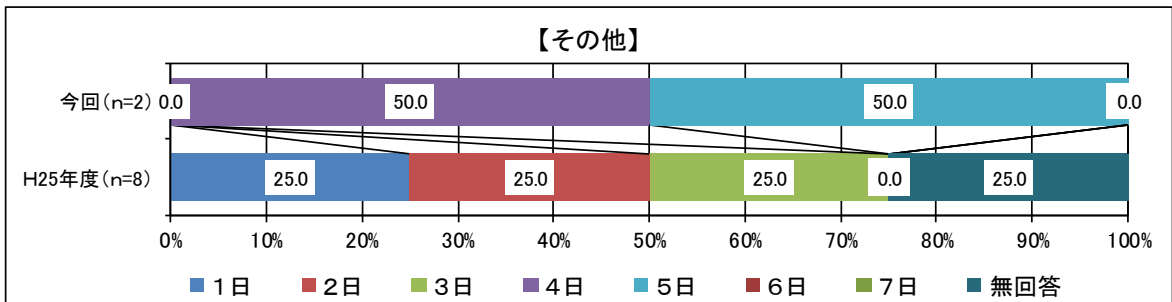
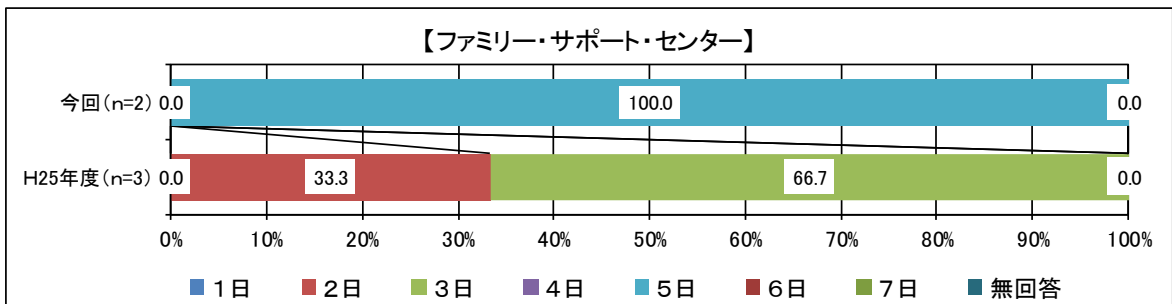
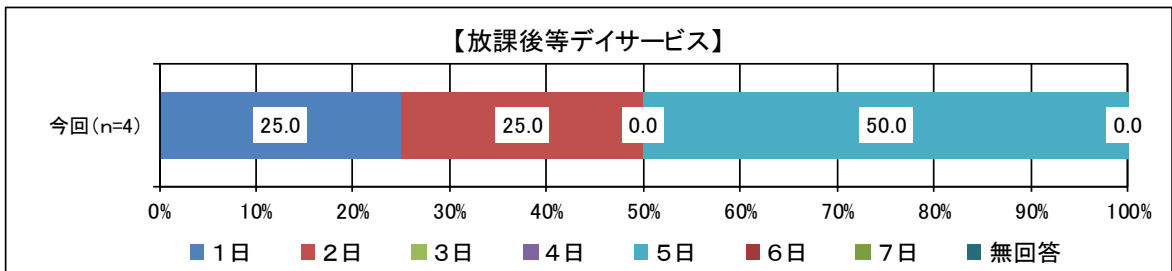
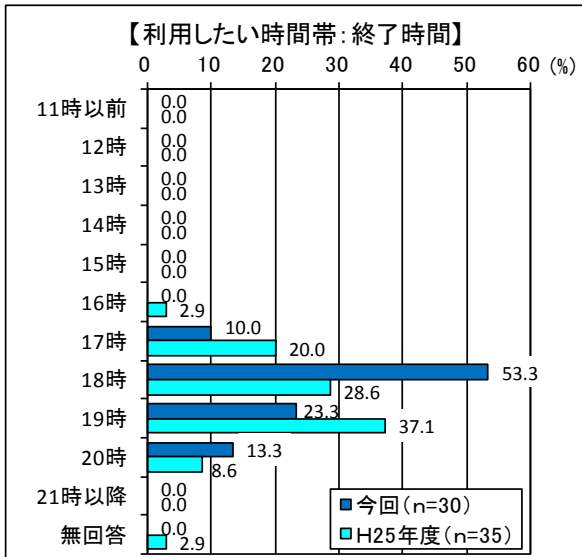
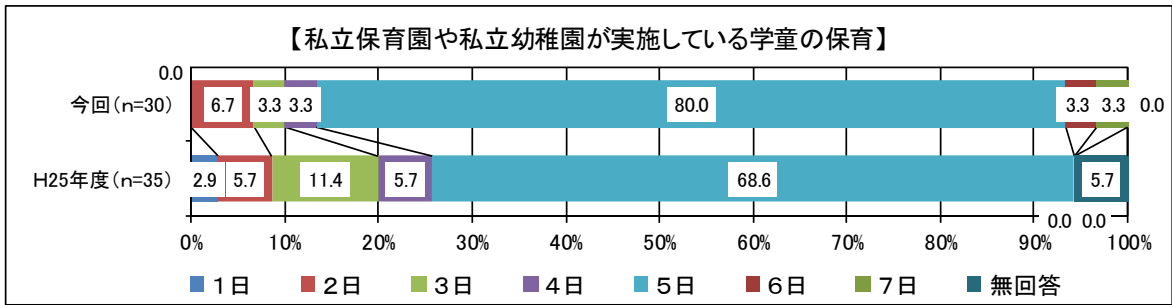
【習い事×世帯年収】

上段:人、下段:%

項目	なし	200万円未満	200~300万円未満	300~500万円未満	500~700万円未満	700~1,000万円未満	1,000~1,500万円未満	無回答	回答者数
習い事	0	4	4	16	44	25	8	1	102
	0.0	3.9	3.9	15.7	43.1	24.5	7.8	1.0	100.0



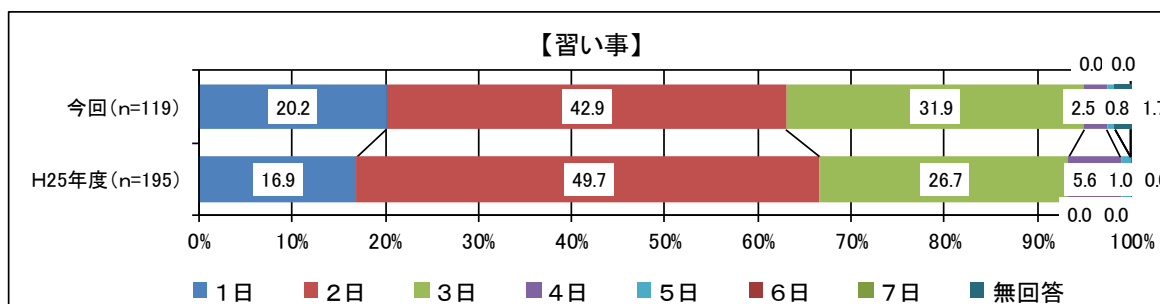
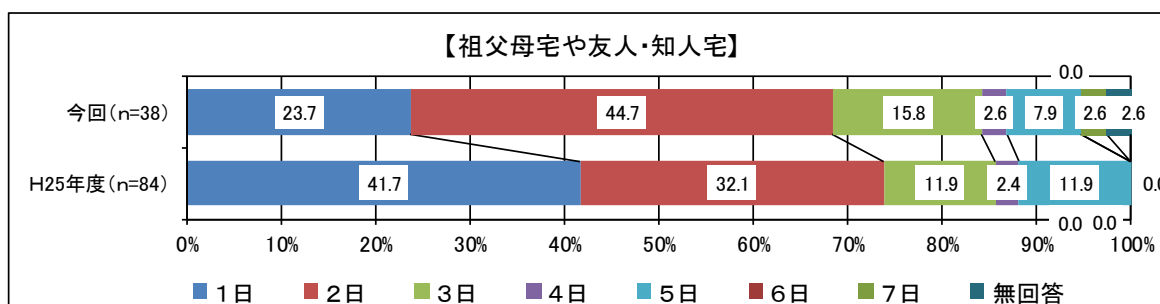
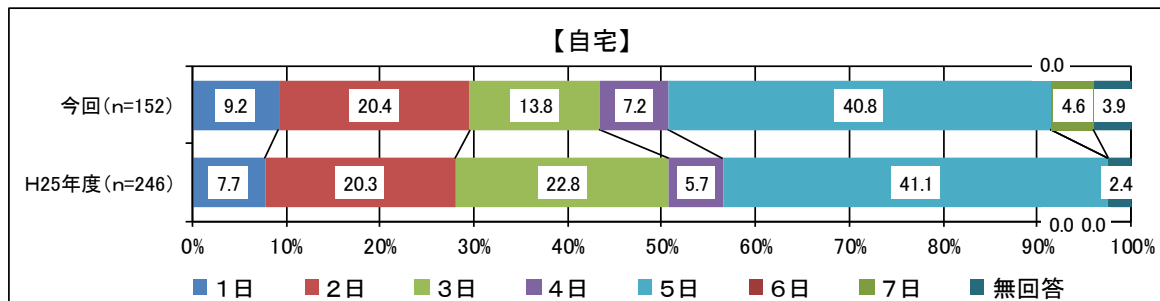
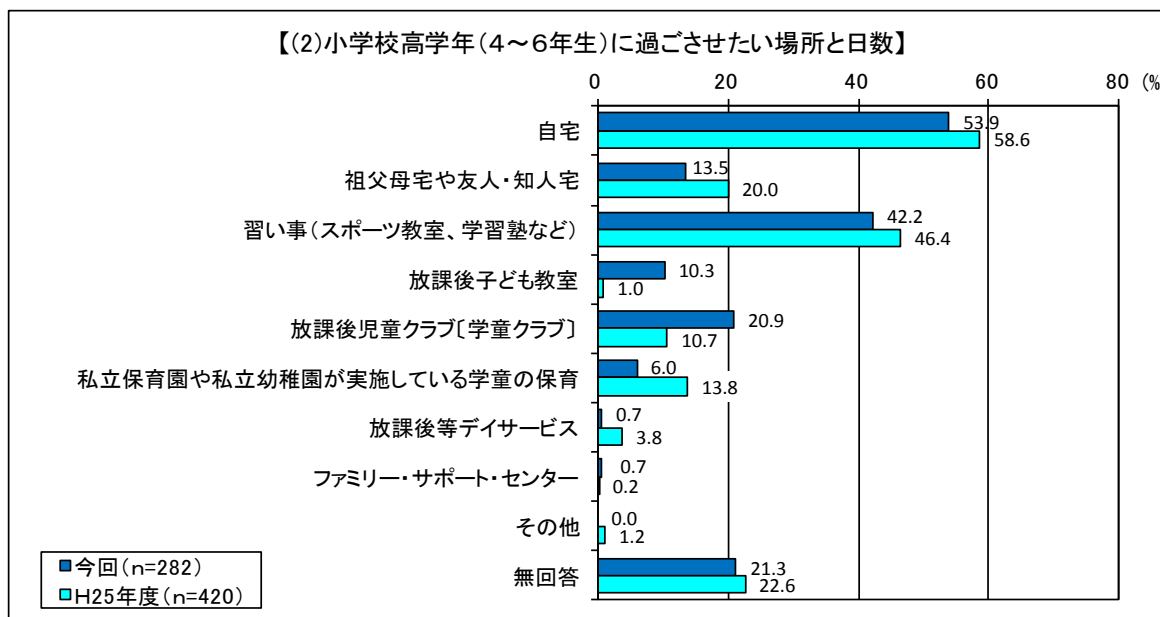
【就学前児童】



(2) 小学校高学年（4～6年生）に過ごさせたい場所と日数

放課後（高学年（4～6年生））に過ごさせたい場所は、「自宅」が53.9%と最も比率が高く、次いで「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(42.2%)、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」(20.9%)と続いています。前回の調査と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」(10.7%)や「放課後子ども教室」(1.0%)の比率が増加しています。

両親とも就労している世帯では、基本的な傾向は同様ですが、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」が32.4%と比率が高くなっています。

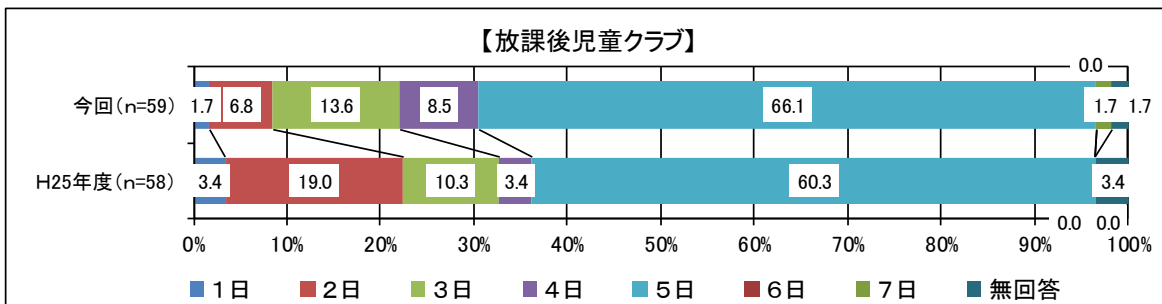
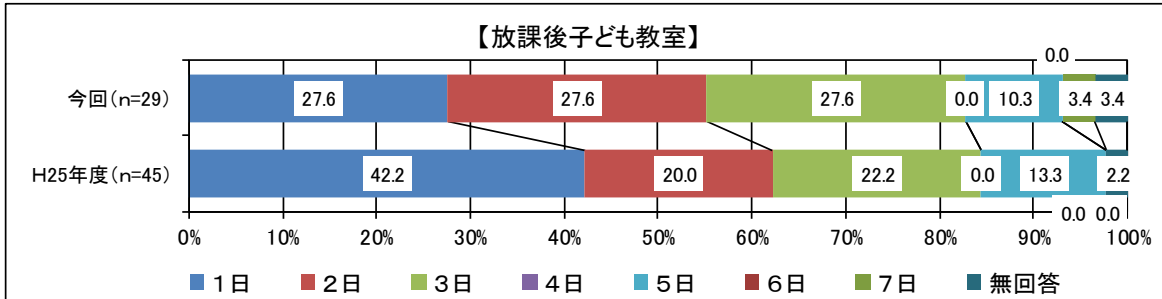


【就学前児童】

【習い事×世帯年収】

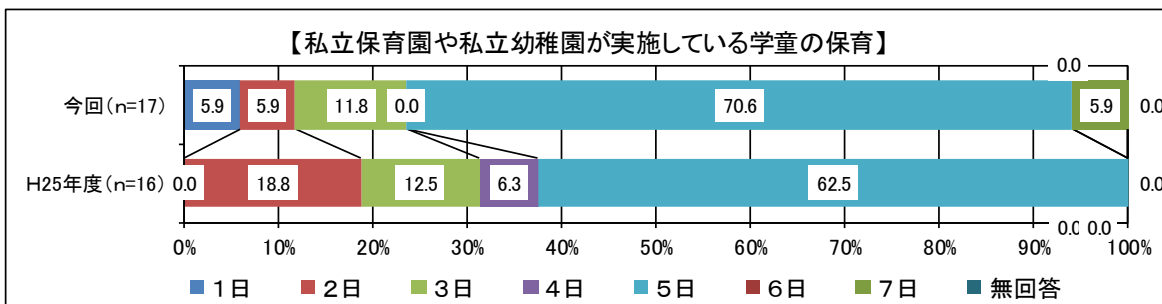
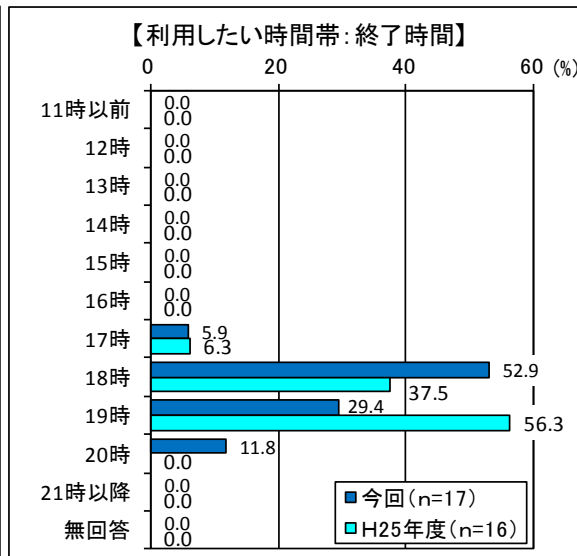
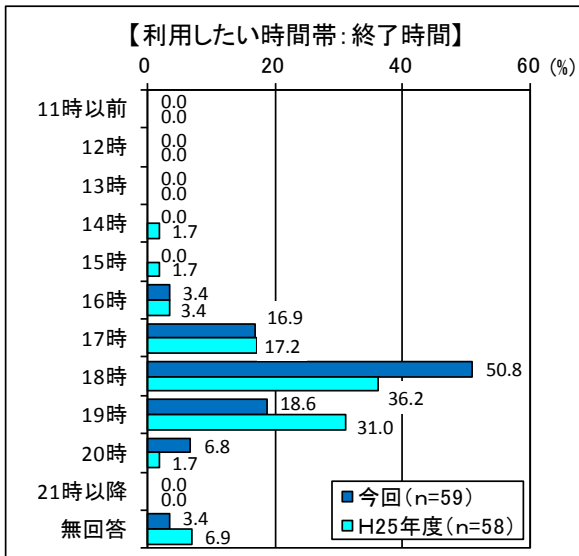
上段：人、下段：%

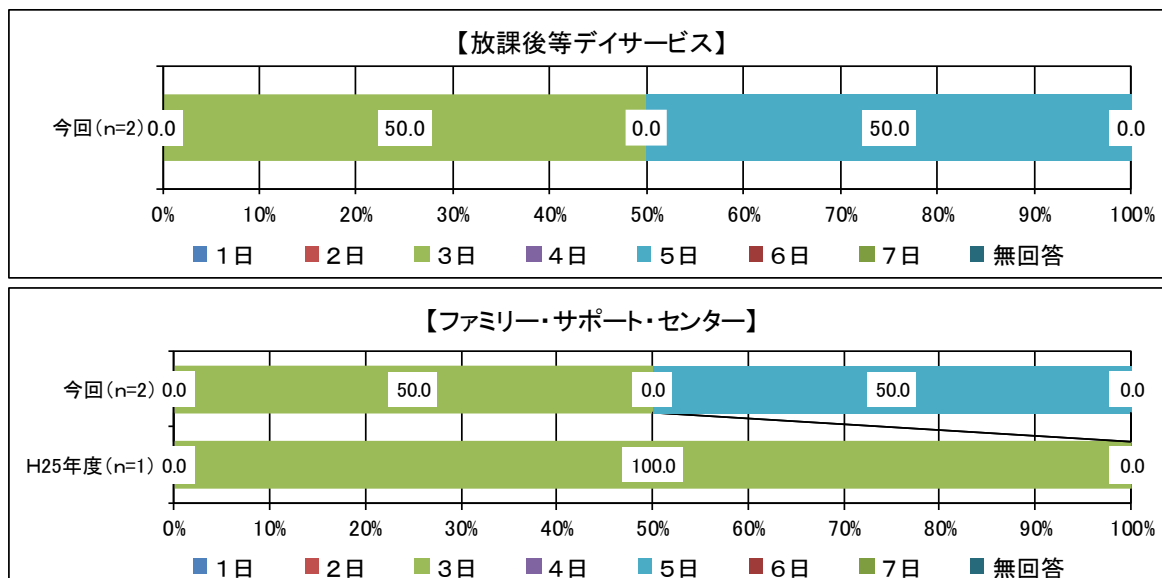
項目	なし	200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	無回答	回答者数
習い事	0	5	3	22	44	29	14	2	119
	0.0	4.2	2.5	18.5	37.0	24.4	11.8	1.7	100.0



【放課後児童クラブ】

【私立保育園や私立幼稚園が実施している学童の保育】





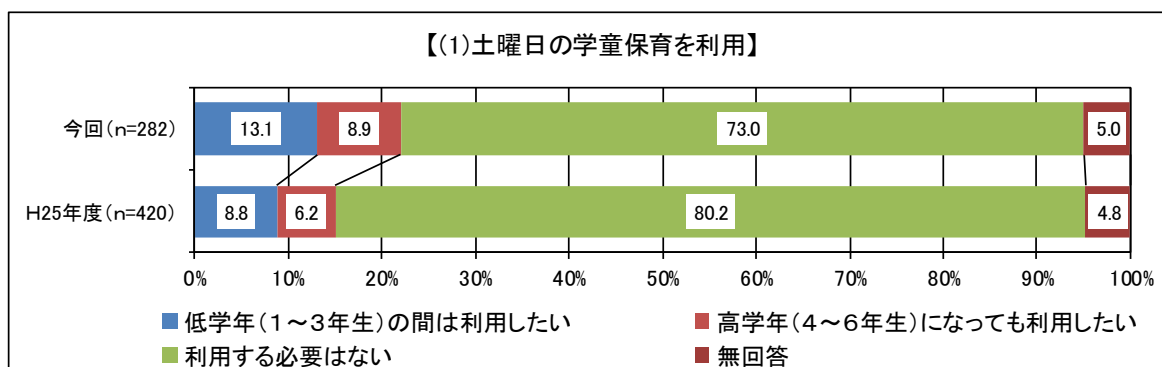
問 28 土曜日と日曜日・祝日の学童保育（放課後児童クラブ〔学童クラブ〕または私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育）の利用希望

（30分以上は1時間に切り上げ）

(1) 土曜日の学童保育の利用希望

土曜日の学童保育の利用希望は、「利用する必要はない」が73.0%と多数を占め、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が13.1%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が8.9%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

両親とも就労している世帯では、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が14.5%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が11.0%と、いずれも比率が高くなっています。

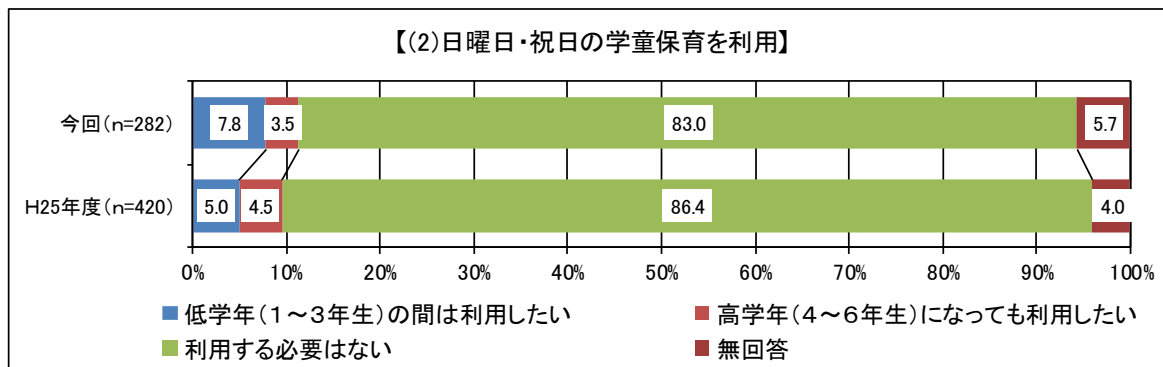


【就学前児童】

(2) 日曜日・祝日に、学童保育を利用したいですか。

日曜日・祝日の学童保育の利用希望は、「利用する必要はない」が83.0%と多数を占め、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が7.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が3.5%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

両親とも就労している世帯では、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が11.0%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が4.1%と、いずれも比率が高くなっています。

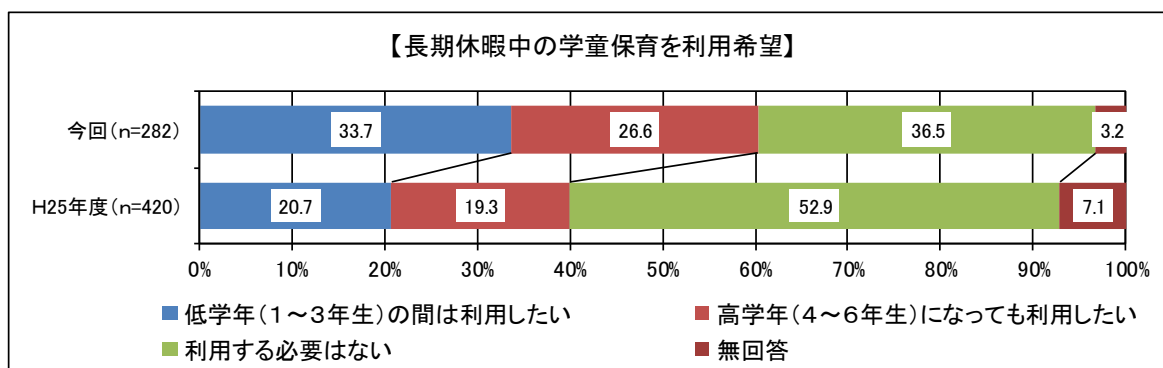


問 29 お子さんの夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の、学童保育（放課後児童クラブ〔学童クラブ〕または私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育）の利用希望。

（30分以上は1時間に切り上げ）

長期休暇期間中の学童保育の利用希望は、「利用する必要はない」が36.5%で最も比率が高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が33.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が26.6%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

両親とも就労している世帯では、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が40.0%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が40.7%と、いずれも比率が高くなっています。

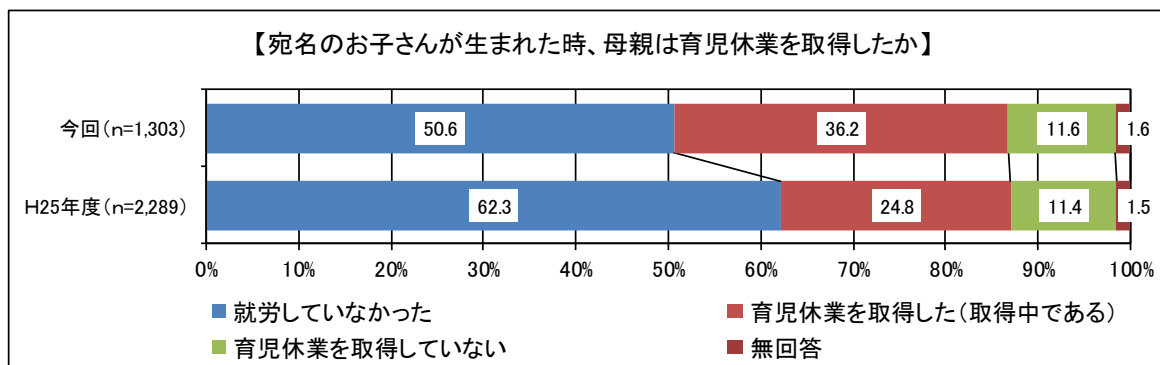


10 育児休業、仕事と育児の両立などについて

「母親」について

問 30 宛名のお子さんが生まれた時の母親は育児休業の取得について

母親の育児休業の取得については、「就労していなかった」が 50.6%で最も比率が高く、次いで「育児休業を取得した（取得中である）」が 36.2%、「育児休業を取得していない」が 11.6%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

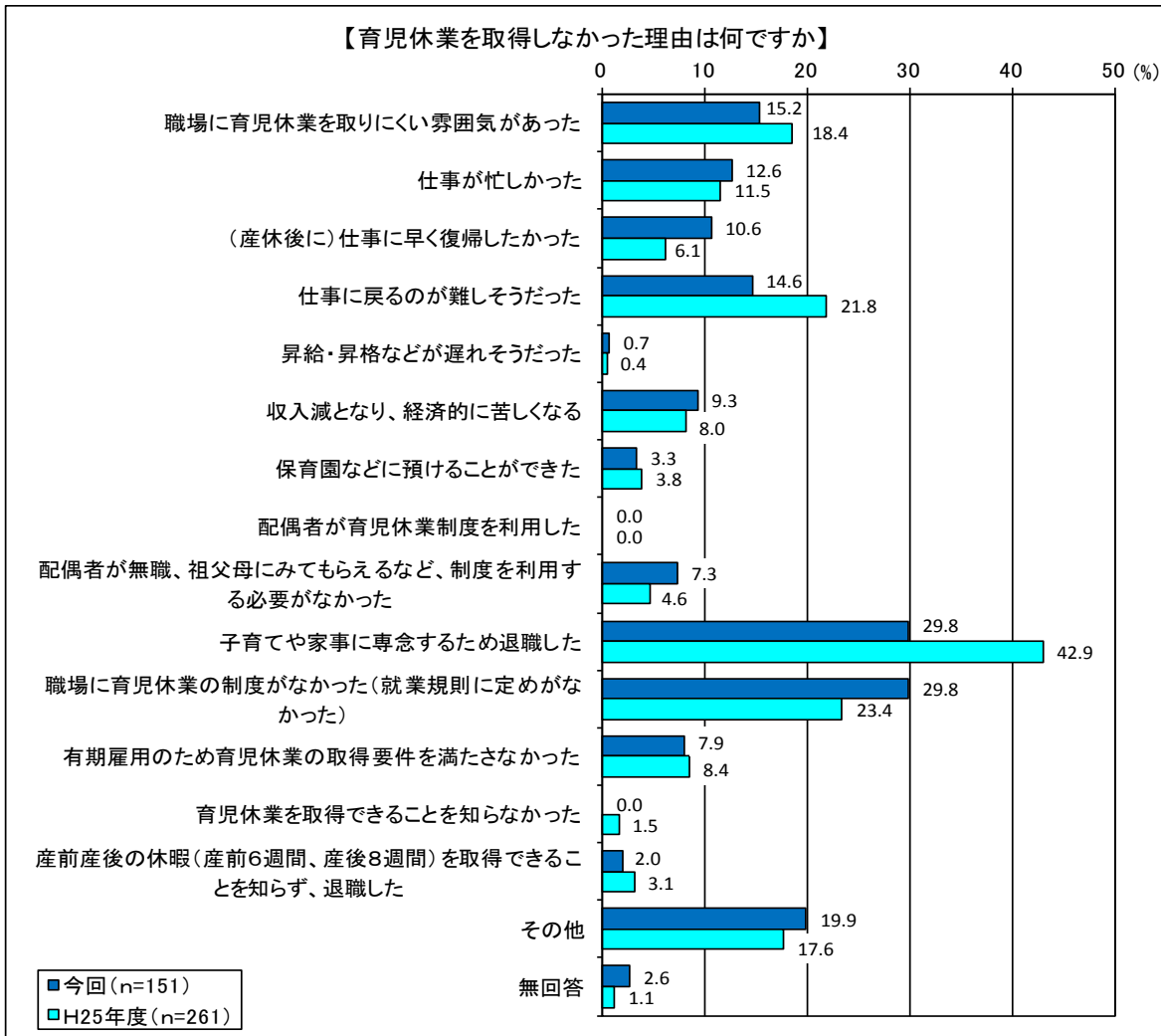


問 30 で、母親が「3. 育児休業を取得していない」と回答した方

問 30-1 育児休業を取得しなかった理由（母親が育児休業を取得していない方のみ回答）

母親が育児休業を取得しなかった理由は、「子育てや家事に専念するため退職した」及び「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」がともに 29.8%で最も比率が高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（15.2%）、「仕事に戻るのが難しそうだった」（14.6%）と続いています。前回の調査と比較すると、「子育てや家事に専念するため退職した」（42.9%）から 13.1 ポイント減少し、「（産休後に）仕事に早く復帰したかった」（6.1%）から 4.5 ポイント増加しています。

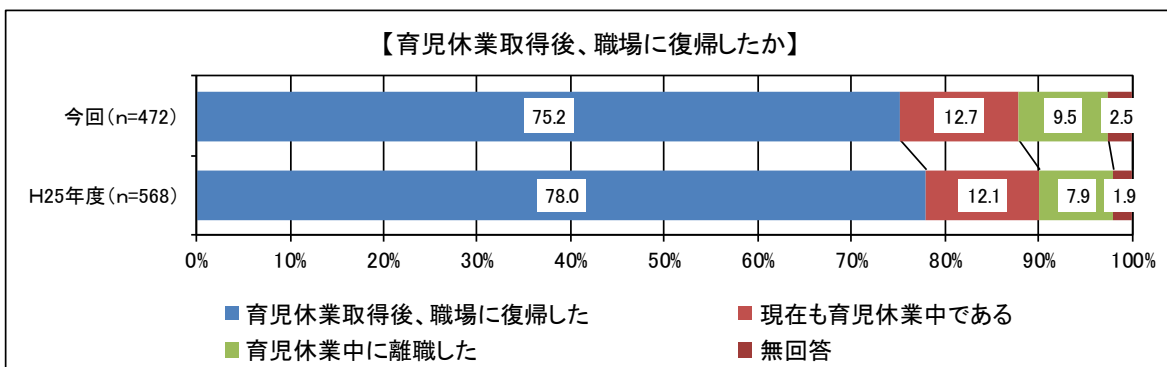
【就学前児童】



問 30 で、母親が「2. 育児休業を取得した（取得中である）」と回答した方

問 30-2 育児休業取得後の職場への復帰（母親が育児休業を取得した方のみ回答）

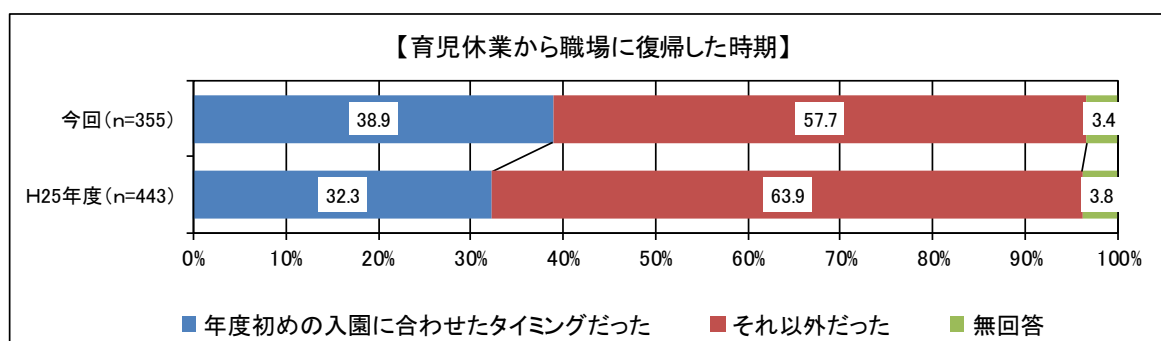
育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 75.2%で多数を占め、次いで「現在も育児休業中である」が 12.7%、「育児休業中に離職した」が 9.5%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



問 30-2 で、母親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

問 30-3 育児休業から職場に復帰した時期（母親が育児休業後、職場に復帰した方のみ回答）

育児休業から職場に復帰した時期については、「それ以外だった」が 57.7%、「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が 38.9%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。なお、「それ以外だった」の意見では“育児休暇終了のタイミング”や“年度途中”などとなっています。



問 30-2 で、母親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

問 30-4 育児休業の職場復帰の時期と育児休業制度の取得希望時期（母親が育児休業後、職場に復帰した方）

実際の取得期間の子どもの年齢は、平均 1 歳 1.2 か月であり、希望の取得期間の子どもの年齢は、平均 1 歳 5.2 か月となっています。

	全体
実際の取得期間 (平均)	1 歳 1.2 か月
希望の取得期間 (平均)	1 歳 5.2 か月

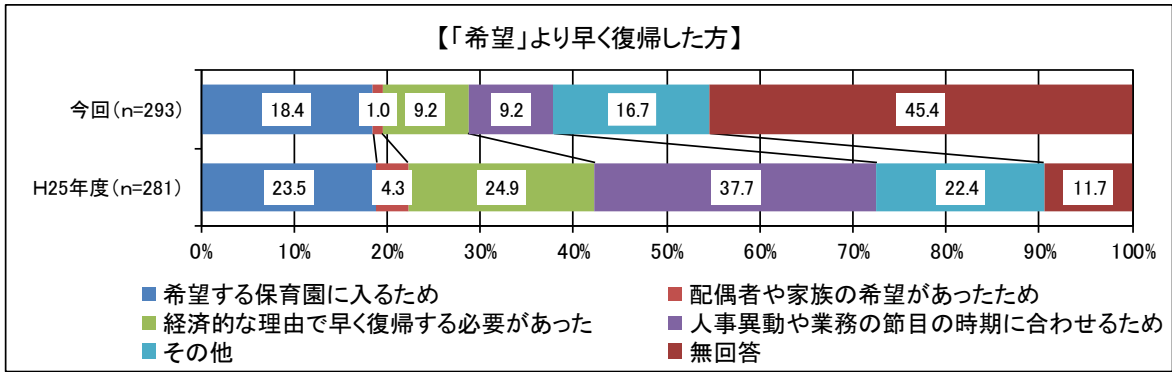
問 30-4 で、母親が、実際の復帰と希望が異なる方

問 30-5 育児休業から希望の時期に職場復帰しなかった理由

(1) 「希望」より早く復帰した方（母親が希望より早く復帰した方のみ）

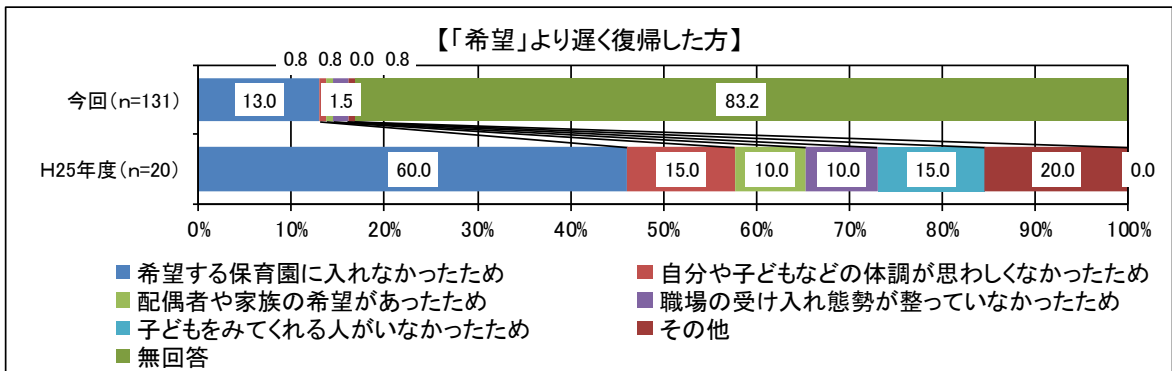
希望より早く復帰した理由は、「希望する保育園に入るため」が 18.4%で最も比率が高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があるがあった」及び「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」がともに 9.2%と続いています。前回調査との比較では、「経済的な理由で早く復帰する必要があるがあった」(24.9%) から 15.7 ポイント、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(37.7%) から 28.5 ポイント減少していますが、「無回答」の 33.7 ポイントの増加が比率に影響していると思われます。

【就学前児童】



(2) 「希望」より遅く復帰した方 (母親が希望より遅く復帰した方のみ)

希望より遅く復帰した理由は、「希望する保育園に入れなかったため」が 13.0%で最も比率が高く、次いで「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が 1.5%と続いています。前回調査との比較では、「無回答」の 83.2 ポイントの増加が比率に影響していると思われます。

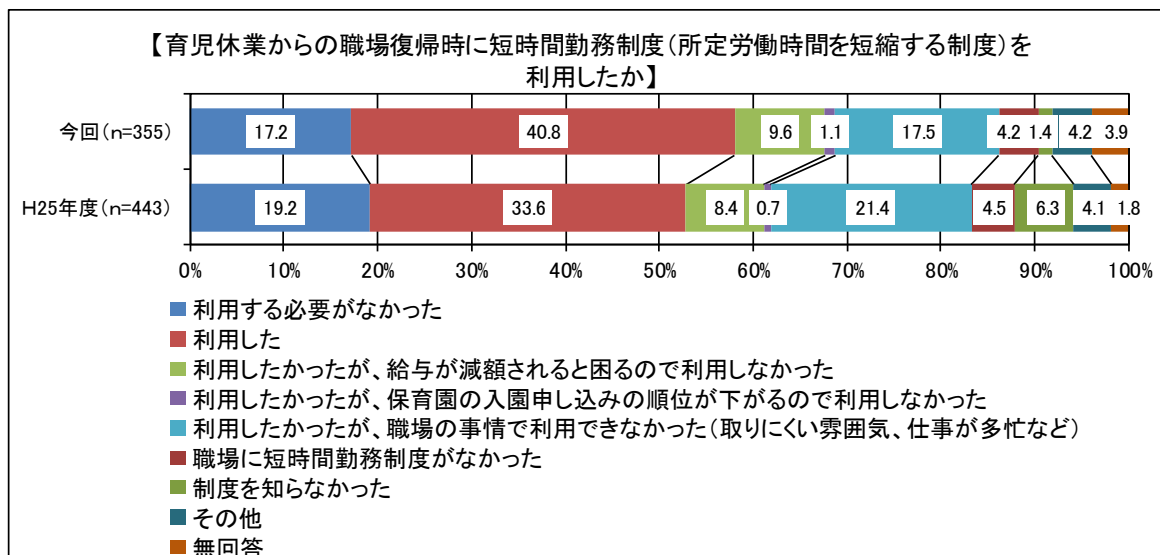


問 30-2 で、母親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

問 30-6 育児休業からの職場復帰時は、短時間勤務制度（所定労働時間を短縮する制度）を利用したか。（母親が育児休業取得後に職場に復帰した方のみ）

※短時間勤務制度とは、就業規則などで定められた勤務時間を短縮する制度（原則として 1 日 6 時間）

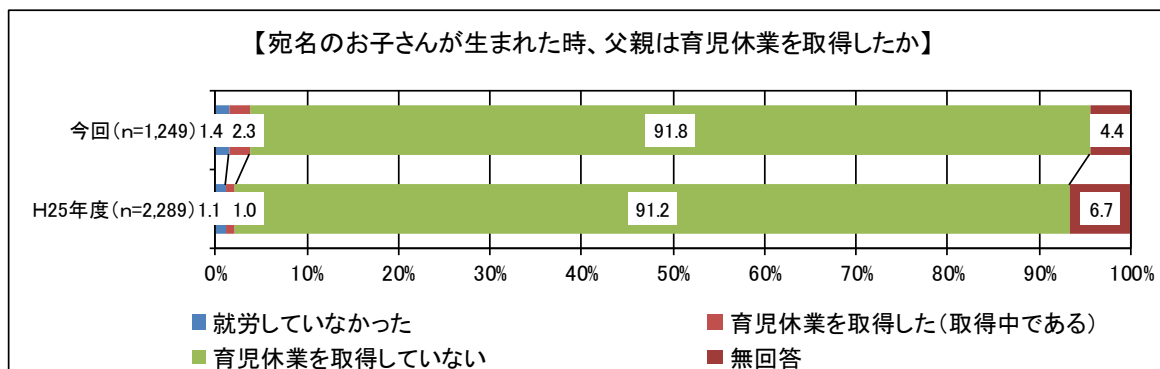
短時間制度の利用については、「利用した」が 40.8%で最も比率が高く、次いで「利用したかったが、職場の事情で利用できなかった（取りにくい雰囲気、仕事が多忙など）」(17.5%)、「利用する必要がなかった」(17.2%) 続いています。前回の調査と比較すると“制度を知らなかった”は 6.3%から 1.4%へ減少し、“利用した”が 33.6%から 40.8%に増加しました。



「父親」について

問 31 父親の育児休業の取得状況

父親の育児休業の取得については、「育児休業を取得していない」が 91.8%で大多数を占め、次いで「育児休業を取得した(取得中である)」が 2.3%、「就労していなかった」が 1.4%となっており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

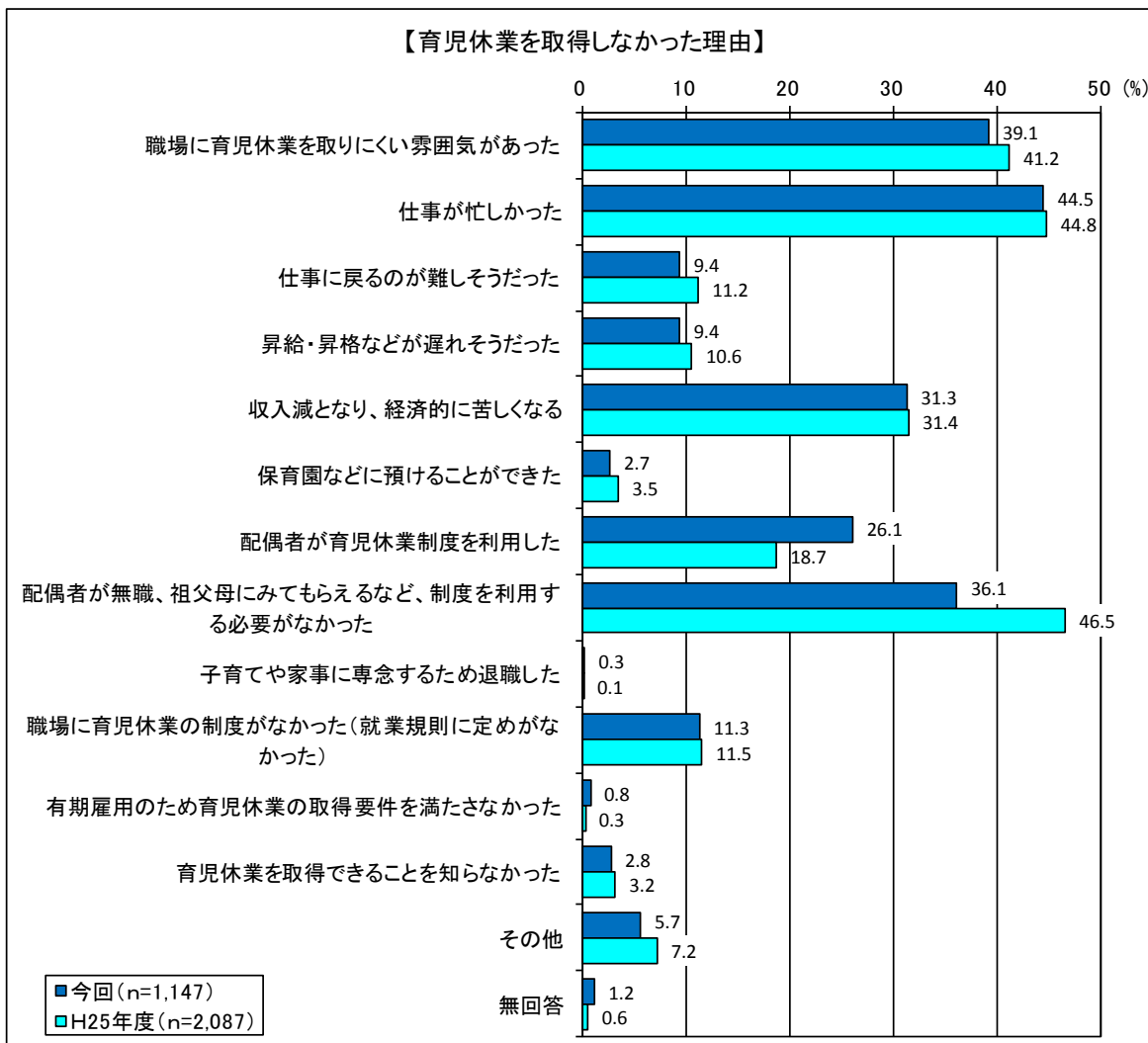


【就学前児童】

問 31 で、父親が「3. 育児休業を取得していない」と回答した方

問 31-1 育児休業を取得しなかった理由（父親が育児休業を取得していない方のみ）

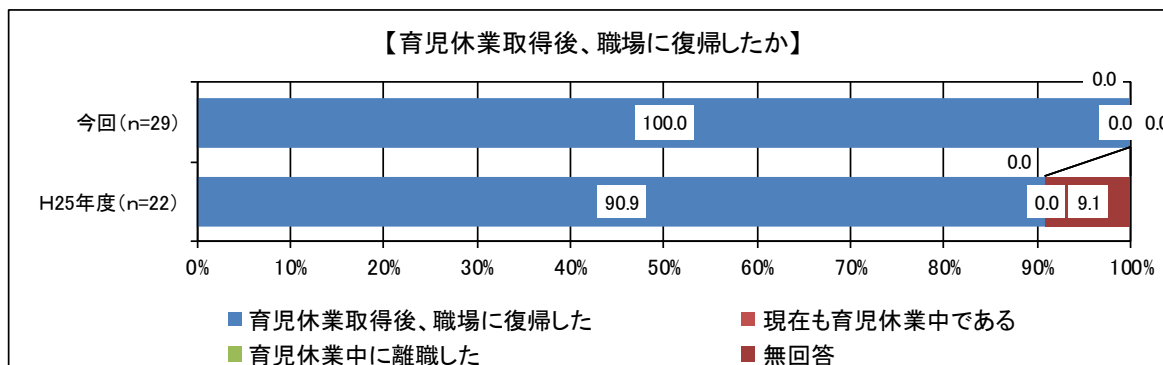
父親が育児休業を取得しなかった理由は、「仕事が忙しかった」が 44.5%で最も比率が高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(39.1%)、「配偶者が無職、祖父母にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(36.1%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(31.3%)と続いており、前回調査と大きな変化は見られません。



問 31 で、父親が「2. 育児休業を取得した（取得中である）」と回答した方

問 31-2 育児休業取得後、職場に復帰したか。（父親が育児休業を取得した方のみ）

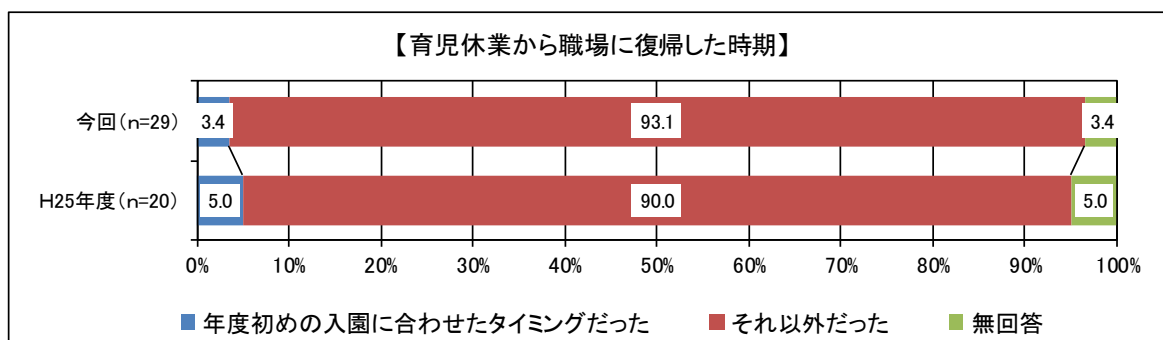
育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 100% となっております。前回調査と同様の傾向となっております。



問 31-2 で、父親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

問 31-3 育児休業から職場に復帰した時期（父親が育児休業後、職場に復帰した方のみ）

育児休業から職場に復帰した時期については、「それ以外だった」が 93.1% と大多数を占め、「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が 3.4% となっております。前回調査と大きな変化は見られません。



問 31-2 で、父親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

問 31-4 育児休業の職場復帰の時期と育児休業制度の取得時期（父親が育児休業後、職場に復帰した方のみ）

実際の取得期間の子どもの年齢は、平均 0 歳 2.9 か月であり、希望の取得期間の子どもの年齢は、平均 0 歳 5.0 か月となっております。

	全体
実際の取得期間 (平均)	0 歳 2.9 か月
希望の取得期間 (平均)	0 歳 5.0 か月

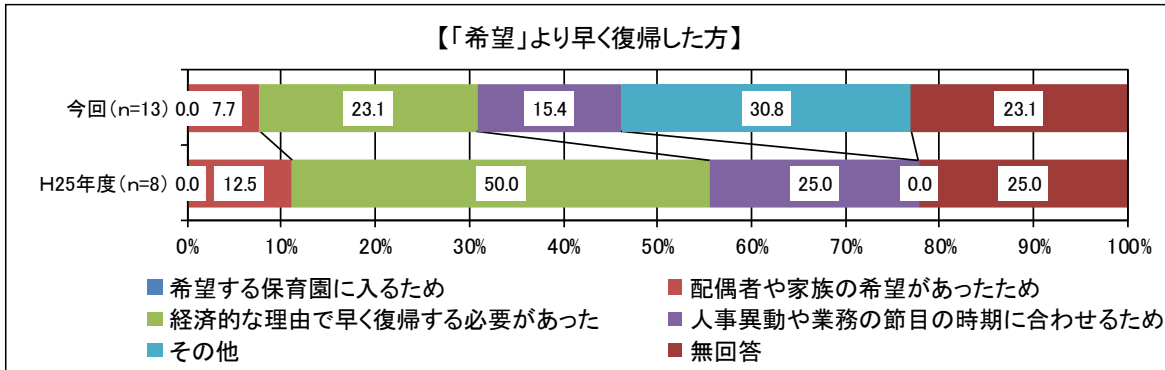
【就学前児童】

問 31-4 で、父親が、実際の復帰と希望が異なる方

問 31-5 育児休業から希望の時期に職場復帰しなかった理由

(1) 「希望」より早く復帰した方 （父親が希望より早く復帰した方のみ）

希望より早く復帰した理由は、「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」(23.1%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(15.4%)と続いており、前回調査と大きな変化はありません。



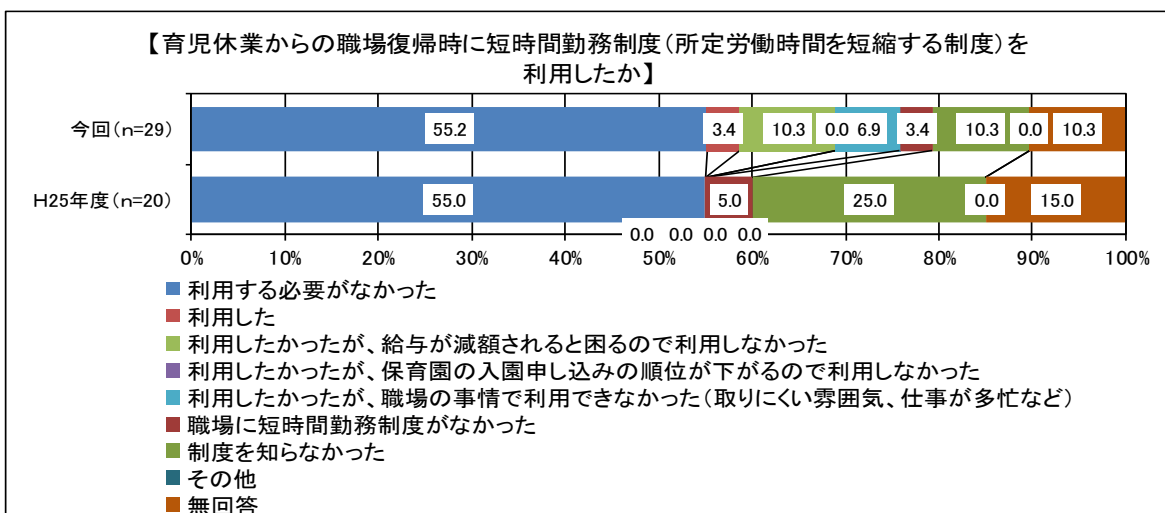
(2) 「希望」より遅く復帰した方 （父親が希望より遅く復帰した方のみ）

(該当者 1 人は無回答。)

問 31-2 で、父親が「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ

問31-6 育児休業からの職場復帰時に、短時間勤務制度（所定労働時間を短縮する制度）を利用したか。「父親」が育児休業取得後に職場に復帰した方のみ。

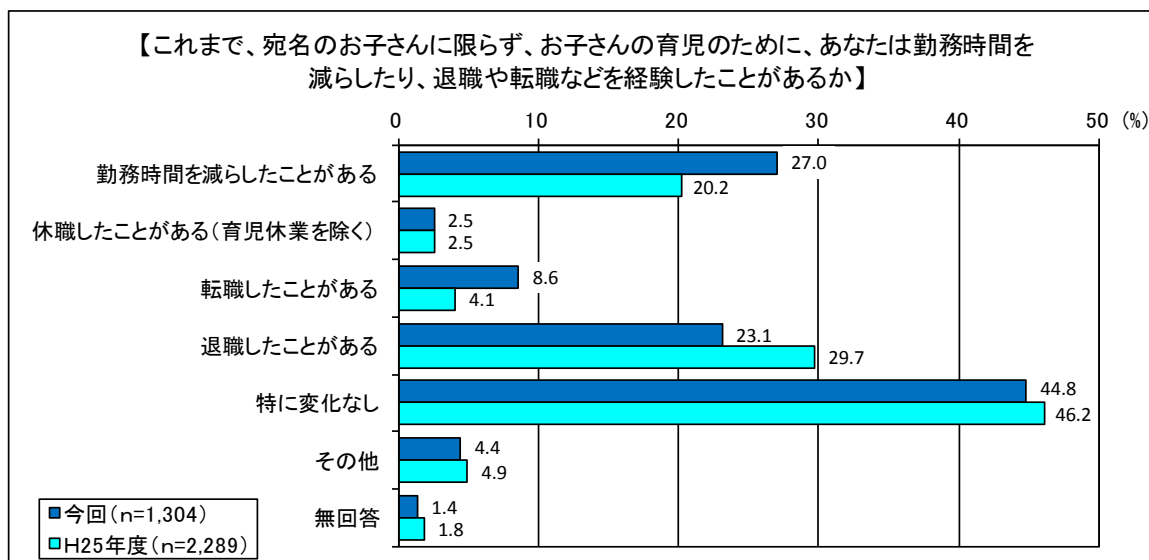
短時間制度の利用については、「利用する必要がなかった」が 55.2%で最も比率が高く、次いで「利用しなかったが、給与が減額されると困るので利用しなかった」及び「制度を知らなかった」がともに 10.3%と続いています。前回の調査で 0 人だった「利用した」（1 人・3.4%）、「利用しなかったが、給与が減額されると困るので利用しなかった」（3 人・10.3%）、「利用しなかったが、職場の事情で利用できなかった（取りにくい雰囲気、仕事が多忙など）」（2 人・6.9%）が増加しました。



すべての方

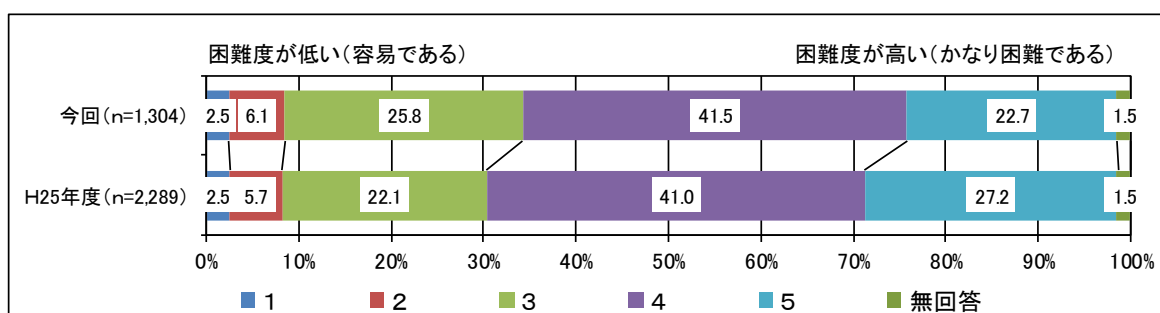
問32 これまで、宛名のお子さんに限らず、お子さんの育児のために、あなた（調査票を記入している方）は勤務時間を減らしたり、退職や転職などを経験したことがあるか

勤務時間を減らしたり、退職や転職した経験があるかについては、「特に変化なし」が44.8%で最も比率が高く、次いで「勤務時間を減らしたことがある」(27.0%)、「退職したことがある」が(23.1%)と続いています。前回の調査と比較しても概ね同様の傾向となっています。



問33 仕事と子どもの育児を両立させることの困難度

仕事と育児を両立させることの困難度は、「4」が41.5%で最も比率が高く、次いで「3」が25.8%、「5」が22.7%、「2」が6.1%、「1」が2.5%となっています。前回の調査と比較すると、「5」27.2%から4.5ポイント減少しており、困難度が低くなっている傾向が見受けられます。



【仕事と育児の両立の困難度×世帯年収】

上段:人、下段:%

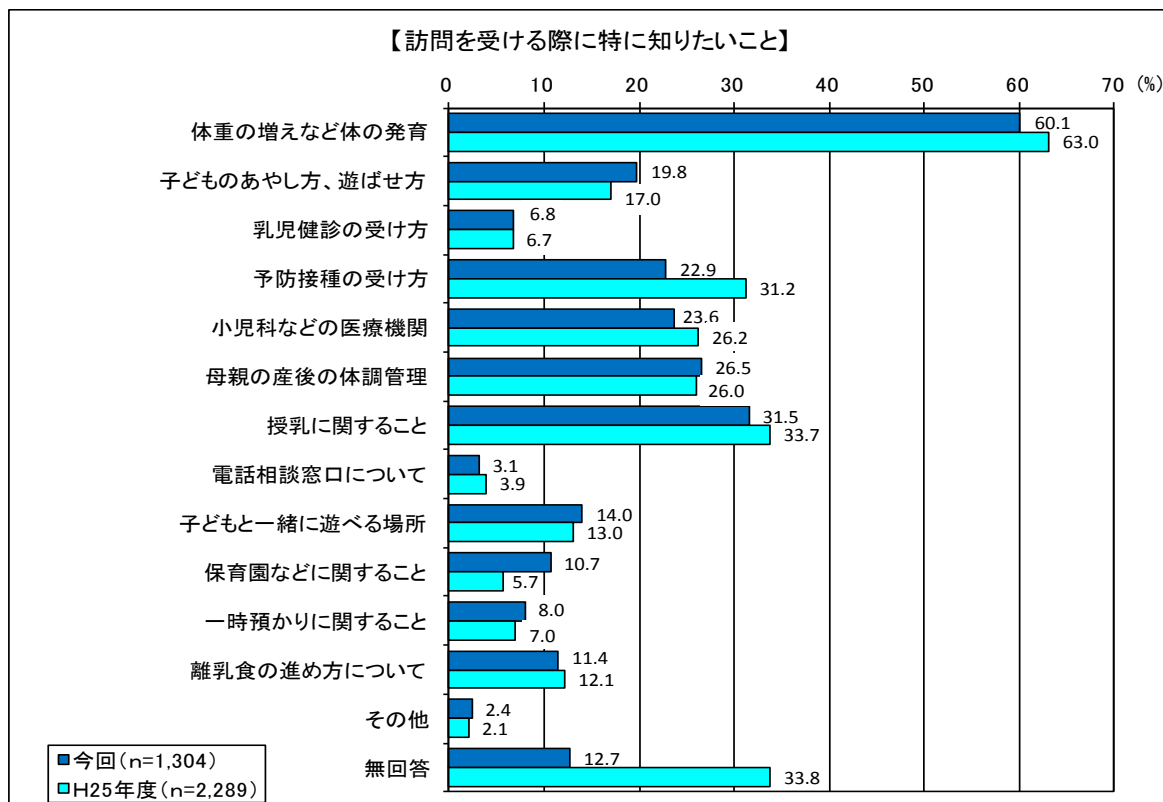
項目	なし	世帯年収							無回答	回答者数
		200万円未満	200~300万円未満	300~500万円未満	500~700万円未満	700~1,000万円未満	1,000~1,500万円未満	1,500万円以上		
困難度4	1	20	36	138	192	117	31	6	541	
	0.2	3.7	6.7	25.5	35.5	21.6	5.7	1.1	100.0	
困難度5	2	13	19	85	92	52	26	7	296	
	0.7	4.4	6.4	28.7	31.1	17.6	8.8	2.4	100.0	

11 子育てに関する悩みや相談先について

問 34 から問 34-3 までは、宛名以外のお子さんも含めて回答

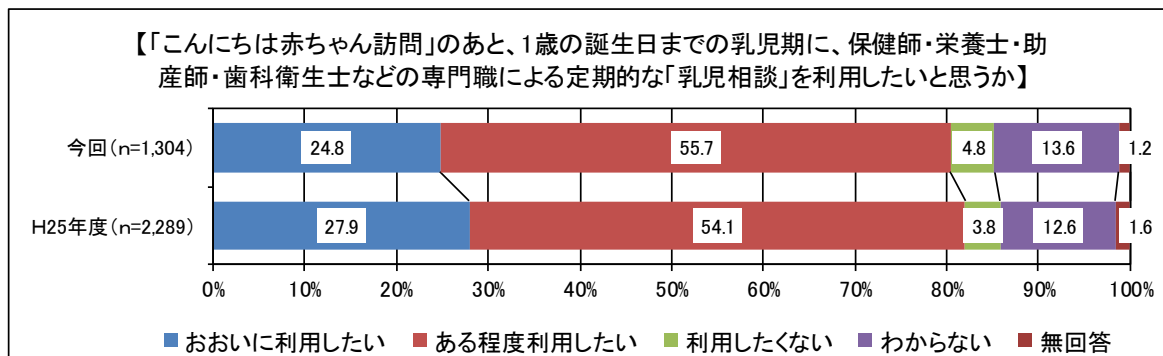
問34 市の保健師や助産師が行う「こんにちは赤ちゃん訪問（概ね生後2か月頃）」について。訪問を受ける際に特に知りたいこと。

赤ちゃん訪問の際に知りたいことについては、「体重の増えなど体の発育」が60.1%で最も比率が高く、次いで「授乳に関すること」(31.5%)、「母親の産後の体調管理」(26.5%)と続いています。前回の調査でも、「体重の増えなど体の発育」が63.0%で最も高く、次いで「授乳に関すること」が33.7%となっています。



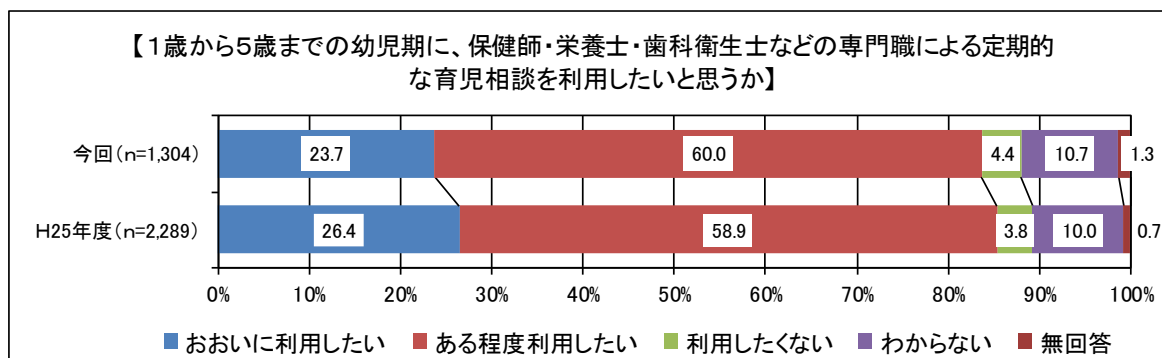
問34-1 「こんにちは赤ちゃん訪問」のあと、1歳の誕生日までの乳児期に、保健師・栄養士・助産師・歯科衛生士などの専門職による定期的な「乳児相談」の利用希望

専門職による定期的な乳幼児相談の利用希望については、「ある程度利用したい」が55.7%で最も比率が高く、次いで「おおいに利用したい」が24.8%、「わからない」が13.6%、「利用したくない」が4.8%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



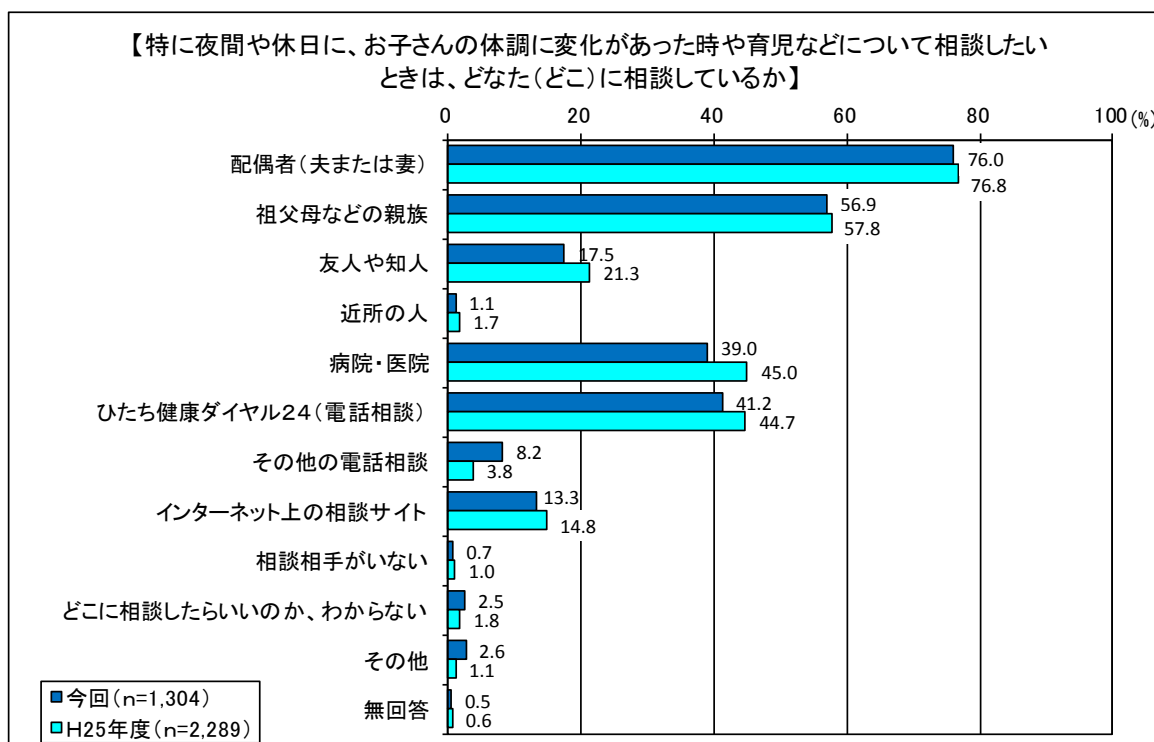
問34-2 1歳から5歳までの幼児期の、保健師・栄養士・歯科衛生士などの専門職による定期的な育児相談の利用希望

専門職による定期的な育児相談の利用希望については、「ある程度利用したい」が60.0%で最も比率が高く、次いで「おおいに利用したい」が23.7%、「わからない」が10.7%、「利用したくない」が4.4%となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



問34-3 特に夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や育児などについての相談先

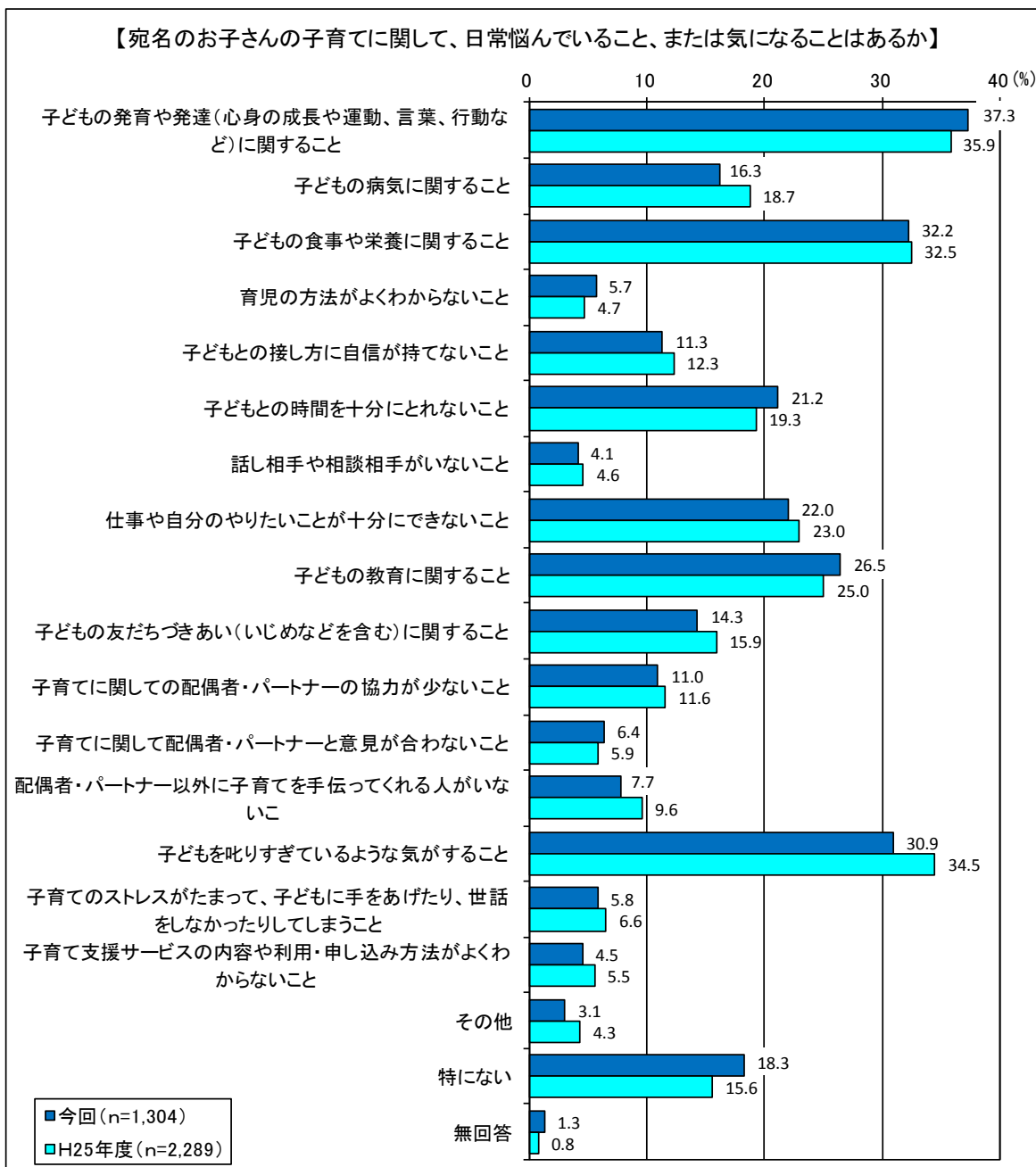
夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や育児などについての相談先は、「配偶者（夫または妻）」が76.0%で最も比率が高く、次いで「祖父母などの親族」（56.9%）、「ひたち健康ダイヤル24（電話相談）」（41.2%）、「病院・医院」（39.0%）と続いており、前回調査と大きな変化は見られません。



【就学前児童】

問35 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になること

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについては、「子どもの発育や発達（心身の成長や運動、言葉、行動など）に関すること」が37.3%で最も比率が高く、次いで「子どもの食事や栄養に関すること」（32.2%）、「子どもを叱りすぎているような気がする」（30.9%）と続いており、前回調査と大きな変化は見られません。なお、「特にない」は18.3%（前回15.6%）となっています。



【就学前児童】

「子どもを叱りすぎているような気がする」とは、子どもの年齢が“2歳”以上や、きょうだいの人数が“2人”、“配偶者はいない”、母親が“就労している（「フルタイム」、「パート・アルバイト」）”方で、比率が高くなっています。

【子どもの年齢×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段：人、下段：%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
0歳	10	139	149
(H29年度生)	6.7	93.3	100.0
1歳	23	124	147
(H28年度生)	15.6	84.4	100.0
2歳	66	128	194
(H27年度生)	34.0	66.0	100.0
3歳	88	138	226
(H26年度生)	38.9	61.1	100.0
4歳	109	176	285
(H25年度生)	38.2	61.8	100.0
5歳	103	179	282
(H24年度生)	36.5	63.5	100.0

【きょうだい人数×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段：人、下段：%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
1人	106	345	451
	23.5	76.5	100.0
2人	222	369	591
	37.6	62.4	100.0
3人	64	146	210
	30.5	69.5	100.0
4人以上	7	28	35
	20.0	80.0	100.0

【子どもをみてもらえる人はいない×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段：人、下段：%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
(日頃子どもをみてもらえる人はいない)	48	112	160
	30.0	70.0	100.0

【配偶関係×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段：人、下段：%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
配偶者(夫・妻)がいる	374	850	1,224
	30.6	69.4	100.0
配偶者(夫・妻)はいない	28	46	74
	37.8	62.2	100.0

【母親の就労状況×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段：人、下段：%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
フルタイム	149	280	429
	34.7	65.3	100.0
パート・アルバイト	108	190	298
	36.2	63.8	100.0
就労していない	145	423	568
	25.5	74.5	100.0

【就学前児童】

「子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと」は、子どもの年齢が“2歳”や、きょうだい的人数が“2人”、“子どもをみてもらえる人がいない”、“配偶者はいない”、“親の就労が“パート・アルバイト”で、比率が高くなっています。

【子どもの年齢×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
0歳 (H29年度生)	6	143	149
	4.0	96.0	100.0
1歳 (H28年度生)	5	142	147
	3.4	96.6	100.0
2歳 (H27年度生)	15	179	194
	7.7	92.3	100.0
3歳 (H26年度生)	14	212	226
	6.2	93.8	100.0
4歳 (H25年度生)	18	267	285
	6.3	93.7	100.0
5歳 (H24年度生)	17	265	282
	6.0	94.0	100.0

【きょうだい人数×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
1人	27	424	451
	6.0	94.0	100.0
2人	41	550	591
	6.9	93.1	100.0
3人	8	202	210
	3.8	96.2	100.0
4人以上	0	35	35
	0.0	100.0	100.0

【子どもをみてもらえる人はいない×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
(日頃子どもを) みてもらえる人 はいない	13	147	160
	8.1	91.9	100.0

【配偶関係×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
配偶者(夫・妻) がいる	68	1,156	1,224
	5.6	94.4	100.0
配偶者(夫・妻) はいない	8	66	74
	10.8	89.2	100.0

【母親の就労状況×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

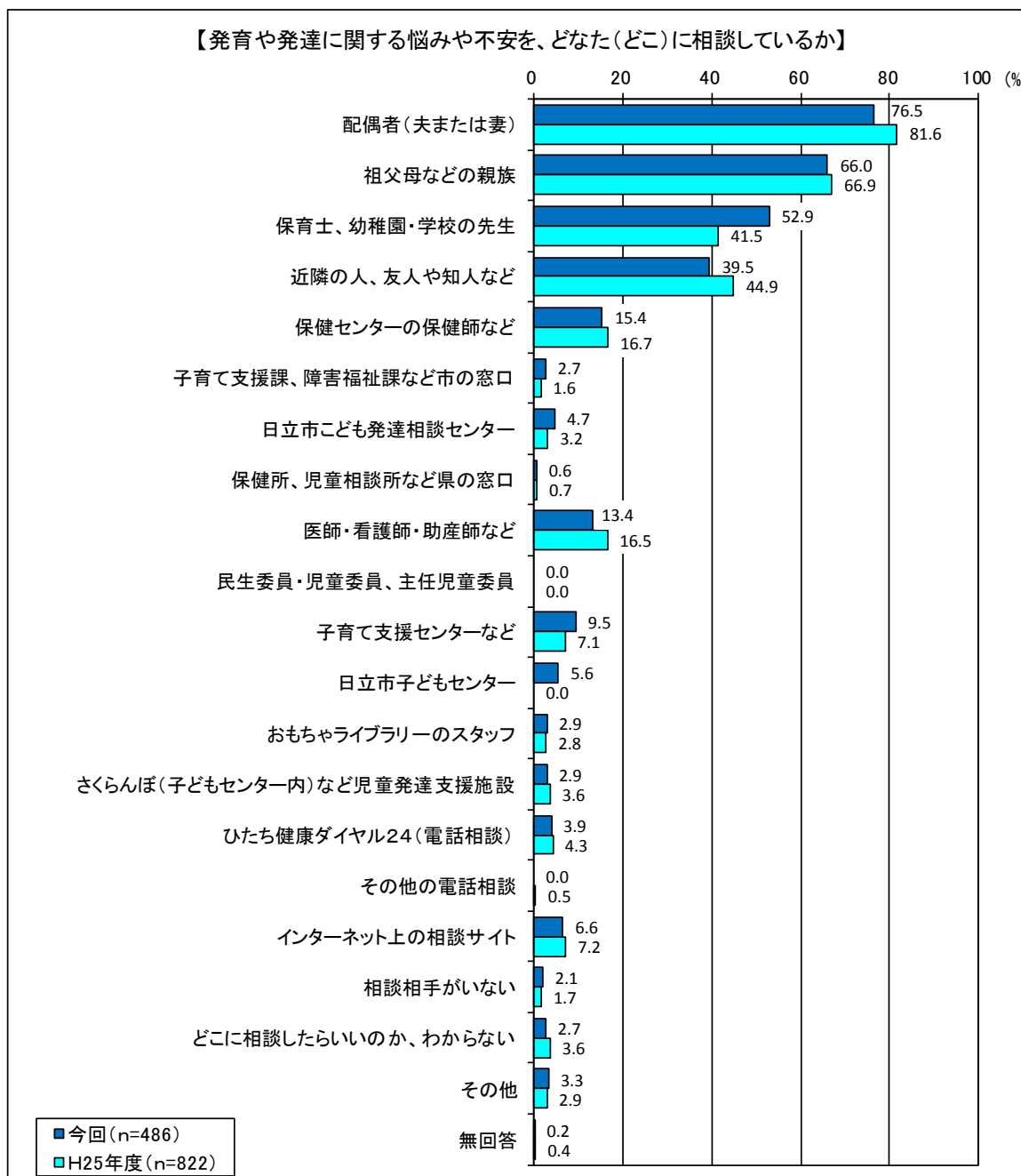
上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
フルタイム	23	406	429
	5.4	94.6	100.0
パート・アルバイト	20	278	298
	6.7	93.3	100.0
就労していない	33	535	568
	5.8	94.2	100.0

問 35 で「1. 子どもの発育や発達に関すること」に○をつけた方

問35-1 発育や発達に関する悩みや不安の相談先

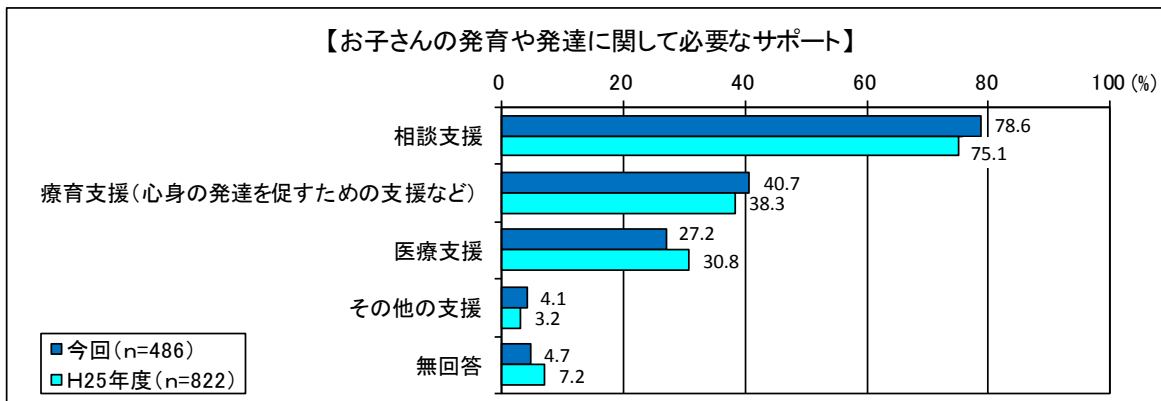
発育や発達に関する悩みや不安の相談先は、「配偶者（夫または妻）」が 76.5%で最も比率が高く、次いで「祖父母などの親族」（66.0%）、「保育士、幼稚園・学校の先生」（52.9%）、「近隣の人、友人や知人など」（39.5%）と続いており、前回調査と大きな変化は見られません。



【就学前児童】

問35-2 お子さんの発育や発達に関して必要なサポート

発育や発達に関して必要なサポートについては、「相談支援」が78.6%で最も比率が高く、次いで「療育支援（心身の発達を促すための支援など）」（40.7%）、「医療支援」（27.2%）、「その他の支援」（4.1%）となっており、前回調査と大きな変化は見られません。



問35-3 上記サポートの具体的な内容について

サポートの具体的な内容については、「相談・指導体制等（専門家、ネット・電話・訪問等）」（93件）や「発達・発育相談・支援体制」（48件）、「支援体制（施設）の充実」（12件）などが上位にあげられています。

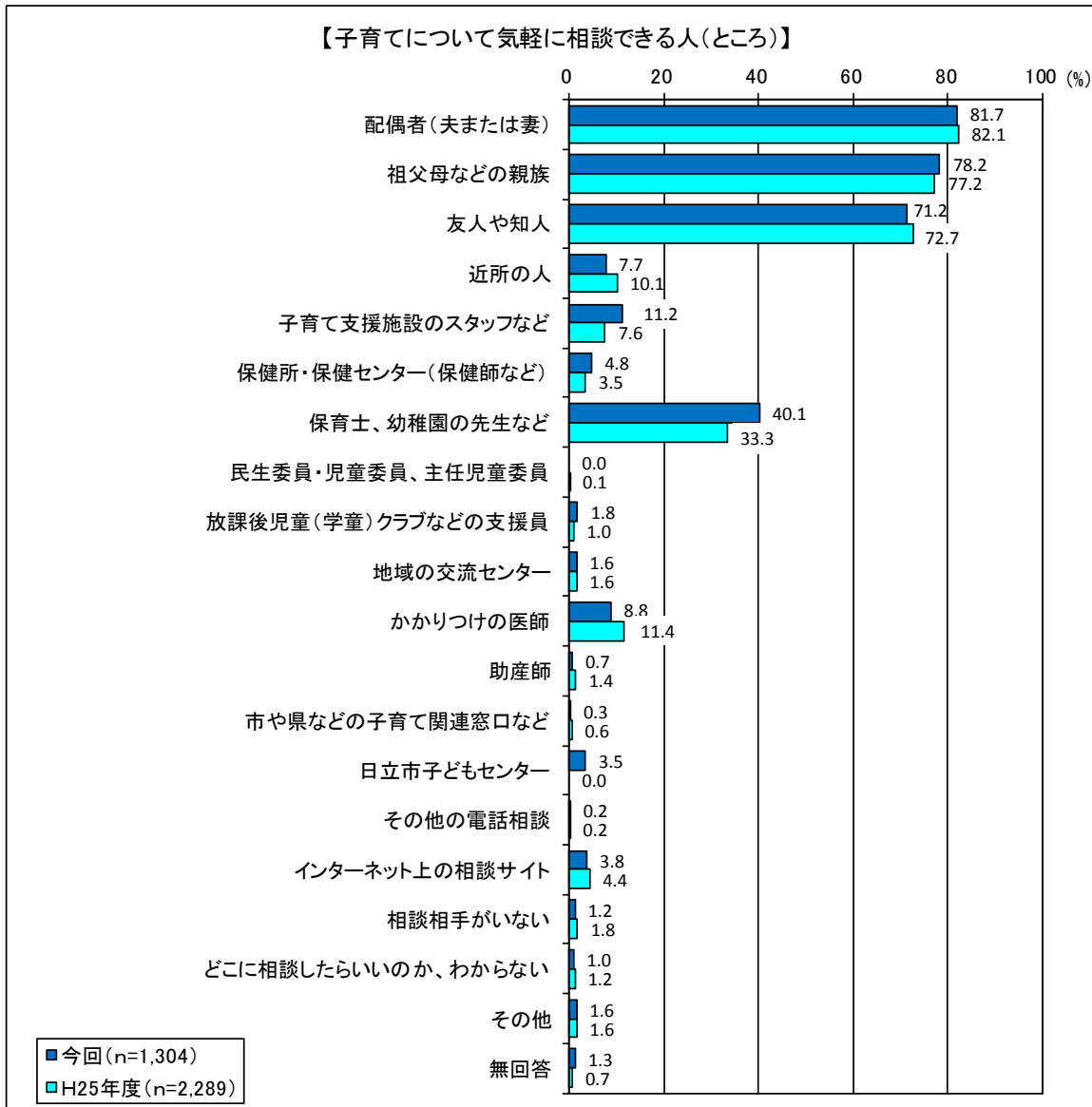
No.	項目	件数
1	相談・指導体制等（専門家、ネット・電話・訪問等）	93
2	発達・発育相談・支援体制	48
3	支援体制（施設）の充実	12
4	医療機関・体制の充実	8
5	講座・教室	7
6	情報提供	7
7	保護者交流	6
8	サポート体制	6
-	特になし、わからない	4
-	その他	26

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

すべての方

問36 子育てについて気軽に相談できる人（ところ）

子育てについて気軽に相談できる人（ところ）は、「配偶者（夫または妻）」が81.7%で最も比率が高く、次いで「祖父母などの親族」（78.2%）、「友人や知人」（71.2%）、「保育士、幼稚園の先生など」（40.1%）と続いており、前回調査と大きな変化は見られません。



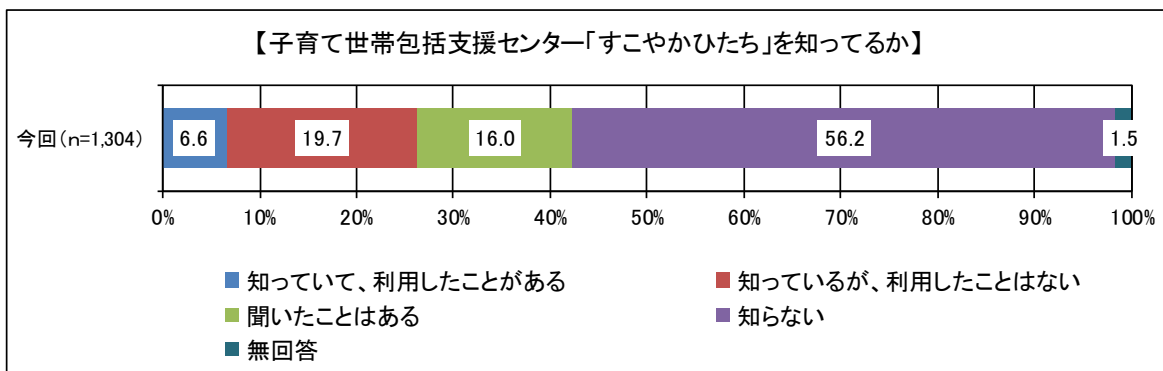
【就学前児童】

問36-1 子育て世帯包括支援センター「すこやかひたち」を知っているか

子育て世帯包括支援センター「すこやかひたち」を知っているかについては、「知らない」が56.2%で半数以上を占め、次いで「知っているが、利用したことはない」(19.7%)、「聞いたことはある」(16.0%)、「知っている、利用したことがある」(6.6%)となっています。

年齢別にみると、「知っている、利用したことがある」は“2歳(H27年度生)”以下は10%以上であり、“3歳(H26年度生)”以上と比較してやや高くなっています。

「知っている、利用したことがある」は、教育・保育事業を“利用していない”人で、「知っているが、利用したことはない」は、“利用している”人で、それぞれ他より比率が高くなっています。



【子どもの年齢×子育て世帯包括支援センター「すこやかひたち」の認知度】

上段:人、下段:%

項目	知っている、 利用したこ とがある	知っている が、利用し たことは ない	聞いたこと はある	知らない	無回答	回答者数
0歳(H29年度 生)	19 12.8%	29 19.5%	32 21.5%	68 45.6%	1 0.7%	149 100.0%
1歳(H28年度 生)	15 10.2%	25 17.0%	32 21.8%	74 50.3%	1 0.7%	147 100.0%
2歳(H27年度 生)	20 10.3%	39 20.1%	22 11.3%	110 56.7%	3 1.5%	194 100.0%
3歳(H26年度 生)	13 5.8%	38 16.8%	33 14.6%	140 61.9%	2 0.9%	226 100.0%
4歳(H25年度 生)	10 3.5%	65 22.8%	44 15.4%	159 55.8%	7 2.5%	285 100.0%
5歳(H24年度 生)	9 3.2%	57 20.2%	43 15.2%	168 59.6%	5 1.8%	282 100.0%

問36-2 子育てに関する相談場所について（自由記載）

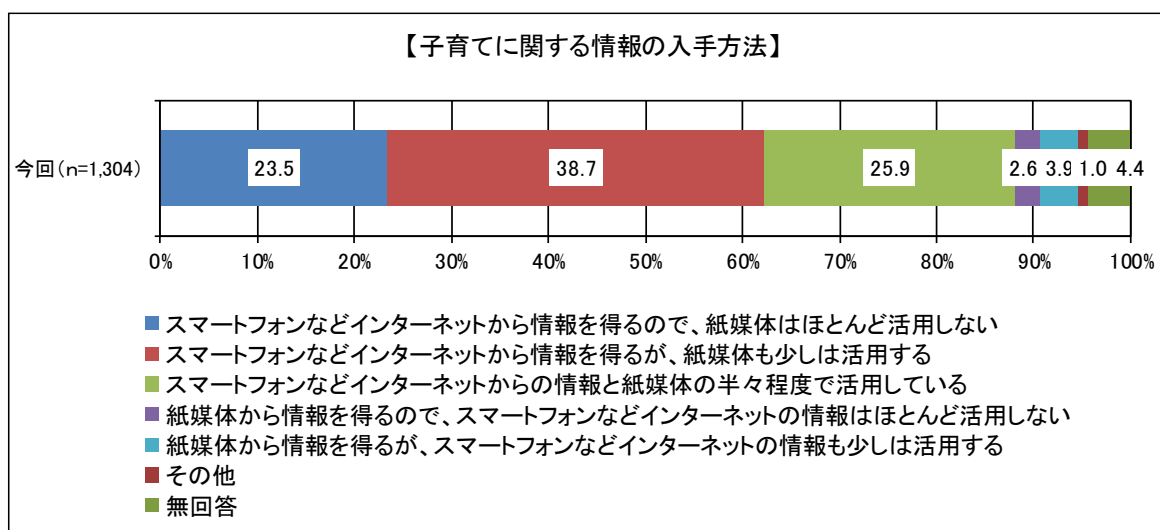
子育てに関する相談場所については、「相談・指導体制の充実」（35件）や「相談場所の充実」（27件）、「対応（職員・相談員等）」（20件）などが上位にあげられています。

No.	項目	件数
1	相談・指導体制の充実	35
2	相談場所の充実	27
3	対応（職員・相談員等）	20
4	情報提供	12
5	子供遊び場	4
-	特になし、わからない	4
-	その他	25

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問36-3 子育てに関する情報の入手方法

子育てに関する情報の入手方法は、「スマートフォンなどインターネットから情報を得るが、紙媒体も少しは活用する」が38.7%で最も比率が高く、次いで「スマートフォンなどインターネットからの情報と紙媒体の半々程度で活用している」（25.9%）、「スマートフォンなどインターネットから情報を得るので、紙媒体はほとんど活用しない」（23.5%）となっています。

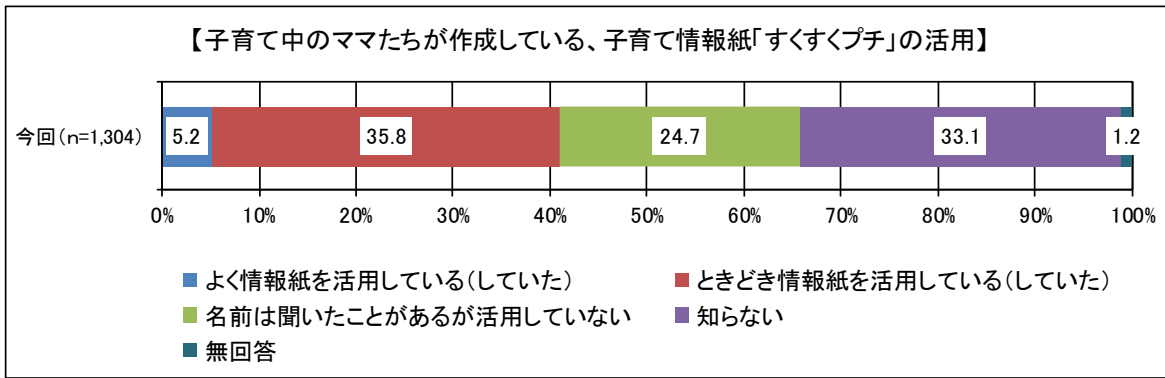


問36-4 子育て中のママたちが作成している、子育て情報紙「すくすくプチ」の活用

子育て情報紙「すくすくプチ」の活用については、「ときどき情報紙を活用している（していた）」が35.8%で最も比率が高く、次いで「知らない」が33.1%、「名前は聞いたことがあるが活用していない」が24.7%、「よく情報紙を活用している（していた）」が5.2%となっています。

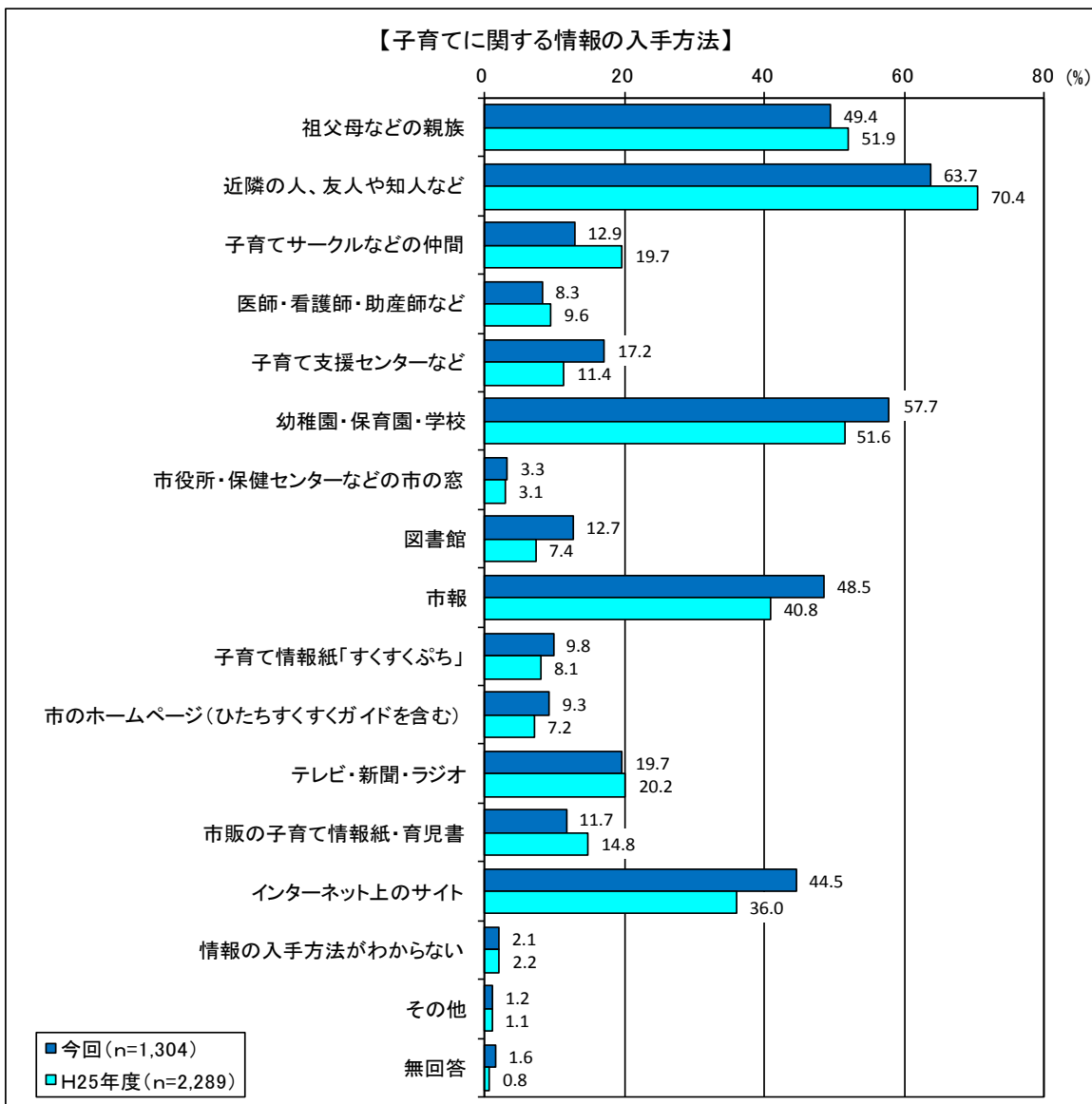
「知らない」は、教育・保育事業を“利用していない”人（46.2%）で、“利用している”人（28.4%）より比率が高くなっています。

【就学前児童】



問36-5 子育てに関する情報の入手方法

子育てに関する情報の入手方法は、「近隣の人、友人や知人など」が63.7%で最も比率が高く、次いで「幼稚園・保育園・学校」(57.7%)、「祖父母などの親族」(49.4%)、「市報」(48.5%)、「インターネット上のサイト」(44.5%)と続いており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

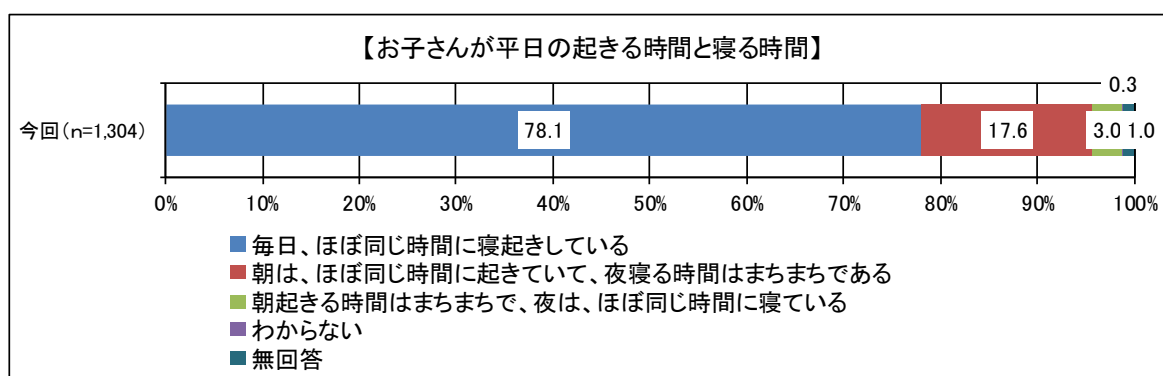


12 お子さんのことについて

問37 お子さんが平日の起きる時間と寝る時間

お子さんの平日の起床時間と就寝時間については、「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」が78.1%と多数を占め、次いで「朝は、ほぼ同じ時間に起きていて、夜寝る時間はまちまちである」が17.6%、「朝起きる時間はまちまちで、夜は、ほぼ同じ時間に寝ている」が3.0%、「わからない」が0.3%となっています。

母親の就業状況別にみると、「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」は“パート・アルバイト”が74.5%と他より比率がやや低くなっています。



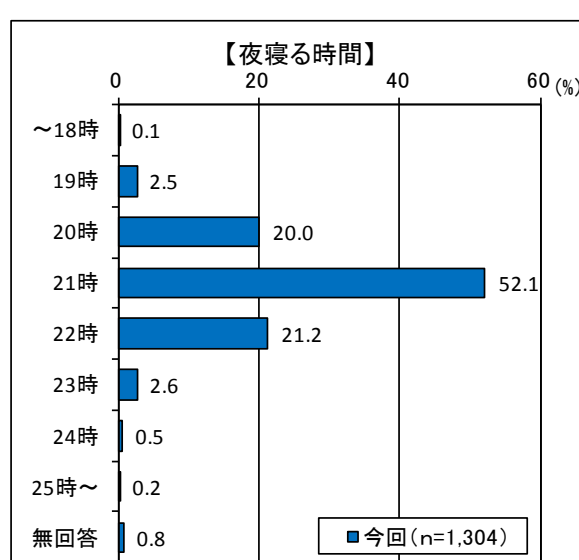
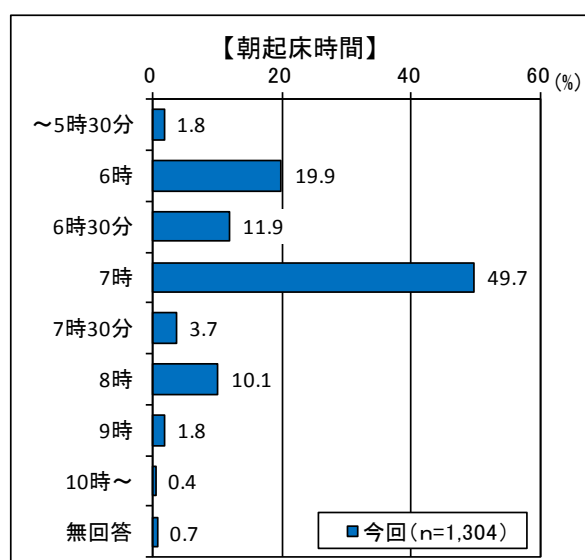
【母親の就労状況 × お子さんが平日の起きる時間と寝る時間】

上段:人、下段:%

項目	毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている	朝は、ほぼ同じ時間に起きていて、夜寝る時間はまちまちである	朝起きる時間はまちまちで、夜は、ほぼ同じ時間に寝ている	わからない	無回答	回答者数
フルタイム (産休中等を含む)	338	76	11	0	4	429
	78.8	17.7	2.6	0.0	0.9	100.0
パート・アルバイト (産休中等を含む)	222	61	8	2	5	298
	74.5	20.5	2.7	0.7	1.7	100.0
就労していない	450	93	19	2	4	568
	79.2	16.4	3.3	0.4	0.7	100.0

問37-1 お子さんの平日の起きる時間と寝る時間のおおむねの時間

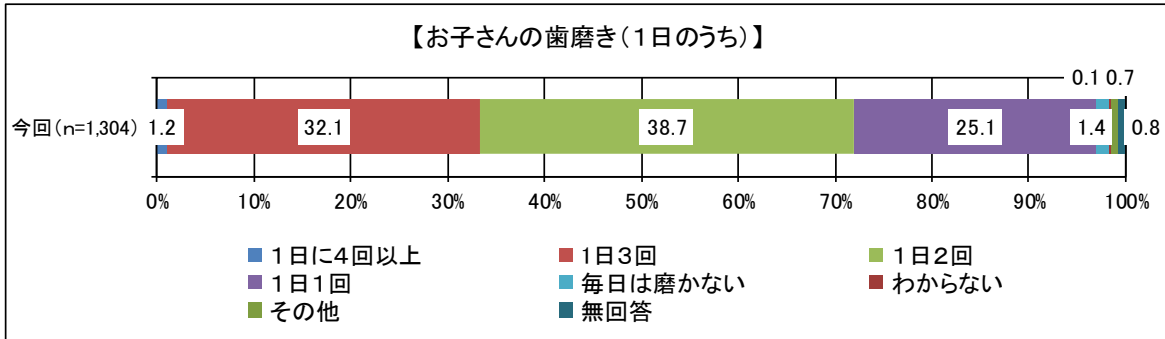
平日の起床時間は、「7時」が49.7%、「6時」が19.9%、「6時30分」と続いています。就寝時間は「21時」52.1%、「22時」が21.2%、「20時」が20.0%となっています。



【就学前児童】

問38 お子さんの歯磨き（1日のうち）

お子さんの1日の歯磨きの回数については、「1日2回」が38.7%で最も比率が高く、次いで「1日3回」が32.1%、「1日1回」が25.1%と続いており、「毎日磨かない」は1.4%となっています。



【配偶関係×お子さんの歯磨き】

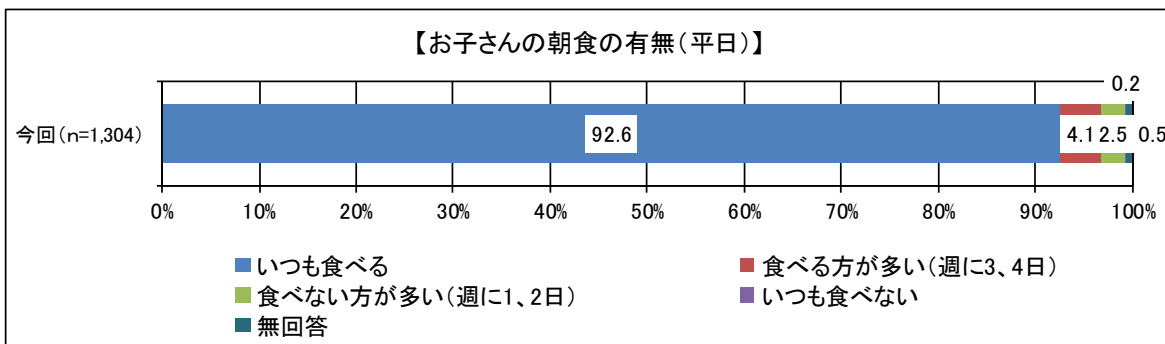
上段:人、下段:%

項目	1日に4回以上	1日3回	1日2回	1日1回	毎日磨かない	わからない	その他	無回答	回答者数
配偶者がいる	15	396	459	317	17	1	9	10	1,224
	1.2	32.4	37.5	25.9	1.4	0.1	0.7	0.8	100.0
配偶者がいない	0	20	42	10	1	0	0	1	74
	0.0	27.0	56.8	13.5	1.4	0.0	0.0	1.4	100.0

問39 お子さんの朝食の有無（平日）

お子さんの朝食の有無については、「いつも食べる」が92.6%で大多数を占めており、「食べる方が多い（週に3、4日）」が4.1%、「食べない方が多い（週に1、2日）」が2.5%となっており、一方「いつも食べない」は0.2%となっています。

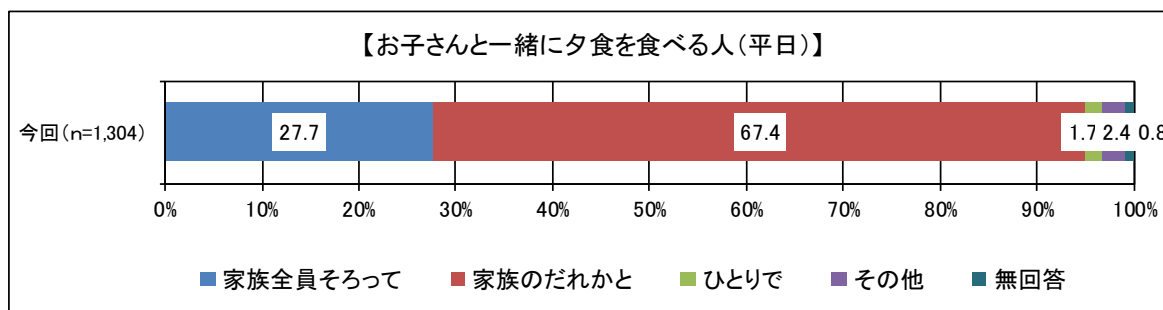
「配偶者がいる」が93.4%、「配偶者がいない」が79.7%となっています。



問40 お子さんと一緒に夕食を食べる人（平日）

お子さんと夕食を共にする家族については、「家族のだれかと」が 67.4%で最も比率が高く、次いで「家族全員そろって」が 27.7%、「ひとりで」が 1.7%、「その他」が 2.4%となっています。

「ひとりで」は、「0歳」では 9.4%（14人）と、他の年齢より高い比率となっています。



【子どもの年齢×お子さんと一緒に夕食を食べる人】

上段:人、下段:%

項目	家族全員そろって	家族のだれかと	ひとりで	その他	無回答	回答者数
0歳(H29年度生)	32	96	14	4	3	149
	21.5%	64.4%	9.4%	2.7%	2.0%	100.0%
1歳(H28年度生)	37	102	3	3	2	147
	25.2%	69.4%	2.0%	2.0%	1.4%	100.0%
2歳(H27年度生)	52	135	2	2	3	194
	26.8%	69.6%	1.0%	1.0%	1.5%	100.0%
3歳(H26年度生)	63	157	0	5	1	226
	27.9%	69.5%	0.0%	2.2%	0.4%	100.0%
4歳(H25年度生)	84	189	1	10	1	285
	29.5%	66.3%	0.4%	3.5%	0.4%	100.0%
5歳(H24年度生)	88	185	1	7	1	282
	31.2%	65.6%	0.4%	2.5%	0.4%	100.0%

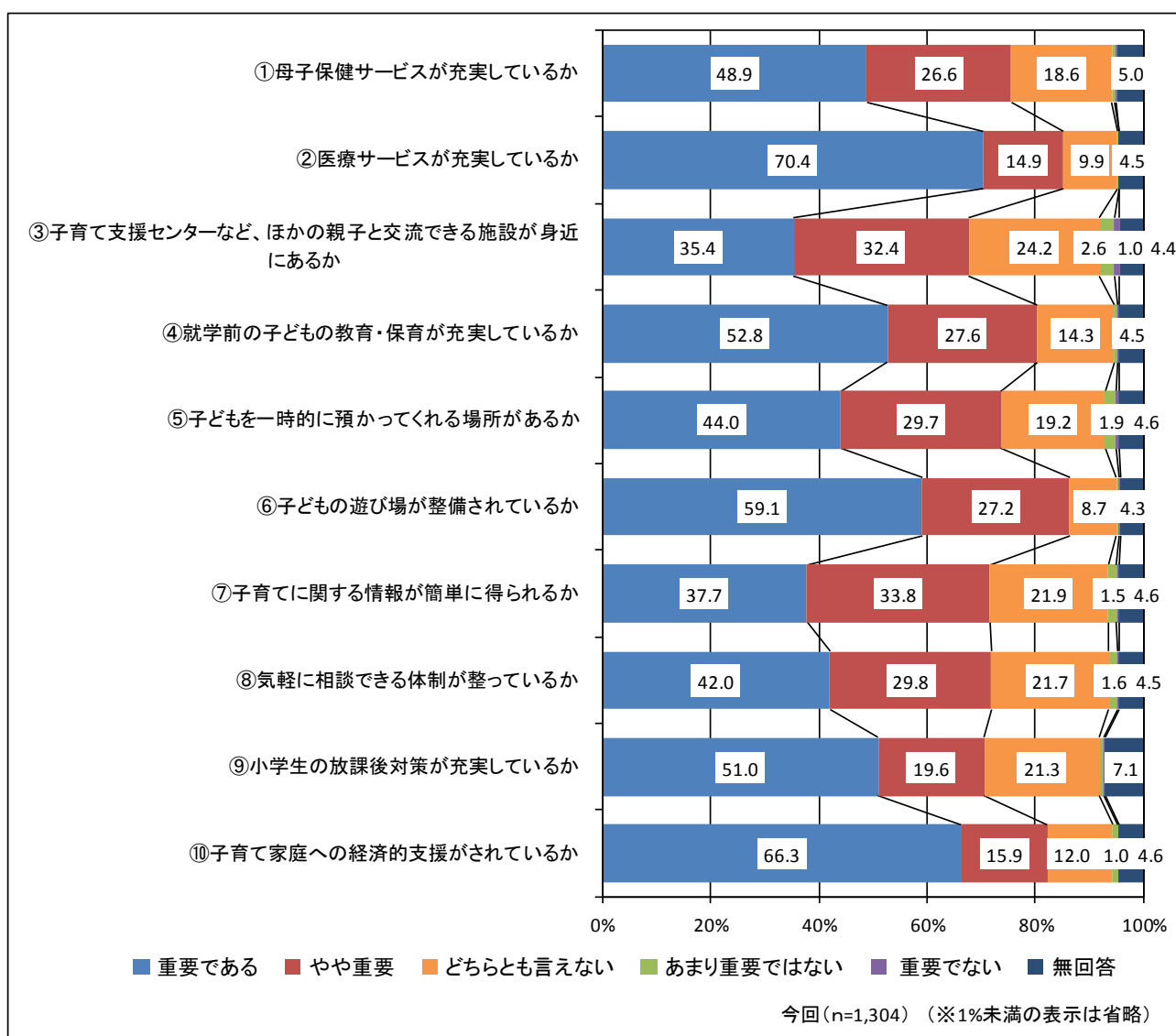
13 日立市の子育て支援の取組について

問41 日立市の子育て支援の取組と重要度

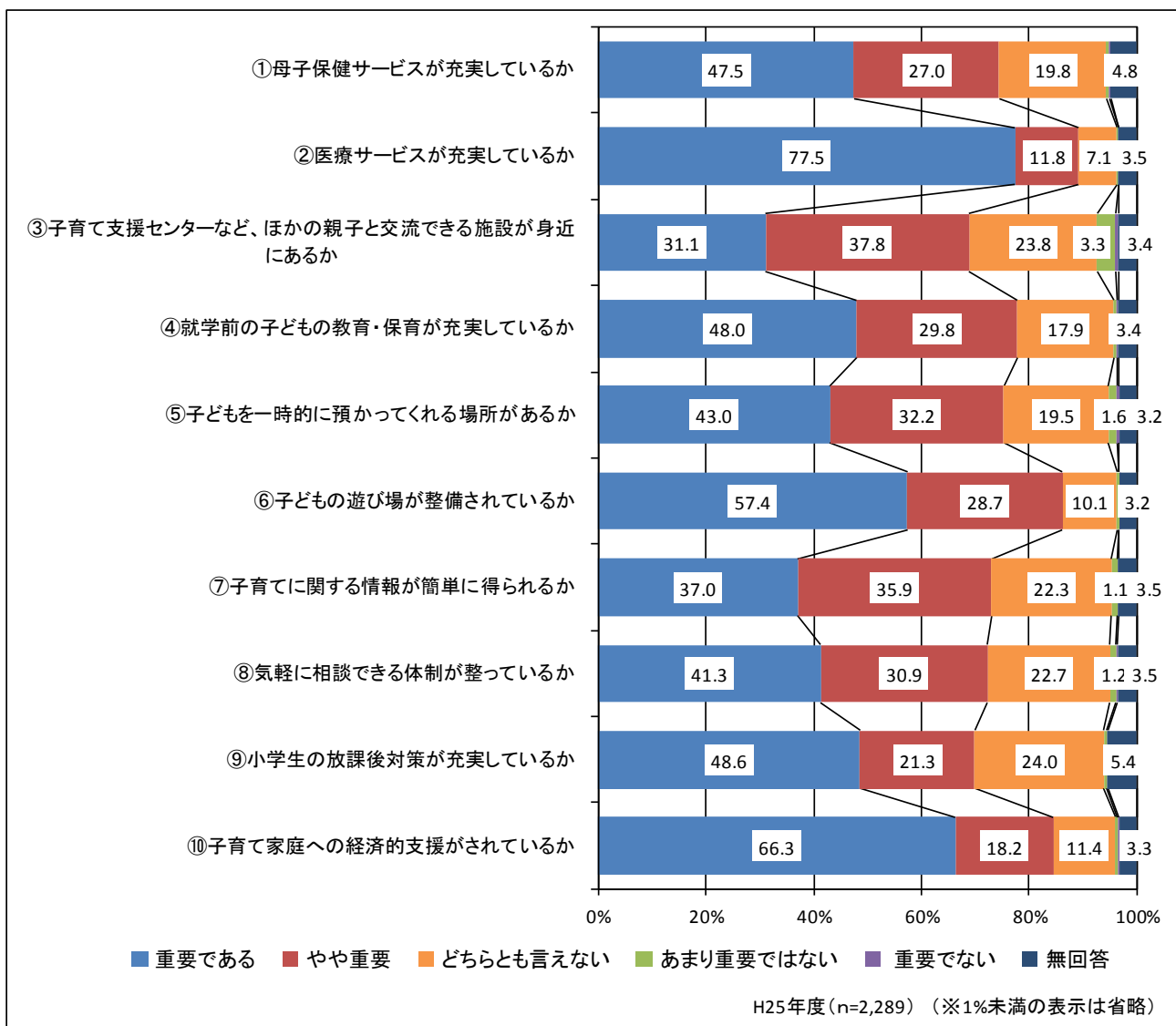
「重要度」

“重要”（「重要である」）+「やや重要」の比率が高いのは、⑥子どもの遊び場が整備されているか（86.3%）や②医療サービスが充実しているか（85.3%）、⑩子育て家庭への経済的支援がされているか（82.2%）、④就学前の子どもの教育・保育が充実しているか（80.4%）と続いており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

【今回】



【前回（平成 25 年度）】

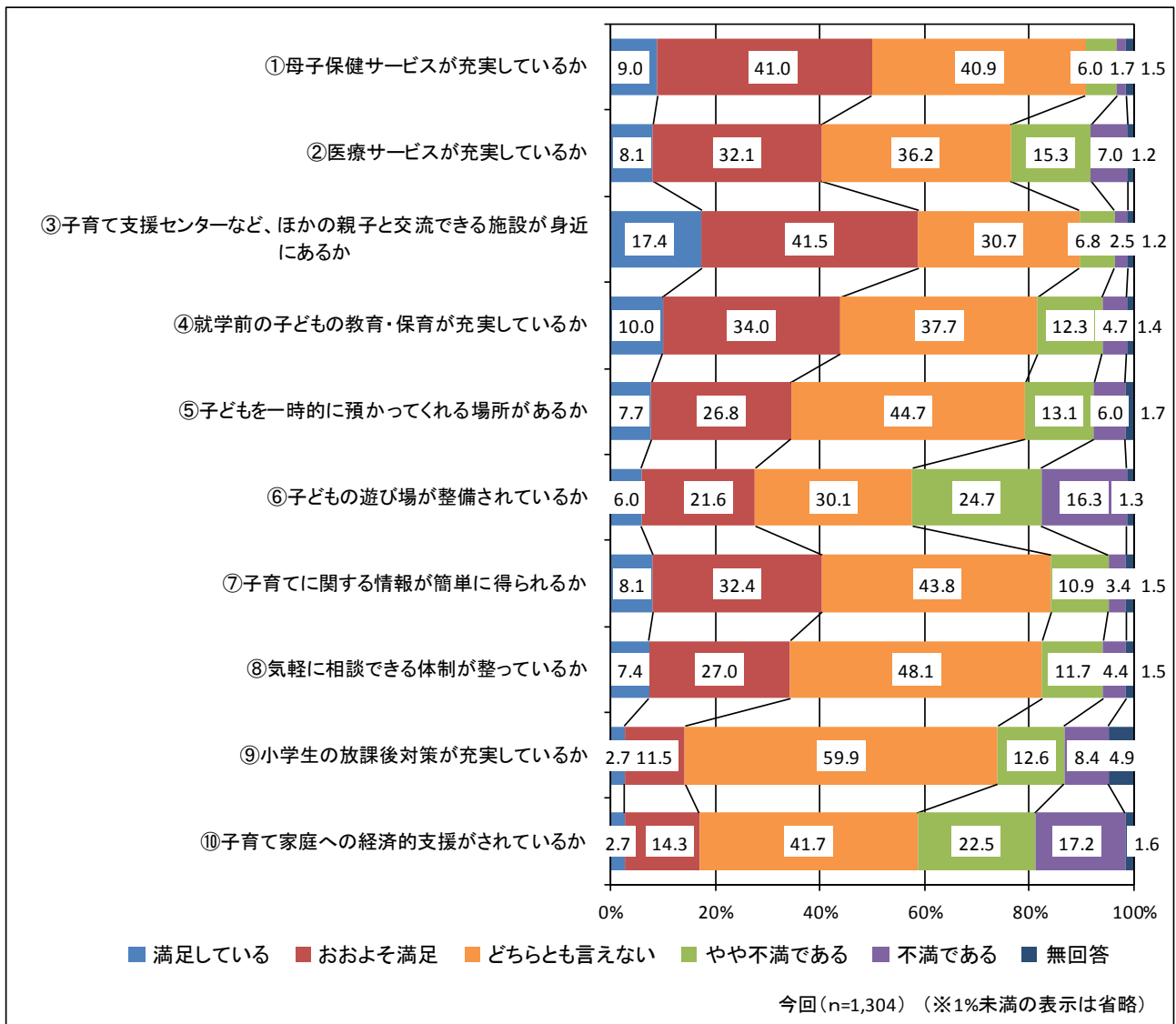


【就学前児童】

「満足度」

“満足”（「満足している」+「おおよそ満足」）の比率が高いのは、③子育て支援センターなど、ほかの親子と交流できる施設が身近にあるか（58.9%）や①母子保健サービスが充実しているか（50.0%）、④就学前の子どもの教育・保育が充実しているか（44.0%）、⑦子育てに関する情報が簡単に得られるか（40.5%）、②医療サービスが充実しているか（40.2%）と続いており、前回の調査と概ね同様の傾向となっています。

【今回】



【就学前児童】

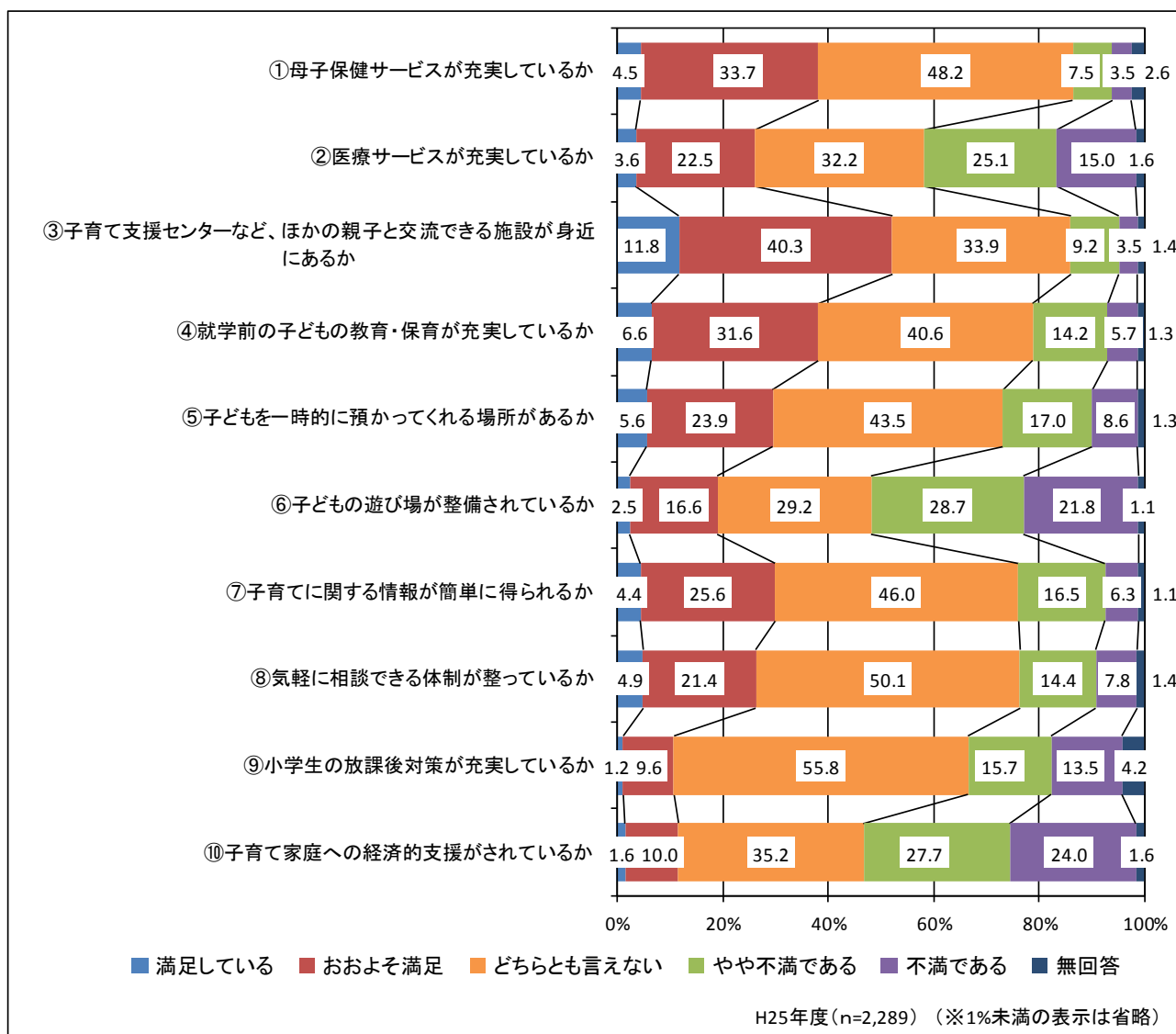
前回調査において重要度が高く満足度が低かった「②医療サービス」、「⑥子どもの遊び場」、「⑩経済的支援」についてみると、「重要度」は前回と同様に高い比率であり、一方、「満足度」はいずれも比率が増加しています。

【今回と前回（平成 25 年度）の比較】

項目	重要度		満足度	
	今回	平成 25 年度	今回	平成 25 年度
②医療サービスが充実しているか	85.3%	89.3%	40.2%	26.1%
⑥子どもの遊び場が整備されているか	86.3%	85.6%	27.6%	19.1%
⑩子育て家庭への経済的支援がされているか	82.2%	84.5%	17.0%	11.0%

※重要度：「重要である」+「やや重要」 満足度：「満足している」+「おおよそ満足」

【前回（平成 25 年度）】



【就学前児童】

⑩子育て家庭への経済的支援がされているか

「重要度」

【世帯年収×重要度】

上段：人、下段：%

項目	重要である	やや重要	どちらとも言えない	あまり重要ではない	重要でない	無回答	回答者数
なし	4	1	0	0	0	0	5
	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	30	7	3	1	0	8	49
	61.2%	14.3%	6.1%	2.0%	0.0%	16.3%	100.0%
200～300万円未満	66	13	7	0	0	3	89
	74.2%	14.6%	7.9%	0.0%	0.0%	3.4%	100.0%
300～500万円未満	269	53	40	1	0	15	378
	71.2%	14.0%	10.6%	0.3%	0.0%	4.0%	100.0%
500～700万円未満	285	72	56	4	0	18	435
	65.5%	16.6%	12.9%	0.9%	0.0%	4.1%	100.0%
700～1,000万円未満	160	41	30	6	0	9	246
	65.0%	16.7%	12.2%	2.4%	0.0%	3.7%	100.0%
1,000～1,500万円未満	41	18	16	1	1	3	80
	51.3%	22.5%	20.0%	1.3%	1.3%	3.8%	100.0%

「満足度」

【世帯年収×満足度】

上段：人、下段：%

項目	満足している	おおよそ満足	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	回答者数
なし	0	2	3	0	0	0	5
	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	4	1	12	16	13	3	49
	8.2%	2.0%	24.5%	32.7%	26.5%	6.1%	100.0%
200～300万円未満	4	12	31	23	19	0	89
	4.5%	13.5%	34.8%	25.8%	21.3%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	9	44	155	81	80	9	378
	2.4%	11.6%	41.0%	21.4%	21.2%	2.4%	100.0%
500～700万円未満	8	61	185	110	65	6	435
	1.8%	14.0%	42.5%	25.3%	14.9%	1.4%	100.0%
700～1,000万円未満	6	45	111	47	36	1	246
	2.4%	18.3%	45.1%	19.1%	14.6%	0.4%	100.0%
1,000～1,500万円未満	3	18	37	13	8	1	80
	3.8%	22.5%	46.3%	16.3%	10.0%	1.3%	100.0%

問42 今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくためには、どのような取組が必要か。その他、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見（自由記載）

今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくために必要な取組みや、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見（自由記載）については、「遊び場（公園等を含む）整備について」（200件）や「保育園について」（85件）、「医療機関について」（74件）」などに関する内容が上位にあげられています。

No.	項目	件数
1	遊び場（公園等を含む）整備について	200
2	保育園について	85
3	医療機関について	74
4	子育て支援施設の整備や親子交流の場等について	68
5	一時預かり・託児サービスについて	53
6	政策・行政について	53
7	保育料について	52
8	情報提供について	50
9	母子保健について	47
10	仕事と子育ての両立支援について	44
11	経済的支援について	42
12	放課後児童クラブや学童クラブ等について	40
13	児童手当・医療福祉費支給制度について	33
14	幼稚園について	24
15	病児・病後児保育について	24
16	学校・教育について	24
17	子育て世代に配慮した施設等について	20
18	相談事業について	20
19	防犯・安全対策について	19
20	商業施設	15
21	講座・イベント等	14
22	子育て観について	13
23	交通支援（スクールバス等も含む）について	12
24	特別な支援を要するお子さんへの支援について	10
25	ひとり親世帯への支援	10
26	就労支援について	6
27	認定こども園	6
28	放射能対策について	2
29	その他	65

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【小・中・特別支援学校】

I 調査の概要

1 調査の目的

2020年度を初年度とする次期計画の策定に当たり、これまでの事業を振り返り、さらに日立市の子どもや子育て家庭の実情やニーズに合ったものとするため、現在子育てをされている家庭の現状や、子ども・子育て支援サービスの利用希望に関するニーズ調査を実施した。

2 調査の対象者及び抽出方法

調査対象者	抽出方法
市内の公立小・中・特別支援学校に通う児童・生徒（全学年）の保護者	各学校の小学1年生～6年生、中学1年生～3年生のクラスを任意に抽出

3 調査実施方法及び期間

- ・調査実施方法：学校を通しての配布・回収
- ・調査実施期間：平成30年11月28日（水）～12月14日（金）

4 アンケート回収結果

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,022人	1,852人	1,835人	90.8%

（※有効回収数＝回収数－白紙回答）

5 集計結果の見方

- ・集計結果を百分率（%）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・回答がない場合や、定められた以上の回答があった場合（一つ選択する設問で複数選択など）は「無回答」として集計する。
- ・グラフ等表示に際して、選択肢が多い場合や文言が長い場合は、選択肢の文言を簡略化したり、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。
- ・前回調査は、平成25年11月に実施した「日立市子育て支援に関するアンケート調査」のことである。（抽出数 小学生調査3,000人）

Ⅱ 調査結果（概要）

1 住まいの地域について

住まいの地域は、「多賀地区」が29.4%、「本庁地区」が26.4%、「北部地区」が21.9%、「南部地区」が21.1%となっています。

2 お子さんご家族の状況について

回答者のおさんは、小学生約6割、中学生が約4割となっています。なお、各学年ともおおむね10%前後となっています。また、子どもの数は、「2人」が50.5%で最も比率が高くなっています。

本調査の回答者は、「母親」が93.1%と大多数を占めており、「配偶者（夫・妻）がいる」が88.6%、「配偶者（夫・妻）はいない」は11.2%となっています。また、親の年齢は、父親、母親とも「40代」が約6割を占めています。

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人がいるかは、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が54.3%と最も比率が高くなっています。「みてもらえる人はいない」（11.4%）は“年収”との関連や、“配偶者はいない”で比率が高くなっています。

世帯の合計年収は、「500～700万円未満」が29.2%で最も比率が高く、次いで「300～500万円未満」が25.2%、「700～1,000万円未満」が18.5%と続いています。

住居の形態は、「持家（一戸建て）」が73.1%で多数を占めており、次いで「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」が11.3%となっています。「持家（一戸建て）」は“年収が高い”で、「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」は“年収”との関連や、“配偶者はいない”、子どもの“年齢が低い”で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

暮らしの状況は、「大変ゆとりがある」（1.2%）と「ややゆとりがある」（7.8%）を合わせて『ゆとりがある』が9.0%となっており、「大変苦しい」（11.0%）と「やや苦しい」（30.4%）を合わせた『苦しい』が41.4%で上回っています。「やや苦しい」及び「大変苦しい」は“年収”との関連や、子どもの“年齢が高い”、“配偶者はいない”で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

家庭の家計については、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が52.3%で最も比率が高く、「赤字であり、借金をして生活している」は8.6%となっています。「赤字であり借金をして生活している」は“年収500万円未満”世帯との関連や、“子どもの年齢が高い”、“配偶者はいない”で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

3 保護者の就労状況について

(1) 「母親」の就労について（父子家庭の場合は、回答不要）

母親の職業は、「パート・アルバイト・非常勤社員」（45.2%）が最も比率が高く、「民間企業の正社員」（11.6%）、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」（4.6%）、「自営業（家族従業者含む）」（4.5%）と続いています。なお、「専業主婦」は27.7%となっています。

母親の就労状況は、「パート・アルバイト（産休中等ではない）」が45.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が25.6%、「フルタイムで（産休中等ではない）」が24.2%となっており、前回と比較すると、“就労していない”の比率が低下し、「フルタイム」や「パート・アルバイト」の比率が増加しています。

母親が就労している方の週あたりの就労日数は、「5日」（61.8%）が多数を占め、1日あたりの就労時間は、「5～6時間」（37.6%）や「7～8時間」（35.1%）が多くなっています。家を出る時刻は、「8時」（44.3%）で、帰宅時刻は、「15時」から「19時」となっています。

「パート・アルバイト」などで就労している方の「フルタイム」への変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が29.5%、「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」は7.2%となっています。

現在就労していない方の就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が38.3%、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったころに就労したい」が28.9%となっています。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望就労形態は、「パートタイム、アルバイト」が87.8%、「フルタイム」が11.7%となっており、希望就労日数は「3日」（38.4%）や「4日」（33.1%）となっています。「パートタイム、アルバイトなど」の希望就労時間は、「4時間」から「6時間」が9割近くを占めています。

以前は就労していたが、現在は就労していない方（母親）が仕事を退職した時期は、「結婚したとき」（34.6%）と「1人目のお子さんの出産時期」（32.7%）が多くなっています。

辞めた理由については、「就労・職場関連」（75件）や「育児・子育て」（68件）、「妊娠・出産関連」（63件）などの意見があげられています。

(2) 「父親」の就労について（母子家庭の場合は、回答不要）

父親の職業は、「民間企業の正社員」が60.5%と多数を占め、次いで「会社役員」（15.1%）、「自営業（家族従業者含む）」（8.7%）、「公務員」（5.4%）などと続いています。

父親の就労状況は、「フルタイム（産休中等ではない）」が93.3%で大多数を占め、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.7%、「パート・アルバイト（産休中等ではない）」が0.3%となっています。

【小・中・特別支援学校】

父親が就労している方の週あたりの就労日数は、「5日」（70.2%）が多数を占め、1日あたりの就労時間は、「8時間」（34.4%）や「10時間」（23.9%）が多くなっています。家を出る時刻は、「7時」（44.5%）で、帰宅時刻は、「18時」から「20時」となっています。

「パート・アルバイト」などで就労している方の「フルタイム」への変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が40.0%、「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」及び「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」がともに20.0%となっています。

現在就労していない方の就労希望については、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が38.5%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が30.8%となっています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望就労形態は、「フルタイム」が100%となっています。

以前は就労していたが、現在は就労していない方（父親）が仕事を退職した時期は、「その他」が83.3%で多数を占め、「小学校に入学する時期」が8.3%となっています。なお、「その他」の意見では、“病気”や“小学校の卒業時期”“震災後”となっています。

（3）仕事と子育てについて

育児のために勤務時間を減らしたり、退職や転職した経験があるかについては、「退職したことがある」は28.2%、「勤務時間を減らしたことがある」は24.1%となっています。

仕事と育児を両立させることの困難度（「5」が最大）は、「4」が36.6%、「3」が31.3%、「5」が16.8%となっています。

4 小学生・小学部のお子さんの放課後などの過ごし方について

（1）学童保育の利用について

利用しているクラブは「放課後児童クラブ（学童クラブ）」が12.2%、「私立保育園・私立幼稚園が実施している学童保育」が2.6%となっています（「利用していない」が83.8%）。

利用していない理由は「利用する必要がない」（43.3%）が最も多く、今後の利用についても「今後も利用しない」が81.9%と多数を占めています。

今後は「利用したい」（10.2%）と回答した方の「平日（月曜日～金曜日）」、「土曜日」、「日曜日、祝日」、「夏休み等の長期休暇中」の利用希望は、それぞれ以下のとおりです。

- ・平日の利用希望日数は「5日」（46.2%）で、利用希望終了時間は「18時」（47.8%）が最も比率が高い回答となっています。
- ・土曜日の利用希望は17.2%（無回答の82.8%を除く）で、1か月あたり利用希望日数は「4日」（6.5%）で、利用希望開始時間は、「8時」（47.1%）、利用希望終了時間は「18時」（35.3%）がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。

- ・日曜日・祝日の利用希望は9.7%で、1か月あたり利用希望日数は、「3日」及び「4日」がともに4.3%で、利用希望開始時間は「8時」(40.0%)、利用希望終了時間は「18時」(40.0%)がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。
- ・長期休暇期間中の利用希望については、「ほぼ毎日利用したい」が53.8%と、「時々利用したい」が25.8%となっています。利用希望開始時間は、「8時」(54.1%)、利用希望終了時間は「18時」(37.8%)がそれぞれ最も比率が高い回答となっています。

今後の学童保育の利用希望学年は、「小学6年生」が72.0%と多数を占めており、次いで「小学4年生」が14.0%となっています。

学童保育を利用したい理由は、「子どもの教育や発達のため」(55.9%)や「保護者が現在就労している」(31.2%)が上位となっています。

(2) 放課後の過ごし方について

現在、放課後に過ごしている場所は、「自宅」(85.1%)や「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(49.2%)が多く、「放課後児童クラブ[学童クラブ]」は11.9%となっており、「放課後児童クラブ[学童クラブ]」は、小学1～3年生の2割前後が、週4～5日利用しています。

今後、低学年(1～3年生)の放課後に過ごさせたい場所は、「自宅」(46.9%)や「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(29.8%)が多く、「放課後児童クラブ[学童クラブ]」は14.1%となっています。「放課後児童クラブ[学童クラブ]」は、「母親が就労(特に「フルタイム」)している」や「配偶者はいない」で高い比率となっています。

高学年(4～6年生)の放課後に過ごさせたい場所も同様に、「自宅」(69.7%)や「習い事(スポーツ教室、学習塾など)」(45.6%)が多く、「放課後児童クラブ[学童クラブ]」は9.3%となっています。「放課後児童クラブ[学童クラブ]」についてみると、低学年で「母親が就労(特に「フルタイム」)している」方で比率が高くなっています。

放課後の過ごし方について、「とても満足している」は20.3%、「まあまあ満足している」は65.3%と、「満足」の割合は高くなっています。

“放課後”の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」(84.9%)や「自主学習に取り組める」(57.8%)が半数を超え、特に高い比率となっています。“週休日や長期休暇期間”については、「楽しく安全に遊ぶ」(81.6%)や「自主学習に取り組める」(54.9%)は、“放課後”と同程度の高い比率となっていますが、「さまざまなことが体験できる」(70.3%)や「子どものやりたいことが自由にできる」(61.8%)は比率が高くなっています。

その他、今後、望むことについては、「長期休暇及び休暇中の取組み」や「児童(学童)クラブについて(料金・日数・格差・人等)」、「遊び」「公園・遊び場」などの回答が多くなっています。

【小・中・特別支援学校】

“放課後”にさせたい活動は、「勉強」(71.9%)や「スポーツ体験」(53.4%)が、“週休日や長期休暇期間中”にさせたい活動は、「野外体験・自然体験」(64.6%)や「スポーツ体験」(63.4%)、「勉強」(61.9%)がいずれも半数を超える高い比率となっています。

その他、お子さんにさせてみたいことでは、「キャンプ等自然体験」や「英語学習、海外交流等」、「運動・スポーツ」などの回答が多くなっています。

5 中学生・中学部のお子さんの放課後などの過ごし方について

お子さんの登校の様子については、「ほとんど休まず登校している」が87.9%で多数を占めています。「よく休むことがある」は2.1%と比率が低いものの、“配偶者はいない”で他より比率が高い傾向が見受けられます。

放課後の過ごし方については、「部活動」(56.6%)や「スマホ・ゲーム」(45.9%)、「塾」(41.6%)などが上位となっています。

お子さんの主に勉強する場所は、「自宅(居間)」が47.2%「自宅(自室)」が37.1%、「学校」及び「塾の自習室」がともに5.1%となっています。

6 子育てに関する悩みや相談先について

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることは、「子どもの教育に関すること」(24.4%)や「子どもを叱りすぎているような気がする」(19.1%)、「子どもの発育や発達に関すること」(18.8%)、「子どもの友だちづきあい(いじめなどを含む)に関すること」(18.4%)と続いています。なお、「特になし」は17.1%となっています。「子どもの教育」は“中学生”で、「子どもを叱りすぎている」や「子どもの発育や発達」は“小学生”で、それぞれ他より比率が高くなっています。

「子どもの発育や発達に関すること」が不安な方の相談先は、「配偶者(夫または妻)」(68.4%)や「祖父母などの親族」(45.8%)、「近隣の人、友人や知人など」(44.6%)など身近な人が上位を占めています。これらはいずれも“小学生”で比率が高く、“中学生”の方が比率が高いのは「医師・看護師・助産師など」となっています。

発育や発達に関して必要なサポートについては、「相談支援」(62.6%)や「療育支援(心身の発達を促すための支援など)」(38.8%)、「医療支援」(28.4%)が上位となっており、「相談支援」や「療育支援」は“小学生”で、「医療支援」は“中学生”で、それぞれ他より比率が高くなっています。

具体的なサポートとしては、「相談・指導体制等(専門家、ネット・電話等)」や「学校の理解・支援体制充実」、「医療機関・体制の充実」などの回答が多くなっています。

7 お子さんのことについて

(1) 生活の様子

お子さんの平日の起床時間と就寝時間については、「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」が70.1%と多数を占めており、「配偶者がいる」世帯で比率が高い傾向が見受けられます。

平日の起床時間は、「6時」(43.7%)や「7時」(32.2%)が多数を占め、就寝時間は「22時」(36.9%)や「21時」(29.6%)が多くなっています。学校を「休むことがある」世帯の就寝時間は「23時」や「24時」の遅い時間の比率がやや高くなっています。

お子さんの1日の歯磨きの回数については、「1日3回」が61.9%で最も比率が高く、朝食の有無については、「いつも食べる」が90.5%で大多数を占めています。これらの回答は、「配偶者がいる」世帯で比率が高い傾向が見受けられます。

お子さんと夕食を共にする家族については、「家族のだれかと(大人)」が52.5%で最も比率が高く、次いで「家族全員そろって」が33.4%となっています。「家族全員そろって」は「配偶者がいない」世帯で比率が高い傾向が見受けられます。

(2) 教育について

お子さんに受けさせたい教育については、「大学」が55.0%で最も比率が高く、「配偶者がいる」や「年収500万円以上」世帯で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。

教育について不安なことについては、「経済的な余裕がない」(36.1%)や「こどもの学力」(33.2%)が多く、「こどもの学力」は「年収700万円以上」世帯で比率が高い傾向が見受けられます。

(3) 子どもと行うことについて

お子さんと将来(夢、進路、職業等)について、一緒に考えたり、話すことは、「たまにする」(59.5%)や「よくしている」(23.4%)の比率が高くなっています。

月に数回お子さんと共に行っていることについては、「お子さんと学校生活の話をする」(95.3%)、「お子さんと一緒に外出をする」(94.4%)、「お子さんとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(90.4%)が特に高い比率となっています。

支援制度で「利用したことがある」比率が高いのは、「子どもセンター」(19.7%)や「学校が実施する学習支援」(12.6%)であり、一方、「制度について全く知らない」は、「子育て短期支援事業(ショートステイ)」(42.7%)や「フードバンクによる食糧支援」(44.0%)となっています。「制度について全く知らない」は「年収」との関連や、「利用したいと思ったことがない」は「年収の高い」世帯で比率が高い傾向が見受けられます。

8 すべての方

(1) 相談について

子育てについて気軽に相談できる人（ところ）は、「配偶者（夫または妻）」（74.6%）や「友人や知人」（73.1%）など身近な人の比率が高くなっており、一方、「相談相手がいない」は2.7%、「どこに相談したらいいのか、わからない」は1.6%となっています。

夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や育児などについての相談先は、「配偶者（夫または妻）」（71.3%）や「祖父母などの親族」（47.1%）に次いで、「病院・医院」（38.6%）、「ひたち健康ダイヤル24（電話相談）」（30.1%）の専門機関があげられています。なお、「相談相手がいない」は1.7%、「どこに相談したらいいのか、わからない」は2.0%となっています。

(2) 日立市の子育て支援の取り組みについて

“重要度”が高いのは、「医療サービスの充実」（79.8%）や「子育て家庭への経済的支援」（76.9%）、「子どもの遊び場の整備」（76.6%）、「子どもを一時的に預かってくれる場所」（70.0%）が上位となっています。

“満足度”が高いのは、「子育て支援センターなど、ほかの親子と交流できる施設が身近にあるか」（39.2%）や「医療サービスが充実しているか」（37.3%）、「就学前の子どもの教育・保育が充実しているか」（36.3%）、「母子保健サービスが充実しているか」（32.6%）が上位となっています。

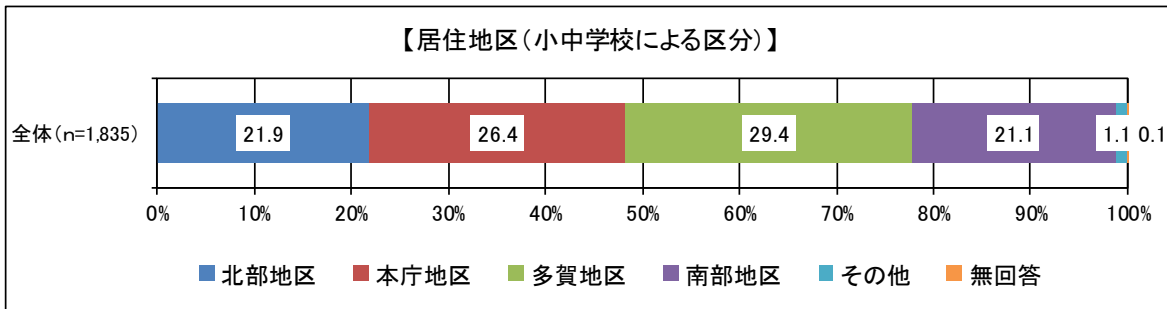
今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくために必要な取り組みや、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見（自由記載）については、「遊び場（公園等を含む）整備」や「学校・教育や施設整備」、「児童手当・医療福祉費支給制度」、「経済的な支援」などに関する内容が上位にあげられています。

Ⅲ 調査結果

1 住まいの地域について

問1 住まいの地域

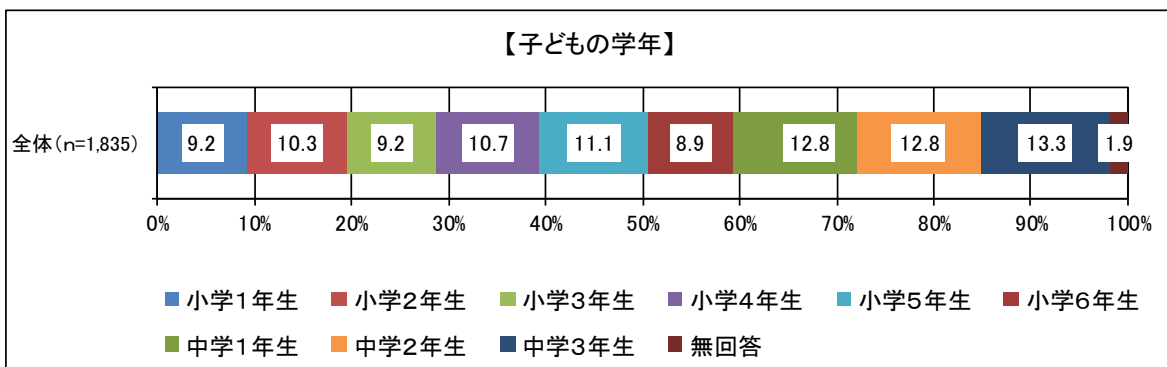
住まいの地域は、「多賀地区」が29.4%、「本庁地区」が26.4%、「北部地区」が21.9%、「南部地区」が21.1%となっています。



2 お子さんご家族の状況について

問2 子どもの学年

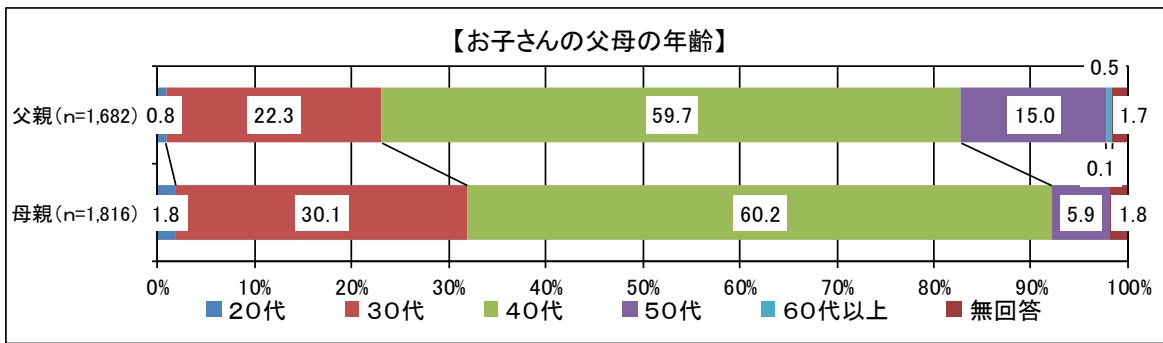
子どもの学年は、“小学生”は「小学1年生」及び「小学3年生」がともに9.2%、「小学2年生」が10.3%、「小学4年生」が10.7%、「小学5年生」が11.1%、「小学校6年生」が8.9%と続いており、“中学生”は「中学1年生」及び「中学2年生」がともに12.8%、「中学3年生」が13.3%となっています。



問3 父母の年齢

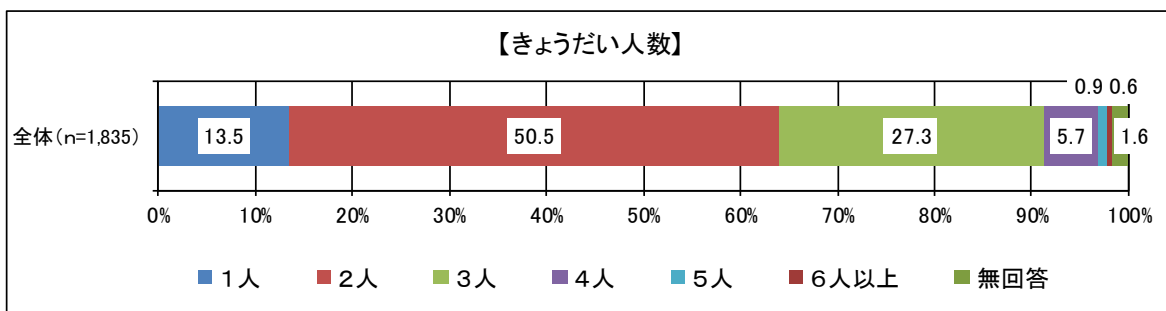
両親の年齢は、父親が「40代」が59.7%で最も比率が高く、次いで、「30代」が22.3%、「50代」が15.0%となっており、母親は「40代」が60.2%で最も比率が高く、次いで、「30代」が30.1%、「50代」が5.9%となっています。

【小・中・特別支援学校】



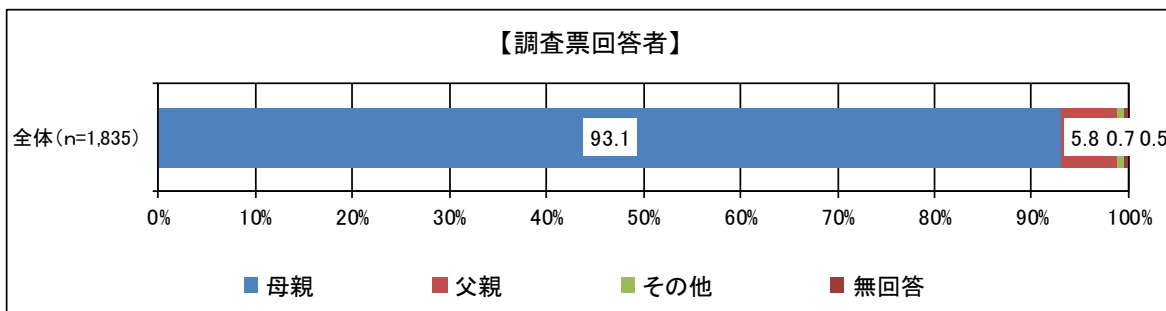
問4 子どもの数（何人きょうだい）

子どもの数は、「2人」が50.5%で最も比率が高く、次いで「3人」が27.3%、「1人」が13.5%となっています。



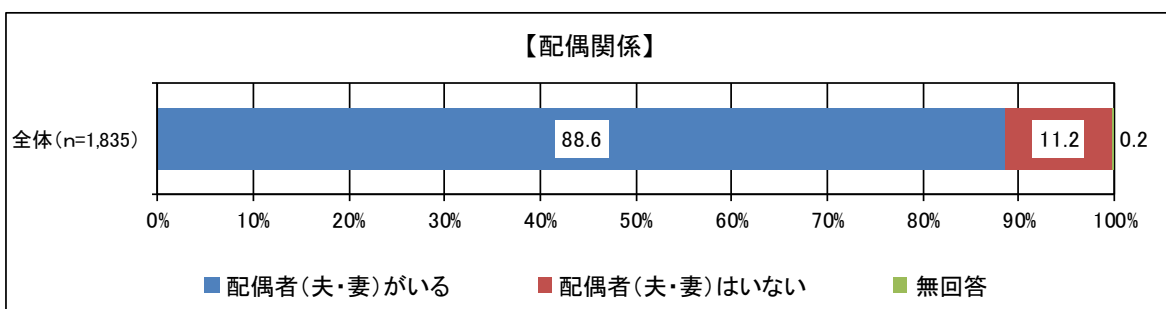
問5 調査票の回答者

本調査票の回答者は、「母親」が93.1%と大多数を占めており、「父親」は5.8%となっています。



問6 回答者の配偶関係

配偶関係は、「配偶者（夫・妻）がいる」が88.6%と大多数を占めており、「配偶者（夫・妻）はいない」は11.2%となっています。



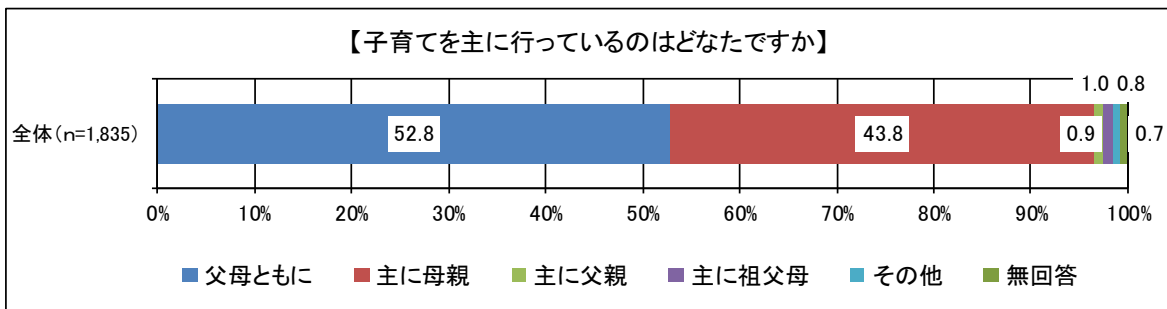
【世帯年収×配偶関係】

上段:人、下段:%

項目	配偶者(夫・妻)がいる	配偶者(夫・妻)はいない	無回答	回答者数
なし	4	16	0	20
	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	29	93	0	122
	23.8%	76.2%	0.0%	100.0%
200～300万円未満	93	48	0	141
	66.0%	34.0%	0.0%	100.0%
300～500万円未満	430	33	0	463
	92.9%	7.1%	0.0%	100.0%
500～700万円未満	529	6	0	535
	98.9%	1.1%	0.0%	100.0%
700～1,000万円未満	337	3	0	340
	99.1%	0.9%	0.0%	100.0%
1,000万円以上	143	1	0	144
	99.3%	0.7%	0.0%	100.0%

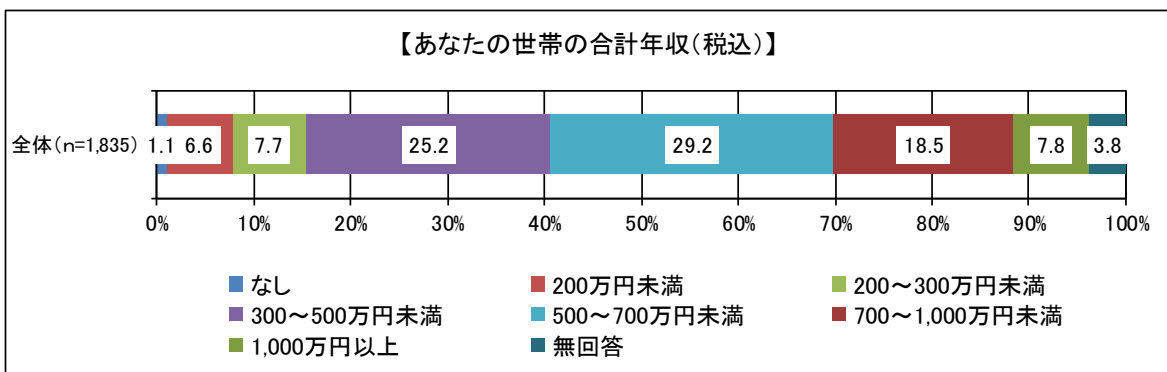
問7 子育てを主に行っている人

「父母ともに」が52.8%で最も比率が高く、次いで「主に母親」43.8%と続いています。



問8 世帯の合計年収

世帯の合計年収は、「500～700万円未満」が29.2%で最も比率が高く、次いで「300～500万円未満」が25.2%、「700～1,000万円未満」が18.5%と続いています。

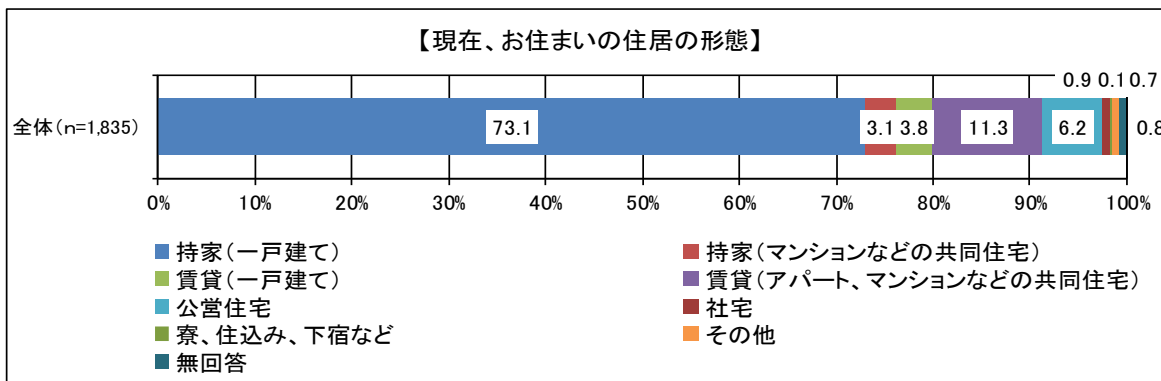


【小・中・特別支援学校】

問9 現在、住まいの住居の形態

住居の形態は、「持家（一戸建て）」が73.1%で多数を占めており、次いで「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」が11.3%、「賃貸（一戸建て）」が3.8%、「持家（マンションなどの共同住宅）」が3.1%などと続いています。

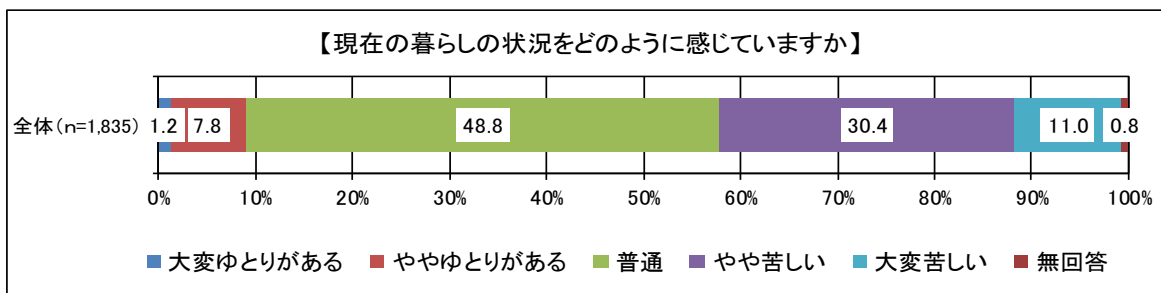
「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」は“配偶者はいない”、子どもの“年齢が低い”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



問10 現在の暮らしの状況

暮らしの状況は、「大変ゆとりがある」（1.2%）と「ややゆとりがある」（7.8%）を合わせて『ゆとりがある』が9.0%となっており、「大変苦しい」（11.0%）と「やや苦しい」（30.4%）を合わせた『苦しい』が41.4%で上回っています。

「やや苦しい」及び「大変苦しい」は“年収500万円未満”の世帯との関連や、子どもの“年齢が高い”方、“配偶者はいない”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



【世帯年収×暮らしの状況】

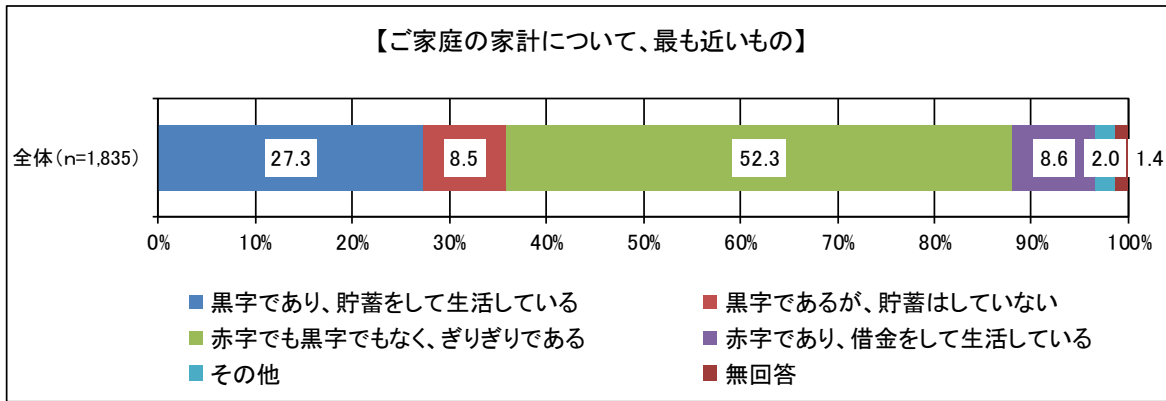
上段：人、下段：%

項目	大変ゆとりがある	ややゆとりがある	普通	やや苦しい	大変苦しい	無回答	回答者数
なし	0	0	4	6	10	0	20
	0.0%	0.0%	20.0%	30.0%	50.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	0	0	23	47	52	0	122
	0.0%	0.0%	18.9%	38.5%	42.6%	0.0%	100.0%
200～300万円未満	0	2	34	65	39	1	141
	0.0%	1.4%	24.1%	46.1%	27.7%	0.7%	100.0%
300～500万円未満	3	15	180	210	55	0	463
	0.6%	3.2%	38.9%	45.4%	11.9%	0.0%	100.0%
500～700万円未満	5	23	333	145	27	2	535
	0.9%	4.3%	62.2%	27.1%	5.0%	0.4%	100.0%
700～1,000万円未満	3	55	210	59	13	0	340
	0.9%	16.2%	61.8%	17.4%	3.8%	0.0%	100.0%
1,000万円以上	9	44	72	17	2	0	144
	6.3%	30.6%	50.0%	11.8%	1.4%	0.0%	100.0%

問 11 家庭の家計

家庭の家計については、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が 52.3%で最も比率が高く、次いで「黒字であり、貯蓄をして生活している」が 27.3%、「赤字であり、借金をして生活している」が 8.6%、「黒字であるが、貯蓄はしていない」が 8.5%となっています。

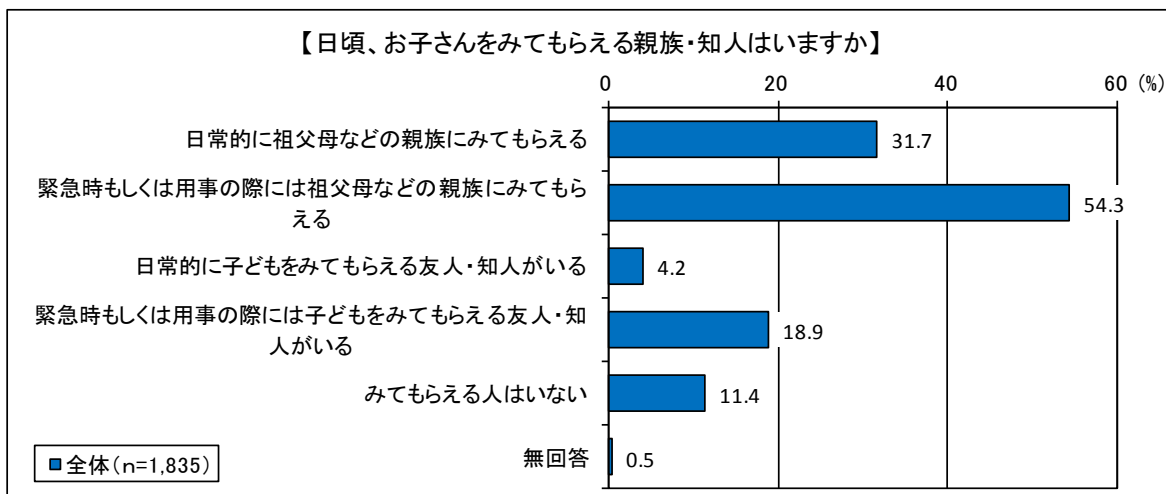
「赤字であり借金をして生活している」は“年収 500 万円未満”の世帯や、子どもの“年齢が高い”方、“配偶者はいない”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



問 12 日ごろ、お子さんをみてもらえる親族・知人の有無

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人がいるかは、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が 54.3%と最も比率が高く、次いで「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」(31.7%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(18.9%)と続いています。

「みてもらえる人はいない」(11.4%)は“配偶者はいない”は 17.0%と比率が高くなっています。



【配偶関係×子どもをみてもらえる人はいない】

項目	上段:人、下段:%		
	みてもらえる人はいない	非該当	回答者数
配偶者がいる	174	1,451	1,625
	10.7	89.3	100.0
配偶者はいない	35	171	206
	17.0	83.0	100.0

【小・中・特別支援学校】

【世帯年収×子どもをみてもらえる人】

上段：人、下段：%

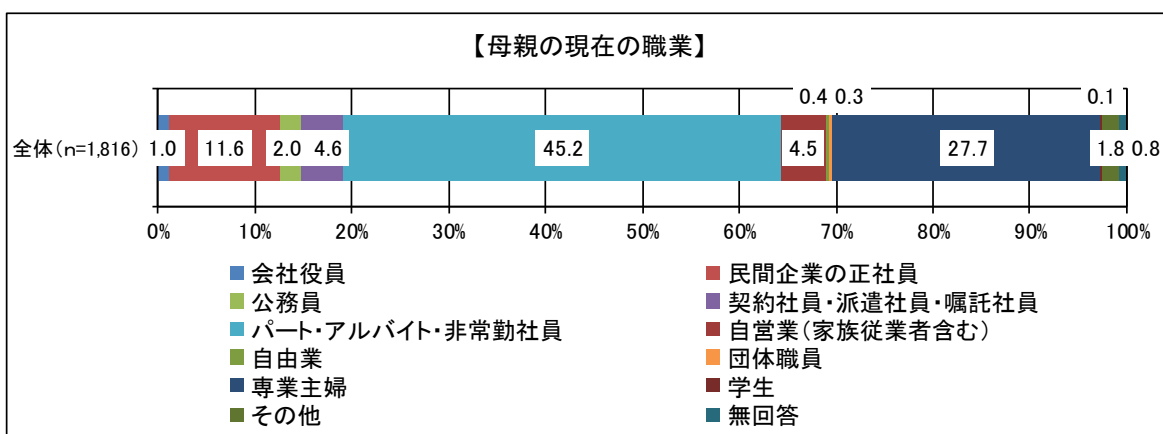
項目	日常的に祖父母などの親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	みてもらえる人はいない	無回答	回答者数
なし	6 30.0%	7 35.0%	3 15.0%	7 35.0%	5 25.0%	0 0.0%	20 100.0%
200万円未満	33 27.0%	58 47.5%	4 3.3%	18 14.8%	26 21.3%	1 0.8%	122 100.0%
200～300万円未満	47 33.3%	75 53.2%	7 5.0%	16 11.3%	24 17.0%	0 0.0%	141 100.0%
300～500万円未満	166 35.9%	246 53.1%	18 3.9%	79 17.1%	46 9.9%	0 0.0%	463 100.0%
500～700万円未満	173 32.3%	314 58.7%	23 4.3%	109 20.4%	52 9.7%	0 0.0%	535 100.0%
700～1,000万円未満	104 30.6%	181 53.2%	12 3.5%	72 21.2%	36 10.6%	0 0.0%	340 100.0%
1,000万円以上	34 23.6%	83 57.6%	5 3.5%	30 20.8%	14 9.7%	0 0.0%	144 100.0%

3 保護者の就労状況について

(1) 「母親」の就労について（父子家庭の場合は、回答不要）

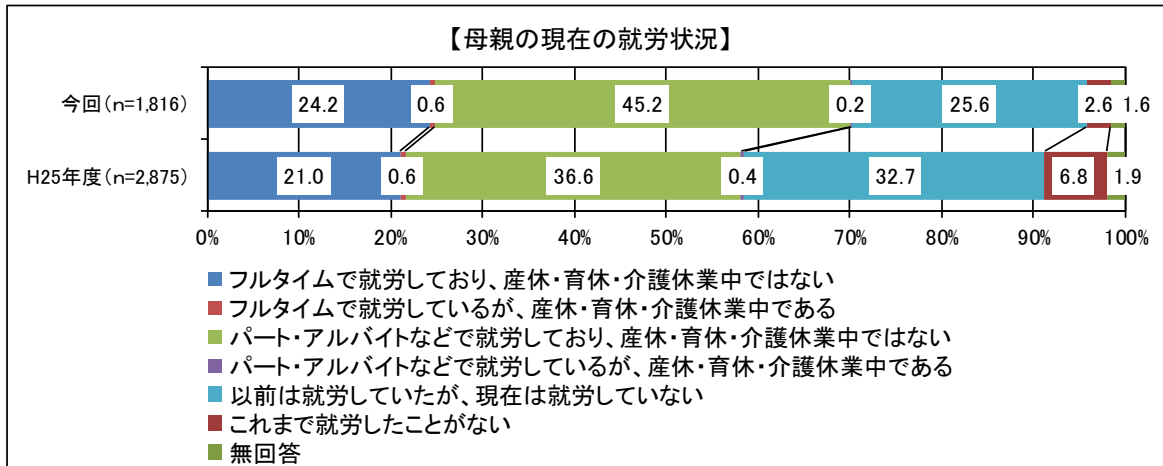
問 13 母親の現在の職業

母親の職業は、「パート・アルバイト・非常勤社員」で 45.2%が最も比率が高く、次いで「民間企業の正社員」(11.6%)、「契約社員・派遣社員・嘱託社員」(4.6%)、「自営業(家族従業者含む)」(4.5%)と続いています。なお、「専業主婦」は 27.7%となっています。



問 14 母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）

母親の就労状況は、「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が45.2%で最も比率が高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が25.6%、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が24.2%と続いています。前回と比較すると、「就労していない」の比率が低下し、「フルタイム」や「パート・アルバイト」の比率が増加しています。



【母親・就労していない×世帯年収】

上段：人、下段：%

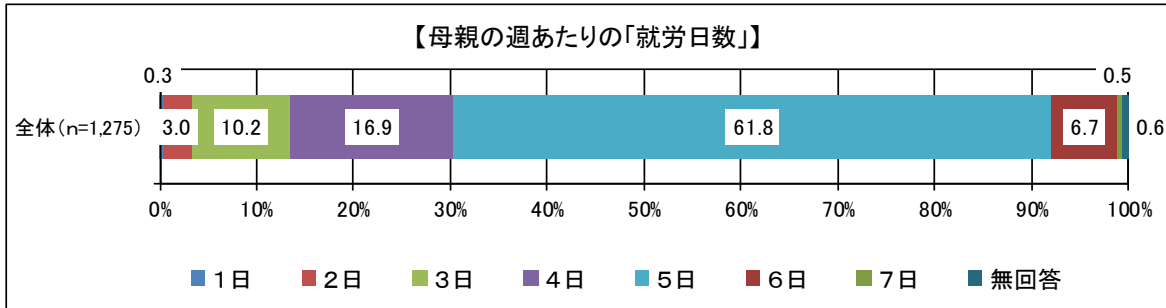
項目	なし	世帯年収						無回答	回答者数
		200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上		
現在は就労していない	15	16	30	125	134	93	35	17	465
	3.2	3.4	6.5	26.9	28.8	20.0	7.5	3.7	100.0
これまで就労したことがない	3	2	3	9	17	7	3	3	47
	6.4	4.3	6.4	19.1	36.2	14.9	6.4	6.4	100.0

【小・中・特別支援学校】

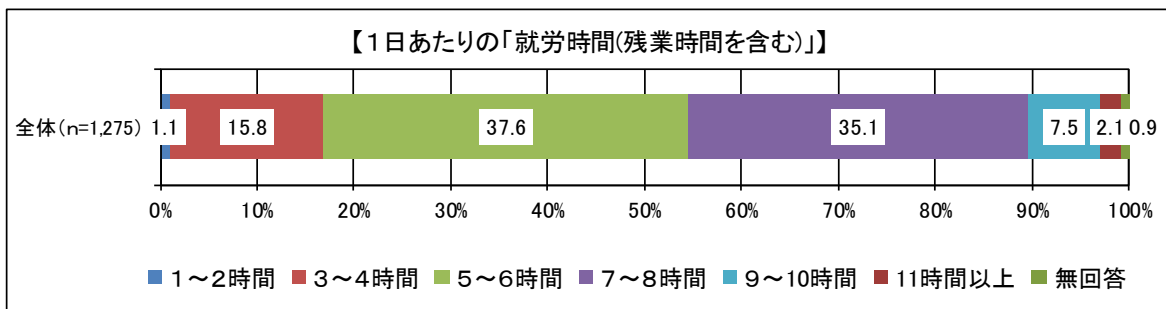
母親が（就労している）方のみ回答

問14-1 週あたりの就労日数と1日あたりの就労時間（残業時間を含む）

母親の週あたりの就労日数は、「5日」が61.8%で多数を占め、次いで「4日」が16.9%、「3日」が10.2%、「6日」が6.7%と続いています。

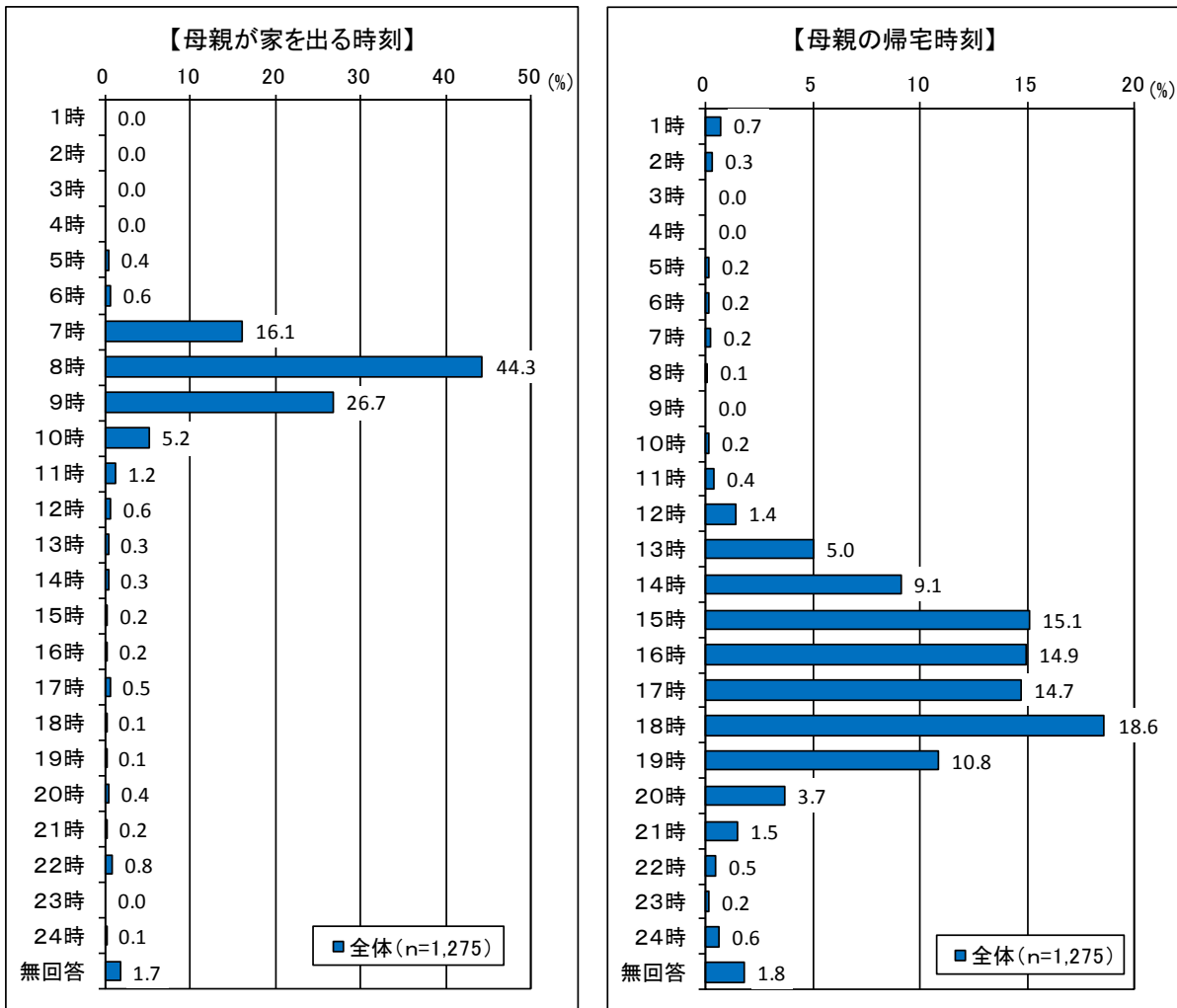


母親の1日あたりの就労時間は、「5～6時間」が37.6%で最も比率が高く、次いで「7～8時間」が35.1%、「3～4時間」が15.8%、「9～10時間」が7.5%となっています。



母親が家を出る時刻は、「8時」が44.3%で最も比率が高く、次いで「9時」が26.7%、「7時」が16.1%、「10時」が5.2%と続いています。

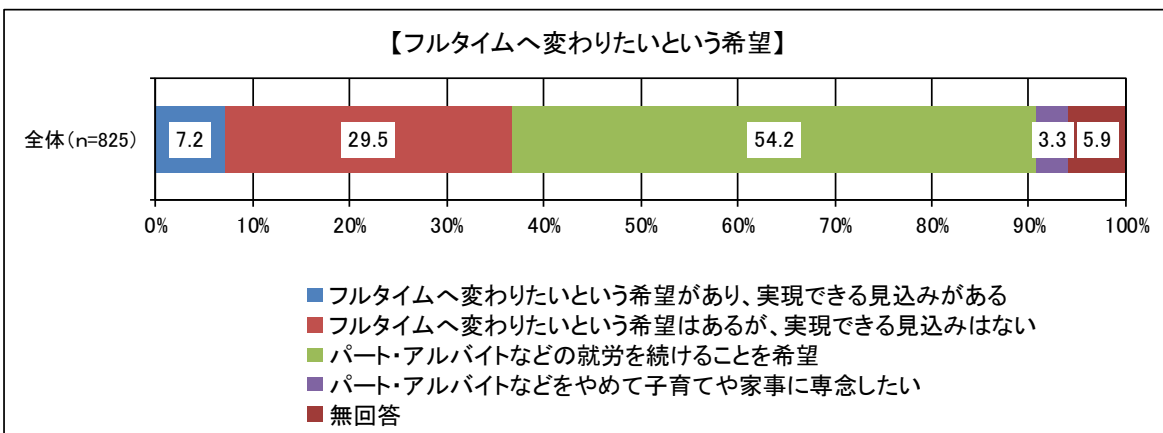
帰宅時刻は、「18時」が18.6%で最も比率が高く、次いで「15時」が15.1%、「16時」が14.9%、「17時」が14.7%、「19時」が10.8%となっています。



母親がパート・アルバイトなどで就労している方のみ回答

問 14-2 フルタイムの変更希望

フルタイムへの変更希望については、「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が 54.2%で最も比率が高く、次いで「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が 29.5%、「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」が 7.2%、「パート・アルバイトなどをやめて子育てや家事に専念したい」が 3.3%となっています。

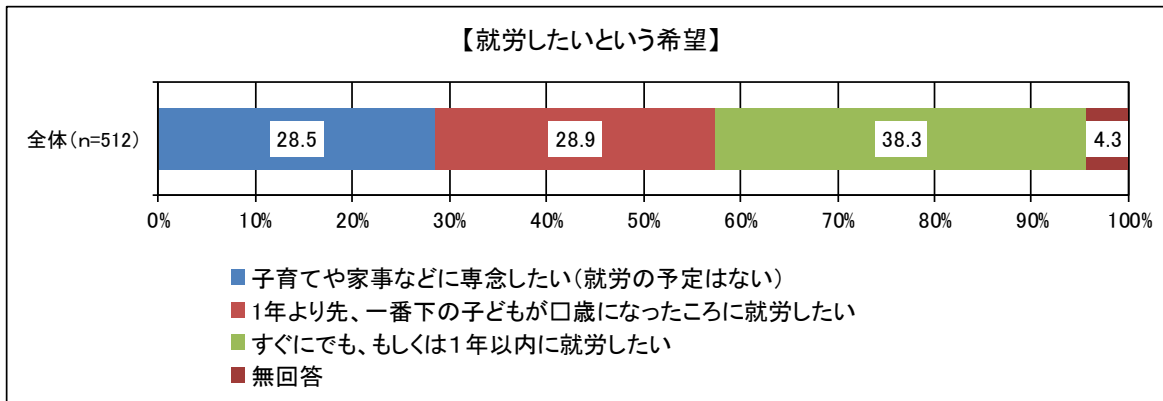


【小・中・特別支援学校】

以前は就労していたが、現在は就労していない方、または、これまで就労したことがない方のみ回答

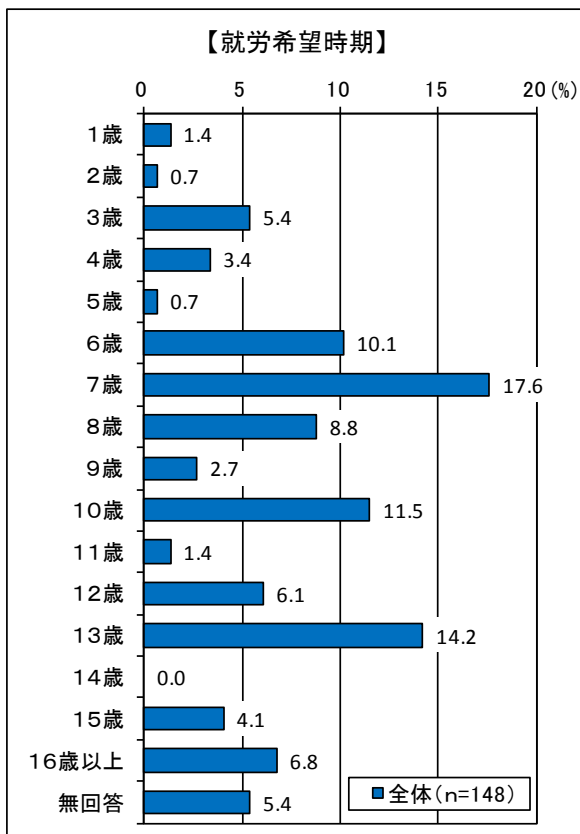
問 14-3 就労希望

就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 38.3%で最も比率が高く、次いで「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が 28.9%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 28.5%となっています。



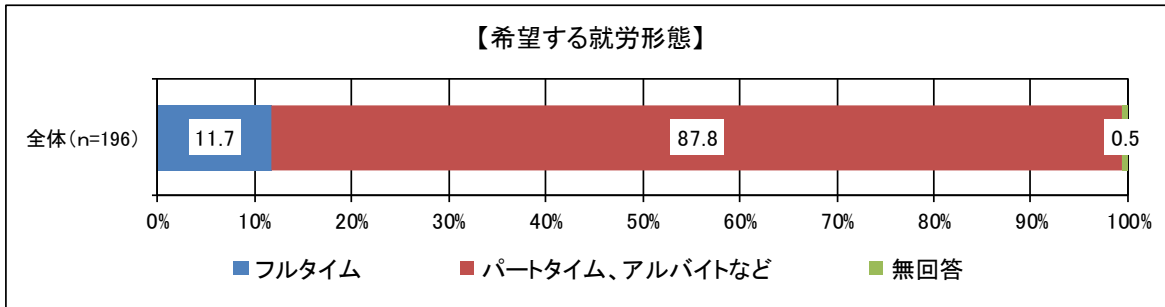
【「2 1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」の回答の子どもの年齢】

就労希望時期については、「7歳」が 17.6%で最も比率が高く、次いで「13歳」が 14.2%、「10歳」が 11.5%、「6歳」が 10.1%と続いています。



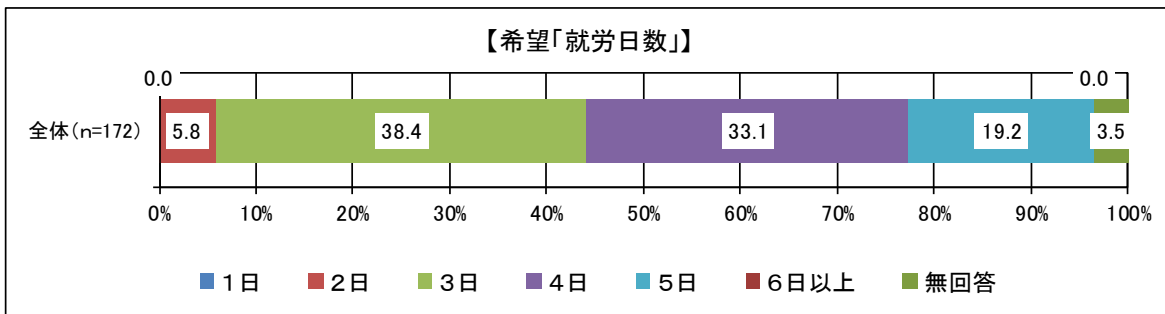
【「3 すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望する就労形態】

希望就労形態は、「パートタイム、アルバイトなど」が 87.8%、「フルタイム」が 11.7%となっています。



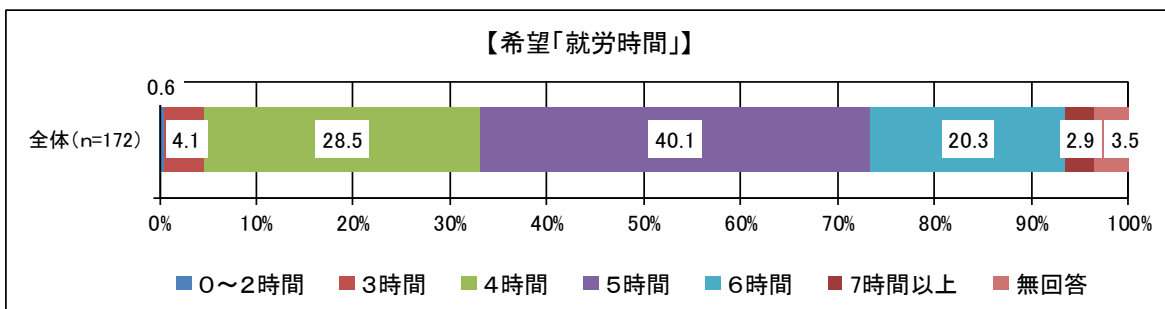
【上記で「2 パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する1週あたり就労日数】

希望就労日数は、「3日」が 38.4%で最も比率が高く、次いで「4日」が 33.1%、「5日」が 19.2%となっています。



【上記で「2 パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する1日あたり就労時間】

希望就労時間は、「5時間」が 40.1%で最も比率が高く、次いで「4時間」が 28.5%、「6時間」が 20.3%と続いています。

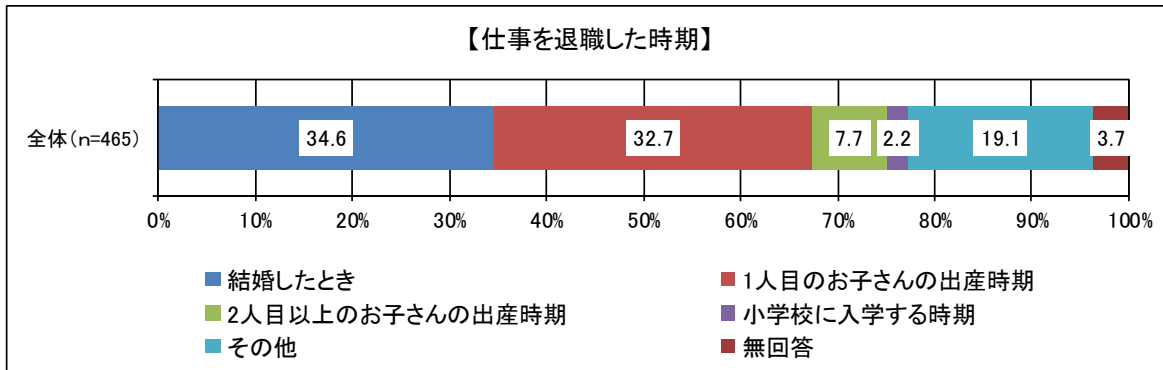


【小・中・特別支援学校】

以前は就労していたが、現在は就労していない方のみ回答

問 14-4 仕事を退職した時期

母親が仕事を退職した時期は、「結婚したとき」が 34.6%で最も比率が高く、次いで「1人目のお子さんの出産時期」が 32.7%、「2人目以上のお子さんの出産時期」が 7.7%、「小学校に入学する時期」が 2.2%となっています。



辞めたのはどのような理由でしたか。

辞めた理由については、「就労・職場関連」(75件)や「育児・子育て」(68件)、「妊娠・出産関連」(63件)などの意見があげられています。

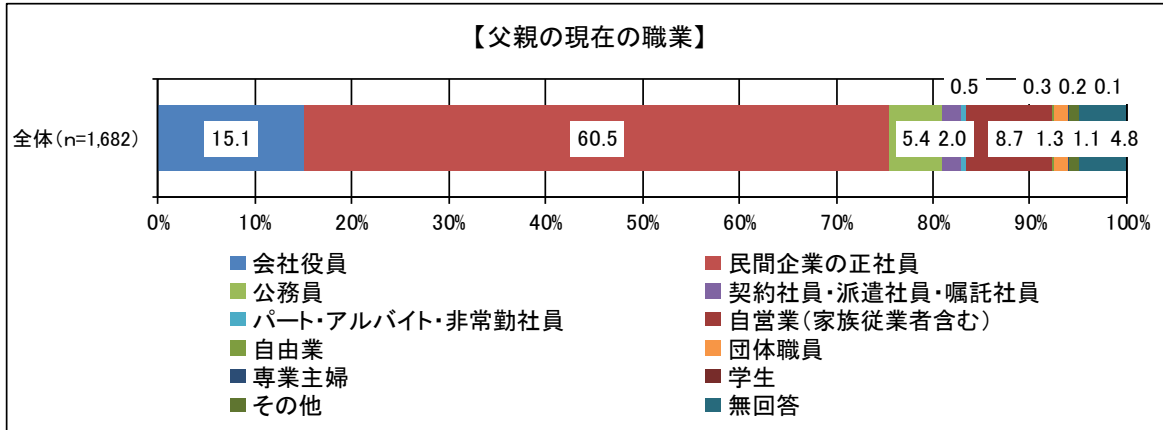
No.	項目	件数
1	就労・職場関連	75
2	育児・子育て	68
3	妊娠・出産関連	63
4	移転、転勤など	39
5	病気やケガ(本人・家族)	29
6	両立が難しい	19
7	子どもの学校関係	7
8	預かり等	6
9	子どもの病気・障がいなど	3
-	その他	16

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

「父親」の就労について

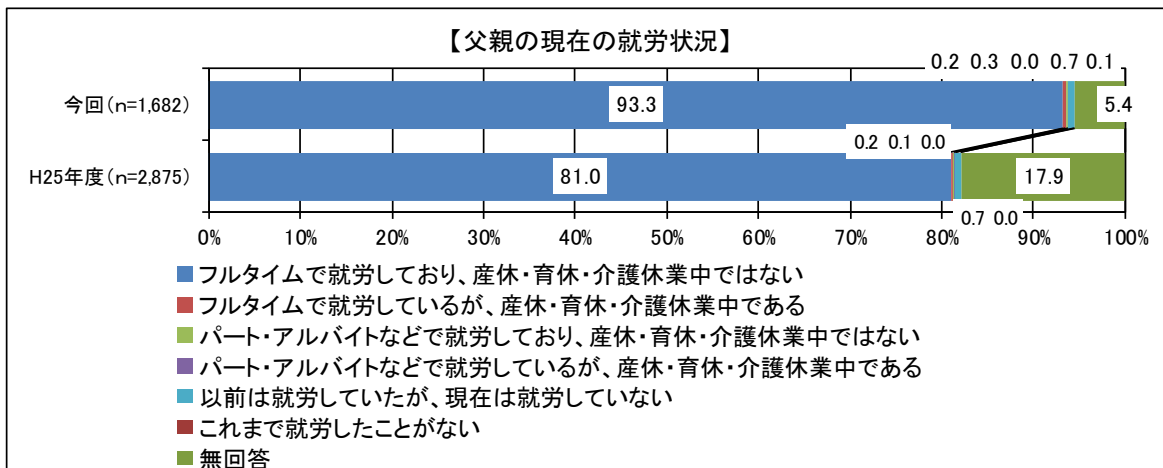
問 15 父親の現在の職業

父親の職業は、「民間企業の正社員」が 60.5%と多数を占め、次いで「会社役員」(15.1%)、「自営業(家族従業者含む)」(8.7%)、「公務員」(5.4%)などと続いています。



問 16 父親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）

父親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 93.3%で大多数を占め、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 0.7%、「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 0.3%と続いています。前回は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が多数を占めており、概ね同様の状況にあります。



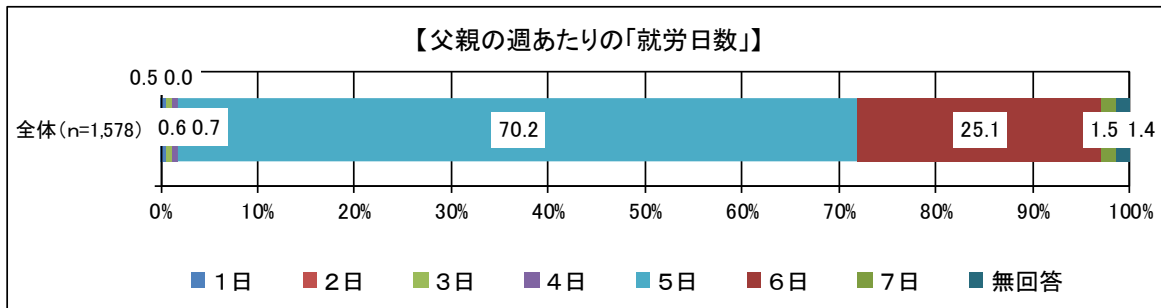
※前回（平成 25 年度）調査の無回答には、「母子家庭」や「両親のいない家庭」を含みます。

【小・中・特別支援学校】

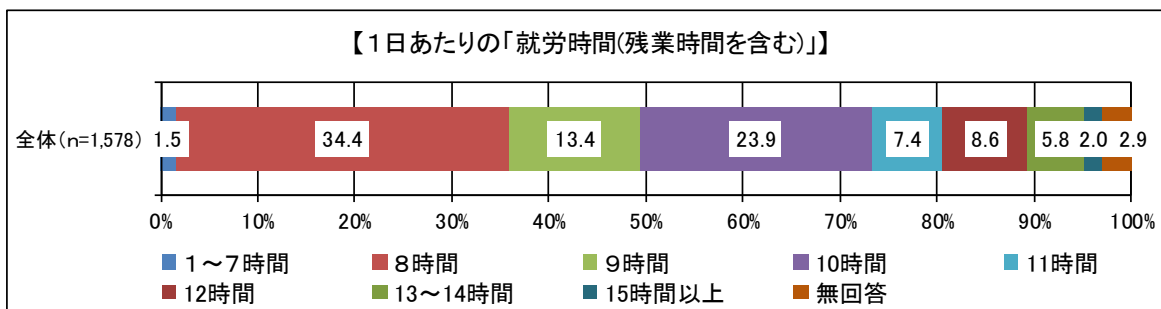
父親が就労している方のみ回答

問16-1 週あたりの「就労日数」と1日あたりの「就労時間(残業時間を含む)」

父親の週あたりの就労日数は、「5日」が70.2%で多数を占め、次いで「6日」が25.1%、「7日」が1.5%と続いています。

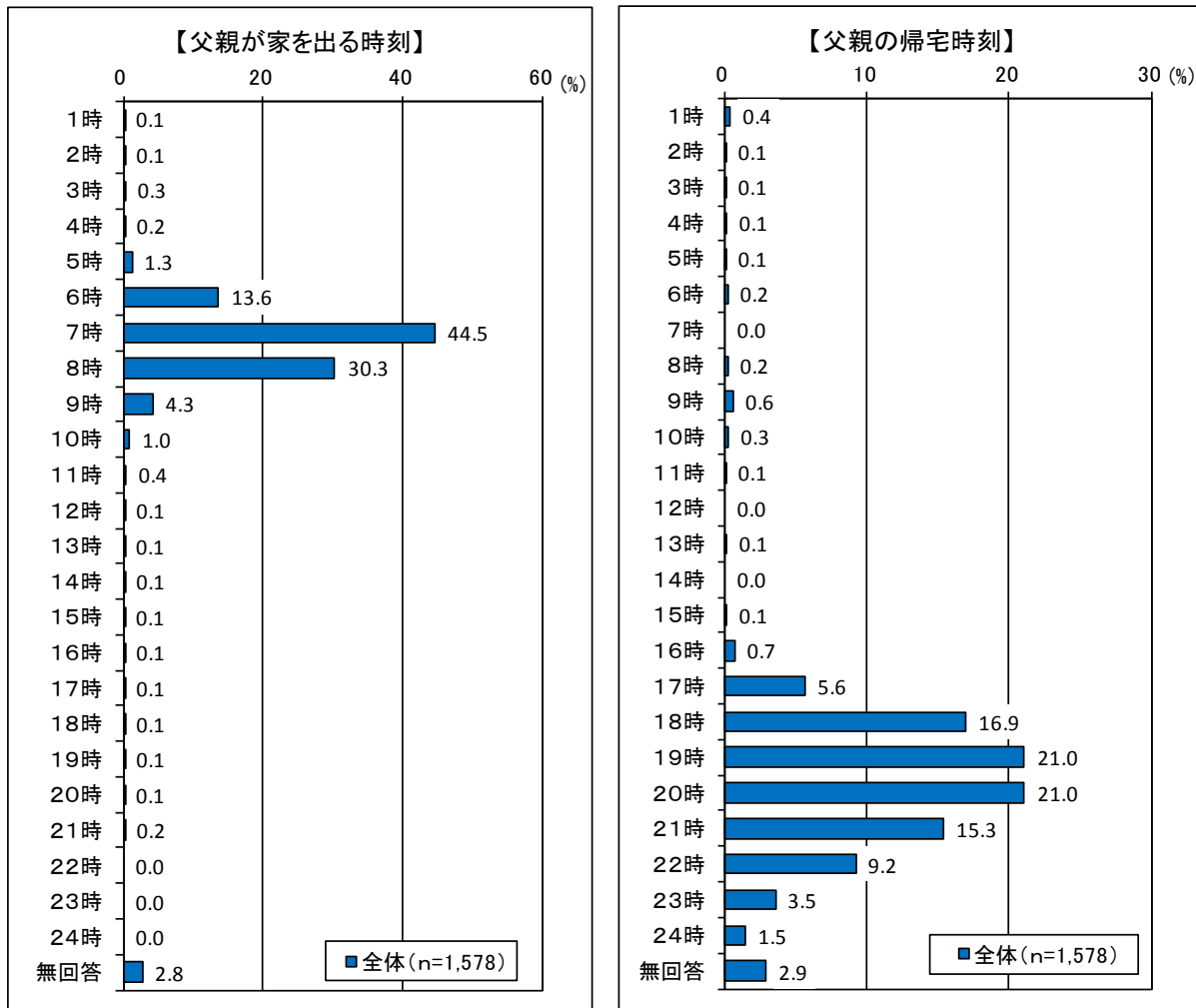


父親の1日あたりの就労時間は、「8時間」が34.4%で最も比率が高く、次いで「10時間」が23.9%、「9時間」が13.4%、「12時間」が8.6%と続いています。



父親が家を出る時刻は、「7時」が44.5%で最も比率が高く、次いで「8時」が30.3%、「6時」が13.6%と続いています。

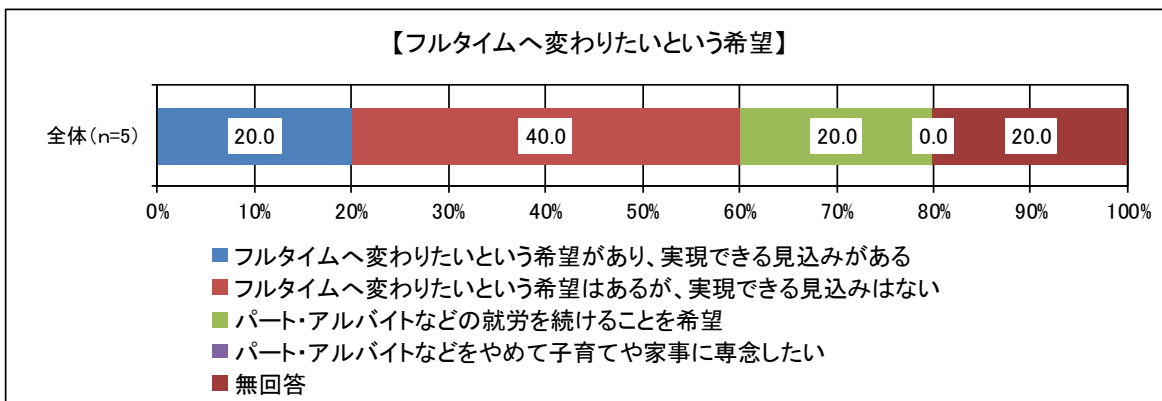
帰宅時刻は、「19時」及び「20時」がともに21.0%と最も比率が高く、「18時」が16.9%、「21時」が15.3%などとなっています。



父親がパート・アルバイトなどで就労している方のみ回答

問 16-2 フルタイムへ変更希望

フルタイムへの変更希望については、「フルタイムへ変わりたいという希望はあるが、実現できる見込みはない」が40.0%で最も比率が高く、次いで「フルタイムへ変わりたいという希望があり、実現できる見込みがある」及び「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」がともに20.0%となっています。

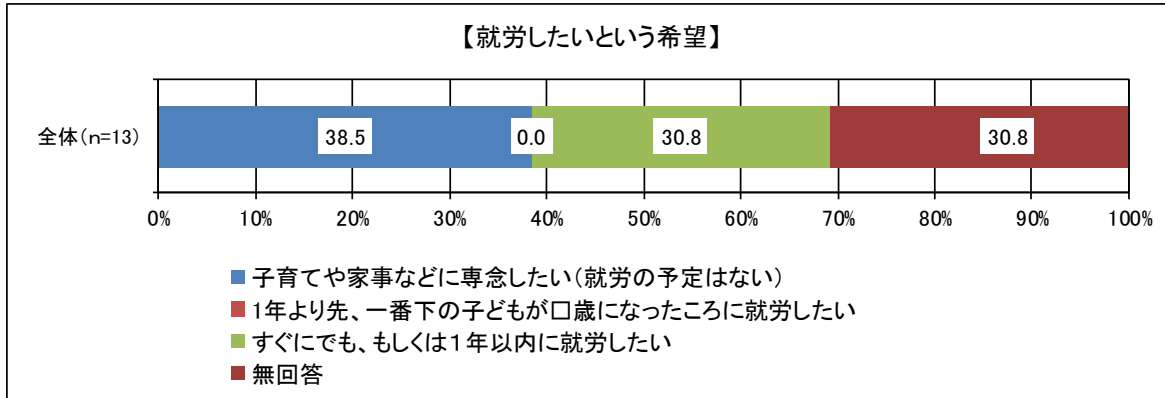


【小・中・特別支援学校】

以前は就労していたが現在は就労していない方または、これまで就労したことがない方のみ回答

問 16-3 就労希望

就労希望については、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 38.5%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 30.8%となっています。

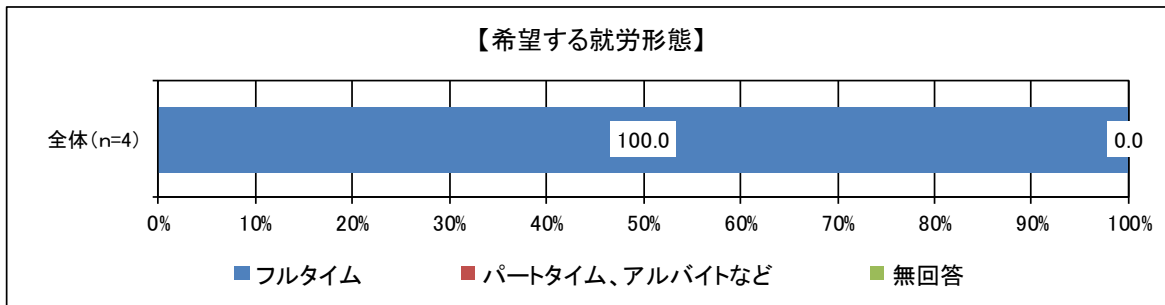


【「2 1年より先、一番下の子どもが0歳になったころに就労したい」の回答の子どもの年齢】

(該当者なし)

【「3 すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の希望する就労形態】

希望就労形態は、「フルタイム」が 100.0%となっています。



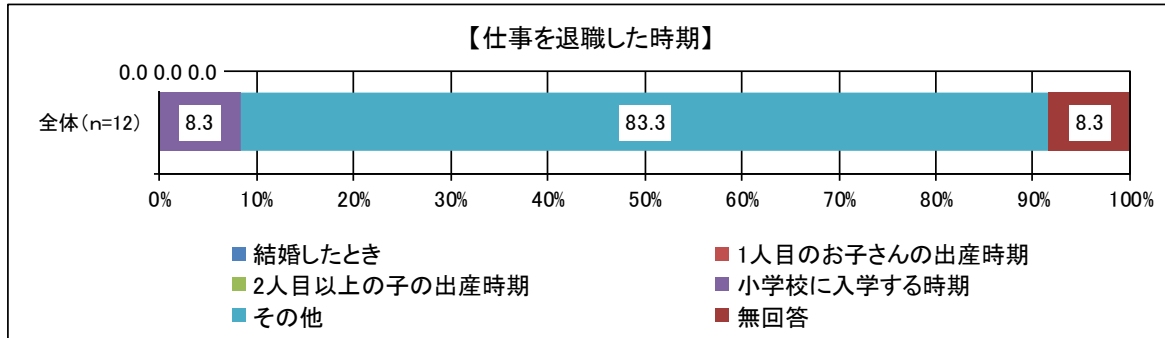
【上記で「2 パートタイム、アルバイトなど」の回答の希望する就労形態、就労日数】

(該当者なし)

以前は就労していたが、現在は就労していない方のみ回答

問 16-4 仕事を退職した時期

父親が仕事を退職した時期は、「その他」が 83.3%で多数を占め、次いで「小学校に入学する時期」が 8.3%となっています。なお、「その他」の意見では、“病気”や“小学校の卒業時期”“震災後”となっています。



辞めたのはどのような理由でしたか。

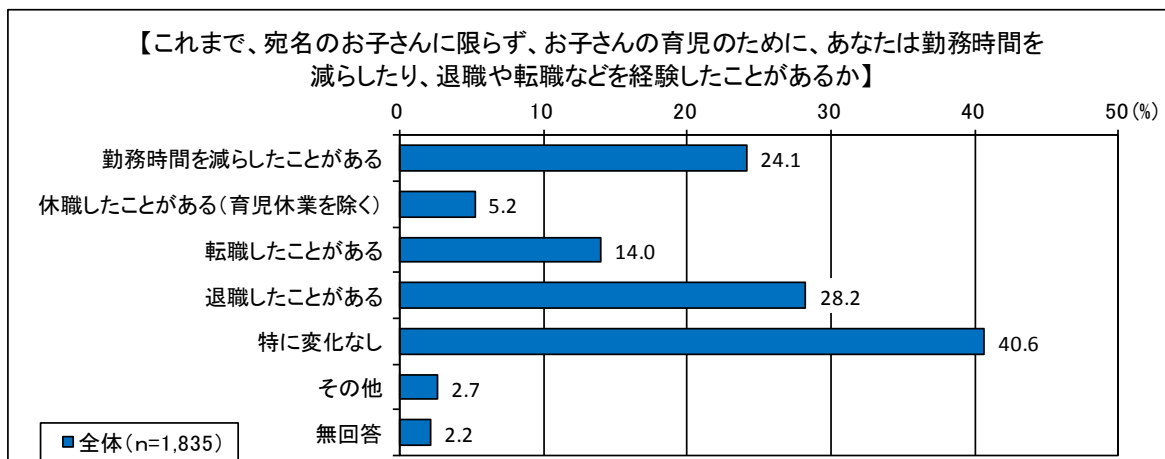
No.	内容	件数
1	病気のため	3
2	小学校の入学・卒業時期	2
3	その他	3

すべての方

問17 これまで、宛名のお子さんに限らず、育児のために、あなた（調査票を記入している方）は勤務時間を減らしたり、退職や転職などを経験したことがあるか

勤務時間を減らしたり、退職や転職した経験があるかについては、「特に変化なし」が 40.6%で最も比率が高く、次いで「退職したことがある」（28.2%）、「勤務時間を減らしたことがある」（24.1%）と続いています。

本調査票の回答者が、“母親”は「退職したことがある」や「転職した事がある」が、“父親”は「特に変化なし」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【小・中・特別支援学校】

【調査票の回答者×勤務時間の変更・転職等】

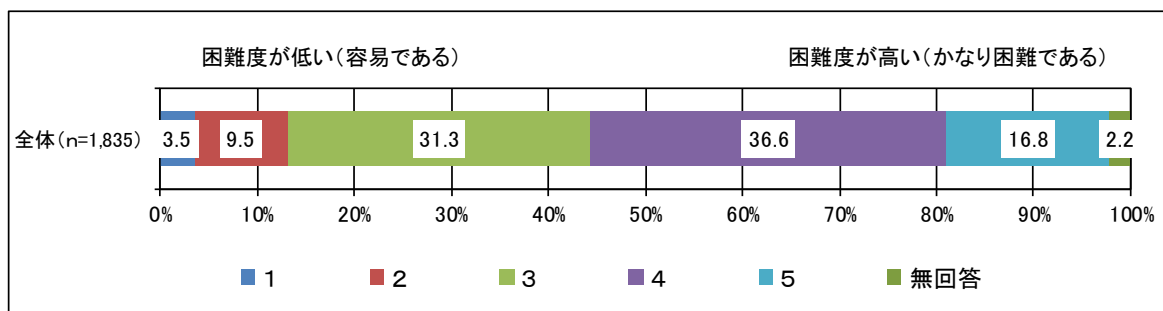
上段:人、下段:%

項目	勤務時間を減らしたことがある	休職したことがある(育児休業を除く)	転職したことがある	退職したことがある	特に変化なし	その他	無回答	回答者数
母親	410	93	242	503	677	48	33	1,708
	24.0	5.4	14.2	29.4	39.6	2.8	1.9	100.0
父親	29	2	10	10	61	1	2	106
	27.4	1.9	9.4	9.4	57.5	0.9	1.9	100.0
その他	1	1	3	1	4	0	4	12
	8.3	8.3	25.0	8.3	33.3	0.0	33.3	100.0

問 18 仕事と子どもの育児を両立させることの困難度

仕事と育児を両立させることの困難度は、「4」が36.6%で最も比率が高く、次いで「3」が31.3%、「5」が16.8%、「2」が9.5%、「1」が3.5%となっています。

本調査票の回答者別にみると、「母親」、「父親」とともに「困難度4」が最も比率が高く、類似した傾向となっています。



【調査票の回答者×仕事と育児の両立の困難度】

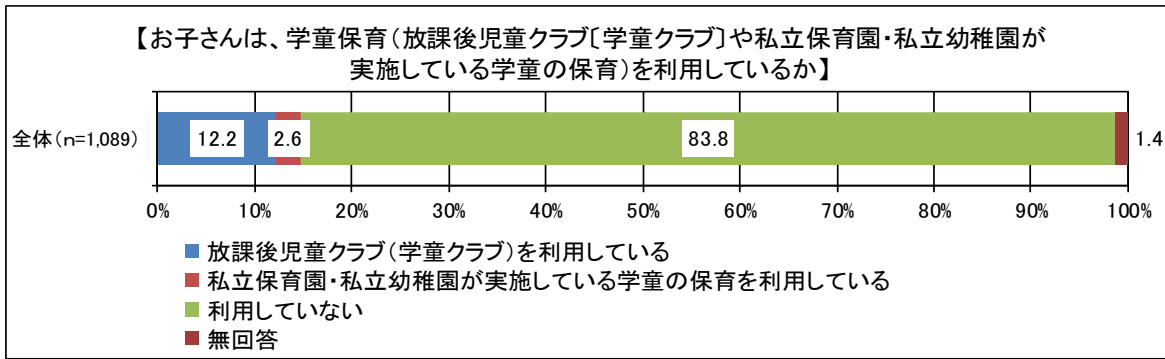
上段:人、下段:%

項目	困難度1 (容易である)	困難度2	困難度3	困難度4	困難度5 (かなり困難である)	無回答	回答者数
母親	61	164	536	630	282	35	1,708
	3.6	9.6	31.4	36.9	16.5	2.0	100.0
父親	3	11	32	34	24	2	106
	2.8	10.4	30.2	32.1	22.6	1.9	100.0
その他	0	0	5	4	0	3	12
	0.0	0.0	41.7	33.3	0.0	25.0	100.0

4 小学生・小学部のお子さんの放課後などの過ごし方について

問 19 お子さんは、学童保育（放課後児童クラブ〔学童クラブ〕や私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育）を利用しているか

利用しているクラブは「放課後児童クラブ（学童クラブ）を利用している」が12.2%、「私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育を利用している」が2.6%となっています。なお、「利用していない」が83.8%で最も比率が高くなっています。

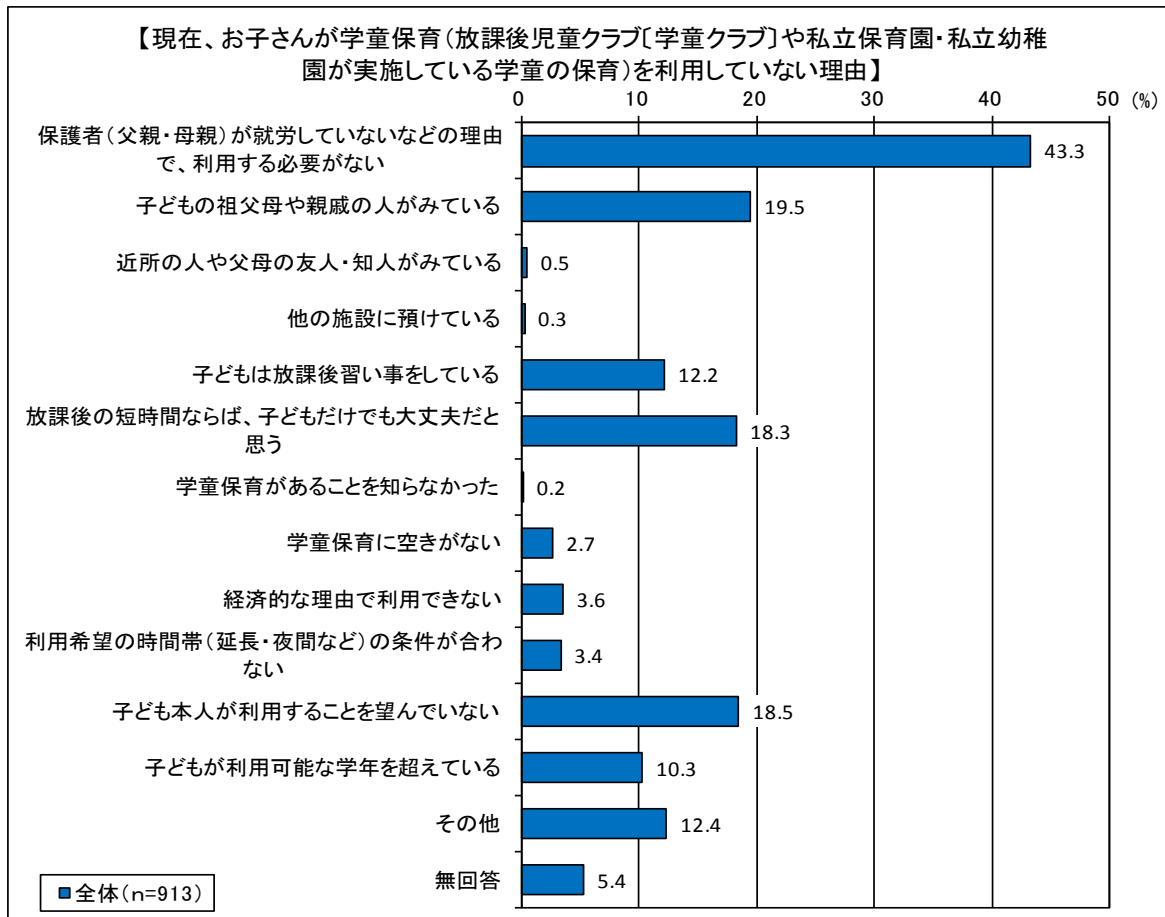


問 19で「3. 利用していない」に○をつけた方

問 19-1 現在、お子さんが学童保育(放課後児童クラブ〔学童クラブ〕や私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育)を利用していない理由

学童保育を利用していない理由は「保護者(父親・母親)が就労していないなどの理由で、利用する必要がない」が43.3%で最も比率が高く、次いで「子どもの祖父母や親戚の人がみている」(19.5%)、「子ども本人が利用することを望んでいない」(18.5%)、「放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う」(18.3%)と続いています。

子どもの年齢別にみると、「保護者(父親・母親)が就労していないなどの理由で、利用する必要がない」は“小学1～3年生”が、「放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う」や「子ども本人が利用することを望んでいない」、「子どもが利用可能な学年を超えている」は“小学4～6年生”が、それぞれ他より比率が高くなっています。



【小・中・特別支援学校】

【子どもの学年×学童保育を利用していない理由】

上段：人、下段：%

項目	保護者(父親・母親)が就労していないなどの理由で、利用する必要がない	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	他の施設に預けている	子どもは放課後習い事をしている	放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う	学童保育があることを知らなかった	学童保育に空きがない
小学1～3年生	217	81	3	0	43	37	2	10
	53.7%	20.0%	0.7%	0.0%	10.6%	9.2%	0.5%	2.5%
小学4～6年生	178	97	2	3	68	130	0	15
	35.0%	19.1%	0.4%	0.6%	13.4%	25.5%	0.0%	2.9%

項目	経済的な理由で利用できない	利用希望の時間帯(延長・夜間など)の条件が合わない	子ども本人が利用することを望んでいない	子どもが利用可能な学年を超えている	その他	無回答	回答者数
小学1～3年生	16	14	55	2	51	18	404
	4.0%	3.5%	13.6%	0.5%	12.6%	4.5%	100.0%
小学4～6年生	17	17	114	92	62	31	509
	3.3%	3.3%	22.4%	18.1%	12.2%	6.1%	100.0%

【学童保育を利用していない理由(放課後の習い事)×世帯年収】

上段：人、下段：%

項目	なし	200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答	回答者数
子どもは放課後習い事をしている	1	4	6	29	38	23	8	2	111
	0.9	3.6	5.4	26.1	34.2	20.7	7.2	1.8	100.0

【学童保育を利用していない理由(経済的な理由)×世帯年収】

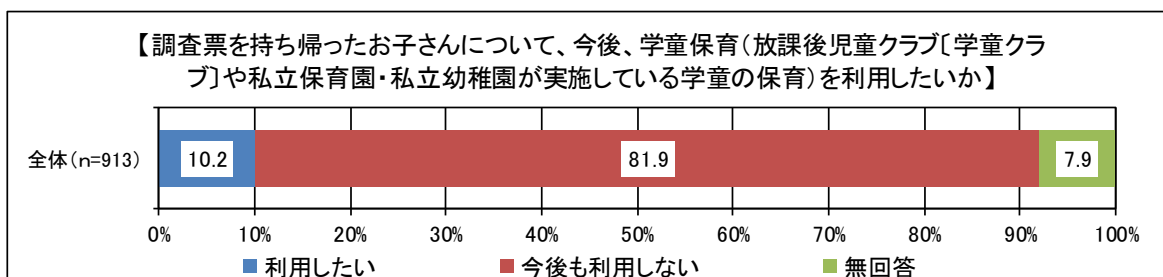
上段：人、下段：%

項目	なし	200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答	回答者数
経済的な理由で利用できない	3	9	3	12	4	1	1	0	33
	9.1	27.3	9.1	36.4	12.1	3.0	3.0	0.0	100.0

問 19-2 調査票を持ち帰ったお子さんについて、今後、学童保育(放課後児童クラブ〔学童クラブ〕や私立保育園・私立幼稚園が実施している学童の保育)を利用したいか

今後、学童保育を利用したいかについては、「今後も利用しない」が 81.9%と、「利用したい」の 10.2%を大きく上回る高い比率となっています。

「利用したい」は、母親の就労が“フルタイム(産休中等を含む)”は 8.2%、“パート・アルバイト(産休中等を含む)”は 11日.0%となっています。



【母親の就労状況×今後の学童保育の利用意向】

上段：人、下段：%

項目	利用したい	今後も利用しない	無回答	回答者数
フルタイム (産休中等を含む)	12	123	12	147
	8.2	83.7	8.2	100.0
パート・アルバイト (産休中等を含む)	45	333	30	408
	11.0	81.6	7.4	100.0
就労していない	35	275	27	337
	10.4	81.6	8.0	100.0

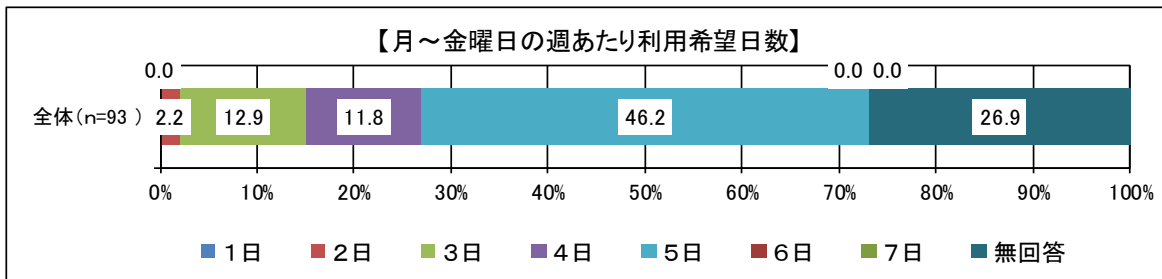
問 19-2で「1. 利用したい」に○をつけた方

問 19-3 学童保育をどれくらい、また、小学校何年生まで利用したいと思うか

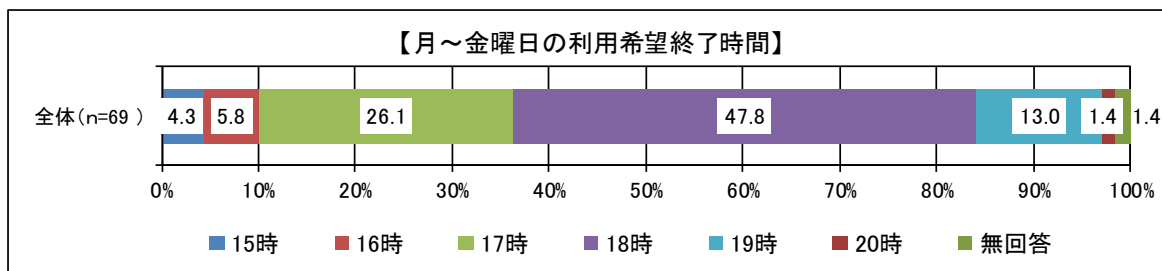
A. 利用希望 [利用希望日数、利用希望時間]

【月曜日～金曜日】

平日の利用希望日数は、「5日」46.2%で最も比率が高く、次いで「3日」が12.9%、「4日」が11.8%、「2日」が2.2%となっています。

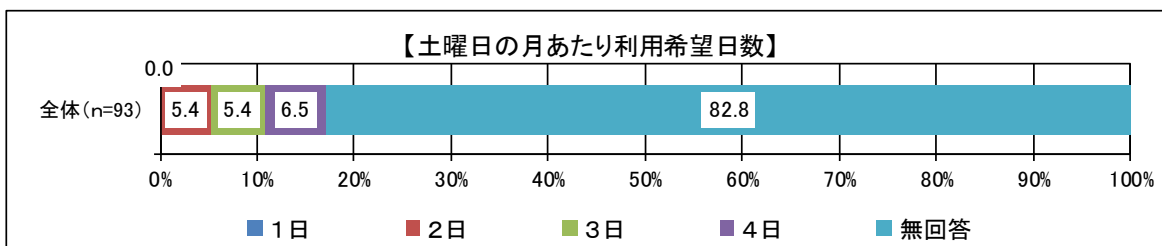


平日の利用希望終了時間は、「18時」が47.8%で最も比率が高く、次いで「17時」が26.1%、「19時」が13.0%、「16時」が5.8%、「15時」が4.3%、「20時」が1.4%となっています。



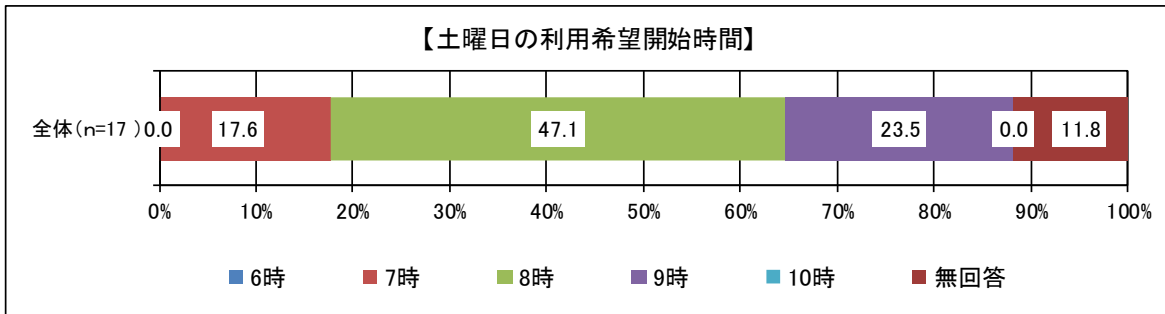
【土曜日】

土曜日の利用希望日数は、「4日」が6.5%で最も比率が高く、次いで「2日」及び「3日」がともに5.4%となっています。

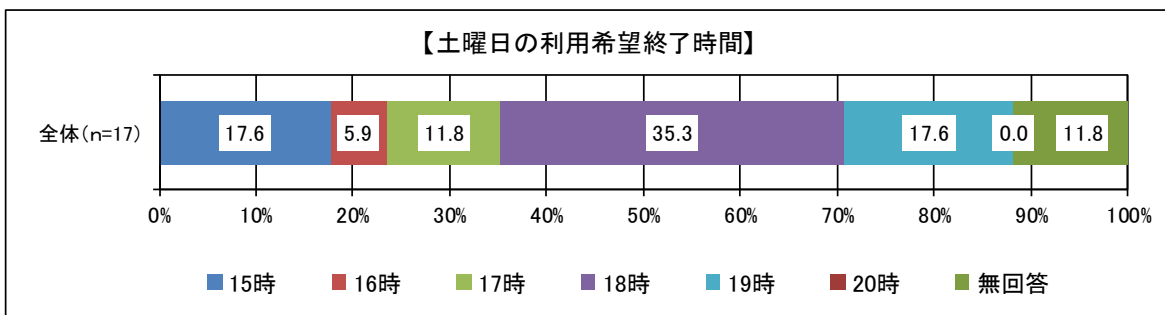


【小・中・特別支援学校】

土曜の利用希望開始時間は、「8時」が47.1%で最も比率が高く、次いで「9時」が23.5%、「7時」が17.6%となっています。

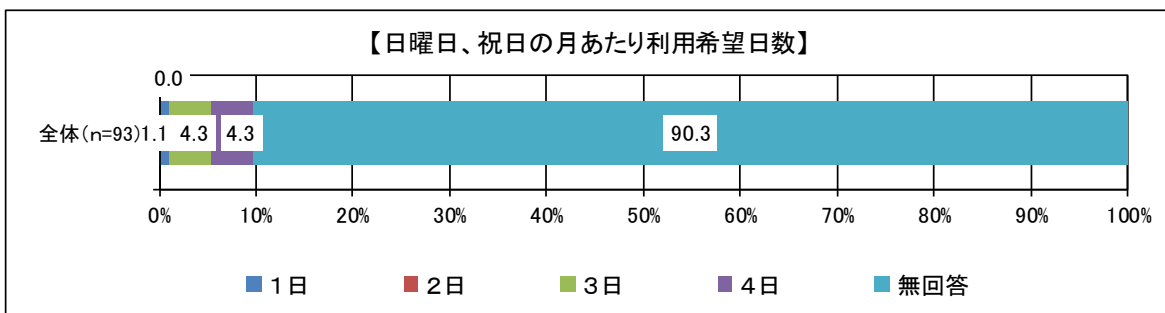


土曜の利用希望終了時間は、「18時」が35.3%で最も比率が高く、次いで「15時」及び「19時」がともに17.6%、「17時」が11.8%、「17時」が11.8%、「16時」が5.9%となっています。

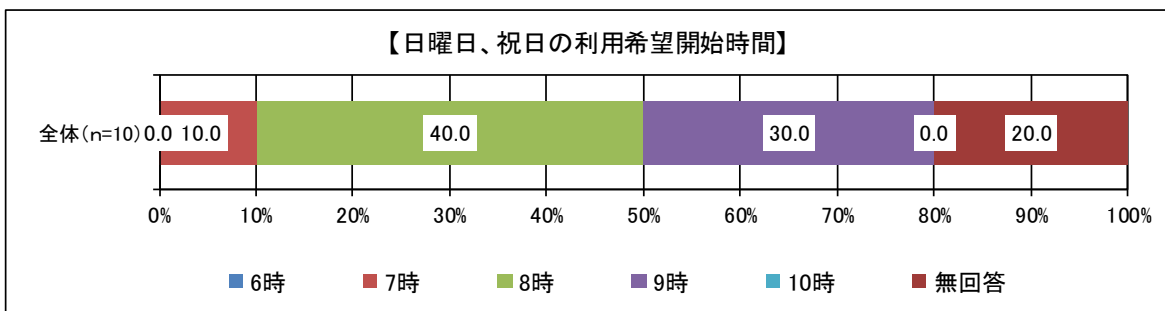


【日曜日、祝日】

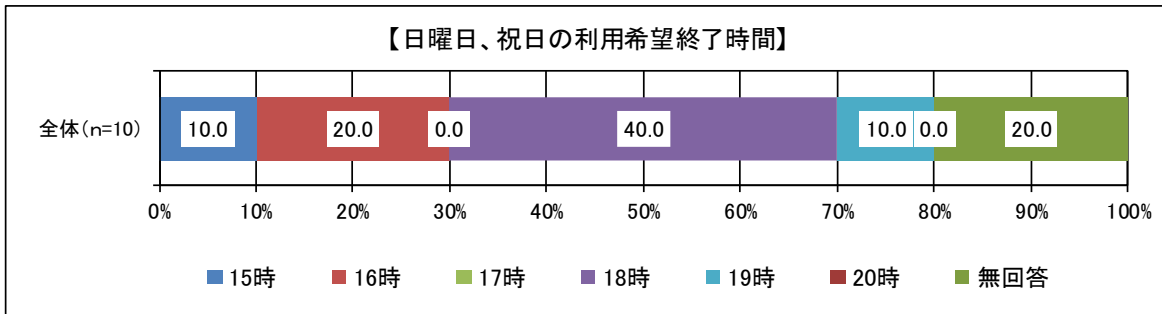
日曜日・祝日の利用希望日数は、「3日」及び「4日」がともに4.3%で最も比率が高く、次いで「1日」が1.1%となっています。



日曜日・祝日の利用希望開始時間は、「8時」が40.0%で最も比率が高く、次いで「9時」が30.0%、「7時」が10.0%となっています。

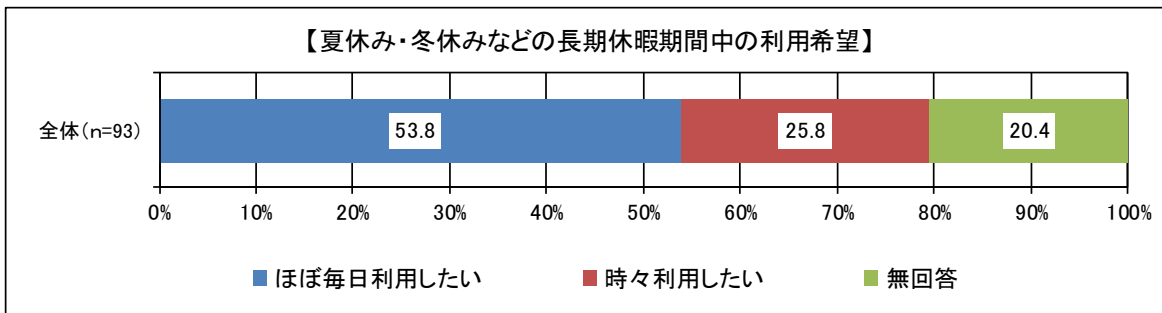


日曜日・祝日の利用希望終了時間は、「18時」が40.0%で最も比率が高く、次いで「16時」が20.0%、「15時」及び「19時」がともに10.0%となっています。

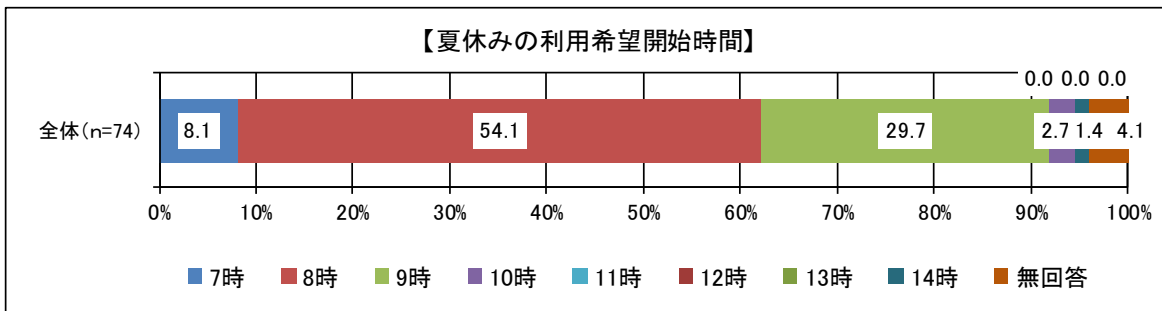


【夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中】

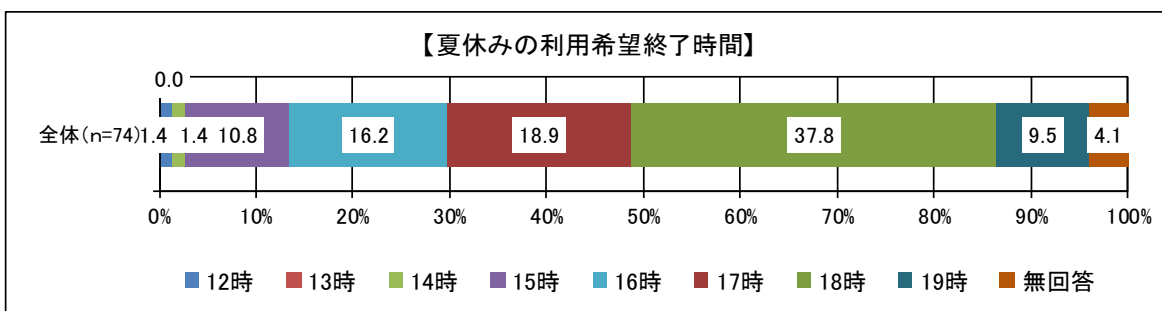
長期休暇期間中の利用希望については、「ほぼ毎日利用したい」が53.8%と、「時々利用したい」が25.8%となっています。



長期休暇期間中の利用希望開始時間は、「8時」が54.1%で最も比率が高く、次いで「9時」が29.7%、「7時」が8.1%、「10時」が2.7%となっています。



長期休暇期間中の利用希望終了時間は、「18時」が37.8%で最も比率が高く、次いで「17時」が18.9%、「16時」が16.2%、「15時」が10.8%などと続いています。

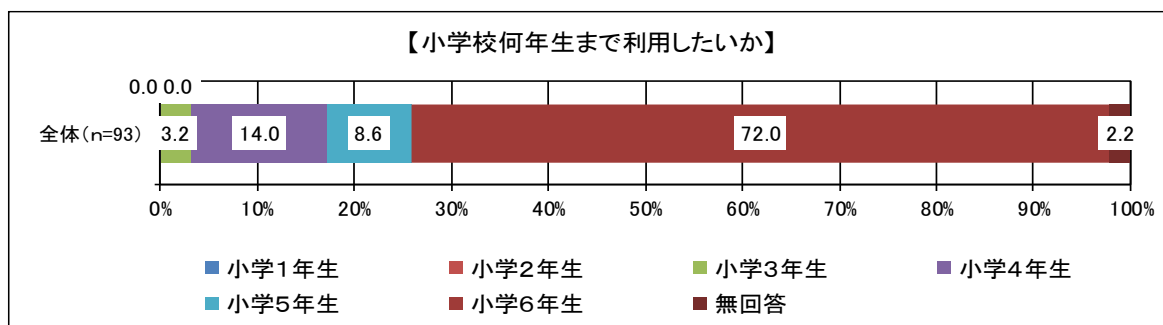


【小・中・特別支援学校】

B. 小学校何年生まで利用したいか

学童保育の利用希望学年は、「小学6年生」が72.0%と多数を占めており、次いで「小学4年生」が14.0%、「小学5年生」が8.6%、「小学3年生」が3.2%となっています。

「小学6年生」までの回答は、子どもの年齢が“小学3～5年生”で特に高くなっています。



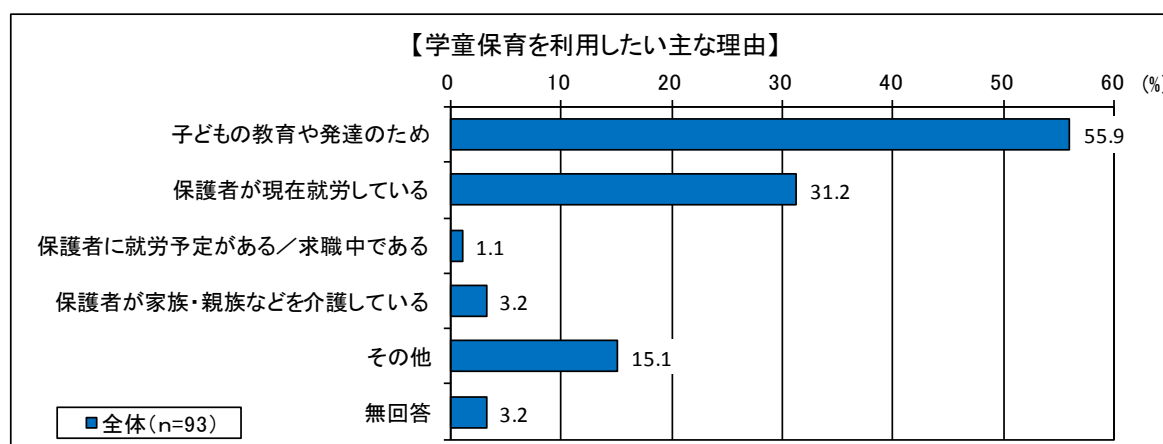
【子どもの学年×何年生まで利用したいか】

上段：人、下段：%

項目	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	無回答	回答者数
小学1年生	0	0	2	3	2	13	1	21
	0.0%	0.0%	9.5%	14.3%	9.5%	61.9%	4.8%	100.0%
小学2年生	0	0	1	8	3	17	0	29
	0.0%	0.0%	3.4%	27.6%	10.3%	58.6%	0.0%	100.0%
小学3年生	0	0	0	0	2	18	0	20
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	100.0%
小学4年生	0	0	0	1	0	8	0	9
	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	88.9%	0.0%	100.0%
小学5年生	0	0	0	0	1	10	1	12
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	83.3%	8.3%	100.0%
小学6年生	0	0	0	1	0	1	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%

問 19-4 学童保育を利用したい主な理由

学童保育を利用したい理由は、「子どもの教育や発達のため」が55.9%で最も比率が高く、次いで「保護者が現在就労している」(31.2%)、「保護者が家族・親族などを介護している」(3.2%)、「保護者に就労予定がある／求職中である」(1.1%)となっています。



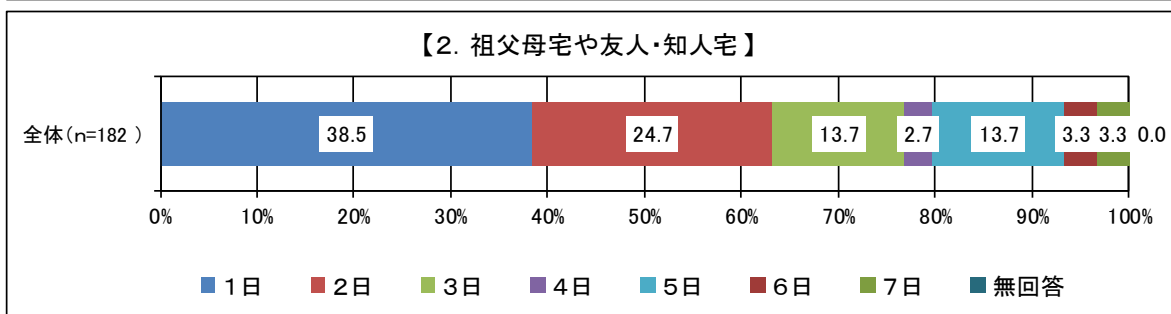
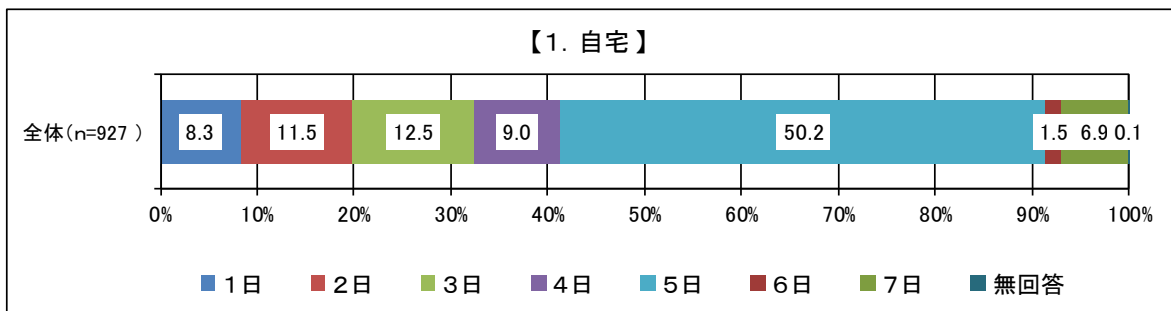
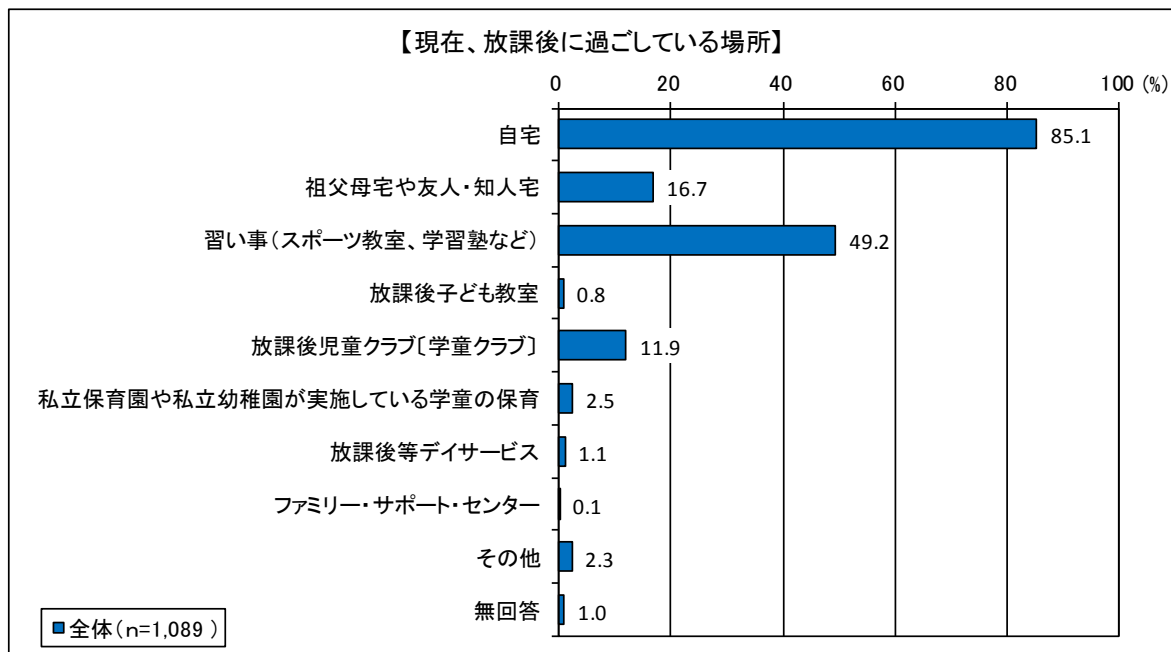
すべての方

問 20 お子さんについて、現在、平日の小学校終了後の時間をどのような場所で過ごしているか
また、今後、どのような場所で過ごさせたいと思うか

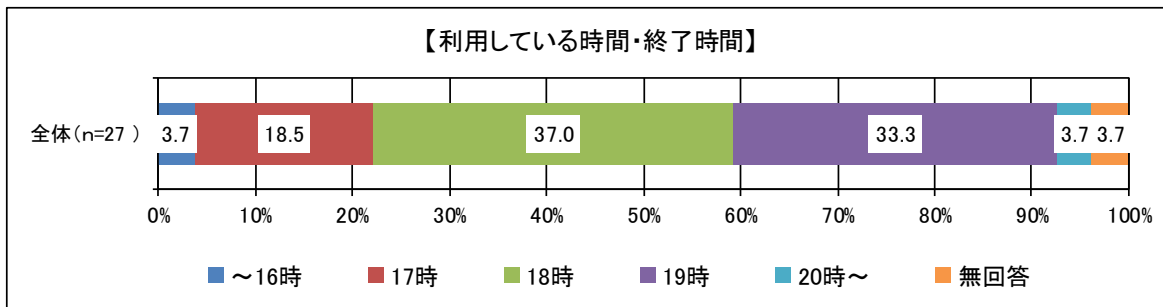
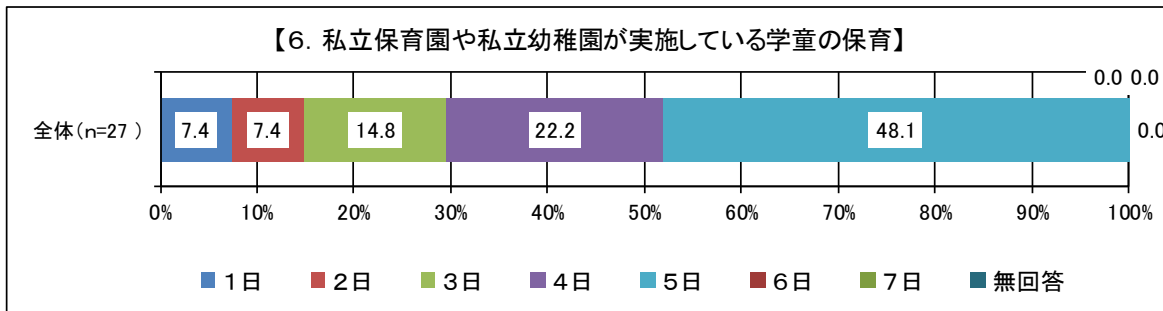
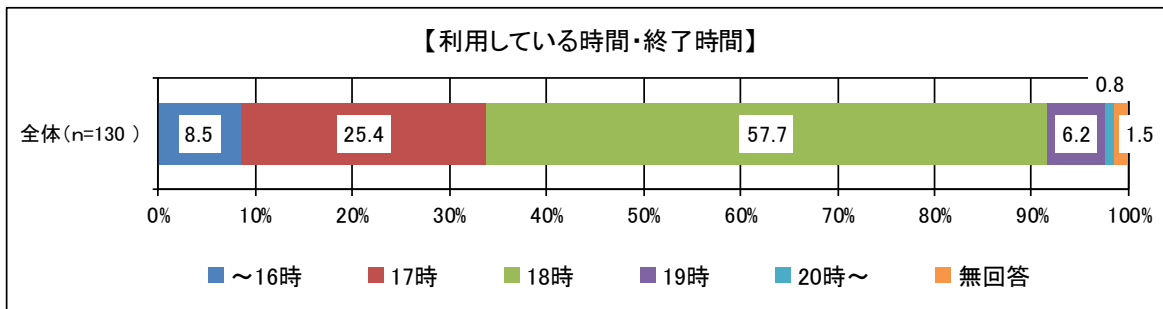
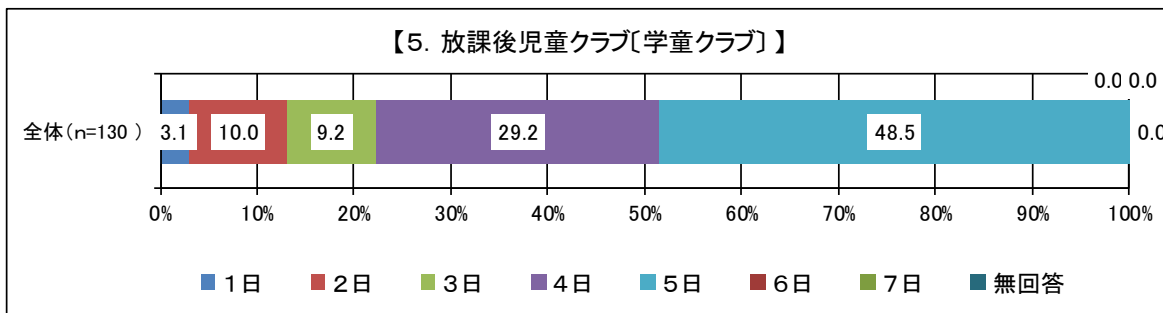
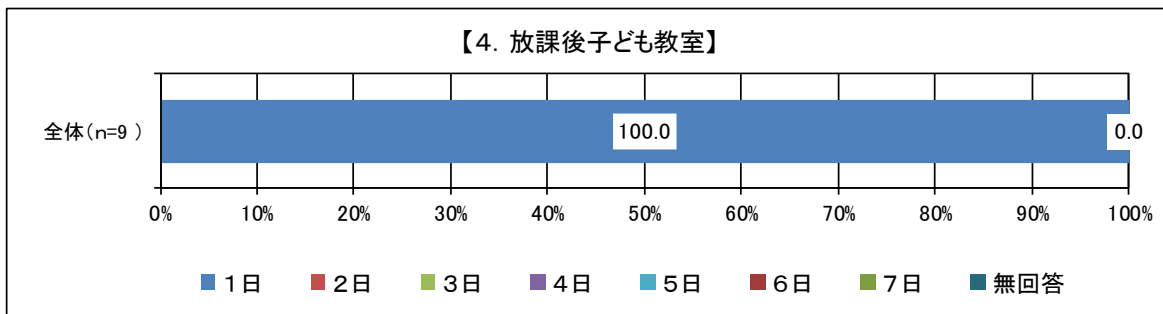
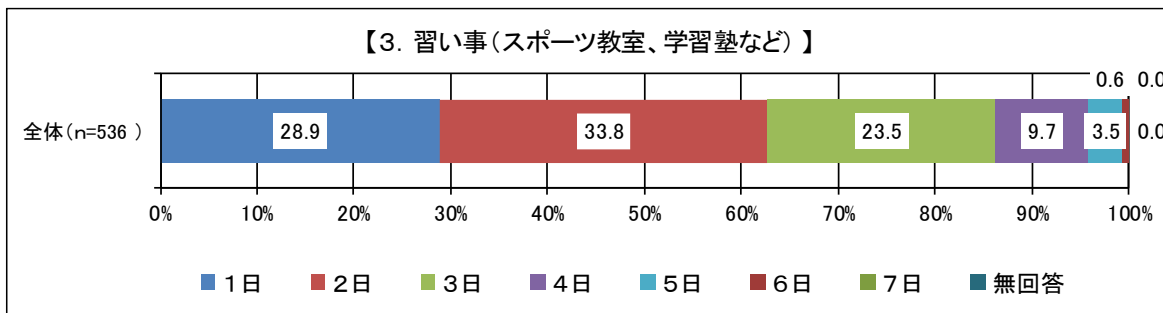
①現在、放課後に過ごしている場所

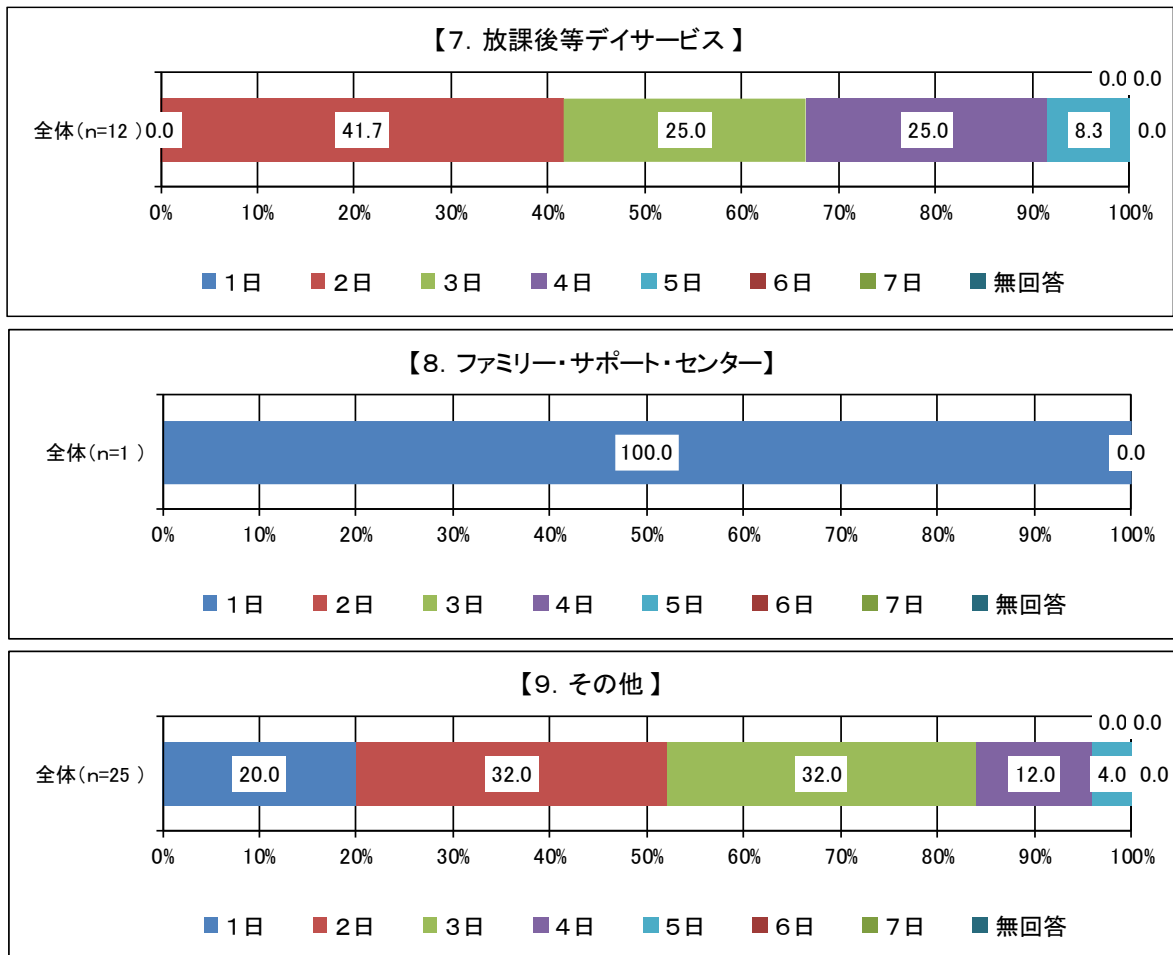
現在、放課後に過ごしている場所は、「自宅」が85.1%と最も比率が高く、次いで「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（49.2%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（16.7%）、「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」（11.9%）と続いています。

「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」についてみると、小学1～3年生の2割前後が、週4～5日利用しています。



【小・中・特別支援学校】





②今後、放課後に過ごさせたい場所

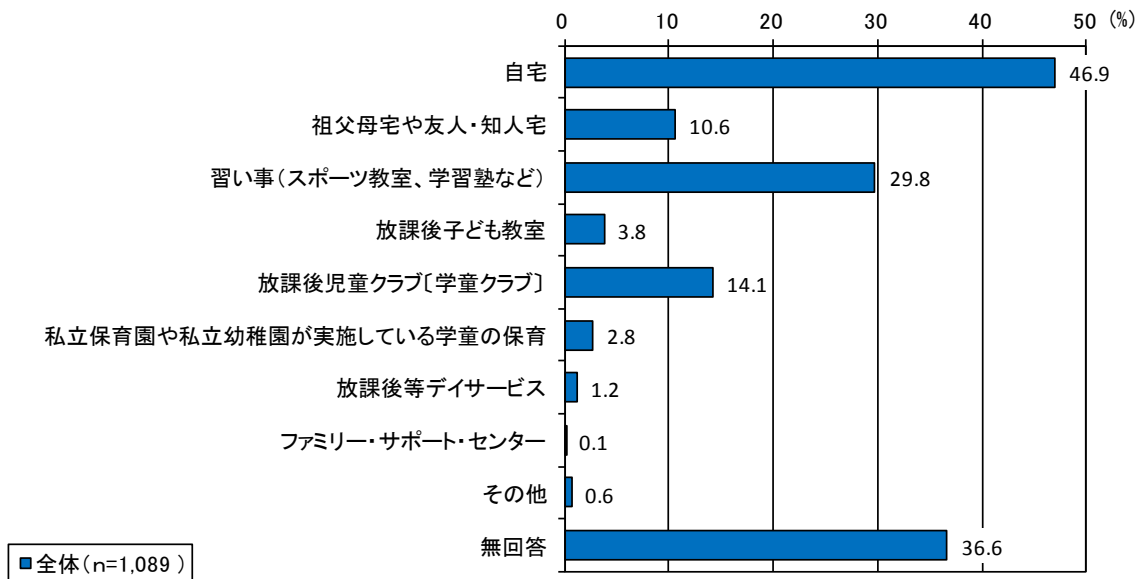
【低学年（1～3年生）】

放課後（低学年（1～3年生））に過ごさせたい場所は、「自宅」が46.9%と最も比率が高く、次いで「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（29.8%）などと続いています。

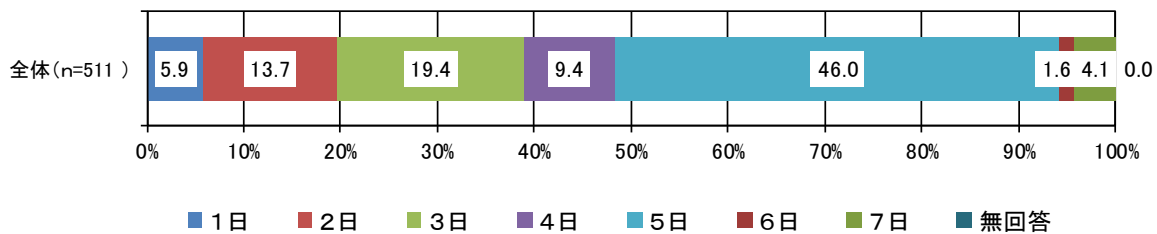
「放課後児童クラブ[学童クラブ]」についてみると、低学年で“母親が就労（特に「フルタイム」）している”方で比率が高くなっています。また「配偶者はいない」では18.3%と「自宅」（30.3%）に次ぐ高い比率となっています。

【小・中・特別支援学校】

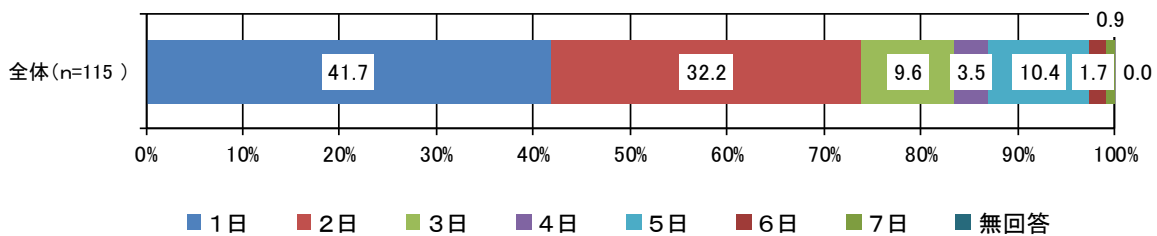
【小学校低学年(1～3年生)に過ごさせたい場所】



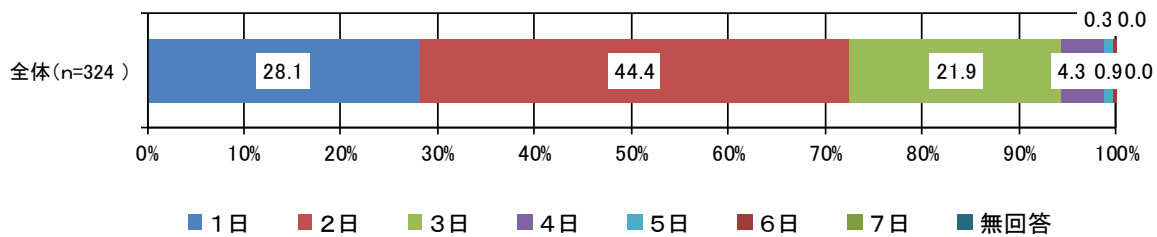
【1. 自宅】



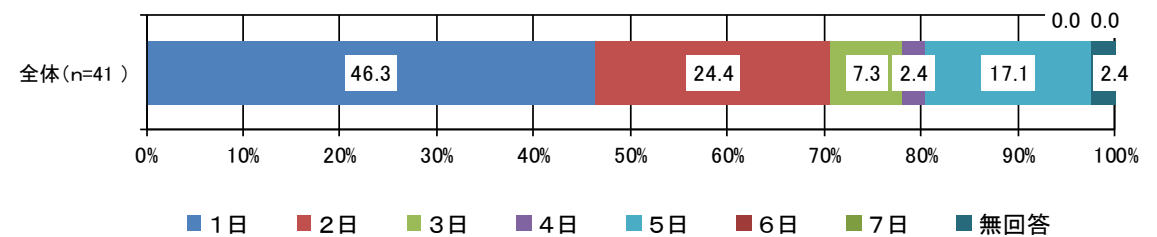
【2. 祖父母宅や友人・知人宅】

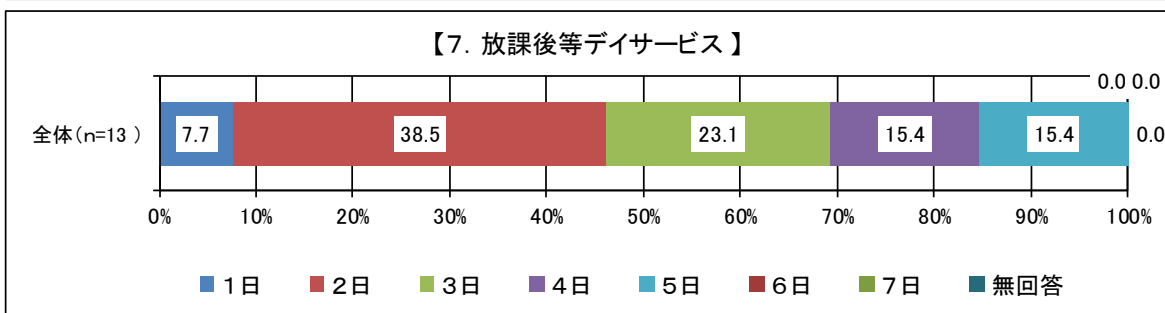
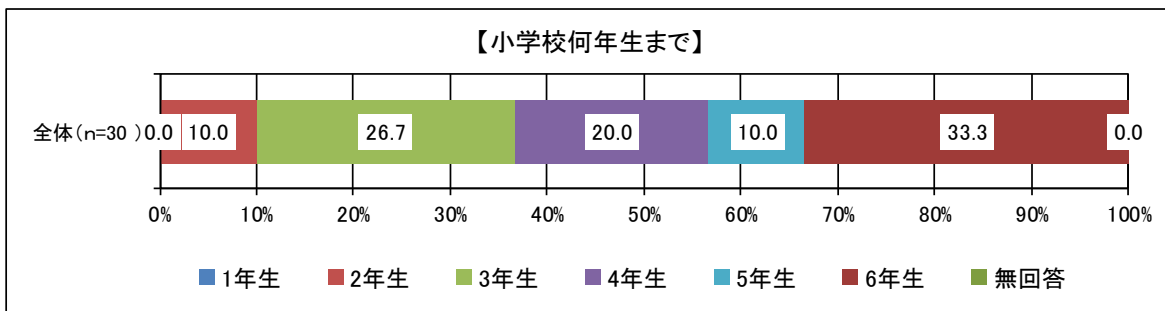
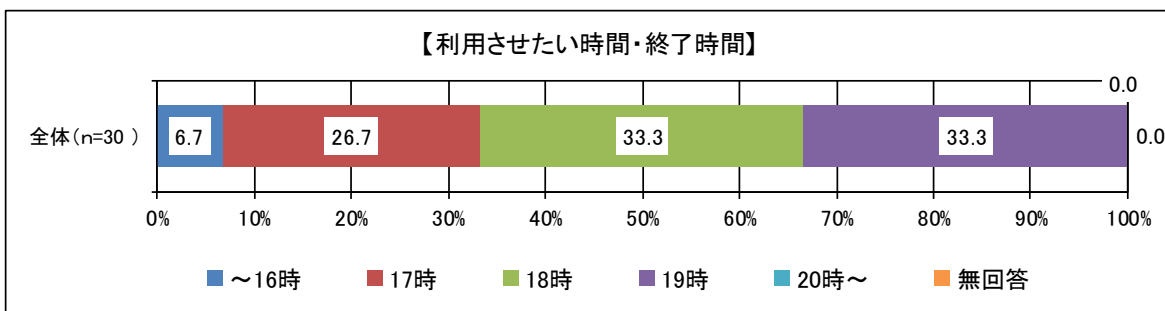
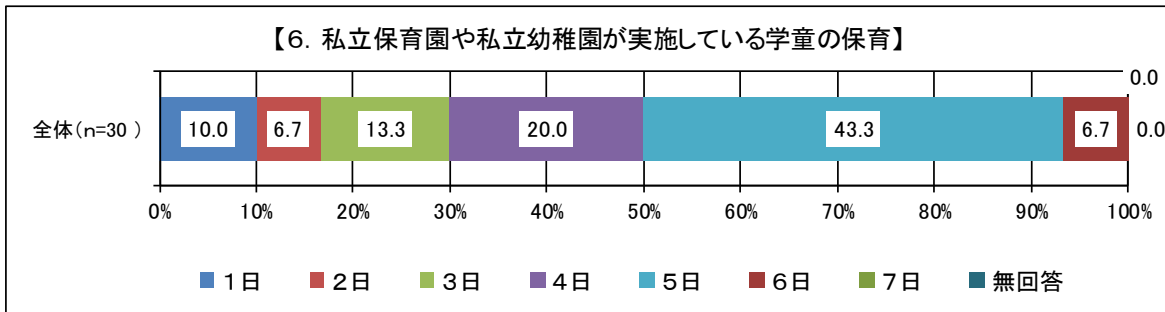
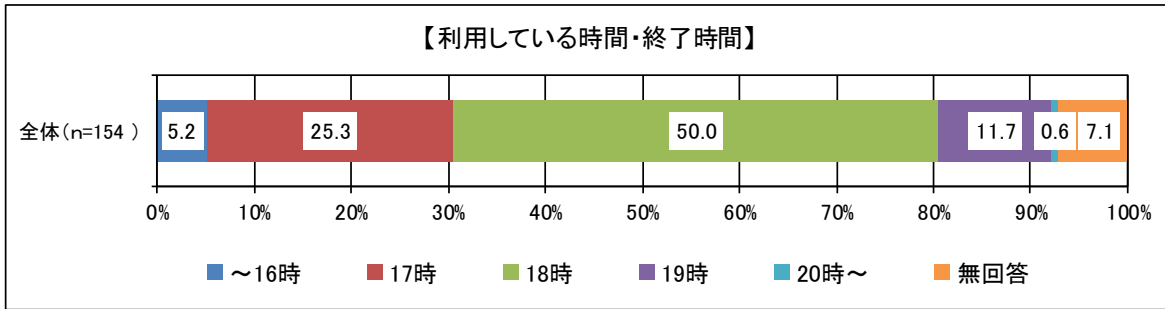
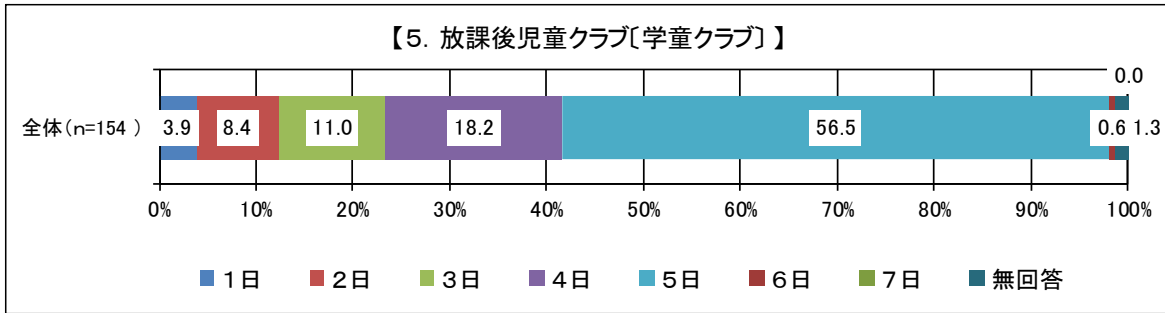


【3. 習い事(スポーツ教室、学習塾など)】

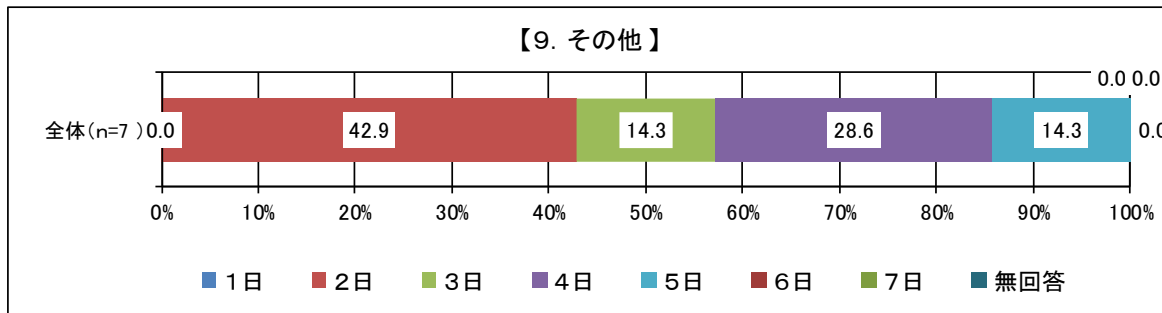
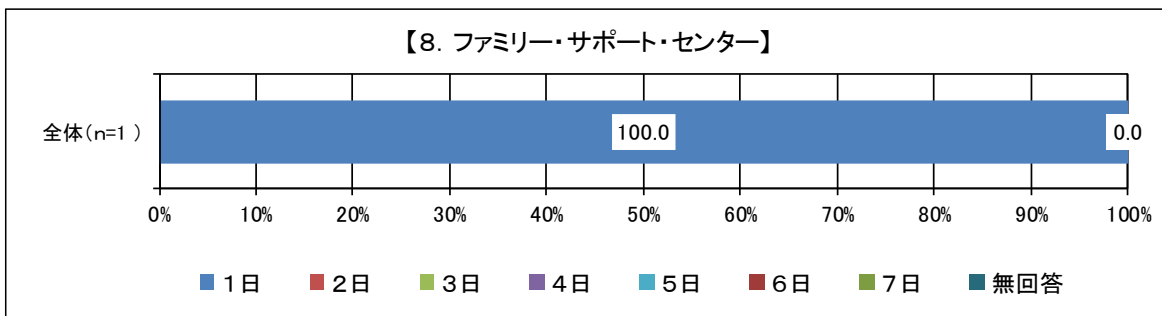


【4. 放課後子ども教室】





【小・中・特別支援学校】

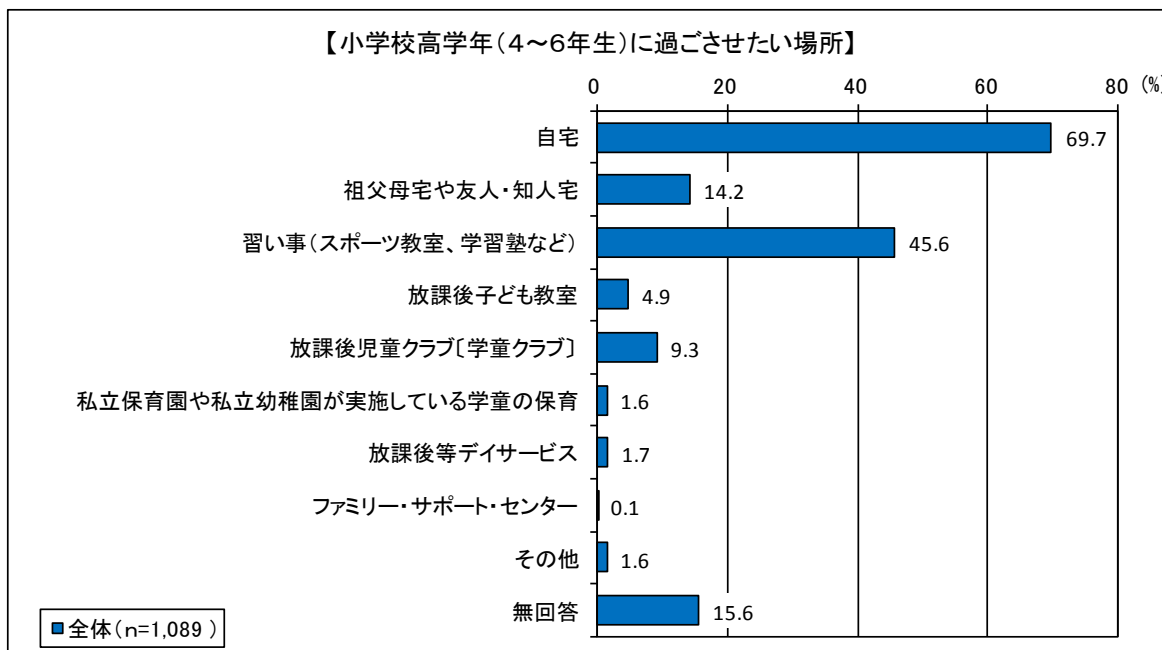


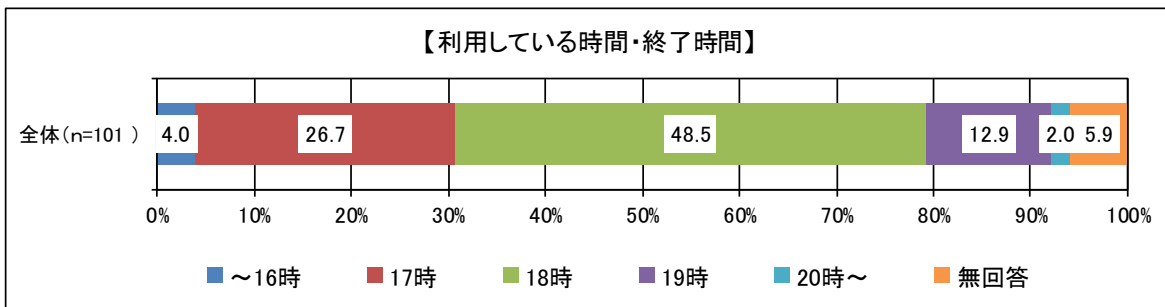
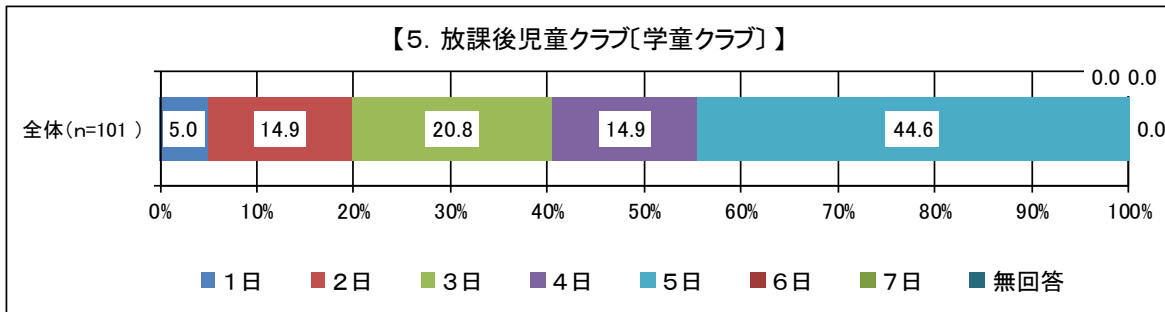
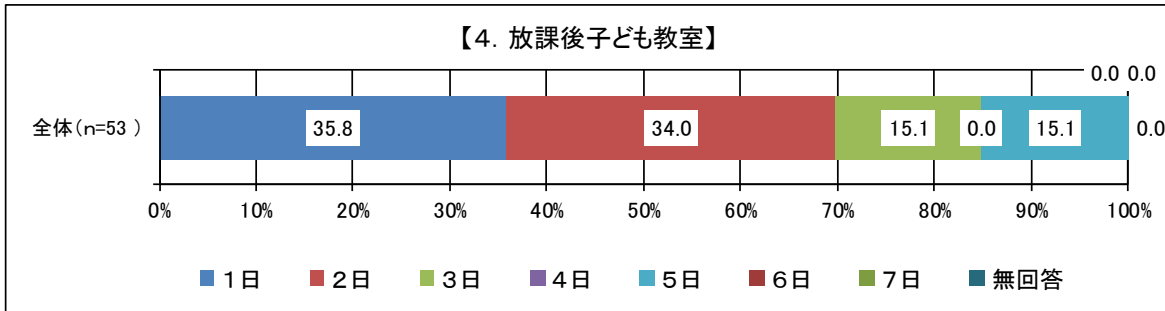
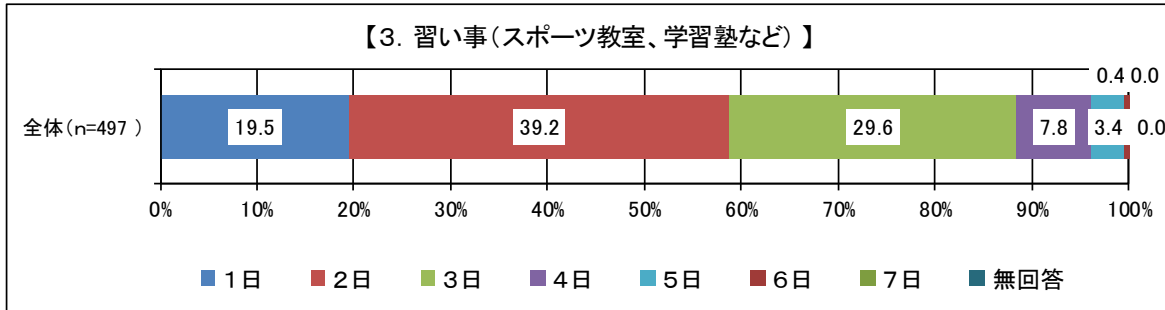
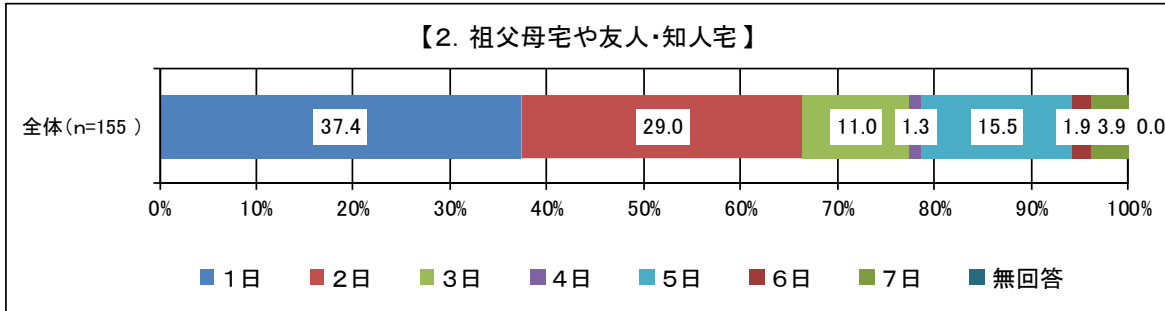
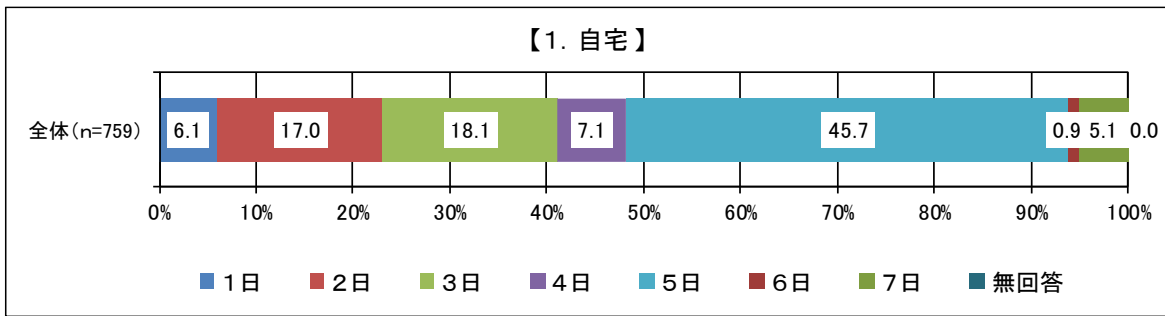
【高学年（4～6年生）】

放課後（高学年（4～6年生））に過ごさせたい場所は、「自宅」が 69.7%と最も比率が高く、次いで「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（45.6%）、「祖父母宅や友人・知人宅」（14.2%）となっています。

「放課後児童クラブ〔学童クラブ〕」についてみると、低学年で“母親が就労（特に「フルタイム」）している”方で比率が高くなっています。

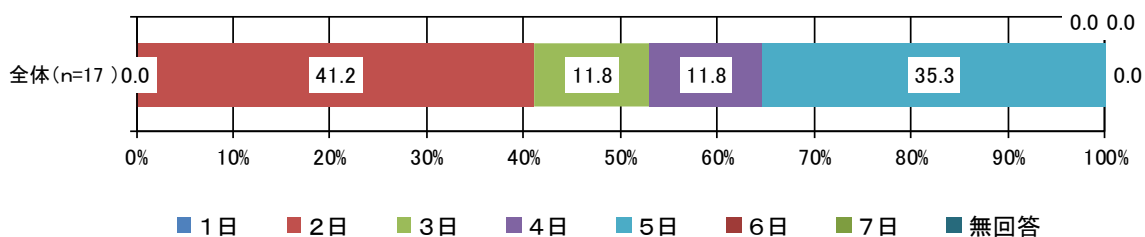
また「配偶者はいない」は 10.1%と「配偶者がいる」（9.2%）よりは高いものの、高学年になると「習い事（スポーツ教室、学習塾など）」（33.0%）や「祖父母宅や友人・知人宅」（16.5%）で高くなっています。



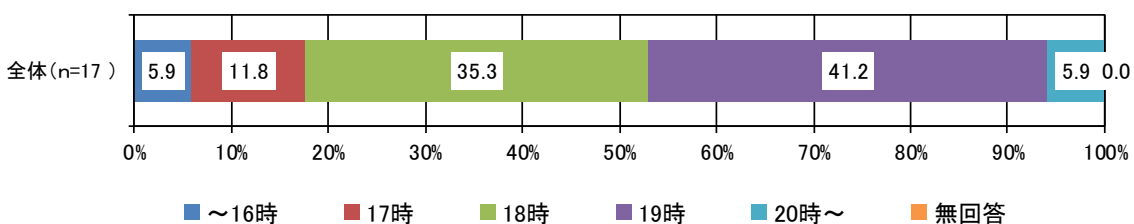


【小・中・特別支援学校】

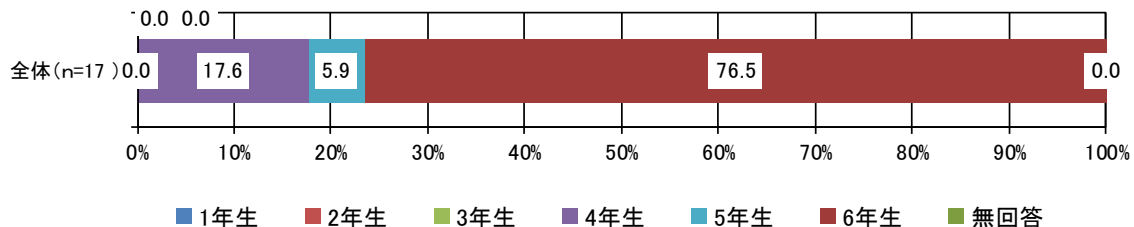
【6. 私立保育園や私立幼稚園が実施している学童の保育】



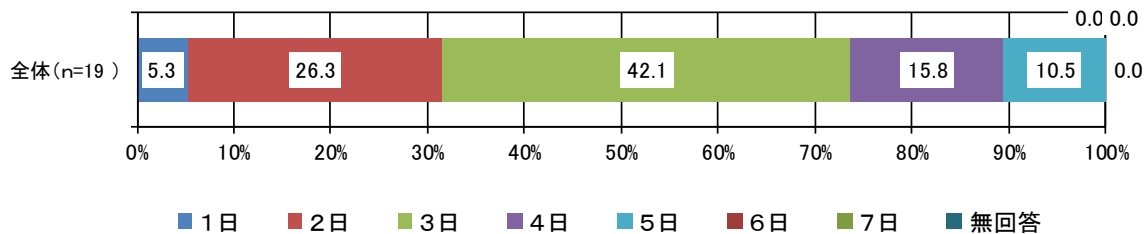
【利用させたい時間・終了時間】



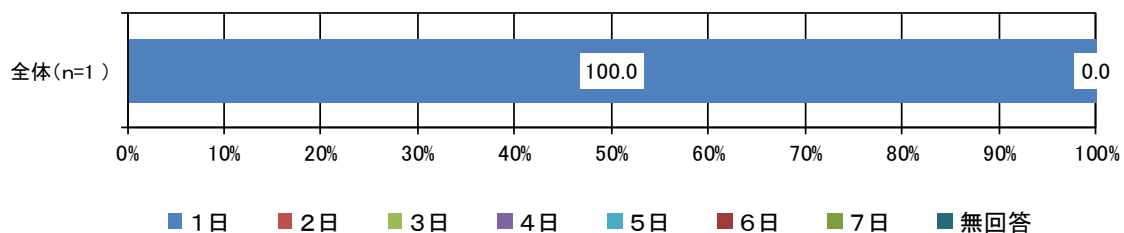
【小学校何年生まで】



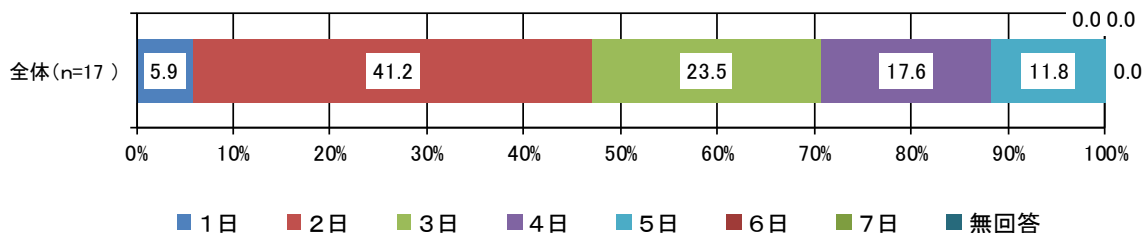
【7. 放課後等デイサービス】



【8. ファミリー・サポート・センター】



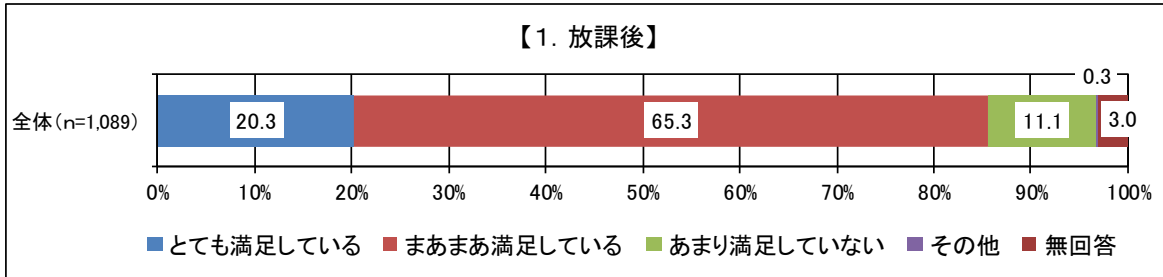
【9. その他】



問 21 お子さんの放課後、週休日や長期休暇期間中の過ごし方についての満足度

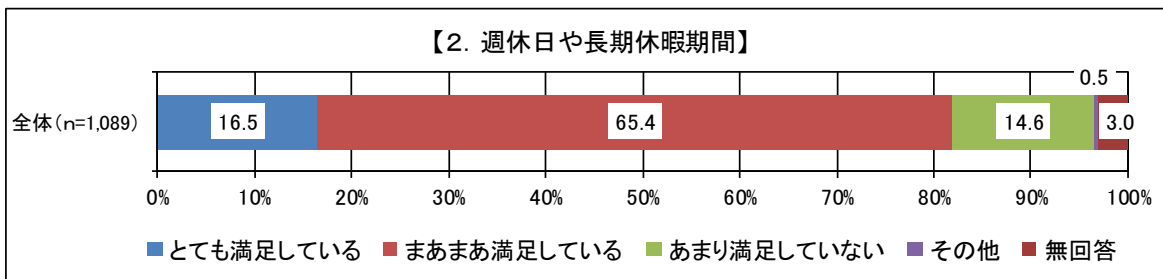
1. 放課後

放課後の過ごし方について、「とても満足している」は20.3%、「まあまあ満足している」は65.3%と、「満足」の割合は高くなっており、「あまり満足していない」は11.1%となっています。



2. 週休日や長期休暇期間

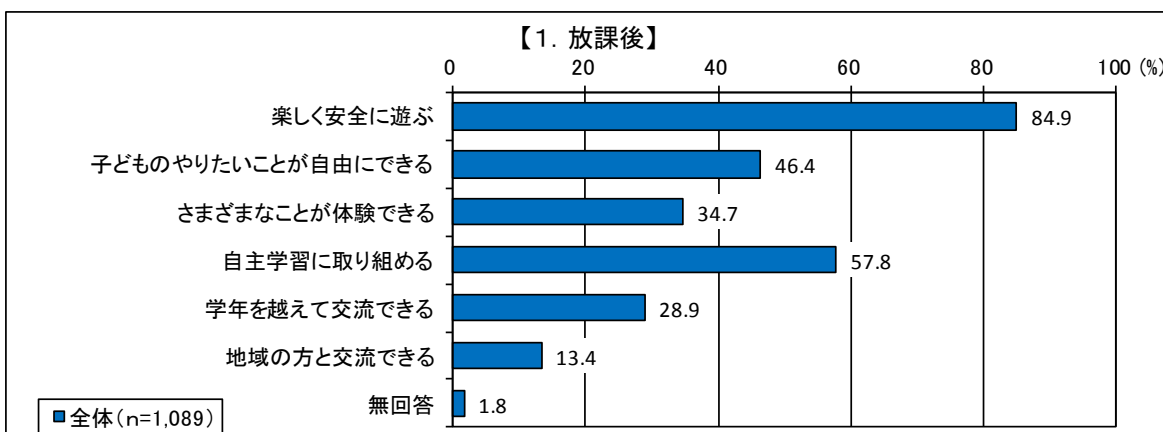
週休日や長期休暇期間中の過ごし方については、「とても満足している」は16.5%、「まあまあ満足している」は65.4%と、「満足」の割合は高く、「あまり満足していない」は14.6%となっています。



問 22 お子さんの放課後や、週休日・長期休暇期間中の過ごし方として、今後、どのようなことを望むか

1. 放課後

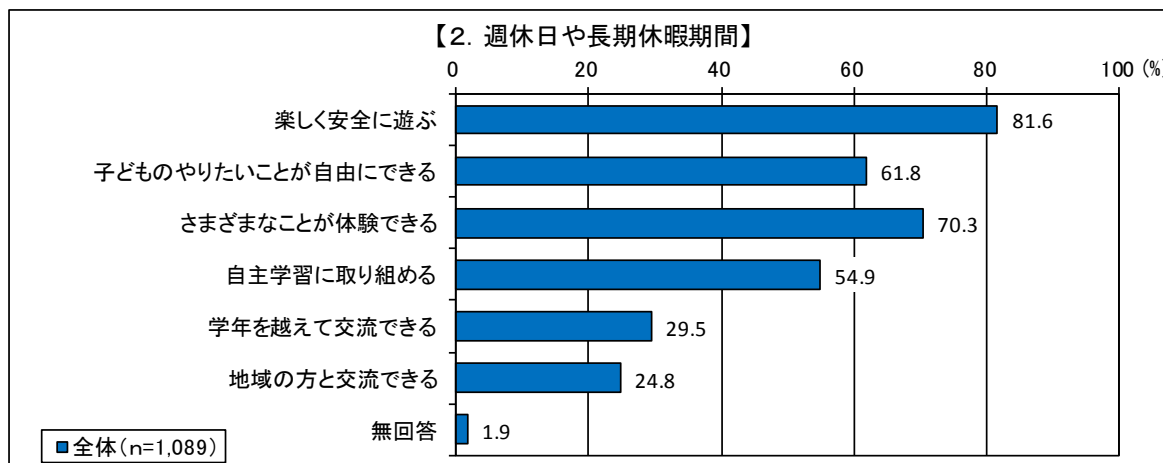
放課後の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」が84.9%で最も比率が高く、次いで「自主学習に取り組める」が57.8%、「子どものやりたいことが自由にできる」が46.4%、「さまざまなことが体験できる」が34.7%、「学年を越えて交流できる」が28.9%、「地域の方と交流できる」が13.4%となっています。



【小・中・特別支援学校】

2. 週休日や長期休暇期間

週休日や長期休暇期間の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」(81.6%)や「自主学習に取り組める」(54.9%)は、上記(放課後)と同程度の高い比率となっていますが、「さまざまなことが体験できる」(70.3%)は約36ポイント高く、「子どものやりたいことが自由にできる」(61.8%)や「地域の方と交流できる」(24.8%)も比率が高くなっています。



その他、今後、望むことについて

その他、今後、望むことについては、「長期休暇・休暇中について」(31件)や「児童(学童)クラブ(料金、日数、格差、人等)」(30件)などの意見があげられています。

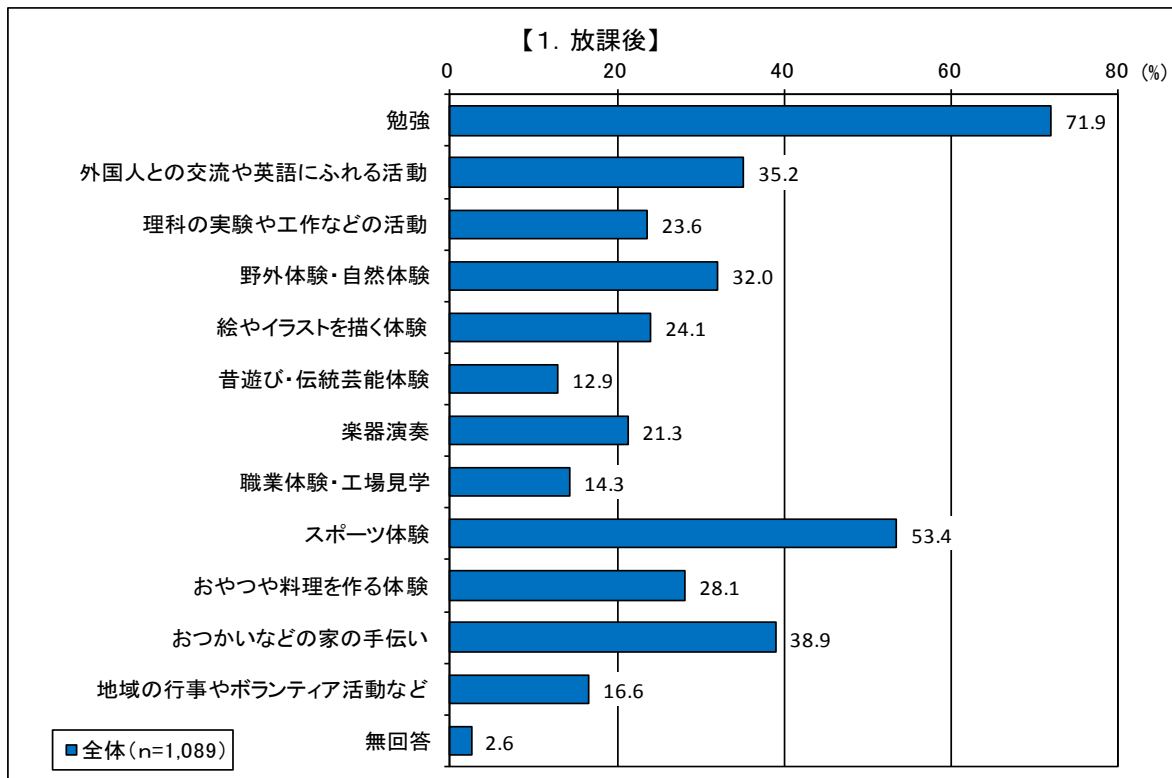
No.	項目	件数
1	長期休暇・休暇中について	31
2	児童(学童)クラブ(料金、日数、格差、人等)	30
3	遊び	19
4	公園、遊び場	19
5	勉強・学習について	11
6	子どもの居場所(子ども教室・食堂も含む)	9
7	地域との交流・サポート(イベント等も含む)	8
8	体験	7
9	スポーツ	6
10	預かり	5
11	授業時間等	3
-	特になし	22
-	その他	24

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問23 放課後、週休日や長期休暇期間中の時間を活用し、お子さんにどのような活動をさせたいか

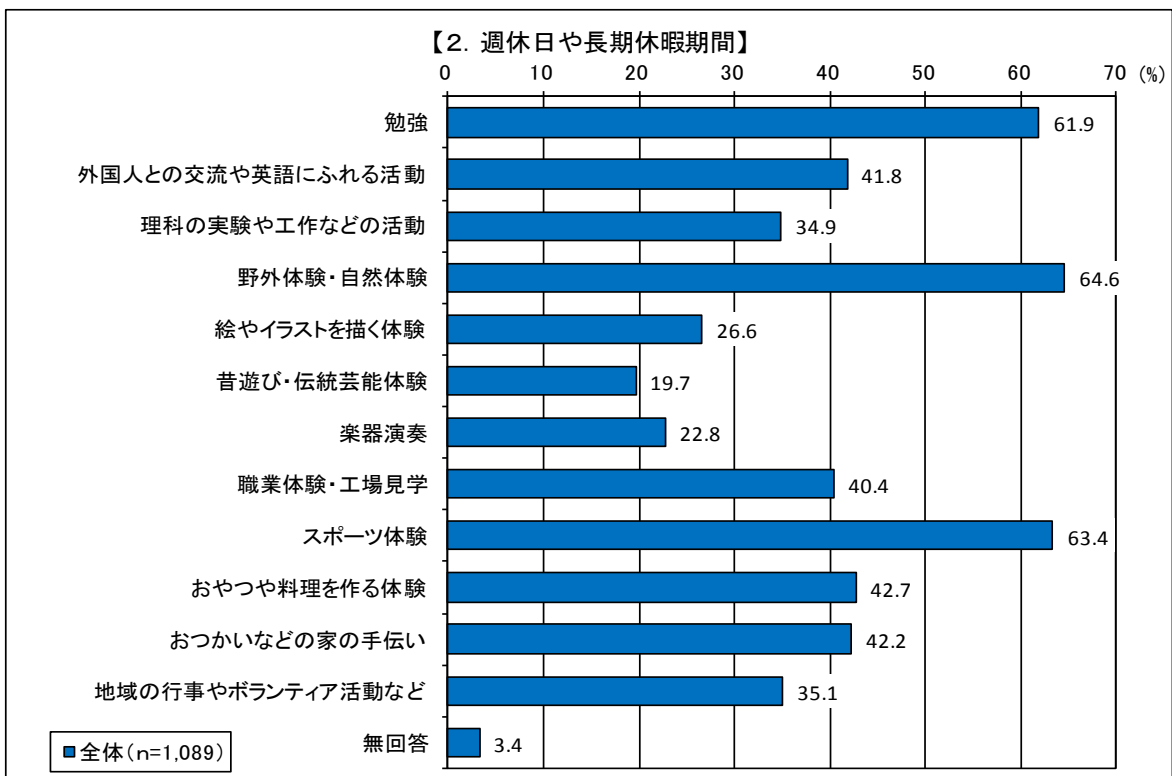
1. 放課後

放課後にお子さんにさせたい活動は、「勉強」71.9%や「スポーツ体験」53.4%が半数を超える高い比率となっており、次いで、「おつかいなどの家の手伝い」(38.9%)、「外国人との交流や英語にふれる活動」(35.2%)、「野外体験・自然体験」(32.0%)と続いています。



2. 週休日や長期休暇期間

週休日や長期休暇期間中にお子さんにさせたい活動は、「野外体験・自然体験」64.6%や「スポーツ体験」63.4%、「勉強」61.9%が半数を超える高い比率となっており、次いで、「おやつや料理を作る体験」(42.7%)、「おつかいなどの家の手伝い」(42.2%)、「外国人との交流や英語にふれる活動」(41.8%)、「職場体験・工場見学」(40.4%)と続いています。



【小・中・特別支援学校】

その他、お子さんにさせてみたいこと

その他、お子さんにさせてみたいことについては、「キャンプ等自然体験」（14件）や「英語学習、海外交流等」（12件）、「運動・スポーツ」（10件）などの意見があげられています。

No.	項目	件数
1	キャンプ等自然体験	14
2	英語学習、海外交流等	12
3	運動・スポーツ	10
4	宿泊学習、山村留学等	5
5	ピアノ、吹奏楽等音楽学習・体験	5
6	コンピューター、プログラミング	4
7	外遊び / バス・電車体験 / ボランティア、社会体験・学習 / 料理、裁縫等 / 習字、そろばん等	各 3
-	特になし	10
-	その他	21

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

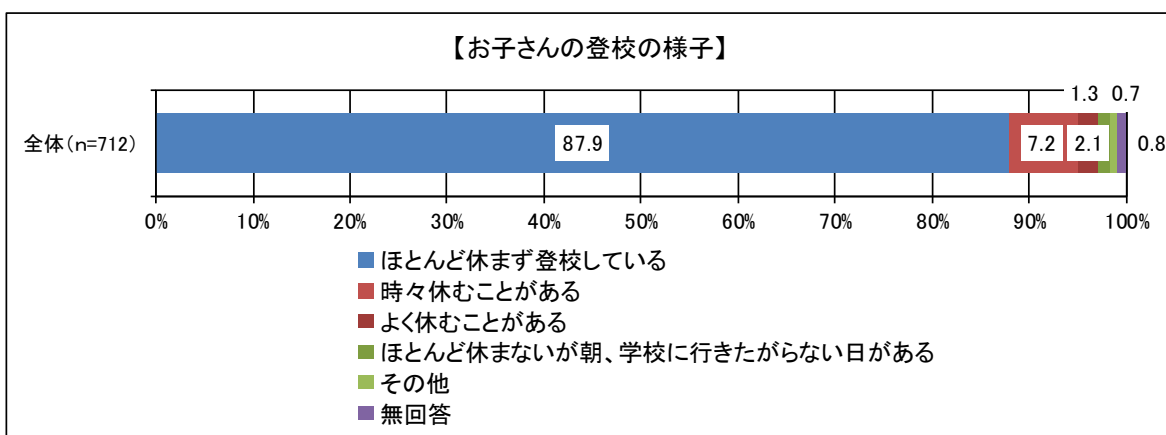
5 中学生・中学部のお子さんの放課後などの過ごし方について

問 24 お子さんの登校の様子

お子さんの登校の様子については、「ほとんど休まず登校している」が 87.9%で多数を占め、次いで「時々休むことがある」が 7.2%、「よく休むことがある」が 2.1%、「ほとんど休まないが朝、学校に行きたがらない日がある」が 1.3%となっています。

各学年とも「ほとんど休まず登校している」は 80%台と高い比率となっていますが、高学年になるほど、わずかながら比率が低下しています。

「よく休むことがある」は全体的に比率が低いものの、“配偶者はいない”方で他より比率が高い傾向が見受けられます。



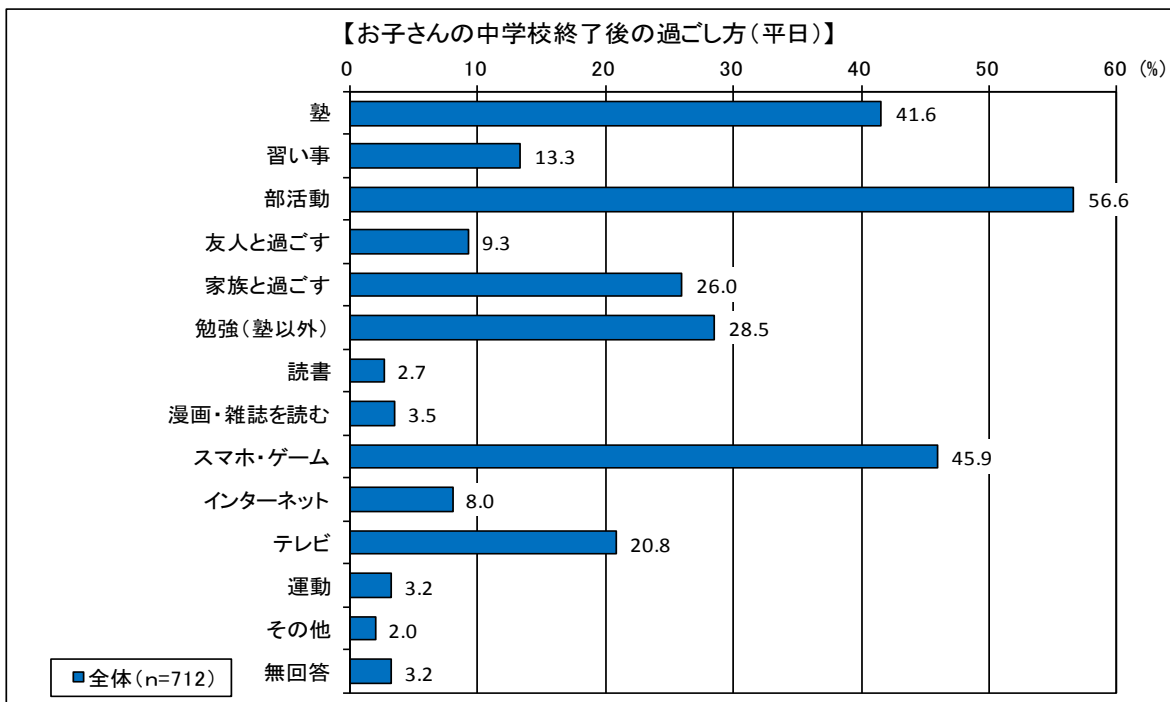
【子どもの学年×登校の様子】

上段：人、下段：%

項目	ほとんど休まず登校している	時々休むことがある	よく休むことがある	ほとんど休まないが朝、学校に行きたがらない日がある	その他	無回答	回答者数
中学1年生	209 89.3%	16 6.8%	2 0.9%	4 1.7%	2 0.9%	1 0.4%	234 100.0%
中学2年生	207 88.5%	16 6.8%	9 3.8%	1 0.4%	0 0.0%	1 0.4%	234 100.0%
中学3年生	210 86.1%	19 7.8%	4 1.6%	4 1.6%	3 1.2%	4 1.6%	244 100.0%

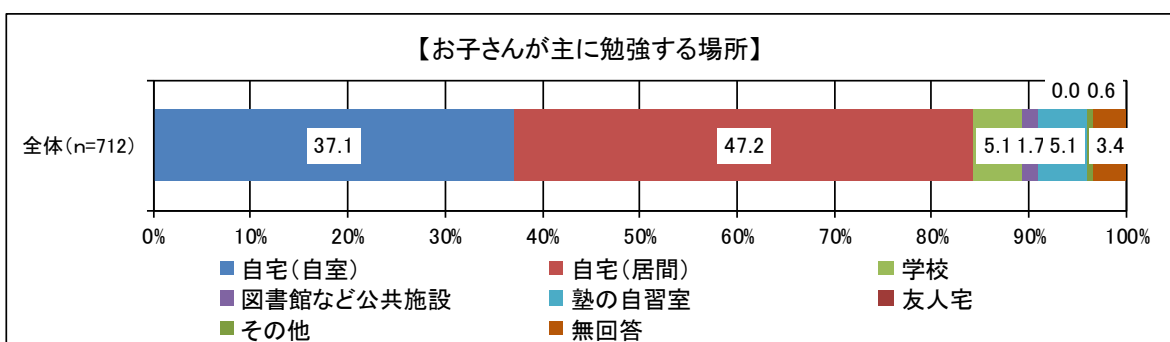
問 25 お子さんの中学校終了後の過ごし方（平日）

お子さんの放課後の過ごし方については、「部活動」が 56.6%で最も比率が高く、次いで「スマホ・ゲーム」(45.9%)、「塾」(41.6%)と続いています。



問 26 お子さんが主に勉強する場所

お子さんの主に勉強する場所は、「自宅(居間)」が 47.2%で最も比率が高く、次いで「自宅(自室)」が 37.1%、「学校」及び「塾の自習室」がともに 5.1%となっています。

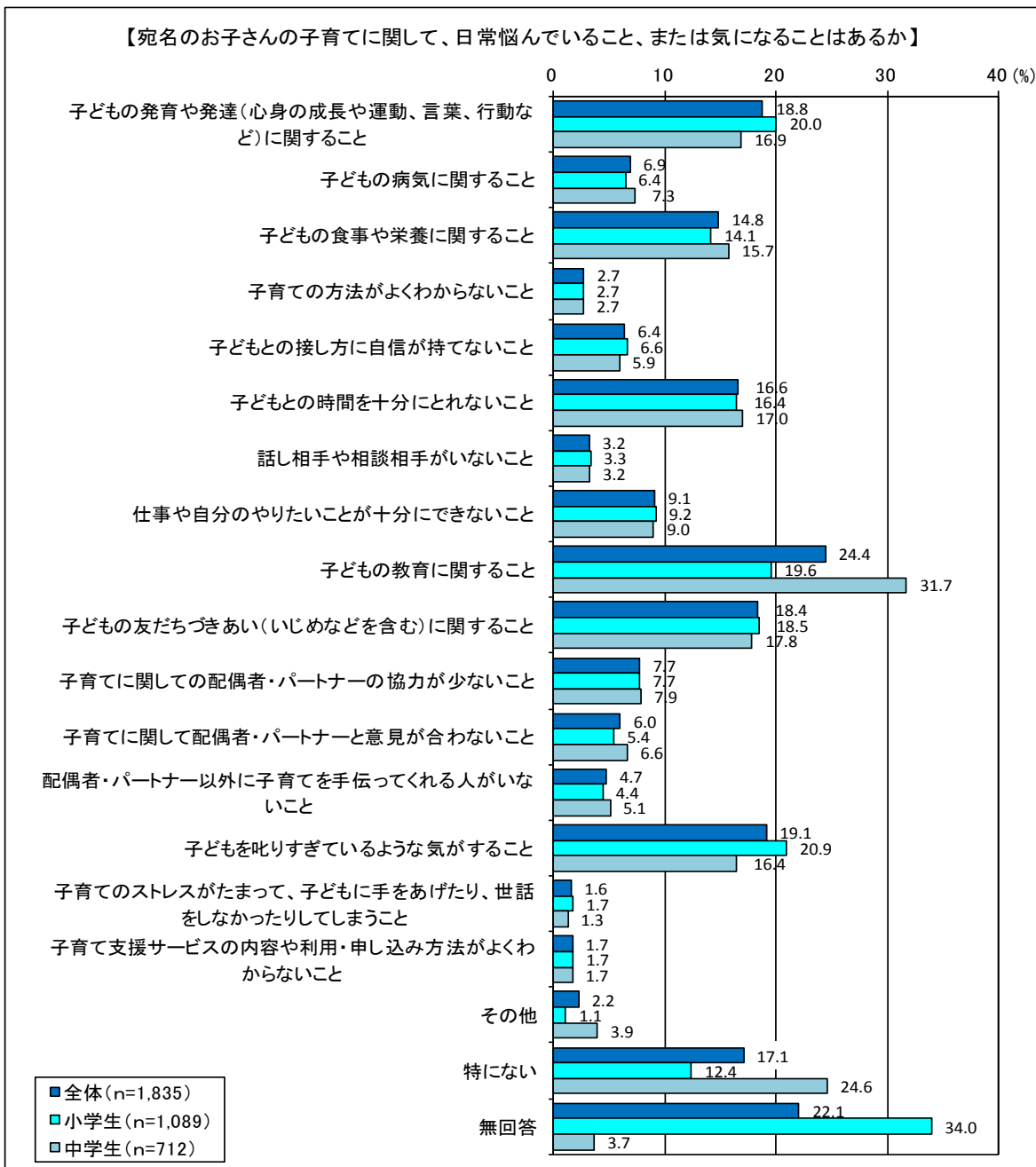


6 子育てに関する悩みや相談先について

問 27 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはあるか

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについては、「子どもの教育に関すること」が24.4%で最も比率が高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がすること」(19.1%)、「子どもの発育や発達(心身の成長や運動、言葉、行動など)に関すること」(18.8%)、「子どもの友だちづきあい(いじめなどを含む)に関すること」(18.4%)と続いています。なお、「特にない」は17.1%となっています。

「子どもの教育」は“中学生”で、「子どもを叱りすぎている」や「子どもの発育や発達」は“小学生”で、それぞれ他より比率が高くなっています。



「子どもを叱りすぎているような気がする」とは、子どもが“小学1～3年生”や、母親が“フルタイム”で就労している方で、他より比率が高くなっています。

【子どもの学年×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段:人、下段:%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
小学1～3年生	130	397	527
	24.7	75.3	100.0
小学4～6年生	98	464	562
	17.4	82.6	100.0
中学生	117	595	712
	16.4	83.6	100.0

【きょうだい人数×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段:人、下段:%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
1人	48	199	247
	19.4	80.6	100.0
2人	183	743	926
	19.8	80.2	100.0
3人	95	406	501
	19.0	81.0	100.0
4人以上	23	108	131
	17.6	82.4	100.0

【子どもをみてもらえる人はいない×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段:人、下段:%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
(日頃子どもを) みてもらえる人 はいない	40	169	209
	19.1	80.9	100.0

【配偶関係×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段:人、下段:%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
配偶者(夫・妻) がいる	311	1,314	1,625
	19.1	80.9	100.0
配偶者(夫・妻) はいない	40	166	206
	19.4	80.6	100.0

【母親の就労状況×子どもを叱りすぎているような気がする】

上段:人、下段:%

項目	子どもを叱りすぎているような気がする	非該当	回答者数
フルタイム	93	357	450
	20.7	79.3	100.0
パート・アルバイト	154	671	825
	18.7	81.3	100.0
就労していない	101	411	512
	19.7	80.3	100.0

【小・中・特別支援学校】

「子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと」は、“子どもをみてもらえる人がいない”や“配偶者はいない”で、比率が高くなっています。

【子どもの学年×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
小学1～3年生	9	518	527
	1.7	98.3	100.0
小学4～6年生	10	552	562
	1.8	98.2	100.0
中学生	9	703	712
	1.3	98.7	100.0

【きょうだい人数×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
1人	4	243	247
	1.6	98.4	100.0
2人	16	910	926
	1.7	98.3	100.0
3人	8	493	501
	1.6	98.4	100.0
4人以上	1	130	131
	0.8	99.2	100.0

【子どもをみてもらえる人はいない×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
(日頃子どもを)みてもらえる人はいない	7	202	209
	3.3	96.7	100.0

【配偶関係×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
配偶者(夫・妻)がいる	20	1,605	1,625
	1.2	98.8	100.0
配偶者(夫・妻)はいない	9	197	206
	4.4	95.6	100.0

【母親の就労状況×子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと】

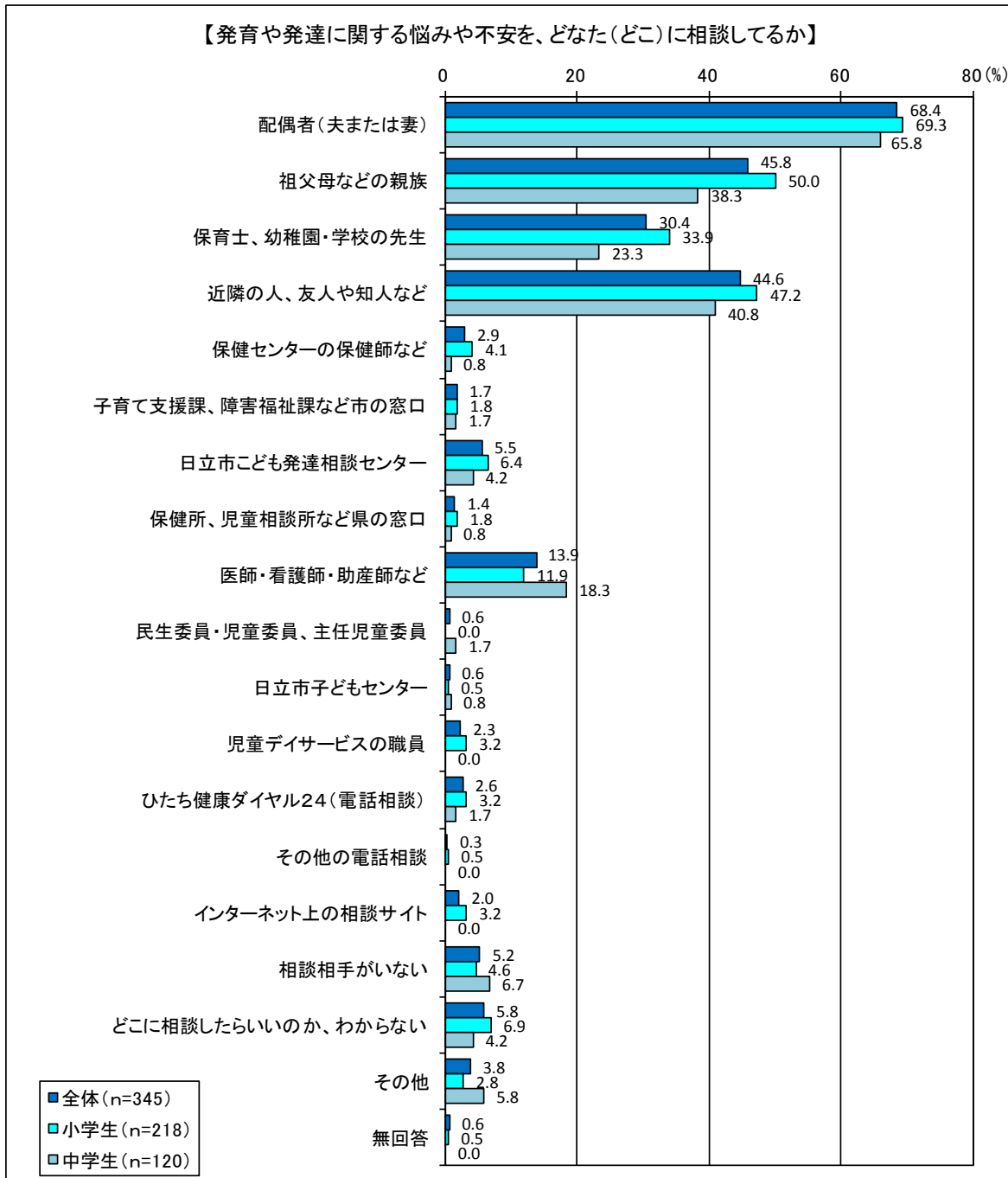
上段：人、下段：%

項目	子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと	非該当	回答者数
フルタイム	9	441	450
	2.0	98.0	100.0
パート・アルバイト	10	815	825
	1.2	98.8	100.0
就労していない	9	503	512
	1.8	98.2	100.0

問27で、「1. 子どもの発育や発達に関すること」に○をつけた方

問27-1 発育や発達に関する悩みや不安の相談先

発育や発達に関する悩みや不安の相談先は、「配偶者（夫または妻）」が68.4%で最も比率が高く、次いで「祖父母などの親族」（45.8%）、「近隣の人、友人や知人など」（44.6%）、「保育士、幼稚園・学校の先生」（30.4%）と続いています。これらはいずれも“小学生”で比率が高く、“中学生”の方が比率が高いのは「医師・看護師・助産師など」となっています。

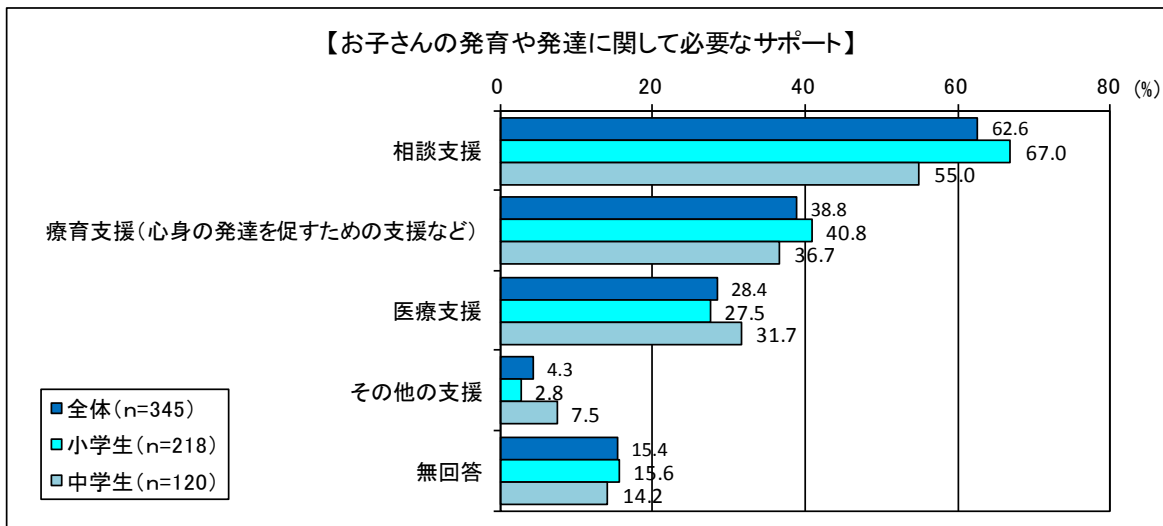


【小・中・特別支援学校】

問 27-2 お子さんの発育や発達に関して必要なサポート

発育や発達に関して必要なサポートについては、「相談支援」が 62.6%で最も比率が高く、次いで「療育支援（心身の発達を促すための支援など）」（38.8%）、「医療支援」（28.4%）、「その他の支援」（4.1%）となっています。

「相談支援」や「療育支援」は“小学生”で、「医療支援」は“中学生”で、それぞれ他より比率が高くなっています。



問 27-3 問 27-2 でお答えいただいたサポートの具体的な内容について（自由記載）

少サポートの具体的な内容については、「相談・指導体制等（専門家、ネット・電話等）」（31件）や「学校の理解・支援体制充実」（9件）、「医療機関・体制の充実」（8件）などに関する内容が上位にあげられています。

No.	項目	件数（うち小学生）
1	相談・指導体制等（専門家、ネット・電話等）	31（16）
2	学校の理解・支援体制充実	9（4）
3	医療機関・体制の充実	8（4）
4	訓練、トレーニング	3（0）
5	講演会、勉強会	3（3）
6	情報提供	3（2）
7	経済的支援	3（2）
-	特になし、わからない	3（2）
-	その他	14（9）

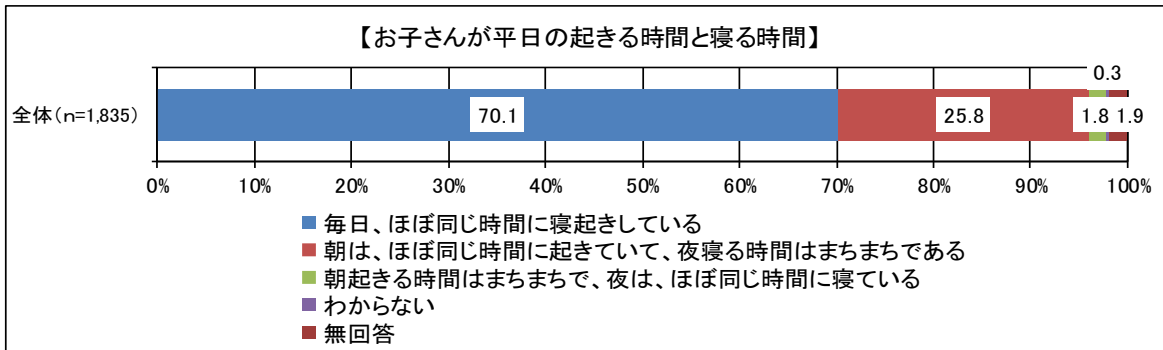
※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

7 お子さんのことについて

問 28 お子さんが平日の起きる時間と寝る時間

お子さんの平日の起床時間と就寝時間については、「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」が70.1%と多数を占め、次いで「朝は、ほぼ同じ時間に起きていて、夜寝る時間はまちまちである」が25.8%、「朝起きる時間はまちまちで、夜は、ほぼ同じ時間に寝ている」が1.8%、「わからない」が0.3%となっています。

「毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている」は“配偶者がいる”方や“年収が高い”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



【子どもの学年×お子さんが平日の起きる時間と寝る時間】

上段:人、下段:%

項目	毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている	朝は、ほぼ同じ時間に起きていて、夜寝る時間はまちまちである	朝起きる時間はまちまちで、夜は、ほぼ同じ時間に寝ている	わからない	無回答	回答者数
小学1～3年生	389	113	9	1	15	527
	73.8%	21.4%	1.7%	0.2%	2.8%	100.0%
小学4～6年生	413	128	7	1	13	562
	73.5%	22.8%	1.2%	0.2%	2.3%	100.0%
中学生	461	225	16	4	6	712
	64.7%	31.6%	2.2%	0.6%	0.8%	100.0%

【世帯年収×お子さんが平日の起きる時間と寝る時間】

上段:人、下段:%

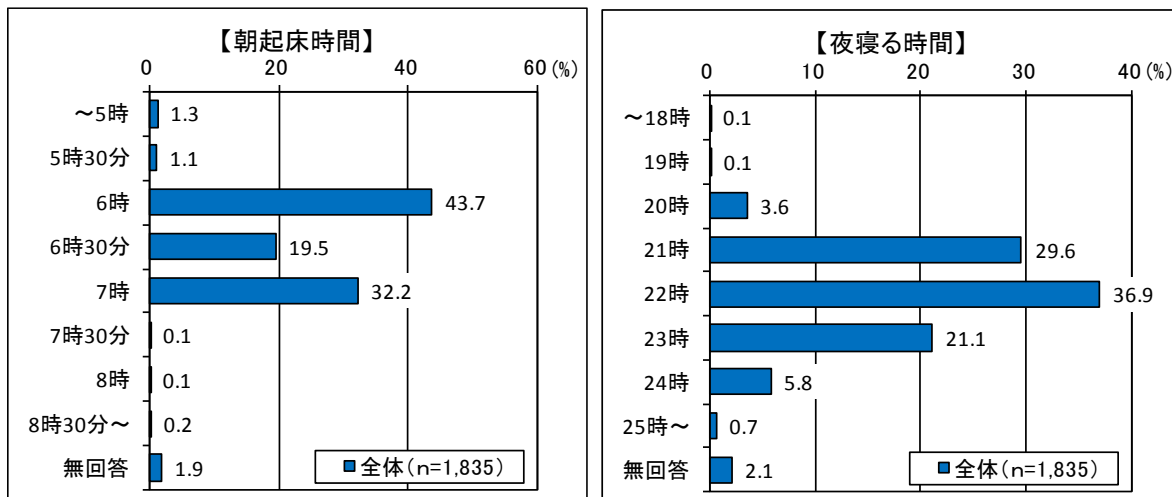
項目	毎日、ほぼ同じ時間に寝起きしている	朝は、ほぼ同じ時間に起きていて、夜寝る時間はまちまちである	朝起きる時間はまちまちで、夜は、ほぼ同じ時間に寝ている	わからない	無回答	回答者数
なし	13	5	1	1	0	20
	65.0%	25.0%	5.0%	5.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	77	38	3	0	4	122
	63.1%	31.1%	2.5%	0.0%	3.3%	100.0%
200～300万円未満	87	45	5	2	2	141
	61.7%	31.9%	3.5%	1.4%	1.4%	100.0%
300～500万円未満	312	133	7	3	8	463
	67.4%	28.7%	1.5%	0.6%	1.7%	100.0%
500～700万円未満	383	138	5	0	9	535
	71.6%	25.8%	0.9%	0.0%	1.7%	100.0%
700～1,000万円未満	252	74	8	0	6	340
	74.1%	21.8%	2.4%	0.0%	1.8%	100.0%
1,000万円以上	116	24	1	0	3	144
	80.6%	16.7%	0.7%	0.0%	2.1%	100.0%

【小・中・特別支援学校】

問 29 お子さんの平日の起きる時間と寝る時間のおおむねの時間

平日の起床時間は、「6時」が43.7%で最も高く、「7時」が32.2%、「6時30分」が19.5%と続いています。就寝時間は「22時」36.9%、次いで「21時」が29.6%、「23時」が21.1%となっています。

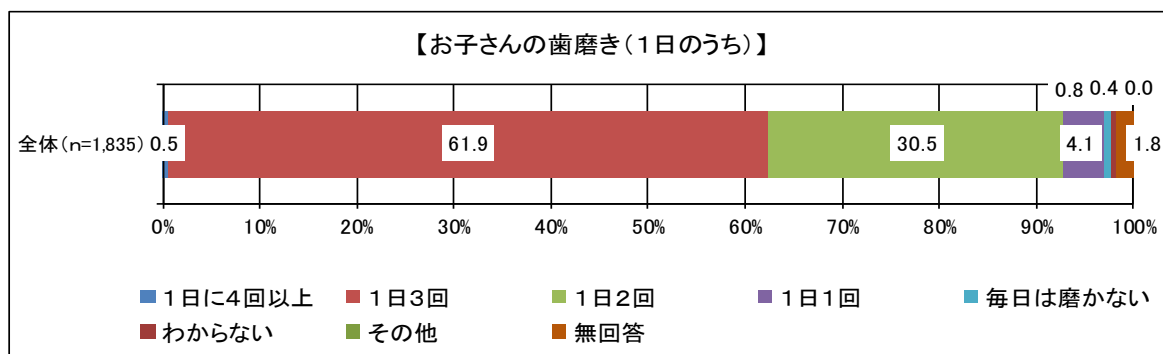
学校を“休むことがある”世帯では就寝時間が「23時」や「24時」の比率がやや高くなっています。



問 30 お子さんの歯磨き（1日のうち）

お子さんの1日の歯磨きの回数については、「1日3回」が61.9%で最も比率が高く、次いで「1日2回」が30.5%、「1日1回」が4.1%と続いております。「毎日は磨かない」は0.8%となっています。

“配偶者がいる”方や“年収が高い”方で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



【配偶関係×お子さんの歯磨き】

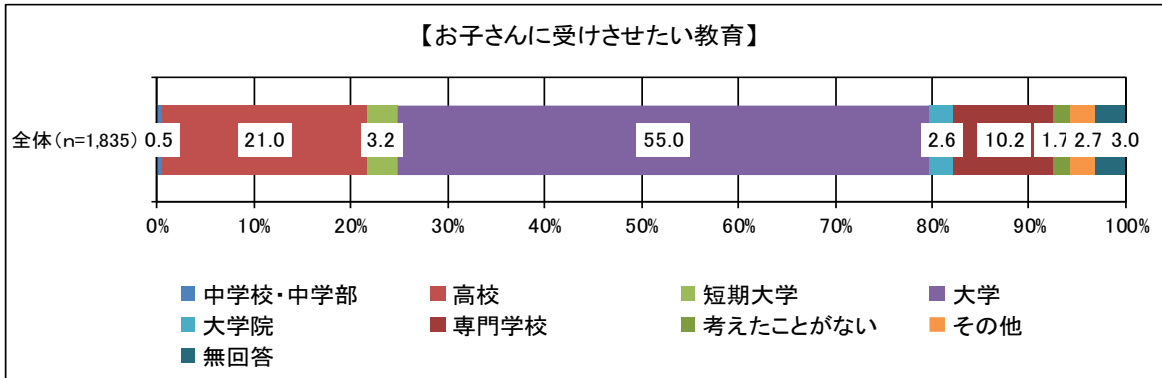
上段:人、下段:%

項目	1日に4回以上	1日3回	1日2回	1日1回	毎日は磨かない	わからない	その他	無回答	回答者数
配偶者がいる	6	1,034	484	60	10	5	0	26	1,625
	0.4	63.6	29.8	3.7	0.6	0.3	0.0	1.6	100.0
配偶者がいない	3	99	75	16	5	2	0	6	206
	1.5	48.1	36.4	7.8	2.4	1.0	0.0	2.9	100.0

問 31 お子さんに受けさせたい教育

お子さんに受けさせたい教育については、「大学」が55.0%で最も比率が高く、次いで「高校」(21.0%)、「専門学校」(10.2%)と続いています。

「大学」の回答は、「配偶者がいる」方や「年収 500 万円以上」の世帯で、それぞれ比率が高い傾向が見受けられます。



【世帯年収×お子さんに受けさせたい教育】

上段: 人、下段: %

項目	中学校・中学部	高校	短期大学	大学	大学院	専門学校	考えたことがない	その他	無回答	回答者数
なし	0 0.0%	16 80.0%	1 5.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20
200万円未満	1 0.8%	47 38.5%	2 1.6%	36 29.5%	2 1.6%	21 17.2%	2 1.6%	3 2.5%	8 6.6%	122
200～300万円未満	1 0.7%	55 39.0%	3 2.1%	46 32.6%	2 1.4%	21 14.9%	2 1.4%	4 2.8%	7 5.0%	141
300～500万円未満	4 0.9%	125 27.0%	19 4.1%	217 46.9%	4 0.9%	56 12.1%	8 1.7%	14 3.0%	16 3.5%	463
500～700万円未満	2 0.4%	92 17.2%	19 3.6%	318 59.4%	5 0.9%	61 11.4%	12 2.2%	15 2.8%	11 2.1%	535
700～1,000万円未満	1 0.3%	32 9.4%	12 3.5%	237 69.7%	15 4.4%	20 5.9%	6 1.8%	9 2.6%	8 2.4%	340
1,000万円以上	1 0.7%	8 5.6%	1 0.7%	107 74.3%	19 13.2%	3 2.1%	1 0.7%	2 1.4%	2 1.4%	144

【配偶関係×お子さんに受けさせたい教育】

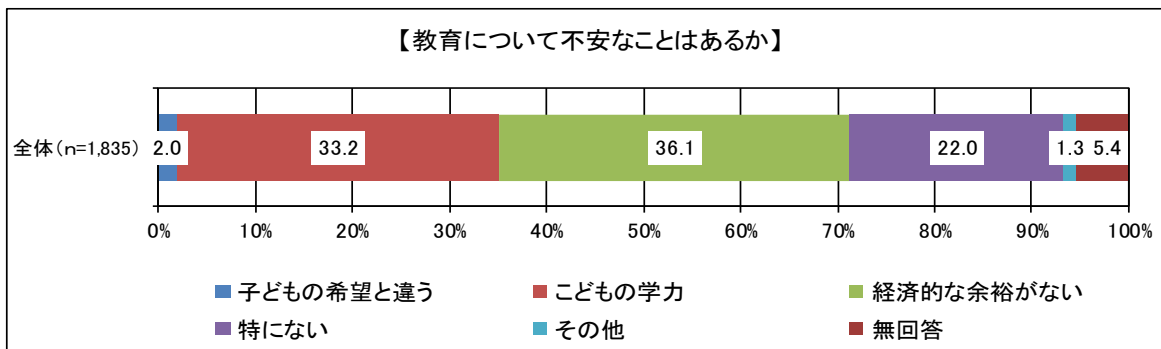
上段: 人、下段: %

項目	中学校・中学部	高校	短期大学	大学	大学院	専門学校	考えたことがない	その他	無回答	回答者数
配偶者がいる	7 0.4	307 18.9	51 3.1	939 57.8	44 2.7	157 9.7	31 1.9	47 2.9	42 2.6	1,625
配偶者がいない	3 1.5	79 38.3	7 3.4	68 33.0	3 1.5	30 14.6	1 0.5	3 1.5	12 5.8	206

【小・中・特別支援学校】

問 31-1 問 31 でお答えになった教育について不安なことはあるか

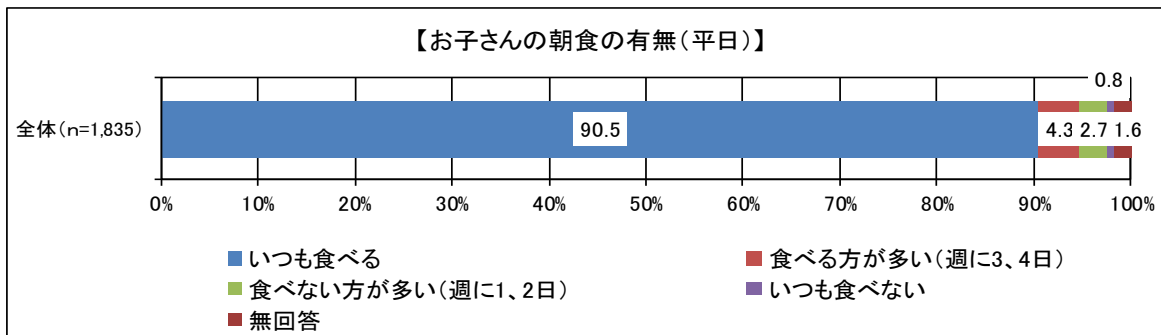
教育について不安なことについては、「経済的な余裕がない」が 36.1%で最も比率が高く、次いで「こどもの学力」(33.2%)、「子どもの希望と違う」(2.0%)となっており、「特にない」は 22.0%となっています。



問 32 お子さんの朝食の有無（平日）

お子さんの朝食の有無については、「いつも食べる」が 90.5%で大多数を占めており、「食べる方が多い（週に3、4日）」が 4.3%、「食べない方が多い（週に1、2日）」2.7%となっており、一方「いつも食べない」は 0.8%となっています。

“配偶者がいる”方で「いつも食べる」の比率が高い傾向が見受けられます。



【世帯年収×朝食の有無】

上段：人、下段：%

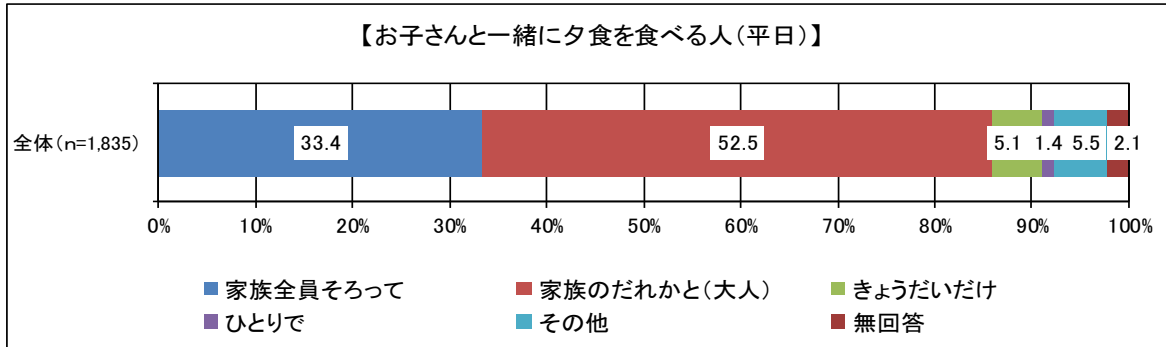
項目	いつも食べる	食べる方が多い(週に3、4日)	食べない方が多い(週に1、2日)	いつも食べない	無回答	回答者数
なし	15	1	4	0	0	20
	75.0%	5.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	97	11	7	2	5	122
	79.5%	9.0%	5.7%	1.6%	4.1%	100.0%
200～300万円未満	112	12	10	4	3	141
	79.4%	8.5%	7.1%	2.8%	2.1%	100.0%
300～500万円未満	424	18	10	4	7	463
	91.6%	3.9%	2.2%	0.9%	1.5%	100.0%
500～700万円未満	491	23	13	3	5	535
	91.8%	4.3%	2.4%	0.6%	0.9%	100.0%
700～1,000万円未満	320	10	4	1	5	340
	94.1%	2.9%	1.2%	0.3%	1.5%	100.0%
1,000万円以上	137	3	2	0	2	144
	95.1%	2.1%	1.4%	0.0%	1.4%	100.0%

問 33 お子さんと一緒に夕食を食べる人

お子さんと夕食を共にする家族については、「家族のだれかと（大人）」が 52.5%で最も比率が高く、次いで「家族全員そろって」が 33.4%、「きょうだいだけ」が 5.1%、「ひとりで」が 1.4%、「その他」が 5.5%となっています。

「ひとりで」は“中学生”は 2.8%と高い比率となっています。

「家族全員そろって」は“配偶者はいない”方で比率が高い傾向が見受けられます。



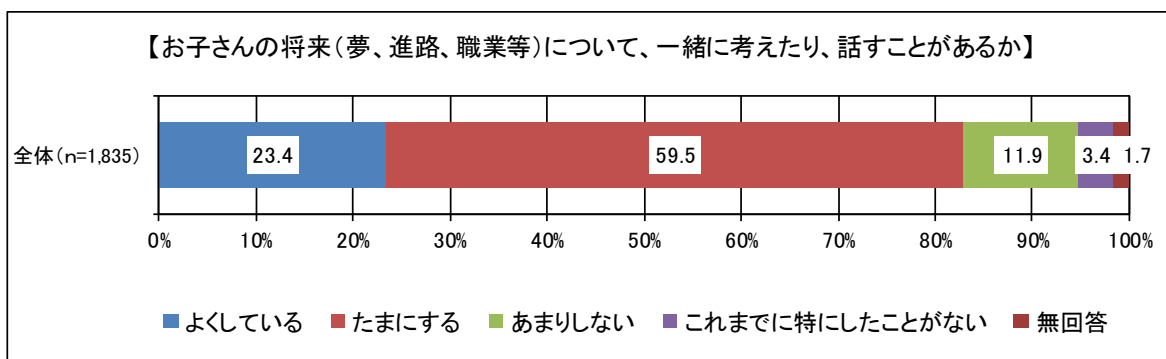
【子どもの学年×お子さんと一緒に夕食を食べる人】

上段：人、下段：%

項目	家族全員そろって	家族のだれかと(大人)	きょうだいだけ	ひとりで	その他	無回答	回答者数
小学1～3年生	172	275	33	3	30	14	527
	32.6%	52.2%	6.3%	0.6%	5.7%	2.7%	100.0%
小学4～6年生	212	281	27	2	26	14	562
	37.7%	50.0%	4.8%	0.4%	4.6%	2.5%	100.0%
中学生	217	392	31	20	42	10	712
	30.5%	55.1%	4.4%	2.8%	5.9%	1.4%	100.0%

問 34 お子さんの将来（夢、進路、職業等）について、一緒に考えたり、話すことがあるか

お子さんと将来（夢、進路、職業等）について、一緒に考えたり、話すことがあるかについては、「たまにする」が 59.5%で最も比率が高く、次いで「よくしている」が 23.4%、「あまりしない」が 11.9%、「これまでに特にしたことがない」が 3.4%となっています。



【小・中・特別支援学校】

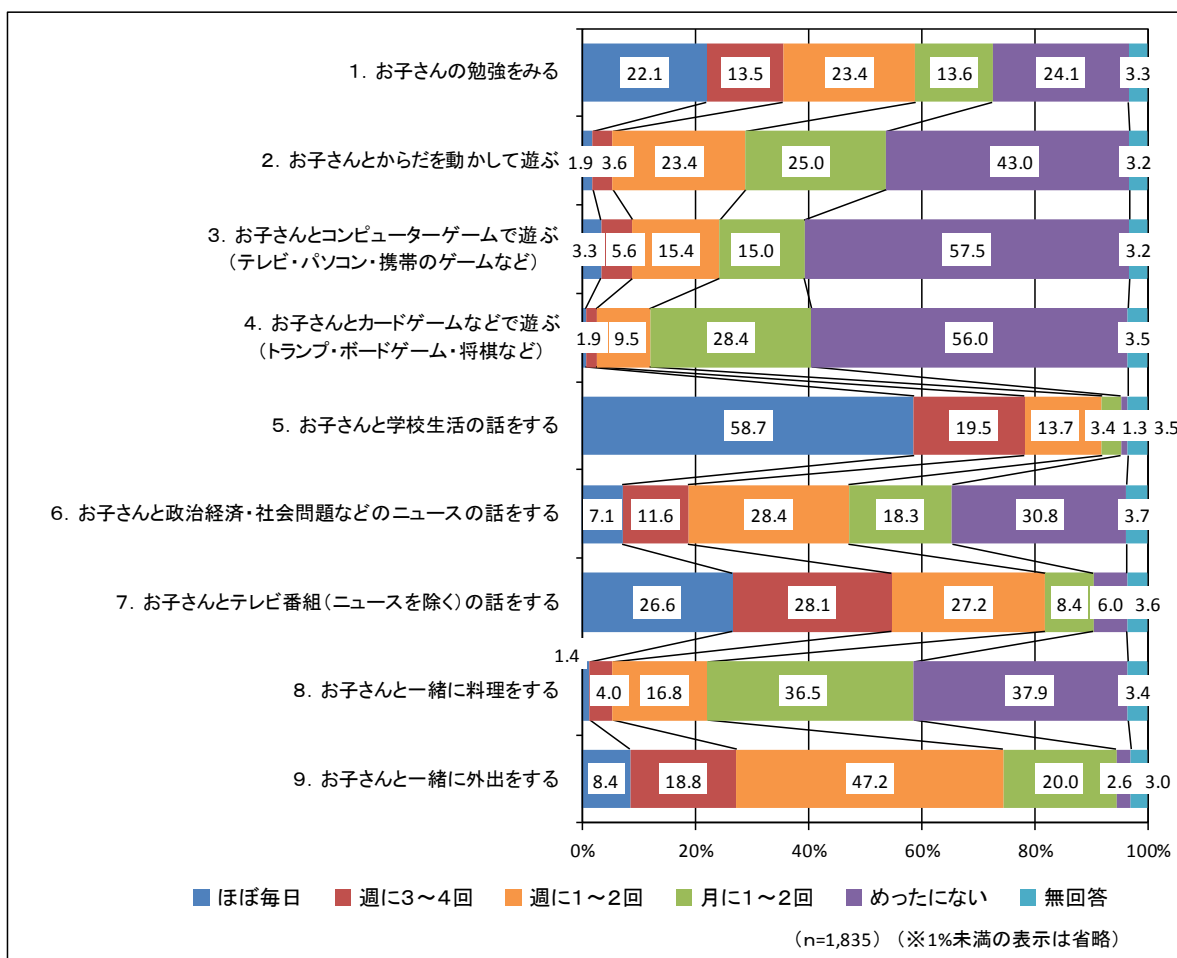
【世帯年収×将来について、一緒に考えたり、話すこと】

上段：人、下段：%

項目	よくしている	たまにする	あまりしない	これまでに 特にしたこと がない	無回答	回答者数
なし	3 15.0%	11 55.0%	6 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
200万円未満	28 23.0%	73 59.8%	12 9.8%	4 3.3%	5 4.1%	122 100.0%
200～300万 円未満	37 26.2%	82 58.2%	11 7.8%	8 5.7%	3 2.1%	141 100.0%
300～500万 円未満	89 19.2%	281 60.7%	70 15.1%	15 3.2%	8 1.7%	463 100.0%
500～700万 円未満	116 21.7%	336 62.8%	61 11.4%	17 3.2%	5 0.9%	535 100.0%
700～1,000万 円未満	98 28.8%	188 55.3%	39 11.5%	10 2.9%	5 1.5%	340 100.0%
1,000万円 以上	47 32.6%	75 52.1%	14 9.7%	6 4.2%	2 1.4%	144 100.0%

問 35 あなたの家庭では、お子さんと次のようなことをすることがあるか

月に数回お子さんと共に行っていることについては、「5. お子さんと学校生活の話をする」が95.3%で最も比率が高く、次いで「9. お子さんと一緒に外出をする」(94.4%)、「7. お子さんとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(90.4%)、「1. お子さんの勉強をみる」(72.6%)などとなっています。



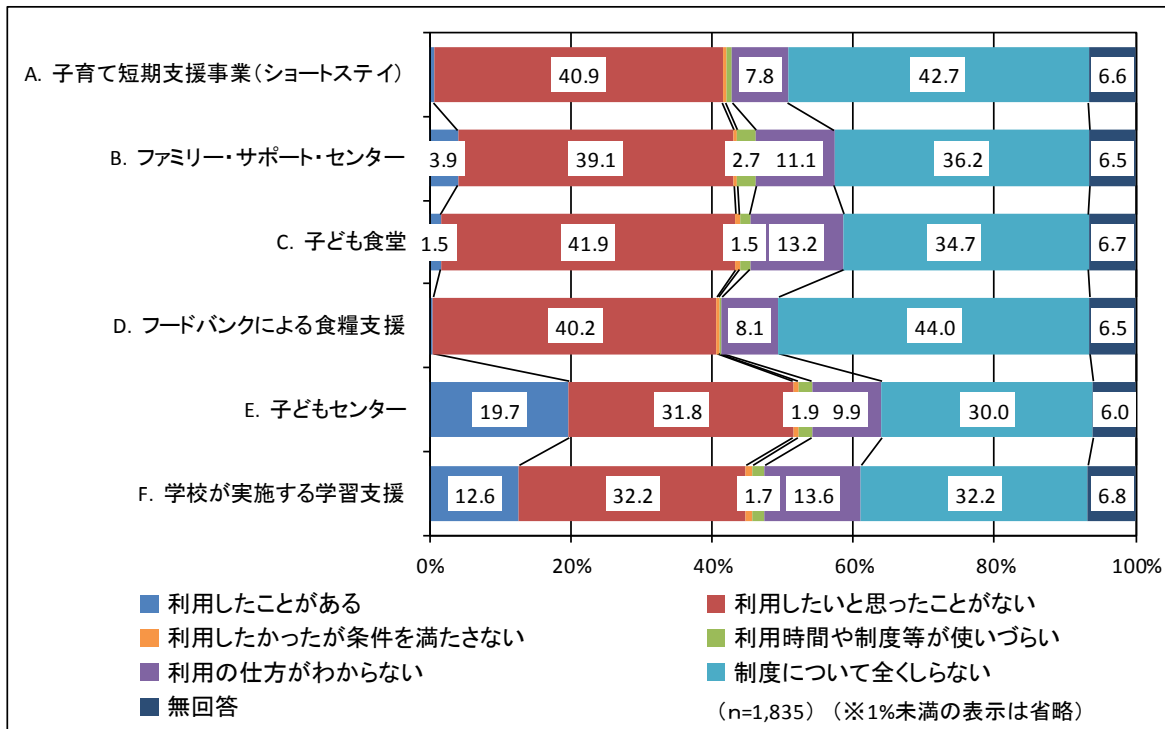
【世帯年収×お子さんと一緒に外出する】

上段：人、下段：%

項目	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~2回	めったにない	無回答	回答者数
なし	5	2	5	7	1	0	20
	25.0%	10.0%	25.0%	35.0%	5.0%	0.0%	100.0%
200万円未満	13	23	52	22	5	7	122
	10.7%	18.9%	42.6%	18.0%	4.1%	5.7%	100.0%
200~300万円未満	17	26	62	24	7	5	141
	12.1%	18.4%	44.0%	17.0%	5.0%	3.5%	100.0%
300~500万円未満	42	101	228	67	9	16	463
	9.1%	21.8%	49.2%	14.5%	1.9%	3.5%	100.0%
500~700万円未満	47	110	252	111	6	9	535
	8.8%	20.6%	47.1%	20.7%	1.1%	1.7%	100.0%
700~1,000万円未満	22	52	151	95	11	9	340
	6.5%	15.3%	44.4%	27.9%	3.2%	2.6%	100.0%
1,000万円以上	6	19	74	36	7	2	144
	4.2%	13.2%	51.4%	25.0%	4.9%	1.4%	100.0%

問 36 お子さんは、次のAからFの支援制度等についてこれまで利用したことがあるか

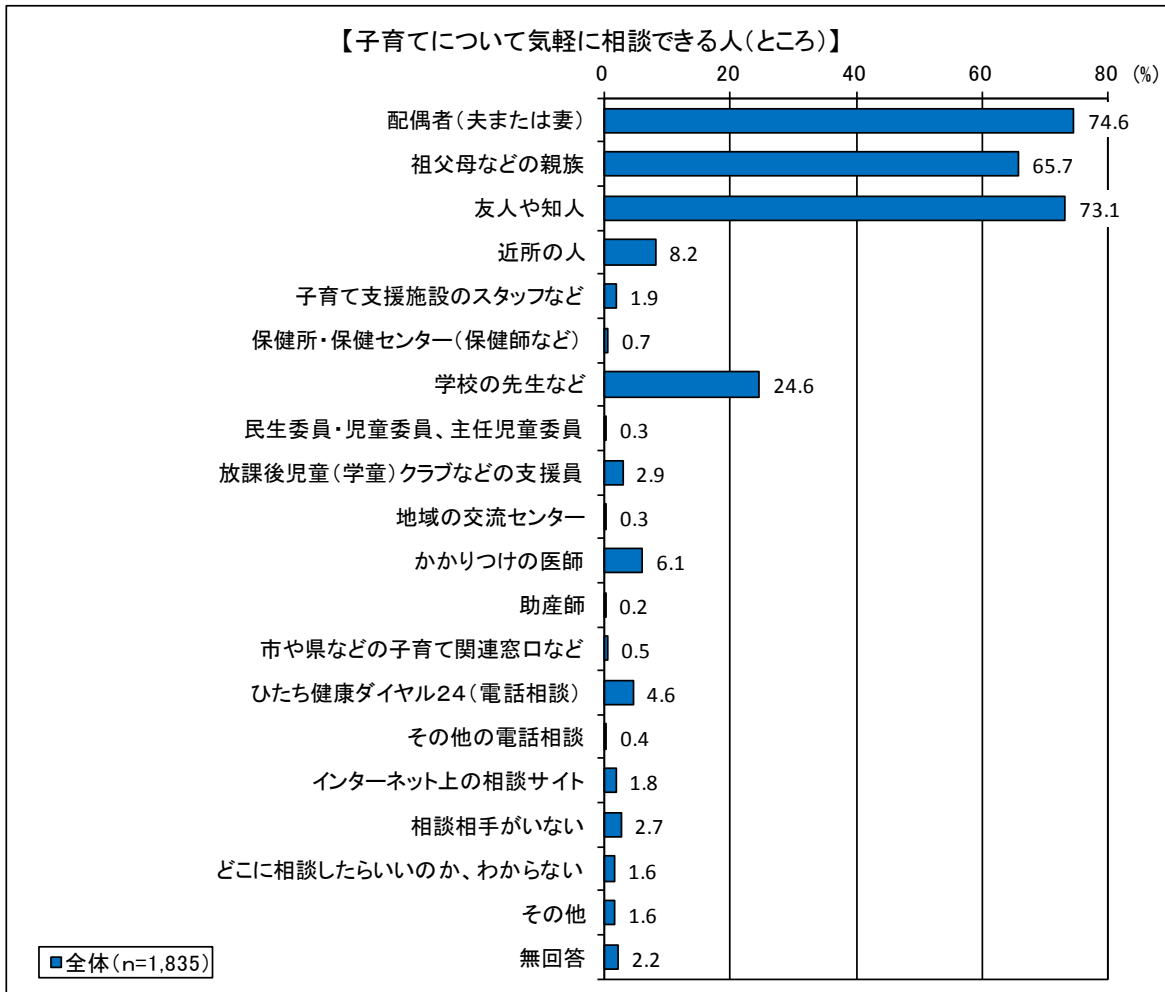
“利用したことがある”の比率が高いのは、「E. 子どもセンター」が19.7%、「F. 学校が実施する学習支援」が12.6%となっており、一方、“制度について全く知らない”の比率が高いのは、「A. 子育て短期支援事業（ショートステイ）」が42.7%、「D. フードバンクによる食糧支援」が44.0%となっています。



8 すべての方

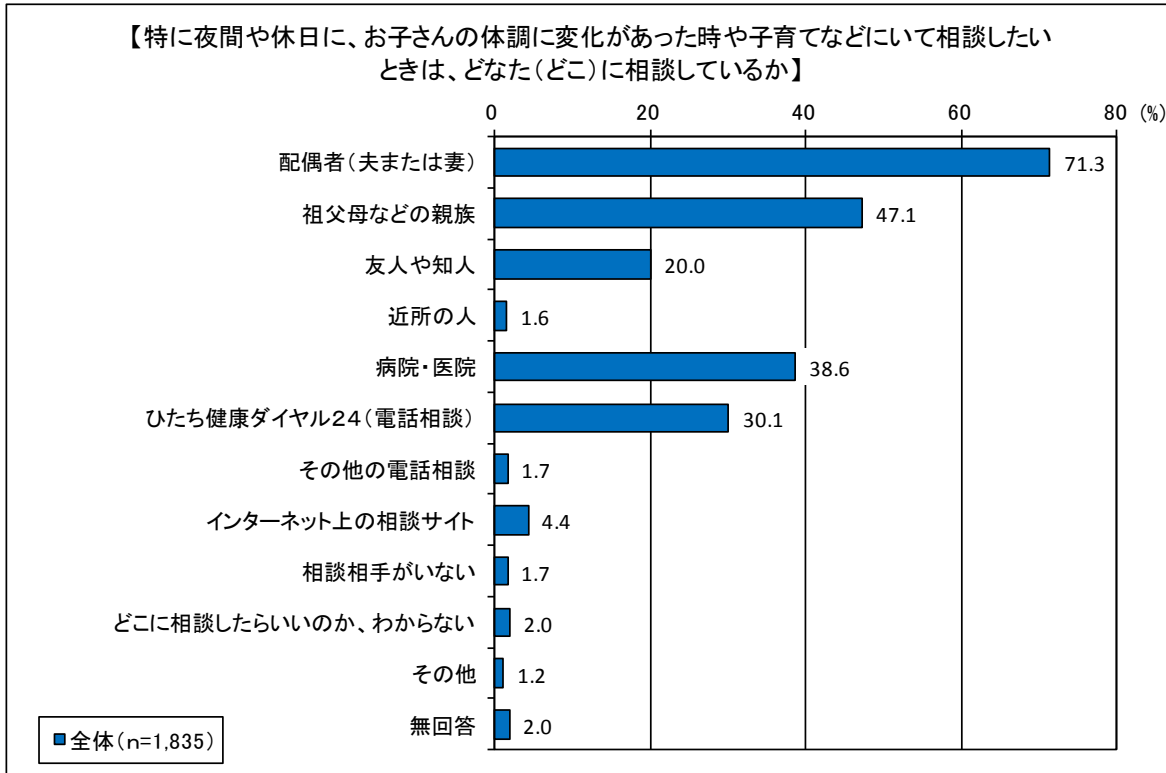
問 37 子育てについて気軽に相談できる人（ところ）

子育てについて気軽に相談できる人（ところ）は、「配偶者（夫または妻）」が74.6%で最も比率が高く、次いで「友人や知人」（73.1%）、「祖父母などの親族」（65.7%）と続いています。なお、「相談相手がない」は2.7%、「どこに相談したらいいのか、わからない」は1.6%となっています。



問 37-1 特に夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や子育てなどについての相談先

夜間や休日に、お子さんの体調に変化があった時や育児などについての相談先は、「配偶者（夫または妻）」が 71.3%で最も比率が高く、次いで「祖父母などの親族」（47.1%）、「病院・医院」（38.6%）、「ひたち健康ダイヤル24（電話相談）」（30.1%）と続いています。なお、「相談相手がない」は 1.7%、「どこに相談したらいいのか、わからない」は 2.0%となっています。

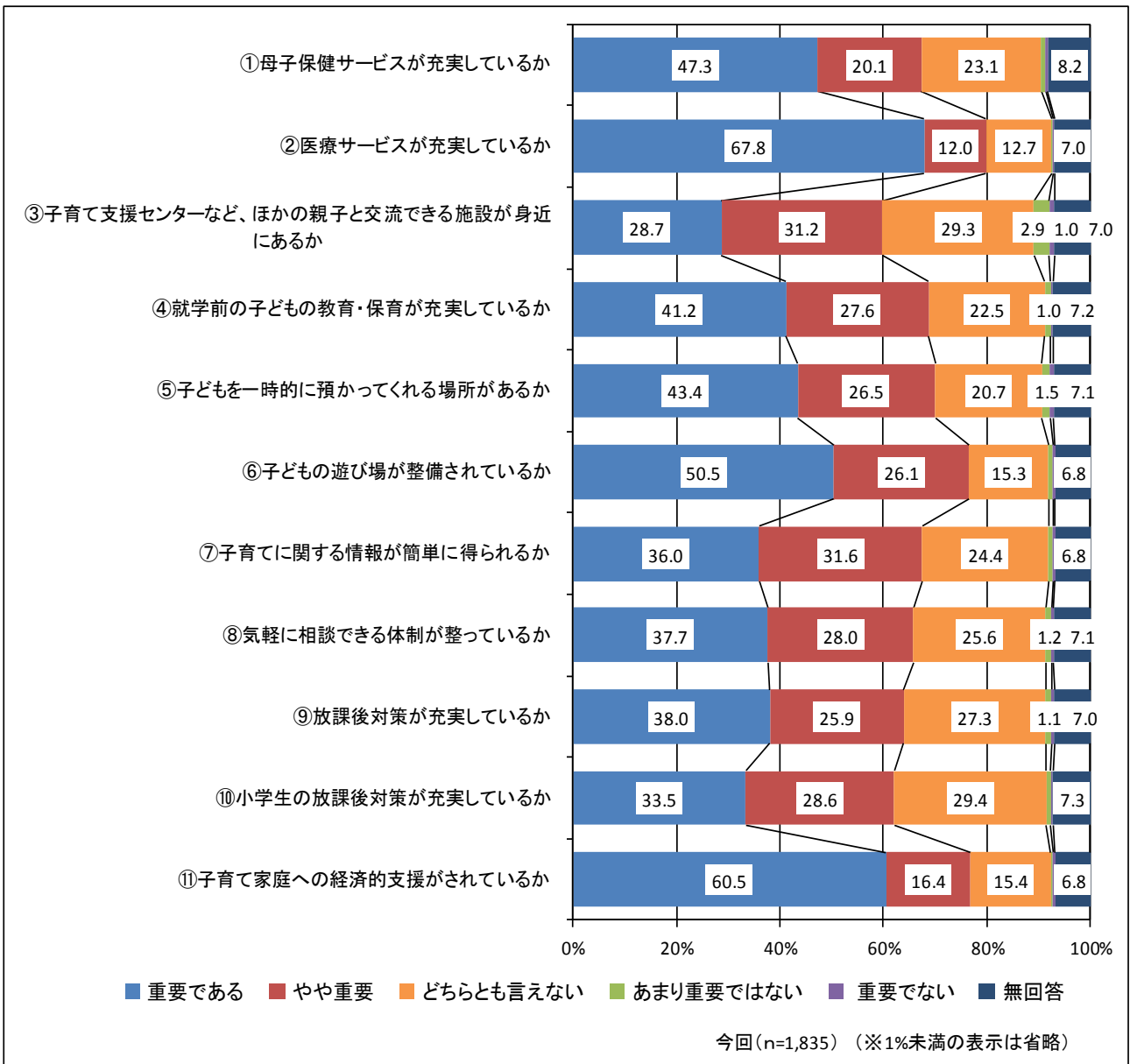


【小・中・特別支援学校】

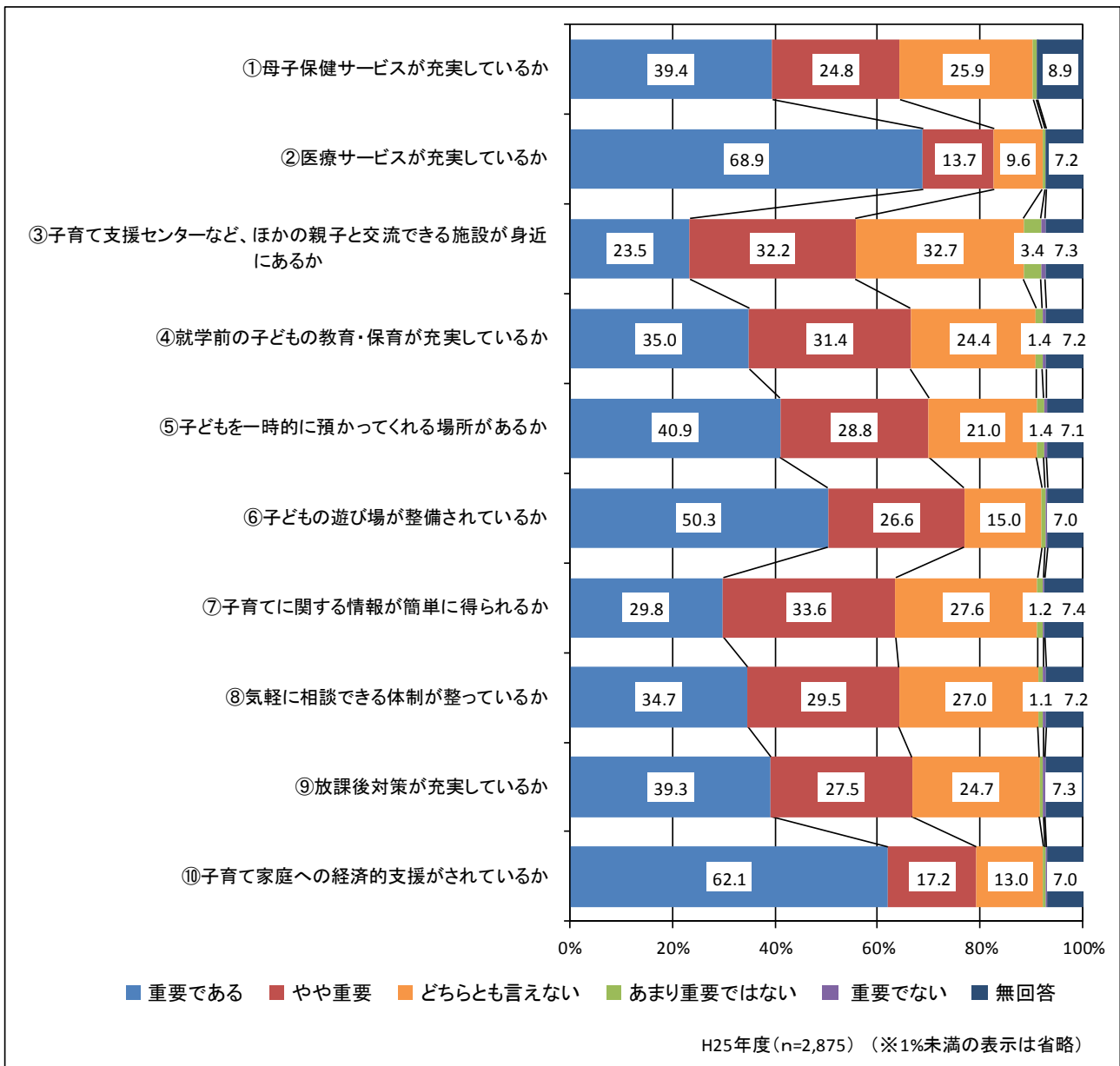
問 38 日立市の子育て支援の取り組みと重要度
「重要度」

“重要”（「重要である」）+「やや重要」の比率が高いのは、②医療サービスが充実しているか（79.8%）や⑩子育て家庭への経済的支援がされているか（76.9%）、⑥子どもの遊び場が整備されているか（76.6%）、⑤子どもを一時的に預かってくれる場所があるか（70.0%）と続いています。

【今回】



【前回（平成 25 年度）】

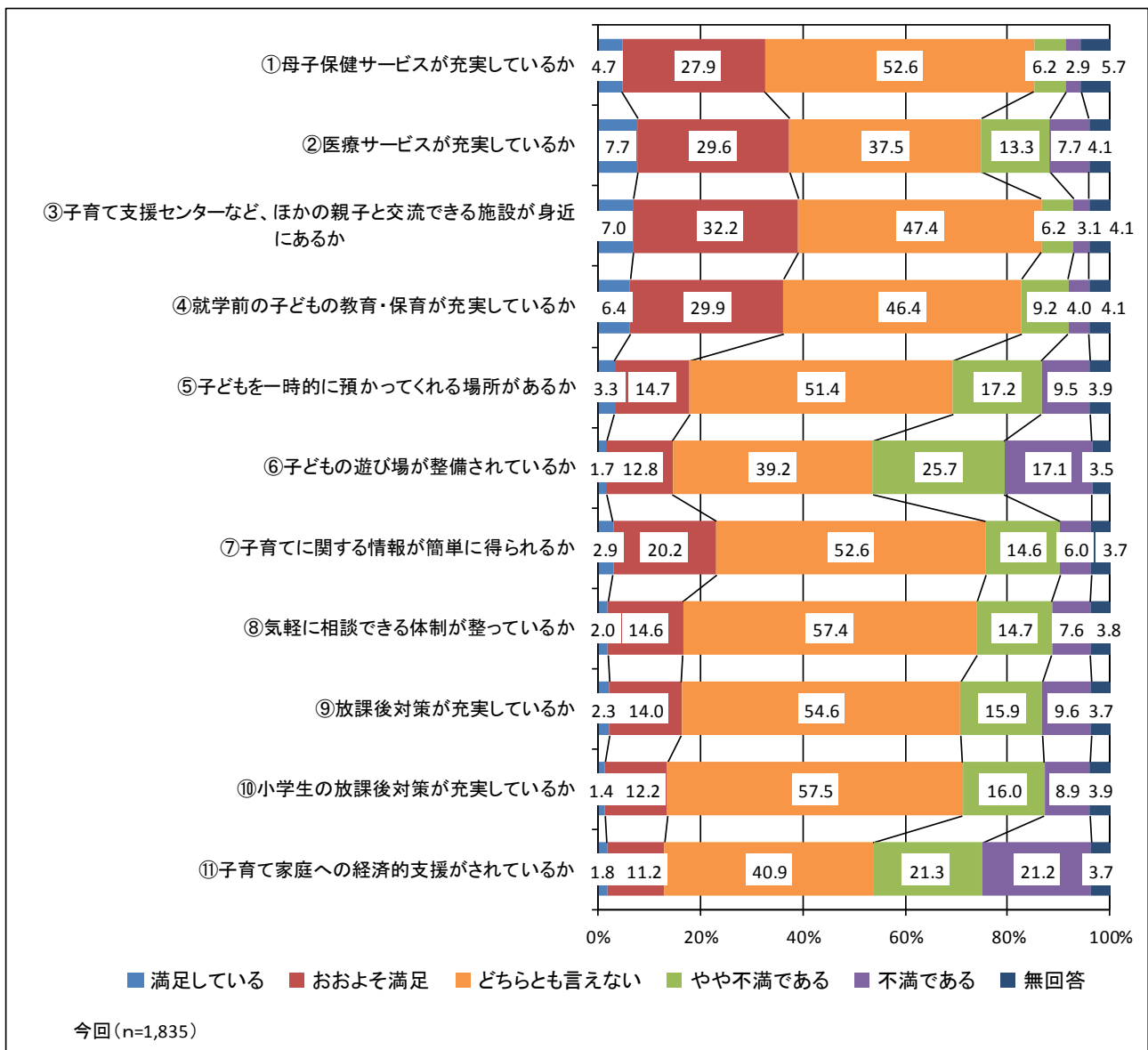


【小・中・特別支援学校】

「満足度」

“満足”（「満足している」+「おおよそ満足」）の比率が高いのは、③子育て支援センターなど、ほかの親子と交流できる施設が身近にあるか（39.2%）や②医療サービスが充実しているか（37.3%）、④就学前の子どもの教育・保育が充実しているか（36.3%）、①母子保健サービスが充実しているか（32.6%）などが上位となっています。

【今回】



前回調査において重要度が高く満足度が低かった「②医療サービス」、「⑥子どもの遊び場」、「⑩経済的支援」についてみると、「重要度」は前回と同様に高い比率であり、一方、「満足度」はいずれも比率が増加し、特に「②医療サービス」は40.2%と大幅な増加となっています。

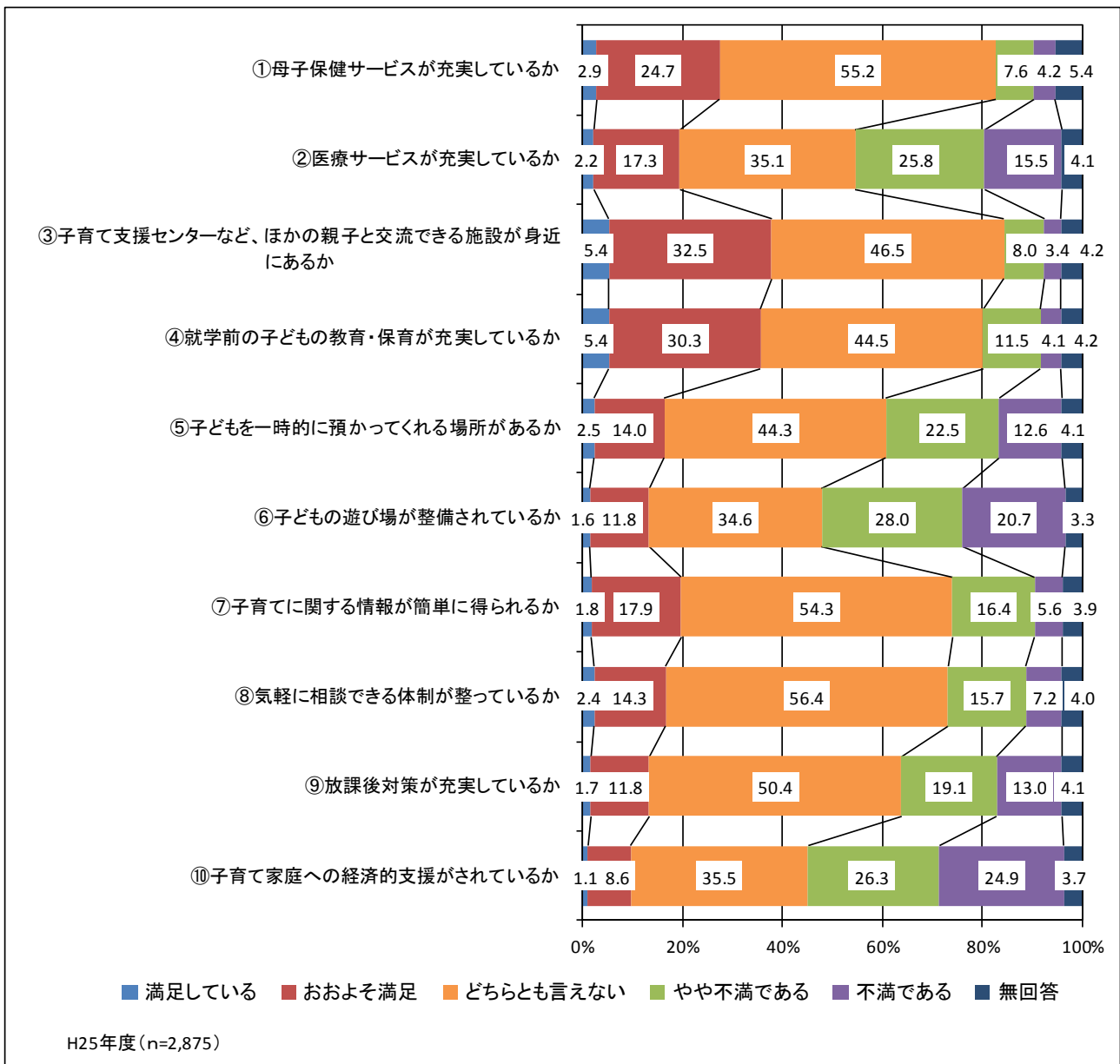
【今回と前回（平成25年度）の比較】

項目	重要度		満足度	
	今回	平成25年度	今回	平成25年度
②医療サービスが充実しているか	80.9%	82.6%	40.2%	19.5%
⑥子どもの遊び場が整備されているか	79.2%	76.9%	14.8%	13.4%
⑩子育て家庭への経済的支援がされているか	76.4%	79.3%	13.3%	9.7%

※重要度：「重要である」+「やや重要」 満足度：「満足している」+「おおよそ満足」

※今回の数値は、平成25年度と比較するために、小学生のみの数値となっています。

【前回（平成25年度）】



【小・中・特別支援学校】

⑪子育て家庭への経済的支援がされているか

「重要度」

【世帯年収×重要度】

上段：人、下段：%

項目	重要である	やや重要	どちらとも言えない	あまり重要ではない	重要でない	無回答	回答者数
なし	12	3	4	0	0	1	20
	60.0%	15.0%	20.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%
200万円未満	91	10	10	0	0	11	122
	74.6%	8.2%	8.2%	0.0%	0.0%	9.0%	100.0%
200～300万円未満	92	14	14	1	1	19	141
	65.2%	9.9%	9.9%	0.7%	0.7%	13.5%	100.0%
300～500万円未満	299	53	75	1	5	30	463
	64.6%	11.4%	16.2%	0.2%	1.1%	6.5%	100.0%
500～700万円未満	303	107	91	2	2	30	535
	56.6%	20.0%	17.0%	0.4%	0.4%	5.6%	100.0%
700～1,000万円未満	195	72	56	3	0	14	340
	57.4%	21.2%	16.5%	0.9%	0.0%	4.1%	100.0%
1,000万円以上	82	33	25	0	0	4	144
	56.9%	22.9%	17.4%	0.0%	0.0%	2.8%	100.0%

「満足度」

【世帯年収×満足度】

上段：人、下段：%

項目	満足している	おおよそ満足	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	回答者数
なし	0	0	6	3	9	2	20
	0.0%	0.0%	30.0%	15.0%	45.0%	10.0%	100.0%
200万円未満	5	11	38	21	42	5	122
	4.1%	9.0%	31.1%	17.2%	34.4%	4.1%	100.0%
200～300万円未満	5	17	33	26	46	14	141
	3.5%	12.1%	23.4%	18.4%	32.6%	9.9%	100.0%
300～500万円未満	5	38	186	115	108	11	463
	1.1%	8.2%	40.2%	24.8%	23.3%	2.4%	100.0%
500～700万円未満	7	59	230	122	99	18	535
	1.3%	11.0%	43.0%	22.8%	18.5%	3.4%	100.0%
700～1,000万円未満	4	47	161	71	50	7	340
	1.2%	13.8%	47.4%	20.9%	14.7%	2.1%	100.0%
1,000万円以上	6	24	72	21	18	3	144
	4.2%	16.7%	50.0%	14.6%	12.5%	2.1%	100.0%

問 39 今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくためには、どのような取組が必要か。その他、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見（自由記載）

今後の日立市の子育て環境や子育て支援を充実していくために必要な取組みや、子ども・子育て支援に関すること、お子さんをどのように育てたいかなどの意見（自由記載）について、512人から回答が寄せられました。「遊び場（公園等を含む）整備について」（98件）や「学校・教育や施設整備について」（71件）、「児童手当・医療福祉費支給制度について」（56件）、「経済的な支援」（56件）などに関する内容が上位にあげられています。

No.	項目	件数
1	遊び場（公園等を含む）整備について	98
2	学校・教育や施設整備について	71
3	児童手当・医療福祉費支給制度について	56
4	経済的な支援	56
5	児童クラブ（学童クラブ）等について	47
6	医療機関について	30
7	子育て支援について	27
8	防犯・安全対策について	22
9	保育料や授業料（給食費を含む）について	20
10	情報提供について	19
11	子育て観について	18
12	居場所（フリースクール等も含む）について	18
13	母子家庭・父子家庭への支援について	17
14	学習支援・習い事の支援について	17
15	保育園・幼稚園について	15
16	P T A・子ども会や地域での活動について	14
17	子育て支援施設や親子交流の場等について	13
18	予防接種について	12
19	体験・講座・イベント等	12
20	地域との交流について	11
21	小学生の一時預かりについて	9
22	特別な支援を要するお子さんへの支援について	9
23	相談体制について	8
24	未就学児の一時預かりについて	7
25	病児・病後児の預かりについて	7
26	大人の意識・モラルについて	7
27	仕事と子育ての両立支援について	6
28	スポーツクラブ（少年団を含む）等	5
29	交通支援（スクールバス等も含む）について	5
30	就労支援について	3
31	商業施設等	2
32	政策・行政について	49
33	その他	40
34	特になし	4

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【児童クラブ】

I 調査の概要

1 調査の目的

2020年度を初年度とする次期計画の策定に当たり、これまでの事業を振り返り、さらに児童クラブの一層の充実に向け、現在児童クラブを利用している方を対象にニーズ調査を実施した。

2 調査の対象者及び抽出方法

調査対象者	抽出方法
市内の児童クラブに登録している児童の保護者	各児童クラブに登録している1年生～4年生を任意に抽出

※ 現在の児童クラブの設置等状況は、公設児童クラブ24クラブ、民間児童クラブ11クラブ（市の補助対象クラブ）を設置しており、登録児童数は、平成30年1月1日現在で、総数1,211人、公設児童クラブ823人、民間児童クラブ388人となっている。

3 調査実施方法及び期間

- ・調査実施方法：児童クラブを通しての配布・回収
- ・調査実施期間：平成30年11月28日（水）～12月14日（金）

4 アンケート回収結果

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
392人	334人	329人	83.9%

（※有効回収数＝回収数－白紙回答）

5 集計結果の見方

- ・集計結果を百分率（%）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・回答がない場合や、定められた以上の回答があった場合（一つ選択する設問で複数選択など）は「無回答」として集計する。
- ・グラフ等表示に際して、選択肢が多い場合や文言が長い場合は、選択肢の文言を簡略化したり、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。

Ⅱ 調査結果（概要）

1 お子さんをご家族の状況について

回答した保護者のお子さんが利用しているクラブは「公設の児童クラブ」が 67.5%、「民間の児童クラブ」が 32.5%となっています。お子さんが小学校入学前に通っていたところは、「公立の保育園」が 28.3%で最も高く、「私立の保育園」が 27.4%、「私立の認定こども園（保育認定）」が 15.2%、「市立の幼稚園」が 9.1%と続いています。

お住まいの区域は、「多賀地区」が 30.1%、「本庁地区」が 24.6%、「南部地区」が 24.3%、「北部地区」が 21.0%となっています。

お子さんのきょうだいの人数は、「2人」が 47.7%で最も高く、「1人」が 27.1%、「3人」が 23.1%、「4人」が 0.3%となっており、「5人以上」は 0%となっています。

本調査票の回答者は、「母」が 91.8%と大多数を占めており、年齢は「40代」（48.3%）や「30代」（40.7%）多くなっています。また、配偶関係は「配偶者（夫・妻）がいる」が 83.0%となっています。

2 児童クラブの運営について

（1）現在の児童クラブに対する満足度

現在の児童クラブに対する満足度は、「満足」（42.6%）と「どちらかといえば満足」（40.4%）を合わせた“満足”は 83.0%、「どちらかといえば不満」（14.3%）と「不満」（1.2%）を合わせた“不満”は 15.5%となっています。

“不満”の理由としては、“公設”の児童クラブでは「土（毎週）・日・祝日が利用できない、利用時間が短い」や「外遊びが少ない」などの回答が、“民間”の児童クラブでは「料金が高い」が、それぞれ多い回答となっています。

（2）1人当たりの保育料月額と保育料以外の負担金

1人当たりの保育料月額は、公設では「5,000円未満」が 78.8%、民間では「10,000円以上20,000円未満」が 71.0%となっています。おやつ代の月額は、公設では「2,000円未満」が 32.4%、民間では「2,000円未満」が 24.3%となっています。保育料以外の負担金の月額はバラツキがあり、公設では、「0円」（16.2%）や「5,000円未満」（15.3%）が、民間では「20,000円未満」が 22.4%となっています。

(3) 児童クラブの運営に関して

児童クラブの開設時間は、「現在のままでよい」が65.7%であり、「変更してほしい」が32.8%となっています。「変更してほしい」は、“公設”でより高い比率となっています。

①通常授業日の終了時間

「変更してほしい」と回答したかたの通常授業日の希望の終了時間は、「18時30分」(26.9%)から「19時」(46.3%)が多くなっており、“民間”の方がやや遅い時間を希望する結果となっています。

②長期休暇等（夏休み・冬休み・春休み・土曜日・振替休業日）

「変更してほしい」と回答したかたの長期休暇等における希望の開始時間は、「7時」(26.9%)から「7時30分」(54.6%)が多くなっており、“民間”の方がやや早い時間を希望する結果となっています。

長期休暇等における希望の終了時間は、「18時30分」(28.7%)から「19時」(40.7%)が多くなっており、“民間”の方がやや遅い時間を希望する結果となっています。

(4) 児童クラブに望むもの・期待するもの

児童クラブに望むもの・期待するものは、「安全」(64.7%)や「学習」(54.4%)、「遊び」(53.8%)、「生活指導」(44.4%)、「異年齢児との関わり」(36.2%)、「行事」(35.3%)、「保育」(32.5%)などの比率が高くなっています。“公設”、“民間”とも、「安全」は60%台、「学習」や「遊び」は50%台など、概ね同様の傾向となっています。

(5) 児童クラブ室

児童クラブ室について、「現在のままでよい」が76.0%であり、「充実・改善するべきである」が19.8%となっています。充実・改善の具体的な内容は、「広さ・部屋数」、「冷暖房などの設備」などの意見が多く、「広さ・部屋数」は“公設”で、「冷暖房などの設備」は“民間”で多くあげられています。

(6) 児童クラブにお子さんを預ける場合、何年生までと考えているか

児童クラブに何年生までお子さんを預けるかについては、「6年生」が43.5%、「4年生」が28.9%などとなっており、“公設”、“民間”とも同様の傾向となっています。

【児童クラブ】

公設児童クラブ（小学校敷地内に設置）を利用している方のみ回答

（7）受入学年と開設時間の拡大について

公設児童クラブにおける受入学年の拡大については、希望する学年は「6年生」が63.5%と多数を占めており、開設（終了）時間の拡大については、「19時まで」が37.4%と最も高い比率となっています。

受入学年と開設時間の拡大にかかわる保護者の負担金については、「預かり時間は18時までを基本とし、それ以降は延長料金として負担することがよい」が53.6%で最も比率が高くなっています。現在の負担金に加えて負担しても良い金額（月額）は、「1,000円」が60.4%で多数を占めています。

（8）開設日について

開設日については、「現状のままでよい」が64.9%、「拡大するべきである」が33.3%となっており、「拡大するべきである」と回答した方が開設したほうがよいと思う日は、「土曜日」が70.3%、「祝日」が50.0%、「日曜日」が14.9%となっています。

（9）公設の児童クラブを利用している理由

公設の児童クラブを利用している理由は、「学校敷地内にあり安全だと思うから」（87.8%）や「保育料が民間と比べて安いから」（60.8%）、「開設時間が希望と合っているから」（34.2%）が上位となっています。

民間の児童クラブを利用している方のみ回答

（10）児童クラブの利用について

公設の児童クラブについて、「利用する気はなかった」が64.5%となっています。

民間の児童クラブを利用している理由は、「開設時間が希望と合っているから」（57.0%）や「民間の児童クラブの雰囲気が子どもに合っているから」（36.4%）、「保育園の時から利用しており、慣れているから」（28.0%）、「習い事ができるから」（22.4%）が上位となっています。

親が参加する事業については、「事業はない」が43.9%で最も高い比率となっており、事業の頻度としては「年に1回程度」が22.4%、「学期ごとに1回程度」が20.6%などとなっており、参加している具体的な事業名は「清掃・草むしり・奉仕作業」や「運動会」、「発表会」などが上位となっています。

3 放課後の居場所等について

(1) お子さんの放課後、週休日や長期休暇期間中の過ごし方（今の満足度）

放課後の過ごし方は、「とても満足している」が 32.8%、「まあまあ満足している」が 59.0% となっています。

週休日や長期休暇期間の過ごし方についても同様に、「とても満足している」は 28.6%、「まあまあ満足している」は 59.3%と、“満足”の度合いは高くなっています。

“放課後”、“週休日や長期休暇期間中”ともに、“公設”及び“民間”とも“満足”の度合いは高く、同様の傾向となっています。

(2) お子さんの放課後や、週休日・長期休暇期間中の過ごし方（今後の希望）

放課後の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」(86.3%)や「自主学習に取り組める」(65.7%)、「さまざまなことが体験できる」(45.0%)、「学年を越えて交流できる」(44.7%)などが上位となっています。

週休日や長期休暇期間についてみると、「楽しく安全に遊ぶ」(84.8%)や「自主学習に取り組める」(60.5%)、「学年を越えて交流できる」(42.2%)は、上記「放課後」と同程度の高い比率となっていますが、「さまざまなことが体験できる」(71.1%)や「子どものやりたいことが自由にできる」(43.8%)、「地域の方と交流できる」(25.2%)は「放課後」より高い比率となっています。

“公設”、“民間”とも同様の傾向が見受けられますが、「楽しく安全に遊ぶ」及び「子どものやりたいことが自由にできる」は“公設”が、他の項目は“民間”が、それぞれ他よりやや比率が高い結果となっています。

今後、望むことについては、「長期休暇中の過ごし方等の改善」や「外遊び・体を使った遊びなどの充実」、「宿題・学習面（自主学習・宿題以外の学習を望む、学校の宿題を減らすなど）」などが上位となっています。

(3) 放課後、週休日や長期休暇期間中にお子さんにさせたい活動

放課後にお子さんにさせたい活動は、「勉強」(66.6%)や「スポーツ体験」(54.4%)、「外国人との交流や英語にふれる活動」(39.2%)、「野外体験・自然体験」(36.8%)、「おやつや料理を作る体験」(36.2%)が上位となっています。

週休日や長期休暇期間中についてみると、「野外体験・自然体験」(68.4%)や「スポーツ体験」(63.2%)、「勉強」(62.9%)、「おやつや料理を作る体験」(53.8%)、「職業体験・工場見学」(45.0%)となっており、「野外体験・自然体験」や「職業体験・工場見学」など時間をかけて行う内容が高くなっています。

(4) 児童クラブに関する御意見など（自由記載）

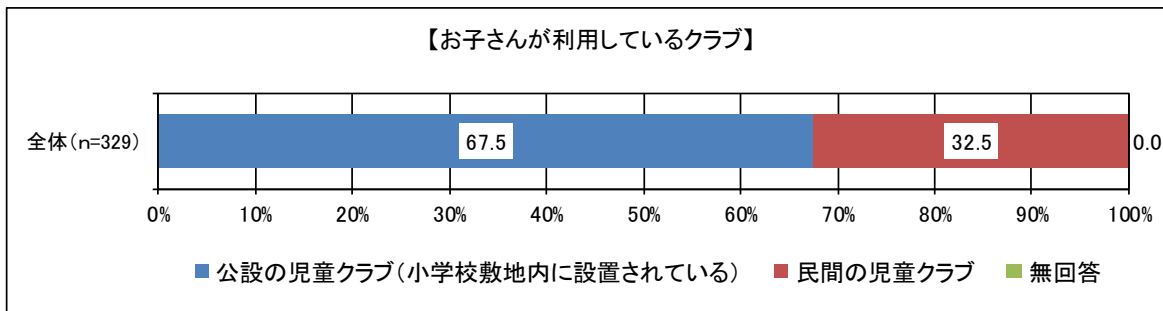
児童クラブに関する御意見として、「児童クラブ・支援員への感謝」や「活動内容・場所の充実・改善」、「受入れ体制」などに関する内容が上位にあげられています。

Ⅲ 調査結果

1 お子さんご家族の状況について

問1 お子さんが利用しているクラブについて

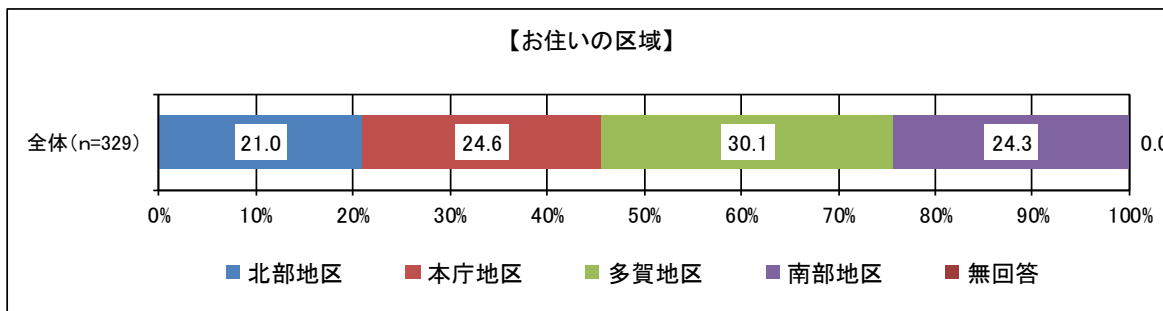
回答した保護者のお子さんが利用しているクラブは、「公設の児童クラブ」が67.5%、「民間の児童クラブ」が32.5%となっています。



問2 お住まいの区域

お住まいの区域は、「多賀地区」が30.1%、以下、「本庁地区」が24.6%、「南部地区」が24.3%、「北部地区」が21.0%となっています。

利用しているクラブ（公設・民間）別にみると「本庁地区」は“公設”が28.8%、「北部地区」や「南部地区」は“民間”がそれぞれ26.2%、27.1%の利用状況となっています。

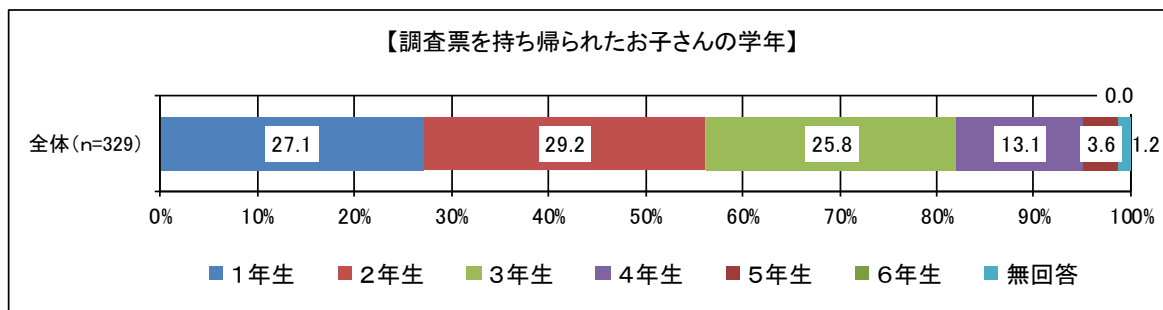


【利用児童クラブ×お住まいの区域】

項目	上段:人、下段:%					回答者数
	北部地区	本庁地区	多賀地区	南部地区	無回答	
公設の児童クラブ	41 18.5%	64 28.8%	66 29.7%	51 23.0%	0 0.0%	222 100.0%
民間の児童クラブ	28 26.2%	17 15.9%	33 30.8%	29 27.1%	0 0.0%	107 100.0%

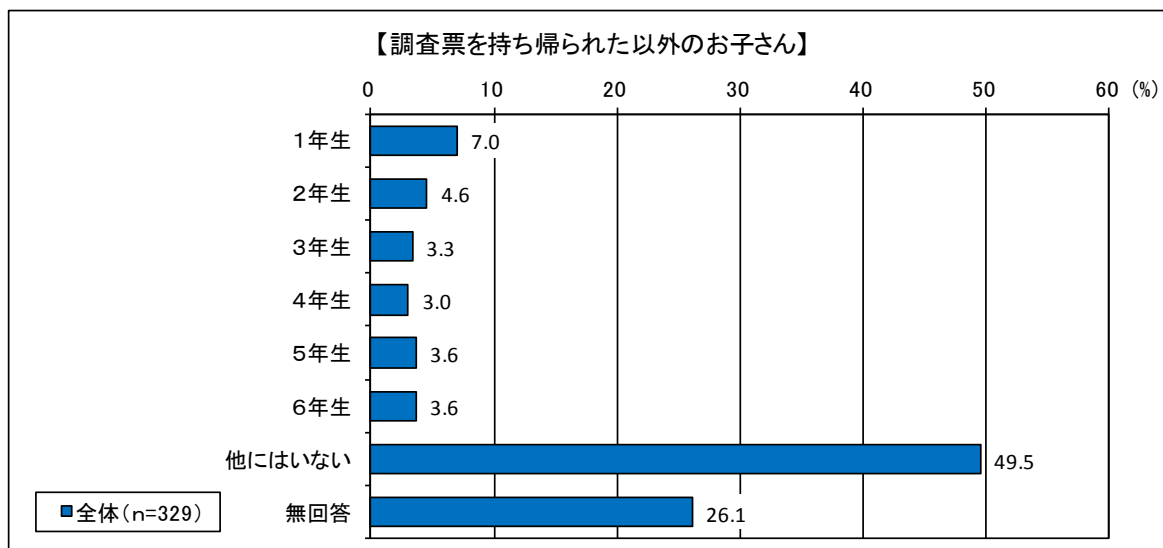
問3 児童クラブに入会しているお子さんの学年

児童クラブに入会しているお子さんの学年は、「1年生」が27.1%、「2年生」が29.2%、「3年生」が25.8%と、「低学年（1～3年生）」が8割以上を占めています。「4年生」は13.1%、「5年生」は3.6%であり、「6年生」は0%となっています。



調査票を持ち帰られた以外のお子さん

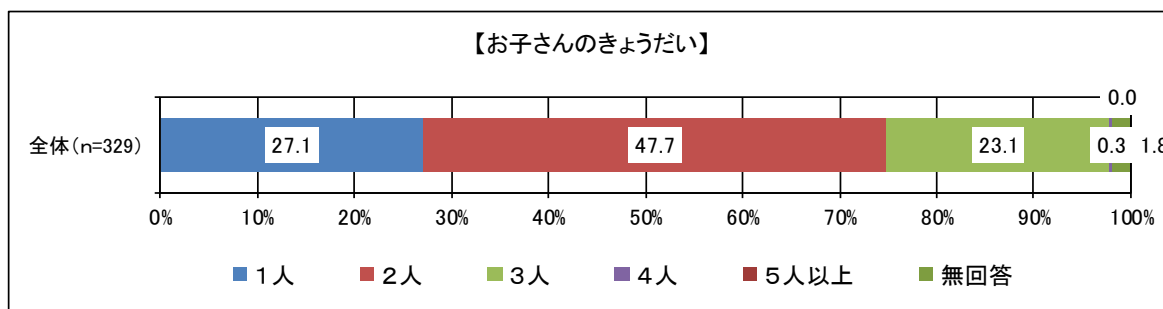
調査票を持ち帰られた以外のお子さんについては、「他にはいない」が49.5%で最も高く、次いで、「1年生」が7.0%、「2年生」が4.6%であり、他の学年はいずれも3%台となっています。



問4 お子さんのきょうだいの人数

(調査票を持ち帰られたお子さんを含めた人数)

お子さんのきょうだいの人数は、「2人」が47.7%で最も高く、「1人」が27.1%、「3人」が23.1%、「4人」が0.3%となっており、「5人以上」は0%となっています。

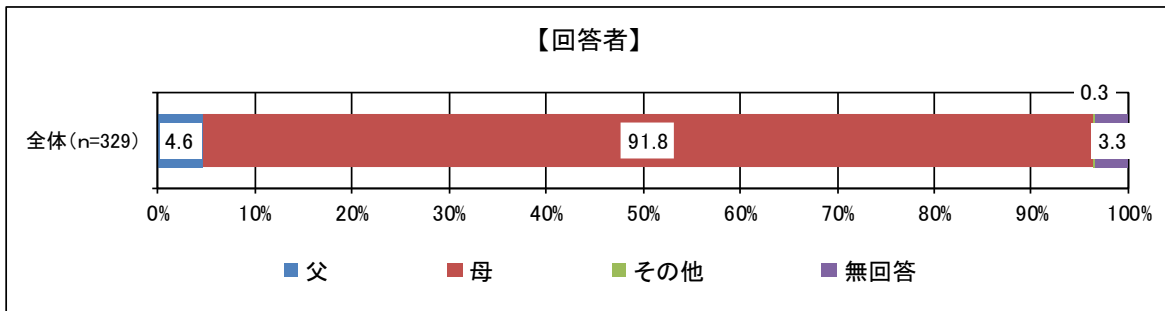


【児童クラブ】

問5 調査票の回答者と年齢

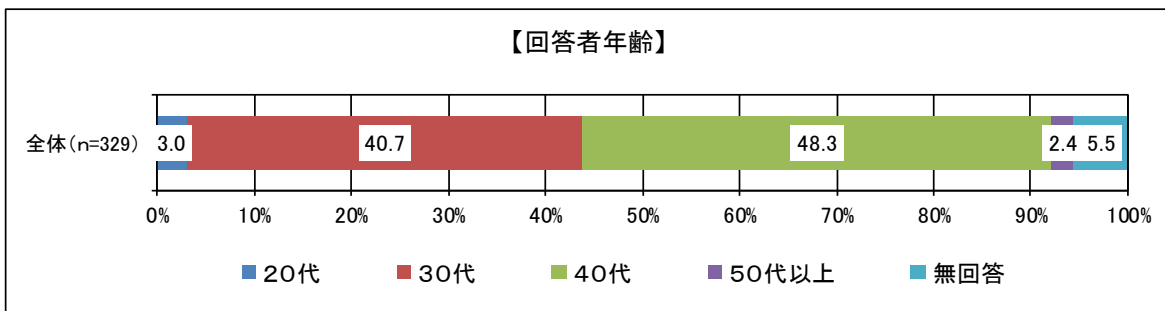
①回答者

本調査票の回答者は、「母」が91.8%と大多数を占めており、「父」は4.6%となっています。



②年齢

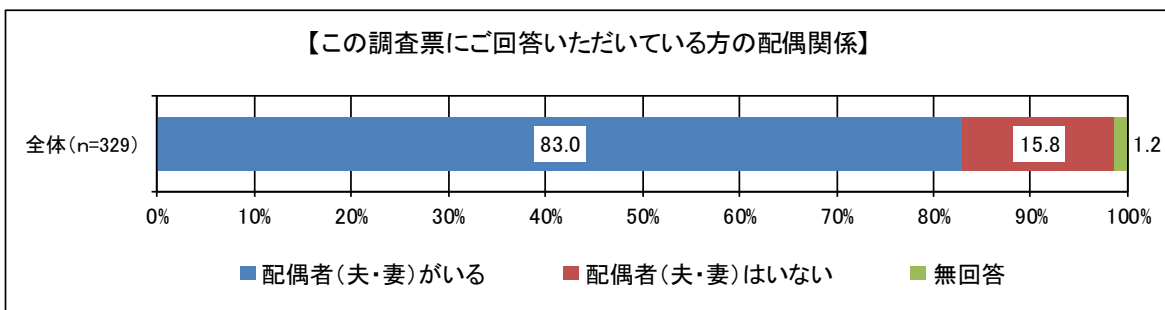
回答者の年齢は、「40代」が48.3%で最も高く、次いで「30代」が40.7%となっています。「20代」は3.0%、「50代以上」は2.4%となっています。



問6 回答者の配偶関係

回答者の配偶関係は、「配偶者（夫・妻）がいる」が83.0%と多数を占め、「配偶者（夫・妻）はいない」は15.8%となっています。

「配偶者（夫・妻）はいない」は、「公設」は18.9%、「民間」は9.3%と、公設の児童クラブの利用者の方が高い比率となっています。



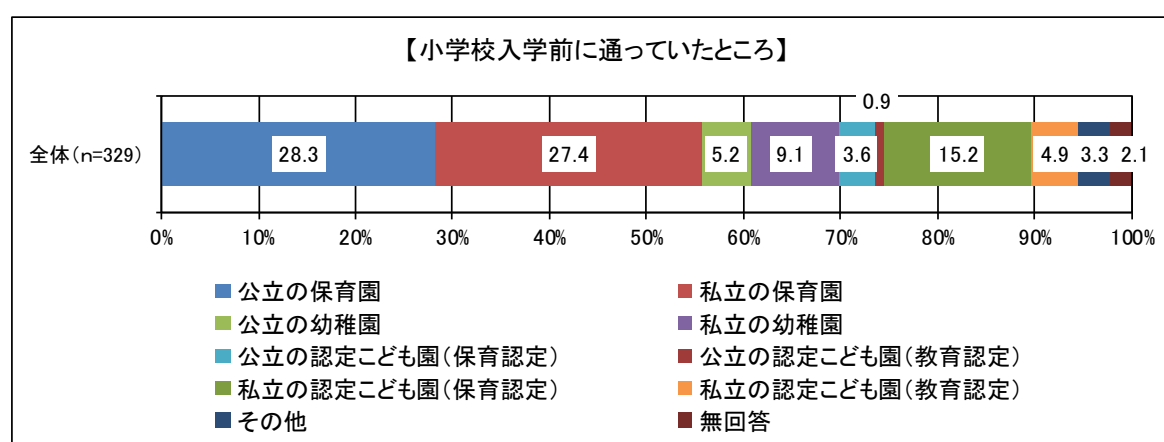
【利用児童クラブ×配偶関係】

上段：人、下段：%

項目	配偶者(夫・妻)がいる	配偶者(夫・妻)はいない	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	178	42	2	222
	80.2%	18.9%	0.9%	100.0%
民間の児童クラブ	95	10	2	107
	88.8%	9.3%	1.9%	100.0%

問7 小学校入学前に通っていたところ

お子さんが小学校入学前に通っていたところは、「公立の保育園」が28.3%で最も高く、「私立の保育園」が27.4%、「私立の認定こども園（保育認定）」が15.2%、「私立の幼稚園」が9.1%と続いています。

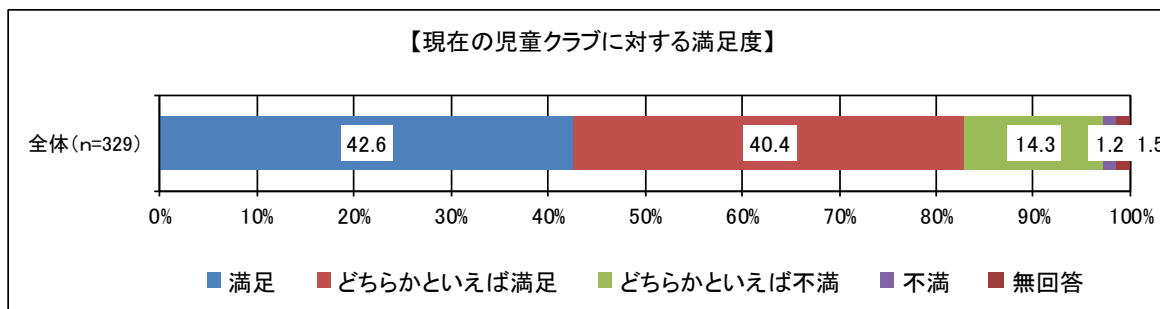


【児童クラブ】

2 児童クラブの運営について

問8 現在の児童クラブに対する満足度

現在の児童クラブに対する満足度は、「満足」が42.6%、「どちらかといえば満足」が40.4%であり、2つを合わせた“満足”は83.0%となっています。一方、「どちらかといえば不満」(14.3%)と「不満」(1.2%)を合わせた“不満”は15.5%となっています。



「どちらかといえば不満」「不満」と答えた方のみ回答

“不満”の理由としては、「先生・指導員の対応」(20件)や「お弁当・おやつ(つくるのが負担、簡素など)」(10件)、「土(毎週)・日・祝日が利用できない、利用時間が短い」(9件)などが上位となっています。

“公設”の児童クラブでは「土(毎週)・日・祝日が利用できない、利用時間が短い」(8件)や「外遊びが少ない」(6件)などの回答が、“民間”の児童クラブでは「料金が高い」(8件)が、それぞれ多い回答となっています。

No.	項目	件数 (うち公設利用者)
1	先生・指導員の対応	20 (11)
2	お弁当・おやつ(つくるのが負担、簡素など)	10 (6)
3	土(毎週)・日・祝日が利用できない、利用時間が短い	9 (8)
4	料金が高い	8 (0)
5	外遊びが少ない	6 (6)
6	勉強・宿題への取組み	4 (3)
7	施設・設備が古い・狭い	3 (1)
-	その他	6 (5)

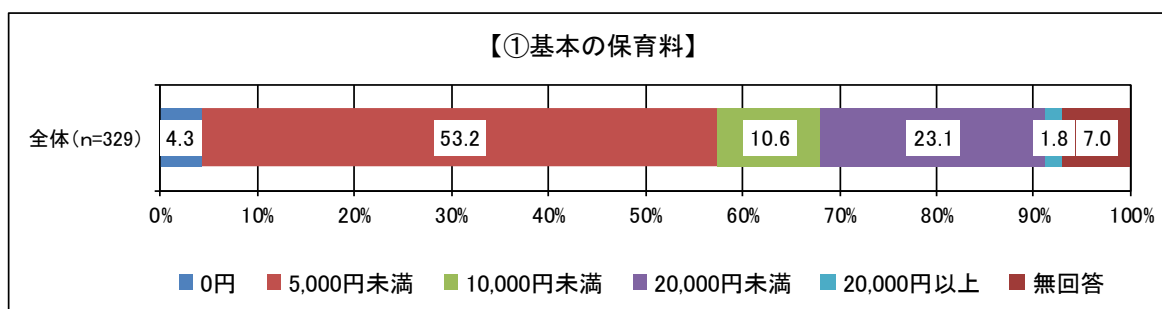
※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問9 1人当たりの保育料は月額と保育料以外の負担金

①基本の保育料

1人当たりの保育料月額は、「5,000円未満」が53.2%と過半数を占めています。次いで「20,000円未満」が23.1%、「10,000円未満」が10.6%、「0円」が4.3%、「20,000円以上」が1.8%となっています。

“公設”の児童クラブでは「5,000円未満」が78.8%と多数を占めているのに対し、“民間”の児童クラブは「20,000円未満」が71.0%と、“公設”となっています。



【利用児童クラブ×基本の保育料】

上段:人、下段:%

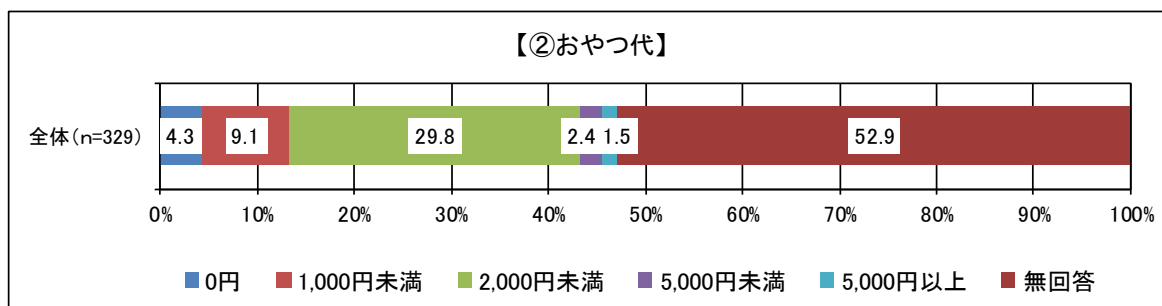
項目	0円	5,000円未満	10,000円未満	20,000円未満	20,000円以上	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	14	175	10	0	1	22	222
	6.3%	78.8%	4.5%	0.0%	0.5%	9.9%	100.0%
民間の児童クラブ	0	0	25	76	5	1	107
	0.0%	0.0%	23.4%	71.0%	4.7%	0.9%	100.0%

※ 上記は本人回答によるもの。(参考) 1人当たりの月額保育料は、公設4,000円(条件により0円、2,000円)、民間最高14,000円(おやつ代を含む)。

②おやつ代

おやつ代の月額は、「2,000円未満」が29.8%で最も高く、「1,000円未満」が9.1%、「0円」が4.3%、「5,000円未満」が2.4%、「5,000円以上」が1.5%となっています。なお、無回答が52.9%となっています。

“公設”、“民間”とも「2,000円未満」がそれぞれ最も高い比率となっています。



【児童クラブ】

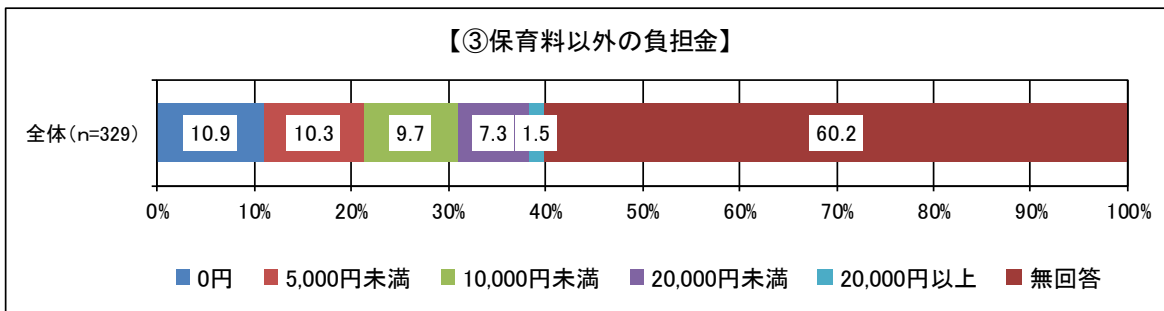
【利用児童クラブ×おやつ代】

項目	上段:人、下段:%						無回答	回答者数
	0円	1,000円未満	2,000円未満	5,000円未満	5,000円以上			
公設の児童クラブ	14	30	72	0	0	106	222	
	6.3%	13.5%	32.4%	0.0%	0.0%	47.7%	100.0%	
民間の児童クラブ	0	0	26	8	5	68	107	
	0.0%	0.0%	24.3%	7.5%	4.7%	63.6%	100.0%	

③保育料以外の負担金

保育料以外の負担金の月額は、「0円」が10.9%、「5,000円未満」が10.3%、「10,000円未満」が9.7%、「20,000円未満」が7.3%、「20,000円以上」が1.5%となっています。なお、無回答が60.2%となっています。

“公設”の児童クラブでは「0円」や「5,000円未満」の比率が高いのに対し、“民間”の児童クラブは「20,000円未満」が22.4%となっています。



【利用児童クラブ×保育料以外の負担金】

項目	上段:人、下段:%					無回答	回答者数
	0円	5,000円未満	10,000円未満	20,000円未満	20,000円以上		
公設の児童クラブ	36	34	20	0	1	131	222
	16.2%	15.3%	9.0%	0.0%	0.5%	59.0%	100.0%
民間の児童クラブ	0	0	12	24	4	67	107
	0.0%	0.0%	11.2%	22.4%	3.7%	62.6%	100.0%

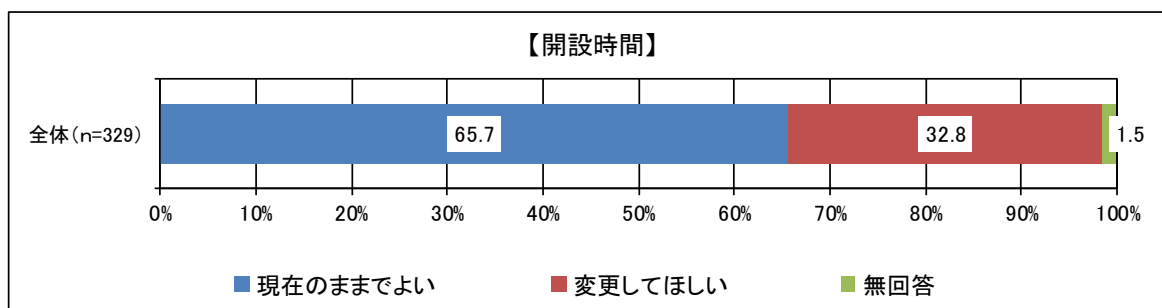
※ 上記は本人回答によるもの。

問 10 児童クラブの運営に関して

問 10-1 開設時間

児童クラブの開設時間について、「現在のままでよい」が 65.7%であり、「変更してほしい」が 32.8%となっています。

「変更してほしい」は、「公設」は 40.1%と“民間”の 17.8%を大きく上回っています。



【利用児童クラブ×開設時間】

上段: 人、下段: %

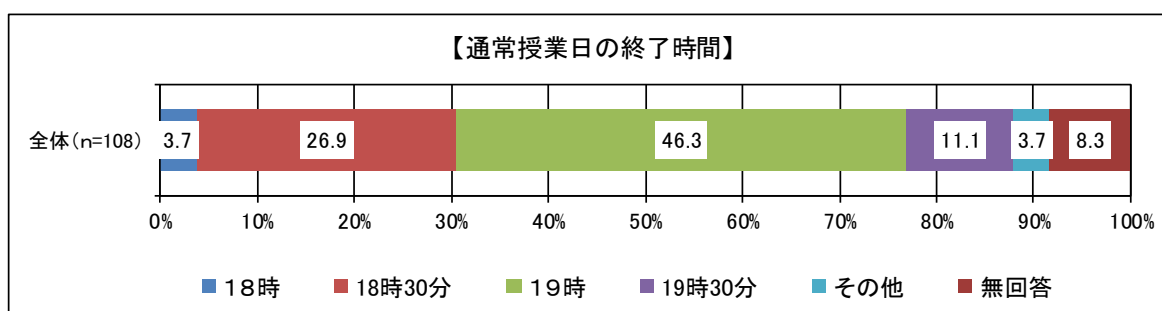
項目	現在のままでよい	変更してほしい	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	131 59.0%	89 40.1%	2 0.9%	222 100.0%
民間の児童クラブ	85 79.4%	19 17.8%	3 2.8%	107 100.0%

問 10-2 「上記で変更してほしい」と答えた方のみ回答。変更が必要な時間について

①通常授業日の終了時間

通常授業日の希望の終了時間は、「19時」が 46.3%で半数近い比率を占め、「18時30分」が 26.9%、「19時30分」が 11.1%、「18時」が 3.7%となっています。

“公設”、“民間”ともに「19時」の比率が最も高いものの、“民間”は「19時30分」も 31.6%となっており、“民間”の方がやや遅い時間を希望する結果となっています。



【利用児童クラブ×通常授業日の終了時間】

上段: 人、下段: %

項目	18時	18時30分	19時	19時30分	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	4 4.5%	26 29.2%	43 48.3%	6 6.7%	3 3.4%	7 7.9%	89 100.0%
民間の児童クラブ	0 0.0%	3 15.8%	7 36.8%	6 31.6%	1 5.3%	2 10.5%	19 100.0%

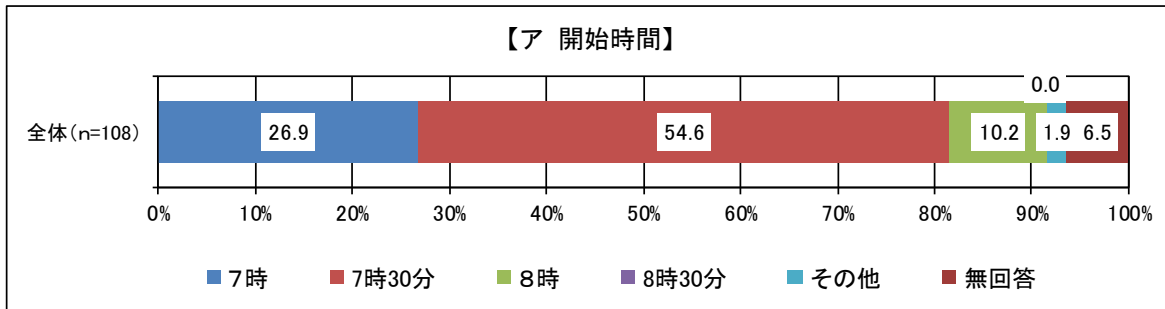
【児童クラブ】

②長期休暇等（夏休み・冬休み・春休み・土曜日・振替休業日）

【ア 開始時間】

長期休暇等における希望の開始時間は、「7時30分」が54.6%と過半数を占め、「7時」が26.9%、「8時」が10.2%となっています。

“公設”は「7時30分」（58.4%），“民間”は「7時」（47.4%）が最も比率が高く、“民間”の方がやや早い時間を希望する結果となっています。



【利用児童クラブ×長期休暇等の開始時間】

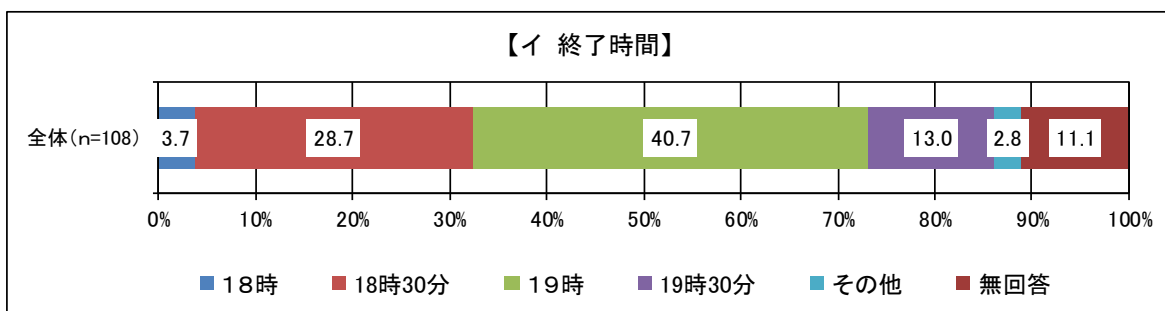
上段：人、下段：%

項目	7時	7時30分	8時	8時30分	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	20	52	10	0	2	5	89
	22.5%	58.4%	11.2%	0.0%	2.2%	5.6%	100.0%
民間の児童クラブ	9	7	1	0	0	2	19
	47.4%	36.8%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	100.0%

【イ 終了時間】

長期休暇等における希望の終了時間は、「19時」が40.7%で最も高い比率を占め、「18時30分」が28.7%、「19時30分」が13.0%、「18時」が3.7%となっています。

“公設”は「19時」（42.7%）の比率が最も高くなっていますが、“民間”は「19時」及び「19時30分」がともに31.6%となっており、“民間”の方がやや遅い時間となっています。



【利用児童クラブ×長期休暇等の終了時間】

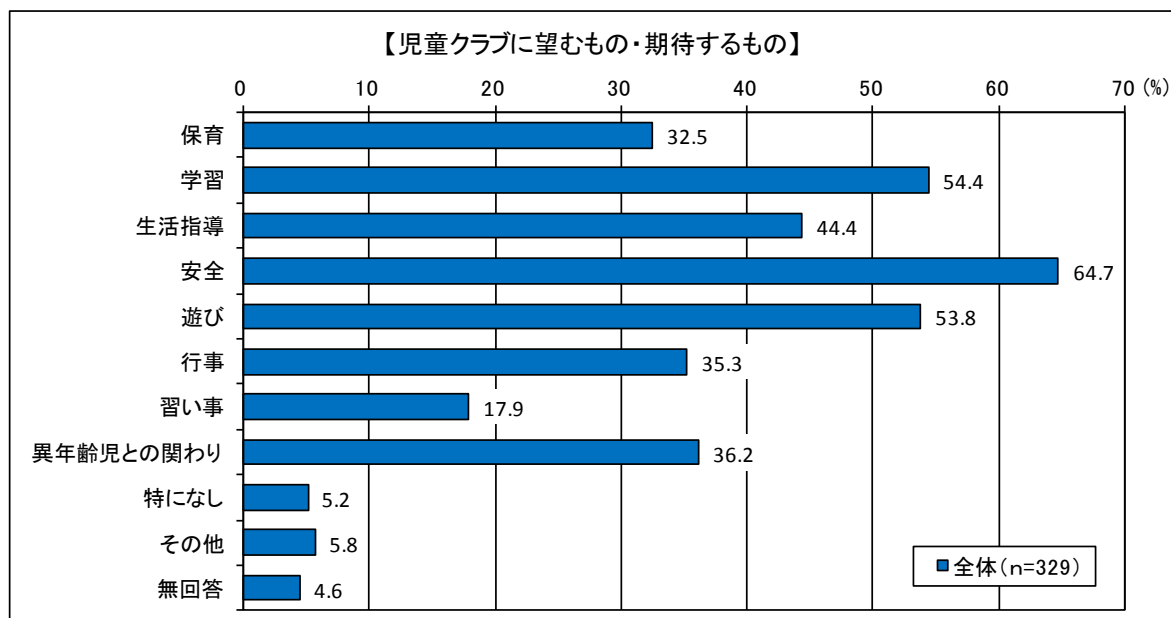
上段：人、下段：%

項目	18時	18時30分	19時	19時30分	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	3	29	38	8	2	9	89
	3.4%	32.6%	42.7%	9.0%	2.2%	10.1%	100.0%
民間の児童クラブ	1	2	6	6	1	3	19
	5.3%	10.5%	31.6%	31.6%	5.3%	15.8%	100.0%

問 10-3 児童クラブに望むもの・期待するもの

児童クラブに望むもの・期待するものは、「安全」が 64.7%で最も比率が高く、以下、「学習」(54.4%)、「遊び」(53.8%)、「生活指導」(44.4%)、「異年齢児との関わり」(36.2%)、「行事」(35.3%)、「保育」(32.5%)と続いています。

“公設”、“民間”とも、「安全」は 60%台、「学習」や「遊び」は 50%台など、概ね同様の傾向となっています。



【利用児童クラブ×児童クラブに望むもの・期待するもの】

上段:人、下段:%

項目	保育	学習	生活指導	安全	遊び	行事	習い事	異年齢児との関わり
公設の児童クラブ	71	116	99	147	122	76	38	79
	32.0%	52.3%	44.6%	66.2%	55.0%	34.2%	17.1%	35.6%
民間の児童クラブ	36	63	47	66	55	40	21	40
	33.6%	58.9%	43.9%	61.7%	51.4%	37.4%	19.6%	37.4%

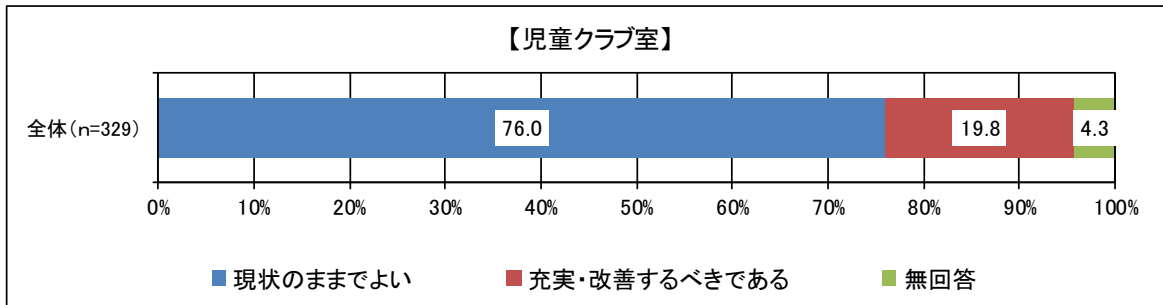
項目	特になし	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	9	10	9	222
	4.1%	4.5%	4.1%	100.0%
民間の児童クラブ	8	9	6	107
	7.5%	8.4%	5.6%	100.0%

【児童クラブ】

問 10-4 児童クラブ室

児童クラブ室について、「現在のままでよい」が 76.0%であり、「充実・改善するべきである」が 19.8%となっています。

充実・改善の具体的な内容は、「広さ・部屋数」や「冷暖房などの設備」などの意見が多く、「広さ・部屋数」は“公設”で、「冷暖房などの設備」は“民間”で多くあげられています。



【利用児童クラブ×児童クラブ室】

上段：人、下段：%

項目	現状のままでよい	充実・改善するべきである	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	172	41	9	222
	77.5%	18.5%	4.1%	100.0%
民間の児童クラブ	78	24	5	107
	72.9%	22.4%	4.7%	100.0%

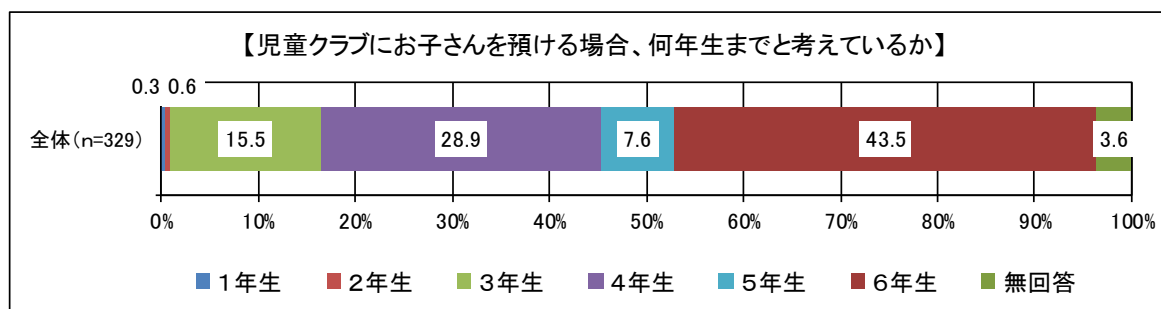
No.	項目	件数 (うち公設利用者)
1	広さ・部屋数	21 (18)
2	冷暖房などの設備	9 (2)
3	指導者、指導内容等	8 (4)
4	外遊び	6 (6)
5	時間	6 (4)
6	料金	4 (0)
7	古い	3 (2)
8	本・図書	2 (2)
9	給食、おやつ	2 (2)
-	その他	8 (2)

問 10-5 児童クラブにお子さんを預ける場合、何年生までと考えているか

児童クラブに何年生までお子さんを預けるかについては、「6年生」が43.5%で最も比率が高く、「4年生」が28.9%、「3年生」が15.5%、「5年生」が7.6%などとなっています。

“公設”、“民間”とも同様の傾向となっています。

理由としては、「子どもが一人で留守番することになる」「親が就労している」といった内容が多数を占めており、他には「下校時間（遅くなる）」や「塾・習い事」、「兄弟姉妹との関係」、「友達や異年齢との関り」などがあげられており、「下校時間」や「塾・習い事」は「3年生」以上の高学年で、「兄弟姉妹」は公設で、「友達や異年齢との関り」は民間で多く見受けられました。



【利用児童クラブ×児童クラブにお子さんを預ける場合、何年生までと考えているか】

上段: 人、下段: %

項目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	1	2	34	72	19	89	5	222
	0.5%	0.9%	15.3%	32.4%	8.6%	40.1%	2.3%	100.0%
民間の児童クラブ	0	0	17	23	6	54	7	107
	0.0%	0.0%	15.9%	21.5%	5.6%	50.5%	6.5%	100.0%

No.	項目	件数 (うち公設利用者)
1	留守番/家で一人/不安/安全のため	132 (100)
2	仕事/就労	24 (14)
3	授業時間/下校時間	21 (15)
4	兄弟	11 (10)
5	預けられる学年だから	10 (7)
6	人との関り	8 (2)
7	高学年になると自分でできる	7 (5)
8	習い事/塾/クラブ活動	7 (4)
9	子どもの希望	7 (7)
10	遊び	7 (5)
-	その他	21 (10)

【児童クラブ】

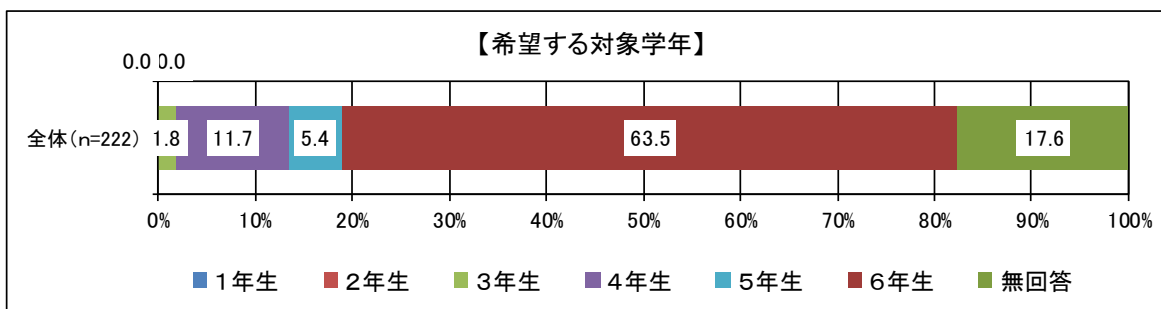
公設児童クラブ（小学校敷地内に設置）を利用している方のみ回答

問11 受入学年と開設時間の拡大

①受入学年拡大や開設時間の延長について

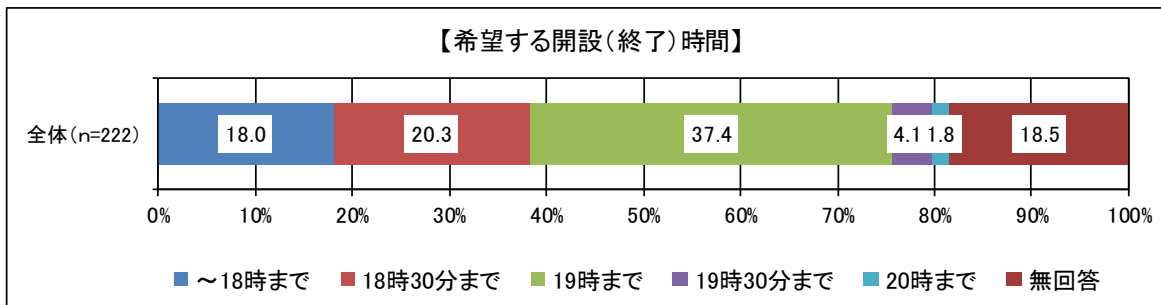
【希望する対象学年】

公設児童クラブにおける受入学年の拡大については、「6年生」が63.5%と多数を占めており、「4年生」が11.7%、「5年生」が5.4%、「3年生」が1.8%となっています。



【希望する開設（終了）時間】

公設児童クラブにおける開設（終了）時間の拡大については、「19時まで」が37.4%、「18時30分まで」が20.3%、「18時まで」が18.0%、「19時30分」が4.1%、「20時まで」が1.8%となっています。

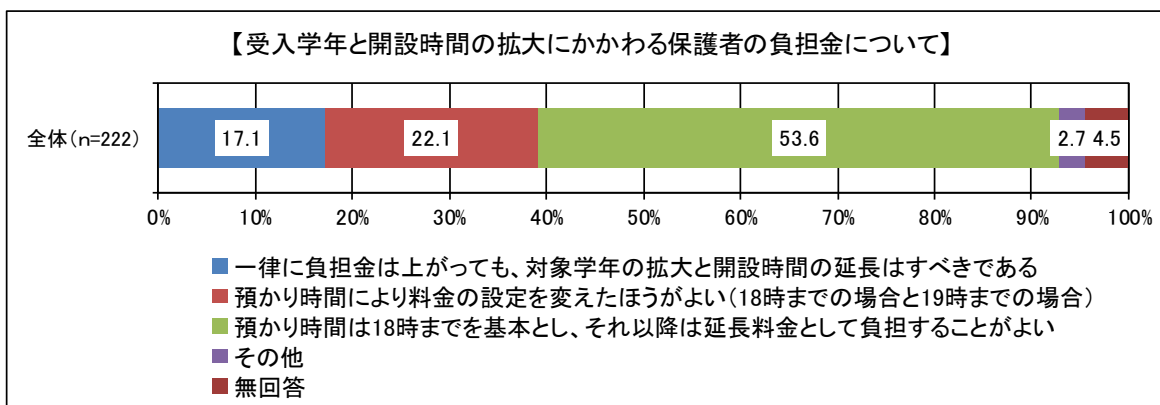


上記を回答した理由については、“就労している”など「親の仕事」に関するものが多数となっています。他の理由では“子ども一人で留守番させるのは不安”といった「子どもの状況」や、“母子家庭”など「家庭の都合」や、「現状でよい」といった意見があげられています。

②受入学年と開設時間の拡大にかかわる保護者の負担金について

受入学年と開設時間の拡大にかかわる保護者の負担金については、「預かり時間は18時までを基本とし、それ以降は延長料金として負担することがよい」が53.6%で最も比率が高く、「預かり時間により料金の設定を変えたほうがよい（18時までの場合と19時までの場合）」が22.1%、「一律に負担金は上がっても、対象学年の拡大と開設時間の延長はすべきである」が17.1%となっています。

【受入学年と開設時間の拡大にかかわる保護者の負担金について】

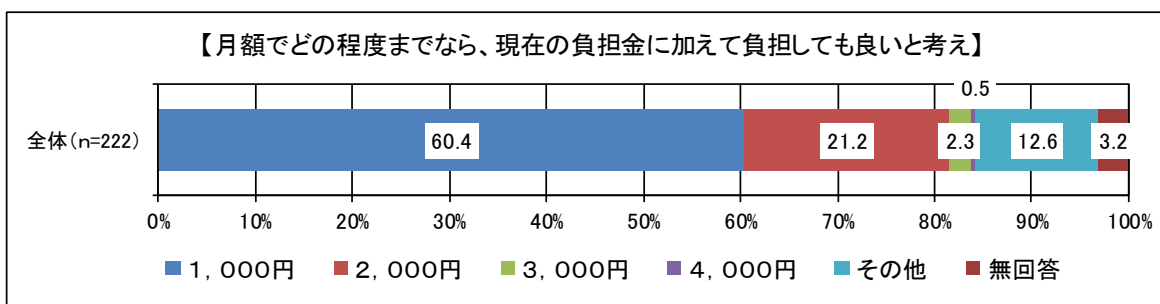


③これまでの負担金以外に、必要な費用の一部を負担する場合、現在の負担金に加えて負担しても良い金額（月額）

現在の負担金に加えて負担しても良い金額（月額）は、「1,000円」が60.4%で多数を占め、以下「2,000円」が21.2%、「3,000円」が2.3%、「4,000円」が0.5%となっています。

なお「その他」(12.6%)の意見では“必要であれば仕方ない”、“延長料金等を上げる”、“500円程度”、“これ以上は無理”などとなっています。

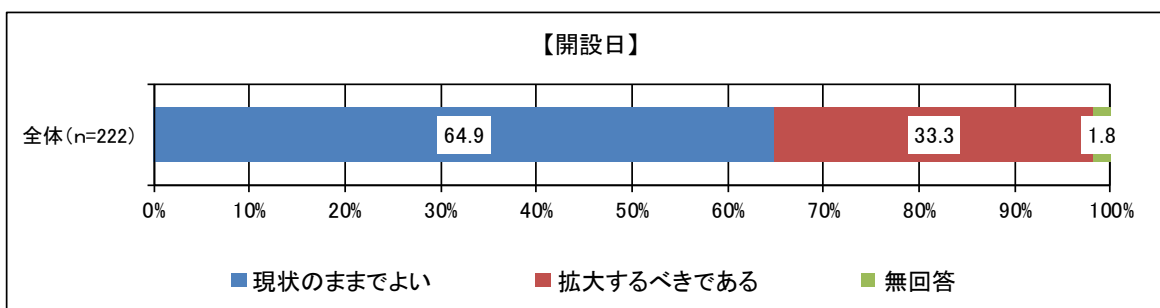
【月額でどの程度までなら、現在の負担金に加えて負担しても良いと考え】



問12 開設日

開設日については、「現状のままでよい」が64.9%、「拡大するべきである」が33.3%となっています。

【開設日】



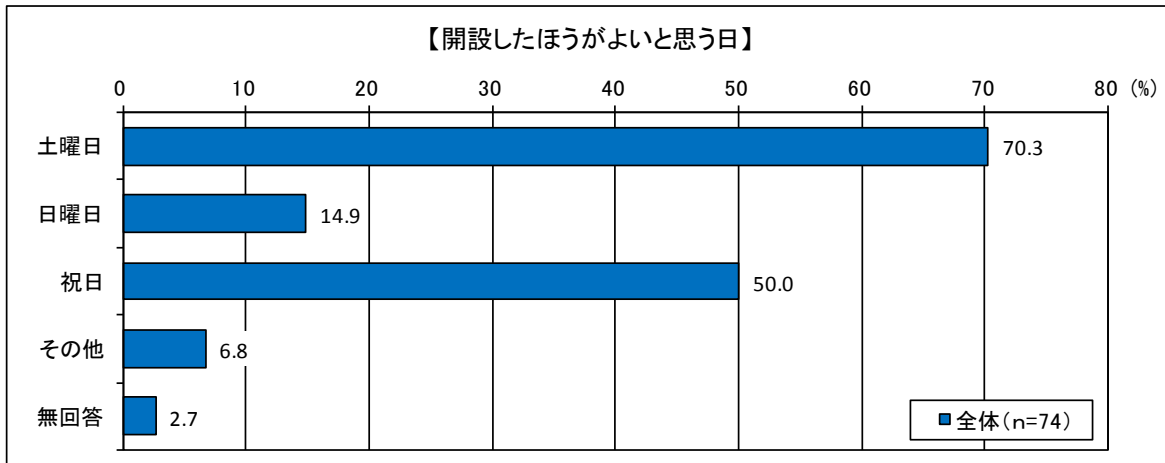
【児童クラブ】

【開設したほうがよいと思う日】

「拡大するべきである」と回答した方が開設したほうがよいと思う日は、「土曜日」が70.3%、「祝日」が50.0%、「日曜日」が14.9%となっています。

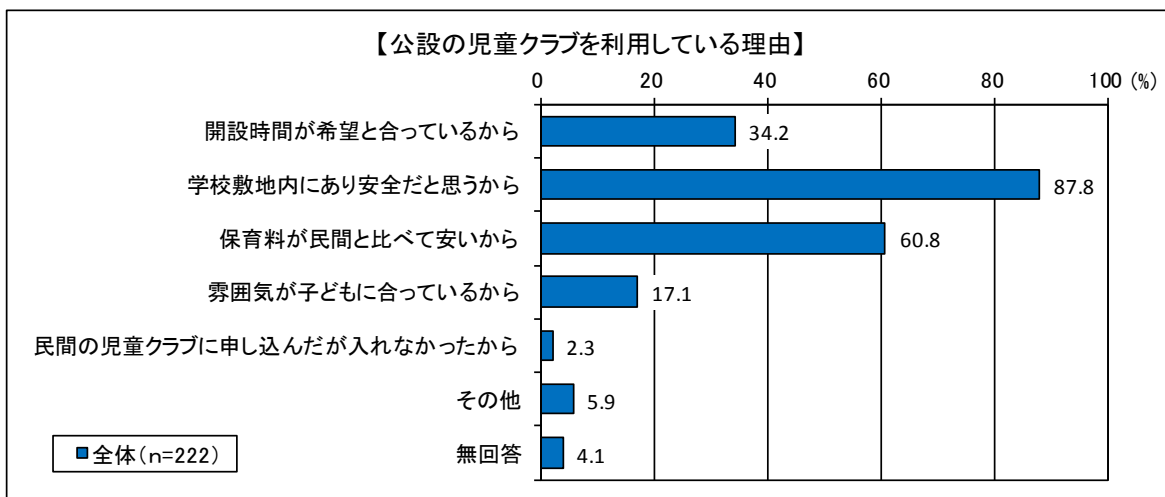
なお「その他」(6.8%)の意見では“台風などの臨時休校日”などとなっています。

開設したほうがよいと思う理由は、“親の仕事”がほとんどとなっています。



問 13 公設の児童クラブを利用している理由

公設の児童クラブを利用している理由は、「学校敷地内にあり安全だと思うから」が87.8%で最も比率が高く、「保育料が民間と比べて安いから」が60.8%、「開設時間が希望と合っているから」が34.2%、「雰囲気が子どもに合っているから」が17.1%、「民間の児童クラブに申し込んだが入れなかったから」は2.3%となっています。

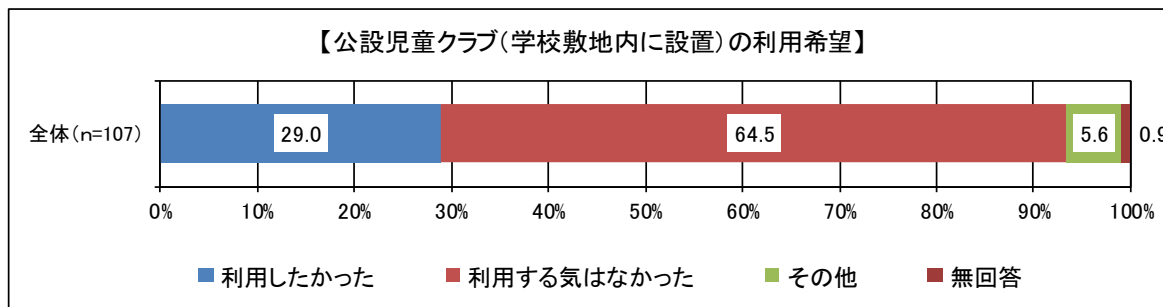


民間の児童クラブを利用している方のみ回答

問 14 児童クラブの利用について

問 14-1 公設児童クラブ（学校敷地内に設置）の利用希望

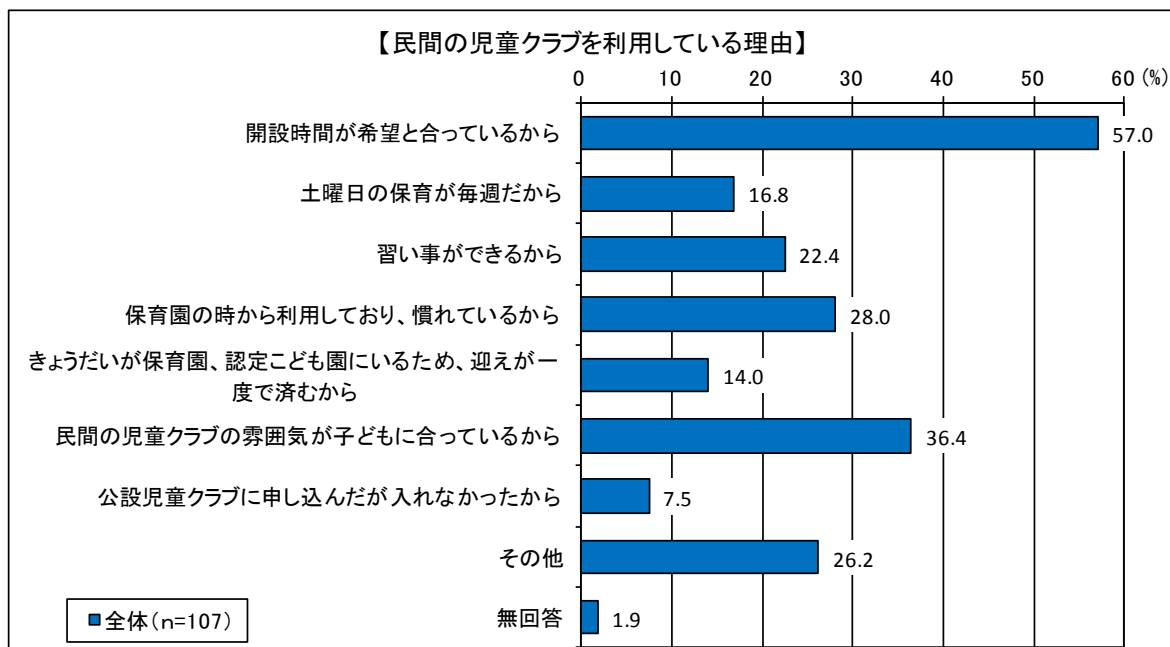
公設の児童クラブについて、「利用する気はなかった」が 64.5%と、「利用したかった」の 29.0%となっています。



14-2 民間の児童クラブを利用している理由

民間の児童クラブを利用している理由は、「開設時間が希望と合っているから」が 57.0%で最も比率が高く、以下「民間の児童クラブの雰囲気が子どもに合っているから」が 36.4%、「保育園の時から利用しており、慣れているから」が 28.0%、「習い事ができるから」が 22.4%と続いています。

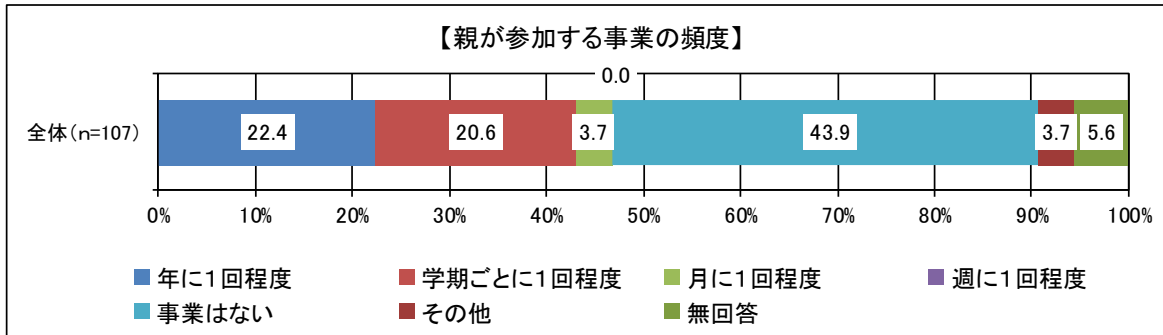
なお、「その他」(26.2%)の内容としては、“学級閉鎖時”や“長期休暇”、“土曜日”などの開設や対応、“イベントや行事”、“子どもの友達関係”などの意見があげられています。



【児童クラブ】

問 14-3 親が参加する事業の頻度

親が参加する事業については、「事業はない」が43.9%で最も高い比率となっており、事業の頻度としては「年に1回程度」が22.4%、「学期ごとに1回程度」が20.6%、「月に1回程度」が3.7%などとなっています。



問 14-4 参加している具体的な事業名

参加している具体的な事業名は、「清掃・草むしり・奉仕作業」(16件)や「運動会」(11件)、「発表会」(10件)などが上位となっています。

No.	項目	件数
1	清掃・草むしり・奉仕作業	16
2	運動会	11
3	発表会	10
4	夏祭り	9
5	キャンプ	8
5	餅つき	8
5	懇談会・説明会	8
8	山登り・山歩き	5
9	スキー	4
9	新入生歓迎会	4
-	その他	9

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

3 放課後の居場所等について

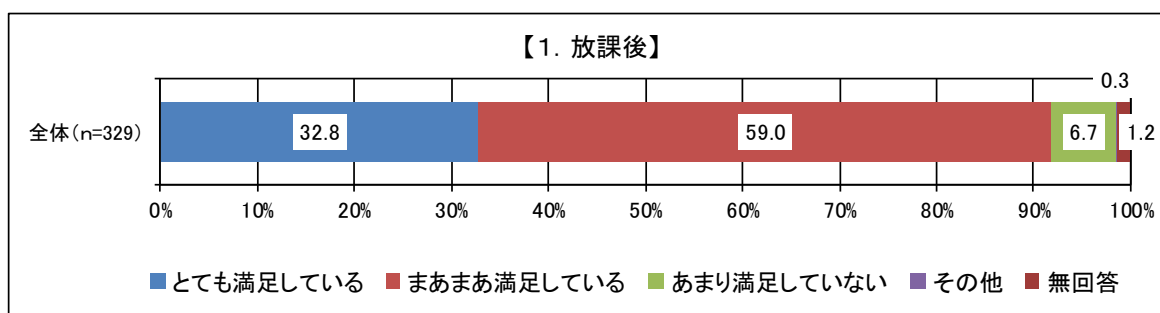
すべての方が回答

問 15 お子さんの放課後、週休日や長期休暇期間中の過ごし方（今の満足度）

1. 放課後

放課後の過ごし方について、「とても満足している」は 32.8%、「まあまあ満足している」は 59.0%と、“満足”の度合いは高くなっており、「あまり満足していない」は 6.7%となっています。

“公設”、“民間”ともに“満足”の度合いは高く、同様の傾向となっています。



【利用児童クラブ×放課後】

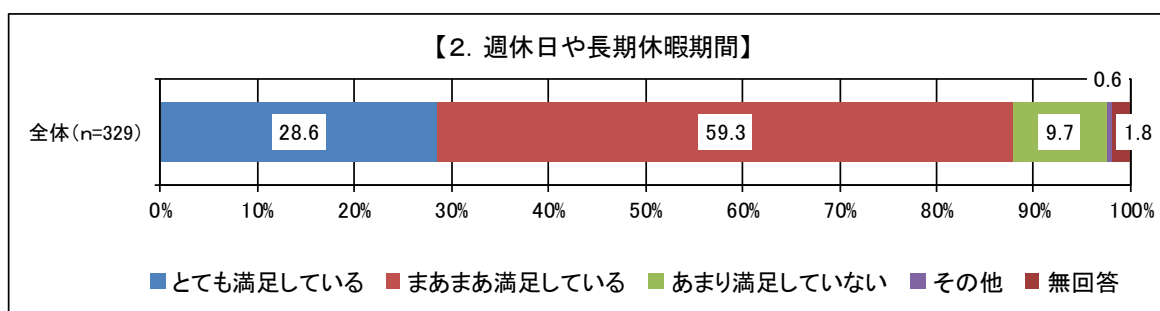
上段：人、下段：%

項目	とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	67	137	13	1	4	222
	30.2%	61.7%	5.9%	0.5%	1.8%	100.0%
民間の児童クラブ	41	57	9	0	0	107
	38.3%	53.3%	8.4%	0.0%	0.0%	100.0%

2. 週休日や長期休暇期間

週休日や長期休暇期間の過ごし方についても同様に、「とても満足している」は 28.6%、「まあまあ満足している」は 59.3%と、“満足”の度合いは高くなっており、「あまり満足していない」は 9.7%となっています。

上記「1. 放課後」と同様に、“公設”、“民間”ともに“満足”の度合いは高く、同様の傾向となっています。



【児童クラブ】

【利用児童クラブ×週休日や長期休暇期間】

上段：人、下段：%

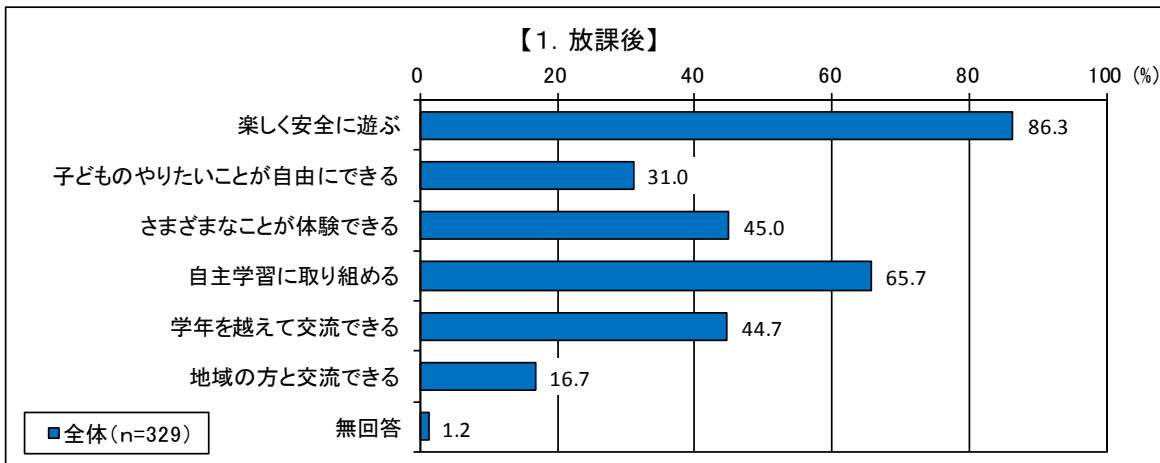
項目	とても満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	その他	無回答	回答者数
公設の児童クラブ	59	140	19	0	4	222
	26.6%	63.1%	8.6%	0.0%	1.8%	100.0%
民間の児童クラブ	35	55	13	2	2	107
	32.7%	51.4%	12.1%	1.9%	1.9%	100.0%

問 16 お子さんの放課後や、週休日・長期休暇期間中の過ごし方（今後の希望）

1. 放課後

放課後の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」が 86.3%で最も比率が高く、「自主学習に取り組める」が 65.7%、「さまざまなことが体験できる」が 45.0%、「学年を越えて交流できる」が 44.7%、「子どものやりたいことが自由にできる」が 31.0%、「地域の方と交流できる」が 16.7%となっています。

“公設”、“民間”とも同様の傾向が見受けられます。



【利用児童クラブ×放課後】

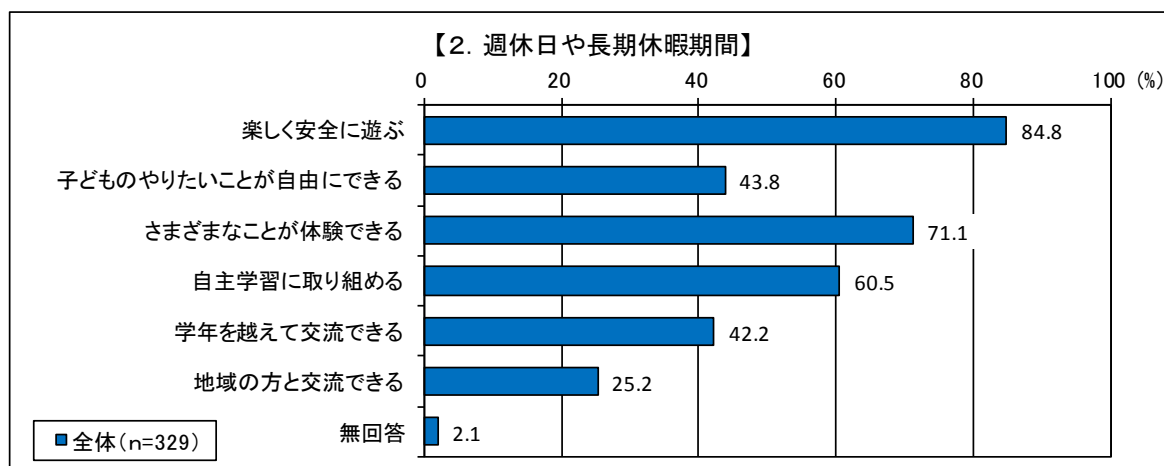
上段：人、下段：%

項目	楽しく安全に遊ぶ	子どものやりたいことが自由にできる	さまざまなことが体験できる	自主学習に取り組める	学年を越えて交流できる	地域の方と交流できる	無回答	総回答数	回答者数
公設の児童クラブ	194	73	98	143	96	33	4	637	222
	87.4%	32.9%	44.1%	64.4%	43.2%	14.9%	1.8%	286.9%	100.0%
民間の児童クラブ	90	29	50	73	51	22	0	315	107
	84.1%	27.1%	46.7%	68.2%	47.7%	20.6%	0.0%	294.4%	100.0%

2. 週休日や長期休暇期間

週休日や長期休暇期間の過ごし方の希望については、「楽しく安全に遊ぶ」(84.8%)や「自主学習に取り組める」(60.5%)、「学年を越えて交流できる」(42.2%)は、前記「1. 放課後」と同程度の高い比率となっていますが、「さまざまなことが体験できる」(71.1%)は、「1. 放課後」と比べて約26ポイント高く、「子どものやりたいことが自由にできる」(43.8%)や「地域の方と交流できる」(25.2%)も比率が高くなっています。

前記「1. 放課後」と同様に、「楽しく安全に遊ぶ」や「子どものやりたいことが自由にできる」は“公設”が、他は“民間”が、それぞれ他よりやや比率が高い結果となっています。



【利用児童クラブ×週休日や長期休暇期間】

上段: 人、下段: %

項目	楽しく安全に遊ぶ	子どものやりたいことが自由にできる	さまざまなことが体験できる	自主学習に取り組める	学年を越えて交流できる	地域の方と交流できる	無回答	総回答数	回答者数
公設の児童クラブ	192	103	154	132	89	47	5	717	222
	86.5%	46.4%	69.4%	59.5%	40.1%	21.2%	2.3%	323.0%	100.0%
民間の児童クラブ	87	41	80	67	50	36	2	361	107
	81.3%	38.3%	74.8%	62.6%	46.7%	33.6%	1.9%	337.4%	100.0%

【児童クラブ】

今後望むことについて

今後、望むことについては、「長期休暇中の過ごし方等の改善」(11件)や「外遊び・体を使った遊びなどの充実」(9件)、「宿題・学習面(自主学習・宿題以外の学習を望む、学校の宿題を減らすなど)」(8件)などが上位となっています。

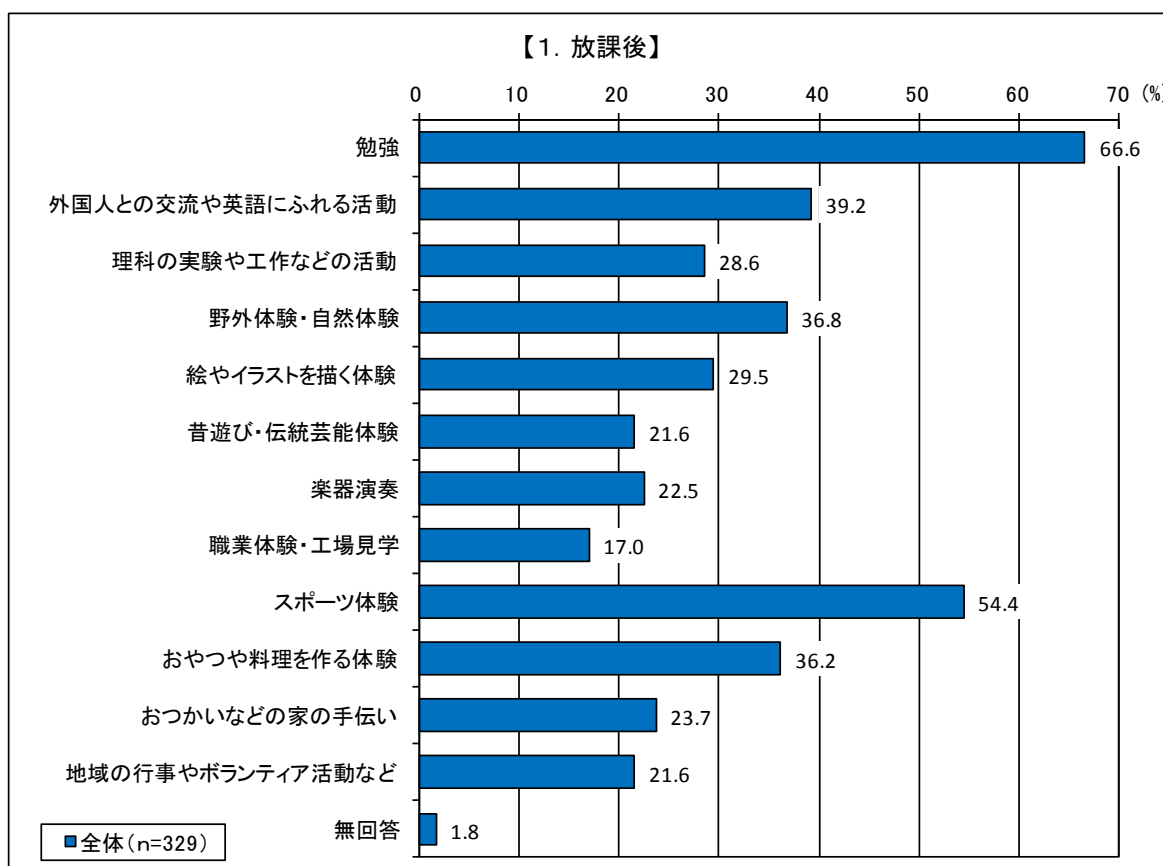
No.	項目	件数
1	長期休暇中の過ごし方等の改善	11
2	外遊び・体を使った遊びなどの充実	9
3	宿題・学習面(自主学習・宿題以外の学習を望む、学校の宿題を減らすなど)	8
4	さまざまな体験をさせる	7
5	お弁当・給食・おやつについて	6
6	習い事ができるように	4
6	利用料等の負担の軽減	4
8	指導員体制の充実	3
-	満足・感謝している、特になし	7
-	その他	11

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問 17 放課後、週休日や長期休暇期間中にお子さんにさせたい活動

1. 放課後

放課後にお子さんにさせたい活動は、「勉強」が66.6%、「スポーツ体験」が54.4%と半数を超える高い比率となっており、以下、「外国人との交流や英語にふれる活動」(39.2%)、「野外体験・自然体験」(36.8%)、「おやつや料理を作る体験」(36.2%)と続いています。



【児童クラブ】

学年別にみると、「勉強」や「絵やイラストを描く体験」、「地域の行事やボランティア活動」は、「1年生」など低い年齢で比率が高くなっています。一方、「外国人との交流や英語にふれる活動」や「野外体験・自然体験」、「職業体験・工場見学」は“5年生”などの上級生で比率が高くなっています。

【子どもの学年×放課後】

上段：人、下段：%

項目	勉強	外国人との交流や英語にふれる活動	理科の実験や工作などの活動	野外体験・自然体験	絵やイラストを描く体験	昔遊び・伝統芸能体験	楽器演奏	職業体験・工場見学
1年生	61	34	23	31	37	18	17	13
	68.5%	38.2%	25.8%	34.8%	41.6%	20.2%	19.1%	14.6%
2年生	70	40	36	38	30	18	31	18
	72.9%	41.7%	37.5%	39.6%	31.3%	18.8%	32.3%	18.8%
3年生	57	30	23	27	16	19	10	10
	67.1%	35.3%	27.1%	31.8%	18.8%	22.4%	11.8%	11.8%
4年生	24	16	9	20	10	12	12	9
	55.8%	37.2%	20.9%	46.5%	23.3%	27.9%	27.9%	20.9%
5年生	4	7	3	5	3	3	3	5
	33.3%	58.3%	25.0%	41.7%	25.0%	25.0%	25.0%	41.7%
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

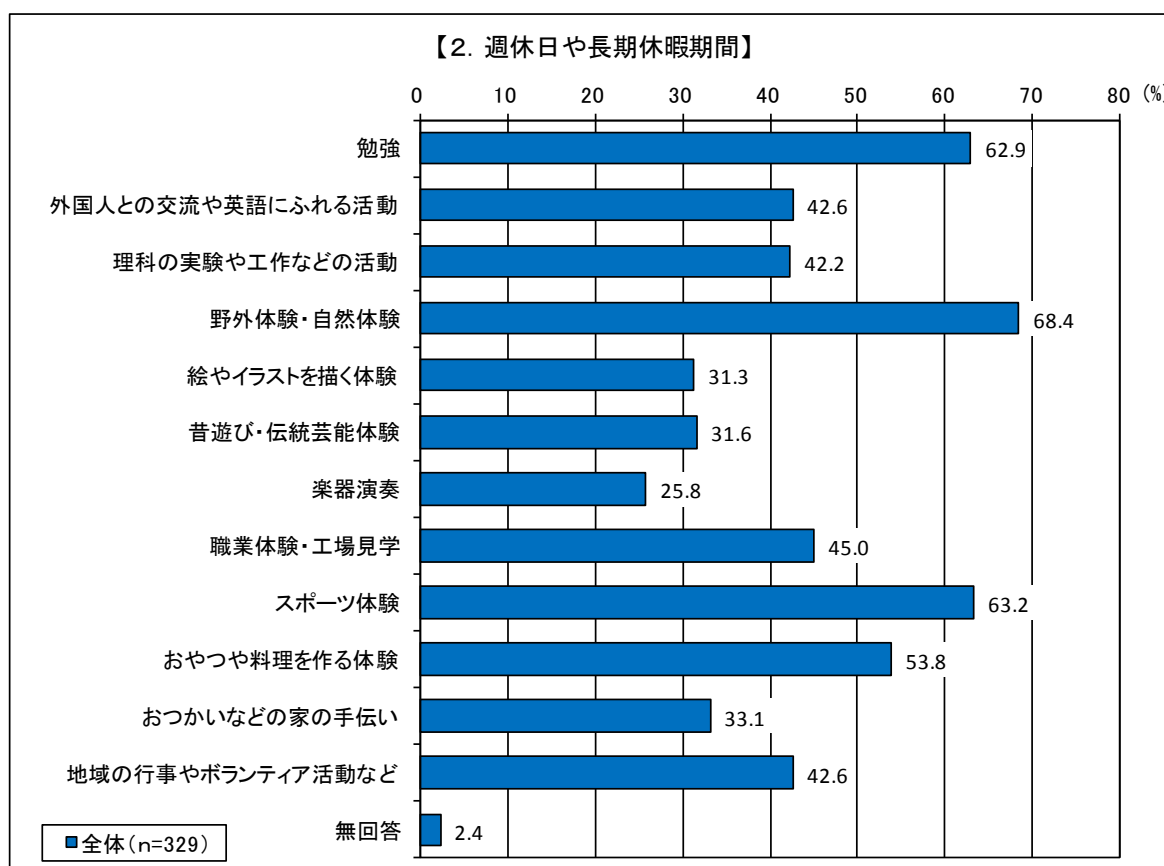
項目	スポーツ体験	おやつや料理を作る体験	おつかいなどの家の手伝い	地域の行事やボランティア活動など	無回答	総回答数	回答者数
1年生	51	34	21	24	0	364	89
	57.3%	38.2%	23.6%	27.0%	0.0%	409.0%	100.0%
2年生	59	34	25	20	3	419	96
	61.5%	35.4%	26.0%	20.8%	3.1%	436.5%	100.0%
3年生	40	30	15	14	1	291	85
	47.1%	35.3%	17.6%	16.5%	1.2%	342.4%	100.0%
4年生	23	14	13	10	0	172	43
	53.5%	32.6%	30.2%	23.3%	0.0%	400.0%	100.0%
5年生	5	6	4	3	1	51	12
	41.7%	50.0%	33.3%	25.0%	8.3%	425.0%	100.0%
6年生	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【児童クラブ】

2. 週休日や長期休暇期間

週休日や長期休暇期間中にお子さんにさせたい活動は、「野外体験・自然体験」が68.4%と最も高い比率となっており、以下、「スポーツ体験」(63.2%)、「勉強」(62.9%)、「おやつや料理を作る体験」(53.8%)、「職業体験・工場見学」(45.0%)と続いています。

学年別にみると、前記「1. 放課後」と同様に、「勉強」や「絵やイラストを描く体験」、「地域の行事やボランティア活動」は「1年生」など低い年齢で、「野外体験・自然体験」や「職業体験・工場見学」は「5年生」が、それぞれ他年代より比率が高くなっています。



【子どもの学年×週休日や長期休暇期間】

上段：人、下段：%

項目	勉強	外国人との交流や英語にふれる活動	理科の実験や工作などの活動	野外体験・自然体験	絵やイラストを描く体験	昔遊び・伝統芸能体験	楽器演奏	職業体験・工場見学
1年生	61	39	30	61	35	29	24	39
	68.5%	43.8%	33.7%	68.5%	39.3%	32.6%	27.0%	43.8%
2年生	64	43	47	62	35	27	27	47
	66.7%	44.8%	49.0%	64.6%	36.5%	28.1%	28.1%	49.0%
3年生	53	33	37	60	21	26	16	34
	62.4%	38.8%	43.5%	70.6%	24.7%	30.6%	18.8%	40.0%
4年生	25	19	19	30	10	18	13	18
	58.1%	44.2%	44.2%	69.8%	23.3%	41.9%	30.2%	41.9%
5年生	3	5	4	9	1	3	4	7
	25.0%	41.7%	33.3%	75.0%	8.3%	25.0%	33.3%	58.3%
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

項目	スポーツ体験	おやつや料理を作る体験	おつかいなどの家の手伝い	地域の行事やボランティア活動など	無回答	総回答数	回答者数
1年生	57	50	30	44	1	499	89
	64.0%	56.2%	33.7%	49.4%	1.1%	560.7%	100.0%
2年生	61	48	27	40	1	528	96
	63.5%	50.0%	28.1%	41.7%	1.0%	550.0%	100.0%
3年生	55	48	25	34	4	442	85
	64.7%	56.5%	29.4%	40.0%	4.7%	520.0%	100.0%
4年生	26	24	20	17	0	239	43
	60.5%	55.8%	46.5%	39.5%	0.0%	555.8%	100.0%
5年生	8	6	6	3	1	59	12
	66.7%	50.0%	50.0%	25.0%	8.3%	491.7%	100.0%
6年生	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

その他の具体的な活動

その他にさせてみたいこととしては、「スポーツ」や「習い事」などがあげられています。

No.	項目	件数
1	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ ・習い事（書道、そろばん等） 	各 2
2	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験 ・キャンプ ・レクリエーション ・プログラミング ・親子で一緒に遊ぶ ・本人が望むこと、他 	各 1
-	・特になし	3

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【児童クラブ】

問 18 児童クラブに関する御意見など（自由記載）

児童クラブに関する御意見（自由記載）について、133 人から回答が寄せられました。「児童クラブ・支援員への感謝」が 60 件と多く、「活動内容・場所の充実・改善」（21 件）や「受入れ体制」（14 件）などに関する内容が上位にあげられています。

No.	項目	件数	（うち公設利用者）
1	児童クラブ・支援員への感謝	60	（48）
2	活動内容・場所の充実・改善	21	（17）
3	受入れ体制	14	（ 7）
4	行政	10	（ 4）
5	保育料	9	（ 3）
6	長期休暇中の給食	8	（ 2）
7	開設時間・土日・祝日の開設	7	（ 5）
8	支援員の対応	7	（ 6）
9	勉強（宿題）時間	4	（ 4）
10	エアコン	3	（ 0）
11	おやつ	2	（ 2）
-	その他	9	（ 5）
-	特にない	2	（ 2）

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【一般】

I 調査の概要

1 調査の目的

2020年度を初年度とする次期計画の策定に当たり、これまでの事業を振り返り、さらに市民の皆様の結婚や子育てに関する実態やご要望・ご意見などを把握するため、日立市少子化対策・子育て支援に関するニーズ調査を実施した。

2 調査の対象者及び抽出方法

調査対象者	抽出方法
20歳～50歳の市内居住者	20歳～50歳（平成30年4月1日現在）を、地域・年齢ごとに住民基本台帳から無作為抽出

3 調査実施方法及び期間

- ・調査実施方法：郵送による配布・回収
- ・調査実施期間：平成30年11月28日（水）～12月14日（金）

4 アンケート回収結果

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
996人	289人	288人	28.9%

（※配布数：1,000人に郵送（居所不明分4人））

（※有効回収数＝回収数－白紙回答）

5 集計結果の見方

- ・集計結果を百分率（%）で表す場合、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記とした。このため、百分率の合計が100にならない場合がある。
- ・母数（n=●と表記）は、回答者全員が答えるべき設問については回答者数、条件付き設問については、その設問に答えるべき該当者の数とする。
- ・回答がない場合や、定められた以上の回答があった場合（一つ選択する設問で複数選択など）は「無回答」として集計する。
- ・グラフ等表示に際して、選択肢が多い場合や文言が長い場合は、選択肢の文言を簡略化したり、一部値の小さい数値の表記を省略する場合がある。

Ⅱ 調査結果（概要）

1 あなたご自身とご家族の状況について

（1）回答者の概要

「女性」の比率がやや高く、年齢は「20代」から「50代」のうち「40代」が約半数を占めています。また、「既婚」者が全体の約7割（68.8%）を占め、「未婚」者が全体の約3割（26.7%）、その他離別等（4.4%）となっています。

本市の居住年数は、「生まれてからずっと」（27.1%）や「30年以上」（24.7%）など居住歴が長い方の比率が高い傾向が見受けられ、居住歴が浅い「5年未満」は“未婚”者に多く見受けられます。

男性の職業は「会社員」や「公務員」が多く、年収は「300～500万円未満」以上となっています。女性の職業は「会社員」とともに「パート・アルバイト」や「専業主婦（夫）」が多く、男性と比較して「200～300万円未満」の比率が高くなっています。また、女性における婚姻状況別の「離別」をみると、62.5%が「会社員」であり、年収は「200万円未満」（62.5%）が最も高い比率となっています。

（2）結婚について

女性の働き方（結婚・子育てと仕事の関係）については、「子どもは持つが、子どもの成長に応じて仕事を変える（勤務形態等）」が39.9%で最も比率が高く、以下、「子どもが生まれたのを機にいったん離職し、子どもの手が離れたら仕事をする」が20.1%、「子どもは持つが、子どもの成長とは関係なく、仕事を続ける」が16.0%となっており、これらはいずれも女性の方がより高い比率となっており、意識の高さが伺えます。

結婚を促進する取り組みとして有効なことについては、男性は「雇用」や「賃金」、「男女の出会いの場」を、女性は「働き続けられる職場環境」や「子育て支援事業」などの回答比率が高くなっています。

婚活のパーティーやイベントを行政が開催することについては、男性は「未婚者の増加は社会的問題であり、行政が積極的に支援すべきである」の比率が女性より高く、男性がより積極的な関りを求めています。行政がかかわる場合の考えられる支援策では、「婚活パーティー、お見合いなど出会いの場の開催・工夫」に関する意見が49件と多数を占めています。

2 結婚や就労について（未婚又は現在独身の方（結婚経験のある方を含む）のみ回答）

（1）結婚について

現在結婚していない理由や、結婚に際して障害になることで、男性は「結婚資金」や「経済力」、「住居の確保」など“金銭面・経済力”を上げる方が多く、また、「結婚生活を送る自信がない」、「異性とうまく付き合えない」、「面倒くさい」などの“消極的”な意見もあげられています。一方、女性が現在結婚していない理由は「結婚する必要性を感じない」や「家事や育児が負担に思える」などがあげられています。

交際相手と出会ったきっかけは、「勤務先」が最も比率が高く、特に女性で高い比率となっており、男性「趣味やサークルなど」や「学校、同窓会など」などの比率が高くなっています。

結婚についてどのように思うかについては、「結婚する、しないは個人の自由である」が多数を占めており、自分自身の結婚については、「できれば結婚したい」が約4割、「ぜひ結婚をしたい」が約2割となっています。

結婚生活についてのイメージについては、男性は「どちらともいえない」が、女性は「負担と楽しさが同程度」が、それぞれ最も高く、「楽しさよりも負担のほうが大きい」は男性が17.8%、女性が13.6%となっています。また、結婚生活に対して負担を感じる理由としては、男性は「経済的なこと」が、女性は「家事」や「相手の父母との関係」、「仕事と家庭の両立」などが、それぞれ他より高い比率となっています。

結婚相手の条件として重視することは、全体では「性格」や「価値観」が突出して高くなっています。男性は「容姿」や「愛情」、「性格」、「ライフスタイル」などで、女性は「収入」や「価値観」、「相手の親との別居」で、それぞれ他より高い比率となっています。

（2）結婚に関する施設や事業等について

「いばらき出会いサポートセンター」については、「知らない」が73.0%と多数を占めており男女とも“20代”では90%を超える高い比率となっています。

独身男女のための出会いの事業（パーティーやイベント）に参加したことが「ある」は10.1%であり、「ない」が83.1%と多数を占めています。今後、市など公的機関が実施する、独身男女のための出会いの事業に参加したいと思うかについては、「参加したい」は10.1%、「参加したくない」が38.2%となっています。

「日立市結婚新生活支援事業」については、「知らない」が79.8%と多数を占めています。

【一般】

3 結婚や結婚生活について（現在結婚している方のみ回答）

（1）結婚について

結婚についてどのように思うかについては、「結婚する、しないは個人の自由である」が80.3%と多数を占めており、次いで「人は結婚すべきだと思う」が15.2%となっています。「わからない」は2.0%となっており、「結婚する必要はない」は0.5%となっています。

初婚時の年齢は、「25歳以上 30歳未満」が50.5%と過半数を占めており、女性の方が若い年齢の比率が高くなっています。

結婚生活について感じていることは、「負担よりも楽しさのほうが大きい」が35.9%で最も比率が高く、「結婚生活は楽しい（負担は感じない）」の15.2%と合わせて“楽しい”が51.1%と過半数を占めています。「負担と楽しさが同程度」や「楽しさよりも負担のほうが大きい」は女性の比率が高く、一方、男性は「どちらともいえない」が女性と比較して高い比率となっています。また、結婚生活に対して負担を感じる理由としては、男性は「経済的なこと」が、女性は「家事」や「育児」が、それぞれ他より高い比率となっています。

（2）結婚後のライフスタイル・退職について

結婚後のライフスタイルは、「出産後も共働きを続けている」が28.8%と最も比率が高く、特に女性や年代が若い方で多くなっています。次いで「配偶者（妻）は結婚を機に退職」が24.2%であり、男性や年齢が高い世代で比率が高くなっています。

退職した理由は、「子育てに専念したいから」（44.8%）、「仕事と家事・育児の両立が出来なかった」（34.3%）、「育児休業の制度がなかった」（20.9%）、「職場の雰囲気」（19.4%）が上位であり、“就労環境”の影響が少なくありません。

（3）子どもについて

現在はお子さんがない方について、将来も含めて子どもがほしいと思うかは、「ほしい」が54.5%で過半数を占めており、「ほしくない」は9.1%、「どちらともいえない」は22.7%となっています。

現在、子どもがいない理由は、「ほしくてもできないから（不妊）」が66.7%と高い比率となっており、「仕事が忙しいから」が25.0%、「経済的負担が大きいから」が16.7%と続いています。

「ほしくない」、「どちらともいえない」と思う理由は、“年齢面”や“仕事面”に関する意見などがあげられています。

4 育児について（現在子育て中又は子育て経験のある方のみ回答）

（1）子育てについて

子育てについて感じていることは、「負担よりも楽しさのほうが大きい」（43.2%）、「子育ては楽しい（負担は感じない）」（11.6%）と合わせて“楽しい”が過半数を占めています。「負担と楽しさが同程度」は33.7%、「楽しさよりも負担のほうが大きい」は4.7%、「どちらともいえない」は5.8%となっています。

子育てについて負担を感じることは、「経済的なこと」（52.1%）や「自分の時間がなくなる」（39.7%）などが上位であり、特に男性で多い回答となっています。女性では「パートナーの家事・育児参加が足りない」が、男性と比較して高い比率となっています。

（2）ストレスと子育てについて

親のストレスが子どもに接する態度に影響を及ぼしたことは、「たまにある」（42.6%）と「頻繁にある」（5.8%）を合わせて“ある”が48.4%、一方、「全くない」（5.8%）と「ほとんどない」（36.3%）を合わせた“ない”は42.1%となっており、男性は「ほとんどない」が、女性は「たまにある」が、それぞれ最も高い比率となっています。

具体的なこととして、「ひどくしかりつける」（78.3%）や「子どもが傷つくような言葉を言う」（28.3%）が多く、男性は「子どもが傷つくような言葉を言う」や「無視する」が、女性は「ひどくしかりつける」が、それぞれ他より高い比率となっています。

（3）男性（夫）の育児参加について

男性（夫）の育児参加の点数は、「50点以上 80点未満」が33.2%で最も比率が高く、以下、「80点以上」が23.7%、「20点以上 50点未満」が16.3%、「20点未満」が8.9%と続いており、男性が自ら付けた点数に比べて、女性（妻）が付けた点数のほうが低い傾向が見受けられます。

（4）子育ての不安や悩みについて相談先

子育ての不安や悩みについて相談先は、「配偶者（妻または夫）」（74.2%）や「友人や知人」（60.0%）、「祖父母などの親族」（54.7%）、「保育士、幼稚園、学校の先生など」（11.6%）などとなっており、男性は「配偶者（妻または夫）」が、女性は「祖父母などの親族」や「友人や知人」、「保育士、幼稚園、学校の先生など」が、それぞれ他より高い比率となっています。

（5）子どもについて

子どもの数は、「2人」が52.1%で最も比率が高く、以下、「1人」が28.4%、「3人」が15.8%、「4人」が1.6%となっています。年齢は、「6～11歳」が50.0%で最も比率が高く、以下、「18歳以上」が43.7%、「0～5歳」が40.5%と続いています。

【一般】

5 少子化対策・子育て支援について

(1) 子育てをするうえで足りないと思われるもの

子育てをするうえで足りないと思われるものは、「産科・小児科などの医療機関」や「安全な遊び場や公園」、「緊急時に子どもを預かってくれるところ」が上位となっています。なお、多くの項目で女性の回答比率が高くなっています。

(2) 子どもの数が減少している理由（回答者の考え）

子どもの数が減少している理由は、「子育てには教育費を含めたお金がかかるから」や「仕事をしながら子どもを産み・育てるのが難しいから」、「結婚をしない人が増えたから」、「結婚する年齢が遅くなったから」が上位となっています。男女とも同様の傾向にあります。また、「結婚をしない人が増えたから」は男性が高い比率となっています。また、「お金がかかる」や「自分の生活を楽しみたい」などは、年齢が高いほど比率が高くなる傾向が見受けられます。

(3) 少子化対策・子育て支援について、行政がすべき施策

少子化対策・子育て支援について、行政がすべき施策は、「子育て家庭への経済的支援」や「仕事と生活の調和のとれた働き方の実現に向けた環境整備」、「医療サービスの充実」、「不妊治療に対する支援」、「子どもを一時的に預かってくれる場の充実」などが上位となっています。

「結婚に対する支援」や「経済的な支援」は男性が、「教育・保育の充実」や「放課後対策の充実」、「仕事と生活の調和のとれた働き方」は女性が、それぞれ他より高い比率となっています。

具体的な施策については、「検診・医療費支援、医療体制充実」や「資金援助・助成」、「雇用・就労環境（育児休暇・企業内保育）」などの意見があげられています。

(4) 日立市の魅力について

日立市に住みたいかについては、「思う」（44.4%）と「やや思う」（26.0%）を合わせた“思う”は70.4%であり、「あまり思わない」（13.2%）と「思わない」（4.5%）を合わせた“思わない”の17.7%を大きく上回る結果となっています。

“思う”の理由では、「生まれ育った場所、故郷」や「住みやすい、住み慣れた場所」などが、「思わない」の理由では、「市の魅力がない、人口減少」や「車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い」、「遊びに行く場所・楽しい場所がない」などが上位にあげられています。

日立市に住んでよかったと思うことや他市町村の方に自慢できることは、「自然豊か」や「気候が良い」、「かみね公園、動物園、シビックセンター等」、「子育て環境（子育てしやすい、ランドセル支給等）」、「災害が少ない」などの意見があげられています。

(5) 少子化対策・子育て支援に関する意見、要望等

少子化対策・子育て支援に関する意見、要望等については、「子育て支援」や「商業施設」、「遊び場（公園・スポーツ施設等も含む）の充実」、「雇用対策」などに関する内容が上位にあげられています。

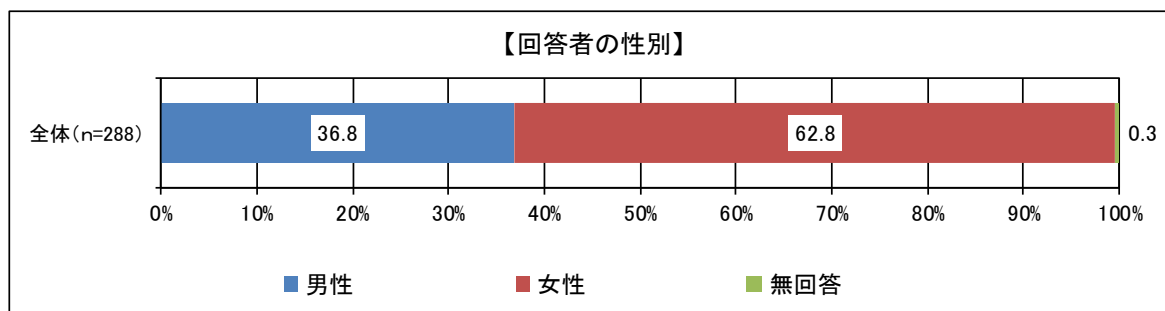
Ⅲ 調査結果

1 あなたご自身とご家族の状況について

すべての方が回答

問1 回答者の性別

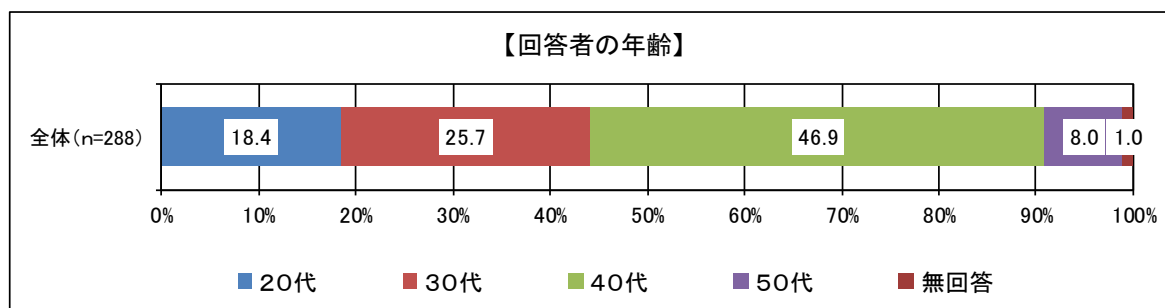
回答者は「男性」が36.8%、「女性」が62.8%となっています。



問2 回答者の年齢

回答者の年齢は「40代」が46.9%と約半数を占め、「30代」が25.7%、「20代」が18.4%、「50代」が8.0%となっています。

性別にみると、男性、女性とも、概ね同様の傾向にあります。



【性別×年齢】

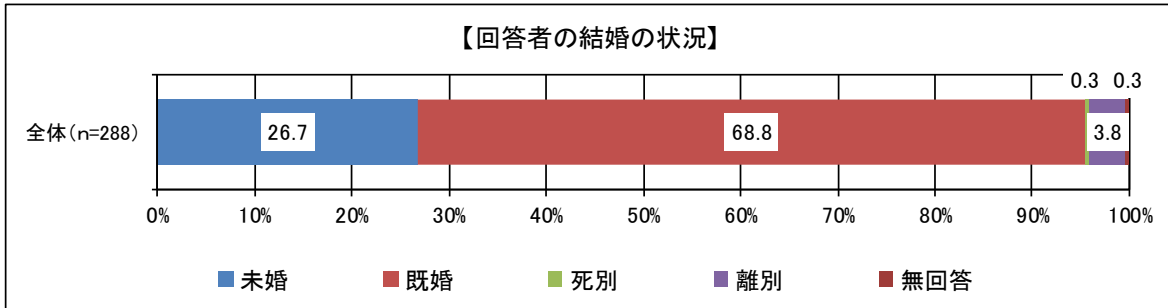
項目	上段:人、下段:%					回答者数
	20代	30代	40代	50代	無回答	
男性	19	28	49	10	0	106
	17.9%	26.4%	46.2%	9.4%	0.0%	100.0%
女性	34	46	86	13	2	181
	18.8%	25.4%	47.5%	7.2%	1.1%	100.0%

【一般】

問3 回答者の結婚の状況

回答者は「既婚」が68.8%と全体の2/3以上を占め、「未婚」が26.7%、「離別」が3.8%、「死別」が0.3%となっています。

性別にみると、男性は「未婚」が、女性は「既婚」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×結婚の状況】

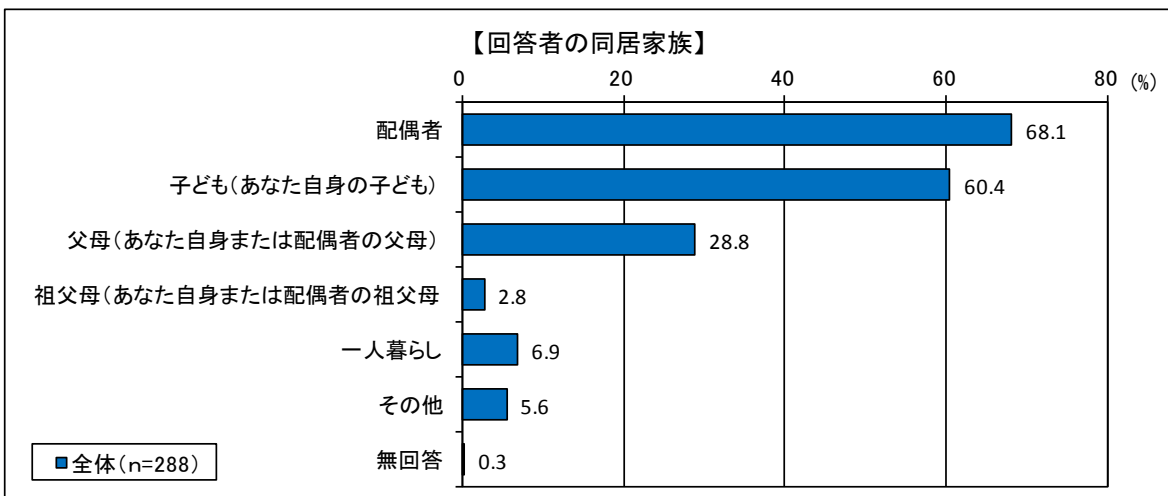
上段:人、下段:%

項目	未婚	既婚	死別	離別	無回答	回答者数
男性	42	61	0	3	0	106
	39.6%	57.5%	0.0%	2.8%	0.0%	100.0%
女性	35	137	1	8	0	181
	19.3%	75.7%	0.6%	4.4%	0.0%	100.0%

問4 回答者の同居家族

回答者の同居家族は、「配偶者」が68.1%、「子ども（あなた自身の子ども）」が60.4%、「父母（あなた自身または配偶者の父母）」が28.8%となっており、「一人暮らし」は6.9%となっています。

性別にみると、男性は「父母」や「祖父母」、「一人暮らし」が、女性は「配偶者」や「子ども」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×同居家族】

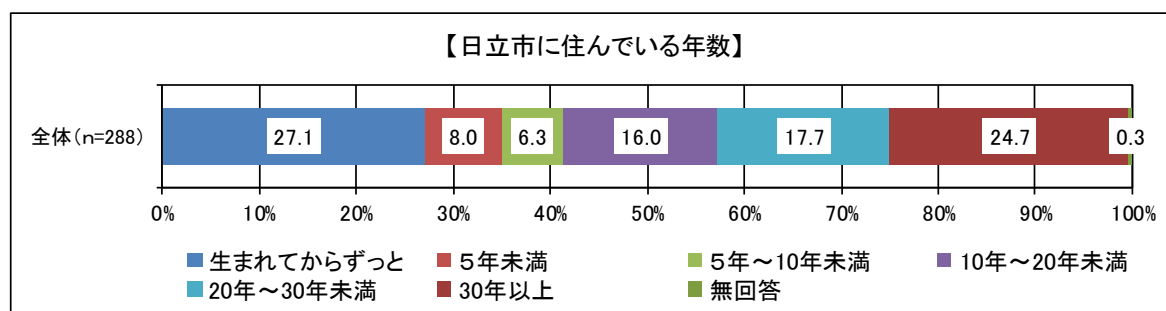
上段：人、下段：%

項目	配偶者	子ども(あなた自身の子ども)	父母(あなた自身または配偶者の父母)	祖父母(あなた自身または配偶者の祖父母)	一人暮らし	その他	無回答	回答者数
男性	62	45	39	5	15	5	0	106
	58.5%	42.5%	36.8%	4.7%	14.2%	4.7%	0.0%	100.0%
女性	134	129	44	3	5	11	0	181
	74.0%	71.3%	24.3%	1.7%	2.8%	6.1%	0.0%	100.0%

問5 日立市に住んでいる年数

回答者の本市の居住年数は、「生まれてからずっと」が27.1%で最も高く、「30年以上」が24.7%、「20年～30年未満」が17.7%、「10年～20年未満」が16.0%など、居住歴が長い方の比率が高い傾向が見受けられます。

居住歴が浅い「5年未満」についてみると、男女とも“未婚”者で他より比率が高くなっています。



【性別×結婚の状況×日立市に住んでいる年数】

上段：人、下段：%

項目	生まれてからずっと	5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	無回答	回答者数	
男性	29	7	6	11	20	33	0	106	
	27.4	6.6	5.7	10.4	18.9	31.1	0.0	100.0	
	未婚	13	6	0	3	7	13	0	42
		31.0	14.3	0.0	7.1	16.7	31.0	0.0	100.0
	既婚	16	1	6	8	10	20	0	61
		26.2	1.6	9.8	13.1	16.4	32.8	0.0	100.0
離別	0	0	0	0	3	0	0	3	
女性	49	16	12	35	31	38	0	181	
	27.1	8.8	6.6	19.3	17.1	21.0	0.0	100.0	
	未婚	16	5	2	2	6	4	0	35
		45.7	14.3	5.7	5.7	17.1	11.4	0.0	100.0
	既婚	30	11	10	31	24	31	0	137
		21.9	8.0	7.3	22.6	17.5	22.6	0.0	100.0
	死別	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	離別	3	0	0	2	1	2	0	8
		37.5	0.0	0.0	25.0	12.5	25.0	0.0	100.0

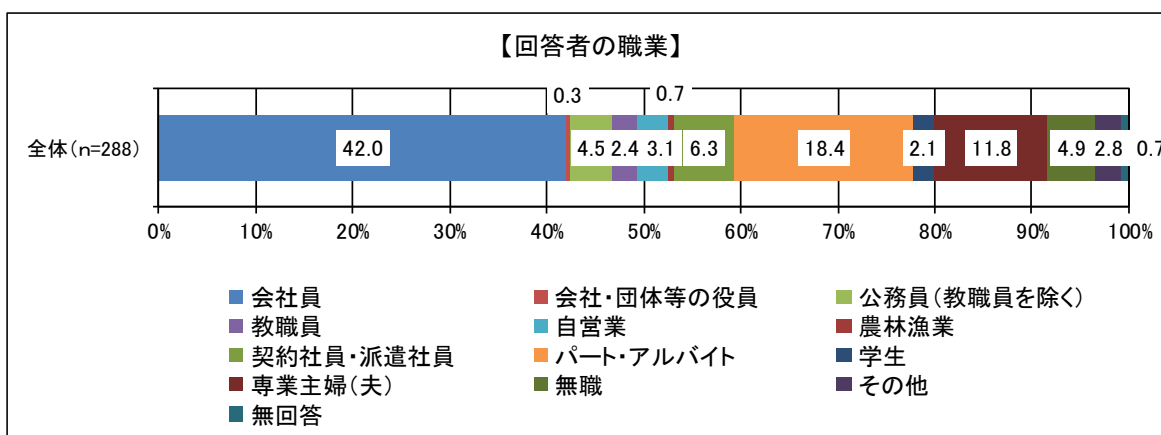
【一般】

問6 回答者の職業

回答者の職業は、「会社員」が42.0%で最も高い比率となっており、以下「パート・アルバイト」が18.4%、「専業主婦（夫）」が11.8%と続いています。

性別にみると、男性は「会社員」や「公務員」が、女性は「パート・アルバイト」や「専業主婦（夫）」が、それぞれ他より比率が高くなっています。

また、女性における婚姻状況別の“離別”をみると、「会社員」が62.5%と、男性と同程度の比率となっています。



【性別×結婚の状況×職業】

上段：人、下段：%

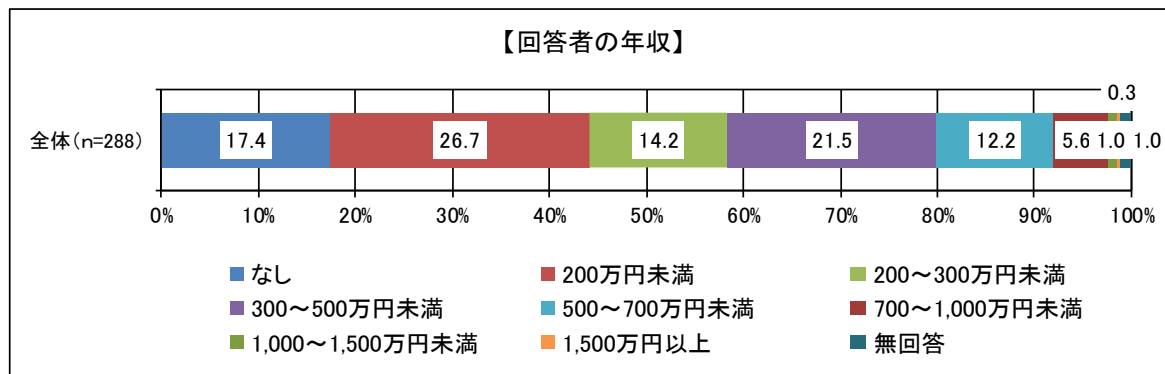
項目	職業													無回答	回答者数
	会社員	会社・団体等の役員	公務員(教職員を除く)	教職員	自営業	農林漁業	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト	学生	専業主婦(夫)	無職	その他			
男性	66	1	11	1	3	1	7	4	1	1	8	2	0	106	
	62.3	0.9	10.4	0.9	2.8	0.9	6.6	3.8	0.9	0.9	7.5	1.9	0.0	100.0	
	19	1	1	0	0	0	7	4	1	0	8	1	0	42	
	45.2	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	16.7	9.5	2.4	0.0	19.0	2.4	0.0	100.0	
	46	0	9	1	2	1	0	0	0	1	0	1	0	61	
	75.4	0.0	14.8	1.6	3.3	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	100.0	
女性	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	55	0	2	6	6	1	11	49	5	33	6	6	1	181	
	30.4	0.0	1.1	3.3	3.3	0.6	6.1	27.1	2.8	18.2	3.3	3.3	0.6	100.0	
	16	0	1	2	2	1	2	3	5	0	2	1	0	35	
	45.7	0.0	2.9	5.7	5.7	2.9	5.7	8.6	14.3	0.0	5.7	2.9	0.0	100.0	
	34	0	1	4	4	0	7	45	0	33	4	4	1	137	
	24.8	0.0	0.7	2.9	2.9	0.0	5.1	32.8	0.0	24.1	2.9	2.9	0.7	100.0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	5	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	8	
62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		

問7 回答者の年収

回答者の年収は、「200万円未満」が26.7%で最も高く、「300～500万円未満」が21.5%、「なし」が17.4%、「200～300万円未満」が14.2%と続いています。

性別にみると、男性は「300～500万円未満」以上で、女性は「なし」を含む「200～300万円未満」以下で、それぞれ他より比率が高くなっています。

女性の“離別”は、「200万円未満」(62.5%)が最も比率が高く、最高額は「300～500万円未満」となっています。



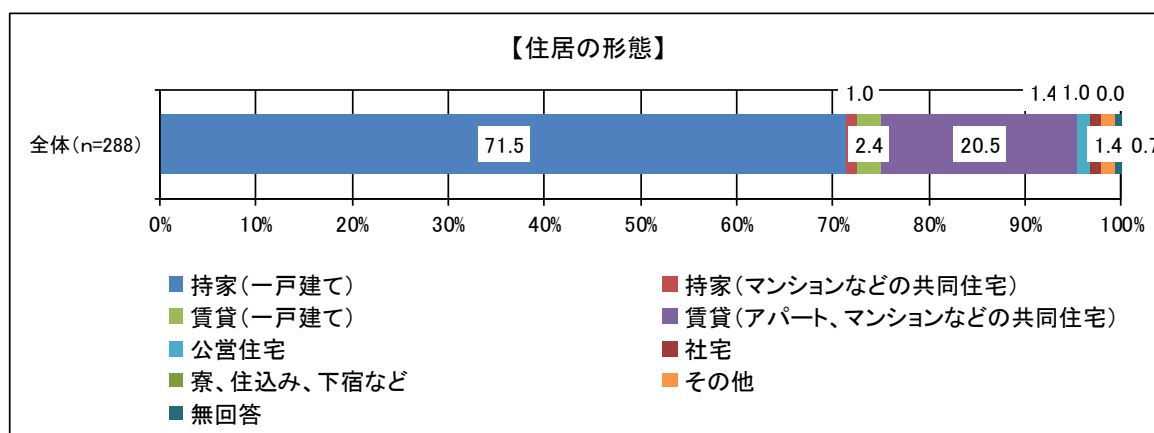
【性別×結婚の状況×年収】

上段:人、下段:%

項目	なし	200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	1,500万円以上	無回答	回答者数	
男性	9	9	12	34	25	13	3	0	1	106	
	8.5	8.5	11.3	32.1	23.6	12.3	2.8	0.0	0.9	100.0	
	未婚	8	7	12	9	5	1	0	0	42	
	19.0	16.7	28.6	21.4	11.9	2.4	0.0	0.0	0.0	100.0	
	既婚	1	1	0	24	19	12	3	0	1	61
	1.6	1.6	0.0	39.3	31.1	19.7	4.9	0.0	1.6	100.0	
離別	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	
0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
女性	41	68	29	28	10	3	0	1	1	181	
	22.7	37.6	16.0	15.5	5.5	1.7	0.0	0.6	0.6	100.0	
	未婚	6	8	11	7	3	0	0	0	35	
	17.1	22.9	31.4	20.0	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	既婚	35	55	16	20	7	3	0	1	0	137
	25.5	40.1	11.7	14.6	5.1	2.2	0.0	0.7	0.0	100.0	
	死別	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	離別	0	5	2	1	0	0	0	0	0	8
	0.0	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問8 住居の形態

回答者の住居の形態は、「持家（一戸建て）」が71.5%で多数を占めており、次いで「賃貸（アパート、マンションなどの共同住宅）」が20.5%、「賃貸（一戸建て）」が2.4%などとなっています。

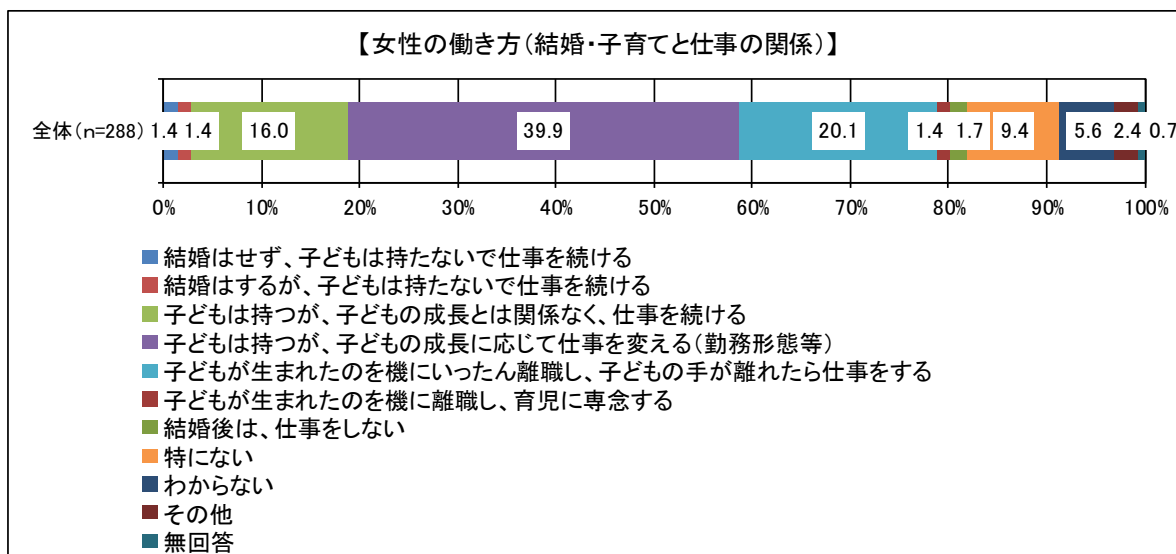


【一般】

問9 女性の働き方（結婚・子育てと仕事の関係）

女性の働き方については、「子どもは持つが、子どもの成長に応じて仕事を変える（勤務形態等）」が39.9%で最も比率が高く、以下、「子どもが生まれたのを機にいったん退職し、子どもの手が離れたら仕事をする」が20.1%、「子どもは持つが、子どもの成長とは関係なく、仕事を続ける」が16.0%などとなっています。なお、「特にない」は9.4%、「わからない」は5.6%となっています。

上記で比率が高い「子どもは持つが、子どもの成長に応じて仕事を変える（勤務形態等）」や「子どもが生まれたのを機にいったん退職し、子どもの手が離れたら仕事をする」、「子どもは持つが、子どもの成長とは関係なく、仕事を続ける」は、いずれも女性の比率が男性の比率を上回っており、特に“既婚者（離別を含む）”で高い比率となっています。



【性別×結婚の状況×女性の働き方】

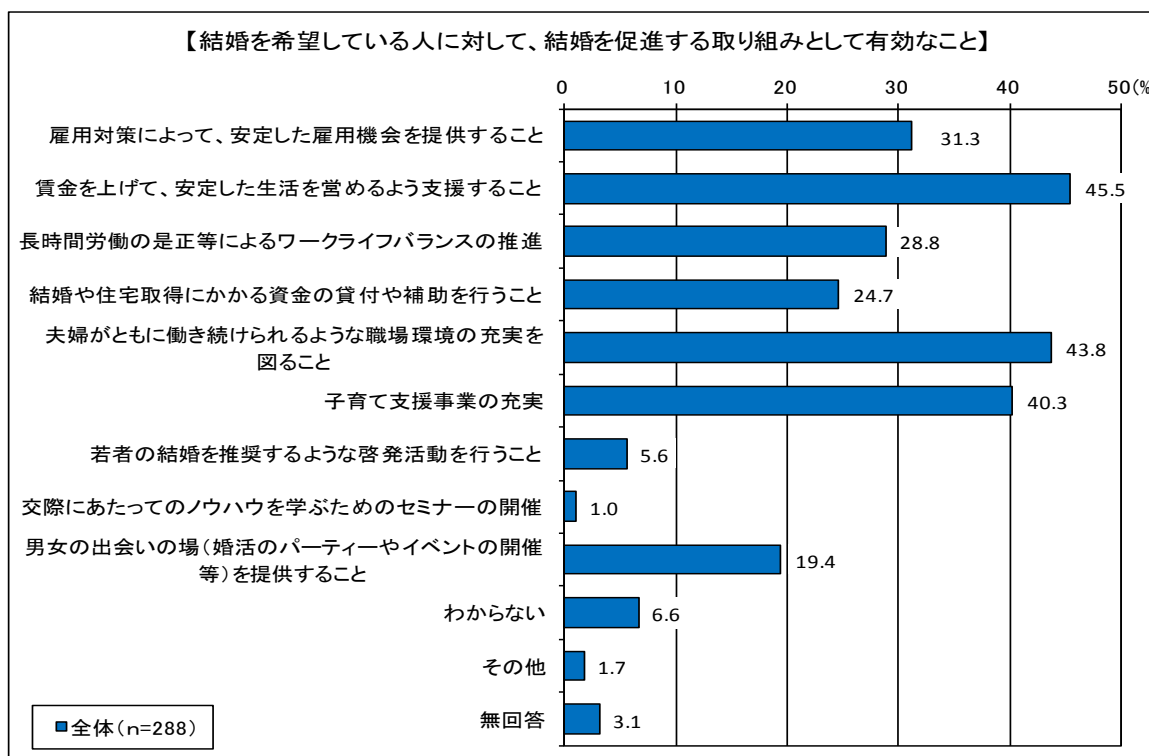
上段：人、下段：%

項目	結婚はせず、子どもは持たないで仕事を続ける	結婚はするが、子どもは持たないで仕事を続ける	子どもは持つが、子どもの成長とは関係なく、仕事を続ける	子どもは持つが、子どもの成長に応じて仕事を変える(勤務形態等)	子どもが生まれたのを機にいったん退職し、子どもの手が離れたら仕事をする	子どもが生まれたのを機に退職し、育児に専念する	結婚後は、仕事をしない	特にない	わからない	その他	無回答	回答者数
男性	1	1	14	36	19	2	4	15	9	5	0	106
	0.9	0.9	13.2	34.0	17.9	1.9	3.8	14.2	8.5	4.7	0.0	100.0
	1	0	5	11	6	1	1	7	8	2	0	42
	2.4	0.0	11.9	26.2	14.3	2.4	2.4	16.7	19.0	4.8	0.0	100.0
	0	1	9	24	13	1	3	7	0	3	0	61
	0.0	1.6	14.8	39.3	21.3	1.6	4.9	11.5	0.0	4.9	0.0	100.0
女性	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0
	3	3	32	79	39	2	1	12	7	2	1	181
	1.7	1.7	17.7	43.6	21.5	1.1	0.6	6.6	3.9	1.1	0.6	100.0
	3	2	5	10	6	1	0	4	3	0	1	35
	8.6	5.7	14.3	28.6	17.1	2.9	0.0	11.4	8.6	0.0	2.9	100.0
既婚	0	1	26	65	31	1	1	6	4	2	0	137
	0.0	0.7	19.0	47.4	22.6	0.7	0.7	4.4	2.9	1.5	0.0	100.0
	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	0	0	1	3	2	0	0	2	0	0	0	8
	0.0	0.0	12.5	37.5	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 10 結婚を希望している人に対して、結婚を促進する取り組みとして有効なこと

結婚を希望している人に対して、結婚を促進する取り組みとして有効なことは、「賃金を上げて、安定した生活を営めるよう支援すること」（45.5%）や「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実を図ること」（43.8%）、「子育て支援事業の充実」（40.3%）が4割以上の高い比率となっており、「雇用対策によって、安定した雇用機会を提供すること」（31.3%）、「長時間労働の是正等によるワークライフバランスの推進」（28.8%）、「結婚や住宅取得にかかる資金の貸付や補助を行うこと」（24.7%）と続いています。

「賃金を上げて、安定した生活を営めるよう支援すること」（45.5%）や「雇用対策によって、安定した雇用機会を提供すること」は男性が、「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実を図ること」や「子育て支援事業の充実」な女性が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×結婚の状況×結婚を促進する取り組みとして有効なこと】

上段：人、下段：%

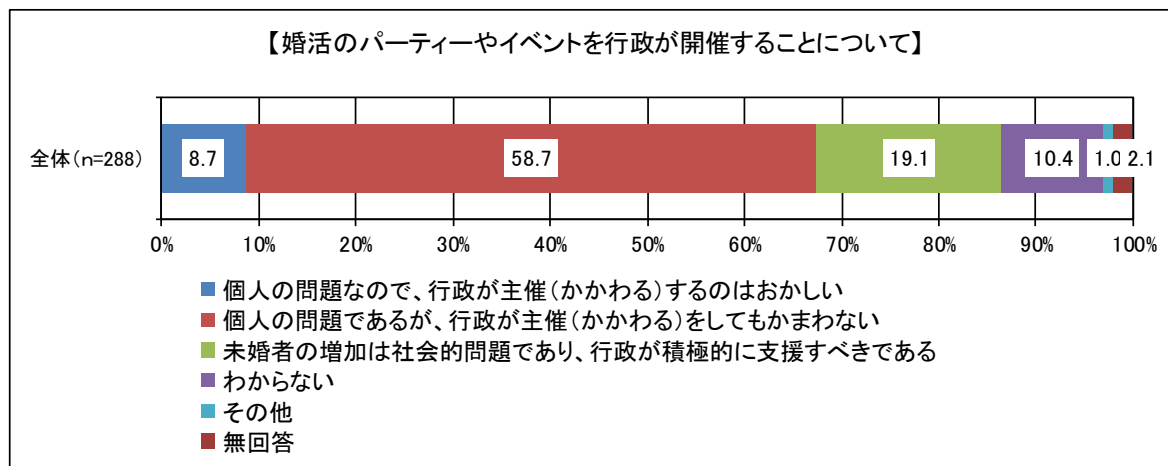
項目	雇用対策によって、安定した雇用機会を提供すること	賃金を上げて、安定した生活を営めるよう支援すること	長時間労働の是正等によるワークライフバランスの推進	結婚や住宅取得にかかる資金の貸付や補助を行うこと	夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実を図ること	子育て支援事業の充実	若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	交際にあたってのノウハウを学ぶためのセミナーの開催	男女の出会いの場（婚活のパーティーやイベントの開催等）を提供すること	わからない	その他	無回答	回答者数
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
男性	36	55	29	28	36	39	9	1	27	11	2	0	106
	34.0	51.9	27.4	26.4	34.0	36.8	8.5	0.9	25.5	10.4	1.9	0.0	100.0
未婚	14	19	9	12	11	12	4	0	10	9	0	0	42
	33.3	45.2	21.4	28.6	26.2	28.6	9.5	0.0	23.8	21.4	0.0	0.0	100.0
既婚	21	34	18	16	23	26	4	0	17	2	2	0	61
	34.4	55.7	29.5	26.2	37.7	42.6	6.6	0.0	27.9	3.3	3.3	0.0	100.0
離別	1	2	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	3
	33.3	66.7	66.7	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
女性	54	76	54	43	90	77	7	2	29	8	3	251	181
	29.8	42.0	29.8	23.8	49.7	42.5	3.9	1.1	16.0	4.4	1.7	138.7	100.0
未婚	8	17	14	6	15	9	2	0	7	2	0	36	35
	22.9	48.6	40.0	17.1	42.9	25.7	5.7	0.0	20.0	5.7	0.0	102.9	100.0
既婚	44	56	38	33	71	62	5	2	21	6	3	5	137
	32.1	40.9	27.7	24.1	51.8	45.3	3.6	1.5	15.3	4.4	2.2	3.6	100.0
死別	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
離別	2	3	2	4	4	6	0	0	1	0	0	0	8
	25.0	37.5	25.0	50.0	50.0	75.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	100.0

【一般】

問 11 婚活のパーティーやイベントを行政が開催することについて

婚活のパーティーやイベントを行政が開催することについては、「個人の問題であるが、行政が主催（かかわる）をしてもかまわない」が 58.7%と過半数を占めており、「未婚者の増加は社会的問題であり、行政が積極的に支援すべきである」は 19.1%、「個人の問題なので、行政が主催（かかわる）するのはおかしい」は 8.7%となっています。なお、「わからない」は 10.4%となっています。

女性は「個人の問題であるが、行政が主催（かかわる）をしてもかまわない」が、男性は「未婚者の増加は社会的問題であり、行政が積極的に支援すべきである」が、それぞれ他より高い比率となっており、男性がより積極的な関りを求めている結果となっています。



【性別×結婚の状況×婚活のパーティーやイベントを行政が開催することについて】

上段：人、下段：%

項目	個人の問題なので、行政が主催（かかわる）するのはおかしい	個人の問題であるが、行政が主催（かかわる）をしてもかまわない	未婚者の増加は社会的問題であり、行政が積極的に支援すべきである	わからない	その他	無回答	回答者数
	人	人	人	人	人	人	人
男性	9	53	29	14	1	0	106
	8.5	50.0	27.4	13.2	0.9	0.0	100.0
	3	16	10	12	1	0	42
	7.1	38.1	23.8	28.6	2.4	0.0	100.0
	5	37	17	2	0	0	61
	8.2	60.7	27.9	3.3	0.0	0.0	100.0
女性	1	0	2	0	0	0	3
	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	16	116	26	16	2	5	181
	8.8	64.1	14.4	8.8	1.1	2.8	100.0
	2	21	5	5	0	2	35
	5.7	60.0	14.3	14.3	0.0	5.7	100.0
既婚	12	90	21	10	2	2	137
	8.8	65.7	15.3	7.3	1.5	1.5	100.0
	0	0	0	0	0	1	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	2	5	0	1	0	0	8
	25.0	62.5	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0

問 12 行政がかかわる場合の考えられる支援策

行政がかかわる場合の考えられる支援策は、「婚活パーティー、お見合いなど出会いの場の開催・工夫」に関する意見が49件と圧倒的に多数を占め、「結婚後の支援（住宅・子育て等）」（13件）や「雇用・就労環境改善」（11件）、「情報発信・広報活動の工夫」（10件）などが上位となっています。

No.	項目	件数
1	婚活パーティー、お見合いなど出会いの場の開催・工夫	49
2	結婚後の支援（住宅・子育て等）	13
3	雇用・就労環境改善	11
4	情報発信・広報活動の工夫	10
5	趣味・サークル活動	9
6	企業提携・企業連携	7
7	テレビ番組等活用	4
7	公共施設・商業施設の活用・充実	4
-	ない、わからない	9
-	その他	15

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

2 結婚や就労について

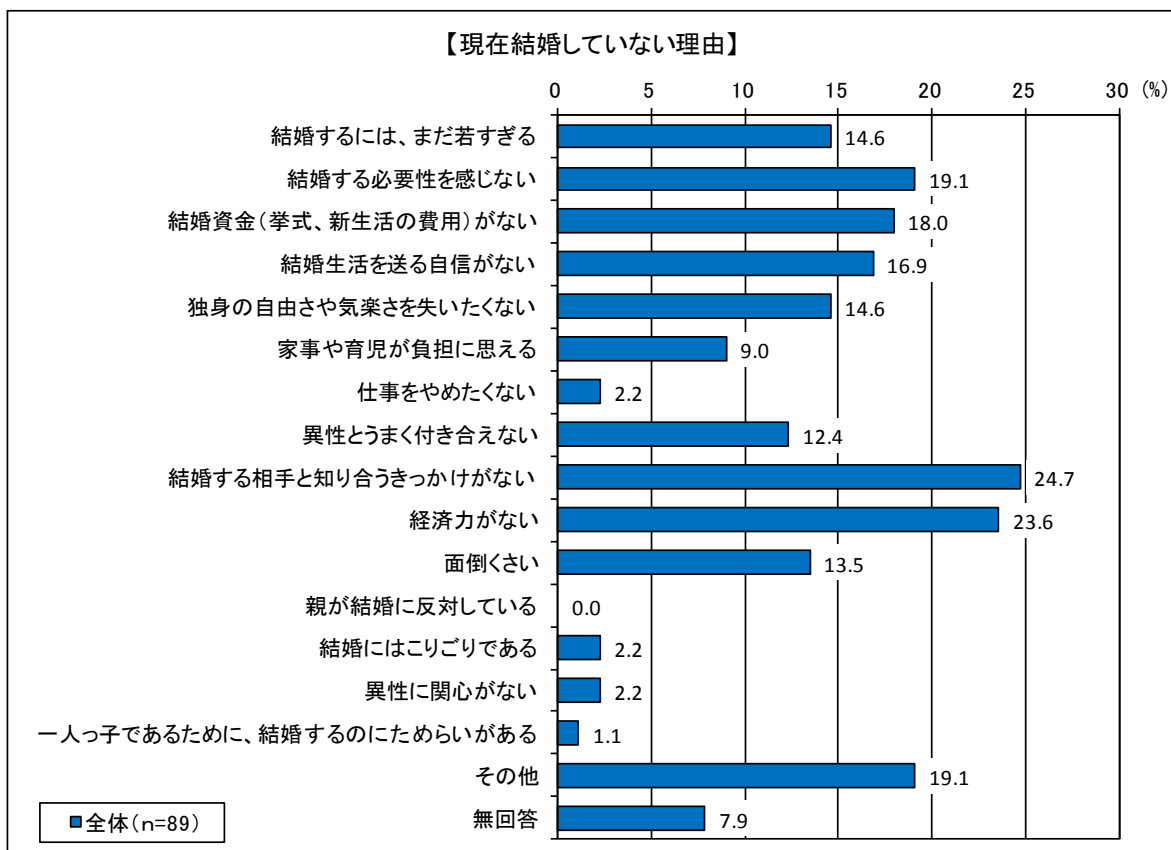
未婚又は現在独身の方（結婚経験のある方を含む）のみ回答

問 13 現在結婚していない理由

現在結婚していない理由は、「結婚する相手と知り合うきっかけがない」（24.7%）や「経済力がない」（23.6%）、「結婚する必要性を感じない」（19.1%）、「結婚資金（挙式、新生活の費用）がない」（18.0%）、「結婚生活を送る自信がない」（16.9%）などが上位となっています。

男性では「結婚資金（挙式、新生活の費用）がない」や「結婚生活を送る自信がない」、「異性とうまく付き合えない」、「経済力がない」、「面倒くさい」などが、女性では「結婚する必要性を感じない」や「家事や育児が負担に思える」などが、それぞれ他より高い比率となっています。

年齢別にみると、「結婚するには、まだ若すぎる」や「結婚資金（挙式、新生活の費用）がない」は若い年代で、「独身の自由さや気楽さを失いたくない」や「異性とうまく付き合えない」、「面倒くさい」は年代が高い方で比率が高くなっています。



【性別×年齢×現在結婚していない理由】

上段:人、下段:%

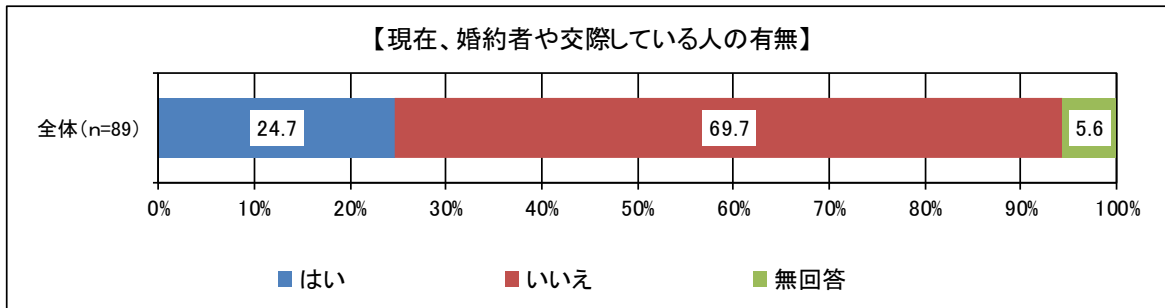
項目	結婚するには、まだ若すぎる	結婚する必要性を感じない	結婚資金(挙式、新生活の費用)がない	結婚生活を送る自信がない	独身の自由さや気楽さを失いたくない	家事や育児が負担に思える	仕事をやめたくない	異性とうまく付き合えない	結婚する相手と知り合うきっかけがない	
男性	6	5	11	12	6	2	0	10	13	
	13.3	11.1	24.4	26.7	13.3	4.4	0.0	22.2	28.9	
	20代	6	3	5	6	2	1	0	3	3
		37.5	18.8	31.3	37.5	12.5	6.3	0.0	18.8	18.8
	30代	0	1	2	3	2	1	0	3	3
		0.0	8.3	16.7	25.0	16.7	8.3	0.0	25.0	25.0
	40代	0	1	4	2	2	0	0	3	6
		0.0	6.7	26.7	13.3	13.3	0.0	0.0	20.0	40.0
	50代	0	0	0	1	0	0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
女性	7	12	5	3	7	6	2	1	9	
	15.9	27.3	11.4	6.8	15.9	13.6	4.5	2.3	20.5	
	20代	7	5	5	2	1	3	0	0	2
		35.0	25.0	25.0	10.0	5.0	15.0	0.0	0.0	10.0
	30代	0	1	0	0	2	2	1	1	5
		0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1	9.1	45.5
	40代	0	5	0	1	4	1	0	0	2
		0.0	50.0	0.0	10.0	40.0	10.0	0.0	0.0	20.0
	50代	0	1	0	0	0	0	1	0	0
		0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
項目	経済力がない	面倒くさい	親が結婚に反対している	結婚にはこりこりである	異性に関心がない	一人っ子であるために、結婚するのにためらいがある	その他	無回答	回答者数	
男性	15	8	0	1	2	0	8	2	45	
	33.3	17.8	0.0	2.2	4.4	0.0	17.8	4.4	100.0	
	20代	4	3	0	1	1	0	1	0	16
		25.0	18.8	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	100.0
	30代	3	3	0	0	1	0	2	1	12
		25.0	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	8.3	100.0
	40代	8	2	0	0	0	0	4	1	15
		53.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	6.7	100.0
	50代	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0
女性	6	4	0	1	0	1	9	5	44	
	13.6	9.1	0.0	2.3	0.0	2.3	20.5	11.4	100.0	
	20代	5	0	0	0	0	1	4	2	20
		25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0	10.0	100.0
	30代	0	1	0	0	0	0	3	0	11
		0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	100.0
	40代	1	2	0	1	0	0	1	2	10
		10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	100.0
	50代	0	1	0	0	0	0	1	1	3
		0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0

【一般】

問 14 現在、婚約者や交際している人の有無

現在、婚約者や交際している人がいるかについては、「いいえ」（いない）が 69.7%と多数を占め、「はい」（いる）は 24.7%となっています。

「いいえ」の回答は、全ての年代で“男性”の方が高い比率となっています。



【性別×年齢×現在、婚約者や交際している人の有無】

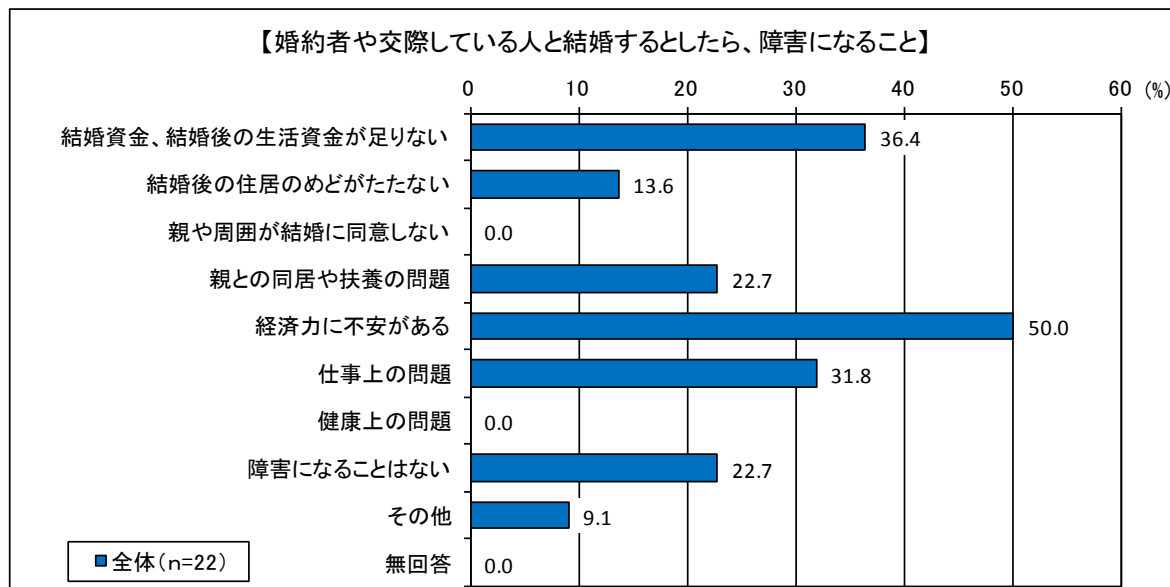
上段：人、下段：%

項目	はい	いいえ	無回答	回答者数
男性	8	36	1	45
	17.8	80.0	2.2	100.0
20代	3	13	0	16
	18.8	81.3	0.0	100.0
30代	2	10	0	12
	16.7	83.3	0.0	100.0
40代	3	11	1	15
	20.0	73.3	6.7	100.0
50代	0	2	0	2
	0.0	100.0	0.0	100.0
女性	14	26	4	44
	31.8	59.1	9.1	100.0
20代	9	9	2	20
	45.0	45.0	10.0	100.0
30代	2	9	0	11
	18.2	81.8	0.0	100.0
40代	3	6	1	10
	30.0	60.0	10.0	100.0
50代	0	2	1	3
	0.0	66.7	33.3	100.0

問 15 婚約者や交際している人と結婚するとしたら、障害になること

結婚に際して障害になることは、「経済力に不安がある」が 50.0%と最も比率が高く、以下、「結婚資金、結婚後の生活資金が足りない」（36.4%）や「仕事上の問題」（31.8%）、「親との同居や不要の問題」（22.7%）と続いています。なお、「障害になることはない」は 22.7%となっています。

男性は「結婚資金、結婚後の生活資金が足りない」や「結婚後の住居のめどがたたない」、「経済力に不安がある」などで女性より比率が高く、一方、女性は「障害になることはない」が 35.7%と男性（0%）を大きく上回っています。



【性別×婚約者や交際している人と結婚するとしたら、障害になること】

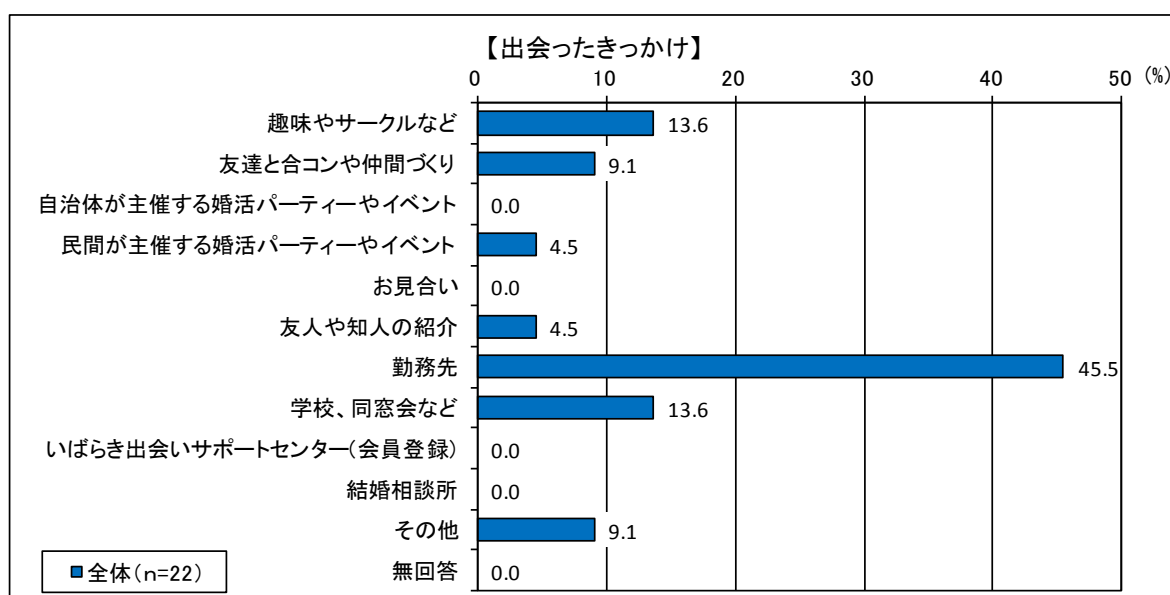
上段：人、下段：%

項目	結婚資金、結婚後の生活資金が足りない	結婚後の住居のめどがたたない	親や周囲が結婚に同意しない	親との同居や扶養の問題	経済力に不安がある	仕事上の問題	健康上の問題	障害になることはない	その他	無回答	回答者数
男性	5	3	0	2	5	3	0	0	0	0	8
	62.5%	37.5%	0.0%	25.0%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性	3	0	0	3	6	4	0	5	2	0	14
	21.4%	0.0%	0.0%	21.4%	42.9%	28.6%	0.0%	35.7%	14.3%	0.0%	100.0%

問 16 出会ったきっかけ

出会ったきっかけは、「勤務先」が 45.5%と最も比率が高く、「趣味やサークルなど」及び「学校、同窓会など」（ともに 13.6%）、「友達と合コンや仲間づくり」（9.1%）などとなっています。

男性では「趣味やサークルなど」や「学校、同窓会など」などが、女性では「勤務先」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【一般】

【性別×出会ったきっかけ】

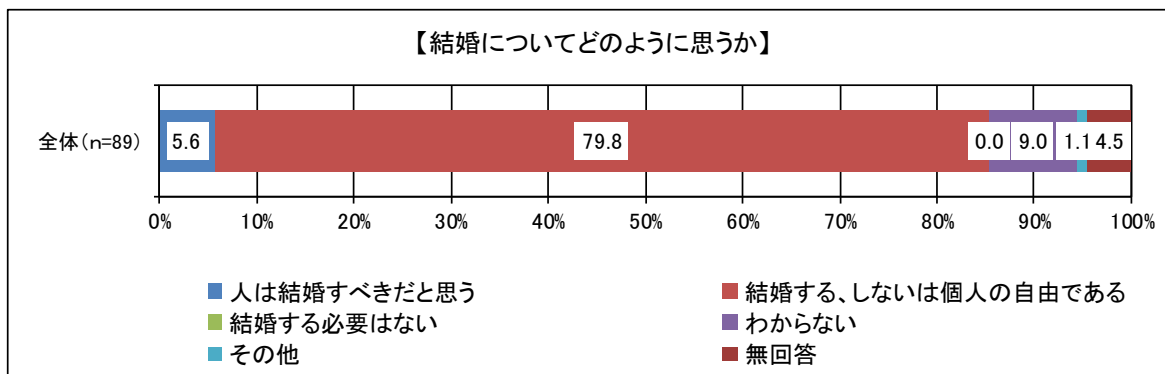
上段：人、下段：%

項目	趣味やサークルなど	友達と合コンや仲間づくり	民間が主催する婚活パーティーやイベント	友人や知人の紹介	勤務先	学校、同窓会など	その他	無回答	回答者数
男性	2	1	0	1	1	2	1	0	8
	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
女性	1	1	1	0	9	1	1	0	14
	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%	64.3%	7.1%	7.1%	0.0%	100.0%

問17 結婚についてどのように思うか

結婚についてどのように思うかについては、「結婚する、しないは個人の自由である」が79.8%と多数を占めています。他には「人は結婚すべきだと思う」が5.6%、「わからない」が9.0%となっており、「結婚する必要はない」は0%となっています。

「人は結婚すべきだと思う」は若い男性のみの回答となっています。



【性別×年齢×結婚についてどのように思うか】

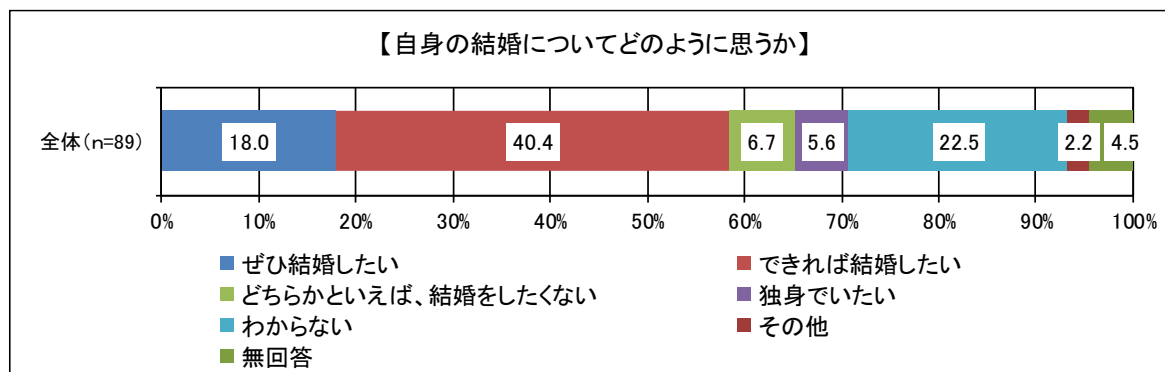
上段：人、下段：%

項目	人は結婚すべきだと思う	結婚する、しないは個人の自由である	わからない	その他	無回答	回答者数	
男性	5	33	5	1	1	45	
	11.1	73.3	11.1	2.2	2.2	100.0	
	20代	3	13	0	0	0	16
		18.8	81.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	30代	2	8	2	0	0	12
		16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	100.0
	40代	0	11	2	1	1	15
0.0		73.3	13.3	6.7	6.7	100.0	
50代	0	1	1	0	0	2	
女性	0	38	3	0	3	44	
	0.0	86.4	6.8	0.0	6.8	100.0	
	20代	0	18	1	0	1	20
		0.0	90.0	5.0	0.0	5.0	100.0
	30代	0	10	1	0	0	11
		0.0	90.9	9.1	0.0	0.0	100.0
	40代	0	9	0	0	1	10
		0.0	90.0	0.0	0.0	10.0	100.0
	50代	0	1	1	0	1	3
		0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	100.0

問 18 自身の結婚についてどのように思うか

自身の結婚についてどのように思うかについては、「できれば結婚したい」が40.4%、「ぜひ結婚をしたい」が18.0%となっているのに対し、「どちらかといえば、結婚をしたくない」が6.7%、「独身でいたい」が5.6%となっています。なお、「わからない」が22.5%となっています。

「できれば結婚をしたい」及び「わからない」以外は女性の比率が高い結果となっています。また、「ぜひ結婚したい」は若い年代で比率が高くなっています。



【性別×年齢×自身の結婚についてどのように思うか】

上段:人、下段:%

項目	ぜひ結婚したい	できれば結婚したい	どちらかといえば、結婚をしたくない	独身でいたい	わからない	その他	無回答	回答者数
男性	5	23	2	1	12	1	1	45
	11.1	51.1	4.4	2.2	26.7	2.2	2.2	100.0
20代	1	9	1	0	5	0	0	16
	6.3	56.3	6.3	0.0	31.3	0.0	0.0	100.0
30代	3	5	0	1	3	0	0	12
	25.0	41.7	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0	100.0
40代	1	9	0	0	3	1	1	15
	6.7	60.0	0.0	0.0	20.0	6.7	6.7	100.0
50代	0	0	1	0	1	0	0	2
	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
女性	11	13	4	4	8	1	3	44
	25.0	29.5	9.1	9.1	18.2	2.3	6.8	100.0
20代	10	4	2	1	2	0	1	20
	50.0	20.0	10.0	5.0	10.0	0.0	5.0	100.0
30代	1	6	1	1	2	0	0	11
	9.1	54.5	9.1	9.1	18.2	0.0	0.0	100.0
40代	0	3	1	1	3	1	1	10
	0.0	30.0	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	100.0
50代	0	0	0	1	1	0	1	3
	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	100.0

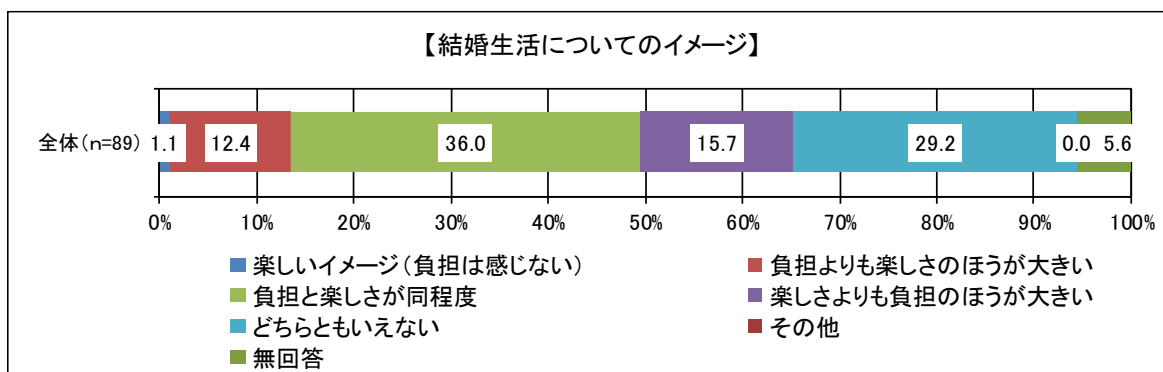
【一般】

問 19 結婚生活についてのイメージ

結婚生活についてのイメージについては、「負担と楽しさが同程度」(36.0%)や「どちらともいえない」(29.2%)の比率が高い結果となっており、これに次いで「楽しさよりも負担のほうが大きい」が15.7%、「負担よりも楽しさのほうが大きい」が12.4%と続き、「楽しいイメージ(負担は感じない)」は1.1%となっています。

男性は「どちらともいえない」が、女性は「負担と楽しさが同程度」が、それぞれ他より高い比率となっています。

また、「楽しいイメージ(負担は感じない)」や「負担よりも楽しさのほうが大きい」は若い年代で比率がやや高い傾向が見受けられます。



【性別×年齢×結婚生活についてのイメージ】

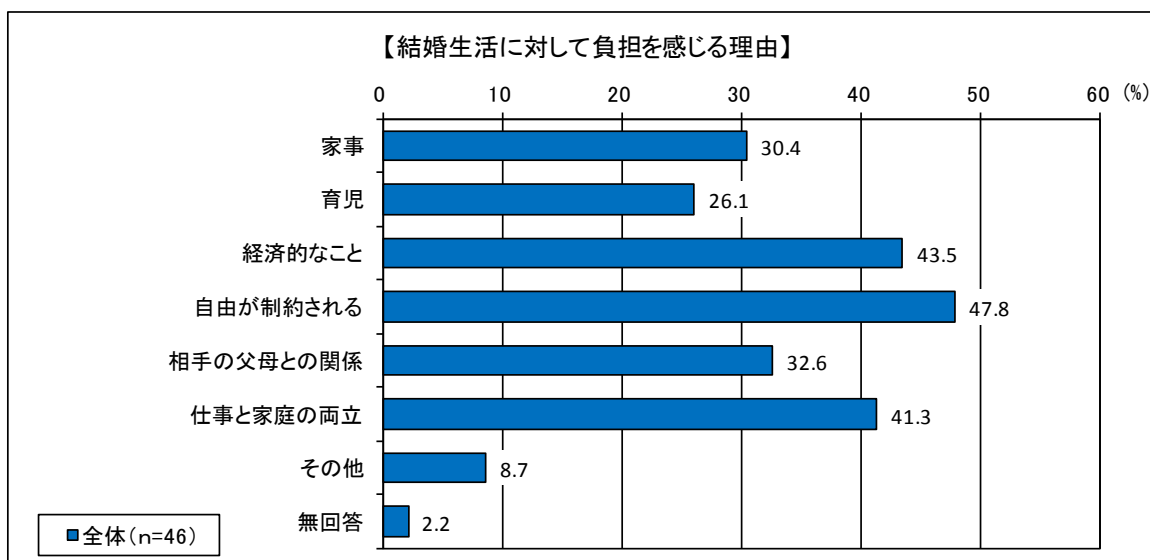
上段:人、下段:%

項目	楽しいイ メージ(負 担は感じ ない)	負担よりも 楽しさのほ うが大き い	負担と楽し さが同程 度	楽しさより も負担の ほうが大 きい	どちらとも いえない	無回答	回答者数	
男性	1	5	14	8	15	2	45	
	2.2	11.1	31.1	17.8	33.3	4.4	100.0	
	20代	0	3	3	5	5	0	16
		0.0	18.8	18.8	31.3	31.3	0.0	100.0
	30代	1	0	4	2	4	1	12
		8.3	0.0	33.3	16.7	33.3	8.3	100.0
	40代	0	2	7	0	5	1	15
0.0		13.3	46.7	0.0	33.3	6.7	100.0	
50代	0	0	0	1	1	0	2	
女性	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0	
	0	6	18	6	11	3	44	
	0.0	13.6	40.9	13.6	25.0	6.8	100.0	
	20代	0	4	8	1	6	1	20
		0.0	20.0	40.0	5.0	30.0	5.0	100.0
	30代	0	2	5	1	3	0	11
		0.0	18.2	45.5	9.1	27.3	0.0	100.0
	40代	0	0	5	3	1	1	10
		0.0	0.0	50.0	30.0	10.0	10.0	100.0
	50代	0	0	0	1	1	1	3
		0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	100.0

上記で「3 負担と楽しさが同程度」、「4 楽しさよりも負担のほうが大きい」を選ばれた方のみ回答
問 19-1 結婚生活に対して負担を感じる理由

結婚生活に対して負担を感じる理由としては、「自由が制約される」(47.8%)や「経済的なこと」(43.5%)、「仕事と家庭の両立」(41.3%)はいずれも4割を超え、「相手の父母との関係」(32.6%)や「家事」(30.4%)、「育児」(26.1%)は3割前後の回答となっています。

男性では「経済的なこと」が、女性では「家事」、「相手の父母との関係」、「仕事と家庭の両立」などが、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×結婚生活に対して負担を感じる理由】

上段: 人、下段: %

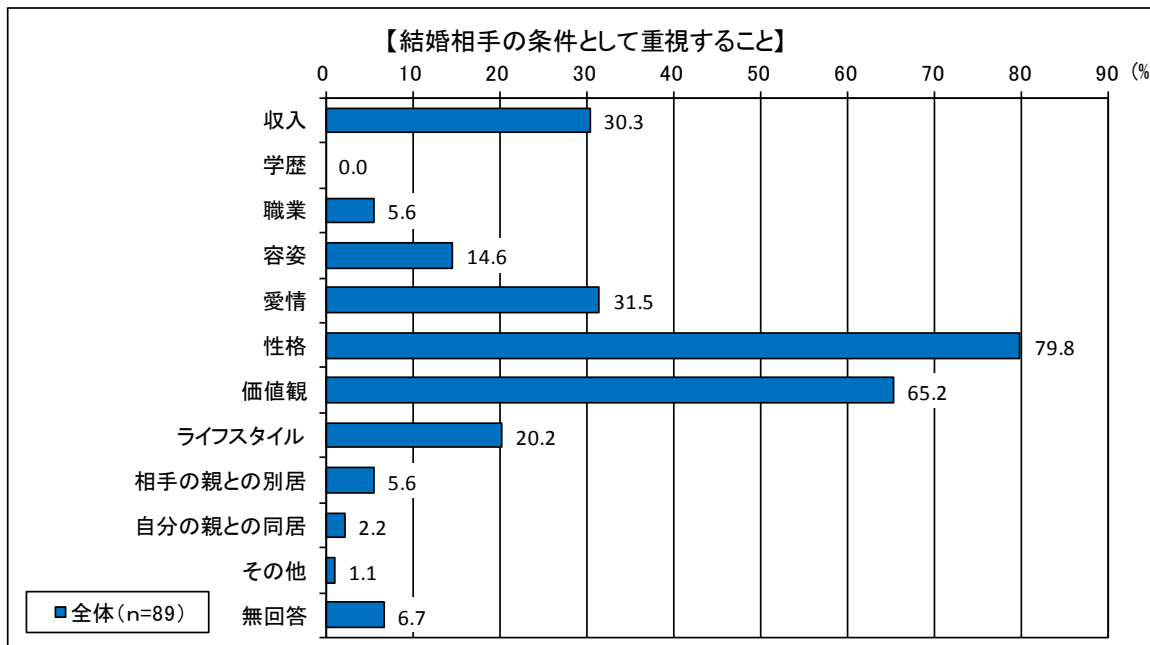
項目	家事	育児	経済的なこと	自由が制約される	相手の父母との関係	仕事と家庭の両立	その他	無回答	回答者数
男性	3	5	17	11	4	8	2	0	22
	13.6%	22.7%	77.3%	50.0%	18.2%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
女性	11	7	3	11	11	11	2	1	24
	45.8%	29.2%	12.5%	45.8%	45.8%	45.8%	8.3%	4.2%	100.0%

【一般】

問 20 結婚相手の条件として重視すること

結婚相手の条件として重視することは、「性格」(79.8%)及び「価値観」(65.2%)が突出して高く、以下、「愛情」(31.5%)や「収入」(30.3%)、「ライフスタイル」(20.2%)、「容姿」(14.6%)と続いています。

男性は「容姿」や「愛情」、「性格」、「ライフスタイル」などで、女性は「収入」や「価値観」、「相手の親との別居」で、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×年齢×結婚相手の条件として重視すること】

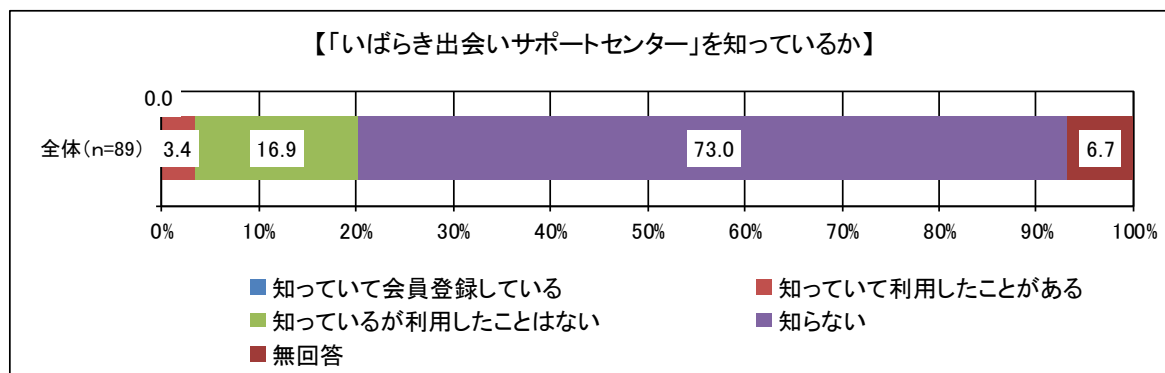
上段:人、下段:%

項目	収入	学歴	職業	容姿	愛情	性格	価値観	ライフスタイル	相手の親との別居	自分の親との同居	その他	無回答	回答者数	
男性	7	0	2	9	20	38	25	11	0	0	1	3	45	
	15.6	0.0	4.4	20.0	44.4	84.4	55.6	24.4	0.0	0.0	2.2	6.7	100.0	
	20代	3	0	1	4	7	14	9	5	0	0	0	1	16
	18.8	0.0	6.3	25.0	43.8	87.5	56.3	31.3	0.0	0.0	0.0	6.3	100.0	
	30代	2	0	0	1	6	10	7	3	0	0	0	1	12
	16.7	0.0	0.0	8.3	50.0	83.3	58.3	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	100.0	
	40代	2	0	1	3	6	13	9	3	0	0	0	1	15
	13.3	0.0	6.7	20.0	40.0	86.7	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	100.0	
	50代	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	2
	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	
女性	20	0	3	4	8	33	33	7	5	2	0	3	44	
	45.5	0.0	6.8	9.1	18.2	75.0	75.0	15.9	11.4	4.5	0.0	6.8	100.0	
	20代	10	0	1	2	4	15	16	2	1	2	0	1	20
	50.0	0.0	5.0	10.0	20.0	75.0	80.0	10.0	5.0	10.0	0.0	5.0	100.0	
	30代	5	0	0	1	4	8	6	2	3	0	0	11	
	45.5	0.0	0.0	9.1	36.4	72.7	54.5	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0	
	40代	4	0	2	1	0	8	9	2	1	0	0	1	10
	40.0	0.0	20.0	10.0	0.0	80.0	90.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0	100.0	
	50代	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	1	3
	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	

問 21 「いばらき出会いサポートセンター」を知っているか

「いばらき出会いサポートセンター」については、「知らない」が73.0%と多数を占め、「知っているが利用したことはない」は16.9%、「知っているが利用したことがある」は3.4%となっています。

男性、女性とも同様の傾向にあり、「知らない」は男女とも“20代”では90%を超える高い比率となっています。



【性別×年齢×「いばらき出会いサポートセンター」を知っているか】

上段:人、下段:%

項目	知っている が利用し たことがあ る	知っている が利用 したことは ない	知らない	無回答	回答者数	
男性	2	8	32	3	45	
	4.4	17.8	71.1	6.7	100.0	
	20代	0	1	15	0	16
		0.0	6.3	93.8	0.0	100.0
	30代	0	4	6	2	12
		0.0	33.3	50.0	16.7	100.0
	40代	2	3	9	1	15
13.3		20.0	60.0	6.7	100.0	
50代	0	0	2	0	2	
	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
女性	1	7	33	3	44	
	2.3	15.9	75.0	6.8	100.0	
	20代	0	0	19	1	20
		0.0	0.0	95.0	5.0	100.0
	30代	1	3	7	0	11
		9.1	27.3	63.6	0.0	100.0
	40代	0	2	7	1	10
0.0		20.0	70.0	10.0	100.0	
50代	0	2	0	1	3	
	0.0	66.7	0.0	33.3	100.0	

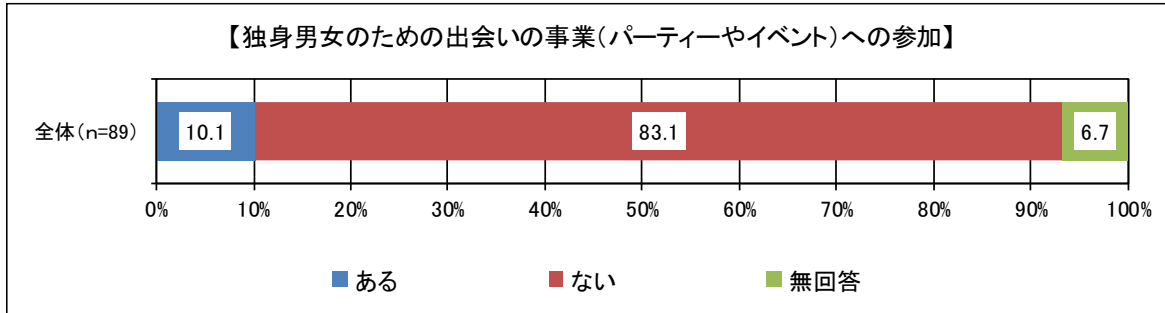
【一般】

問 22 独身男女のための出会いの事業（パーティーやイベント）への参加

独身男女のための出会いの事業（パーティーやイベント）に参加したことがあるかについては、「ある」は10.1%であり、「ない」が83.1%と多数を占めています。

性別にみると「ある」の回答は、女性の方がわずかながらも高い比率となっています。

年代別では「ある」の回答は、男性では“40代”（13.3%）、女性では“30代”（27.3%）が、それぞれ最も高い比率となっています。



【性別×年齢×独身男女のための出会いの事業（パーティーやイベント）への参加】

上段：人、下段：%

項目	ある	ない	無回答	回答者数	
男性	3	39	3	45	
	6.7	86.7	6.7	100.0	
	20代	0	16	0	16
		0.0	100.0	0.0	100.0
	30代	1	9	2	12
		8.3	75.0	16.7	100.0
	40代	2	12	1	15
		13.3	80.0	6.7	100.0
	50代	0	2	0	2
		0.0	100.0	0.0	100.0
女性	6	35	3	44	
	13.6	79.5	6.8	100.0	
	20代	2	17	1	20
		10.0	85.0	5.0	100.0
	30代	3	8	0	11
		27.3	72.7	0.0	100.0
	40代	1	8	1	10
		10.0	80.0	10.0	100.0
	50代	0	2	1	3
		0.0	66.7	33.3	100.0

*問 22 で「1 ある」を選ばれた方のみ回答

問 22-1 参加した出会いの事業（具体的）

ア 日立市（ひたち出会い応援協議会）が実施する事業

日立市（ひたち出会い応援協議会）が実施する事業に参加した事がある回答者はありませんでした。

イ いばらき出会いサポートセンターが実施する事業

いばらき出会いサポートセンターが実施する事業については、「セミナー」及び「パーティー」が各 1 名（50.0%）となっています。

ウ 民間事業者が実施する事業

民間事業者が実施する事業については、全員（7 名）が「パーティー」となっています。

【民間事業者が実施する事業】

項目	上段：人、下段：%					
	相談	お見合い	セミナー	パーティー	その他	無回答
実数	0	0	0	7	0	0
構成	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
						回答者数 7

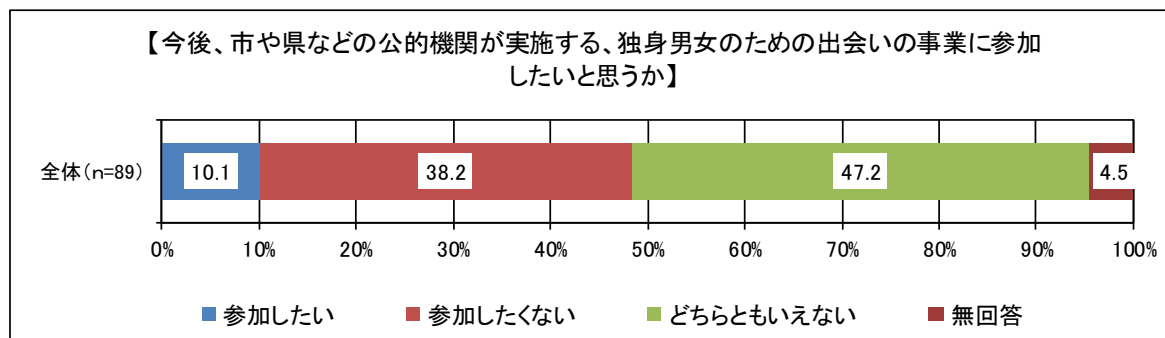
エ その他

その他の回答はありませんでした。

問 23 今後、市や県などの公的機関が実施する、独身男女のための出会いの事業に参加したいと思うか

出会いの事業に参加したいと思うかについては、「参加したい」は 10.1%であり、「参加したくない」が 38.2%となっています。なお、「どちらともいえない」が 47.2%となっています。

「参加したい」の回答は、女性（4.5%）より男性（15.6%）の方が比率が高く、特に、男性の“30代”及び“40代”では 20%を超える比率となっています。



【一般】

【性別×年齢×公的機関が実施する、独身男女のための出会いの事業に参加したいと思うか】

上段：人、下段：%

項目	参加したい	参加したくない	どちらとも いえない	無回答	回答者数	
男性	7	16	21	1	45	
	15.6	35.6	46.7	2.2	100.0	
	20代	1	5	10	0	16
		6.3	31.3	62.5	0.0	100.0
	30代	3	4	5	0	12
		25.0	33.3	41.7	0.0	100.0
	40代	3	6	5	1	15
		20.0	40.0	33.3	6.7	100.0
	50代	0	1	1	0	2
		0.0	50.0	50.0	0.0	100.0
女性	2	18	21	3	44	
	4.5	40.9	47.7	6.8	100.0	
	20代	1	7	11	1	20
		5.0	35.0	55.0	5.0	100.0
	30代	1	4	6	0	11
		9.1	36.4	54.5	0.0	100.0
	40代	0	5	4	1	10
		0.0	50.0	40.0	10.0	100.0
	50代	0	2	0	1	3
		0.0	66.7	0.0	33.3	100.0

*問23で「1 参加したい」と回答した方のみ

問23-1 具体的に参加したい事業

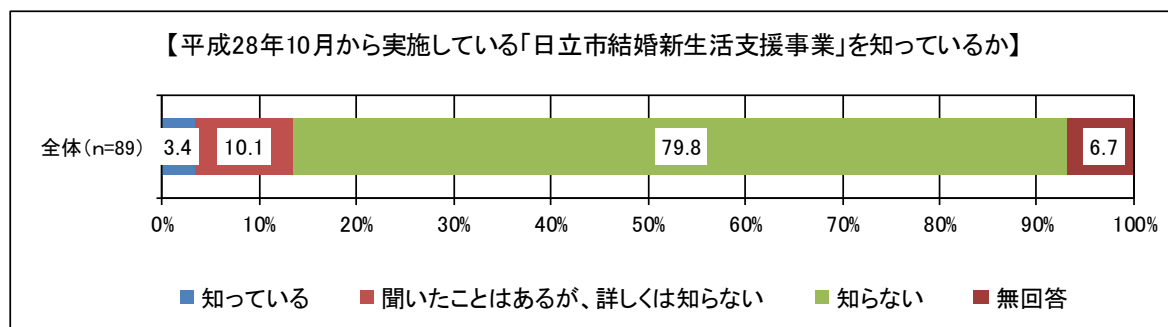
具体的に参加したい事業は、下表のとおり「婚活パーティー」などがあげられています。

No.	年齢	参加したい事業
1	20歳代	婚活パーティーなど。
2	30歳代	同じ趣味やら色々。ただ、今は他県にすることが多いので難しいかも。その時にいる県の民間のは参加しています。
3	30歳代	婚活パーティー等
4	40歳代	婚活イベント

問 24 平成 28 年 10 月から実施している「日立市結婚新生活支援事業」(*)を知っているか

「日立市結婚新生活支援事業」については、「知らない」が 79.8%と多数を占め、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」は 10.1%、「知っている」は 3.4%となっています。

「知っている」の回答は、女性が 6.8%で、男性は 0%となっており、男女の各年代とも「知らない」が高い比率を占めています。



【性別×年齢×平成 28 年 10 月から実施している「日立市結婚新生活支援事業」を知っているか】

上段:人、下段:%

項目	上段:人、下段:%				回答者数	
	知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	知らない	無回答		
男性	0	5	38	2	45	
	0.0	11.1	84.4	4.4	100.0	
	20代	0	2	14	0	16
		0.0	12.5	87.5	0.0	100.0
	30代	0	2	9	1	12
		0.0	16.7	75.0	8.3	100.0
	40代	0	1	13	1	15
0.0		6.7	86.7	6.7	100.0	
50代	0	0	2	0	2	
	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
女性	3	4	33	4	44	
	6.8	9.1	75.0	9.1	100.0	
	20代	0	1	17	2	20
		0.0	5.0	85.0	10.0	100.0
	30代	1	2	8	0	11
		9.1	18.2	72.7	0.0	100.0
	40代	1	1	7	1	10
		10.0	10.0	70.0	10.0	100.0
	50代	1	0	1	1	3
		33.3	0.0	33.3	33.3	100.0

【一般】

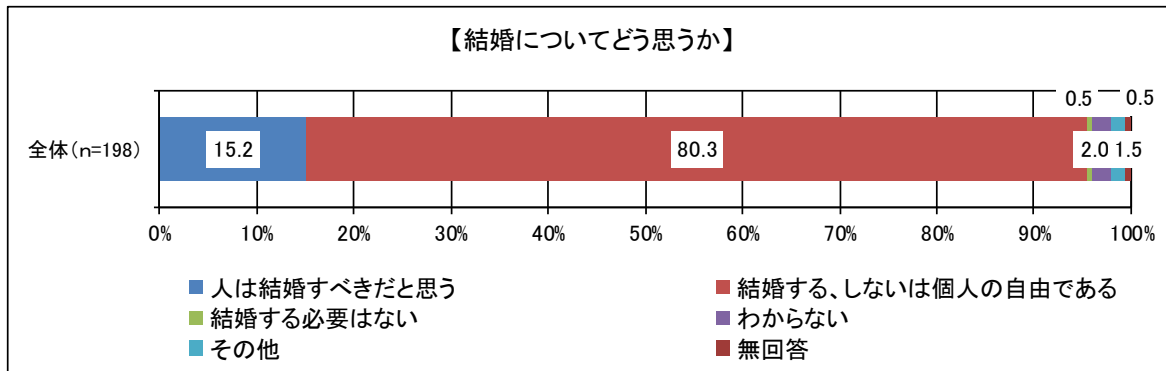
3 結婚や結婚生活について

現在結婚している方のみ回答

問 25 結婚についてどう思うか

結婚についてどのように思うかについては、「結婚する、しないは個人の自由である」が80.3%と多数を占めており、次いで「人は結婚すべきだと思う」が15.2%となっています。「わからない」は2.0%となっており、「結婚する必要はない」は0.5%となっています。

男女別のほとんどの年代で「結婚する、しないは個人の自由である」が80~90%前後の高い比率となっています。「人は結婚すべきだと思う」は、男性(21.3%)が女性(12.4%)より、やや比率が高い結果となっています。



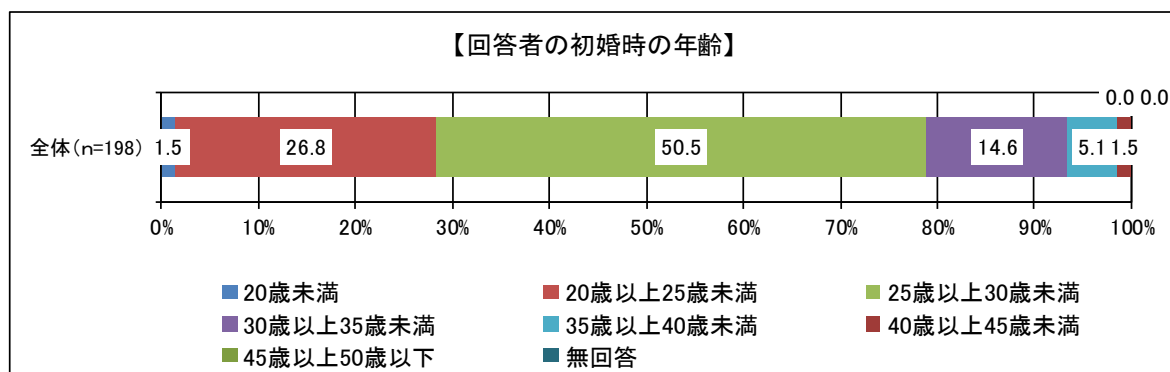
【性別×年齢×結婚についてどう思うか】

上段: 人、下段: %

項目	人は結婚すべきだと思う	結婚する、しないは個人の自由である	結婚する必要はない	わからない	その他	無回答	回答者数
男性	13	47	0	1	0	0	61
	21.3	77.0	0.0	1.6	0.0	0.0	100.0
20代	1	2	0	0	0	0	3
	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	1	15	0	0	0	0	16
	6.3	93.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	7	26	0	1	0	0	34
	20.6	76.5	0.0	2.9	0.0	0.0	100.0
50代	4	4	0	0	0	0	8
	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
女性	17	112	1	3	3	1	137
	12.4	81.8	0.7	2.2	2.2	0.7	100.0
20代	2	11	0	1	0	0	14
	14.3	78.6	0.0	7.1	0.0	0.0	100.0
30代	3	29	0	1	1	1	35
	8.6	82.9	0.0	2.9	2.9	2.9	100.0
40代	12	61	1	1	1	0	76
	15.8	80.3	1.3	1.3	1.3	0.0	100.0
50代	0	9	0	0	1	0	10
	0.0	90.0	0.0	0.0	10.0	0.0	100.0
無回答	0	2	0	0	0	0	2
	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 26 回答者の初婚時の年齢

初婚時の年齢は、「25歳以上30歳未満」が50.5%と過半数を占め、以下「20歳以上25歳未満」が26.8%、「30歳以上35歳未満」が14.6%、「35歳以上40歳未満」が5.1%と続いています。男女別にみると、男性より女性の方が若い年齢での比率が高くなっています。



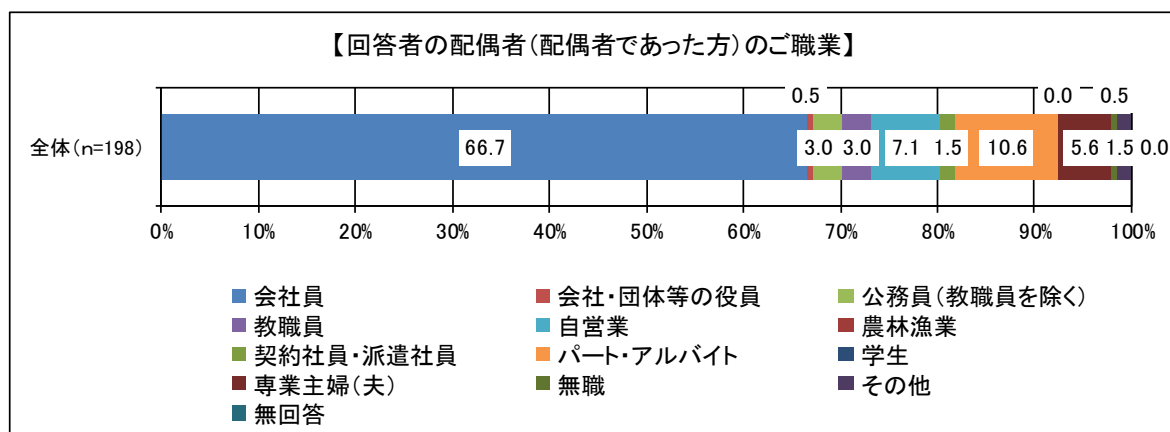
【性別×初婚時の年齢】

上段:人、下段:%

項目	20歳未満	20歳以上25歳未満	25歳以上30歳未満	30歳以上35歳未満	35歳以上40歳未満	40歳以上45歳未満	45歳以上50歳以下	無回答	回答者数
男性	0	14	27	14	5	1	0	0	61
	0.0%	23.0%	44.3%	23.0%	8.2%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%
女性	3	39	73	15	5	2	0	0	137
	2.2%	28.5%	53.3%	10.9%	3.6%	1.5%	0.0%	0.0%	100.0%

問 27 回答者の配偶者（配偶者であった方）の職業

回答者の配偶者（配偶者であった方）の職業は、「会社員」が66.7%と多数を占め、以下「パート・アルバイト」が10.6%、「自営業」が7.1%、「専業主婦（夫）」が5.6%と続いています。男性では「パート・アルバイト」が、女性では「会社員」が、それぞれ最も高い比率となっています。



【一般】

【性別×配偶者（配偶者であった方）の職業】

上段：人、下段：%

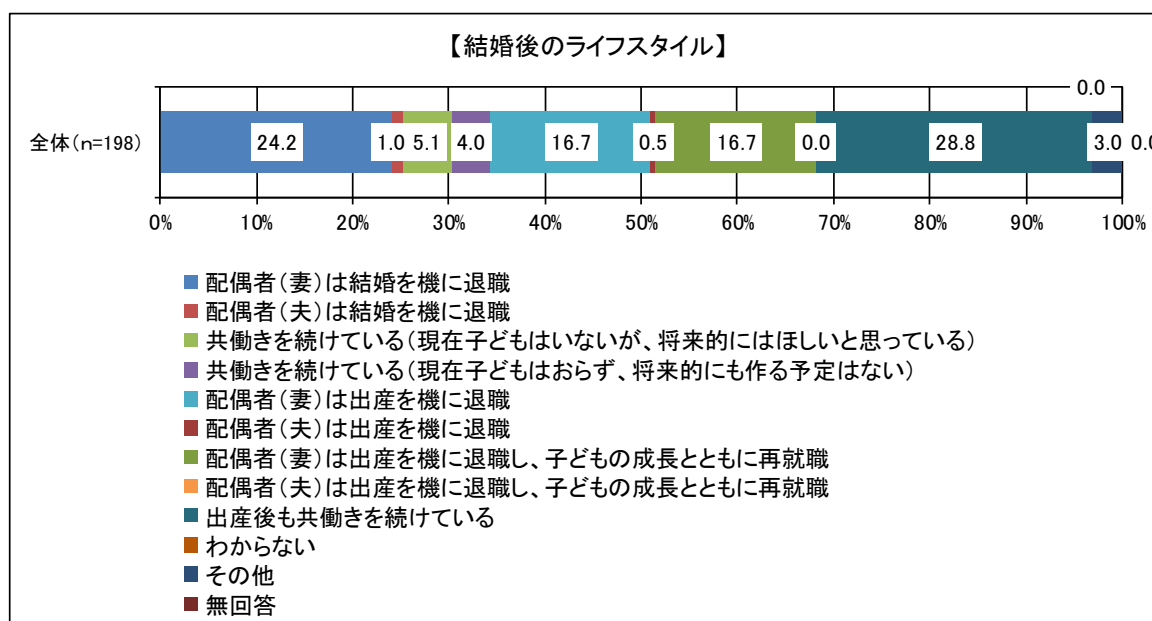
項目	会社員	会社・団体等の役員	公務員(教職員を除く)	教職員	自営業	農林漁業	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト
男性	18	0	2	1	2	0	3	21
	29.5%	0.0%	3.3%	1.6%	3.3%	0.0%	4.9%	34.4%
女性	114	1	4	5	12	0	0	0
	83.2%	0.7%	2.9%	3.6%	8.8%	0.0%	0.0%	0.0%

項目	学生	専業主婦(夫)	無職	その他	無回答	回答者数
男性	0	11	1	2	0	61
	0.0%	18.0%	1.6%	3.3%	0.0%	100.0%
女性	0	0	0	1	0	137
	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	100.0%

問 28 結婚後のライフスタイル

結婚後のライフスタイルは、「出産後も共働きを続けている」が 28.8%と最も比率が高く、以下「配偶者（妻）は結婚を機に退職」が 24.2%、「配偶者（妻）は出産を機に退職」及び「配偶者（妻）は出産を機に退職し、子どもの成長とともに再就職」がともに 16.7%と続いています。

「出産後も共働きを続けている」は女性や年代が若い方で、「配偶者（妻）は結婚を機に退職」は男性や年齢が高い世代で、それぞれ比率が高くなっています。



【性別×結婚後のライフスタイル】

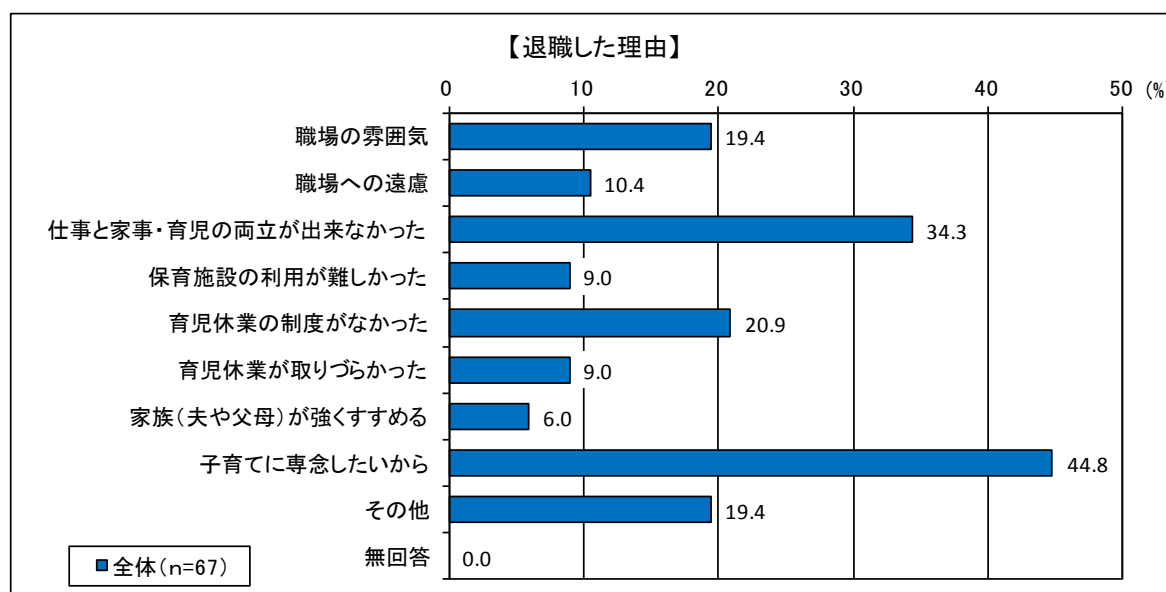
上段：人、下段：%

項目	配偶者(妻)は結婚を機に退職	配偶者(夫)は結婚を機に退職	共働きを続けている(現在子どもはいないが、将来的にはほしいと思っている)	共働きを続けている(現在子どもはおらず、将来的にも作る予定はない)	配偶者(妻)は出産を機に退職	配偶者(夫)は出産を機に退職	配偶者(妻)は出産を機に退職し、子どもの成長とともに再就職	出産後も共働きを続けている	その他	回答者数
男性	16	1	7	4	11	0	7	13	2	61
	26.2	1.6	11.5	6.6	18.0	0.0	11.5	21.3	3.3	100.0
女性	32	1	3	4	22	1	26	44	4	137
	23.4	0.7	2.2	2.9	16.1	0.7	19.0	32.1	2.9	100.0

問 28-1 退職した理由

退職した理由は、「子育てに専念したいから」が44.8%で最も比率が高く、以下「仕事と家事・育児の両立が出来なかった」が34.3%、「育児休業の制度がなかった」が20.9%、「職場の雰囲気」が19.4%と続いています。なお、「その他」(19.4%)の内容としては“移転・転居”や“職場・上司との関係”などが多くあげられています。

「育児休業の制度がなかった」や「育児休業が取りづらかった」、「家族(夫や父母)が強くすすめる」などは、男性より女性の回答比率が高い項目となっています。



【性別×退職した理由】

上段：人、下段：%

項目	職場の雰囲気	職場への遠慮	仕事と家事・育児の両立が出来なかった	保育施設の利用が難しかった	育児休業の制度がなかった	育児休業が取りづらかった	家族(夫や父母)が強くすすめる	子育てに専念したいから	その他	無回答	回答者数
男性	4	2	7	2	2	1	0	8	1	0	18
	22.2	11.1	38.9	11.1	11.1	5.6	0.0	44.4	5.6	0.0	100.0
女性	9	5	16	4	12	5	4	22	12	0	49
	18.4	10.2	32.7	8.2	24.5	10.2	8.2	44.9	24.5	0.0	100.0

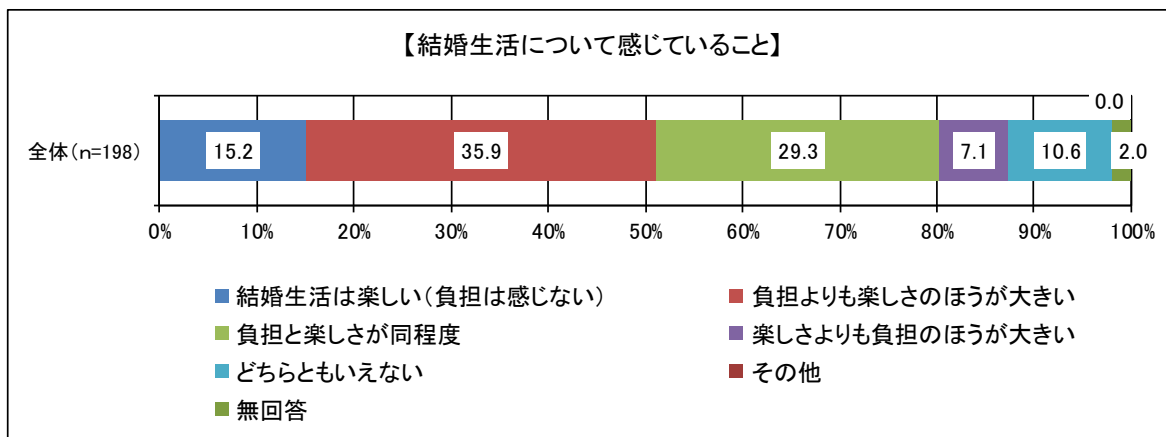
【一般】

問 29 結婚生活について感じていること

結婚生活について感じていることは、「負担よりも楽しさのほうが大きい」が 35.9%で最も比率が高く、「結婚生活は楽しい（負担は感じない）」の 15.2%と合わせて“楽しい”が 51.1%と過半数を占めています。「負担と楽しさが同程度」は 29.3%、「楽しさよりも負担のほうが大きい」は 7.1%、「どちらともいえない」は 10.6%となっています。

「負担と楽しさが同程度」や「楽しさよりも負担のほうが大きい」は女性の比率が高く、一方、男性は「どちらともいえない」が女性と比較して高い比率となっています。

また、「楽しさよりも負担のほうが大きい」は、特に年齢が高い世代で比率も高くなっています。



【性別×年齢×結婚生活について感じていること】

上段:人、下段:%

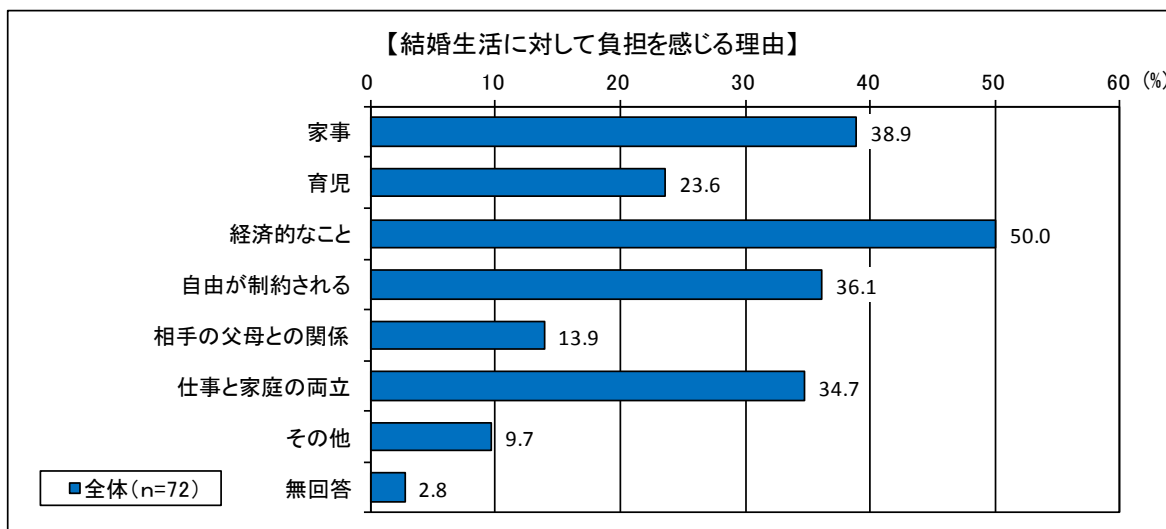
項目	結婚生活は楽しい (負担は感じない)	負担よりも 楽しさのほ うが大きい	負担と楽し さが同程 度	楽しさより も負担の ほうが大 きい	どちらとも いえない	無回答	回答者数	
男性	9	23	16	3	8	2	61	
	14.8	37.7	26.2	4.9	13.1	3.3	100.0	
	20代	0	3	0	0	0	0	3
		0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	30代	3	5	5	0	3	0	16
		18.8	31.3	31.3	0.0	18.8	0.0	100.0
	40代	4	12	10	2	5	1	34
11.8		35.3	29.4	5.9	14.7	2.9	100.0	
50代	2	3	1	1	0	1	8	
	25.0	37.5	12.5	12.5	0.0	12.5	100.0	
女性	21	48	42	11	13	2	137	
	15.3	35.0	30.7	8.0	9.5	1.5	100.0	
	20代	2	7	4	1	0	0	14
		14.3	50.0	28.6	7.1	0.0	0.0	100.0
	30代	8	9	13	2	1	2	35
		22.9	25.7	37.1	5.7	2.9	5.7	100.0
	40代	9	28	21	7	11	0	76
		11.8	36.8	27.6	9.2	14.5	0.0	100.0
	50代	1	4	3	1	1	0	10
		10.0	40.0	30.0	10.0	10.0	0.0	100.0
無回答	1	0	1	0	0	0	2	
	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

*問 29 で「3 負担と楽しさが同程度」、「4 楽しさよりも負担のほうが大きい」と回答した方のみ

問 29-1 結婚生活に対して負担を感じる理由

結婚生活に対して負担を感じる理由としては、「経済的なこと」が 50.0%で最も比率が高く、以下、「家事」(38.9%)、「自由が制約される」(36.1%)、「仕事と家庭の両立」(34.7%) が上位となっています。

男性は「経済的なこと」が、女性は「家事」や「育児」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×結婚生活に対して負担を感じる理由】

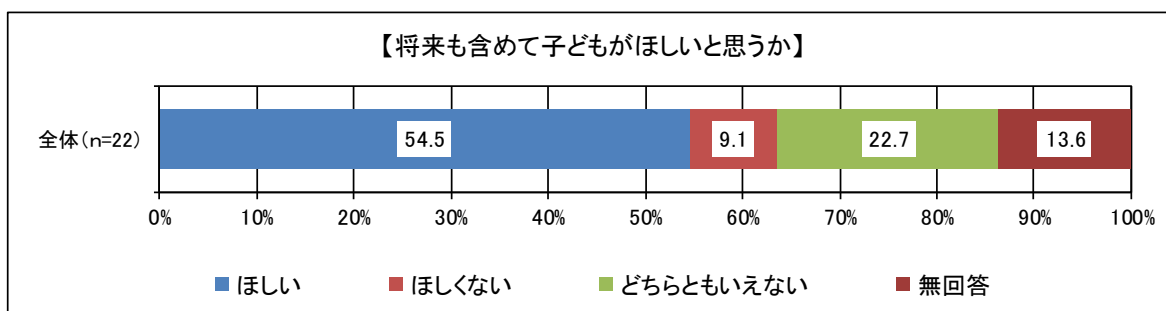
上段: 人、下段: %

項目	家事	育児	経済的なこと	自由が制約される	相手の父母との関係	仕事と家庭の両立	その他	無回答	回答者数
男性	2	3	11	7	2	7	1	1	19
	10.5%	15.8%	57.9%	36.8%	10.5%	36.8%	5.3%	5.3%	100.0%
女性	26	14	25	19	8	18	6	1	53
	49.1%	26.4%	47.2%	35.8%	15.1%	34.0%	11.3%	1.9%	100.0%

現在お子さんがいない方のみ回答

問 30 将来も含めて子どもがほしいと思うか

将来も含めて子どもがほしいと思うかについては、「ほしい」が 54.5%で過半数を占めており、「ほしくない」は 9.1%、「どちらともいえない」は 22.7%となっています。



【一般】

【性別×将来も含めて子どもがほしいと思うか】

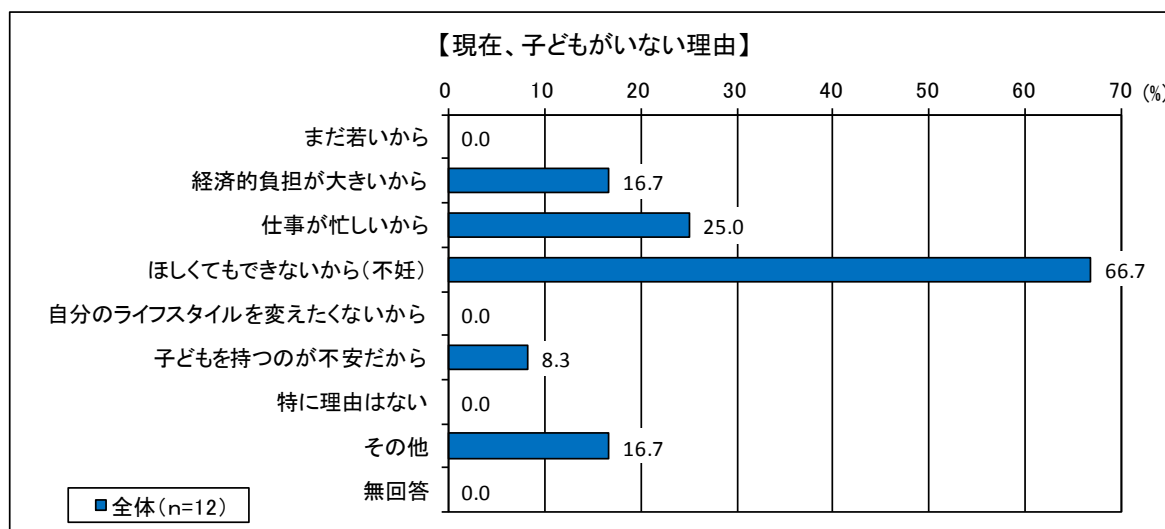
上段:人、下段:%

項目	ほしい	ほしくない	どちらともいえない	無回答	回答者数
男性	8	2	2	0	12
	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
女性	4	0	3	3	10
	40.0%	0.0%	30.0%	30.0%	100.0%

* 問 30 で「1 ほしい」と回答した方のみ

問 30-1 現在、子どもがいない理由

現在、子どもがいない理由は、「ほしくてもできないから（不妊）」が 66.7%と高い比率となっており、「仕事が忙しいから」が 25.0%、「経済的負担が大きいから」が 16.7%と続いています。



【性別×現在、子どもがいない理由】

上段:人、下段:%

項目	まだ若いから	経済的負担が大きいから	仕事が忙しいから	ほしくてもできないから(不妊)	自らのライフスタイルを変えたくないから	子どもを持つのが不安だから	特に理由はない	その他	回答者数
男性	0	2	2	6	0	1	0	0	8
	0.0%	25.0%	25.0%	75.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
女性	0	0	1	2	0	0	0	2	4
	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%

* 問 30 で「2 ほしくない」、「3 どちらともいえない」と回答した方のみ

問 30-2 「ほしくない」、「どちらともいえない」と思う理由

「ほしくない」、「どちらともいえない」と思う理由は、下表のとおり“年齢”や“仕事”に関する意見などがあげられています。

No.	年齢	「ほしくない」、「どちらともいえない」と思う理由
1	20歳代	経済的不安。時間的余裕がない。体力(病気)不安。子供を持つのが不安。仕事との両立ができるか不安。
2	30歳代	自信がない、不安しかない。
3	30歳代	向いてない。
2	30歳代	仕事の関係で精神的に余裕がない。年齢的にも1、2年以内に作らなければ無理と思っているが、いたほうが良かったとも思っている。
5	40歳代	出産可能年齢ならば是非とも欲しい。
6	50歳代	年齢的に無理。

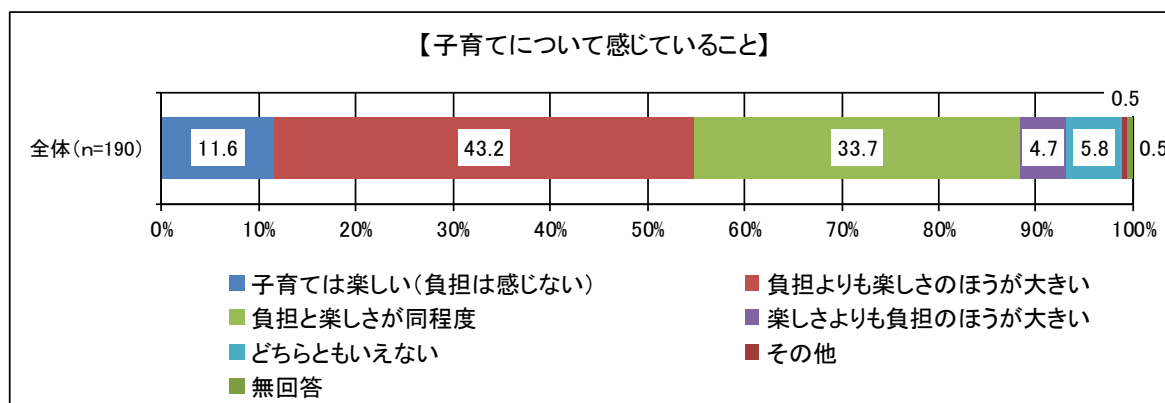
4 育児について

現在子育て中又は子育て経験のある方のみ回答

問 31 子育てについて感じていること

子育てについて感じていることは、「負担よりも楽しさのほうが大きい」が 43.2%で最も比率が高く、「子育ては楽しい（負担は感じない）」の 11.6%と合わせて“楽しい”が 54.8%と過半数を占めています。「負担と楽しさが同程度」は 33.7%、「楽しさよりも負担のほうが大きい」は 4.7%、「どちらともいえない」は 5.8%となっています。

男性、女性ともに「負担よりも楽しさのほうが大きい」の回答比率が最も高くなっていますが、女性の“30代”及び“50代”は「負担と楽しさが同程度」が最も高い比率となっています。



【性別×年齢×子育てについて感じていること】

上段:人、下段:%

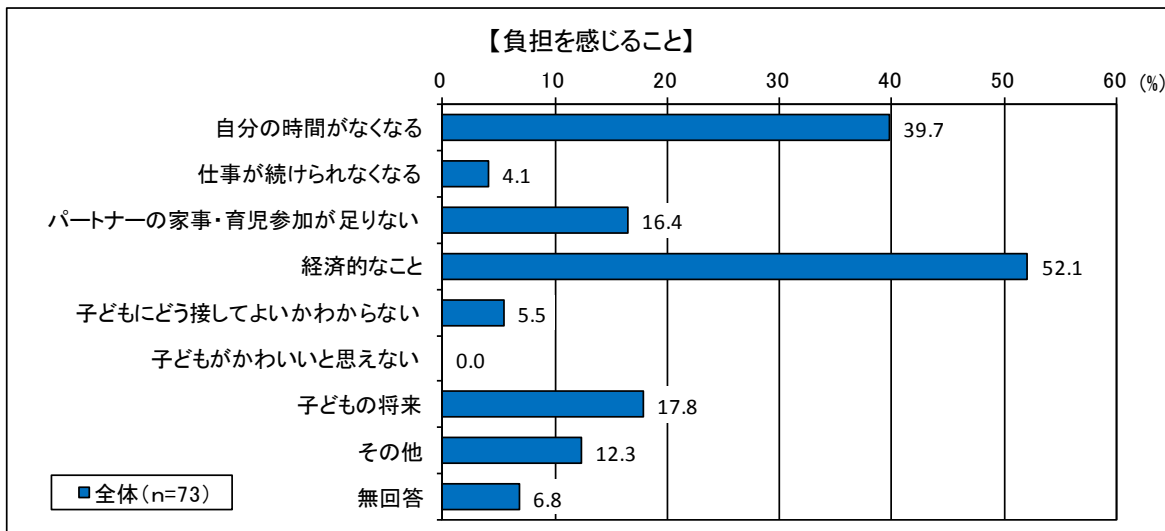
項目	子育ては楽しい(負担は感じない)	負担よりも楽しさのほうが大きい	負担と楽しさが同程度	楽しさよりも負担のほうが大きい	どちらともいえない	その他	無回答	回答者数
男性	9	25	13	1	4	0	1	53
	17.0	47.2	24.5	1.9	7.5	0.0	1.9	100.0
	20代	0	0	0	0	1	0	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	30代	1	7	3	1	0	0	12
	8.3	58.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	40代	7	15	9	0	3	0	35
20.0	42.9	25.7	0.0	8.6	0.0	2.9	100.0	
50代	1	3	1	0	0	0	5	
20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
女性	13	57	51	8	7	1	0	137
	9.5	41.6	37.2	5.8	5.1	0.7	0.0	100.0
	20代	1	6	3	0	0	0	10
	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	30代	1	10	18	3	3	1	36
	2.8	27.8	50.0	8.3	8.3	2.8	0.0	100.0
	40代	10	39	22	4	4	0	79
	12.7	49.4	27.8	5.1	5.1	0.0	0.0	100.0
	50代	1	2	6	1	0	0	10
	10.0	20.0	60.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100.0
無回答	0	0	2	0	0	0	2	
0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【一般】

*問31で「3 負担と楽しさが同程度」、「4 楽しさよりも負担のほうが大きい」と回答した方のみ
問31-1 負担を感じること

子育てについて負担を感じることは、「経済的なこと」が52.1%で最も比率が高く、以下、「自分の時間がなくなる」が39.7%、「子どもの将来」が17.8%、「パートナーの家事・育児参加が足りない」が16.4%と続いています。なお「その他」(12.3%)としては“教育”や“体力”、“余裕がない”などの意見があげられています。

男性では「経済的なこと」や「自分の時間がなくなる」が、女性では「パートナーの家事・育児参加が足りない」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×負担を感じること】

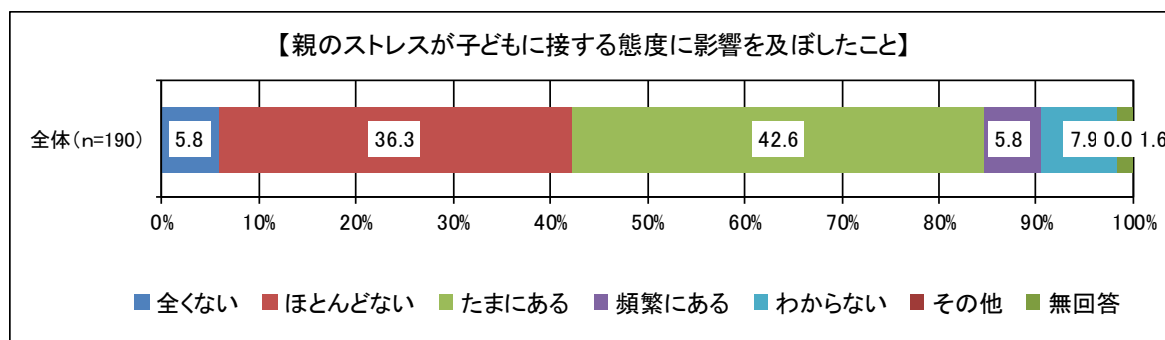
上段:人、下段:%

項目	自分の時間がなくなる	仕事が続けられなくなる	パートナーの家事・育児参加が足りない	経済的なこと	子どもにどう接してよいかわからない	子どもがかawaiiと思えない	子どもの将来	その他	無回答	回答者数
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
男性	7	0	0	13	0	0	2	2	0	14
	50.0%	0.0%	0.0%	92.9%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
女性	22	3	12	25	4	0	11	7	5	59
	37.3%	5.1%	20.3%	42.4%	6.8%	0.0%	18.6%	11.9%	8.5%	100.0%

問 32 親のストレスが子どもに接する態度に影響を及ぼしたこと

親のストレスが子どもに接する態度に影響を及ぼしたことは、「たまにある」が42.6%で最も比率が高く、「頻繁にある」の5.8%と合わせて48.4%が“ある”との回答となっています。一方、「全くない」は5.8%、「ほとんどない」が36.3%と合わせて“ない”は42.1%となっています。

男性は「ほとんどない」が、女性は「たまにある」が、それぞれ最も高い比率となっています。また、「たまにある」は、年齢が高いほど回答比率が高くなる傾向が見受けられます。



【性別×年齢×親のストレスが子どもに接する態度に影響を及ぼしたこと】

上段:人、下段:%

項目	全くない	ほとんどない	たまにある	頻繁にある	わからない	無回答	回答者数	
男性	3	26	13	1	8	2	53	
	5.7	49.1	24.5	1.9	15.1	3.8	100.0	
	20代	0	0	0	0	1	0	1
	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	30代	1	5	3	0	3	0	12
	8.3	41.7	25.0	0.0	25.0	0.0	100.0	
	40代	2	19	8	1	3	2	35
5.7	54.3	22.9	2.9	8.6	5.7	100.0		
50代	0	2	2	0	1	0	5	
0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	100.0		
女性	8	43	68	10	7	1	137	
	5.8	31.4	49.6	7.3	5.1	0.7	100.0	
	20代	2	6	2	0	0	0	10
	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	30代	2	10	18	4	2	0	36
	5.6	27.8	50.0	11.1	5.6	0.0	100.0	
	40代	4	25	40	5	5	0	79
	5.1	31.6	50.6	6.3	6.3	0.0	100.0	
	50代	0	2	6	1	0	1	10
	0.0	20.0	60.0	10.0	0.0	10.0	100.0	
無回答	0	0	2	0	0	0	2	
0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0		

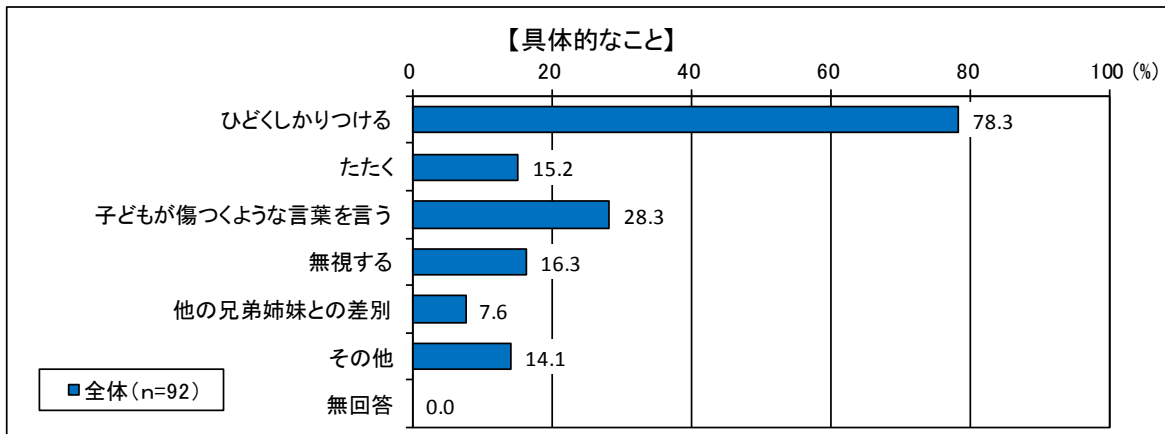
【一般】

*問 32 で「3 たまにある」、「4 頻繁にある」と回答した方のみ

問 32-1 具体的なこと

子どもへの接し方で具体的なことは、「ひどくしかりつける」が 78.3%で大多数となっており、以下、「子どもが傷つくような言葉を言う」が 28.3%、「無視する」が 16.3%、「たたく」が 15.2%となっています。

男性は「子どもが傷つくような言葉を言う」や「無視する」が、女性は「ひどくしかりつける」が、それぞれ他より高い比率となっています。



【性別×具体的なこと】

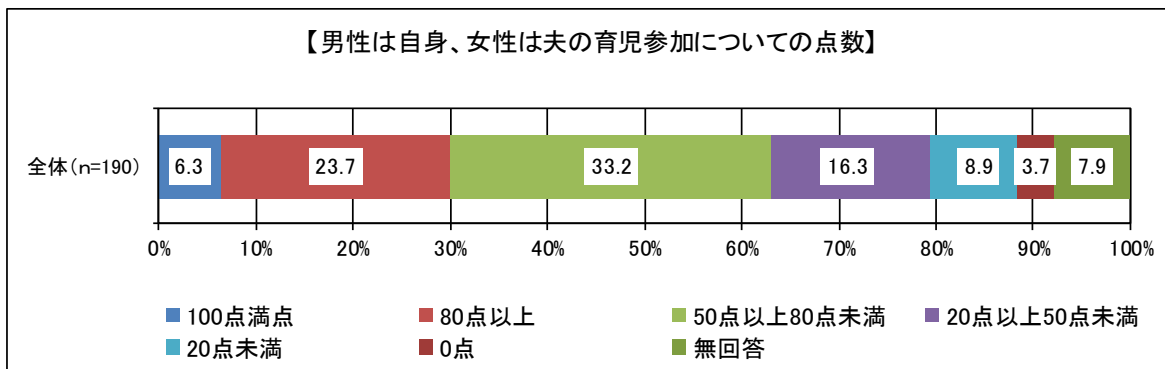
上段: 人、下段: %

項目	ひどくしかりつける	たたく	子どもが傷つくような言葉を言う	無視する	他の兄弟姉妹との差別	その他	無回答	回答者数
男性	10 71.4%	2 14.3%	5 35.7%	3 21.4%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	14 100.0%
女性	62 79.5%	12 15.4%	21 26.9%	12 15.4%	6 7.7%	11 14.1%	0 0.0%	78 100.0%

問 33 男性は自身、女性は夫の育児参加についての点数

男性（夫）の育児参加の点数は、「50 点以上 80 点未満」が 33.2%で最も比率が高く、以下、「80 点以上」が 23.7%、「20 点以上 50 点未満」が 16.3%、「20 点未満」が 8.9%と続いています。

男性より女性の方が点数が低い傾向が見受けられ、特に女性の“40 代”は「20 点未満」が 15.2%、「0 点」が 6.3%と厳しい評価となっています。



【性別×年齢×男性は自身、女性は夫の育児参加についての点数】

上段：人、下段：%

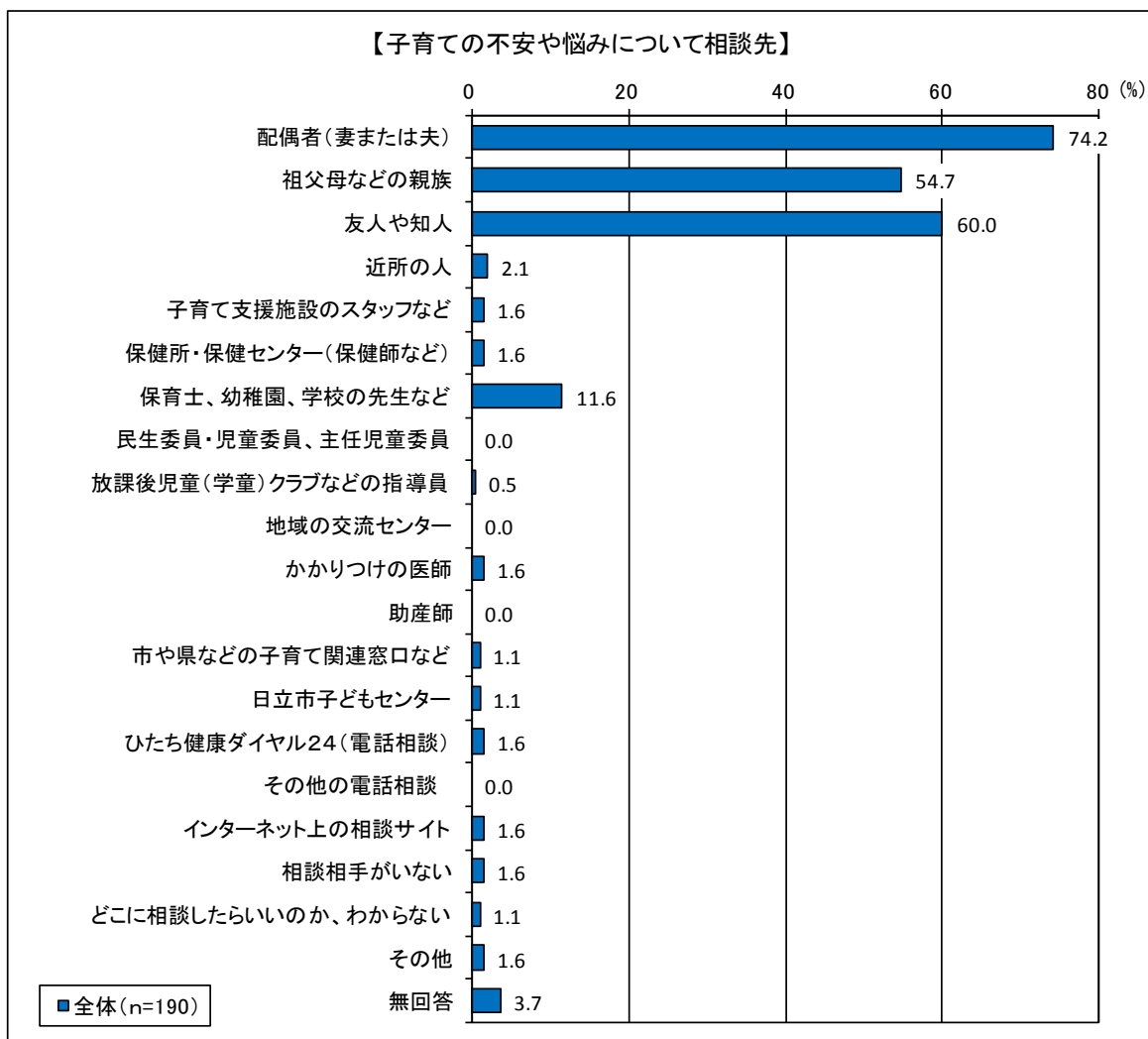
項目	100点満点	80点以上	50点以上 80点未満	20点以上 50点未満	20点未満	0点	無回答	回答者数	
男性	4	11	23	8	3	1	3	53	
	7.5	20.8	43.4	15.1	5.7	1.9	5.7	100.0	
	20代	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	30代	2	2	4	3	0	0	1	12
		16.7	16.7	33.3	25.0	0.0	0.0	8.3	100.0
	40代	2	7	16	5	3	1	1	35
		5.7	20.0	45.7	14.3	8.6	2.9	2.9	100.0
	50代	0	2	3	0	0	0	0	5
		0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
女性	8	34	40	23	14	6	12	137	
	5.8	24.8	29.2	16.8	10.2	4.4	8.8	100.0	
	20代	1	5	3	0	0	0	1	10
		10.0	50.0	30.0	0.0	0.0	0.0	10.0	100.0
	30代	3	8	12	6	2	1	4	36
		8.3	22.2	33.3	16.7	5.6	2.8	11.1	100.0
	40代	2	17	24	15	12	5	4	79
		2.5	21.5	30.4	19.0	15.2	6.3	5.1	100.0
	50代	2	4	1	1	0	0	2	10
		20.0	40.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	100.0
無回答	0	0	0	1	0	0	1	2	
	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	

問 34 子育ての不安や悩みについて相談先

子育ての不安や悩みについて相談先は、「配偶者（妻または夫）」が 74.2%で最も比率が高く、「友人や知人」（60.0%）や「祖父母などの親族」（54.7%）も半数を超える高い比率となっています。「保育士、幼稚園、学校の先生など」が 11.6%でこれに次ぐ以外は、2%台以下の比率となっています。

男性は「配偶者（妻または夫）」が、女性は「祖父母などの親族」や「友人や知人」、「保育士、幼稚園、学校の先生など」が、それぞれ他より高い比率となっています。

【一般】



【性別×子育ての不安や悩みについて相談先】

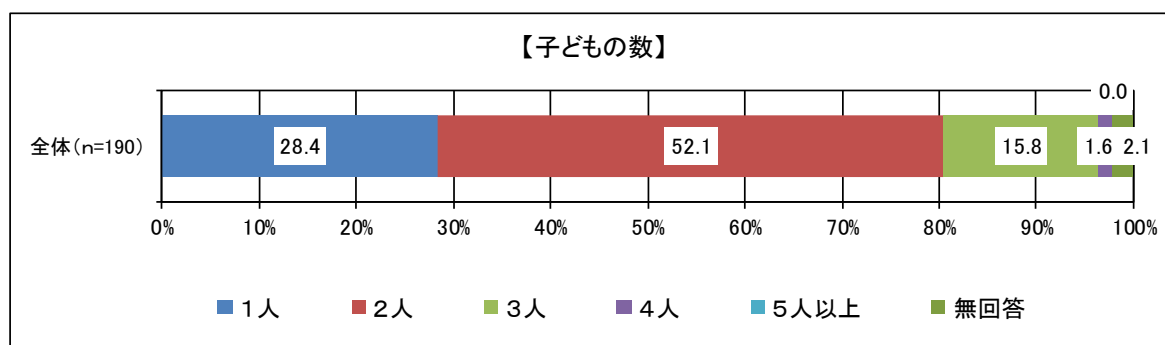
上段:人、下段:%

項目	配偶者(妻または夫)	祖父母などの親族	友人や知人	近所の人	子育て支援施設のスタッフなど	保健所・保健センター(保健師など)	保育士、幼稚園、学校の先生など	民生委員・児童委員、主任児童委員	放課後児童(学童)クラブなどの指導員	地域の交流センター	かかりつけの医師
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
男性	44	26	25	1	0	0	2	0	0	0	3
	83.0%	49.1%	47.2%	1.9%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%
女性	97	78	89	3	3	3	20	0	1	0	0
	70.8%	56.9%	65.0%	2.2%	2.2%	2.2%	14.6%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%

項目	助産師	市や県などの子育て関連窓口など	日立市子どもセンター	ひたち健康ダイヤル24(電話相談)	その他の電話相談	インターネット上の相談サイト	相談相手がいない	どこに相談したらいいのか、わからない	その他	無回答	回答者数
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
男性	0	0	0	1	0	1	0	1	1	4	53
	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	1.9%	0.0%	1.9%	1.9%	7.5%	100.0%
女性	0	2	2	2	0	2	3	1	2	3	137
	0.0%	1.5%	1.5%	1.5%	0.0%	1.5%	2.2%	0.7%	1.5%	2.2%	100.0%

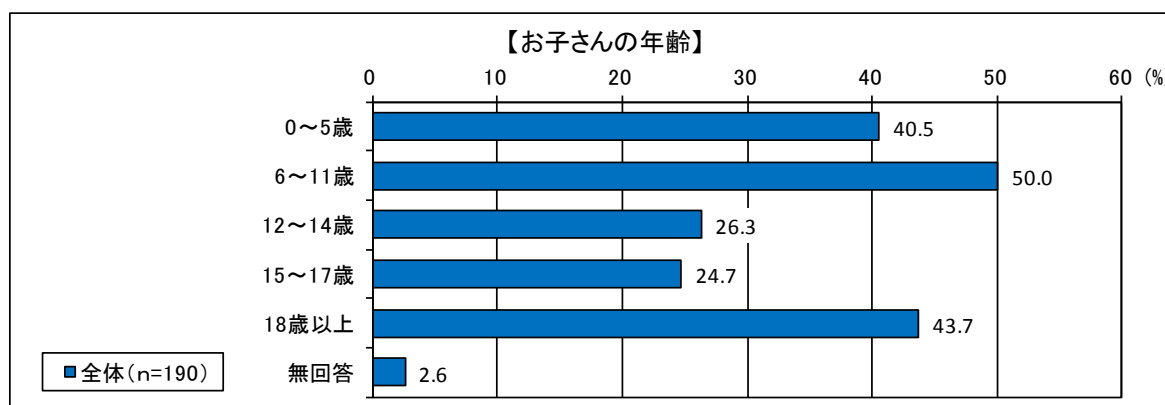
問 35 子どもの数

子どもの数は、「2人」が52.1%で最も比率が高く、以下、「1人」が28.4%、「3人」が15.8%、「4人」が1.6%となっています。



問 35-1 お子さんの年齢

お子さんの年齢は、「6～11歳」が50.0%で最も比率が高く、以下、「18歳以上」が43.7%、「0～5歳」が40.5%と続いています。



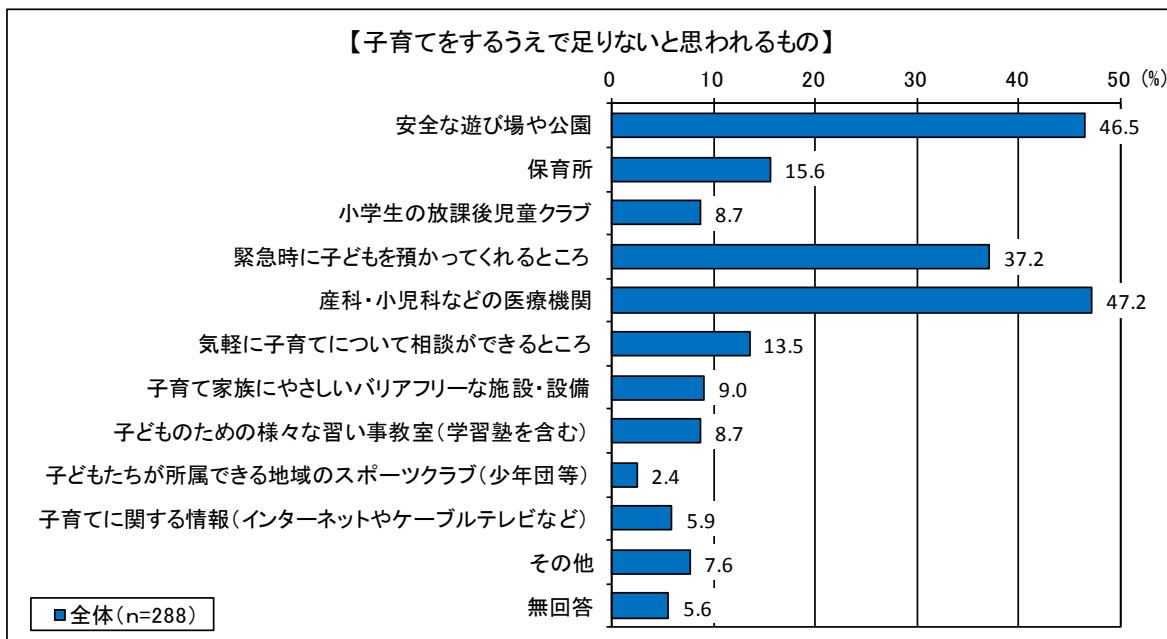
5 少子化対策・子育て支援について

すべての方が回答

問 36 子育てをするうえで足りないと思われるもの

子育てをするうえで足りないと思われるものは、「産科・小児科などの医療機関」(47.2%)や「安全な遊び場や公園」(46.5%)、「緊急時に子どもを預かってくれるところ」(37.2%)が上位で高い比率となっています。以下、「保育所」(15.6%)、「気軽に子育てについて相談ができるところ」(13.5%)と続いています。

性別では女性が、年齢別では“30代”が、それぞれ比率が高い項目が多くなっています。



【性別×年齢×子育てをするうえで足りないと思われるもの】

上段:人、下段:%

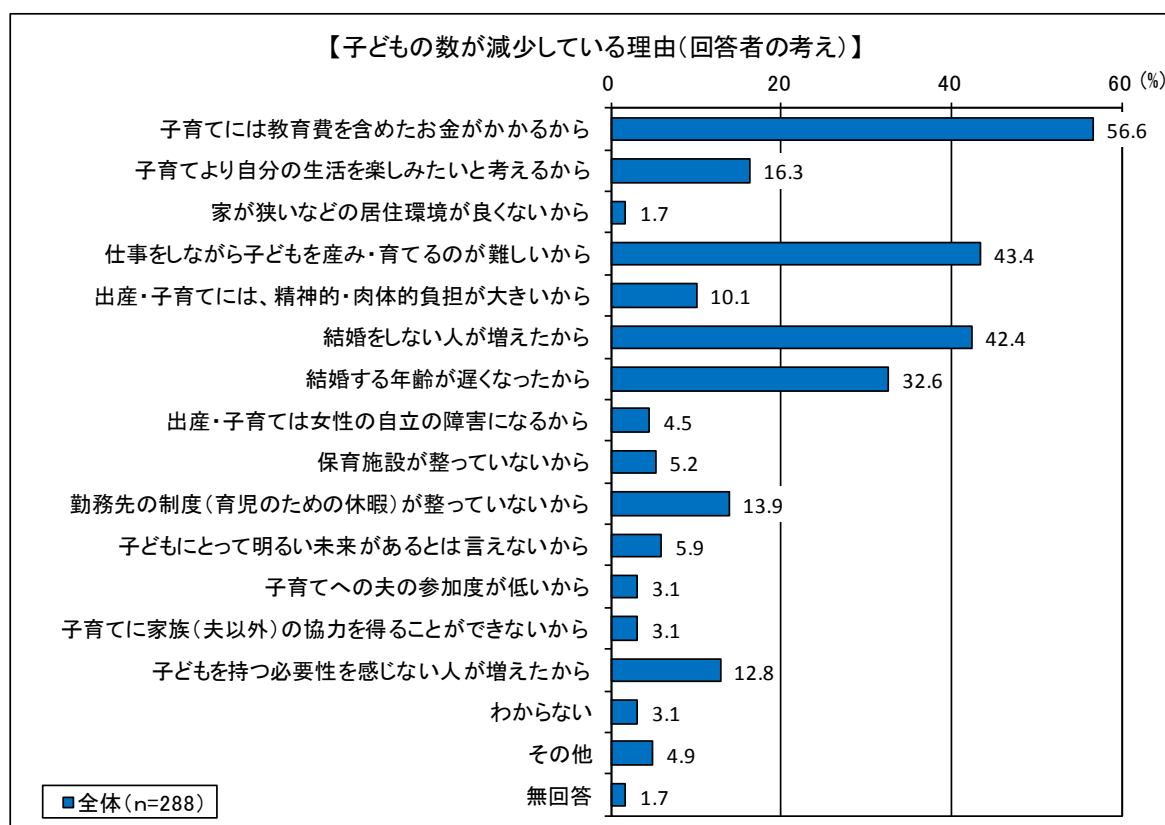
項目	上段:人、下段:%											回答者数	
	安全な遊び場や公園	保育所	小学生の放課後児童クラブ	緊急時に子どもを預かってくれるところ	産科・小児科などの医療機関	気軽に子育てについて相談ができるところ	子育て家族にやさしいバリアフリーな施設・設備	子どものための様々な習い事教室(学習塾を含む)	子どもたちが所属できる地域のスポーツクラブ(少年団等)	子育てに関する情報(インターネットやケーブルテレビなど)	その他		無回答
男性	47	20	4	33	48	15	3	7	2	8	11	8	106
	44.3	18.9	3.8	31.1	45.3	14.2	2.8	6.6	1.9	7.5	10.4	7.5	100.0
20代	10	4	0	4	9	4	0	1	1	4	0	2	19
	52.6	21.1	0.0	21.1	47.4	21.1	0.0	5.3	5.3	21.1	0.0	10.5	100.0
30代	14	6	0	8	14	3	1	2	1	1	4	2	28
	50.0	21.4	0.0	28.6	50.0	10.7	3.6	7.1	3.6	3.6	14.3	7.1	100.0
40代	19	10	3	19	22	7	2	3	0	2	5	4	49
	38.8	20.4	6.1	38.8	44.9	14.3	4.1	6.1	0.0	4.1	10.2	8.2	100.0
50代	4	0	1	2	3	1	0	1	0	1	2	0	10
	40.0	0.0	10.0	20.0	30.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	20.0	0.0	100.0
女性	87	25	21	74	88	24	23	18	5	9	11	7	181
	48.1	13.8	11.6	40.9	48.6	13.3	12.7	9.9	2.8	5.0	6.1	3.9	100.0
20代	17	6	3	12	14	6	4	2	1	3	3	0	34
	50.0	17.6	8.8	35.3	41.2	17.6	11.8	5.9	2.9	8.8	8.8	0.0	100.0
30代	26	10	5	18	19	3	9	6	1	4	3	0	46
	56.5	21.7	10.9	39.1	41.3	6.5	19.6	13.0	2.2	8.7	6.5	0.0	100.0
40代	39	8	12	35	43	11	8	10	2	2	5	7	86
	45.3	9.3	14.0	40.7	50.0	12.8	9.3	11.6	2.3	2.3	5.8	8.1	100.0
50代	4	1	1	8	10	3	2	0	1	0	0	0	13
	30.8	7.7	7.7	61.5	76.9	23.1	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	100.0
無回答	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	2
	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 37 子どもの数が減少している理由（回答者の考え）

子どもの数が減少している理由は、「子育てには教育費を含めたお金がかかるから」が 56.6%と最も高い比率となっており、以下、「仕事をしながら子どもを産み・育てるのが難しいから」（43.4%）、「結婚をしない人が増えたから」（42.4%）、「結婚する年齢が遅くなったから」（32.6%）と続いています。

性別にみると、男女ともおおむね同様の傾向にありますが、「結婚をしない人が増えたから」は男性が 52.8%と、女性の 36.5%を大きく上回る高さとなっています。

また、「子育てには教育費を含めたお金がかかるから」や「子育てより自分の生活を楽しみたいと考えるから」などでは、年齢が高いほど比率が高くなる傾向が見受けられます。



【一般】

【性別×年齢×子どもの数が減少している理由（回答者の考え）】

上段：人、下段：%

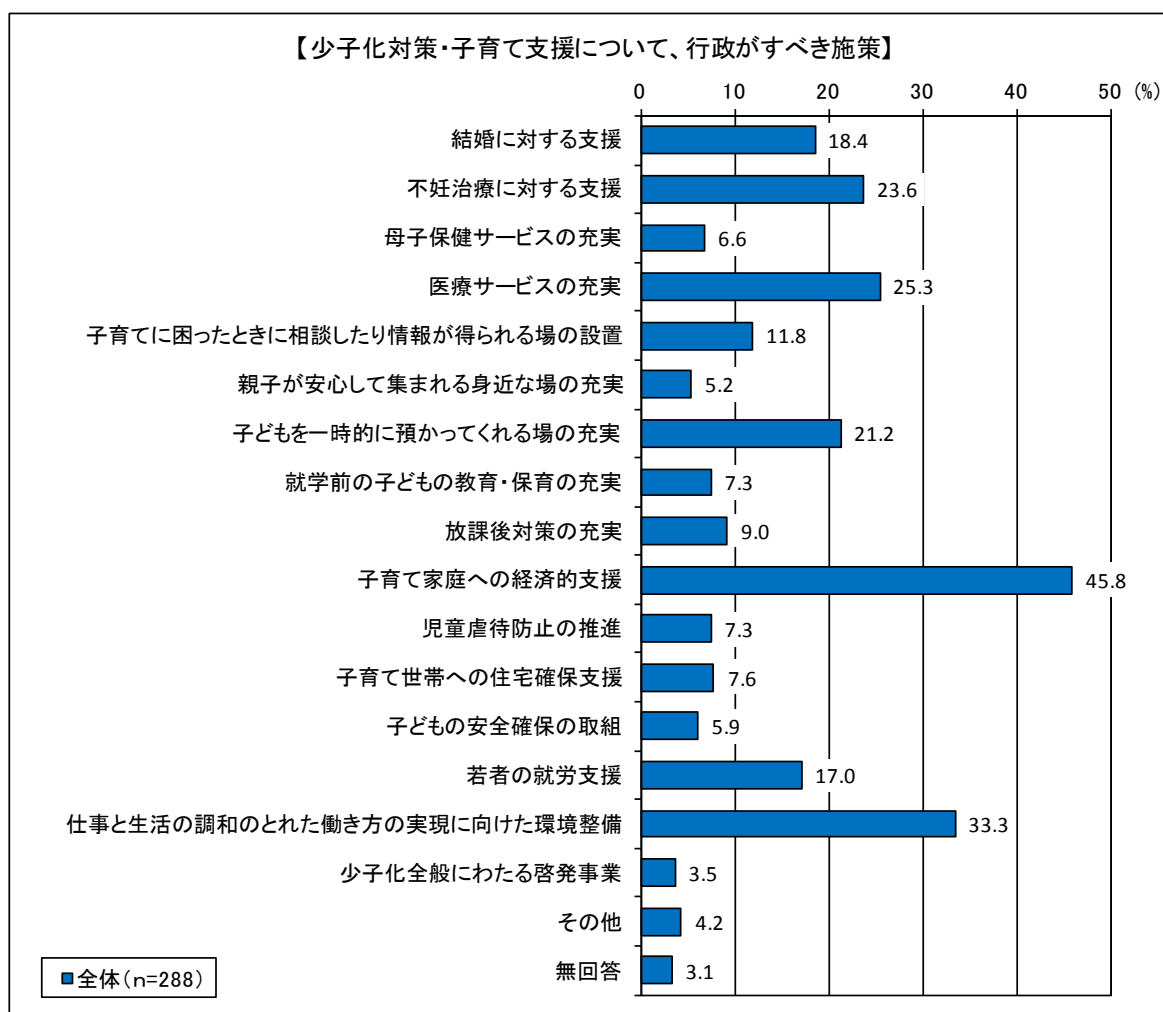
項目	子育てには教育費を含めたお金がかかるから	子育てより自分の生活を楽しみたいと考えるから	家が狭いなどの居住環境が良くないから	仕事をしながら子どもを産み・育てるのが難しいから	出産・子育てには、精神的・肉体的負担が大きいため	結婚をしない人が増えたから	結婚する年齢が遅くなったから	出産・子育ては女性の自立の障害になるから	保育施設が整っていないから	
男性	57	18	2	44	8	56	35	1	6	
	53.8	17.0	1.9	41.5	7.5	52.8	33.0	0.9	5.7	
	20代	10	0	0	9	2	10	6	1	0
		52.6	0.0	0.0	47.4	10.5	52.6	31.6	5.3	0.0
	30代	16	4	1	12	1	12	10	0	2
		57.1	14.3	3.6	42.9	3.6	42.9	35.7	0.0	7.1
	40代	29	11	1	20	4	27	17	0	4
		59.2	22.4	2.0	40.8	8.2	55.1	34.7	0.0	8.2
	50代	2	3	0	3	1	7	2	0	0
		20.0	30.0	0.0	30.0	10.0	70.0	20.0	0.0	0.0
	女性	105	29	3	81	21	66	59	12	9
		58.0	16.0	1.7	44.8	11.6	36.5	32.6	6.6	5.0
20代		18	6	0	14	5	12	11	3	0
		52.9	17.6	0.0	41.2	14.7	35.3	32.4	8.8	0.0
30代		26	5	0	22	2	19	15	3	1
		56.5	10.9	0.0	47.8	4.3	41.3	32.6	6.5	2.2
40代		51	16	1	37	11	31	30	4	5
		59.3	18.6	1.2	43.0	12.8	36.0	34.9	4.7	5.8
50代		9	2	1	7	3	3	3	2	3
		69.2	15.4	7.7	53.8	23.1	23.1	23.1	15.4	23.1
無回答		1	0	1	1	0	1	0	0	0
		50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

項目	勤務先の制度（育児のための休暇）が整っていないから	子どもにとって明るい未来があるとは言えないから	子育てへの夫の参加度が低いから	子育てに家族（夫以外）の協力を得ることができないから	子どもを持つ必要性を感じない人が増えたから	わからない	その他	無回答	回答者数	
男性	18	6	0	1	11	4	3	2	106	
	17.0	5.7	0.0	0.9	10.4	3.8	2.8	1.9	100.0	
	20代	4	4	0	0	2	2	0	0	19
		21.1	21.1	0.0	0.0	10.5	10.5	0.0	0.0	100.0
	30代	4	0	0	1	6	0	0	2	28
		14.3	0.0	0.0	3.6	21.4	0.0	0.0	7.1	100.0
	40代	9	2	0	0	2	1	3	0	49
		18.4	4.1	0.0	0.0	4.1	2.0	6.1	0.0	100.0
	50代	1	0	0	0	1	1	0	0	10
		10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	100.0
	女性	22	11	9	8	26	5	11	3	181
		12.2	6.1	5.0	4.4	14.4	2.8	6.1	1.7	100.0
20代		2	5	3	0	3	1	1	1	34
		5.9	14.7	8.8	0.0	8.8	2.9	2.9	2.9	100.0
30代		7	2	1	3	5	3	4	0	46
		15.2	4.3	2.2	6.5	10.9	6.5	8.7	0.0	100.0
40代		11	3	4	5	18	1	5	2	86
		12.8	3.5	4.7	5.8	20.9	1.2	5.8	2.3	100.0
50代		1	1	1	0	0	0	1	0	13
		7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	100.0
無回答		1	0	0	0	0	0	0	0	2
		50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問 38 少子化対策・子育て支援について、行政がすべき施策

少子化対策・子育て支援について、行政がすべき施策は、「子育て家庭への経済的支援」が45.8%で最も高い比率となっており、以下、「仕事と生活の調和のとれた働き方の実現に向けた環境整備」(33.3%)、「医療サービスの充実」(25.3%)、「不妊治療に対する支援」(23.6%)、「子どもを一時的に預かってくれる場の充実」(21.2%)などが上位となっています。

性別にみると、全体的には男女ともおおむね同様の傾向にありますが、「結婚に対する支援」や「子育て家庭への経済的な支援」は男性が、「就学前の子どもの教育・保育の充実」や「放課後対策の充実」、「仕事と生活の調和のとれた働き方の実現に向けた環境整備」では女性が、それぞれ他より高い比率となっています。



【一般】

【性別×年齢×少子化対策・子育て支援について、行政がすべき施策】

上段：人、下段：%

項目	結婚に対する支援	不妊治療に対する支援	母子保健サービスの充実	医療サービスの充実	子育てに困ったときに相談したり情報が得られる場の設置	親子が安心して集まれる身近な場の充実	子どもを一時的に預かってくれる場の充実	就学前の子どもの教育・保育の充実	放課後対策の充実	子育て家庭への経済的支援
男性	28	23	8	26	13	5	22	4	5	52
	26.4	21.7	7.5	24.5	12.3	4.7	20.8	3.8	4.7	49.1
	7	1	2	5	3	2	7	1	0	9
	36.8	5.3	10.5	26.3	15.8	10.5	36.8	5.3	0.0	47.4
	6	9	3	8	4	2	2	2	1	16
	21.4	32.1	10.7	28.6	14.3	7.1	7.1	7.1	3.6	57.1
	11	11	1	12	5	1	12	0	3	23
	22.4	22.4	2.0	24.5	10.2	2.0	24.5	0.0	6.1	46.9
	4	2	2	1	1	0	1	1	1	4
	40.0	20.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	40.0
女性	25	45	11	47	21	10	39	17	21	80
	13.8	24.9	6.1	26.0	11.6	5.5	21.5	9.4	11.6	44.2
	4	4	1	6	5	1	5	2	3	19
	11.8	11.8	2.9	17.6	14.7	2.9	14.7	5.9	8.8	55.9
	8	14	4	14	5	3	4	8	6	21
	17.4	30.4	8.7	30.4	10.9	6.5	8.7	17.4	13.0	45.7
	12	23	6	21	9	5	25	7	9	32
	14.0	26.7	7.0	24.4	10.5	5.8	29.1	8.1	10.5	37.2
	1	4	0	6	2	1	5	0	2	6
	7.7	30.8	0.0	46.2	15.4	7.7	38.5	0.0	15.4	46.2
	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0

項目	児童虐待防止の推進	子育て世帯への住宅確保支援	子どもの安全確保の取組	若者の就労支援	仕事と生活の調和のとれた働き方の実現に向けた環境整備	少子化全般にわたる啓発事業	その他	無回答	回答者数
男性	5	8	3	21	30	7	5	3	106
	4.7	7.5	2.8	19.8	28.3	6.6	4.7	2.8	100.0
	2	3	1	3	6	0	1	1	19
	10.5	15.8	5.3	15.8	31.6	0.0	5.3	5.3	100.0
	2	2	0	4	7	3	2	1	28
	7.1	7.1	0.0	14.3	25.0	10.7	7.1	3.6	100.0
	1	3	2	12	16	4	1	1	49
	2.0	6.1	4.1	24.5	32.7	8.2	2.0	2.0	100.0
	0	0	0	2	1	0	1	0	10
	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	100.0
女性	15	14	14	27	66	3	7	6	181
	8.3	7.7	7.7	14.9	36.5	1.7	3.9	3.3	100.0
	2	3	2	4	16	0	2	2	34
	5.9	8.8	5.9	11.8	47.1	0.0	5.9	5.9	100.0
	3	5	5	3	11	1	2	1	46
	6.5	10.9	10.9	6.5	23.9	2.2	4.3	2.2	100.0
	8	4	7	17	35	2	1	3	86
	9.3	4.7	8.1	19.8	40.7	2.3	1.2	3.5	100.0
	2	1	0	2	4	0	2	0	13
	15.4	7.7	0.0	15.4	30.8	0.0	15.4	0.0	100.0
0	1	0	1	0	0	0	0	2	
0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

問 39 問 38 の施策について、具体的なもの

具体的な施策については、「検診・医療費支援、医療体制充実」（16 件）や「資金援助・助成」（16 件）、「雇用・就労環境（育児休暇・企業内保育）」（11 件）などの意見があげられています。

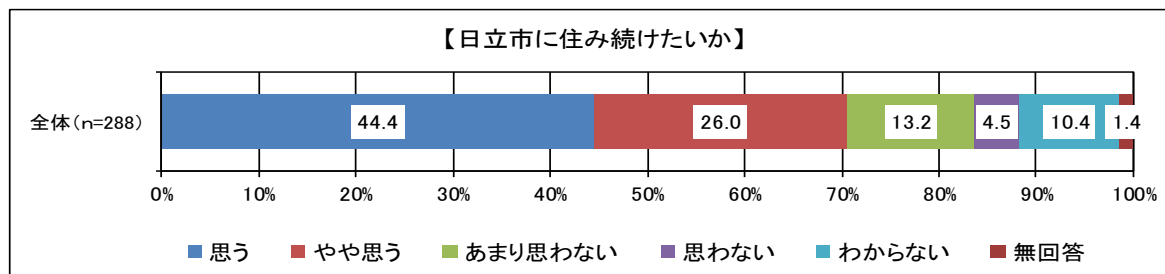
No.	項目	件数
1	検診・医療費支援、医療体制充実	16
1	資金援助・助成	16
3	雇用・就労環境（育児休暇・企業内保育）	11
4	不妊治療支援	7
4	緊急時子どもを預けられる施設	7
4	相談・話し合いの場の充実	7
7	病児・病後児施設、育児支援ママの充実	6
7	公園・遊び場・施設の充実	6
7	教育面の拡充（教育費等の支援、高等教育機関の誘致）	6
-	ない、わからない	10
-	その他	27

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問 40 日立市に住み続けたいか

日立市に住み続けたいかについては、「思う」（44.4%）と「やや思う」（26.0%）を合わせた“思う”は70.4%であり、「あまり思わない」（13.2%）と「思わない」（4.5%）を合わせた“思わない”の17.7%を大きく上回る結果となっています。

“思わない”は、女性の“30代”から“50代”は20%を超え他より高い比率となっています。



【性別×年齢×日立市に住み続けたいか】

上段：人、下段：%

項目	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	わからない	無回答	回答者数
男性	51	25	9	6	13	2	106
	48.1	23.6	8.5	5.7	12.3	1.9	100.0
20代	8	4	2	1	3	1	19
	42.1	21.1	10.5	5.3	15.8	5.3	100.0
30代	15	6	3	2	1	1	28
	53.6	21.4	10.7	7.1	3.6	3.6	100.0
40代	21	14	3	3	8	0	49
	42.9	28.6	6.1	6.1	16.3	0.0	100.0
50代	7	1	1	0	1	0	10
	70.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	100.0
女性	77	50	29	7	17	1	181
	42.5	27.6	16.0	3.9	9.4	0.6	100.0
20代	11	11	5	0	7	0	34
	32.4	32.4	14.7	0.0	20.6	0.0	100.0
30代	15	17	8	2	3	1	46
	32.6	37.0	17.4	4.3	6.5	2.2	100.0
40代	42	20	14	4	6	0	86
	48.8	23.3	16.3	4.7	7.0	0.0	100.0
50代	7	2	2	1	1	0	13
	53.8	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	100.0
無回答	2	0	0	0	0	0	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【一般】

問 40-1 問 40 の主な理由

【「1 思う」の回答理由】

「思う」の理由は、「生まれ育った場所、故郷」(26 件)や「住みやすい、住み慣れた場所」(20 件)、「親族が住んでいる、友人・知人が多い」(12 件)などが上位にあげられています。

No.	項 目	件数
1	生まれ育った場所、故郷	26
2	住みやすい、住み慣れた場所	20
3	親族が住んでいる、友人・知人が多い	12
4	家がある	11
4	気候が良い	11
4	特に困らない、不便ではない	11
7	自然豊か	9
8	災害が少ない	7
9	仕事の都合、職場が近い	6
-	その他	15

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【「2 やや思う」の回答理由】

「やや思う」の理由は、「住みやすい、住み慣れた場所」(11 件)や「生まれ育った場所、故郷」(10 件)、「仕事の都合」(6 件)などが上位にあげられています。

No.	項 目	件数
1	住みやすい、住み慣れた場所	11
2	生まれ育った場所、故郷	10
3	仕事の都合	6
4	将来は移転するかもしれない	5
5	家がある	4
5	気候が良い	4
5	車がないと生活できない、道路混雑	4
-	その他	20

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【「3 あまり思わない」の回答理由】

「あまり思わない」の理由は、「市の魅力がない、人口減少」(9 件)や「車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い」(8 件)、「遊びに行く場所・楽しい場所がない」(6 件)などが上位にあげられています。

No.	項 目	件数
1	市の魅力がない、人口減少	9
2	車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い	8
3	遊びに行く場所・楽しい場所がない	6
4	仕事の都合(転勤がある)、職場が遠い、仕事がない	4
5	将来は移転するかもしれない	3
-	その他	13

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【「4 思わない」の回答理由】

「思わない」の理由は、「遊びに行く場所・楽しい場所がない」(5件)や「車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い」(4件)、「他の市町村の方が優れている面がある」(2件)、「子育て支援・福祉が充分ではない」(2件)などの意見が寄せられています。

No.	項目	件数
1	遊びに行く場所・楽しい場所がない	5
2	車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い	4
3	他の市町村の方が優れている面がある	2
4	子育て支援・福祉が充分ではない	2
-	その他	5

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【「5 わからない」の回答理由】

「わからない」の理由は、「仕事の都合(転勤がある)、職場が遠い、仕事がない」(8件)や「車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い」(2件)、「医療機関が少ない」(2件)などの意見が寄せられています。

No.	項目	件数
1	仕事の都合(転勤がある)、職場が遠い、仕事がない	8
2	車がないと生活できない、道路混雑、マナーが悪い	2
3	医療機関が少ない	2
-	その他	8

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

問41 日立市に住んでよかったと思うことや他市町村の方に自慢できること

日立市に住んでよかったと思うことや他市町村の方に自慢できることは、「自然豊か」(67件)や「気候が良い」(29件)、「かみね公園、動物園、シビックセンター等」(24件)、「子育て環境(子育てしやすい、ランドセル支給等)」(21件)、「災害が少ない」(18件)などの意見があげられています。

No.	項目	件数
1	自然豊か	67
2	気候が良い	29
3	かみね公園、動物園、シビックセンター等	24
4	子育て環境(子育てしやすい、ランドセル支給等)	21
5	災害が少ない	18
6	東京等への利便性	10
7	食べ物	9
8	医療・福祉面	7
9	祭り・イベント・地域行事	6
9	買い物・商業施設	5
9	交流・コミュニティ	5
-	ない、わからない	20
-	その他	19

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。

【一般】

問 42 少子化対策・子育て支援に関する意見、要望等（自由記載）

少子化対策・子育て支援に関する意見、要望等（自由記載）について、102 人から回答が寄せられました。「子育て支援」（15 件）や「商業施設」（11 件）、「遊び場（公園・スポーツ施設等も含む）の充実」（10 件）、「雇用対策」（10 件）などに関する内容が上位にあげられています。

No.	項目	件数
1	子育て支援	15
2	商業施設	11
3	遊び場（公園・スポーツ施設等も含む）の充実	10
4	雇用対策	10
5	児童手当・医療費支給制度	8
6	保育園・幼稚園	8
7	医療機関・体制の充実	7
8	経済的支援	6
9	学校・教育の充実	6
10	保育料・授業料・教育費・奨学金など	5
11	一時預かり・託児サービスの充実	5
12	情報提供・相談体制	5
13	学校誘致	3
14	特別な支援を要する子への支援	3
15	ひとり親家庭への支援	2
16	子育て支援施設	2
17	交流（出会い）の場	2
18	少子化対策	2
19	病児・病後児保育	1
20	児童クラブ（学童クラブ）	1
21	子ども会や地域活動	1
22	防犯・安全対策	1
23	行政に対して（広報・情報発信、アンケート、政策など）	13
24	その他	17
25	特になし	8

※1つの調査票に複数の内容が記載されている場合、件数は複数回カウントしている。